

# 四街道市小屋ノ内遺跡(1)

旧石器時代編

—物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—

平成17年3月

独立行政法人 都市再生機構

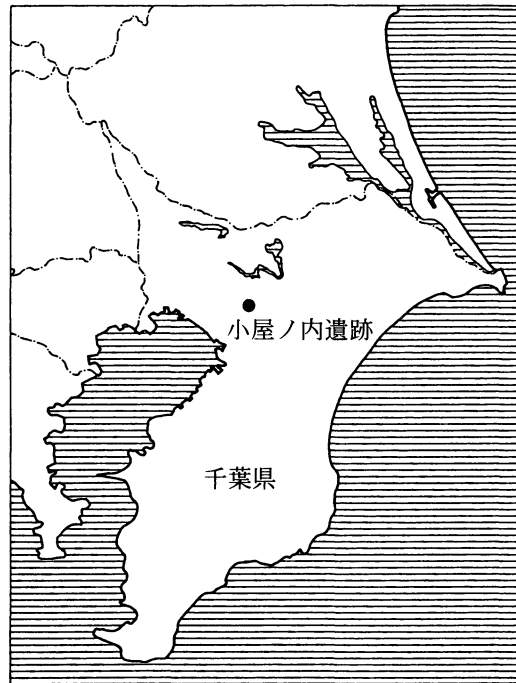
財団法人 千葉県文化財センター

こ や の うち

# 四街道市小屋ノ内遺跡(1)

旧石器時代編

—物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—



# 訂 正

平成17年3月に発行致しました

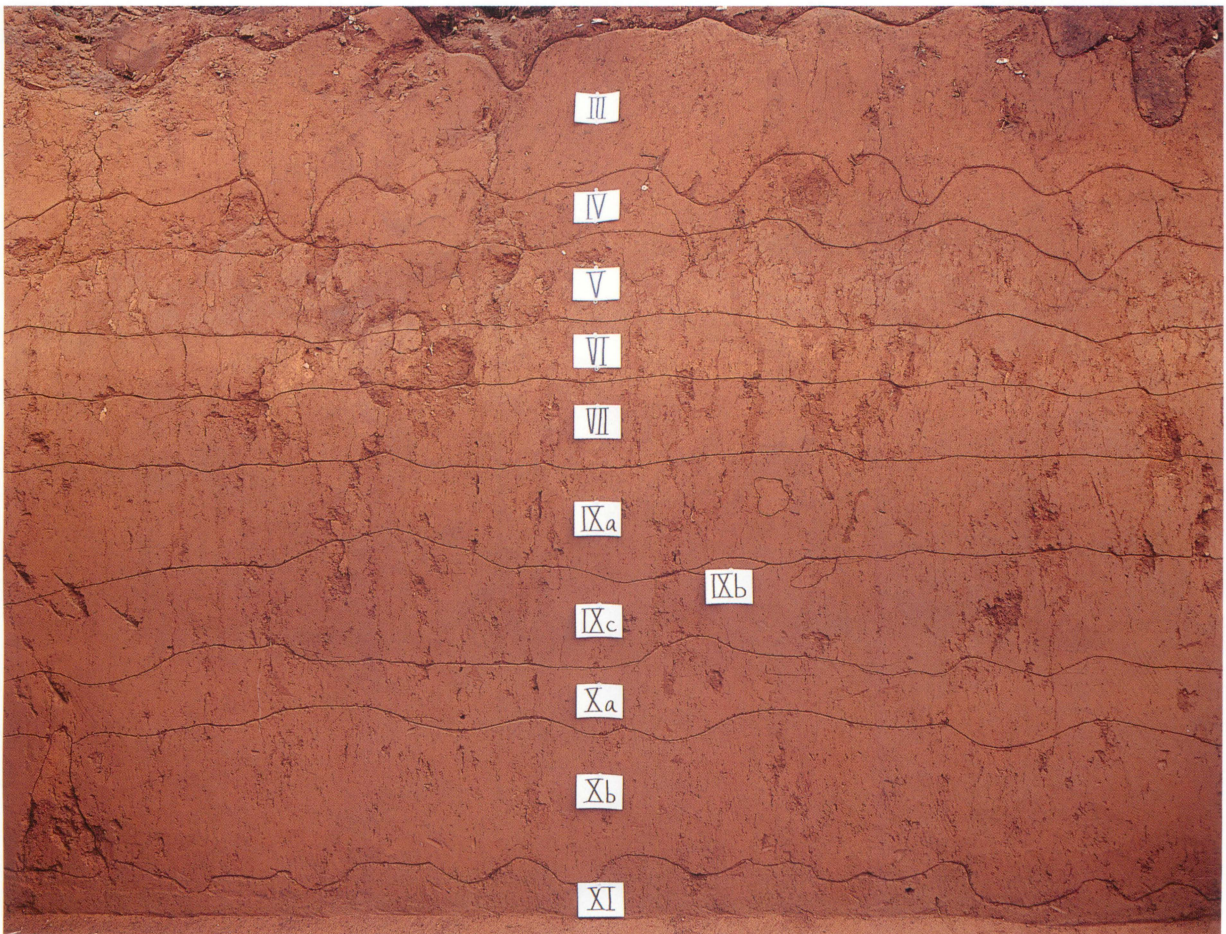
**四街道小屋ノ内遺跡（1）旧石器時代編**

—物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—

の写真図版（図版4）が重複して掲載されてい  
ましたので、差し替えにて訂正させていただきます。



第1地点全景



基本土層



第I文化層出土石器



第III文化層出土石器（上段：第33地点，下段第21～24地点）

## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その結果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第499集として、独立行政法人都市再生機構による物井地区土地区画整理事業に伴って実施した、四街道市小屋ノ内遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代から中・近世まで、いずれの時代についても遺構・遺物が多数出土し、千葉県の歴史を知る上でとりわけ貴重な成果が得られております。刊行に当たり、本書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導・御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年3月

財団法人千葉県文化財センター  
理事長 清水 新次

# 凡 例

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構による物井地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県四街道市物井字小屋ノ内1322、字稲荷塚1315ほかに所在する小屋ノ内遺跡（遺跡コード228-013）である。本書には旧石器時代に関わる平成元年度から平成12年度までの下層調査分を収録した。縄文時代以降に関わる上層調査分と、平成14年度以降の下層調査分については別途刊行を予定している。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、独立行政法人都市再生機構の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び期間は第1章第1節に記載した。
- 5 本書の執筆は、第1章を田中裕、第2章以降を古内茂が担当し、編集は古内が行った。なお、記録整理～挿図・図版作成については整理課 渡邊修一・三森喜知子・大久保奈々・山岡磨由子が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、四街道市教育委員会、独立行政法人都市再生機構の御指導・御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。  
第1・2図 住宅・都市整備公団（当時）による物井地区現況図（1/2,500，縮尺変更）  
第4図 国土地理院発行 1/25,000地形図「佐倉」（平成10年6月）
- 8 本書で使用した図面の方位及び測定値は、すべて調査時の旧公共座標（国家標準直角座標第Ⅸ系）である。
- 9 本書で使用した遺構番号と基準点の呼称は、統一を図った以外は、調査時と同一である。
- 10 挿図に使用したスクリーンとーン及び記号の用例は、各図に示した。

# 目次

第1章 はじめに .....	1
第1節 調査の概要 .....	1
1 調査の経緯と経過 .....	1
2 調査の方法 .....	5
第2節 遺跡の位置と環境 .....	5
1 遺跡周辺の地形と地名 .....	5
2 周辺の遺跡 .....	6
第2章 旧石器時代の調査 .....	9
第1節 概要 .....	9
第2節 層序 .....	10
第3章 発見された石器群 .....	13
第1節 第I文化層 .....	13
1 第I文化層の概要 .....	13
2 第I文化層の石材と石器群 .....	75
第2節 第II文化層 .....	76
1 第II文化層の概要 .....	76
2 第II文化層の石材と石器群 .....	83
第3節 第III文化層 .....	84
1 第III文化層の概要 .....	84
2 第III文化層の石材と石器群 .....	145
第4節 第IV文化層 .....	146
第IV文化層の概要 .....	146
第5節 その他の石器群 .....	146
1 単独出土の石器 .....	146
2 グリッド・遺構内出土の石器 .....	149
第6節 小屋ノ内遺跡とその周辺 .....	152
1 小屋ノ内遺跡の石器群 .....	152
2 環状石器群について .....	155
第4章 結語 .....	183



## 挿図目次

第1図	物井地区の遺跡……………2	第34図	第1地点出土石器(12)……………40
第2図	小屋ノ内遺跡年度別調査区位置図……………3	第35図	第1地点出土石器(13)……………41
第3図	グリッド命名法……………5	第36図	第1地点出土石器(14)……………42
第4図	小屋ノ内遺跡の位置と周辺の 旧石器時代遺跡……………7	第37図	第1地点出土石器(15)……………43
第5図	基本層序……………10	第38図	第1地点出土石器(16)……………44
第6図	下層発掘区及び石器集中地点位置図……………11	第39図	第1地点出土石器(17)……………45
第7図	第1地点遺物分布図……………13	第40図	第1地点出土石器(18)……………46
第8図	第1地点(A)器種別分布図……………14	第41図	第1地点出土石器(19)……………47
第9図	第1地点(B)器種別分布図……………15	第42図	第1地点出土石器(20)……………48
第10図	第1地点(C)器種別分布図……………16	第43図	第1地点出土石器(21)……………51
第11図	第1地点(D)器種別分布図……………17	第44図	第1地点出土石器(22)……………52
第12図	第1地点(E)器種別分布図……………18	第45図	第1地点出土石器(23)……………53
第13図	第1地点(F)器種別分布図……………19	第46図	第1地点出土石器(24)……………54
第14図	第1地点(G・H)器種別分布図……………20	第47図	第1地点出土石器(25)……………55
第15図	第1地点(I)器種別分布図……………21	第48図	第1地点出土石器(26)……………56
第16図	第1地点(J)器種別分布図……………22	第49図	第1地点出土石器(27)……………57
第17図	第1地点(K)器種別分布図……………23	第50図	第2地点遺物分布図……………59
第18図	第1地点炭化物分布状況図……………24	第51図	第2地点出土石器……………60
第19図	第1地点石器接合図……………25	第52図	第3地点遺物分布図・出土石器……………61
第20図	第1地点母岩別分布図(1)……………26	第53図	第4地点遺物分布図・出土石器……………62
第21図	第1地点母岩別分布図(2)……………27	第54図	第5地点器種別分布図・炭化物及び焼土 分布図……………63
第22図	第1地点母岩別分布図(3)……………28	第55図	第5地点母岩別分布図……………64
第23図	第1地点出土石器(1)……………29	第56図	第5地点内土坑実測図……………65
第24図	第1地点出土石器(2)……………30	第57図	第5地点出土石器……………65
第25図	第1地点出土石器(3)……………31	第58図	第6地点遺物分布図・出土石器……………66
第26図	第1地点出土石器(4)……………32	第59図	第7・8地点遺物分布図……………67
第27図	第1地点出土石器(5)……………33	第60図	第7・8地点出土石器……………68
第28図	第1地点出土石器(6)……………34	第61図	第9地点遺物分布図・出土石器……………68
第29図	第1地点出土石器(7)……………35	第62図	第10地点遺物分布図・出土石器……………69
第30図	第1地点出土石器(8)……………36	第63図	第11地点遺物分布図・出土石器……………70
第31図	第1地点出土石器(9)……………37	第64図	第12~14地点器種別分布図……………71
第32図	第1地点出土石器(10)……………38	第65図	第12~14地点母岩別分布図……………72
第33図	第1地点出土石器(11)……………39	第66図	第12~14地点出土石器(1)……………73

第67図	第12～14地点出土石器 (2) ……74	第101図	第21～24地点出土石器 (18) ……113
第68図	第15地点遺物分布図・出土石器 ……76	第102図	第21～24地点出土石器 (19) ……114
第69図	第16地点遺物分布図・出土石器 ……77	第103図	第21～24地点出土石器 (20) ……115
第70図	第17地点遺物分布図 ……78	第104図	第21～24地点出土石器 (21) ……116
第71図	第17地点出土石器 ……79	第105図	第21～24地点出土石器 (22) ……117
第72図	第18地点遺物分布図・出土石器 ……80	第106図	第21～24地点出土石器 (23) ……118
第73図	第19地点遺物分布図・出土石器 ……81	第107図	第21～24地点出土石器 (24) ……119
第74図	第20地点遺物分布図・出土石器 ……81	第108図	第21～24地点出土石器 (25) ……120
第75図	第20地点出土石器 ……82	第109図	第21～24地点出土石器 (26) ……121
第76図	第21地点器種別分布図 ……85	第110図	第21～24地点出土石器 (27) ……122
第77図	第22地点器種別分布図 ……87	第111図	第21～24地点出土石器 (28) ……123
第78図	第23地点器種別分布図 ……89	第112図	第25～29地点器種別分布図 ……124
第79図	第24地点器種別分布図 (1) ……91	第113図	第25～29地点母岩別分布図 ……125
第80図	第24地点器種別分布図 (2) ……92	第114図	第25～29地点出土石器 (1) ……128
第81図	第24地点炭化物及び焼土分布図 ……93	第115図	第25～29地点出土石器 (2) ……129
第82図	第21～24地点母岩別分布図 (1) ……94	第116図	第30地点器種別分布図 ……131
第83図	第21～24地点母岩別分布図 (2) ……95	第117図	第30地点母岩別分布図 ……132
第84図	第21～24地点出土石器 (1) ……96	第118図	第30地点出土石器 (1) ……133
第85図	第21～24地点出土石器 (2) ……97	第119図	第30地点出土石器 (2) ……134
第86図	第21～24地点出土石器 (3) ……98	第120図	第31地点遺物分布図・出土石器 ……136
第87図	第21～24地点出土石器 (4) ……99	第121図	第32地点器種別分布図 ……137
第88図	第21～24地点出土石器 (5) ……100	第122図	第32地点母岩別分布図・出土石器 ……138
第89図	第21～24地点出土石器 (6) ……101	第123図	第33地点器種別分布図 ……139
第90図	第21～24地点出土石器 (7) ……102	第124図	第33地点母岩別分布図 ……140
第91図	第21～24地点出土石器 (8) ……103	第125図	第33地点出土石器 (1) ……142
第92図	第21～24地点出土石器 (9) ……104	第126図	第33地点出土石器 (2) ……143
第93図	第21～24地点出土石器 (10) ……105	第127図	第34地点遺物分布図・出土石器 ……144
第94図	第21～24地点出土石器 (11) ……106	第128図	第35地点遺物分布図・出土石器 ……146
第95図	第21～24地点出土石器 (12) ……107	第129図	単独出土石器分布図 ……147
第96図	第21～24地点出土石器 (13) ……108	第130図	単独出土石器 ……148
第97図	第21～24地点出土石器 (14) ……109	第131図	グリッド・遺構内出土石器 (1) ……150
第98図	第21～24地点出土石器 (15) ……110	第132図	グリッド・遺構内出土石器 (2) ……151
第99図	第21～24地点出土石器 (16) ……111	第133図	小屋ノ内遺跡出土の石器群 ……153
第100図	第21～24地点出土石器 (17) ……112		

## 表 目 次

第 1 表	小屋ノ内遺跡年度別業務概要……………4	第16表	第15地点出土遺物属性表……………168
第 2 表	第 1 地点出土遺物属性表……………156	第17表	第16地点出土遺物属性表……………168
第 3 表	第 2 地点出土遺物属性表……………164	第18表	第17地点出土遺物属性表……………168
第 4 表	第 3 地点出土遺物属性表……………165	第19表	第18地点出土遺物属性表……………168
第 5 表	第 4 地点出土遺物属性表……………165	第20表	第19地点出土遺物属性表……………168
第 6 表	第 5 地点出土遺物属性表……………165	第21表	第20地点出土遺物属性表……………168
第 7 表	第 6 地点出土遺物属性表……………165	第22表	第21～24地点出土遺物属性表……………169
第 8 表	第 7 地点出土遺物属性表……………166	第23表	第25～29地点出土遺物属性表……………176
第 9 表	第 8 地点出土遺物属性表……………166	第24表	第30地点出土遺物属性表……………177
第10表	第 9 地点出土遺物属性表……………166	第25表	第31地点出土遺物属性表……………179
第11表	第10地点出土遺物属性表……………166	第26表	第32地点出土遺物属性表……………179
第12表	第11地点出土遺物属性表……………166	第27表	第33地点出土遺物属性表……………179
第13表	第12地点出土遺物属性表……………166	第28表	第34地点出土遺物属性表……………181
第14表	第13地点出土遺物属性表……………167	第29表	第35地点出土遺物属性表……………181
第15表	第14地点出土遺物属性表……………167	第30表	单独出土遺物属性表……………181

## 図版目次

卷頭図版 1	第 1 地点全景 基本土層	図版 10	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (6)
卷頭図版 2	第 I 文化層出土石器 第 III 文化層出土石器	図版 11	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (7)
図版 1	第 1 地点全景 第 1 地点近景 第 1 地点内炭化物集中	図版 12	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (8)
図版 2	第 2・4・5・6・8・12～14・16地点 全景 第 5 地点内炭化物集中	図版 13	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (9)
図版 3	第21地点全景 第22～24地点全景 第25～29地点全景	図版 14	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (10)
図版 4	第17～19・30～34地点全景	図版 15	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (11)
図版 5	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (1)	図版 16	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (12)
図版 6	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (2)	図版 17	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (13)
図版 7	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (3)	図版 18	第 I 文化層第 2～10地点出土石器
図版 8	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (4)	図版 19	第 I 文化層第 11～14地点出土石器
図版 9	第 I 文化層第 1 地点出土石器 (5)	図版 20	第 II 文化層出土石器 第 III 文化層第 21～24地点出土石器 (1)
		図版 21	第 III 文化層第 21～24地点出土石器 (2)
		図版 22	第 III 文化層第 21～24地点出土石器 (3)
		図版 23	第 III 文化層第 21～24地点出土石器 (4)

图版24 第Ⅲ文化層第21~24地点出土石器 (5)  
图版25 第Ⅲ文化層第21~24地点出土石器 (6)  
图版26 第Ⅲ文化層第21~24地点出土石器 (7)  
图版27 第Ⅲ文化層第21~24地点出土石器 (8)  
图版28 第Ⅲ文化層第25~29地点出土石器

图版29 第Ⅲ文化層第30地点出土石器  
图版30 第Ⅲ文化層第33地点出土石器  
图版31 第Ⅲ文化層第31·32·34地点出土石器  
第Ⅳ文化層第35地点出土石器  
单独出土石器

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経緯と経過

千葉県のほぼ中央部に位置する四街道市は、県庁所在地の千葉市に隣接し、東京都心部と成田空港を結ぶJR総武本線・成田線と東関東自動車道がともに市内を経由するなど、すぐれた立地条件にある。そのため、おもに住宅地として発展の一途をたどった。とくに、昭和56年に市制が施行されると、大規模な宅地開発が進み、人口増加に拍車がかかった。平成16年現在の人口は約84,400人であり、最近10年間だけでも約1割の増加がみられるように、現在も着実な増加傾向にある。こうした状況に対応するため、独立行政法人都市再生機構の前身である住宅・都市整備公団（平成12年に都市基盤整備公団に改組）は、四街道市物井のJR総武線物井駅から「千代田団地」隣接地に至る物井地区において土地区画整理事業を計画した。

土地区画整理事業の施工にあたり、事業地内に所在する埋蔵文化財の取扱いについて、千葉県教育委員会と住宅・都市整備公団（都市基盤整備公団）をはじめとする関係諸機関との間で慎重な協議が重ねられた。その結果、一部については緑地、公園等として現状を保存することで協議が整い、やむを得ない部分については発掘調査による記録保存の措置を講じることとなった。

発掘調査は、千葉県教育委員会の指導のもと、財団法人千葉県文化財センターが受託して実施することとなり、昭和59年から発掘調査が開始されて以降、現在まで継続的に実施されてきた。現在、発掘作業は一部を残すのみとなり、整理作業が進行中である。なお、平成16年の独立行政法人都市再生機構の発足に伴い、当事業は都市基盤整備公団から引き継がれた。

物井地区の台地上には、第1図のように、ほぼ全面にわたって多くの遺跡が確認されている。記録保存の対象とされた遺跡には、小屋ノ内遺跡をはじめ、稲荷塚遺跡、御山遺跡、新久遺跡、清水遺跡、出口遺跡の一部、出口・鐘塚遺跡、棒山・呼戸遺跡、高堀遺跡、館ノ山遺跡、郷遺跡、北ノ作遺跡、鳴越遺跡、中久喜遺跡といった諸遺跡がある。また、現状保存される遺跡として、古屋城跡、出口遺跡の一部（保存状態のよい古墳群の一部）がある。

このうち、小屋ノ内遺跡は、物井地区遺跡群を代表する最大の遺跡（91,900㎡が対象）である。発掘調査は平成元（1989）年度からまず発掘作業が着手され、翌2年度から整理作業を含めて継続的に進められてきた。平成16年度までに総計78,300㎡が発掘されており、各年度の発掘範囲は第2図、作業の概要と担当者については第1表にまとめた。

報告書作成にあたり、小屋ノ内遺跡は面積的に広大であるだけでなく、上層・下層ともに遺構・遺物の密度が非常に濃く、報告書は極めて大部になることが予測された。このため、書式や用語の統一などの作業量を考慮すると、上層と下層を分離して報告することが望ましいと判断された。本書は、このうち平成12年度までの下層、すなわち旧石器時代に関する調査部分を収録した。上層、すなわち縄文時代以降の調査成果と、平成14年度以降の下層調査分については、別に報告する予定である。



第1図 物井地区の遺跡 (1 : 10,000)



第2図 小屋ノ内遺跡年度別調査区位置図 (1 : 4,000)

第1表 小屋ノ内遺跡年度別業務概要

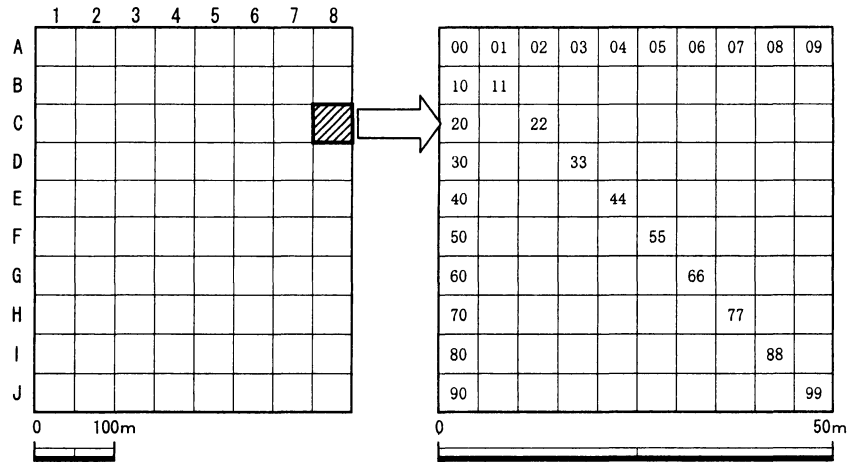
年度 (平成)	作業概要			期間	所長 (*班長) (**課長)	担当者
	発掘面積 整理	上層	下層			
		業務内容				
元年度	確認調査 本調査	1,506㎡/15,550㎡ 6,100㎡	68㎡/1,900㎡ 182㎡	4/1~3/31	谷 旬*	岡田誠造・四柳 隆
2年度	確認調査 本調査	7,550㎡	546㎡/13,650㎡ 600㎡	4/2~3/27	谷 旬*	谷 旬・岡田誠造・渡辺政治・四柳 隆
	整理作業	水洗・注記		4/1~3/31		
3年度	確認調査 本調査	480㎡/8,950㎡ 6,950㎡		4/2~3/27	谷 旬*	横山 仁
	整理作業	水洗・注記		4/1~3/31		
4年度	確認調査 本調査	370㎡/3,700㎡ 4,850㎡	506㎡/8,950㎡ 1,900㎡	4/2~3/27	谷 旬*	横山 仁
	整理作業	水洗・注記の一部		4/1~3/31		
5年度	確認調査 本調査	5,000㎡	192㎡/4,300㎡	4/1~8/31	深澤克友	白鳥 章
	確認調査 本調査	1,450㎡/14,500㎡ 13,600㎡	580㎡/14,500㎡ 558㎡	9/1~3/31		伊藤智樹・白鳥 章・糸川道行
6年度	本調査		4,342㎡	6/1~11/30	田坂 浩	白鳥 章
	確認調査 本調査	950㎡/9,500㎡ 9,500㎡		11/1~3/28		相京邦彦・白鳥 章・倉内郁子
7年度	確認調査		340㎡/7,000㎡	4/3~5/31	田坂 浩	白鳥 章
	確認調査 本調査	180㎡/5,300㎡ 5,300㎡	140㎡/5,300㎡	6/1~11/30		白鳥 章
	整理作業	水洗・注記の一部		4/1~3/31		伊藤智樹・白鳥 章・山口典子
8年度	確認調査 本調査	320㎡/6,600㎡ 4,500㎡	64㎡/6,600㎡	11/1~3/28	藤崎芳樹	平松長壽・井上哲朗
	整理作業	水洗・注記の一部~復元の一部		4/1~3/31		西野雅人・山口典子
9年度	整理作業	水洗・注記の一部~復元の一部		4/1~3/31	藤崎芳樹	岡田誠造
10年度	確認調査	200㎡/200㎡	8㎡/200㎡	7/1~1/17	折原 繁	綿貫 貴
	整理作業	復元		4/1~3/31		岡田誠造・加藤修司・井上哲朗
11年度	整理作業	復元		4/1~3/31	折原 繁	加藤修司・岸本雅人・玉井ゆかり・井上哲朗・大内千年
12年度	確認調査 本調査	2,000㎡	80㎡/2,000㎡	4/5~4/28	石田廣美	廣瀬和之・玉井ゆかり
	確認調査 本調査	2,790㎡	112㎡/2,790㎡ 50㎡	5/5~6/30		廣瀬和之
	整理作業	実測の一部		5/1~9/30		高橋博文・石倉亮治・萩原恭一・川端保夫・玉井ゆかり・沖松信隆
13年度	整理作業	実測		4/1~3/31	石田廣美	石倉亮治・萩原恭一・植草 均・玉井ゆかり
	重点整理	下層 記録整理~挿図・写真図版作成まで		4/1~3/31	古内茂**	渡邊修一・大久保奈々・山岡磨由子
14年度	確認調査 本調査	740㎡	30㎡/740㎡	10/1~10/30	古内 茂	香取正彦
	整理作業	実測~挿図・図版作成の一部		4/1~3/31		池田大助・香取正彦・西野雅人・大塚一美・田中 裕
15年度	確認調査 本調査	3,470㎡	270㎡/3,470㎡	8/1~11/21	古内 茂	星 勇人
	整理作業	挿図・図版作成の一部 原稿執筆~編集の一部		4/1~10/31 2/1~3/31		香取正彦・大内千年・田中 裕
16年度	整理作業	編集の一部~報告書刊行(H1~12下層分)		4/1~3/31	古内 茂	糸川道行・稲生一夫・田中 裕



## 2 調査の方法

上層の確認調査は、調査区全域に幅1m～2mの調査坑を、調査対象面積に対して10%設定し、遺構・遺物の分布を確認した上で本調査範囲を決定し、本調査に移行している。

下層の確認調査については、上層の確認・本調査終了後、調査区全域に2m×2mの調査枳を、調査対象面積に対し4%設



第3図 グリッド命名法

定し、石器等の遺物の有無を確認し、遺物が出土した地点については周囲に拡張して、遺物集中の存否とその範囲を追究する方法で本調査範囲を決定し、本調査に移行している。

調査区の設定については、第3図のように、物井地区全域を公共座標に基づいた50m×50mの方眼網で覆い、大グリッドとした。大グリッドの呼称は、西から東へ1・2・3…、北から南へA・B・C…と名付け、両者を組み合わせて使用している。大グリッドはさらに5m×5mの100個の小グリッドに分割し、西から東へ00・01・02…、北から南へ00・10・20…と名付け、両者を組み合わせて名称をつけた。したがって、各々の小グリッドは1B-34・3C-56のようになる。

遺構名については、竪穴住居跡にS I-、掘立柱建物跡にS B-、土坑・炉穴にS K-、溝にS D-、古墳等の周溝にS X-、その他の小穴にP-を冠し、検出順に3桁の遺構種類別番号を付した。整理作業では調査時の名称を継承し、名称変更を最小限にとどめた。重複する遺構を分離する必要が生じた場合には、数字の次に異なるアルファベットを付け足し、区別している。

遺物の注記は、遺跡コード、遺構名の数字、遺物台帳に記載された遺物番号(注記番号)を、順に3行で書き込んだ。上層や下層の遺物包含層など、グリッド出土遺物については、上記の遺構名をグリッド名に置き換えて記し、直接書き込むことが好ましくない遺物は、袋または札に記した。なお、注記のグリッド名には大グリッドと小グリッドの両者があり、後者は前者に「- (2桁数字)」が加わる。

土器の実測は手計測によるものと写真によるものがあり、おもに後者によった。石器の実測は手計測によった。鉄器の実測は全点に対しX線写真撮影を経て行った。

座標については、整理作業期間中に世界測地系に沿った新座標が制定された。発掘調査は旧座標(国家標準直角座標第IX系)をもとに行われている。基準点網図の一起点である22P-00(平成15年度調査区内所在点)は、旧座標でX=-35,000.0000,Y=32,900.0000である。JGD2000系変換値ではX=-34,644.7972,Y=32,606.3248,北緯35°41'13",東経140°11'36"である。

## 第2節 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡周辺の地形と地名

小屋ノ内遺跡は四街道市物井字小屋ノ内ほかに所在する。周辺は下総台地(常総台地)と呼ばれる標高約30mの低平な台地であり、樹枝状の谷が深く刻まれるため、水に恵まれた居住適地が広がる。物井遺

跡群は、千葉県北部の印旛沼に注ぐ鹿島川と、手繰川の支流に挟まれた台地上に位置している。南東の鹿島川側の台地が標高32m前後であり、北西の手繰川側に近づくと約5m低くなる。鹿島川の源流は千葉市緑区に達し、長く入り組んだ流路を形成する。

小屋ノ内遺跡の位置する台地は、鹿島川から入る深い谷によって南北から挟まれ、長い半島状の台地を形成している。その東端に現在の物井集落が営まれており、西の付け根部分に本遺跡が位置する。調査前までは主として耕作地に利用されていた。周辺の谷中は標高12m台まで急激に低くなる部分と、標高17m台から谷の出口に向かって緩慢に低くなる部分があり、標高13m以下では水田に利用される場所もあるが、多くは湿地を含む荒蕪地である。鹿島川付近は標高は9m～5mであり、水田に利用される。この標高であれば、かつては印旛沼の一部であり、縄文時代の海進時にも、付近の低地まで古鬼怒湾の一部になったとみられる。

造成工事時にみられた台地断面（稻荷塚遺跡周辺）では、地山の層序にはとくに褶曲や断層が認められず、概して水平に堆積していた。ただし、台地縁では、どの層も全体に若干低くみえる個所があり、完全に平坦なわけではない。完新世における最終的な浸食以前も既に地形の原形となる凹凸が形成されていた可能性がある。隣接する小屋ノ内の台地にも、同様のことが想定される。

地形的に区切ると、小屋ノ内遺跡は大きく南北2つの地区に分けられる。一つは物井の半島状台地を手繰川側の台地と結ぶ、北の陸橋状台地部分、もう一つは南に突き出た広い心葉形の台地部分である。南部と北部では、遺跡の特徴がやや異なっている。南部は旧石器時代環状石器群、縄文時代遺物包含層、奈良・平安時代の大規模な掘立柱建物跡群を伴う集落跡を主体とする。一方、北部は北西側が旧石器時代石器群、東側が奈良・平安時代集落と中・近世遺構群を主体とする。ただし、奈良・平安時代の集落跡は全域にまたがり密度が濃く、本遺跡を代表する存在である。

「物井」の地名は古く、『和名抄』に記される郷名の「物部」に由来するという。物井の南側、湿地を挟んで対岸の地名は「山梨」といい、同じく『和名抄』に「山梨」の郷名が記される。この一帯の地名が、古代から受け継がれたのであれば、古代の重要遺跡が分布している可能性が高い地域であるといえよう。「物部」郷は、中世になって「臼井庄」に組み込まれている。呼称として「物井」が一般化するのもこのころとみられる。

「小屋ノ内」の字は、中・近世の城、館、屋敷との関連を想起させる。周辺では、東の物井集落側に隣接する地区に「館ノ山」の地名があり、やはり城や館が想起される。沢を挟んで北に隣接する場所には「御山」という地名があり、こちらは寺院との関連が想起される。半島状台地が手繰川側の台地に接続する西側には「出口」の地名があり、村落境界を想起させる。このように、物井地区は、地形を表す地名よりも、歴史的な地名が多く残されている特徴がある。保存される古屋城などの存在を考慮すると、地名に関連した遺跡を含む可能性がとくに高い地区とみられる。

## 2 周辺の遺跡

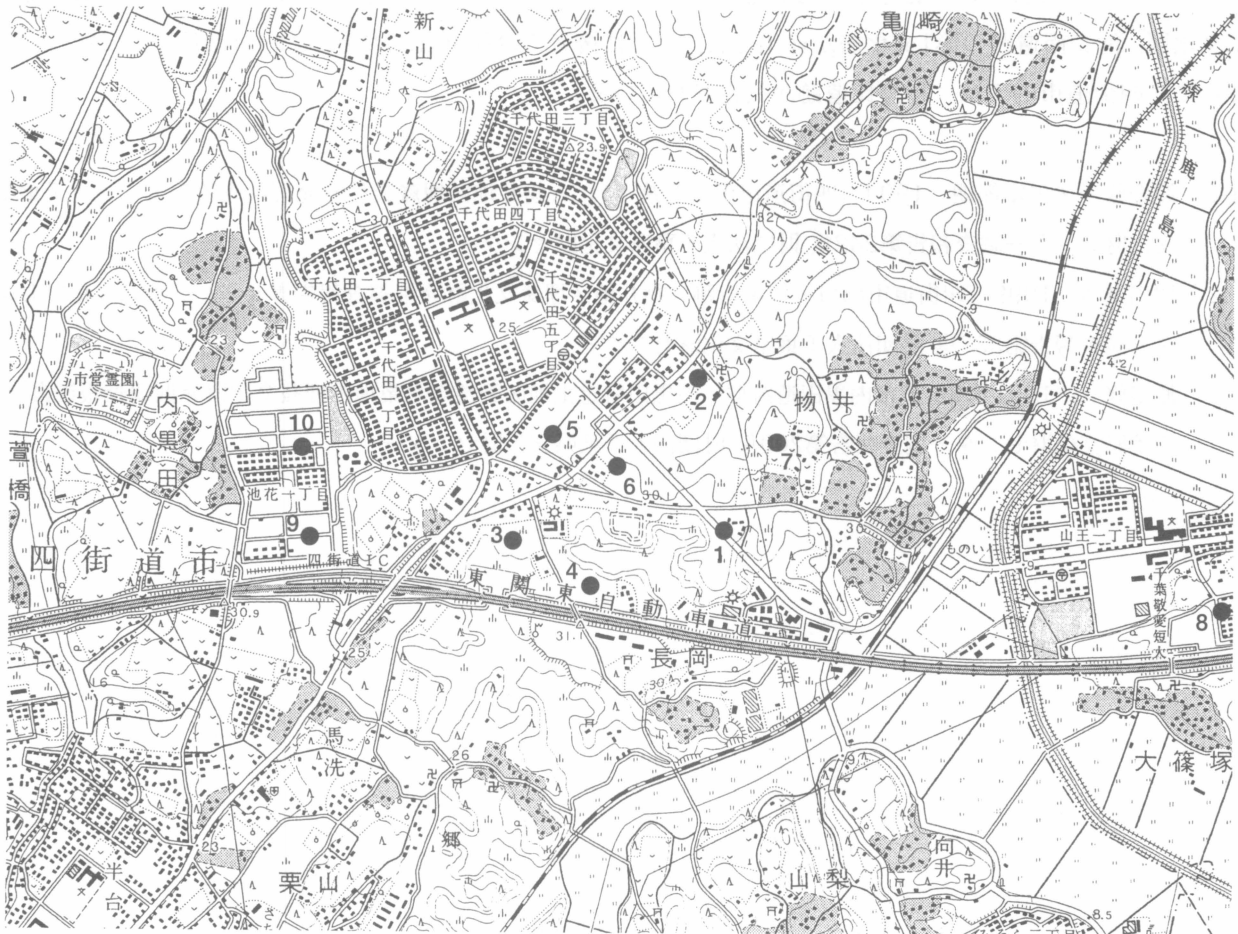
第4図は、2万5千分の1地形図「佐倉」を使用し、小屋ノ内遺跡（1）の周辺に所在するおもな旧石器時代遺跡の位置を示したものである。

物井地区内では、旧石器時代の豊富な資料が知られ、本遺跡のほか、御山遺跡、出口・鐘塚遺跡と棒山・呼戸遺跡（ともに鐘塚No.1遺跡）、清水遺跡、新久遺跡、稻荷塚遺跡などで出土例が知られている。

このうち、御山遺跡と出口・鐘塚遺跡についてはすでに報告書が刊行されている。

御山遺跡 (2) では<sup>1)</sup>、Ⅲ層 (ソフトローム) からX層 (立川ローム最下層) まで、26地点1418点、9枚の文化層が段階的に営まれている。とくに第I文化層 (X層下部) と第II文化層 (X層上部) が注目され、後者は、11のまとまりからなる径約22mの環状ブロックである。環状ブロックとして県内でも最下層検出例とされる。局部磨製石斧2点を含み、ほかは珪質頁岩と珪質凝灰岩を素材とする台形石器と剥片製の小型尖頭器、安山岩を素材とする楔形石器が主体的である。黒曜石は接合した石刃の素材2点のみである。第IV文化層 (IXa層) 以上はナイフ形石器を含む石器群である。第VI文化層 (VI層) は砂岩と珪質頁岩、第VII文化層 (V層～IV層) はチャート、珪質頁岩、安山岩が主体的である。Ⅲ層の第Ⅷa文化層は黒曜石が主体的で、2ブロックからそれぞれ東内野型尖頭器が出土している。

出口・鐘塚遺跡 (3) では<sup>2)</sup>、22地点2720点、5枚の文化層が検出された。注目されるのは第1文化層で、IX層中位を主体として大規模なブロック群が検出されている。チャート、珪質頁岩、安山岩を素材とした台形様石器を主体とし、良好な局部磨製石斧やナイフ形石器を含む。出土した特殊な「垂飾様石製品」2点は、装飾品と認定されれば、列島最古の資料とみられている。また、炭化粒集中地点1か所がIX～X



- 1 小屋ノ内遺跡, 2 御山遺跡, 3 出口・鐘塚 (鐘塚No.1) 遺跡, 4 棒山・呼戸遺跡, 5 清水遺跡,  
6 新久遺跡, 7 稻荷塚遺跡, 8 太田・大篠塚遺跡, 9 大割遺跡, 10 池花・池花南 (池花) 遺跡

第4図 小屋ノ内遺跡の位置と周辺の旧石器時代遺跡 (1:25,000)

層にかけて検出されている。以上の2遺跡は、層位と内容において小屋ノ内遺跡の環状ブロックと直接に対比される良好な先行資料である。

物井地区ではこのほか、平成16年度までに棒山・呼戸遺跡(4)で9地点430点、清水遺跡(5)で25地点690点、新久遺跡(6)で7地点170点、稻荷塚遺跡(7)で10地点357点が出土している。清水・新久遺跡ではX層の貴重な出土例があるほか、VII層～IX層、IV層～VII層の資料が主体的である。小屋ノ内遺跡に隣接する稻荷塚遺跡では、単発的な小ブロックがVI層～VII層、VII層～IX層においてそれぞれ検出された。

このように、物井地区は旧石器遺跡密度が濃く、しかも広く網羅的な調査をした稀有な事例であるため、極めて重要な成果を含む。本遺跡を含めて、後期旧石器時代の中でも古い事例となる立川ローム暗色帯(IX層)及び立川ローム最下層(X層)の資料が充実しているのが特徴である。

物井地区の周辺では、東側の対岸に尖頭器石器群を出土した太田・大篠塚遺跡(8)、西に連続する台地上には内黒田遺跡群(9,10)がある<sup>3)</sup>。内黒田遺跡群は各層位から石器群が出土したが、とくにソフトローム中の資料密度が濃く、大割遺跡第7文化層の細石刃石器群(IIc層)、大割遺跡第6文化層や池花遺跡第3文化層に代表される石槍を含む石器群(III層)が特筆される。暗色帯下部(IXc層)で大割遺跡第1文化層、池花南遺跡の第1文化層が検出され、とくに後者では径30mの環状ユニットが報告されている。さらに、四街道市内では、和良比遺跡が報告されている。

註1 渡邊修一・矢本節朗 1994『四街道市御山遺跡(1)－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書I－』千葉県文化財センター調査報告第242集 財団法人千葉県文化財センター

2 岡田誠造 1999『四街道市出口・鐘塚遺跡－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書II－』千葉県文化財センター調査報告第357集 財団法人千葉県文化財センター

3 渡邊修一 1991『四街道市内黒田遺跡群－内黒田特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書－』千葉県文化財センター調査報告第200集 財団法人千葉県文化財センター

## 第2章 旧石器時代の調査

### 第1節 概要

本遺跡の調査は前述したように多年度にわたり、発見された遺構・遺物も旧石器時代から近世にいたるまで多種・多様にわたっている。このため本編では旧石器時代に限って報告し、他の時代に含まれる遺構遺物はここでは取り扱わないこととした。

本遺跡の面積は広大なものとなるため、図示（第2図）したように何区画にも区切って調査しており、旧石器時代関連の遺物もまた大量に発見されてきた。分布図（第6図）に示したように大グリッドで15地区以上、石器集中として細分すると45か所を数える地点で確認されている。この中で特に注目できる石器の集中地点は、18T区で検出された石器群であり、東西に38m、南北に40mを越えるような大規模な石器の分布域がみられた。

さらに、この環状に分布する石器群※（以下「環状石器群」という。）では、他遺跡でもしばしばみられるように中心部での分布は疎らで、周辺域におよぶと濃密な分布を示す。結果的に環状の石器群分布域を形成する。その中心では炭化物等の散布も認められ、あたかも縄文時代の小規模な環状集落跡を連想させるような様相を呈している。本報告では、この集中地点だけは1地点として扱ったため石器集中地点としては35地点として報告することとした。

また、これら石器群の検出地点を地形的な見地から考えると、石器群は本遺跡の中心部に向かって入り組むように進入する小支谷に接するような台地部を占有し居住域としているようである。このため当時の活動域は台地の中心部よりも、むしろ谷頭に接した部分を主な生活空間として利用していたようである。反面、台地中央部での分布は明らかに希薄となる。本遺跡での中央部は既に宅地化されていたため、その子細については把握できなかった。

このように大量に検出された石器群は、調査及び整理の過程で出土層位から大きく四期の文化層に分離することが可能となった。そこで、暗色帯（本報告で使用している「暗色帯」とは、立川ローム層中の第Ⅸ層、いわゆる第2暗色帯をさす。）に包含される石器群を第Ⅰ文化層、暗色帯漸移層（第Ⅶ層）から暗色帯上部の石器群を第Ⅱ文化層、いわゆるハードローム（第Ⅳ層～Ⅴ層）からソフトローム下部で発見される石器群を第Ⅲ文化層、ソフトローム上部（第Ⅲ層）から出土する石器群を第Ⅳ文化層として認識し、整理作業をすすめてきた。

次に、主な石器群出土地点と地形との関連についても若干触れておきたい。

**第Ⅰ文化層** 本層から検出されている石器群は計14地点を数えるが、第1地点の大規模石器群を除くと小規模のものが多。しかも図示したようにかなり散漫な分布状況を示し、どちらかといえば南側斜面に近接した状況で立地する。このため遺物の出土層位は、地点によって異なるものの第Ⅶ層や第Ⅵ層にまで

---

※本遺跡、第1地点のように石器群が環状に分布するような場合、これを「環状ブロック群」あるいは「環状ユニット」と呼称している。研究者間では、その規定において若干の差異はあるものの、概ね同時期に製作された石器・剥片等が集中する多数の地点が集合し、それらが結果的に環状に分布している状況を表現したものであり、ここでは平易な形をとりたいたため「環状石器群」という用語で統一した。

浮いて出土する場合もある。

**第Ⅱ文化層** 本文化層として認識した石器出土地点は、計6地点となる。ここでも概して台地南側よりの斜面に近い部分で検出されており、第Ⅰ文化層の石器群と類似している。ここでも石器群の規模は僅少であるところから長期間の居住はなかったものであろう。石器群の出土層位は概ね第Ⅶ層を中心としたもので第Ⅵ層にまでおよぶものも少なくない。

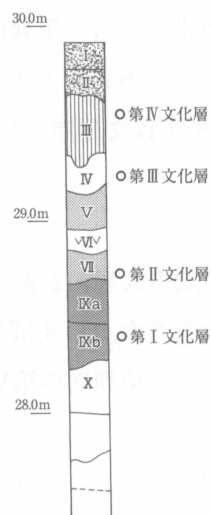
**第Ⅲ文化層** 本遺跡では第Ⅲ文化層の石器群が最多で計15地点を数える。互いに近接して出土する190区、17P区といった石器群は、どちらかといえば台地の北側よりに発見されており、前述した文化層の石器群とは若干異なるように思われた。しかも単独の地点としてみれば遺物の出土量は多くなってくる。ここでの出土層位も、まだいぶ高低差を有しており、第Ⅵ層上部から第Ⅲ層の下部にいたるまでが包含層となっていた。

**第Ⅵ文化層** 第Ⅲ層上部で検出されたものであり、単独出土として捉えることもできる。層序的には縄文時代の可能性もあるが、ここでは旧石器時代として扱うことにした。

以下、下部の文化層から順次個別に記述していくこととするが、整理作業は石材・母岩を重視した方法で実施したため、挿図は接合関係を中心にして作成した。そのため内容の記載については、各種石器と主な接合資料を中心にすすめていくこととなるが、断片的な剥片等については記載は省略したところもあることを付記しておく。

## 第2節 層序 (第5図)

次に基本的な層序とともに石器群が検出された層順について触れておきたい。図示した地点は調査区の西側部分にあたる17Q-74・75区内の堆積土層であり、ここでは以下、第3図のような層順を示した。



第5図 基本層序

第Ⅰ層 表土

第Ⅱ層 黒褐色土 縄文期包含層

第Ⅲ層 黄褐色土 ソフトローム、25cm～35cm程度の堆積が認められる。

第Ⅳ層 褐色土以下、ハードロームとなり、上部は風化が著しく消滅していることもある。

第Ⅴ層 褐色土 第1暗色帯に対比できる層と推定されるが、第Ⅳ層との色調の差は小さい。

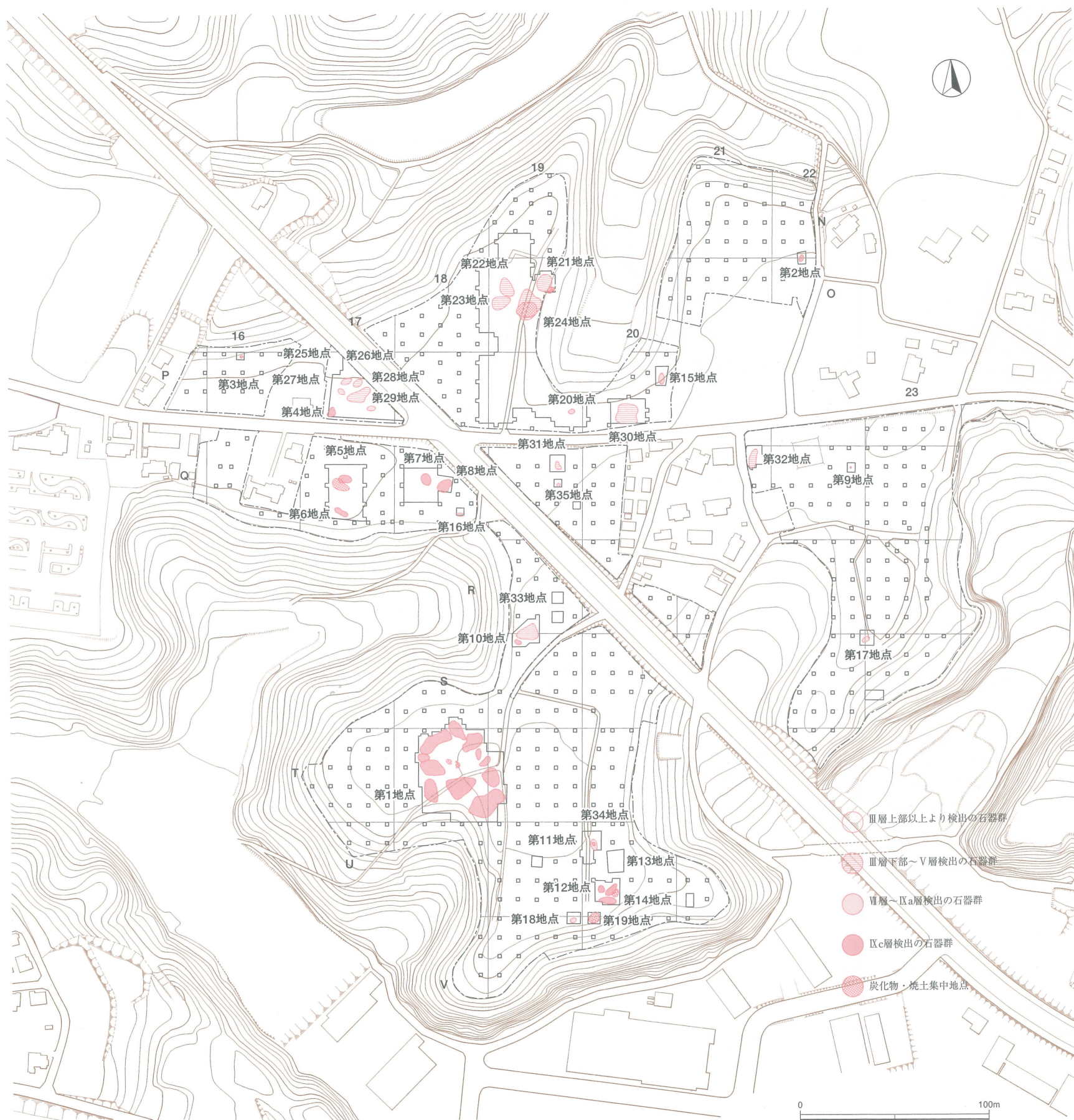
第Ⅵ層 黄褐色土 AT含有部分では明褐色を呈する。

第Ⅶ層 黒褐色土 第2暗色帯漸移層で、上部は暗褐色に近い。

第Ⅷ層 (欠如)

第Ⅸ層 黒褐色土 第2暗色帯で場所によりやや明るい色調の間層(IXb)が確認できることもある。この場合a・b・cの3層に分離するが、本遺跡の場合明確には認められなかった。

第Ⅹ層 褐色土 立川ローム最下層



第6図 下層発掘区及び石器集中地点位置図

# 第3章 発見された石器群

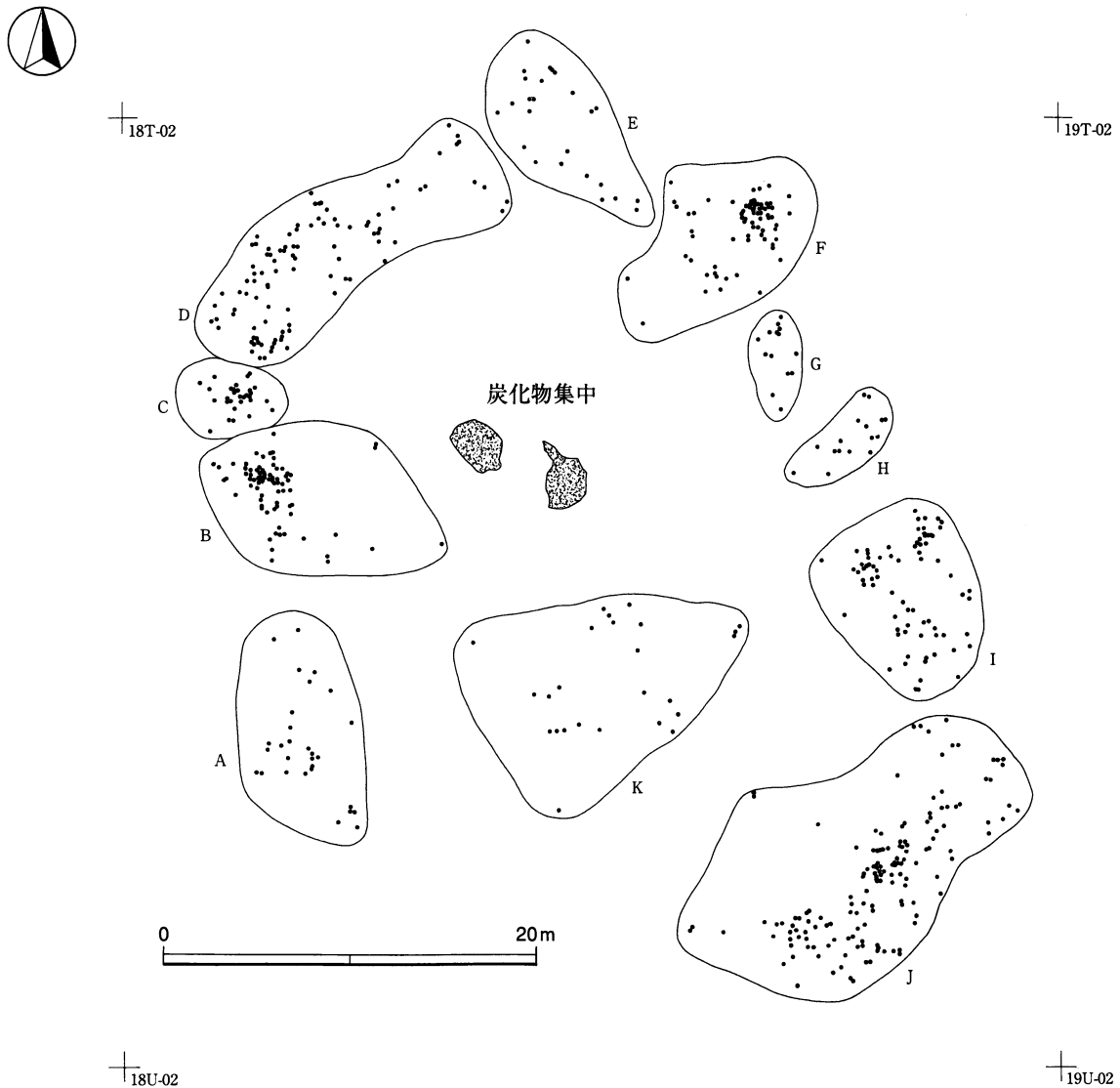
## 第1節 第I文化層

### 1 第I文化層の概要

本報告で第I文化層と捉えた地点は、第1～第14地点に及ぶ。各地点の内容については、後述するよう  
に様々であり、とりわけ第1地点では注目できる資料を提供している。ここでの遺物出土総数は600点  
を越え、他を圧倒する。その他の地点では、それほど規模の大きいものは認められず、第1地点を補足す  
る程度の規模でしかない。以下、各地点の内容をそれぞれ記載していく。

#### (1) 第1地点 (第7～49図)

**概要** 本地点の石器群は、図示 (第7図) したように18T区を中心に、一部が18S区、19T区に及ぶ広



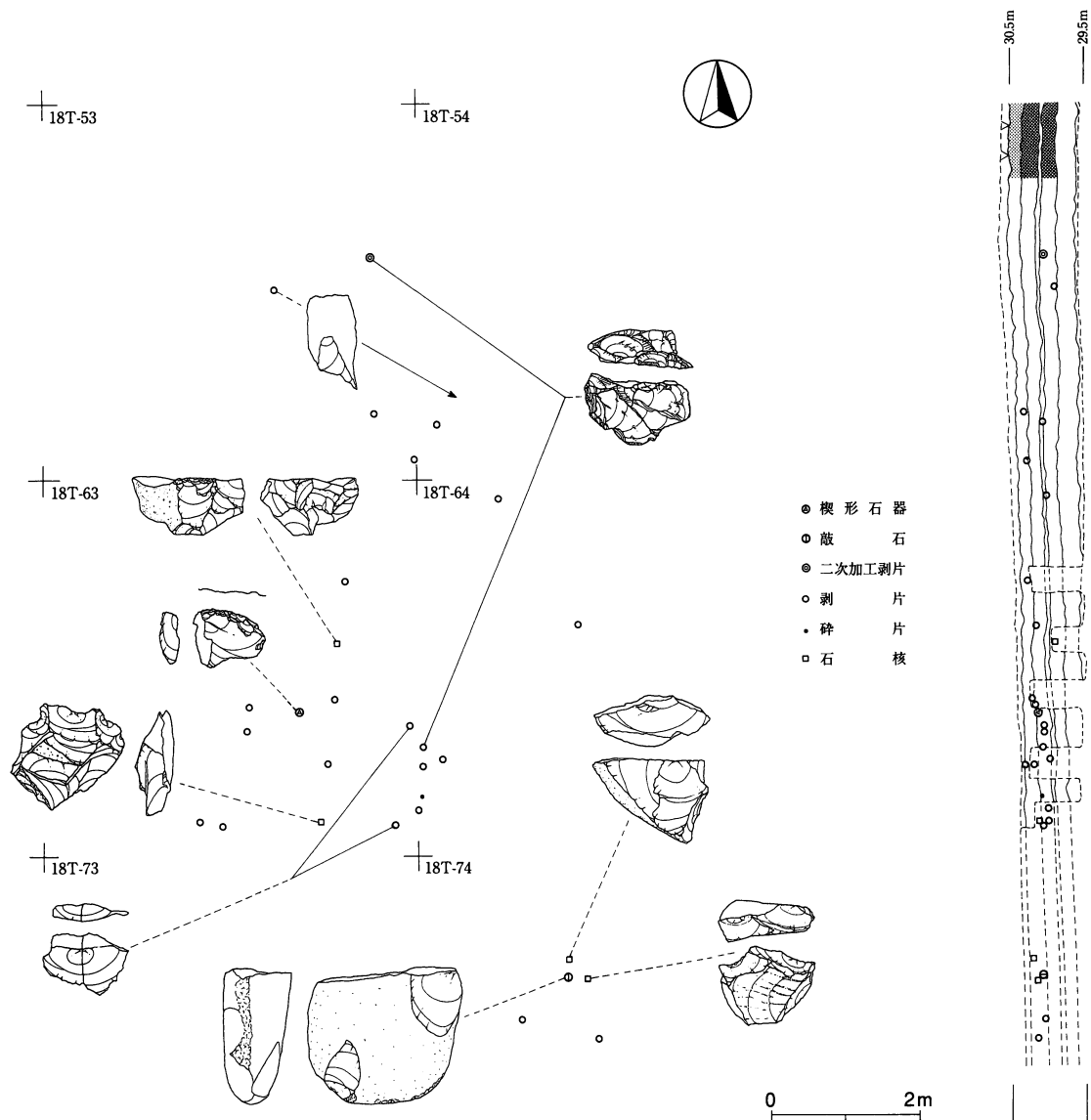
第7図 第1地点遺物分布図



い範囲に石器群の分布が確認され、環状石器群を構成していた。このため整理作業の都合上、これをA～Kの小地点に細分することとした。いずれにせよ後述するように各小地点間での接合関係が認められ、本地点がほぼ同時期に営まれていたことは疑う余地がない。各小地点の設定に関しては、その規模に差異は生じているが遺物が濃密に分布する範囲と空白を生じる部分を目安として、南側から時計回りに小地点を設定した。石器群の構成や使用石材等によるものではないことを付記しておきたい。

**1-A地点** (第8図) A地点では18T-63G (以下、グリッドはGと記載) を中心として29点の遺物が南北方向に長楕円形を呈した形で検出されている。隣接するB地点と比較すると疎らな分布状況といえよう。東に位置するK地点と同様な密度を示す。出土層位は第IX層上部にその中心があり、第VII層及び第IX層下部にまで拡散していた。石材では安山岩・頁岩・ホルンフェルスと若干の黒曜石が認められる。石器としては敲石・楔形石器・加工剥片の他に残核も出土している。量的には剥片・碎片が多くみられた。

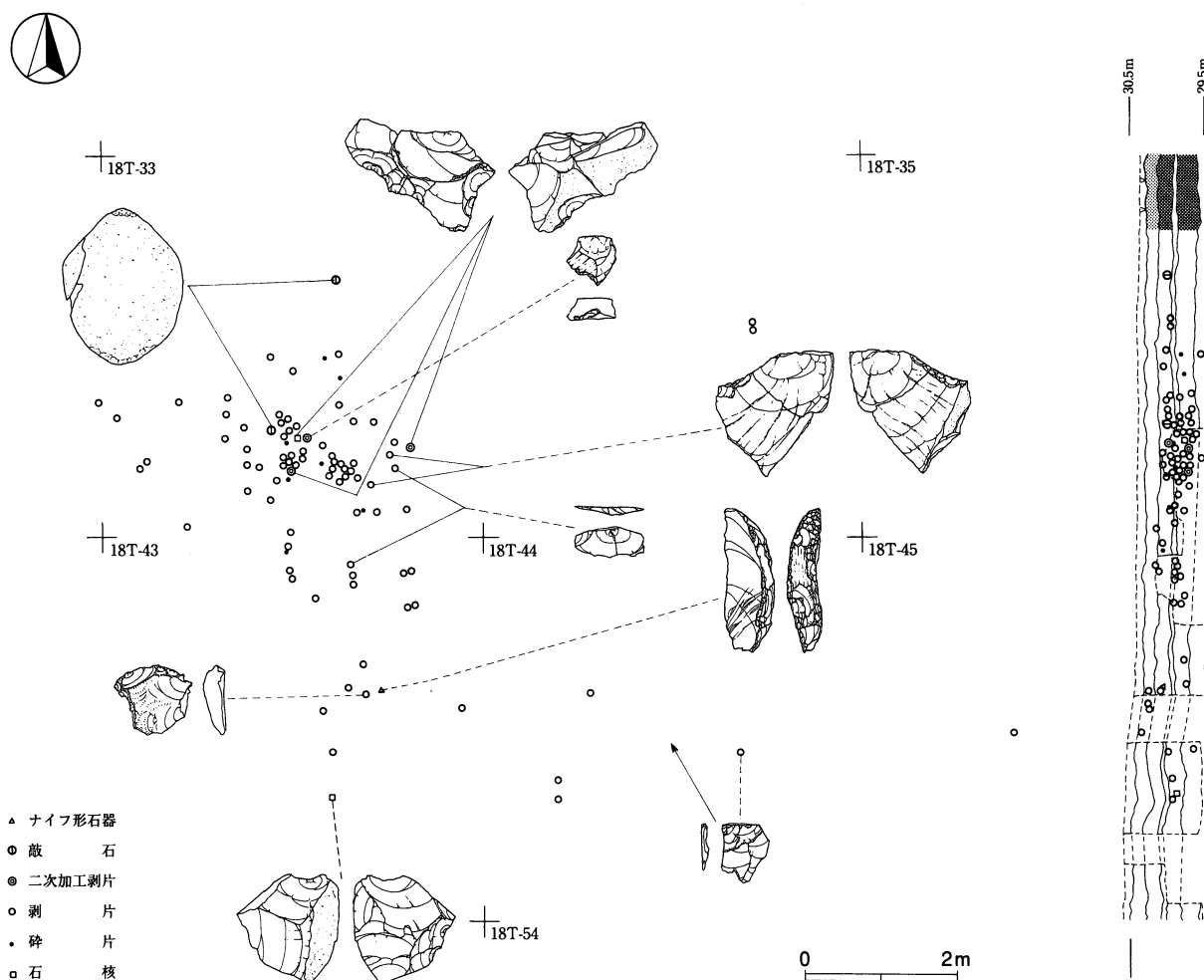
**1-B地点** (第9図) B地点では18T-33Gで濃密な分布が認められた。総数94点の出土で、半数以上が



第8図 第1地点(A) 器種別分布図

18T-33Gで検出されている。その分布状況を見ると、C地点・D地点との境界はそれほど明確ではない。出土層位は、ほぼ第IX層と考えてよいであろう。大半の遺物は暗色帯の中に包含されていた。石材は安山岩を主体とし、頁岩・黒曜石・砂岩等で構成されておりホルンフェルスも若干存在する。石器としては唯一ナイフ形石器が検出された地点で、他に敲石・加工剥片が出土、残核も1点認められた。その他、大半は剥片と碎片であり、しかもここでは数点の接合関係も認められ、明らかに石器製作の痕跡を残す地点とすることができた。

1-C地点 (第10図) C地点とした空間は敢えて分離することもないような分布状況であったが、18T-23Gと18T-33Gにかかる部分で剥片類が集中的に検出されたため1地点として分離した。出土遺物は計30点を数えるが、そのほとんどが剥片類であった。出土層位は第IX層下部が中心となっており、前地点よりも若干下位に位置するようである。使用石材についてみると、安山岩・頁岩が主体を占め、他にホルンフェルス・チャートが認められる。成品は僅少で、台形石器が1点のみの出土であった。ここでも3点の石核に接合した剥片や剥片間の接合が認められ、多数の剥片は石器製作の結果であることが認識できる地点である。

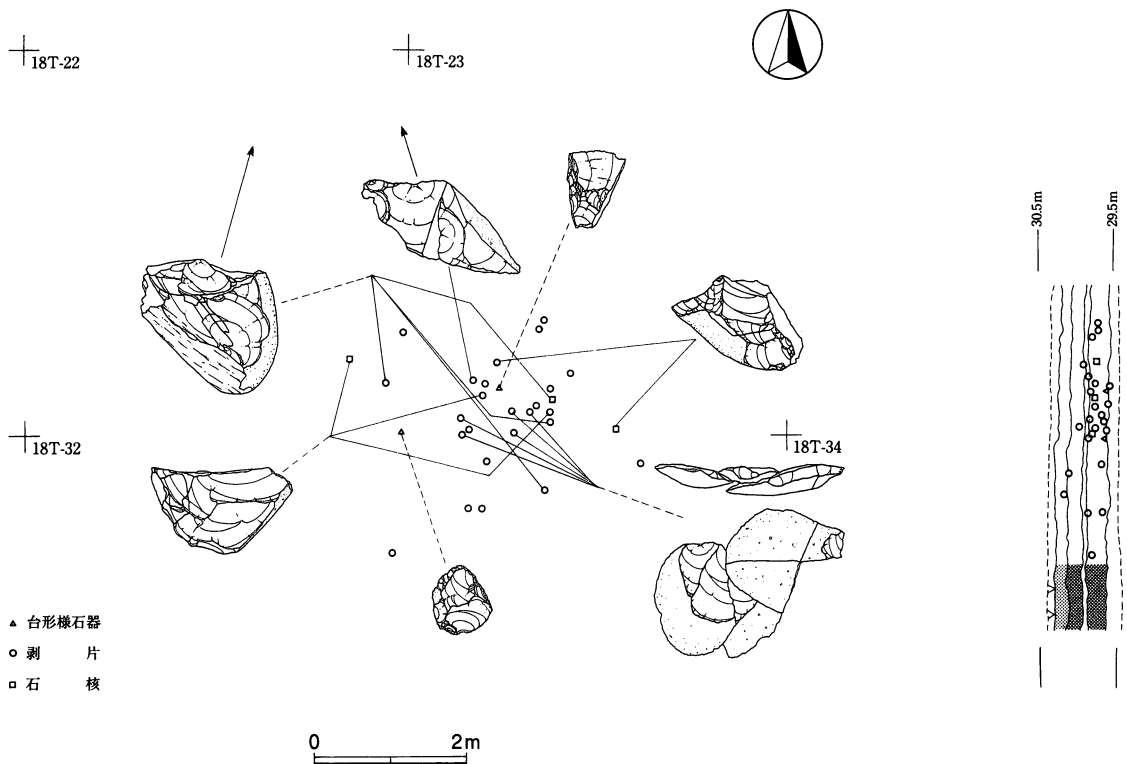


第9図 第1地点 (B) 器種別分布図

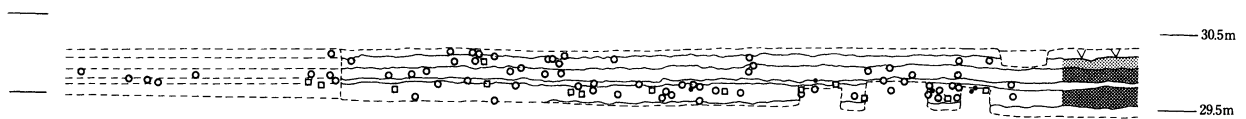
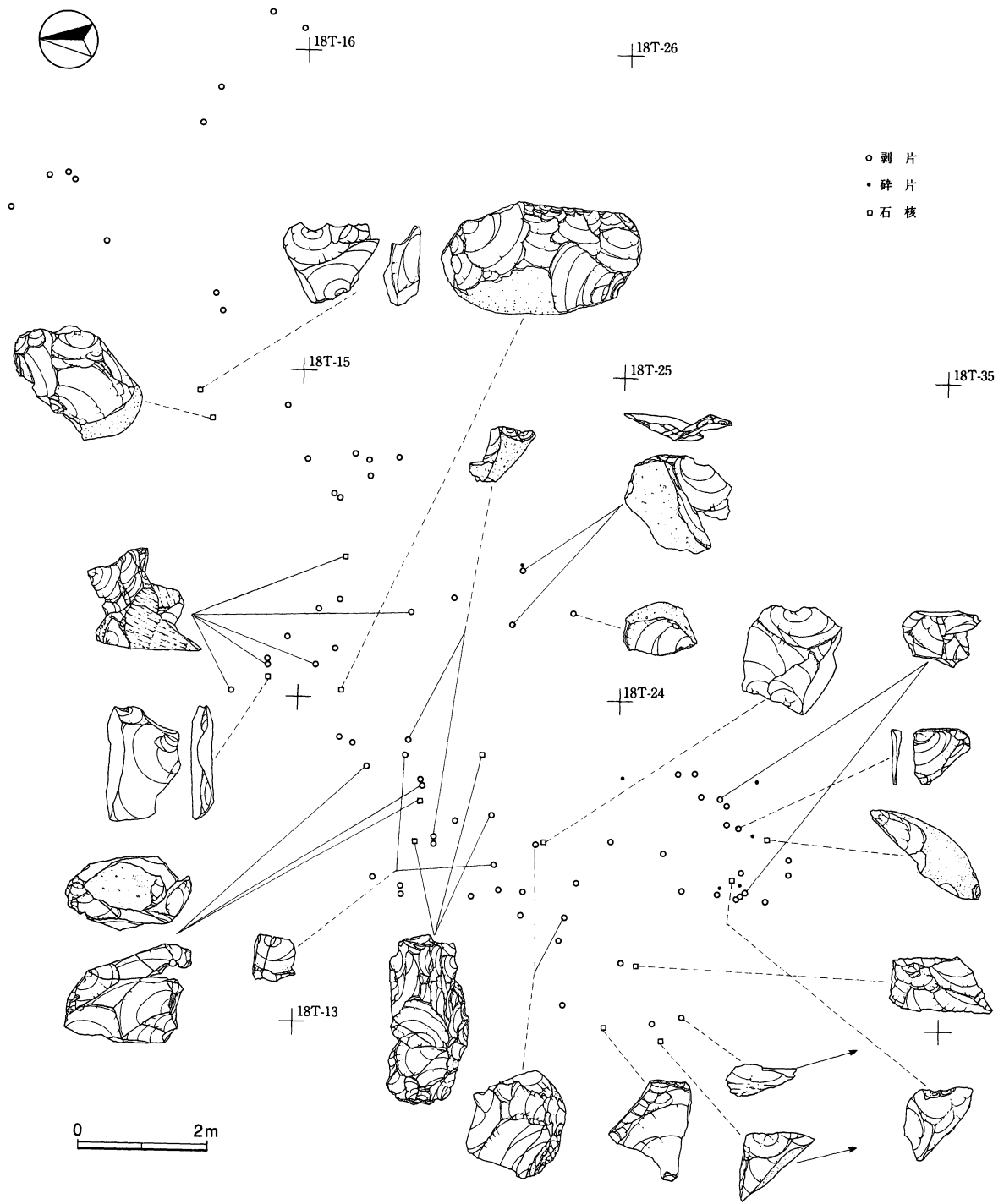
1-D地点(第11図) D地点とした区域は広く、C地点から北東方向に分布域が延びる。特に集中的に出土した部分は存在しないが、その長さは約15mにもおよぶ。強いていえば、18T-13Gと18T-23Gとすることができよう。その総数は101点を数え、小地点別にみれば規模は大きいものといえる。出土層位についてみると、その高低差は著しく第VI層下部から第IX層までに及ぶ。最多は第IX層下部となろうが出土層位としては捉えにくい。石材では安山岩・頁岩が主体を占め、他に黒曜石・ホルンフェルス・凝灰岩・チャートなどが採用されていた。しかしこれらの割合は僅かであった。また、ここでは成品の検出は認められなかったが、石核・残核の出土が多く、大型剥片をさらに剥離しているものを含めると10点にもものぼることは特筆できよう。

1-E地点(第12図) E地点とした区域は環状石器群の北隅にあたり、遺物は18S-96Gで多く検出されている。分布状況は散漫で、D・E地点を特に区分する必要もないような状況といえた。合計点数は25点と少ない。使用石材では安山岩が主となり、若干の黒曜石・頁岩・珪質頁岩・ホルンフェルスなどが認められた。出土層位は第IX層下部に集中しているところから、本層が当時の人びとの生活面であったものと思われる。出土した石器群についてみると、石核あるいは残核の類は4点みられたが、他は剥片・碎片のみであった。剥片の中には図示したような十分成品に加工できるものも含まれていた。ここでも石器製作の痕跡が窺われる。

1-F地点(第13図) F地点とした区域では、18T-08・18Gにかけて遺物の集中が認められた。合計86点のうち65点がここで検出されている。遺物集中地点においては剥片間の接合資料も数点認められる。成品が存在していないことも本地点の性格をあらわすものであろう。出土層位についてみると、集中地点



第10図 第1地点(C)器種別分布図



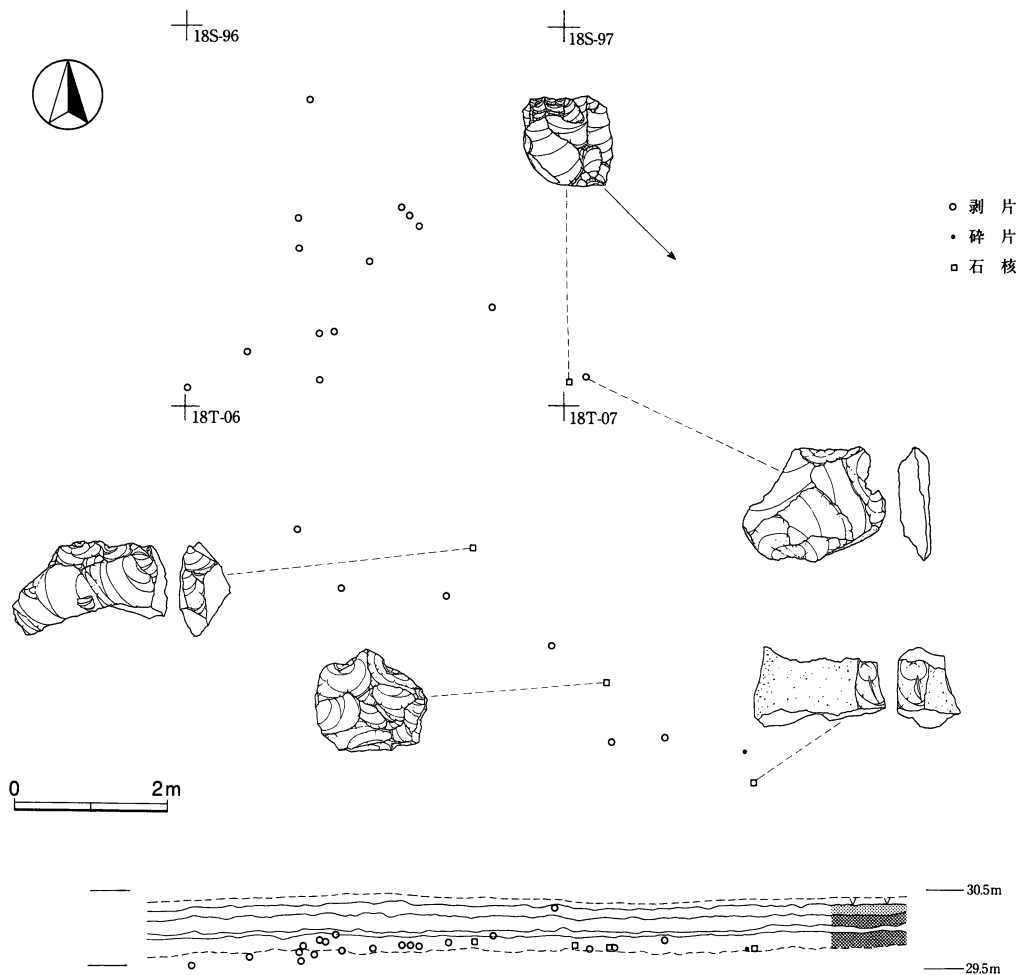
第11图 第1地点(D)器種別分布图

では第IX層下部が包含層となっていたが、疎らに分布するその周辺では第VI層～第IX層と高低に差異が認められた。石材は、他地点と比較し安山岩の比率は低下し、石英がそれに変わる。頁岩の割合に変化は認められないが、黒曜石・ホルンフェルス・流紋岩が若干加わる。石器では、成品に加工できるような剥片は存在するものの定形石器は存在しない。少数ではあるが、石核も出土している。

**1-G地点** (第14図) G地点は、第1地点のうちで最小規模のものとして認識した地点で出土遺物も14点と少なく、18T-28・29Gで楕円形に小さく広がる。石材にはホルンフェルスが多用され、安山岩は少ない。この点だけをみると地点の区分も可能となろう。石器では敲石の断片が出土し、I地点出土品と接合した。石器製作に使用された敲石とみることもできよう。他は剥片と残核となり、成品の素材に適した良好な剥片も存在する。

**1-H地点** (第14図) 本地点も小規模なもので、合計15点の遺物が出土したにすぎない。分布域は18T-39Gから19T-30Gを中心に、一部が18T-29Gにおよぶ。出土層位は、G地点同様に第IX層下部にあたり、層位的には比較的まとまっていた。石材は安山岩が主体を占め、黒曜石・石英・ホルンフェルスが各1点検出されている。石器にも成品は存在せず、剥片と残核で構成されていた。

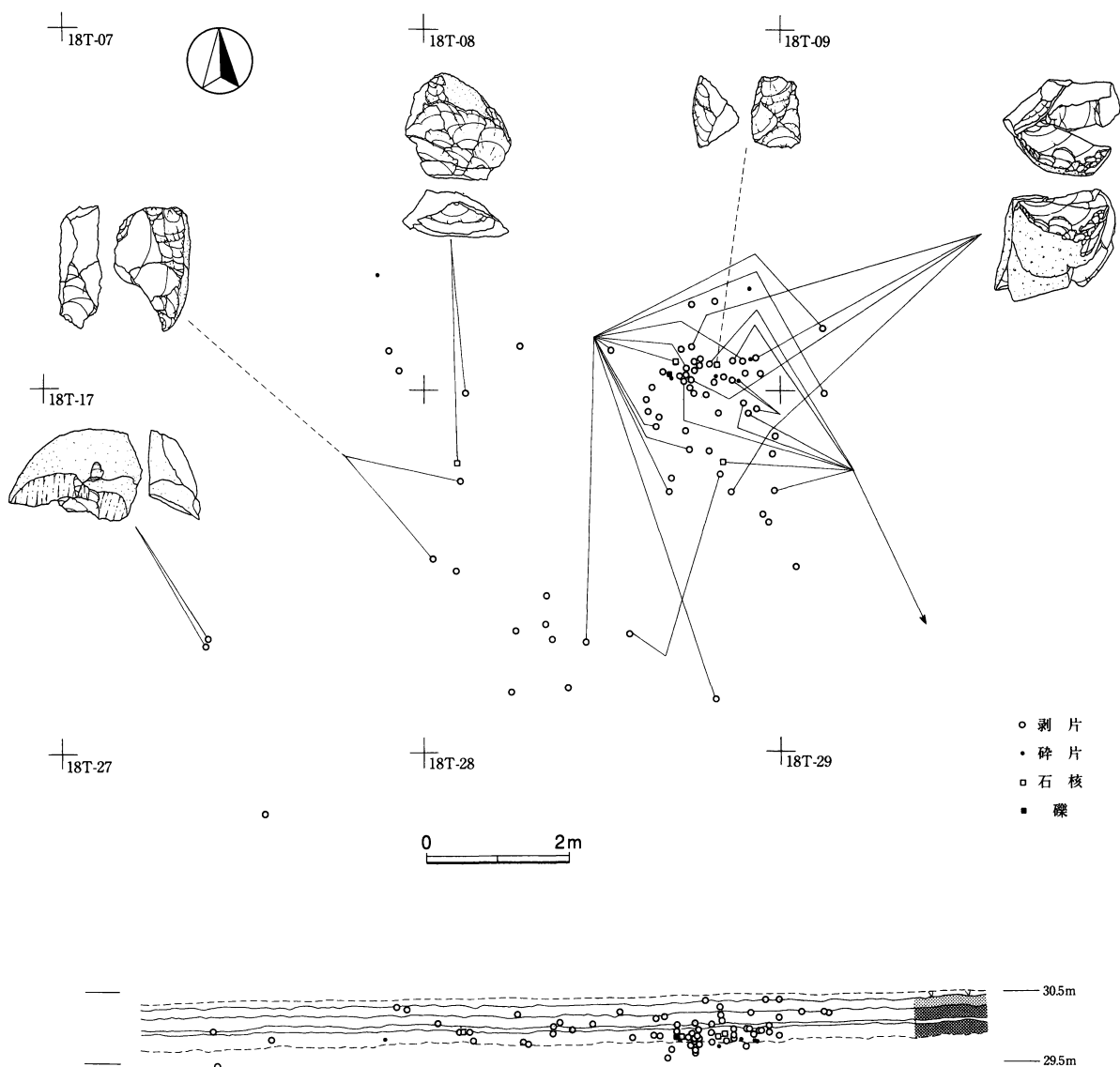
**1-I地点** (第15図) 本地点の規模は大きく、南北に20mの長さで展開する。遺物集中地点は接近した3か所によって構成される。このため出土量も多く、19T-40Gを中心として総数87点が検出された。



第12図 第1地点 (E) 器種別分布図

また接合する資料も多々あり、地点を越えて接合した石器・剥片等が4点認められた。一方、出土層位は第Ⅸ層の暗色帯を中心とした包含層と捉えることはできるが、その漸移層にまでおよび層序を特定するには躊躇するような出土状況を呈していた。使用石材は安山岩を主体とし、次いでホルンフェルス・黒曜石・砂岩・珪質頁岩等で構成され、頁岩は皆無であった。出土石器には台形石器に近いものと敲石・台石・加工剥片等が認められ、石核は2点と少ないが、剥片4点が接合した例がみられた。台石には打痕が認められるところから石器製作に使用された可能性が高い。それを裏付けるかのように安山岩の剥片が多数伴出している。

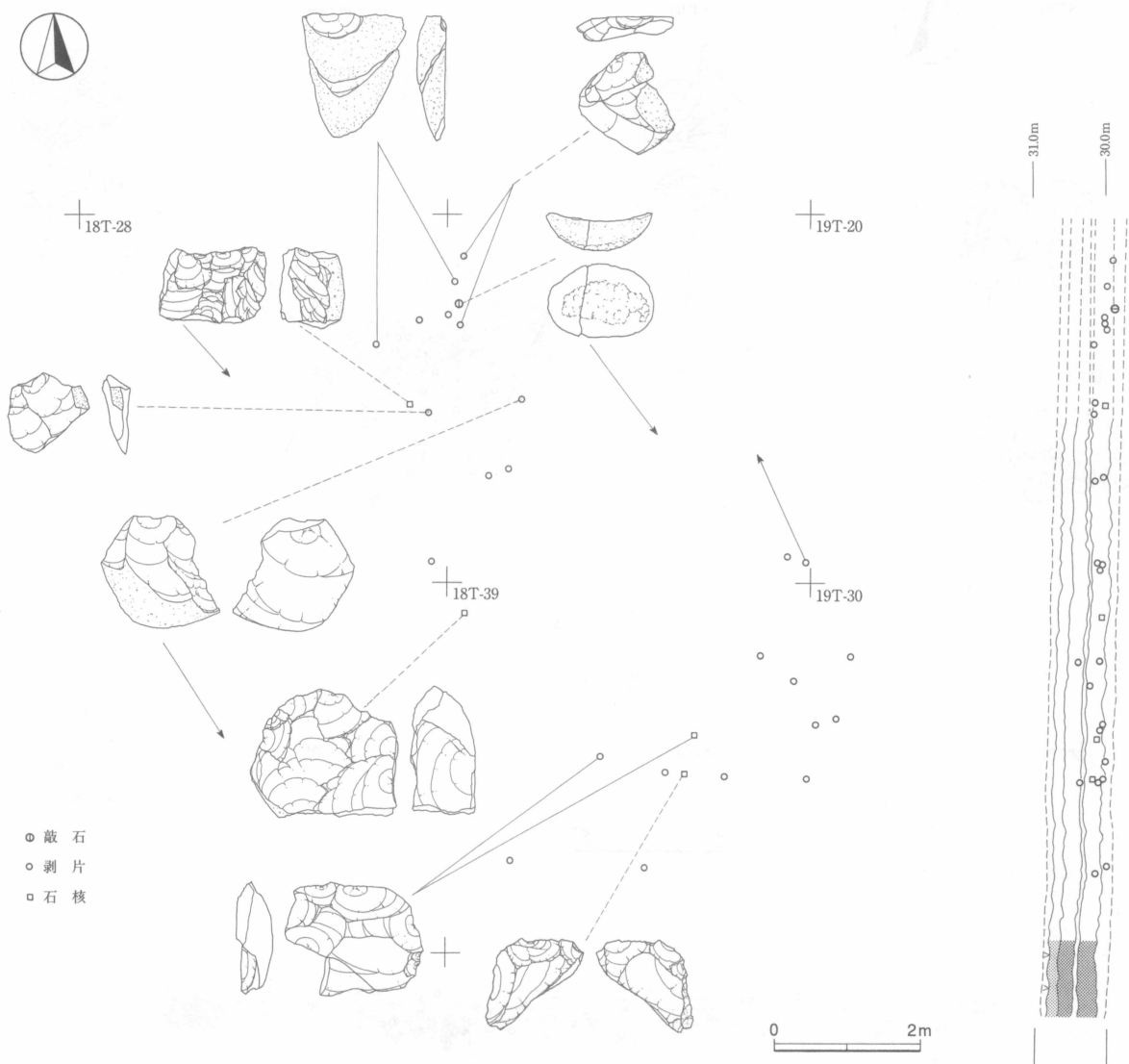
1-J地点（第16図）本地点の規模はA地点～K地点として細分した中で最大規模を有する集中地点で、遺物の集中も19T-70Gを中心として19T-80G, 18T-89Gへと南西方向に集中する。その分布は長軸方向で17m～18mを計測し、出土総数も143点を数えた。ここでも接合する石器は6点ほど認められたが、地点を越えて接合する資料も4点、計10点が整理の過程で確認できた。この中には高低差、約50cm



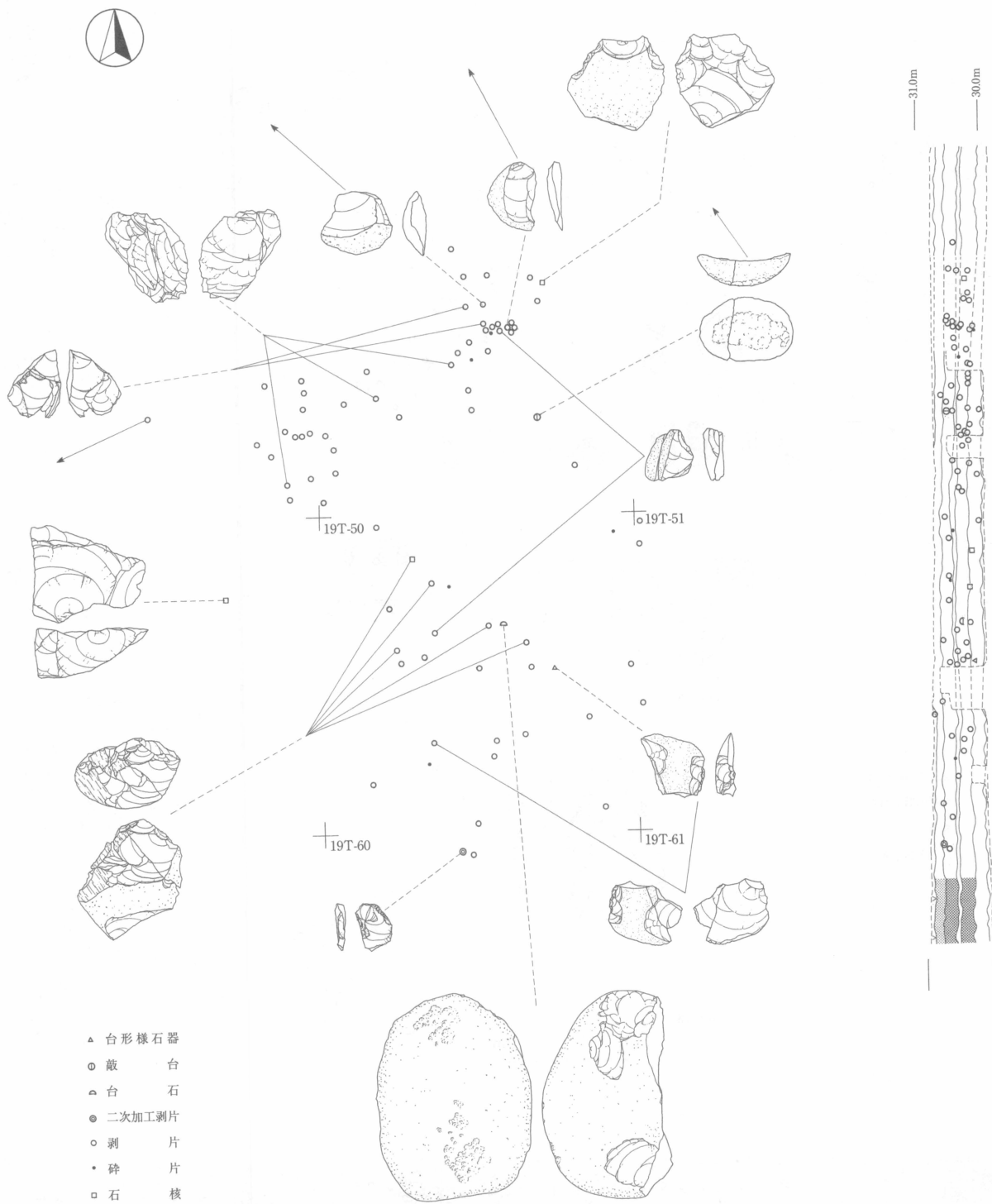
第13図 第1地点 (F) 器種別分布図

を有する例もあり、かなりの高さで遺物が動いていることが確認された。出土層位は第VII層～第X層上部と、大きな高低差が認められたが、接合遺物の移動や濃密に包含されていた出土層位を考慮すると同一文化層として捉えることを否定するものではないと考えられた。当時の生活面は、第IX層のいわゆる暗色帯部分のほぼ中央にあったものと推測できた。次に、本地点で使用されていた石材についてみると、安山岩を主体として黒曜石・ホルンフェルス・珪質頁岩、僅少ではあるが頁岩・チャートなども検出されている。また、成品も豊富で18T-89Gより局部磨製石斧が出土し、他に台形石器・削器・加工剥片等がみられる。石核の類も多く認められ、残核あるいはその一部と思われる石器が10点を越す。このように本地点は、出土遺物量とその石器群から第I文化層を特徴づける石器出土地点として捉えることができる重要な地点といえる。

**1-K地点** (第17図) 第1地点で最後となるK地点は、環状石器群のやや中央部寄りに位置し、18T-57G, 18T-66・67Gにかけて、広範囲に希薄な遺物の分布で構成されている。出土点数も25点(2点は省略)と少ない。接合資料では、隣接するI・J地点との関連が確認された。出土層位は前地点同様に



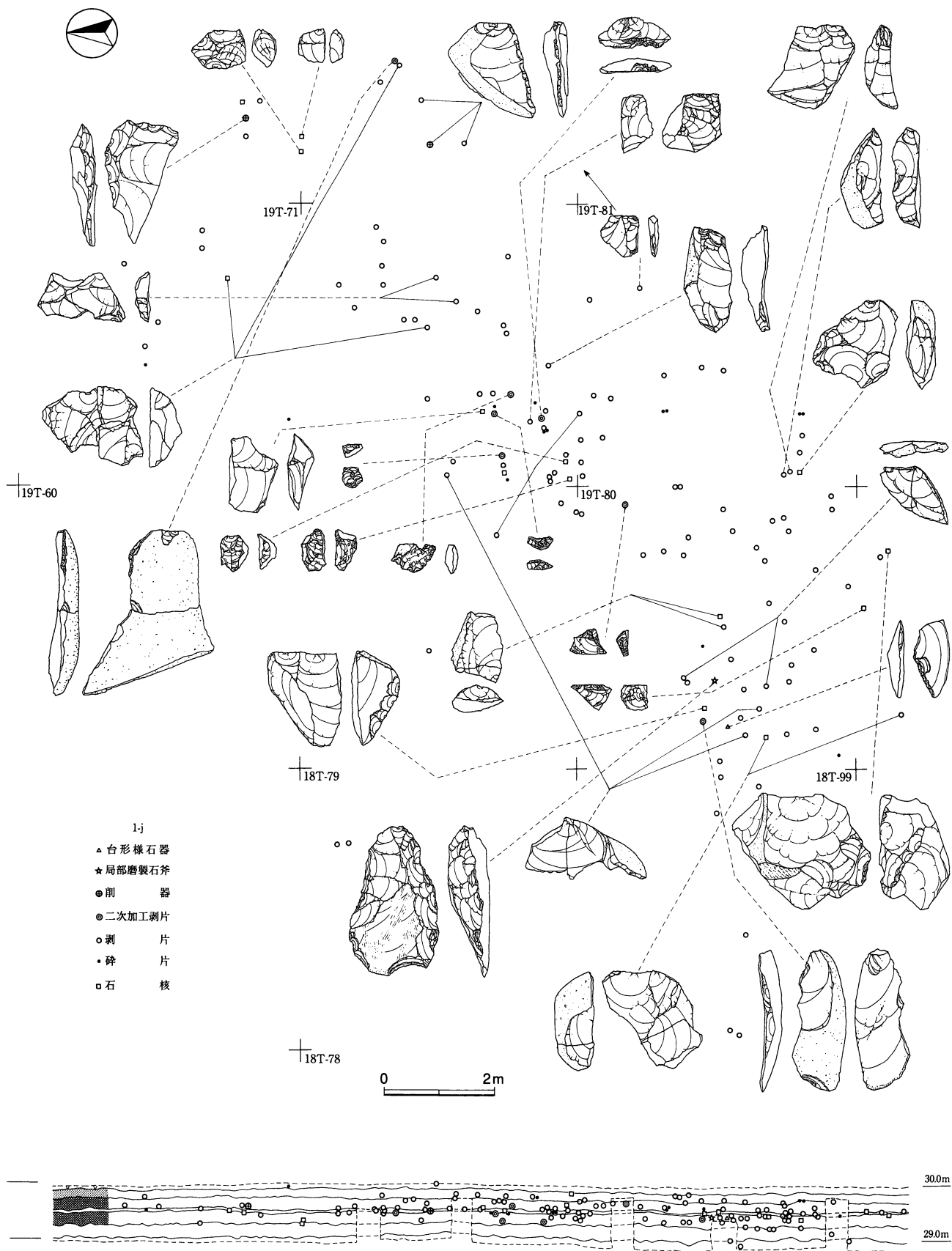
第14図 第1地点 (G・H) 器種別分布図



- ▲ 台形礫石器
- 敲 台
- ▽ 台 石
- 二次加工剥片
- 剥 片
- 碎 片
- 石 核

第15图 第1地点 (I) 器種別分布图

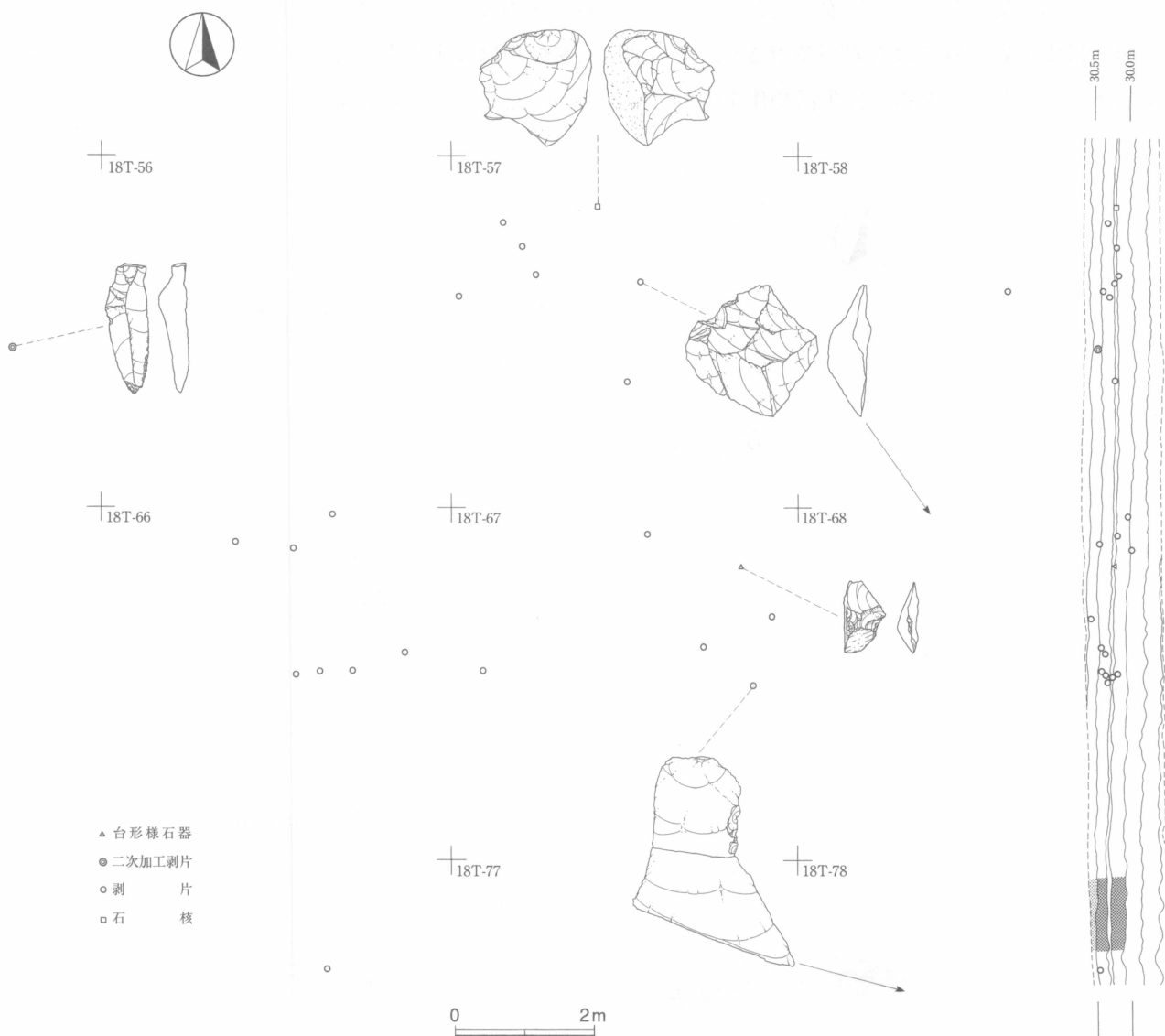




第16图 第1地点(J)器種別分布图

第IX層の暗色帯といえよう。その一部は第VII層にも認められる。石材構成についてみると、ここでも安山岩は卓越し、その他に僅かながら頁岩・黒曜石・ホルンフェルス・珪質頁岩等が認められる。石器では、台形石器と加工剥片が検出されているにとどまる。

**炭化物集中地点**（第18図）これまで第1地点における石器群の分布について記述してきたが、最後に環状石器群の中央部で検出された炭化物についても触れておきたい。本遺跡における炭化物・炭化粒の存在は本地点に限らず各文化層に広く分布していたところであるが、とりわけ濃密に検出していた地点についてのみ、その状況を記録してみた。ここでは18T-35・36Gの2か所で検出され、調査中に約5cm間隔で記録しつつ調査を進捗させた。その結果、2か所で検出された炭化物は、その大きさは径1mm～2mm程度と小さく、それ以上の大きさのものはほとんど存在しなかった。検出層は第IX層下部から第X層上部にあたる。当時の生活面を想起させるような堆積状況であった。約35cm～40cmの厚みの中に含有されており、長径は2m～2.5mを計測した。範囲としてはそれほど広いものではなかった。その検出状況からほ

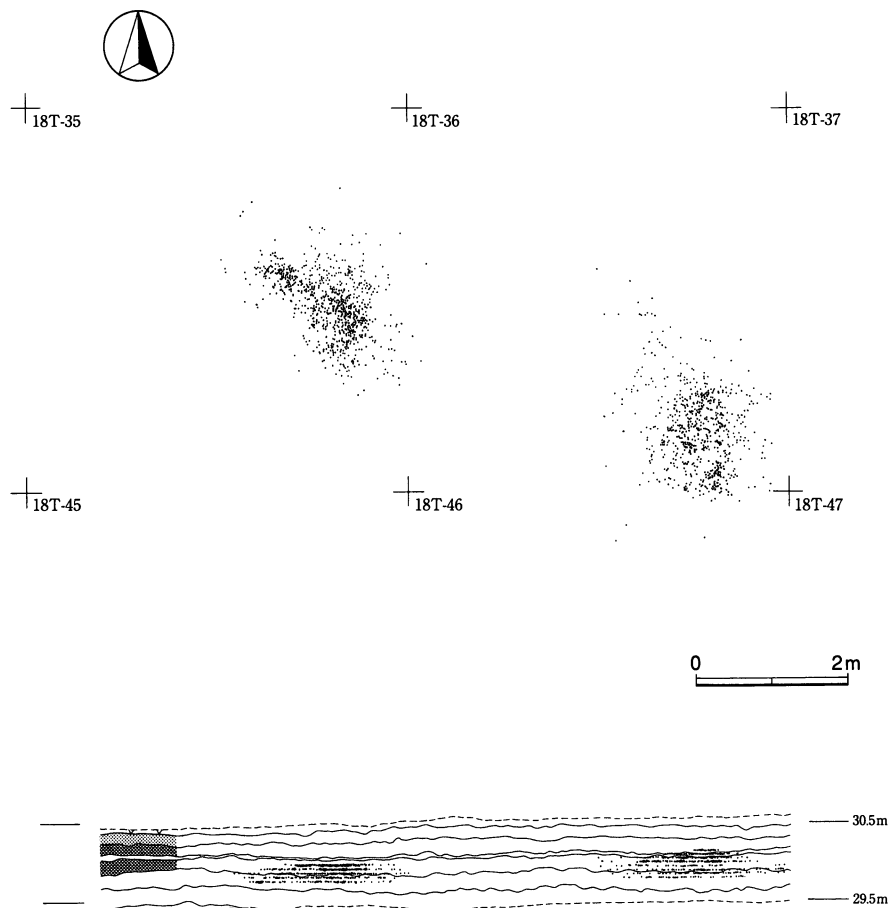


第17図 第1地点（K）器種別分布図

ば第1地点の石器群と同時期に存在したものとされた。

**石材と石器群** (第19~49図) これまで細分したA地点~K地点までの概要を述べてきたが、ここでは石材別から推測できる母岩、あるいは接合資料をとおしてみられる各地点の結びつき等を考えてみたい。第17図は、地点の異なる石器を中心とした接合関係図であり、この図から窺える地点別の関連ではB・C・Dの各地点、F・G・H・Iの各地点、A・E・J・Kの各地点で接合資料を確認できた。ここでは各地点において、それぞれ核ともいえる濃密分布地点(B・I・J地点)を中心とした接合関係を浮き彫りにしている。一方、これを石材別にみた場合、ここでの最多利用石材である安山岩ではC・D地点、G・I地点、J・K地点の3地点間で接合関係(第20図)が確認されている。さらに頁岩ではB・C・D地点(第21図)、その他の石材(第22図)でもA・J地点、E・J地点、F・H地点、G・I地点、I・K地点の5か所で接合資料の存在が認められた。

これらの事例を接合資料という点だけから推測すれば、第1地点として捉えた環状石器群はA・E・F・G・H・I・J・Kの各地点とB・C・Dの各地点に大別できることとなる。これは使用石材の頻度にもあらわれている。前者は安山岩の他に黒曜石・石英・ホルンフェルスといった石材が使用されているが後者は安山岩以外では頁岩が多用され、その他の石材使用は僅少であった。このことから2グループ間では多少の時間差、あるいは生活や作業内容に相違があったとも考えられよう。

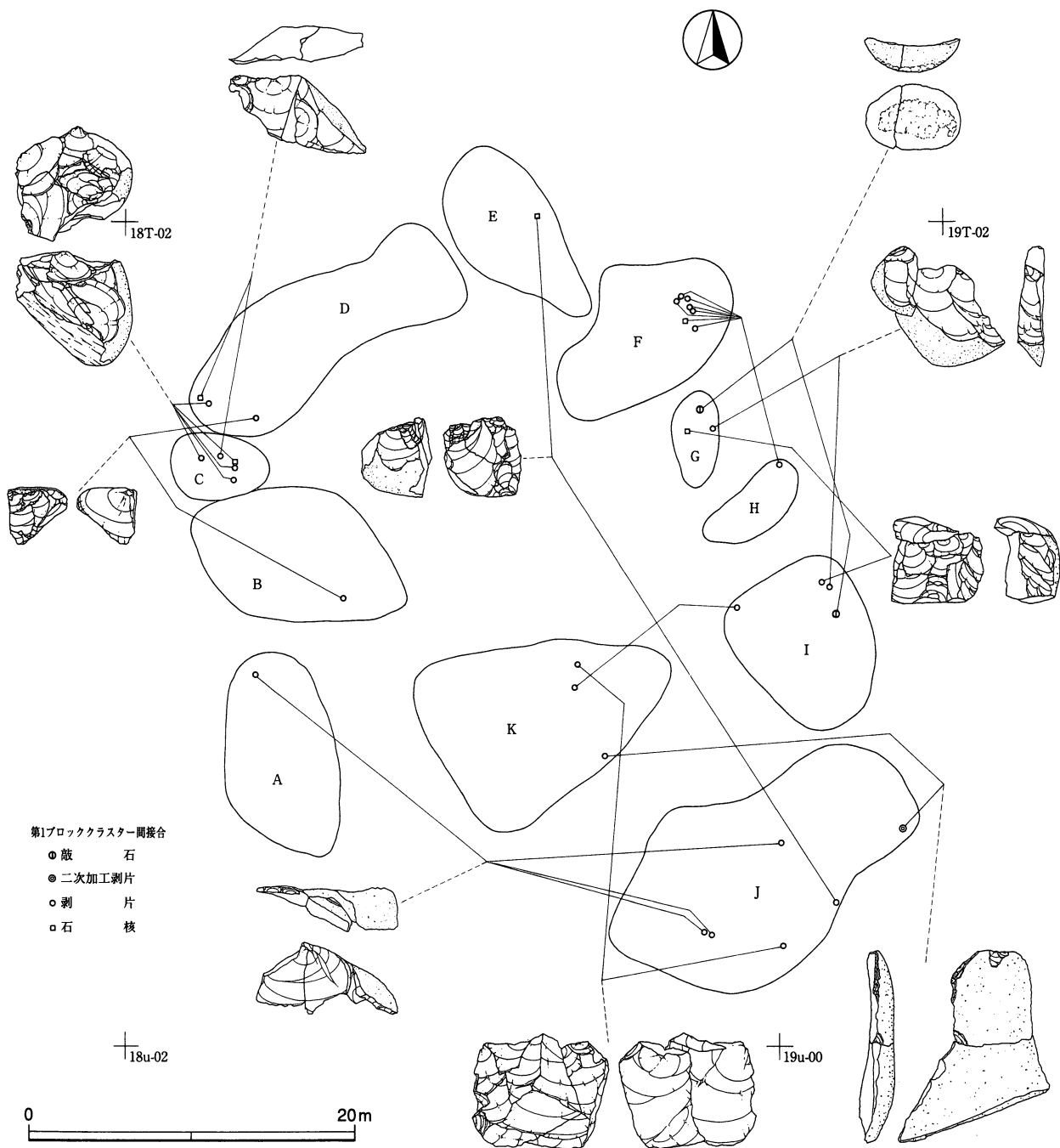


第18図 第1地点炭化物分布状況図

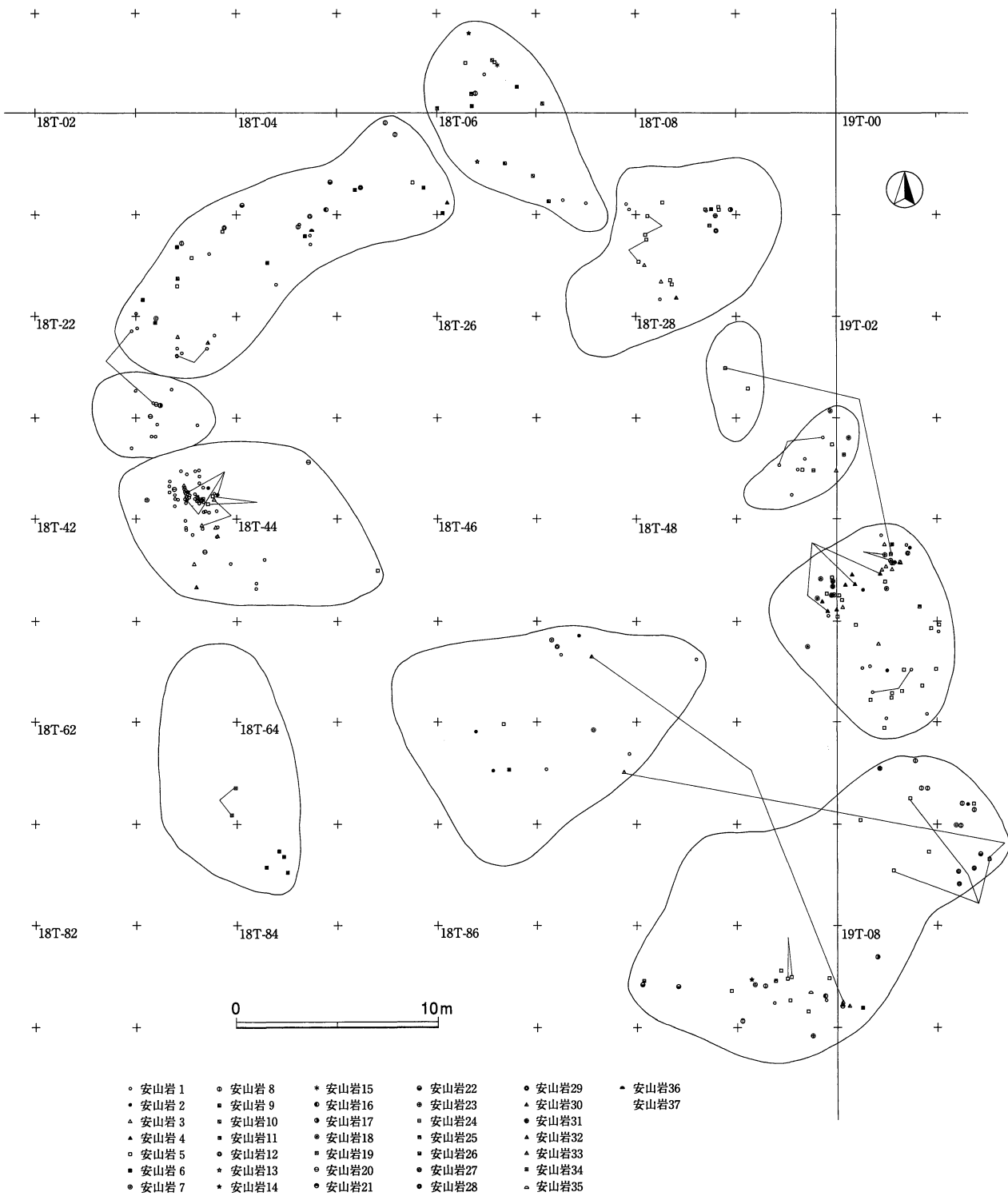
次に母岩別資料をもとに各種石材の接合資料・石器成品等についても簡単に触れておきたい。ここでは資料数も多いことから明らかに石核としての形状を残すものについてのみ取り上げる。

安山岩（第23～29図）本地点で最多の出土を示した安山岩では、台形石器・加工剥片しか存在せず器種としては少ない。加工剥片の中には、その用途として削器と考えられる形態を示すものも含まれるが成品数も概して少なかった。

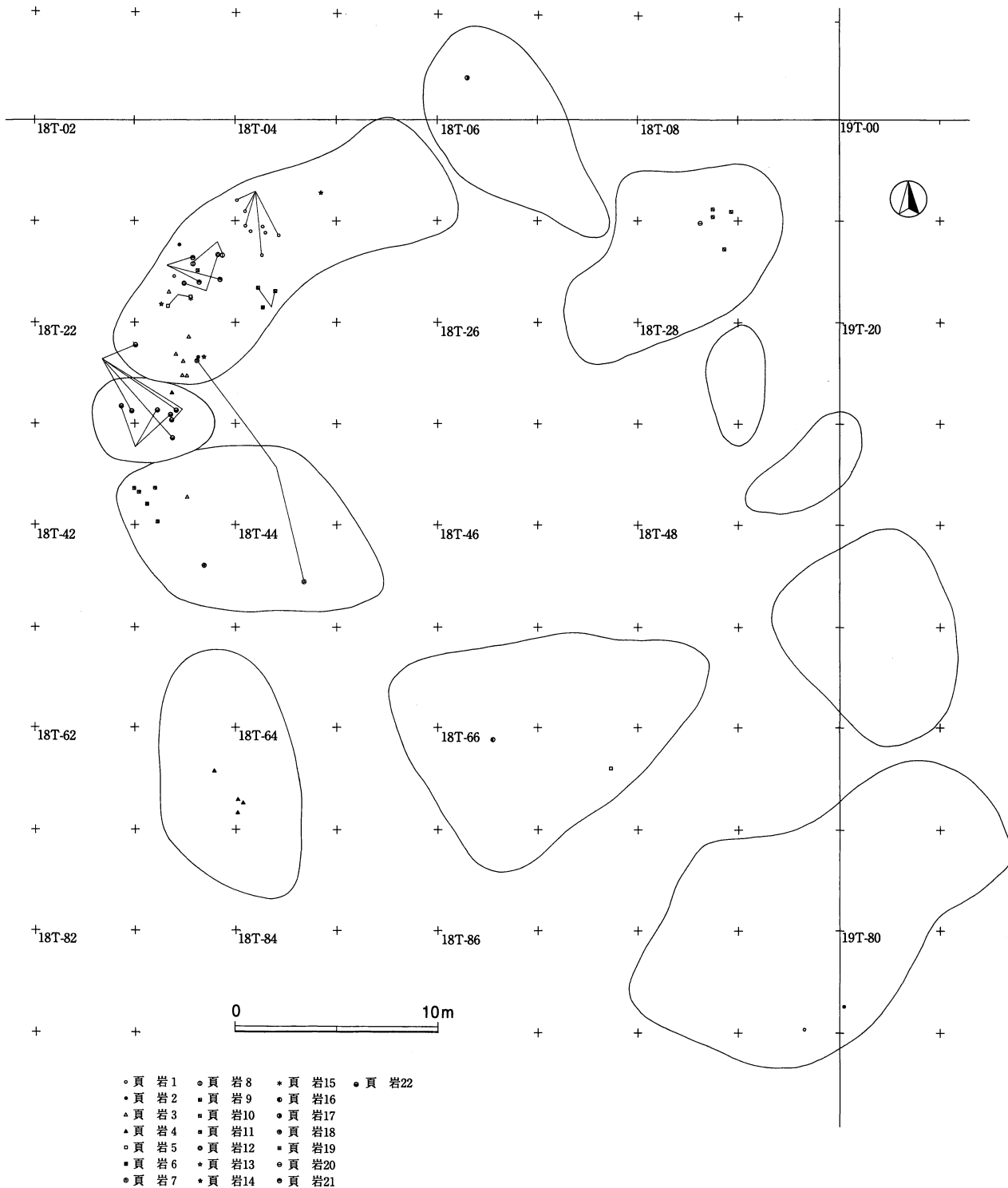
接合資料 安山岩を整理していく中で、接合資料あるいは肉眼鑑定により母岩別資料を37資料に分類した。図示したように各資料で接合関係が認められており、剥片でもかなり大型品がみられる。これら大



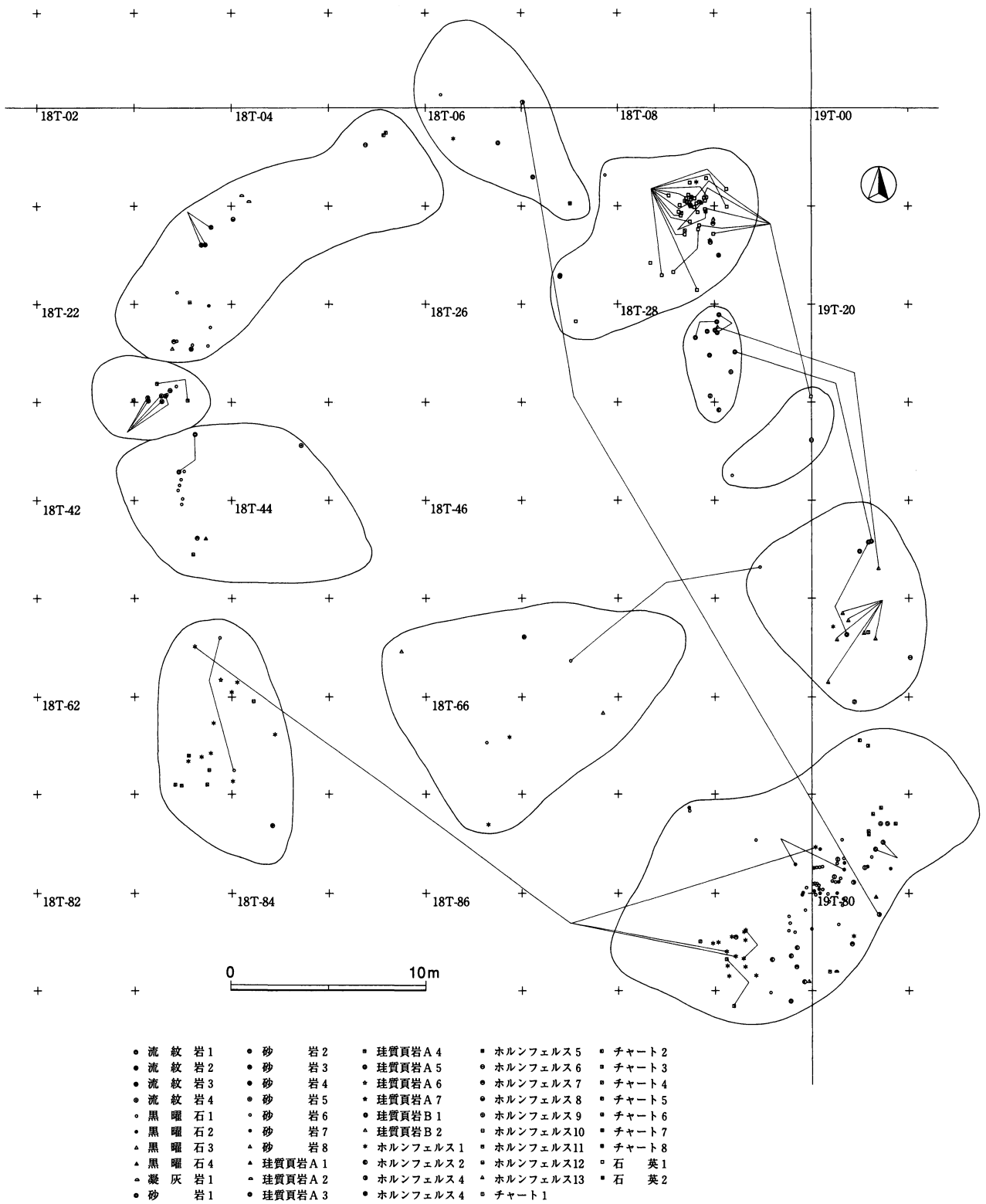
第19図 第1地点石器接合図



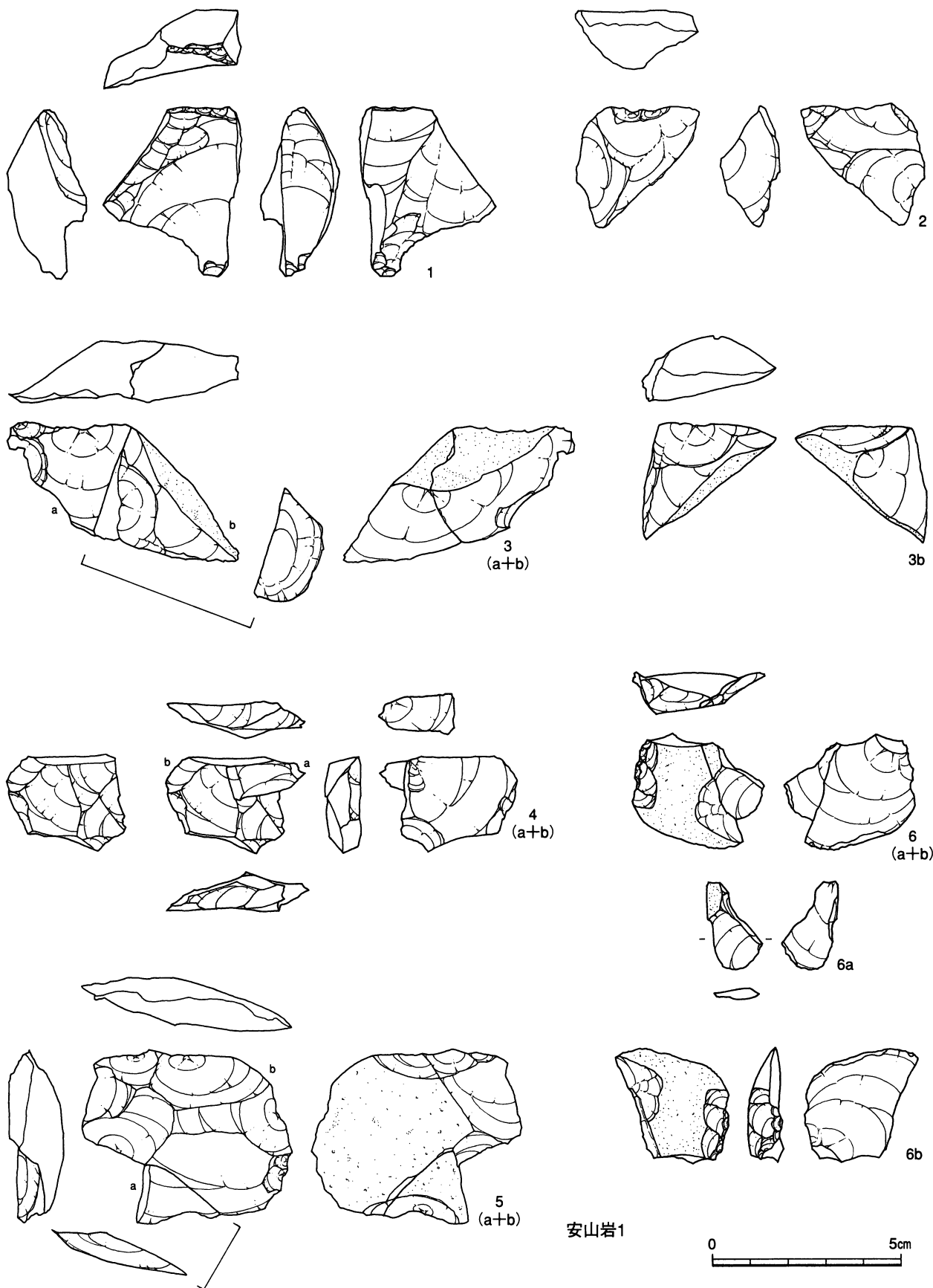
第20图 第1地点母岩别分布图(1)



第21図 第1地点母岩別分布図(2)

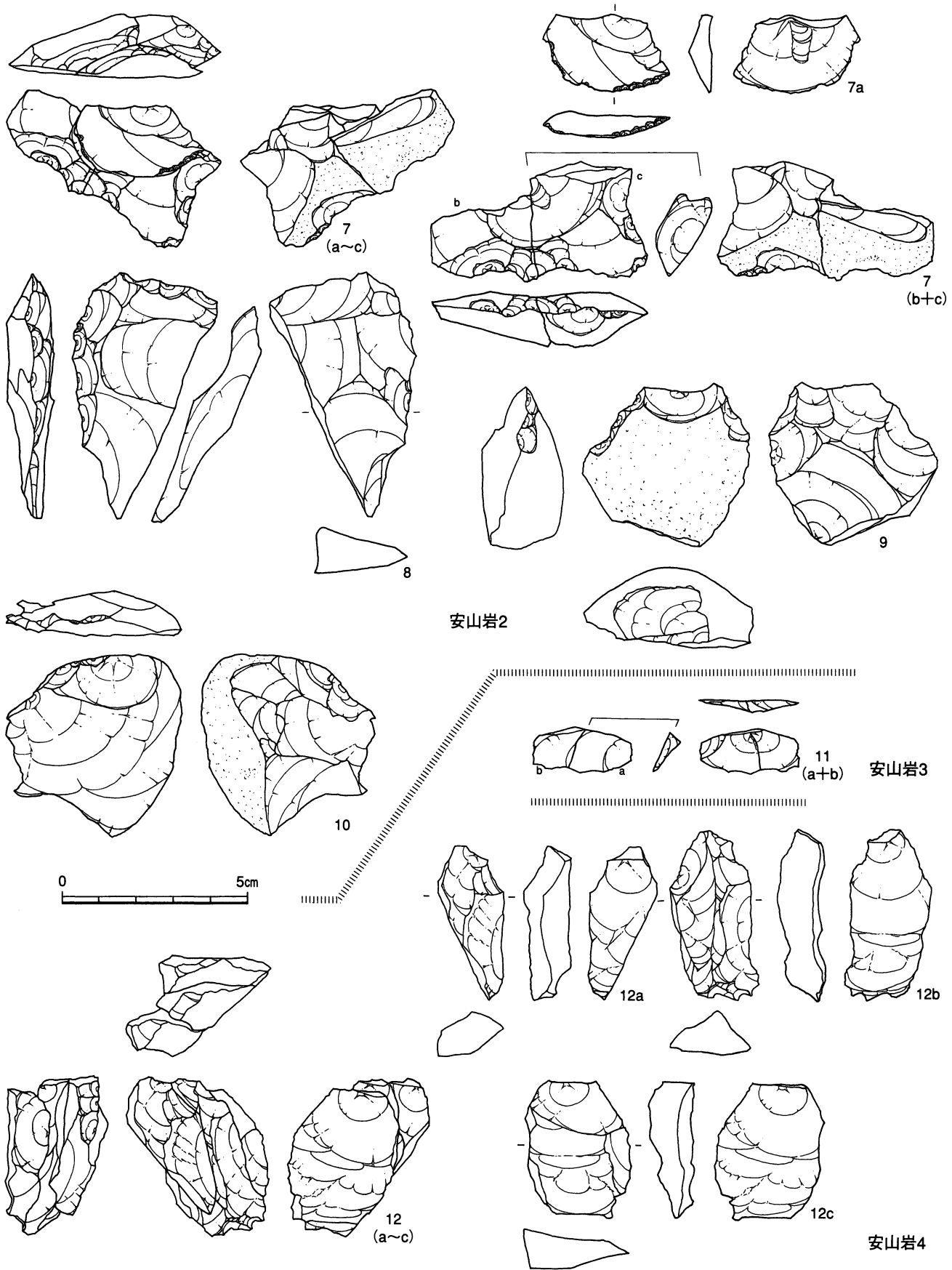


第22図 第1地点母岩別分布図(3)

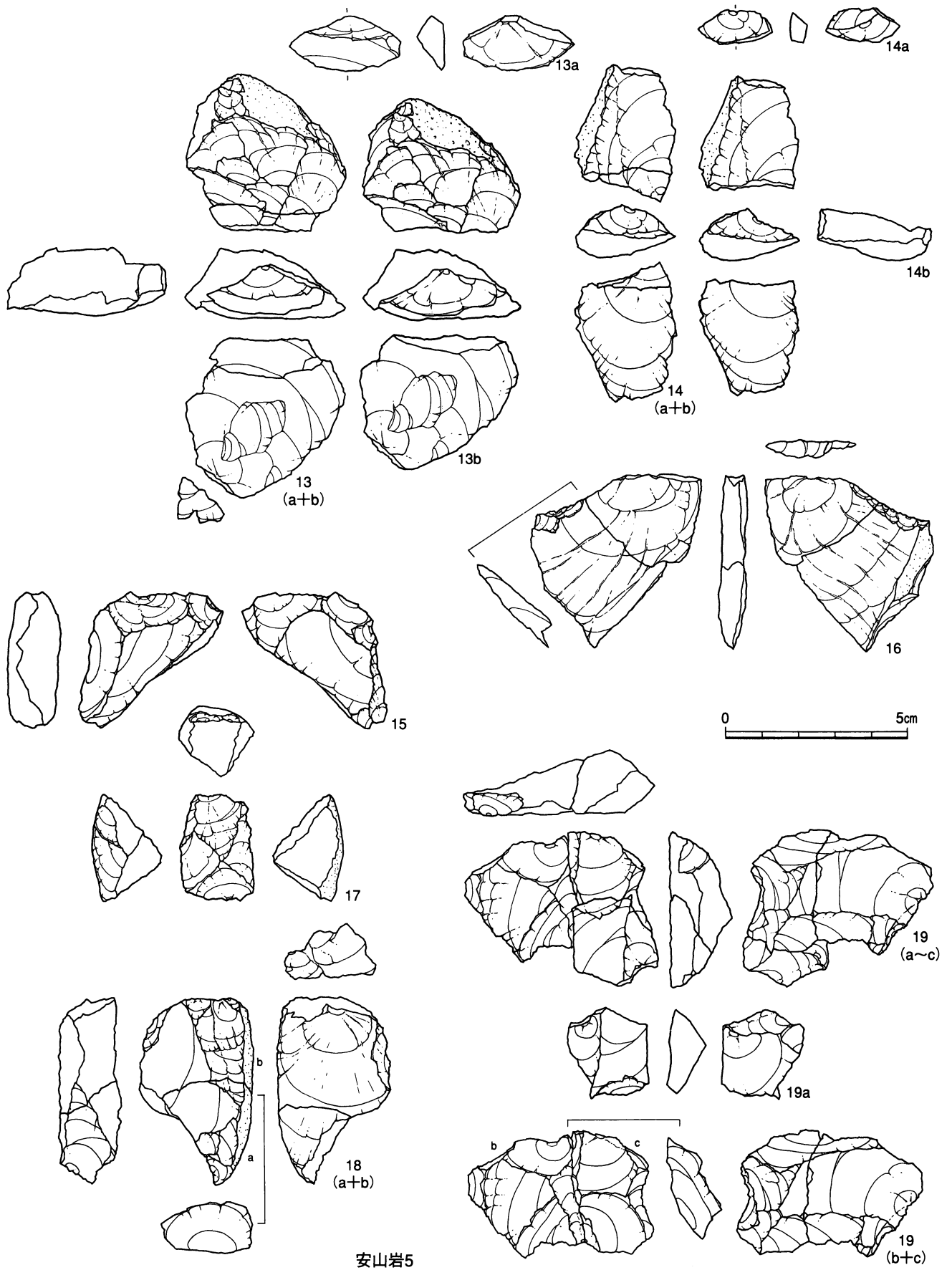


第23图 第1地点出土石器(1)

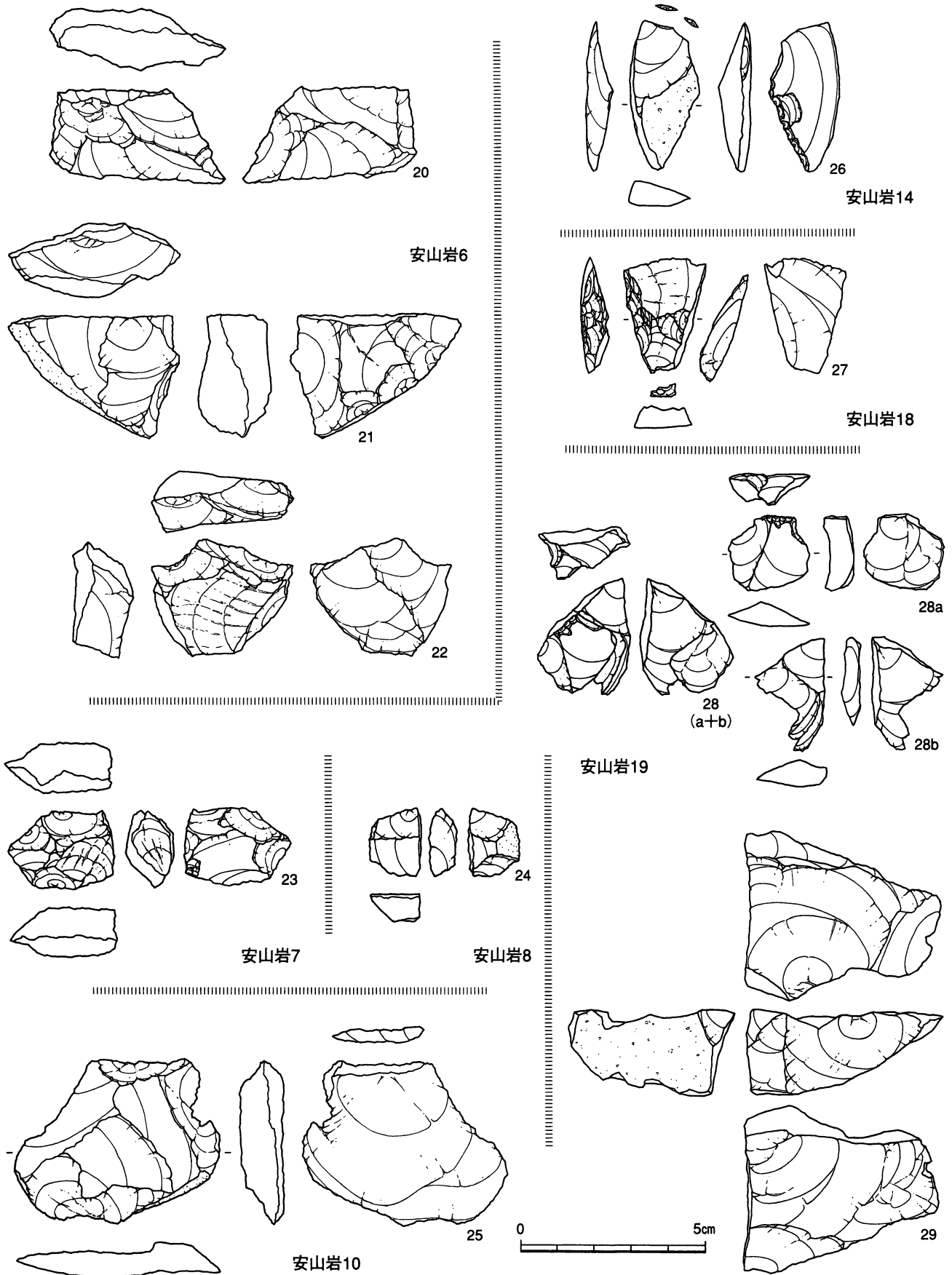




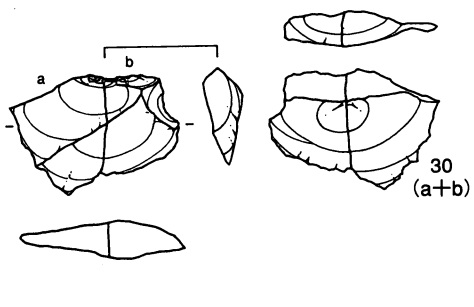
第24图 第1地点出土石器(2)



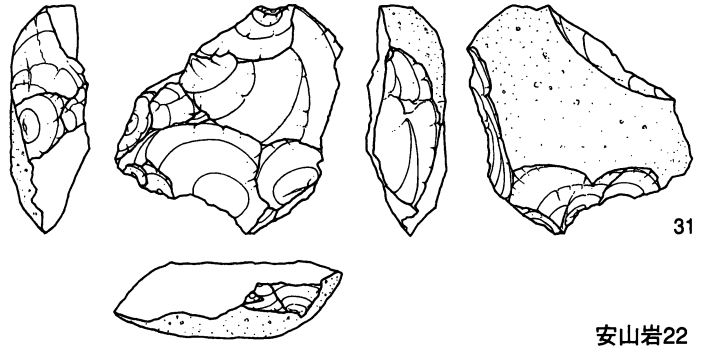
第25图 第1地点出土石器(3)



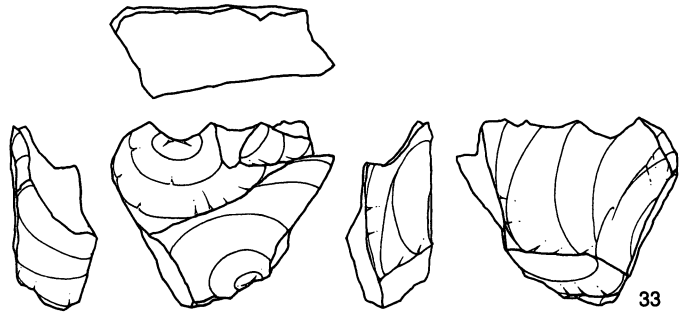
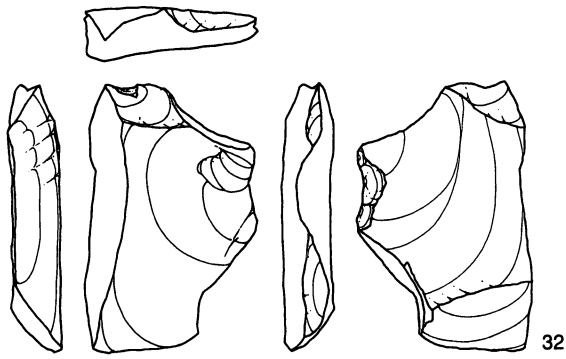
第26图 第1地点出土石器(4)



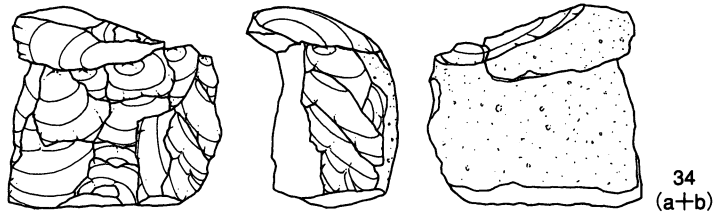
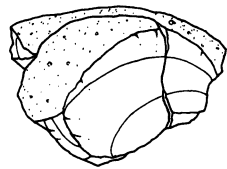
安山岩20



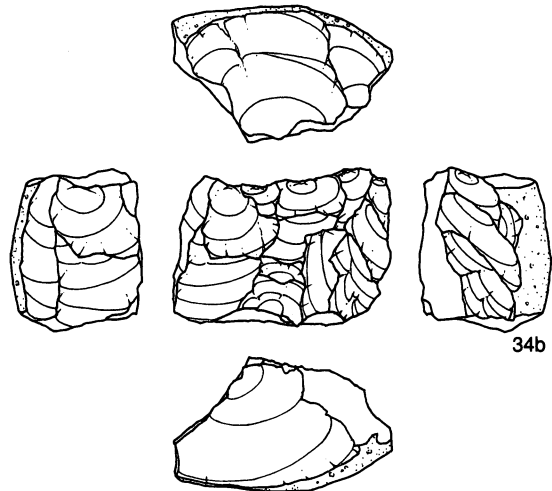
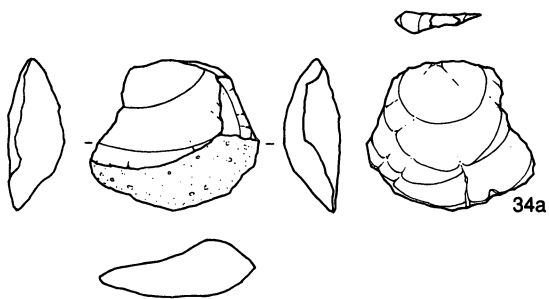
安山岩22



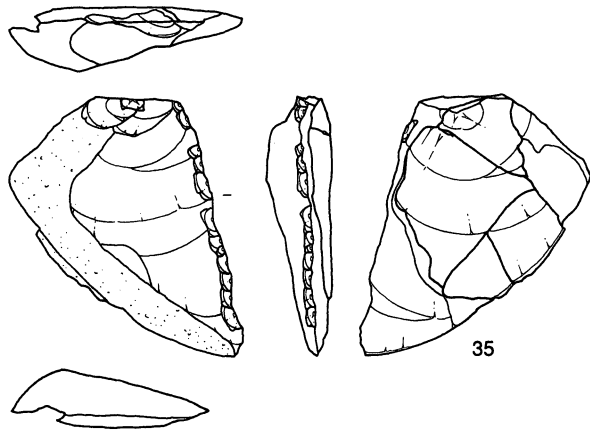
安山岩23



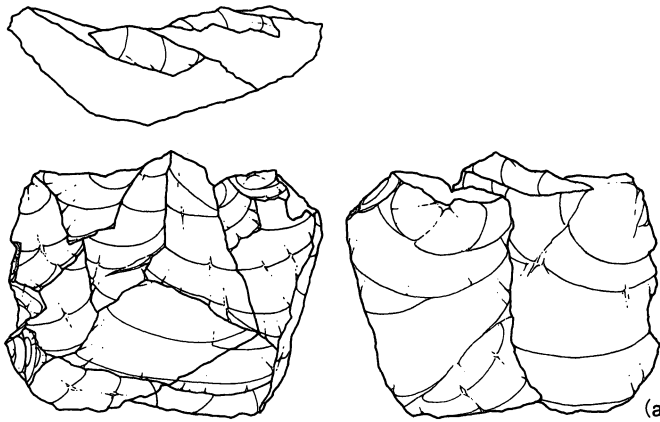
安山岩25



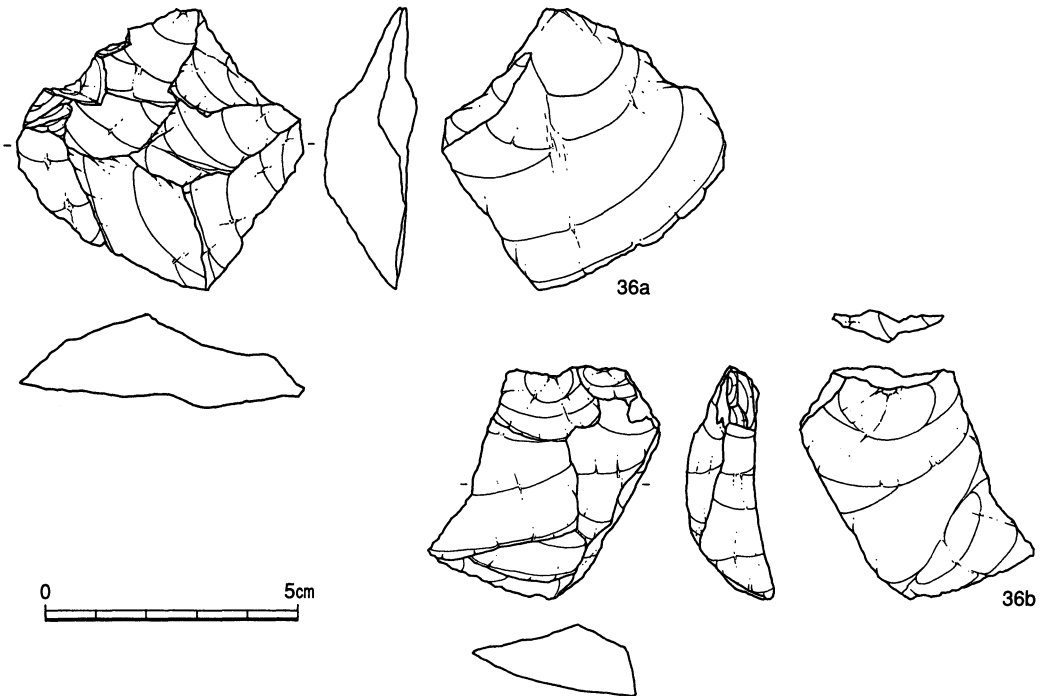
第27图 第1地点出土石器(5)



安山岩28



安山岩31

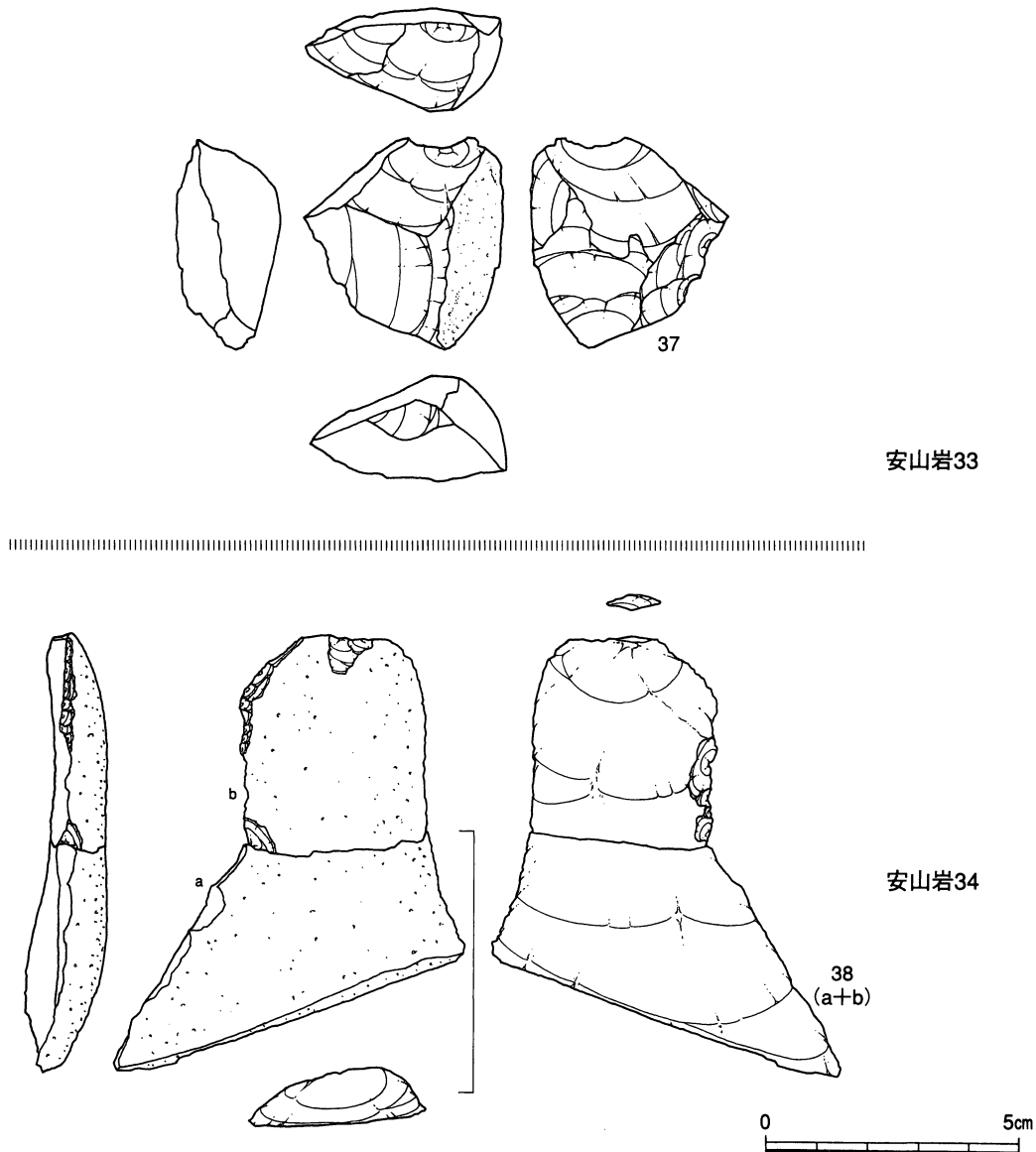


第28图 第1地点出土石器(6)

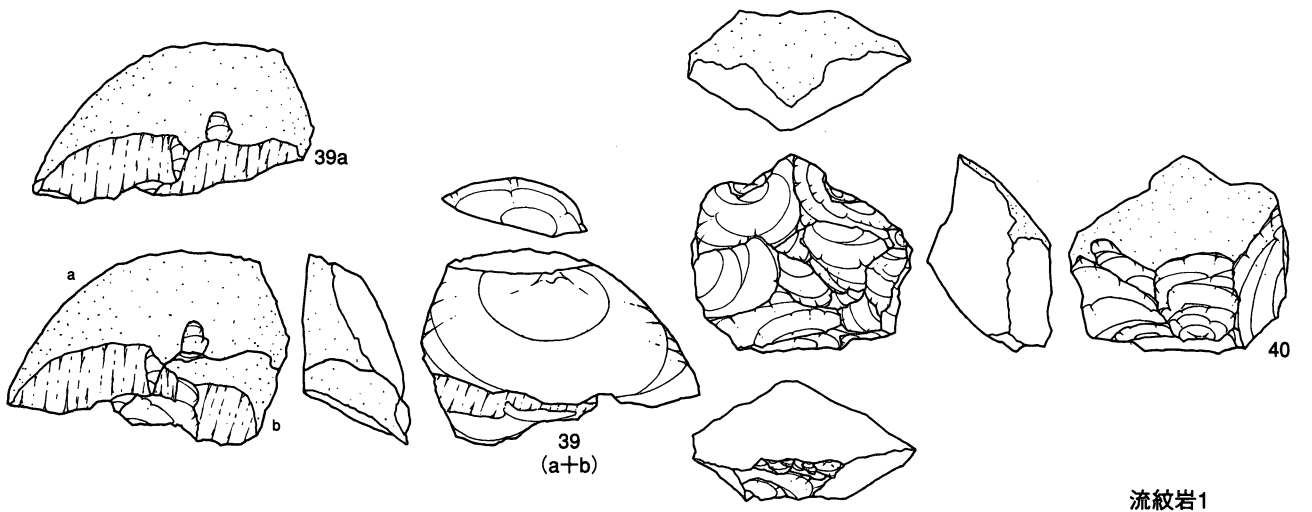
型剥片では成品に加工されている場合も多く（8・25・38），これらから原石の大きさを推定すると，子供の頭部大程度の大きな原石となろう。

石核（9・29・34・37）9は母岩別資料2（第24図）として分類したものであり，類似資料は多数出土しているが接合関係にはない。自然面での平坦な部分を打面としており，打面調整を施しつつ剥離している。29は母岩別資料19（第26図）とした資料でかなり大きな原石を母岩としており，打面には大きな調整痕が認められる。34は母岩別資料25（第27図）としたもので，打面調整剥片が接合した。接合状況から残核として廃棄されたものと推測できる。自然面を多く残しているが原石の大きさについては即断できない。37は母岩別資料33（第29図）とした資料であり，残核となり廃棄されたものであろうが3方向からの剥離が確認できる。

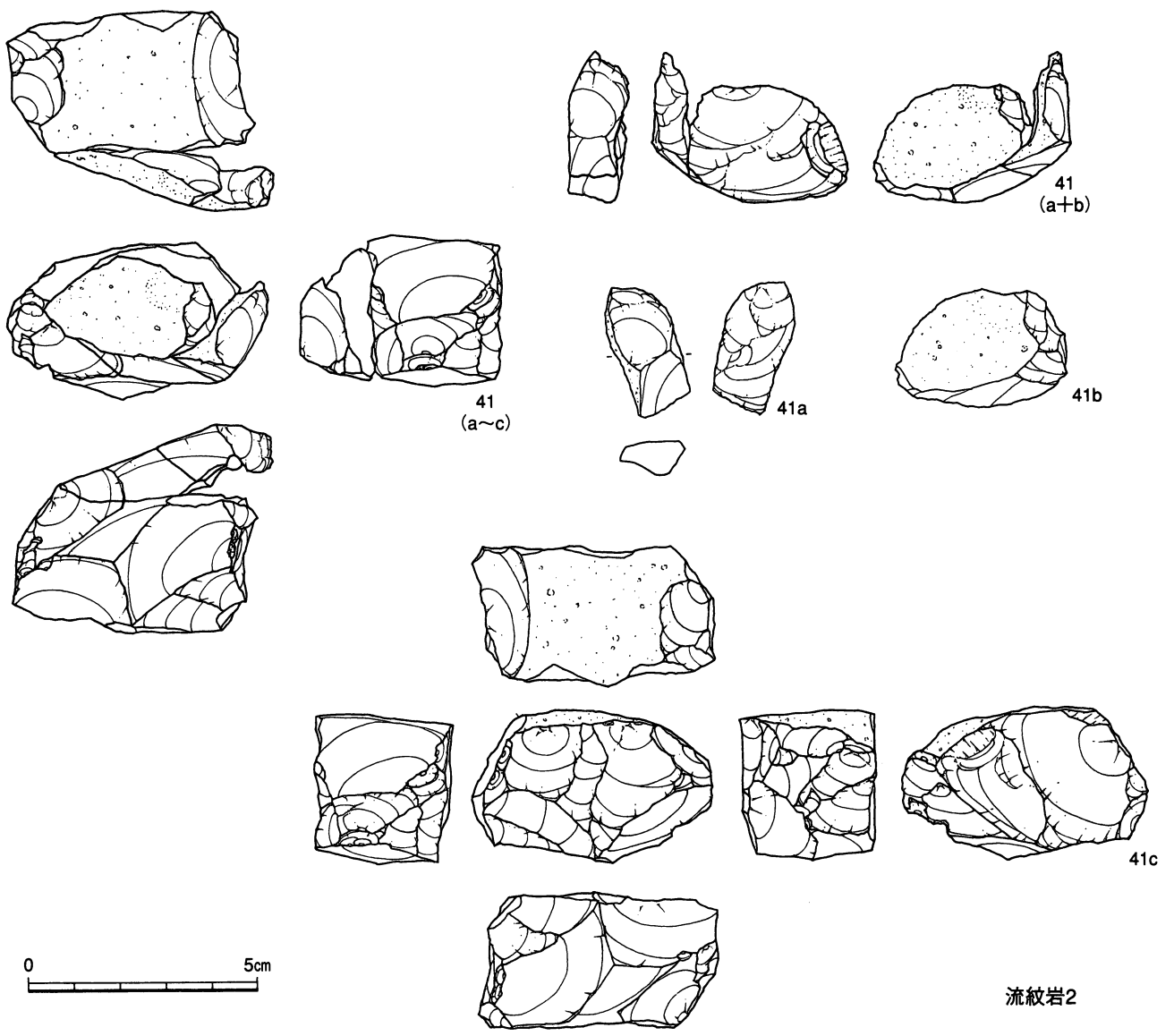
流紋岩（第30・31図）流紋岩の出土数は少なく，母岩別資料数も4資料を数えるにすぎない。主要石材



第29図 第1地点出土石器（7）



流紋岩1



流紋岩2

第30図 第1地点出土石器(8)

の補完をなしていたものであろう。成品としては欠損した敲石が1点出土したのみで、他の器種についての詳細は語れない。

接合資料 出土資料のほとんどは石核に接合している。39・40は接合はしていないが、表面の著しい風化と剥離面での色調の共通性から明らかに同一原石から剥離されているものであった。

石核 (40・41) 40は平坦な自然面を直接打面としつつも、調整剥離も認められる。39の剥片を考慮すれば原石は拳大くらいの大きさはあったものと思われた。41も自然面を残している。遺存状況からみると、原石での平坦面を打面とし、次いで剥離面を打面へと移行しつつ順次剥離作業を繰り返している。

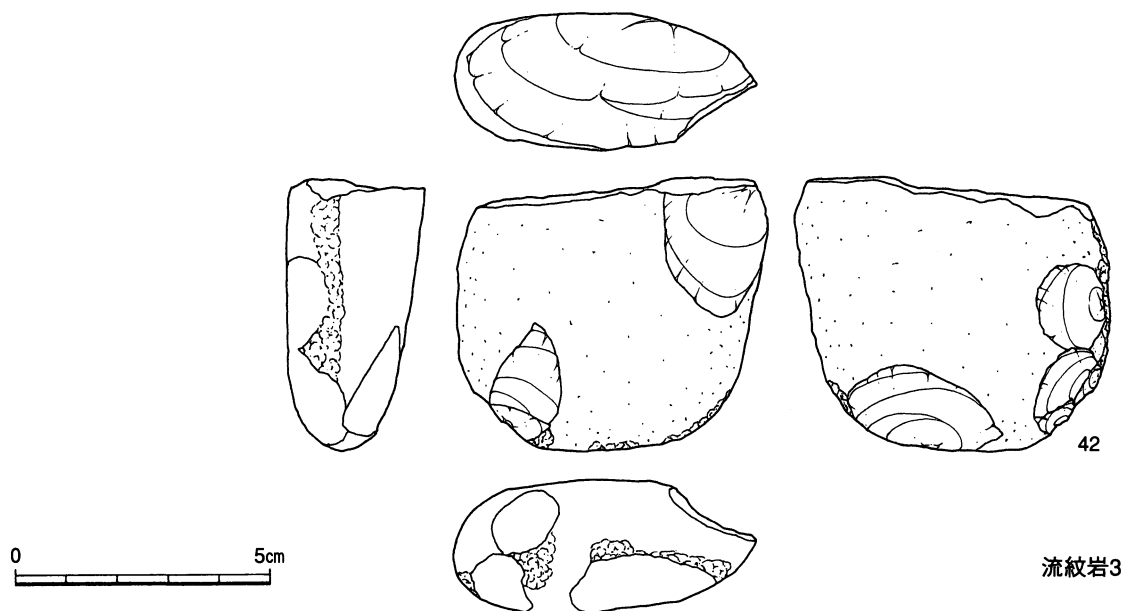
黒曜石 (第32図) 黒曜石の出土量は概して少なく、外見上は近似するため母岩分類については困難な状況を伴うことが多い。ここでは内包する不純物や色調により4分類としたが、黒曜石1・2としたものは黒色味が強く不純物を含み、2での不純物は剥離面に顕著にあらわれている。3としたタイプは不純物は少なく、1との区分は難しい資料であった。4としたものは成品として後述するが、半透明の良質なものであり唯一の出土となっている。接合資料・石核については、特にここでは触れないが質的には劣り、素材にできるような剥片も少ない。

砂岩 (第33・34図) 出土数は多いとはいえず、母岩別資料数も8資料を数えるにとどまる。砂岩も主要石材の補完をなしていたものと考えてよいであろう。ただ敲石2点が存在するため、打具としての役割は担っていたことであろう。

接合資料 石核との接合は認められなかったが、剥片間の接合 (54・56・57) が確認できた (母岩別資料1)。これらの資料から推測すると、原石は極めて大きなものとなる。

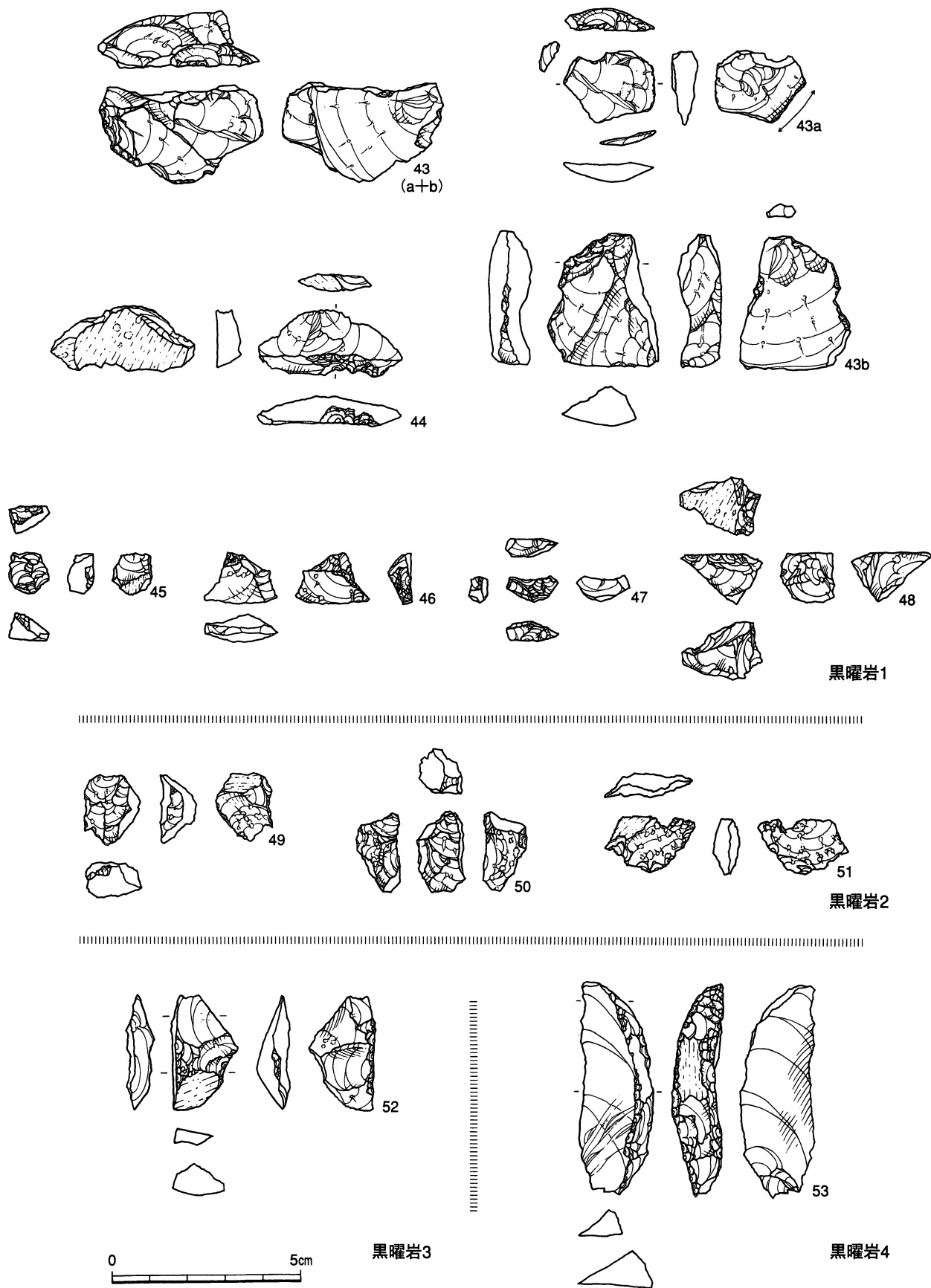
石核 (59) 図示したように剥離した平坦面を次々に打面として剥離行為を繰り返しており、その結果の残核といえよう。一部に自然面を残すが、本資料も大きな原石であったことは間違いあるまい。

頁岩 (第35～40図) 安山岩に次ぐ出土量を示す頁岩では母岩別資料数も22資料を数える。だが主要成品

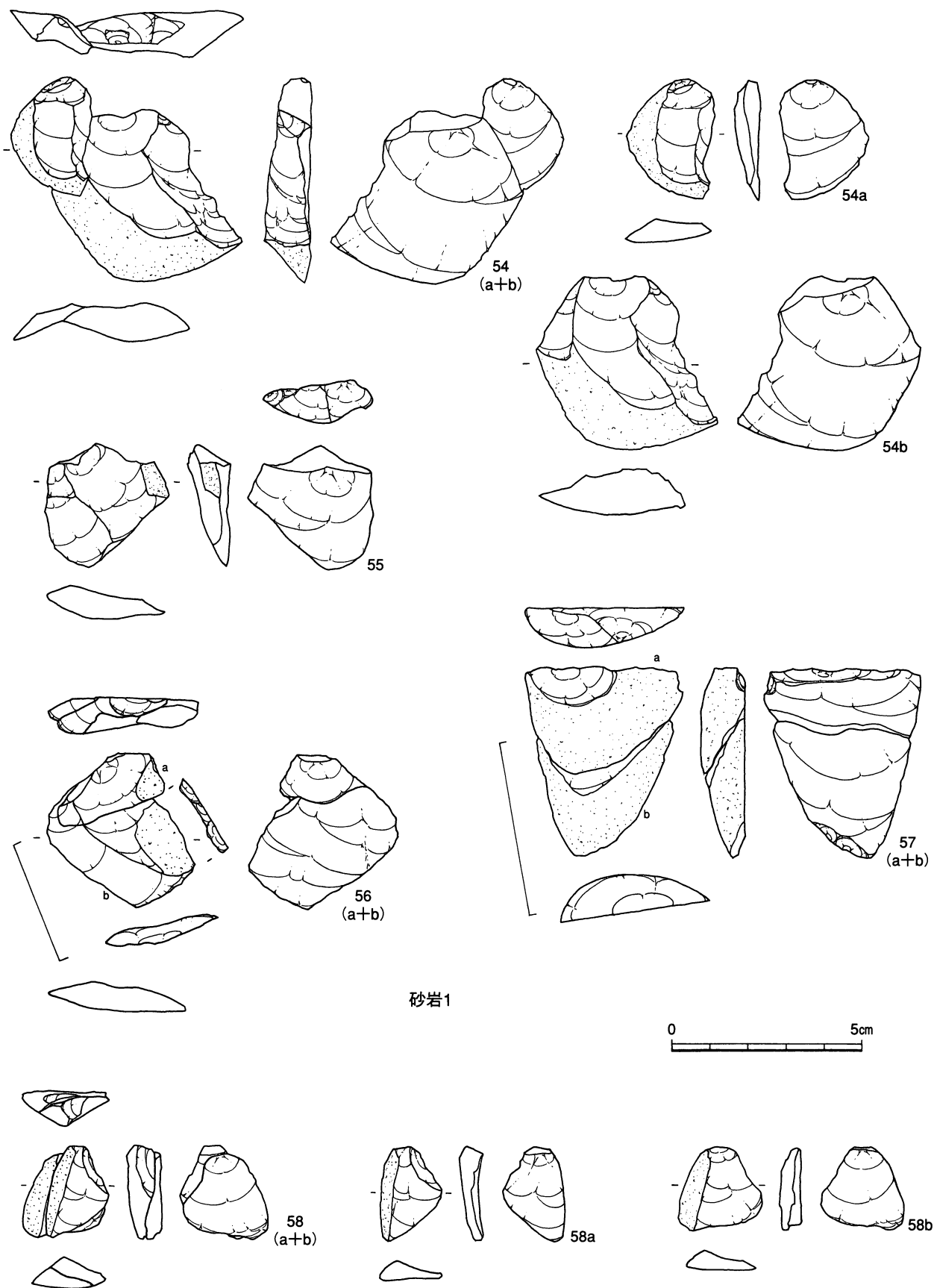


第31図 第1地点出土石器 (9)

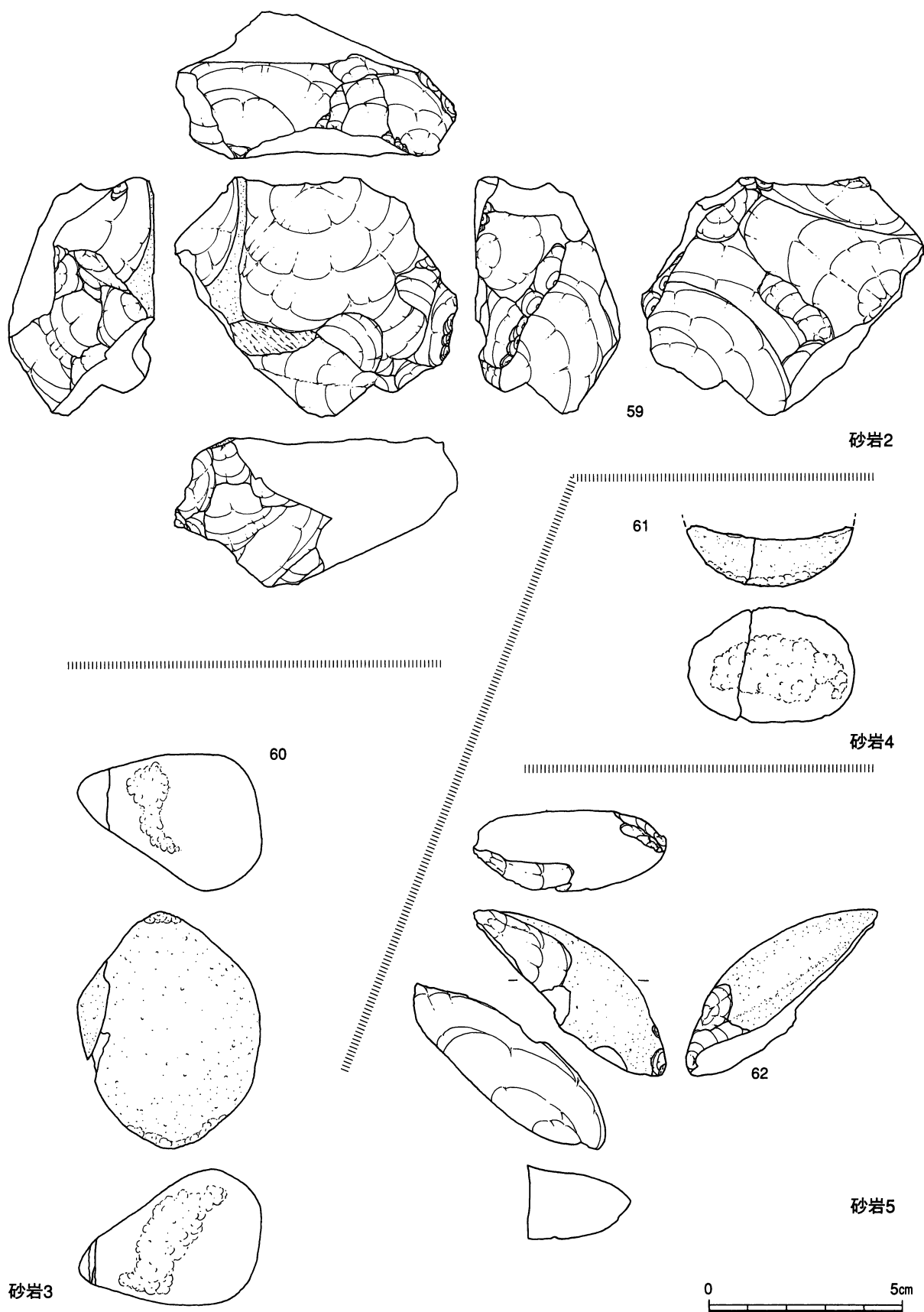




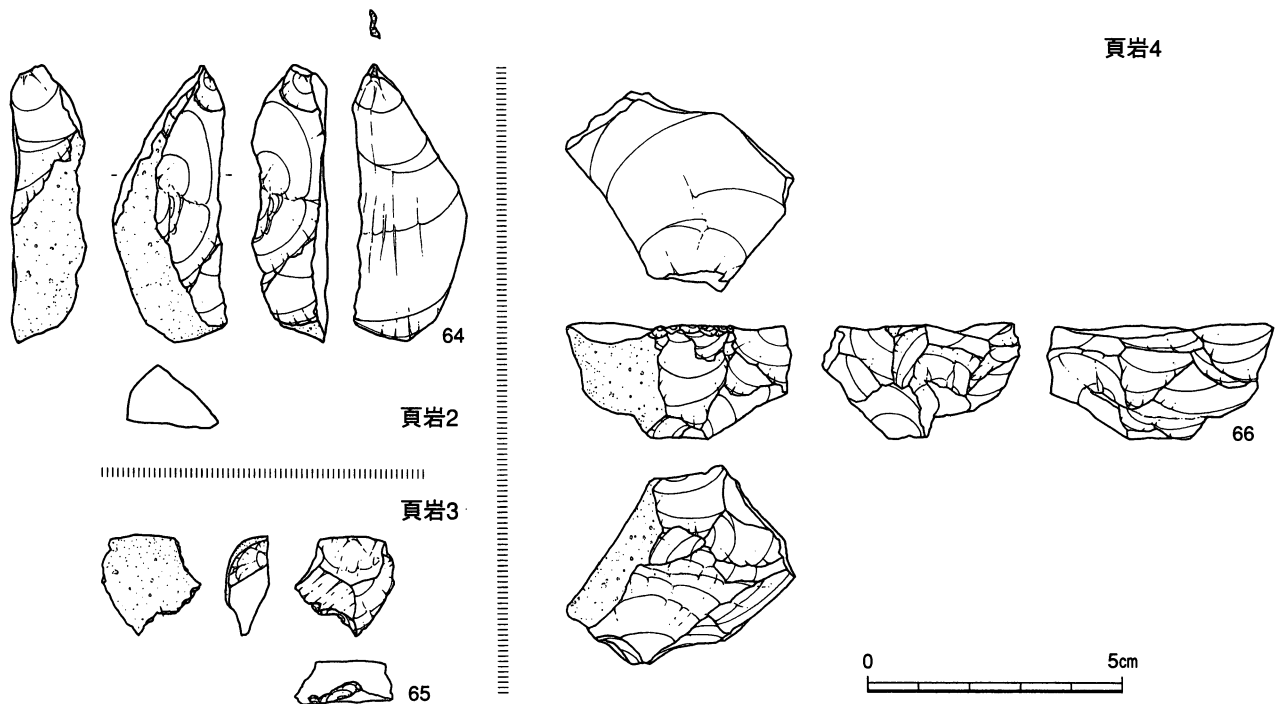
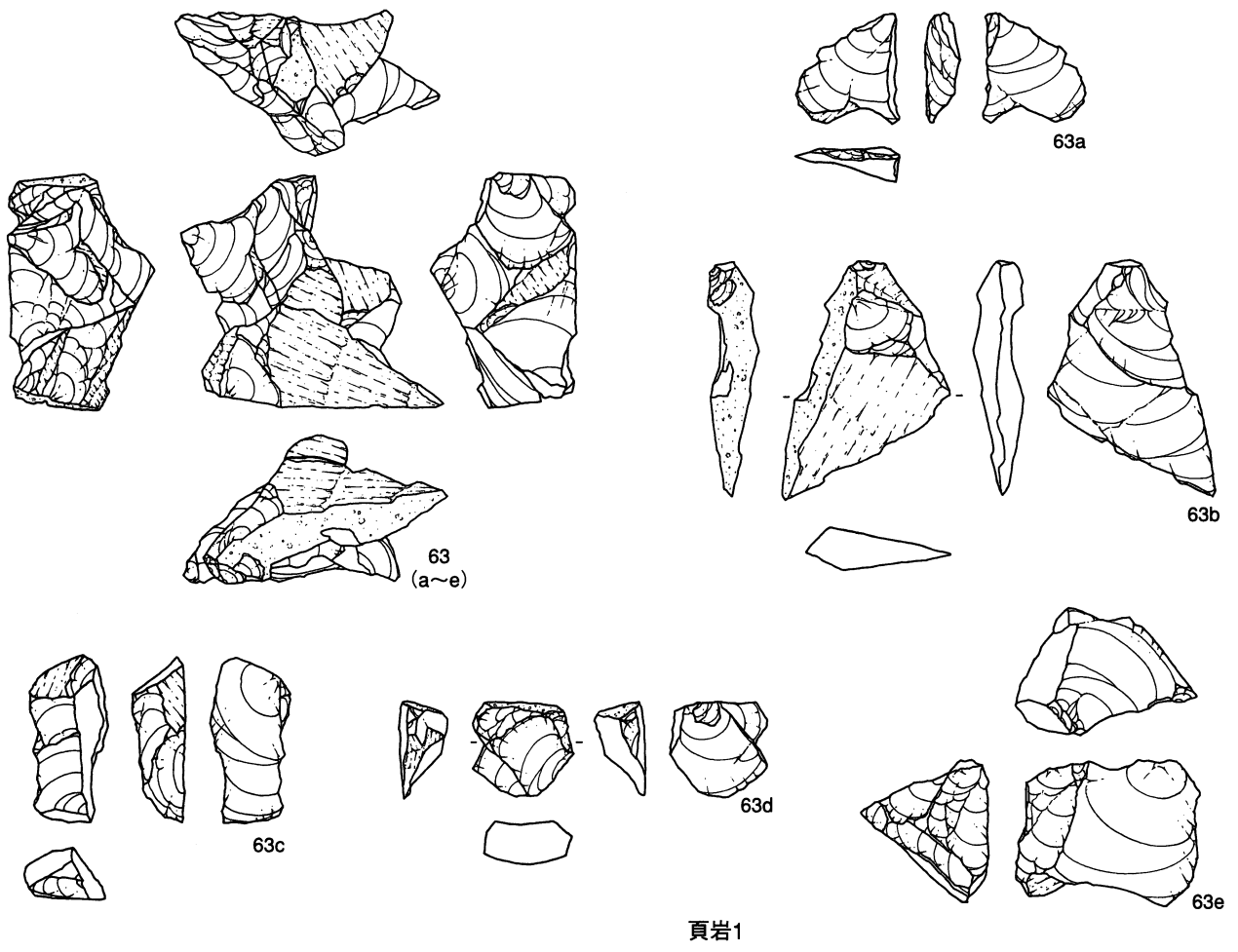
第32図 第1地点出土石器 (10)



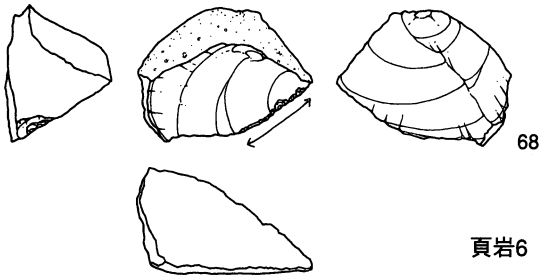
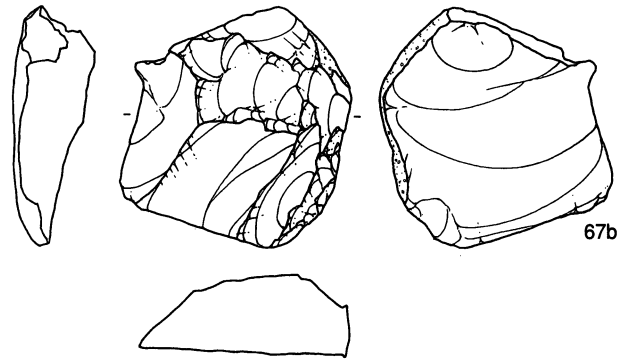
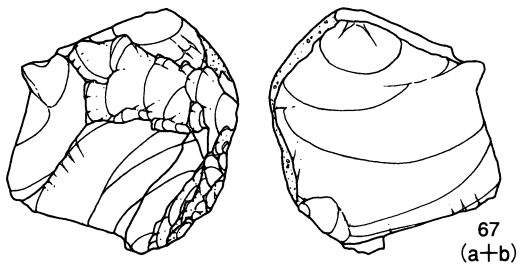
第33图 第1地点出土石器 (11)



第34图 第1地点出土石器 (12)



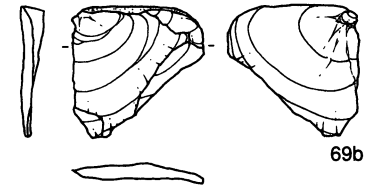
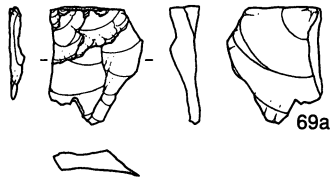
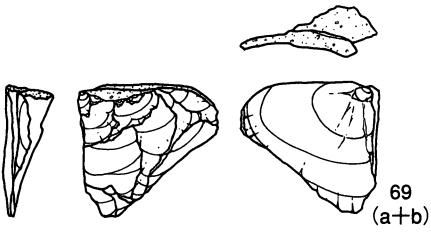
第35図 第1地点出土石器 (13)



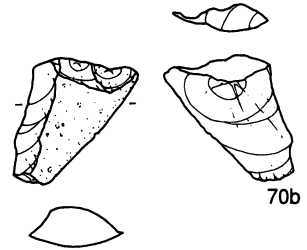
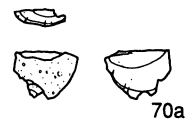
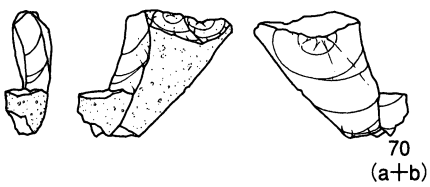
頁岩6

頁岩5

頁岩7

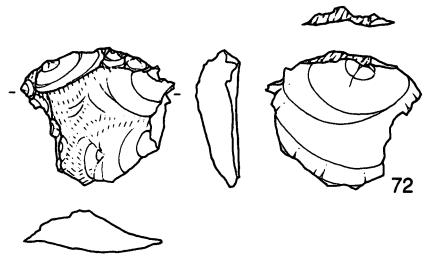
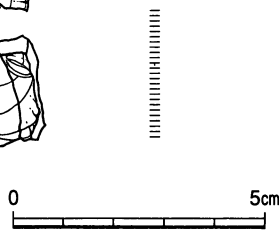
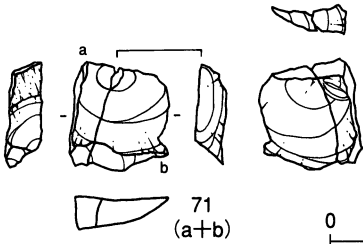


頁岩8



頁岩12

頁岩18

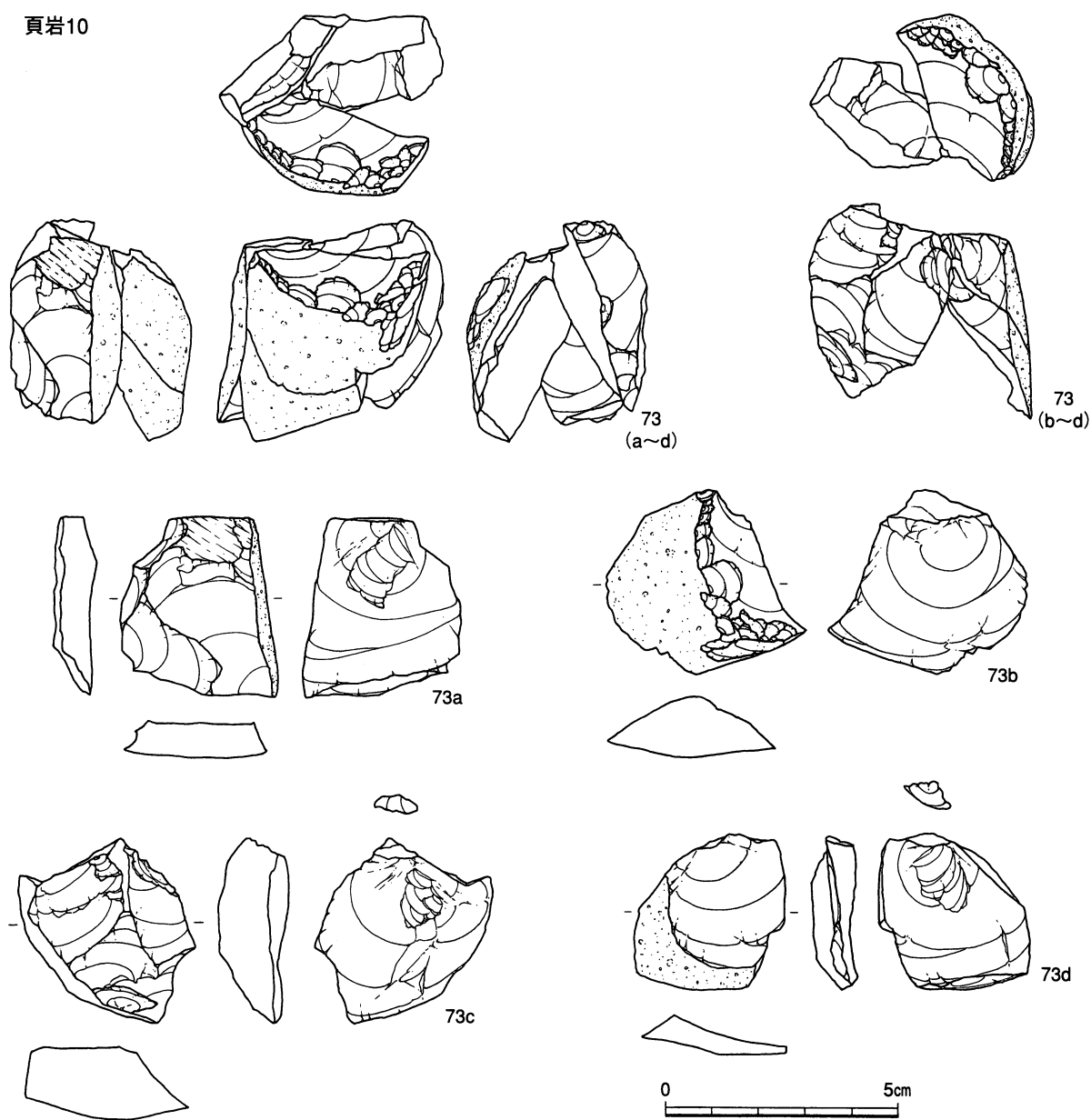


第36図 第1地点出土石器 (14)

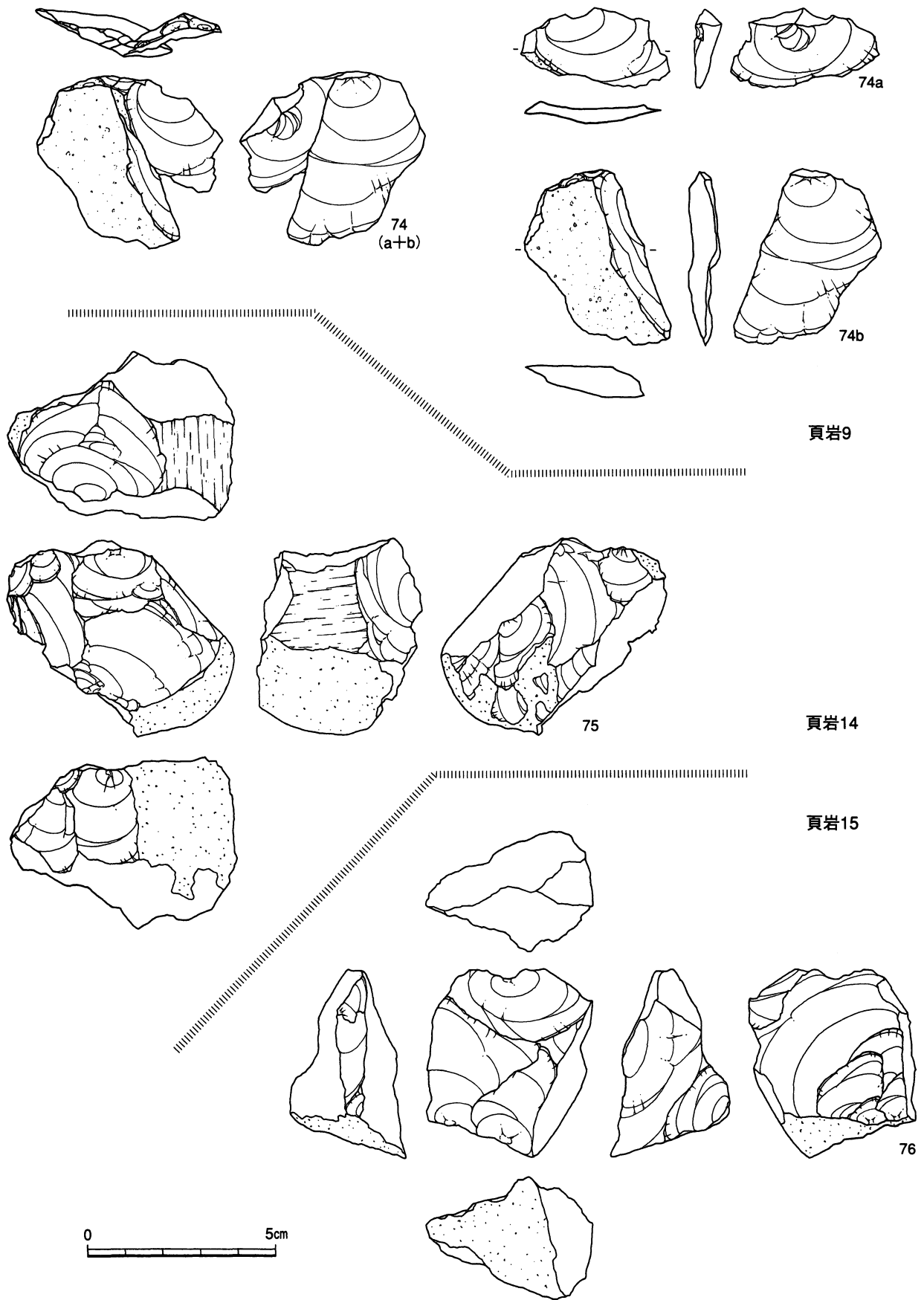
は検出されておらず、加工剥片等が若干みられる程度であった。剥離された剥片の形状を観察すると、ここでは石器製作の素材としては十分な大きさを有している。なかでも第39図-77をみると製作途上か成品に近いものとして扱うことができよう。

接合資料 ここでも数点の接合関係を確認できた資料が2点(63・73)ある。63は5点が接合した例であり、最後に残った63eは残核といえなくもない。他に小剥片が5点検出されているが接合することはなかった。63bと63dには一部自然面が残されており、比較的大きな原石を用いている。だが得られた剥片は良好とは言い難い。73は4点の剥片が接合しており、73bと73dは表皮部分にあたる。これらを見ると形状の整った剥片が得られているように思われる。ここでも剥離した平坦面を打面として、次々に剥片剥離をおこなっている。

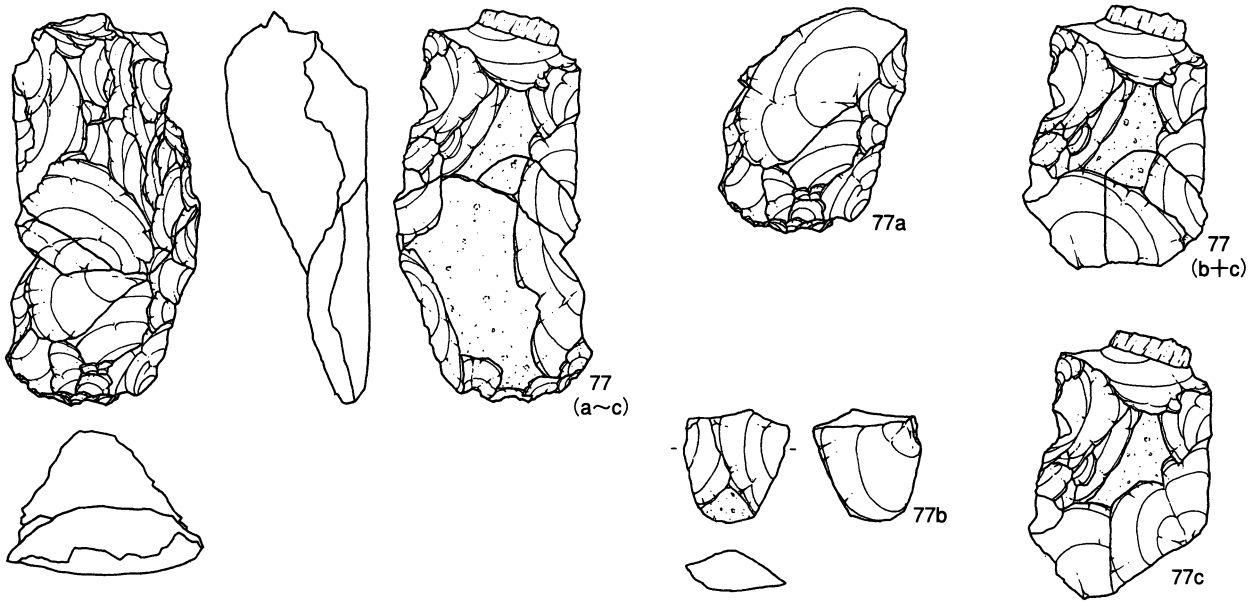
頁岩10



第37図 第1地点出土石器(15)



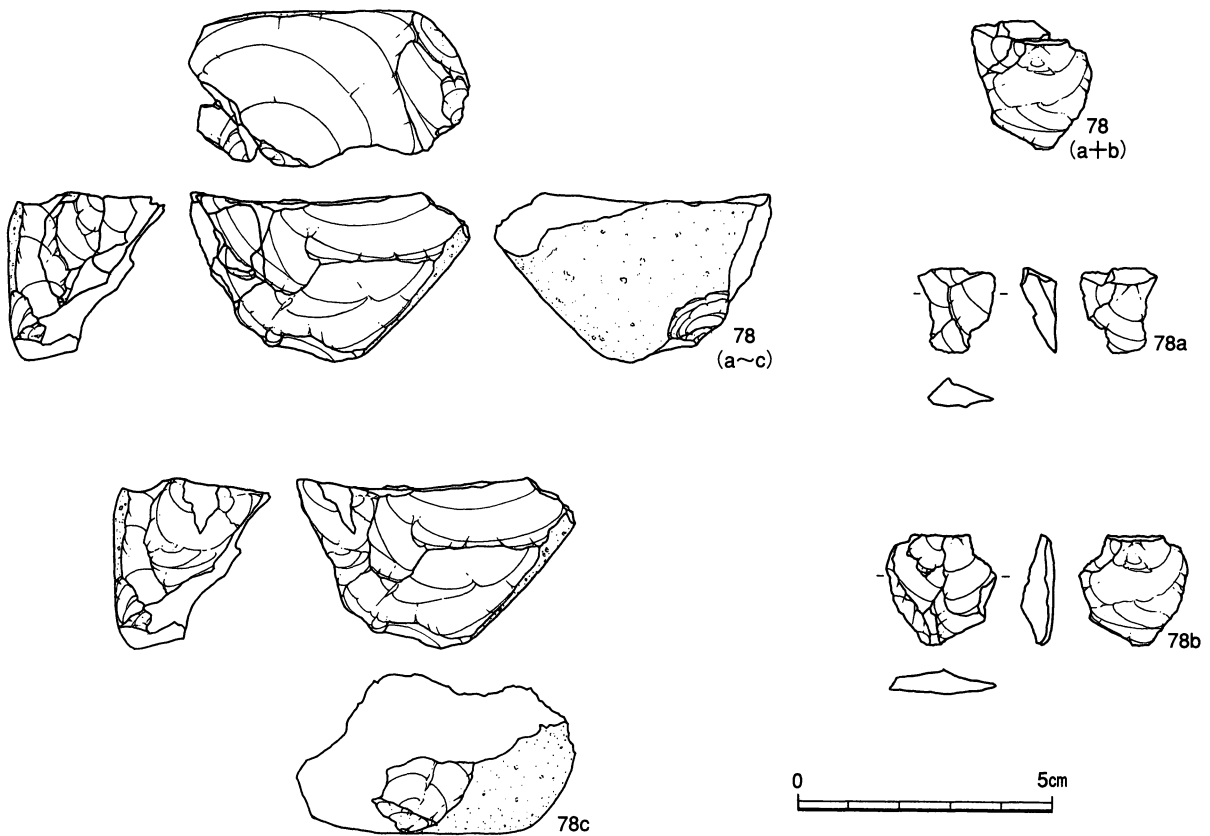
第38图 第1地点出土石器 (16)



頁岩21

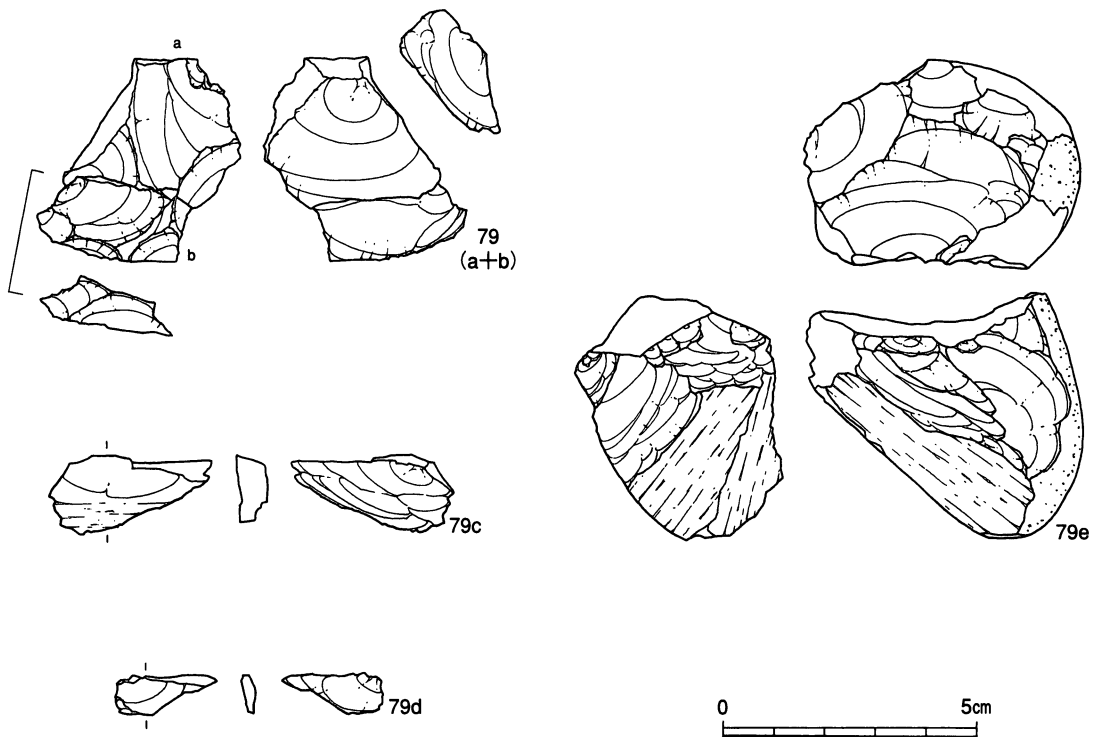
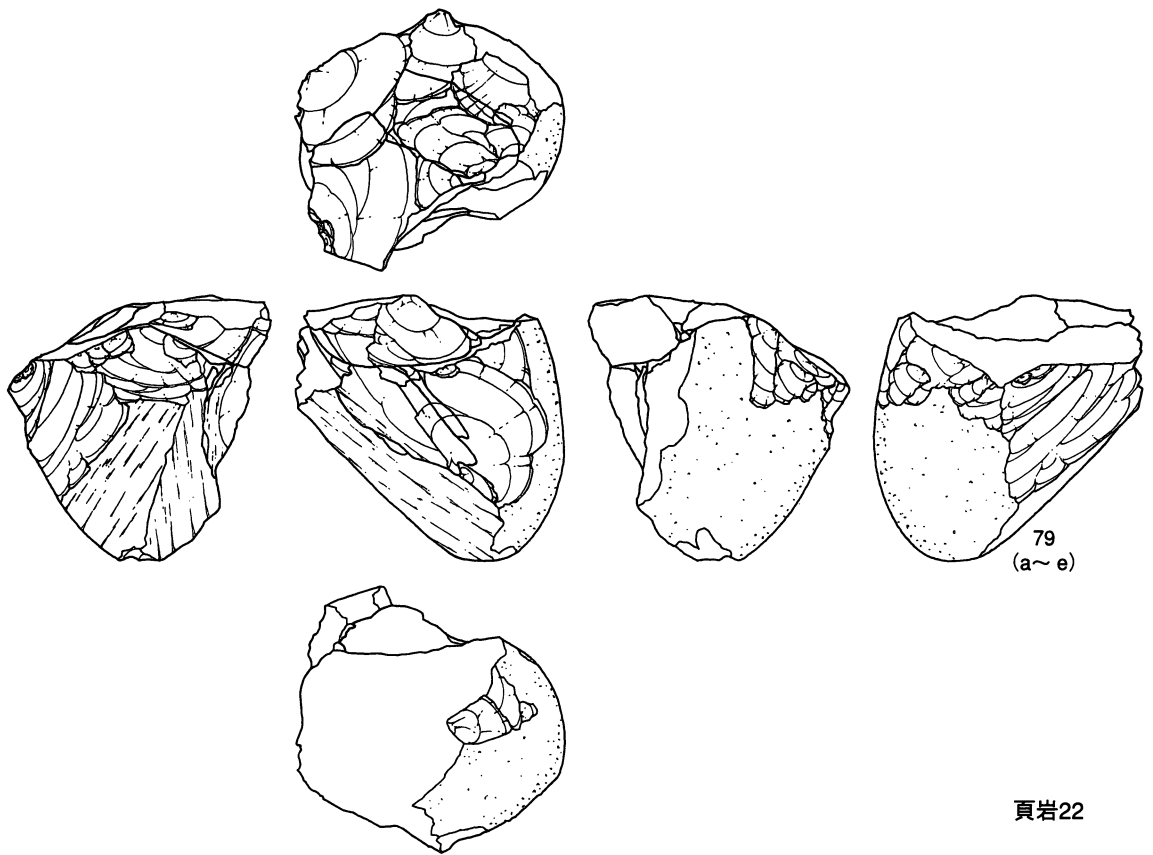


頁岩22

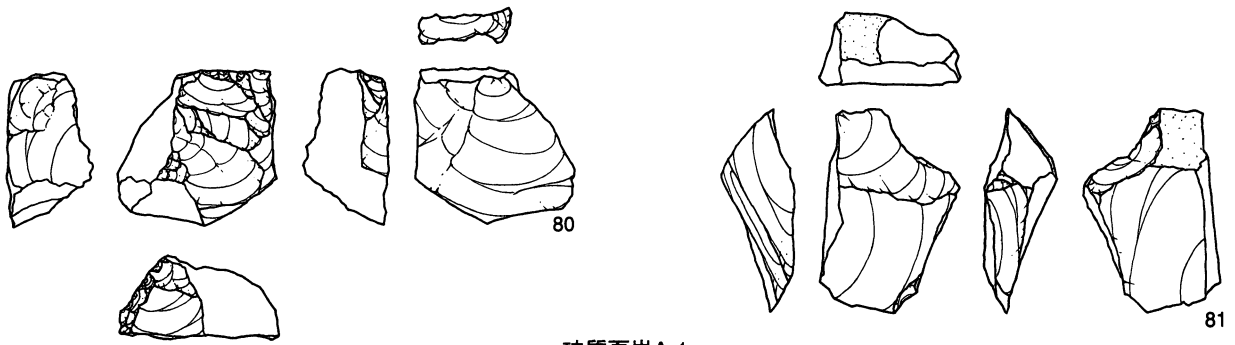


第39図 第1地点出土石器 (17)

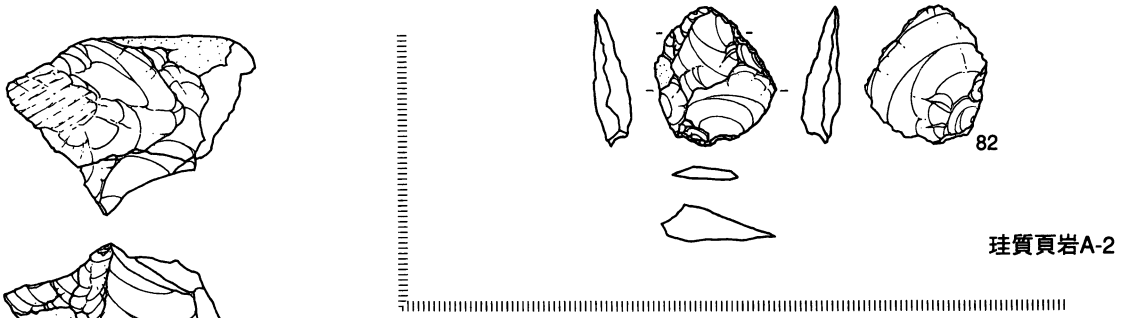




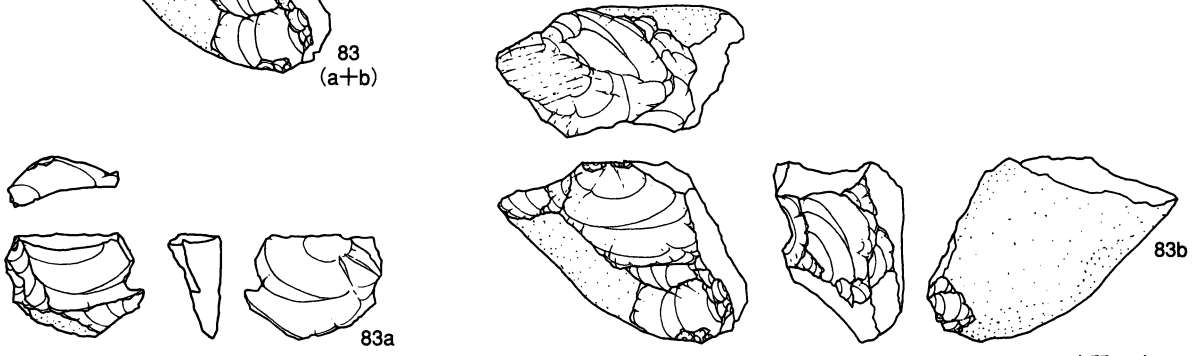
第40图 第1地点出土石器 (18)



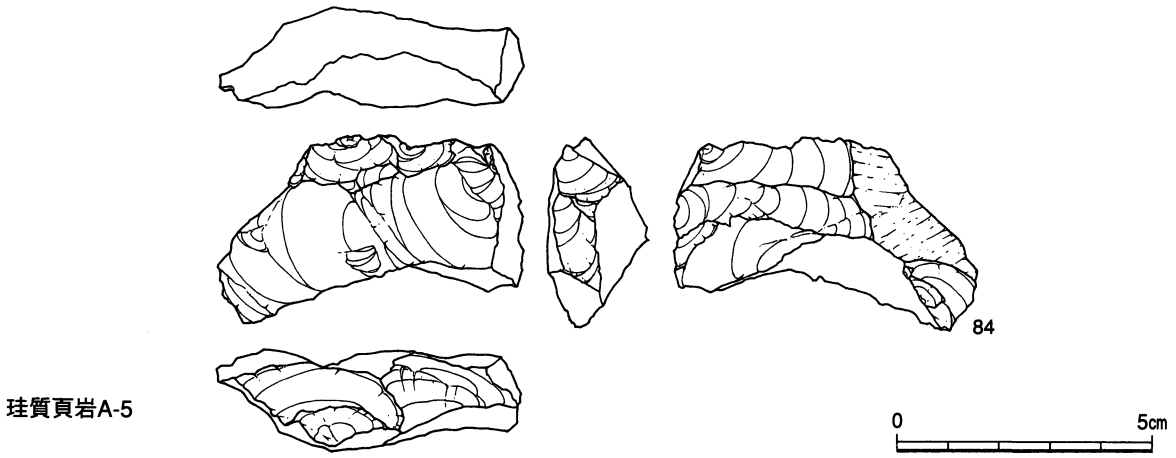
珪質頁岩A-1



珪質頁岩A-2



珪質頁岩A-4



珪質頁岩A-5

第41図 第1地点出土石器 (19)

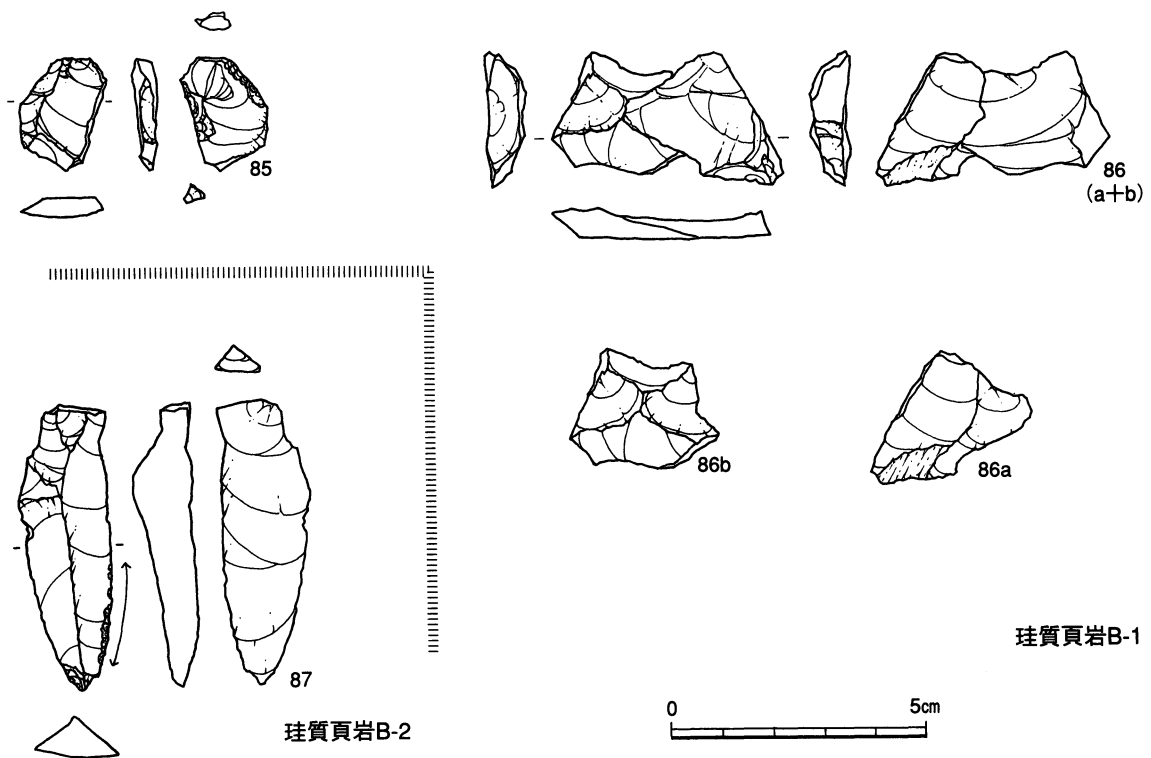
石核 (66・75・76・78・79) 石核の名残をとどめるものとして5点の資料をあげることができる。66は大きく剥離した面を打面とし、一部に自然面を残しながらも周辺からの剥片剥離が認められる。本資料から剥離されたと思われる小剥片が3点確認できた。また遺存資料の観察から剥離は総じて小さく、見方を変えると搔器とも解釈できる。75は自然面を多く残しており、原石は拳大ほどであったと思われる。遺存する剥離面の観察から、良好な剥片は数枚程度しか得られなかったものと考えられた。76も平坦な自然面が一部に残る。剥離方向も変則的である。78・79は、ともに黒色を呈しており同一の原石から分離された可能性が強い。分割の結果できた平坦面を打面としているため、79 (a+b) はむしろ打面調整剥片となろう。残された剥離面をみると、石器素材にできるような剥片は十分剥取できたものと考えられる。さらに77とした接合資料も類似した色調であり、これらが同一の母岩となれば原石はかなり大きな礫であったものと推測できる。

珪質頁岩 (第41～42図) 珪質頁岩は加工し易く一般的には多くみられる石材であるが、ここでの出土量は少ない。成品も存在せず、加工剥片として分類した3点 (82・85・87) は使用されたものである。

接合資料 83・86と接合したものはあるが、母岩の一部にとどまる。出土総数は20点を超えるものの表面・剥離面の色調が近似するため同一母岩と判断することは困難な場合が多い。

石核 (83) 83は残核となろう。黒色を呈しており、前述した頁岩例とは異なり光沢を帯びる。本例も平坦な自然面を打面として剥片剥取をしている。自然面が多く残されているところから、原石は小さなものであったろう。

ホルンフェルス (第43～46図) この種の石材も普遍的にみられ、本地点でも多用されている。成品としては石斧・スクレイパー類に加工される。図示した石器類にもみられるところである。母岩別では肉眼に



第42図 第1地点出土石器 (20)

より13資料に分類してみたが、表皮・剥離面等の色調が近似するため確実性に欠けることは否定できない。

**接合資料** 数点の接合関係は確認できたが、代表的な資料は95となろう。表皮部分の剥片5点が接合したもので、石器素材としても十分な剥片が得られている。平坦な自然面が多く残るところから母岩となった原石はかなりの大型であったことが推測できる。

**石核** (92・94・98・100) 形状をとどめる資料として4点の残核が存在する。92は礫を分割した一部で小剥片が数枚剥離されている。94では小剥片が1点接合した。本資料の打面は理解し易く、2～3回の調整痕がみられる。なお、93は色調・表皮の粒子構成から同一母岩と考えたが、同一となればかなり大きな礫と見做される。98の剥離した面を観察すると凹凸がみられ、石器素材にできるような剥片が得られないため放棄されたものと考えたい。残された形状からは十分剥離は可能と思われた。100は、6点が接合した例であり、節理面に沿って剥離した後に打面として利用している。楔形石器とした99も同一母岩と考えられたが接合までには至っていない。

**チャート** (第47～48図) チャートの出土は僅かな量であった。総数で12点を数えるにとどまった。しかし、これらの資料はほとんど異なる母岩からなっており、肉眼でも8点の資料に分類が可能であった。

**接合資料** 102が接合した唯一の資料である。102bからは102aを含めて4枚以上の剥片が剥離されており、残核ともいえよう。103も内容的には102bに近い。このような石核が存在するにも拘わらず、剥片・碎片がほとんど存在しないということは何らかの形で使用されていたものかもしれない。

**石核** (101) ここでは剥片剥離が認められるため石核として取り扱った。後述するように台石と分類したが、剥片剥取用として搬入してきたことは確実であろう。平坦面を打面として何点かの剥片を剥離してみたものの石器素材となり得る剥片を剥取できなかったため台石または敲石に転用したものである。

**石英** (第49図) F地点を中心に計39点が検出されたもので、表皮の色調から2資料に分類できた。そのうちの1資料では20点の接合(第47図上段)が確認できた。形状から原石の大きさは拳大よりも若干大きなものであったと推測できる。石器として使用されたと考えられる剥片は認められなかった。いずれにせよ素材にできるような良好な剥片を剥取することは難しい石材であることは間違いない。

**石器群** これまで述べてきたように、第1地点では出土遺物総数が600点を超える遺物で環状石器群を構成していたにもかかわらず成品の数量は少なく、石器製作跡を想起させるような内容構成となっていた。敲石などがその好例となろう。ここでは直接生産具であるナイフ形石器は1点で、他に形の整わない台形石器が5点みられた。その他の石器としては削器・楔形石器・加工剥片等がある。ここでの加工剥片は、おそらく削器に近い形で使用されたものと思われるが、簡単な剥離を施すだけとなっている。調整痕のみが施された剥片も若干存在する。他に、礫石器としては局部磨製石斧や敲石・台石等も検出されているが、図示した内容をもみても豊富とは言い難い。次に石器についても個別に説明を加えておきたい。

**局部磨製石斧** (88) 比較的小型でホルンフェルス製である。頭部周辺が特に分厚く作られている。表面は素材を剥離した後、若干研磨しており滑らかな部分を残す。その後に周囲を大きく剥離し形状を整えたようである。裏面の製作工程も同様であるが、平坦な自然面を丁寧に研磨している。刃部は大きく欠損しているが、その両脇には薄く鑿状の鋭い刃部が遺存している。

**ナイフ形石器** (53) 良質の大きな剥片を素材とし、第1地点で唯一出土したナイフ形石器で基部・背面は粗雑な剥離で、簡単に仕上げている。素材には半透明の良質な黒曜石を採用しているが、周辺出土の黒

曜石では気泡・小石を含む質的に劣る黒曜石が多く出土している。

台形石器 (6b・26・27・52・82) ここでは台形石器とそれに近いタイプの石器を含めて5点が出土した。6bは同一グリッドから出土した剥片と接合した資料(第23図6)である。自然面を残し、右側縁に数回の大きな剥離を施し成品としている。石材には安山岩を使用している。26も安山岩で、前者同様簡単な作りである。この器種に含めたが、加工は裏面の左側にのみ小さく施され、先端部の一部が欠損する。27も安山岩製で、形状的にも台形に近いといえよう。刃部も鋭いエッジを利用し、整った台形石器となっている。側面の加工は左側だけである。52は粗雑な作りでここに含めることは疑問も残る。表面に左右から整形のための剥離が加えられているだけである。基部には自然面を残す。素材は黒曜石で中には不純物を含む。82は珪質頁岩製で、主剥離面にも整形のための剥離が若干認められる。台形とは言い難いが、ここに含めた。

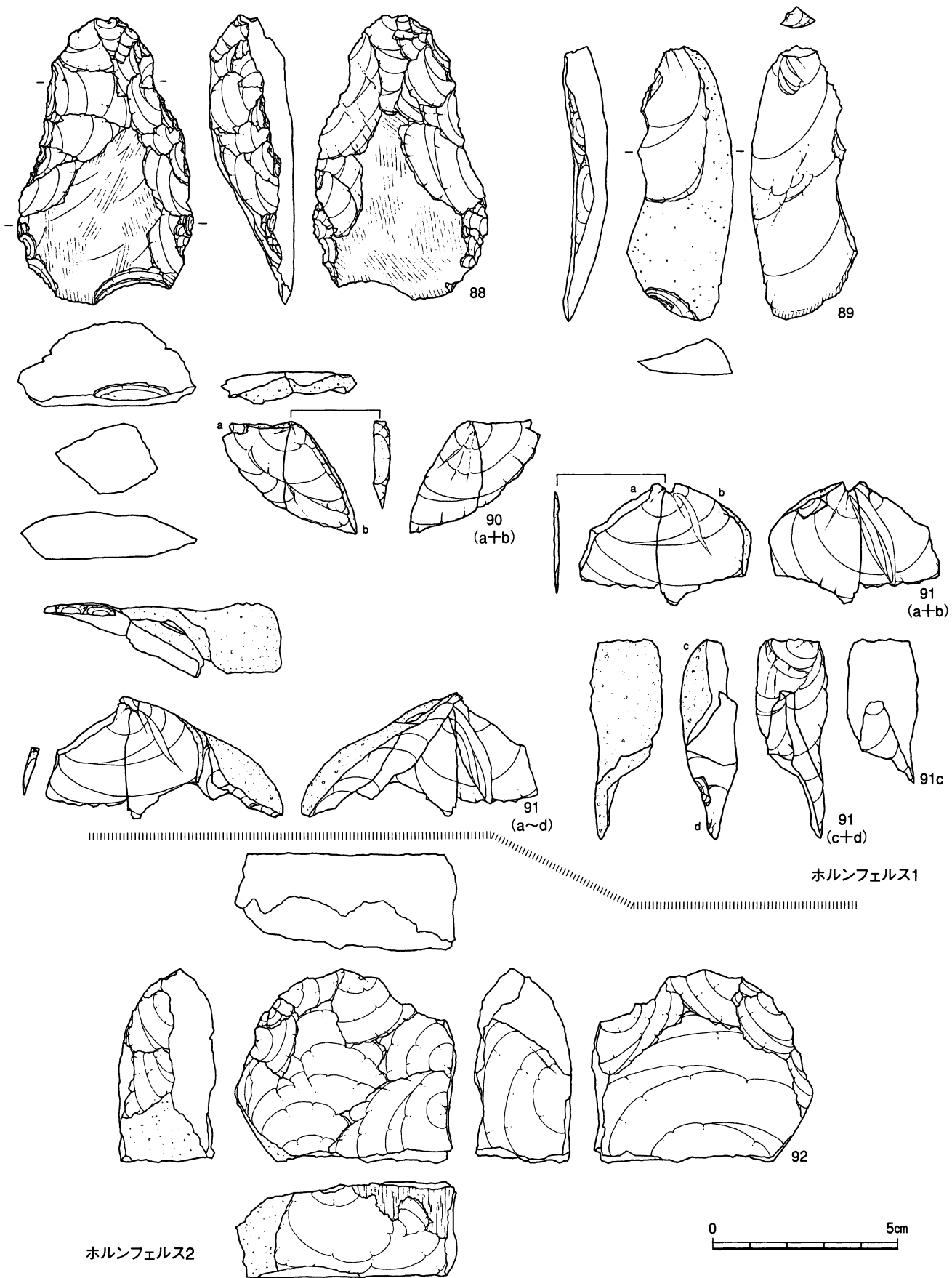
削器(8) 安山岩製の大型剥片を切断し、大きく粗い剥離で整形して刃部を作出している。裏面での剥離は3~4回程度と少ない。

楔形石器(99) 上部では両面から粗雑な剥離が施されており楔とした。石材はホルンフェルスである。加工剥片(7a・7b・16・38b・43b・44~47・51・65・85・89) 合計13点の出土をみた。7a・7bは同一のグリッドから出土した安山岩の剥片で接合したものである。16も安山岩の剥片が接合した例であり、表面左上に調整痕が施されている。38は剥離痕から推察すると、折断後に左側縁を剥離し削器のように使用したものであろう。表面には自然面を多く残している。下部の剥片bでは加工痕を認めることはできない。43b・44~47はいずれも不純物混入の黒曜石で、43b・44は大きめの剥片で調整痕も明確である。その他3点は、碎片の部類に入るような剥片で微細な調整痕が付けられただけである。51も前者同様の剥片となる。65は頁岩製の小さな剥片であり、下端部に2~3回の剥離が加えられている。表面は自然面のままである。85珪質頁岩製の薄い剥片で、主剥離面の両側縁に調整痕が認められる。89はホルンフェルス製で、下端と左側縁に整形のための剥離が施されている。石器製作には十分な形状を呈しており、使用されていたことは間違いあるまい。

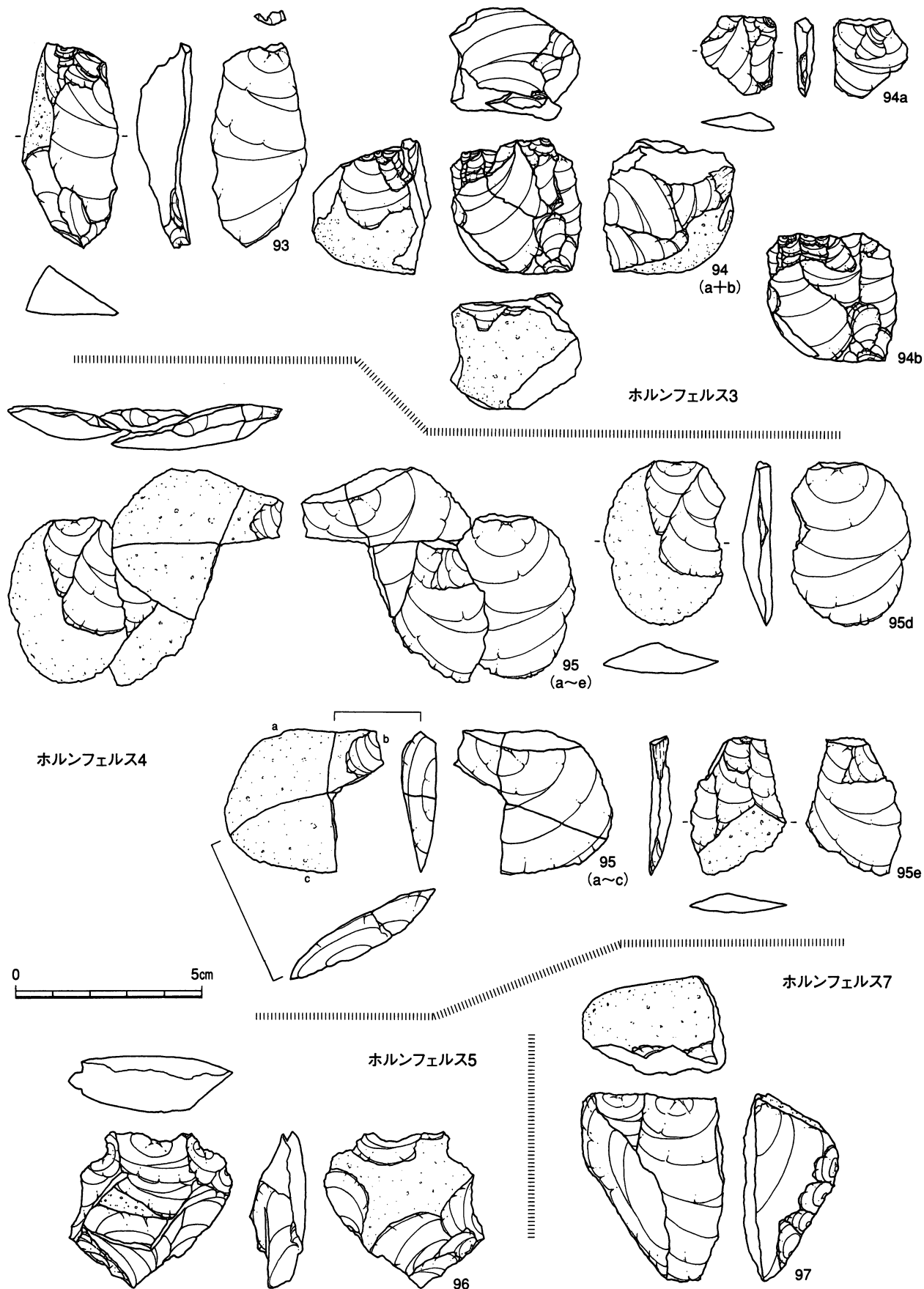
その他(35・68・87・93) 加工剥片の類には含めなかったが、使用痕あるいは微調整を施している剥片も若干存在する。35は安山岩製で3点の剥片が接合した例である。右側縁に小さな剥離痕が認められるところからスクレイパーのような使用法が考えられる。68は頁岩製で下部に刃こぼれ痕が認められる。87は珪質頁岩製で縦長の良好な剥片である。表面下半部に微調整が加えられ、下端部では鋭利な先端を作出する。明らかに石器として用いられていたものであろう。93も下端部に小さな剥離痕が認められる。斜め方向からの加撃であり、彫器の可能性も否定できない。

敲石(42・60・61) 敲石と考えられるものが3点出土した。いずれも著しい打痕を残す。42は流紋岩の欠損品で器面には大きな剥離痕が認められる。使用の際にできたものなのか、意識的な剥離かどうかは明確ではない。60は同一グリッドから出土した接合資料で、ほぼ完形品といえる。両端と接合部に顕著な打痕を残す。61も砂岩製の接合品であり、隣接する18T-29Gと19T-40Gから出土している。遺存部からはそれほど大きな礫ではなく拳大程度のものであろう。下端の使用痕は著しい。

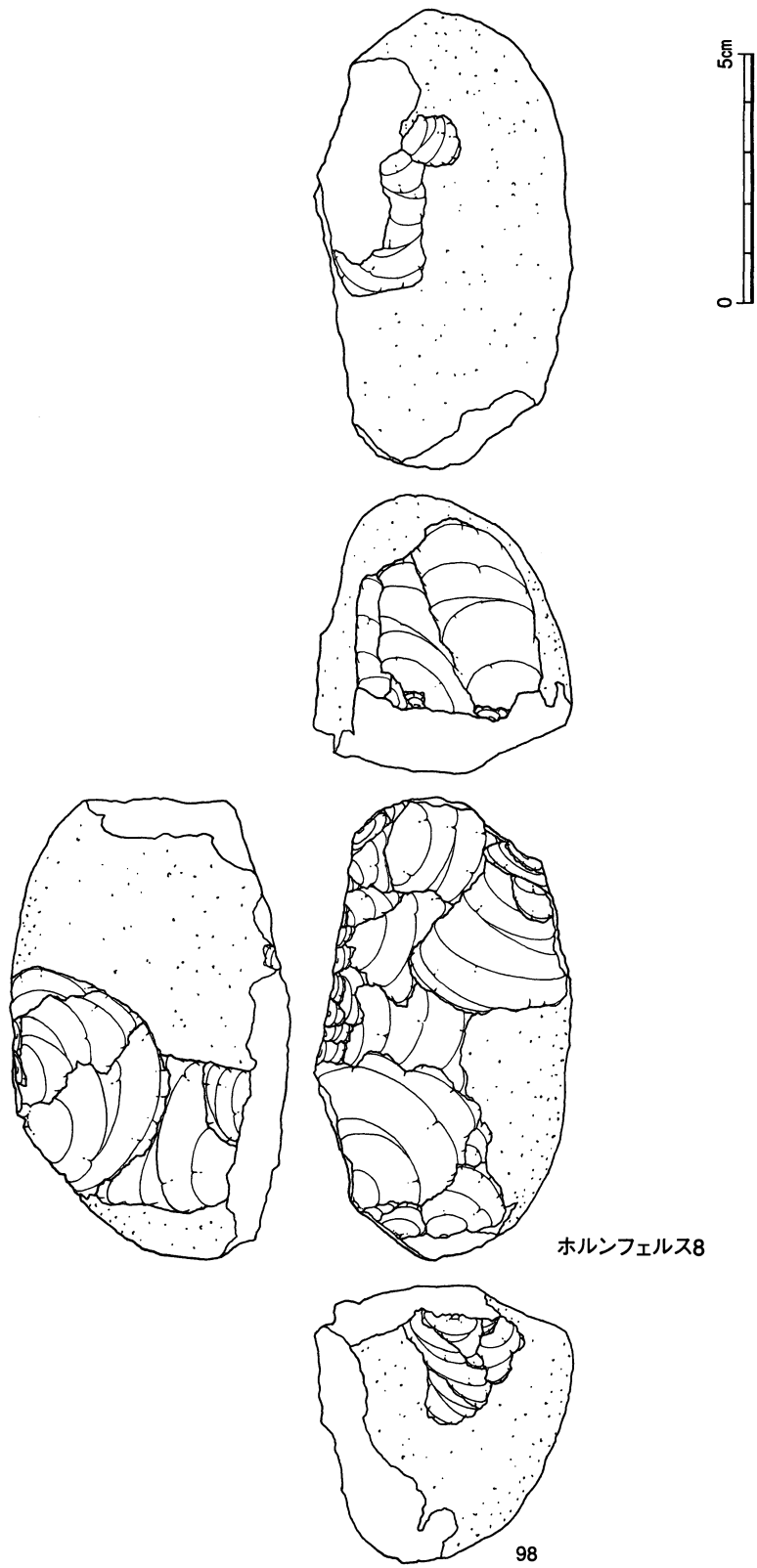
台石(101) 表皮の部分に打痕が顕著に残る。上下両端ではないため台石とした。剥離面を重視すれば石核の転用とも考えられる。



第43図 第1地点出土石器 (21)

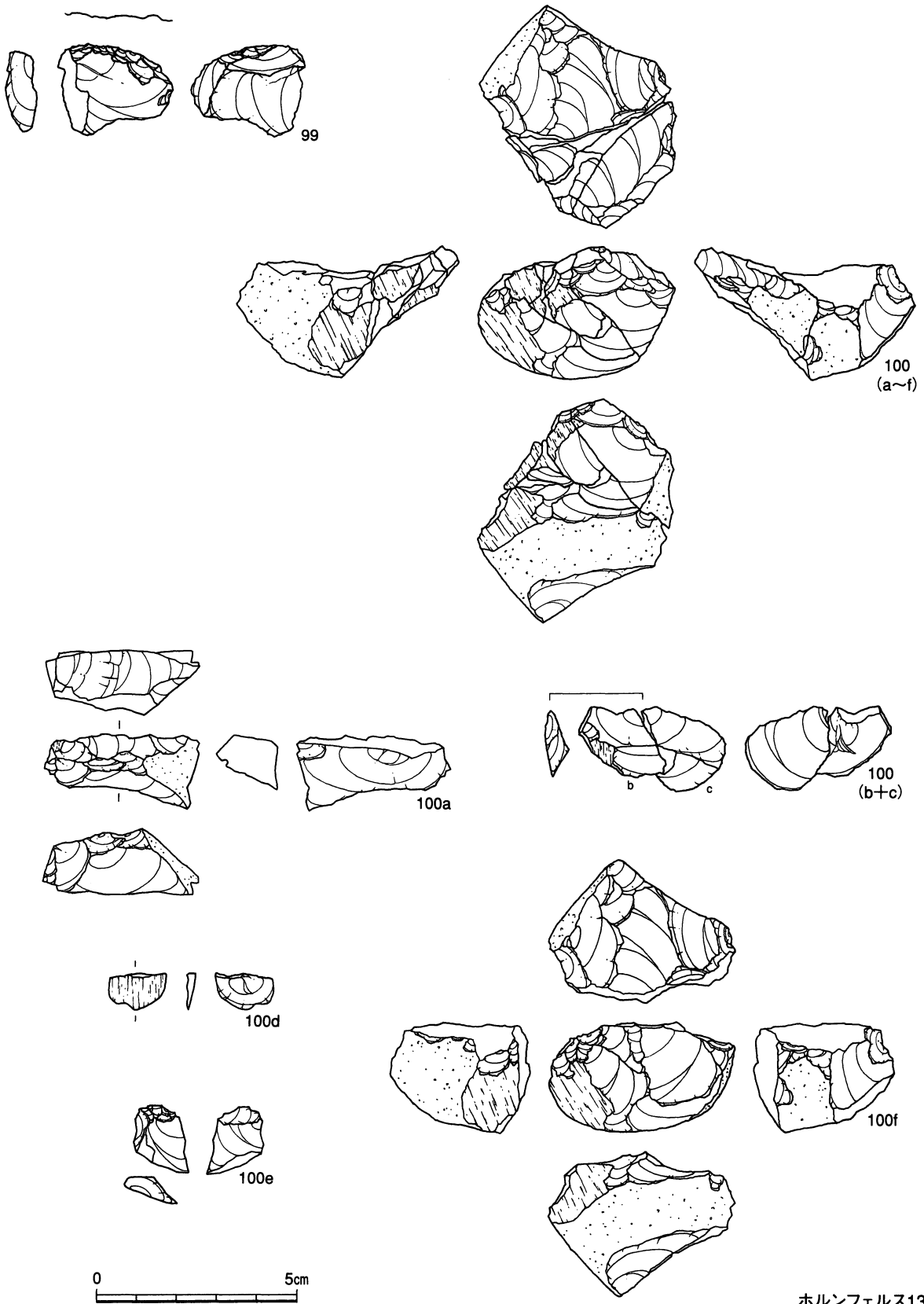


第44図 第1地点出土石器 (22)



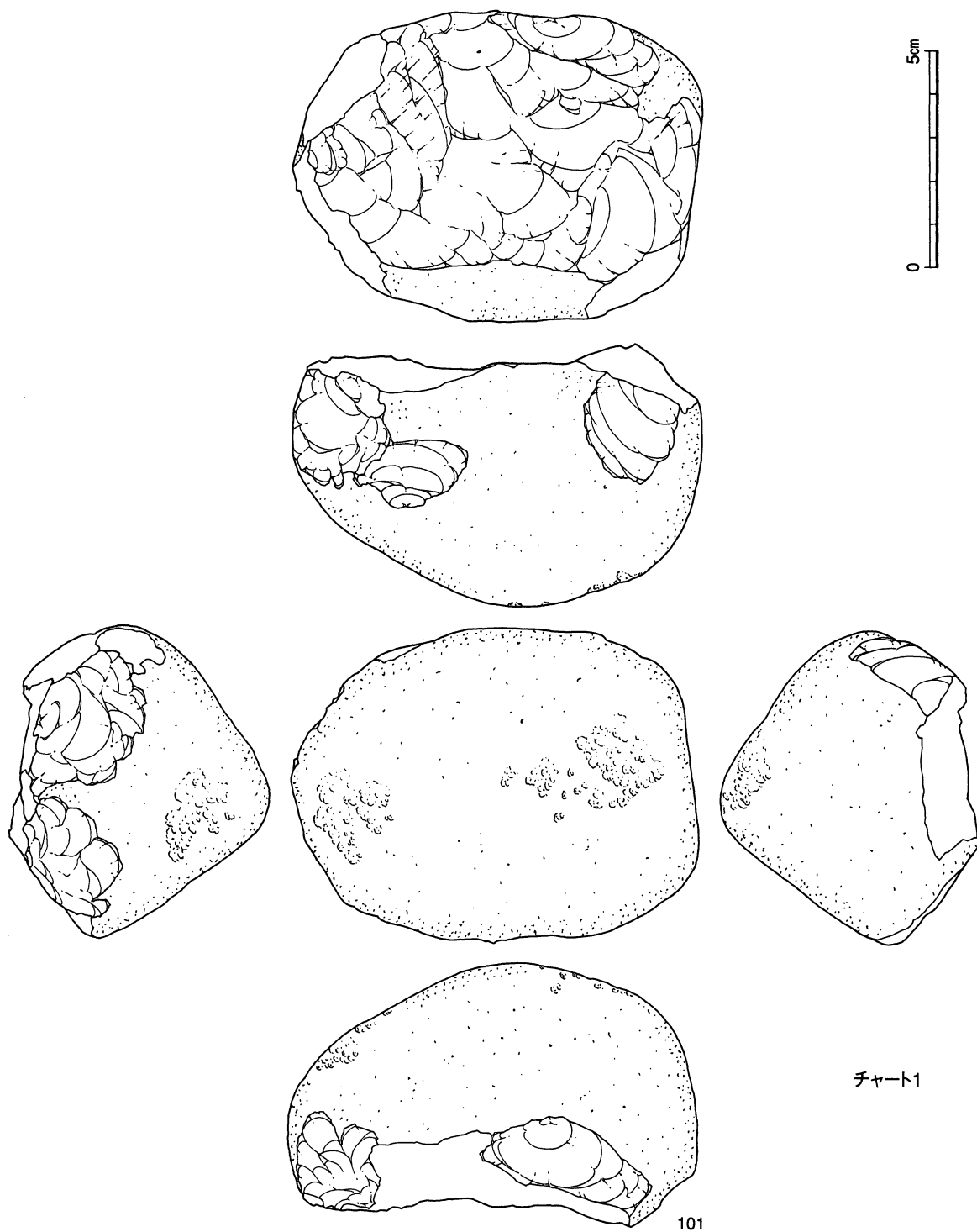
第45図 第1地点出土石器 (23)





ホルンフェルス13

第46図 第1地点出土石器 (24)



第47図 第1地点出土石器 (25)

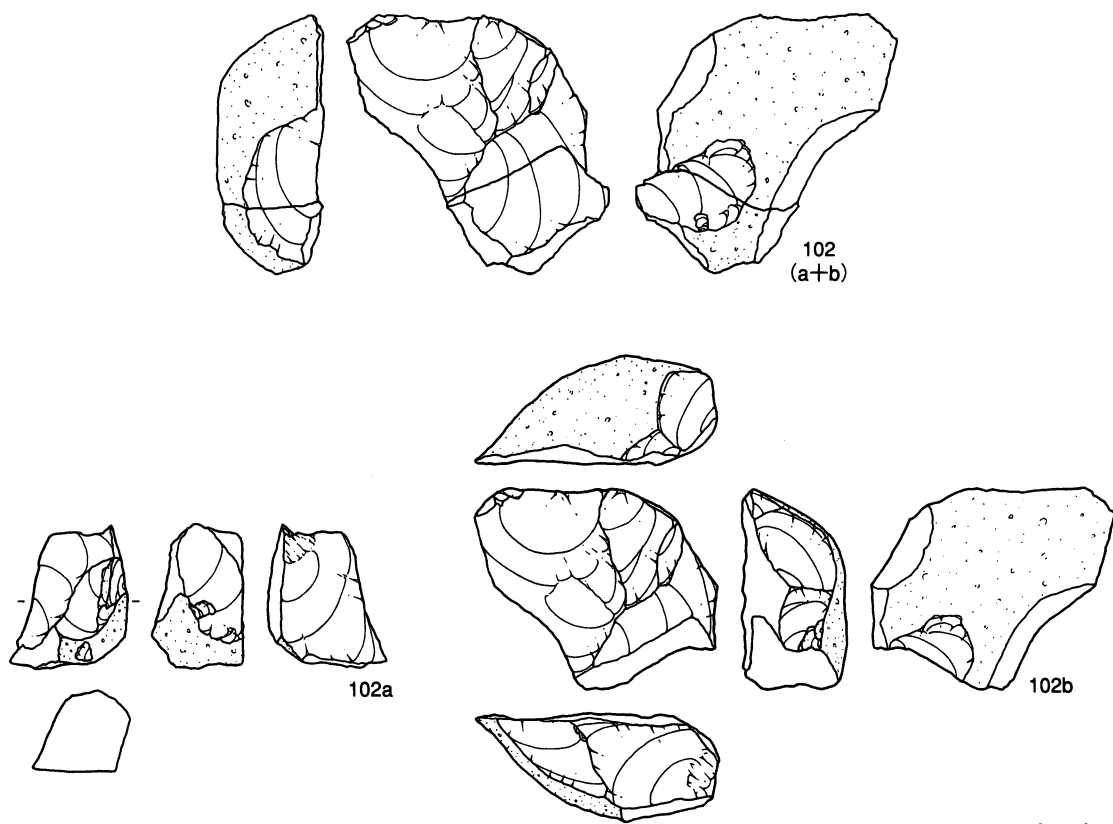
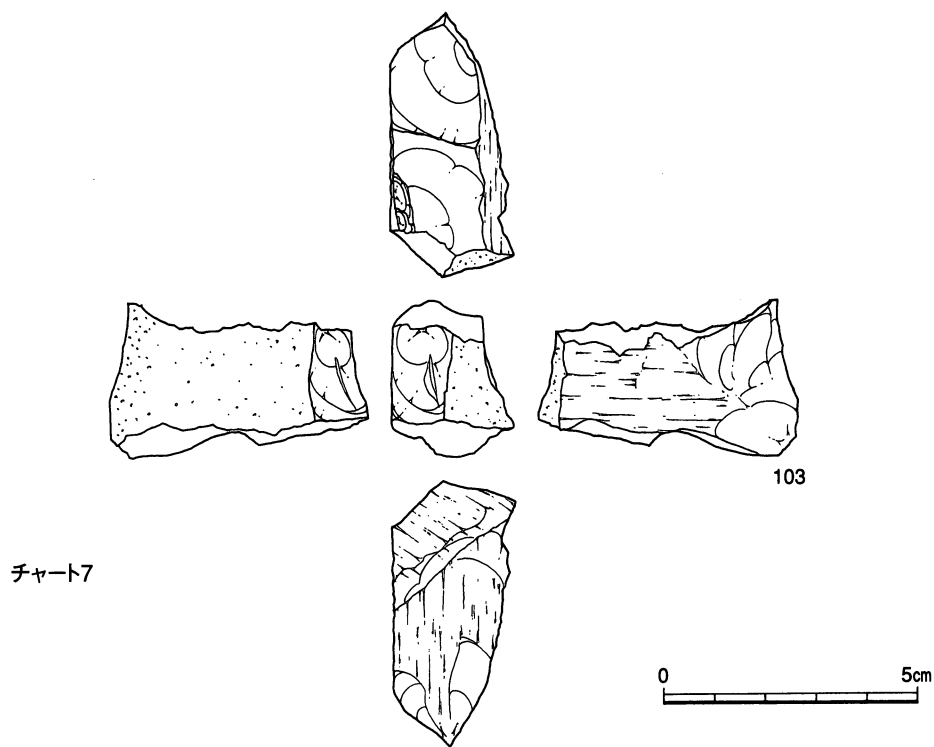
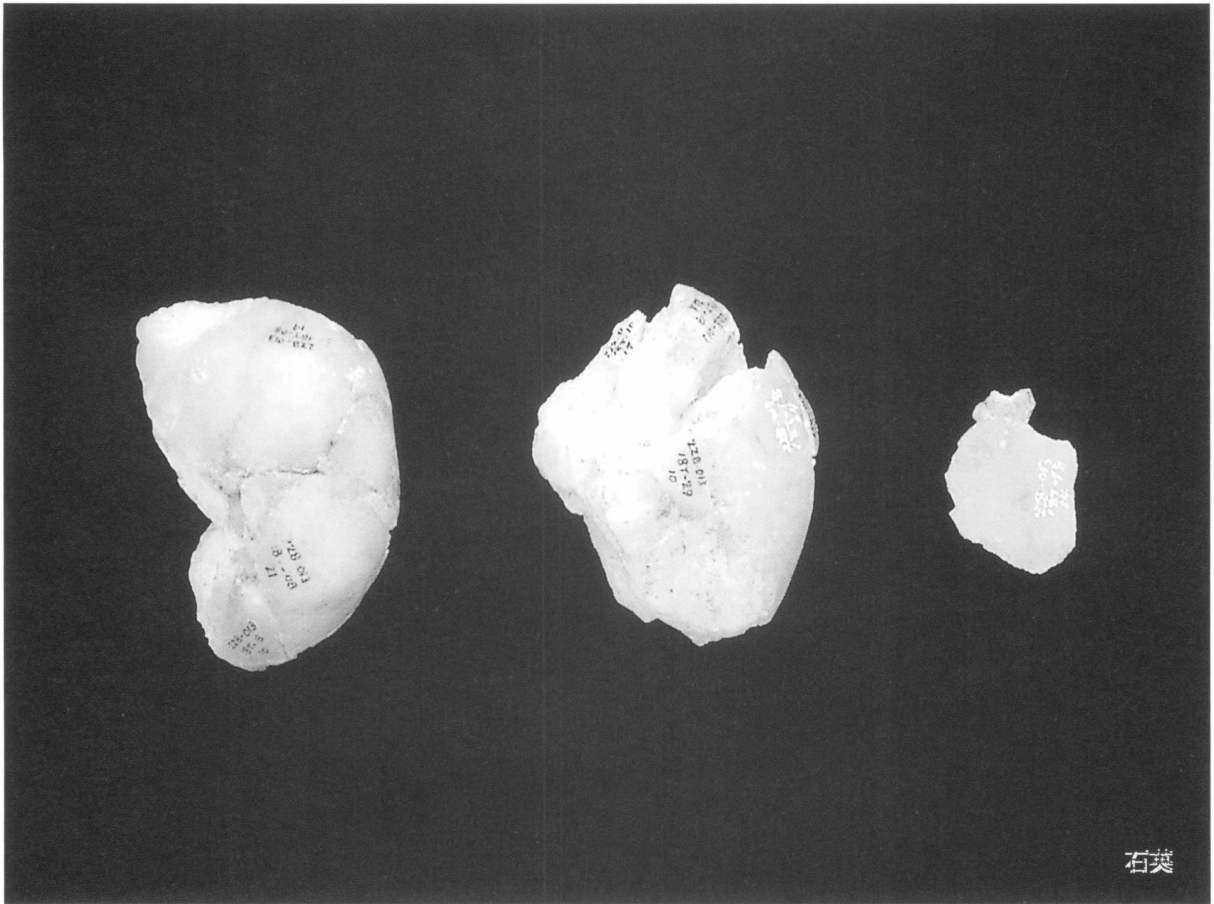


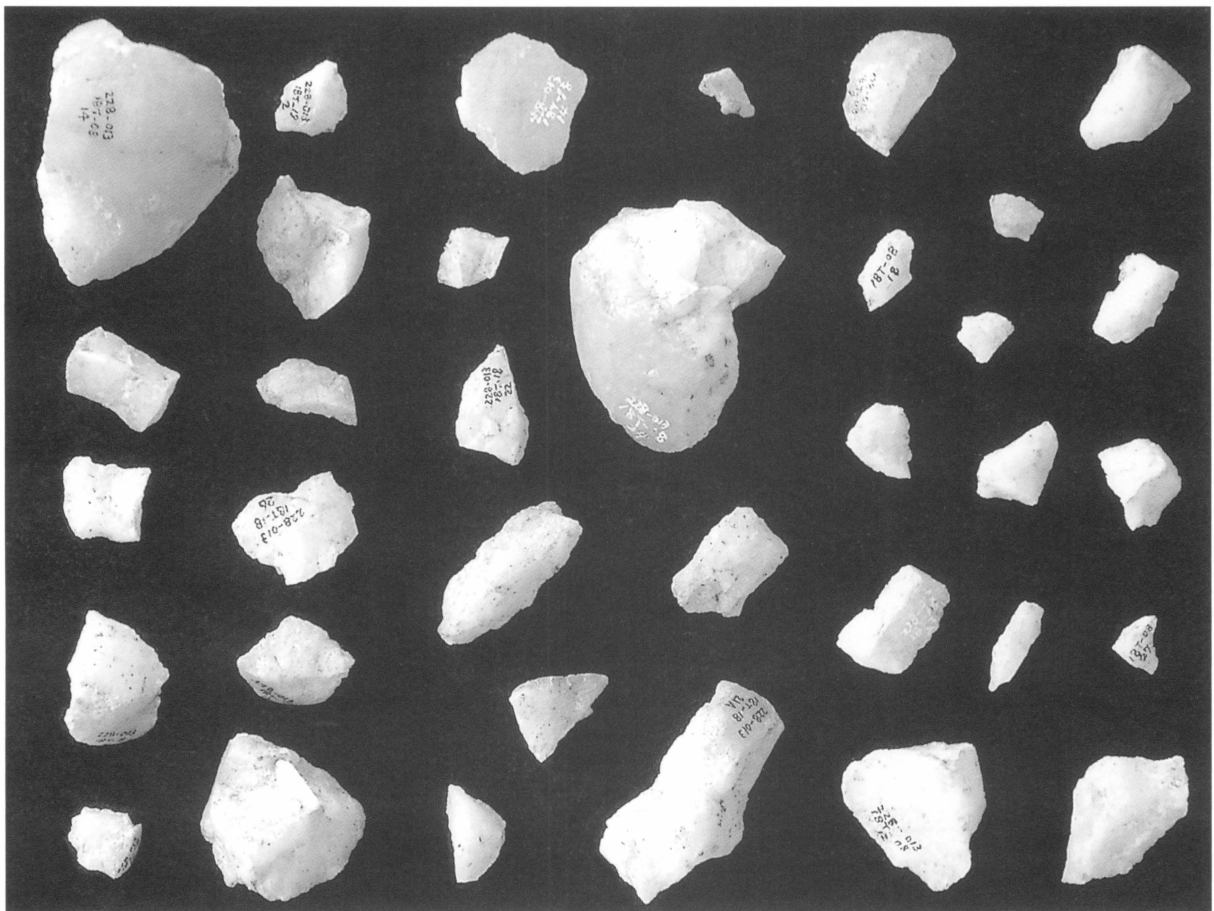
チャート3



第48図 第1地点出土石器 (26)



石英



第49图 第1地点出土石器 (27)



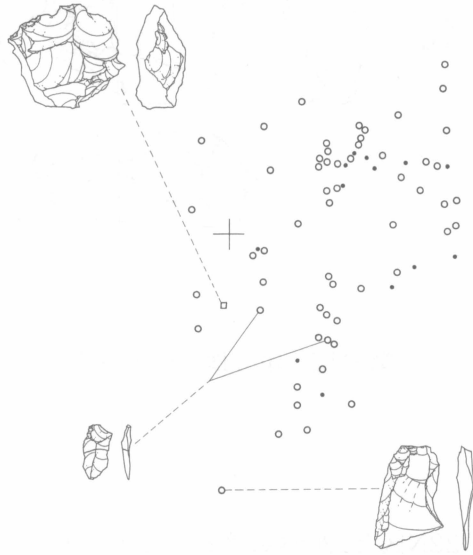
22N-92

22N-93

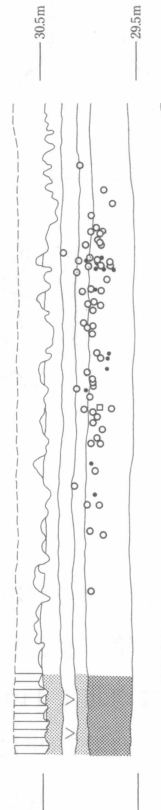
- 剥片
- 碎片
- 石核

22O-02

0 2m



(器種別)



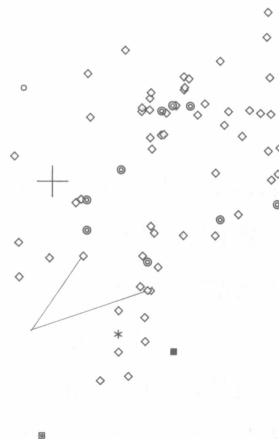
22N-92

22N-93

- ◇ チャート 9
- チャート 10
- \* 珪質頁岩 A
- 黒曜石 5
- 流紋岩 5
- 凝灰岩 4

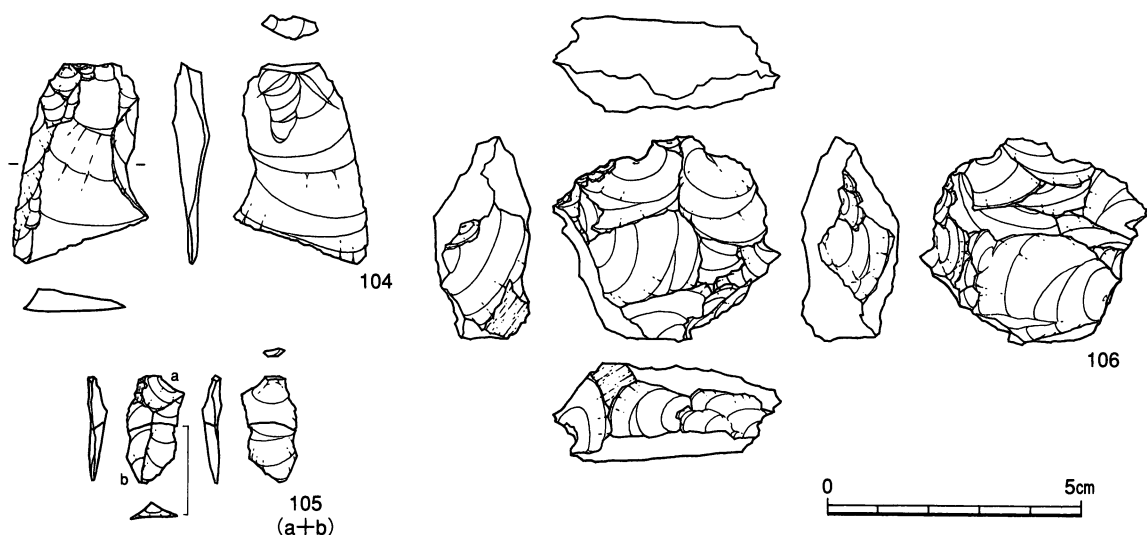
22O-02

0 2m



(母岩別)

第50図 第2地点遺物分布図



第51図 第2地点出土石器

(2) 第2地点 (第50・51図)

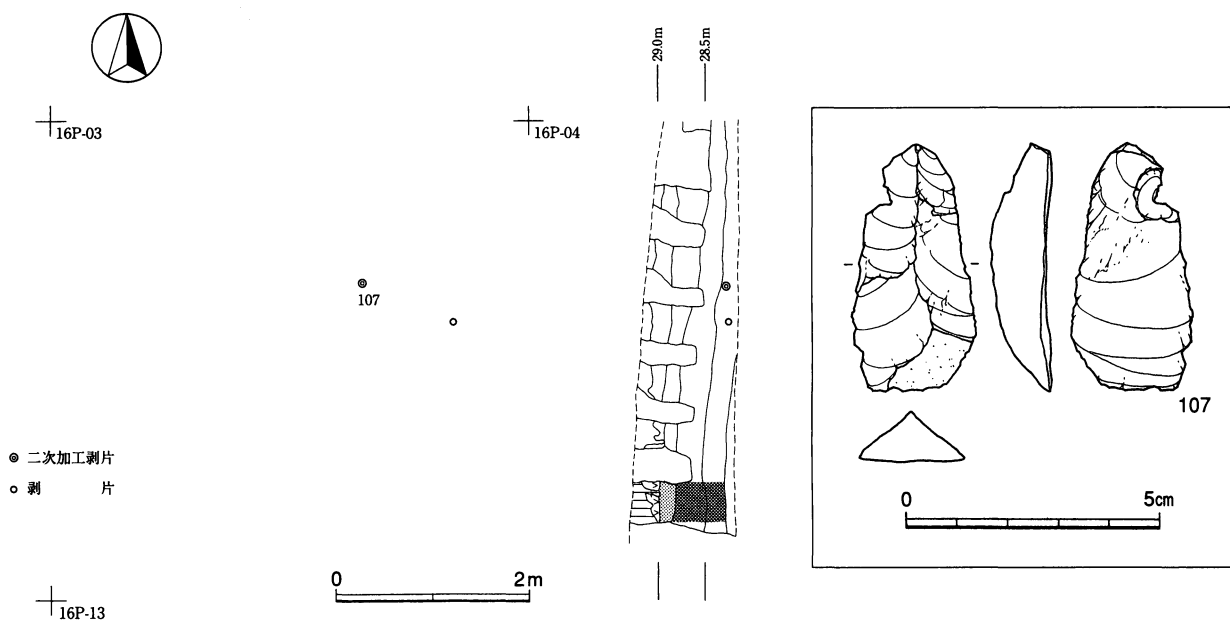
**概要** 第2地点とした集中域は、22N区と22O区の境界にあたりグリッドで捉えれば4か所にわたる。分布域は南北に4m、東西に3mを計測し、小規模ながらも小剥片を主体とし濃密な分布状況を示していた。遺物は合計73点に及び、出土層位は第IX層上部を中心として第VII層にも多く含まれていた。その内容は、剥片・碎片の類とこれらを剥離した石核（チャート）によって構成されていた。他の石材は僅少であった。

**石材と石器群** ここでの石材は、チャートが主体を占め、2個の母岩から剥離されていることが確認できた。そのうち「チャート9」としたものは、いわゆる赤色チャートと呼称されるもので石核を含む剥片多数が検出されている。他には黒曜石・流紋岩・凝灰岩・珪質頁岩が各1点によって構成されていた。また成品は皆無で石核の1点を除いて、すべて剥片・碎片であった。剥片の中でも唯一104は石器の素材として十分な形状を有するが、他は105のような小剥片で素材とはなり得ない貧弱なものが多かった。106はチャートの石核であり、本資料から多数の剥片・碎片が剥取されている（第50図参照）。これは色調等から明確に認識できた資料である。このことから、本地点で製作された成品は当然搬出されているものと推測できた。

(3) 第3地点 (第52図)

**概要** 本地点は調査区の北西隅において検出されたもので、石器集中地点とは言い難いような内容のものであった。確認調査時に16P-3Gで第IX層中から2点の剥片が出土したため、周辺をさらに拡張して調査にあったが、他に遺物を認めることができなかった。

**石材と石器群** 2点のみの出土であるが、若干の説明を加えておきたい。図示した剥片（107）は、素材としてみれば十分な形状を有する。縦長の剥片で表面の断面は三角形となり、下端に若干の剥離と右側縁に刃こぼれ痕を観察できる。石器として用いられたことは明白である。主剥離面右上の多くの剥離は調査時に付けられたものである。他には折断された剥片が出土している。



第52図 第3地点遺物分布図・出土石器

(4) 第4地点 (第53図)

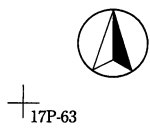
**概要** 本地点も小さな規模のものであった。17P-63Gを中心に5点出土したのみである。すべて黒曜石の剥片で占められていた。出土層位は第Ⅵ層から第Ⅸ層にまで及び、明確な層序を把握することはできなかった。図示したような出土状況であり、第Ⅸ層出土という点から本文化層に含めることとした。

**石材と石器群** 本地点の黒曜石には若干不純物が混入しており、良質とは言い難い。碎片に近いものも多く、石器の素材となるような剥片は存在していない。ただ、図示したように調整痕の認められる剥片も存在している。108は折断された剥片であるが、下端に小さな剥離が認められる。側縁でも使用痕らしき刃こぼれが認められ、石器として使用されたものと思われる。いずれにせよ本地点での活動は一時的なものであったろう。

(5) 第5地点 (第54～57図)

**概要** 本地点も規模は小さく、17Q-34・35Gから剥片が5点検出されたのみであった。調査は、隣接するように第6地点とした17Q-74Gにおいても剥片の出土が確認されており、調査区を大きく拡大して掘り進めていった。だが遺物の出土は僅かで、成品も認められなかった。ただ本地点では第Ⅵ層の調査にはいると炭化粒の検出が認められ、次第に濃密に分布していることが確認できたため、第1地点同様5cmごとに炭化粒を平面図に記録することとした。その結果、最も集中する層序は第Ⅶ層にあたり、第Ⅸ層に至っても部分的に濃密な散布状況を示していた。その一部は第Ⅹ層にも認められたが、量的には明らかに減少していた。この状況を当時の生活面として捉えるならば、本地点では第Ⅶ～第Ⅸ層の境界部分がこれにあたるものと判断できる。これを裏付けるように石器の出土層位も炭化粒とほぼ一致する。

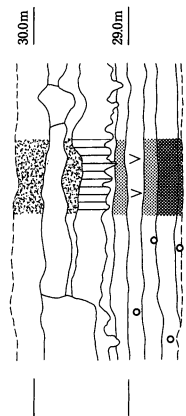
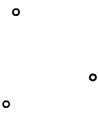
**遺構** 本地点では17Q-34Gにおいて、炭化粒検出とともに土坑と呼べるような落込みが隣接して2か所



17P-63

108

17P-64

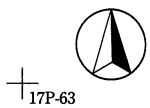


● 二次加工剥片  
○ 剥片

17P-73

17P-74

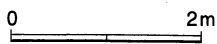
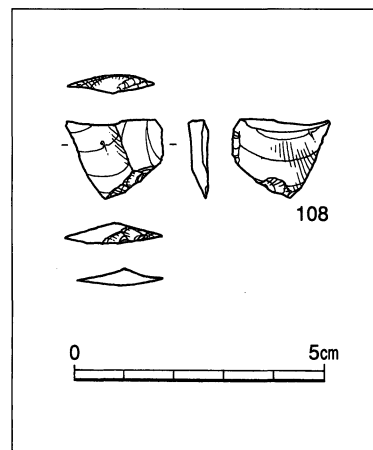
(器種別)



17P-63

108

17P-64



★ 黒曜石 7  
● 黒曜石 8

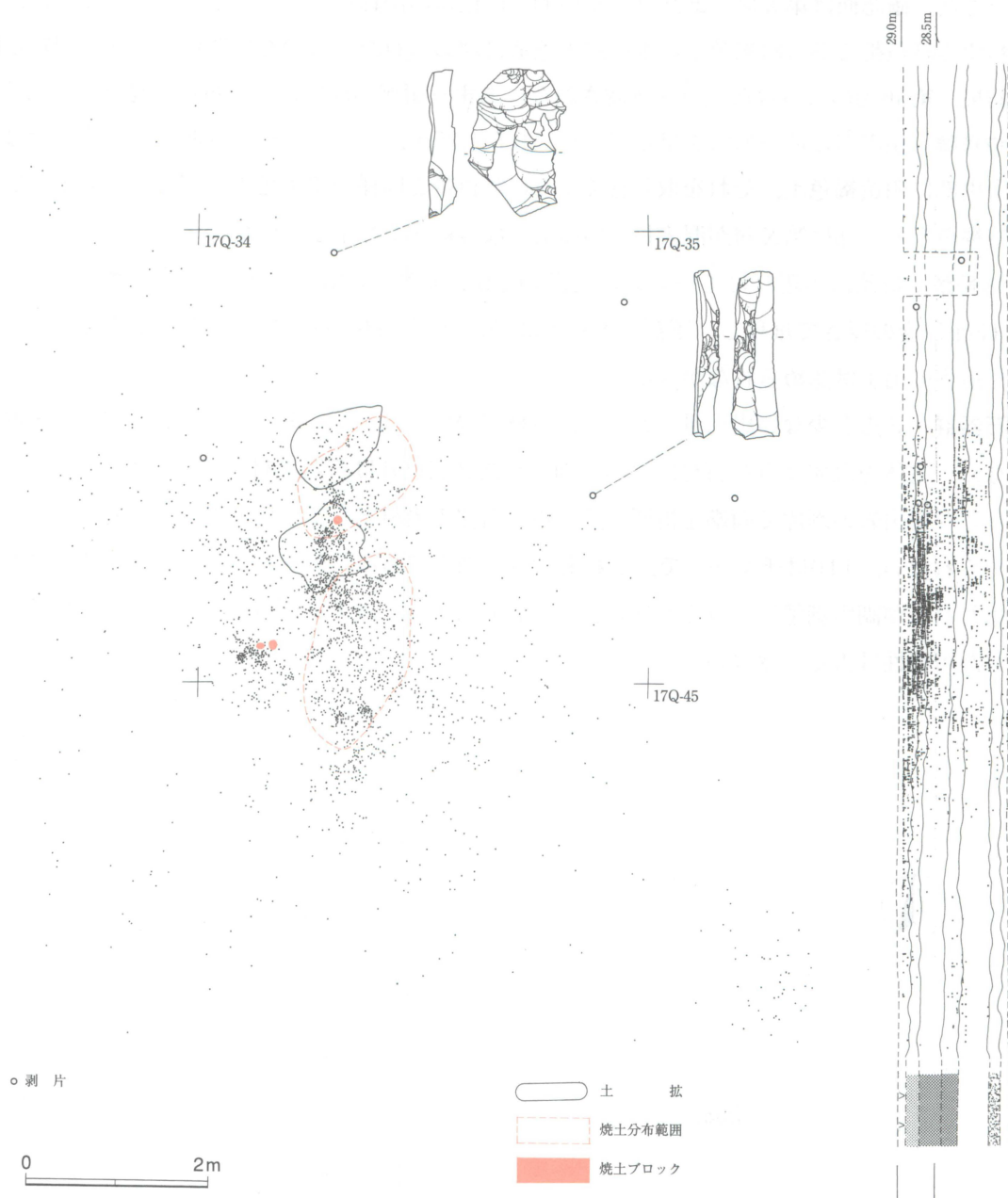
17P-73

17P-74

(母岩別)

第53図 第4地点遺物分布図・出土石器





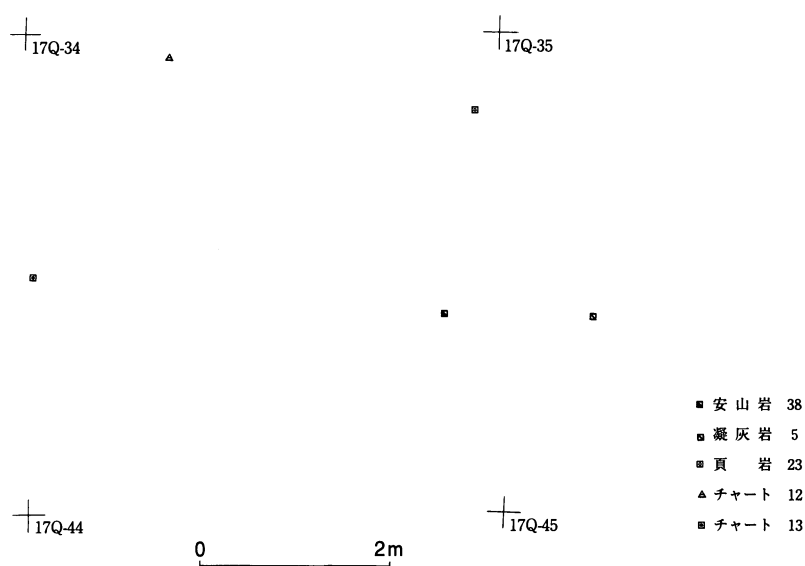
第54図 第5地点器種別分布図・炭化物及び焼土分布図

で確認できた。確認面は第X層にあたり、平面的に炭化粒の記録をしていたところ層序の変化にも拘わらず、いわゆる暗色帯である暗褐色土の堆積が不整形に認められた。このため遺構の存在を想定し調査をすすめた結果、第56図のような落込みが確認された。あまり類例がないため貴重な発見といえよう。

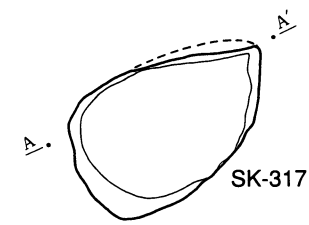
**SK-317号跡** 楕円形に近い形状を呈しており、長径1.15m、短径0.75mを計測する。堆積土は図示したように中央部に明黄褐色土、それを取り巻くように暗色帯と同様の暗褐色土が認められ、下部を構成する土層も暗褐色土と一部に第X層が混入しているような堆積状況を示していた。

**SK-318号跡** 形状は表現しにくいものの長径1.05m、短径0.70mとなる。堆積土は上部に暗褐色土が10cm～15cm程度の厚さで堆積し、下部の堆積土はSK-317号跡同様と捉えることができた。いずれの遺構からも遺物の出土は認められなかった。

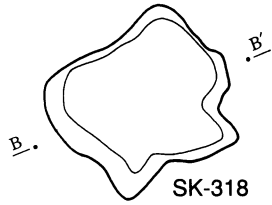
**石材と石器群** 5点と少ない出土量であるが、石材についてはチャート2点、頁岩・安山岩・凝灰岩が各1点となり、主体をなすような石材はない。図示した2点以外は石器素材としても不十分である。109は縦長の良好な安山岩の剥片で両端を折断している。石器の素材として十分な大きさを有しているが使用痕等は認められない。110はチャートで、これも大きな剥片である。むろん石器素材としても良好な剥片であると思われるが調整剥離等はみられない。ただ表面右下端には刃こぼれ痕らしき痕跡が確認できるため使用された可能性は否定できない。



第55図 第5地点母岩別分布図



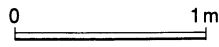
SK-317



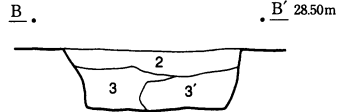
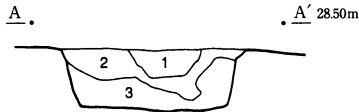
SK-318

- 1: 明黄褐色ローム。炭化物粒・赤色スコリア粒・黒色スコリア粒を含む。
- 2: 暗褐色硬質ローム。炭化物粒・赤色スコリア粒を含む。
- 3: 暗褐色硬質ローム。赤色スコリア・青灰色岩片を含む。Xa層とほぼ等質。
- 3': 基本的に3層と共通であるが、やや軟質。

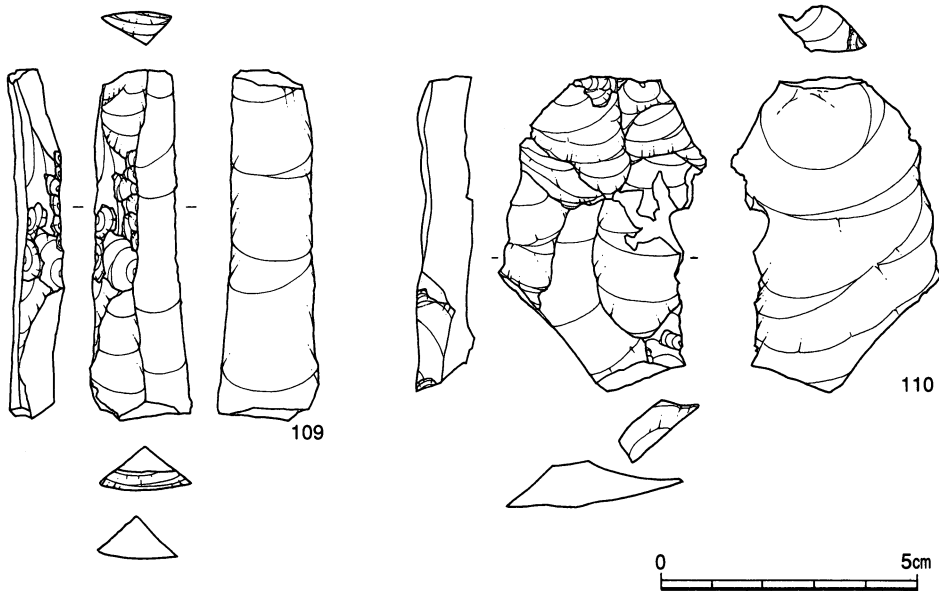
17Q-44



17Q-45



第56図 第5地点内土坑実測図

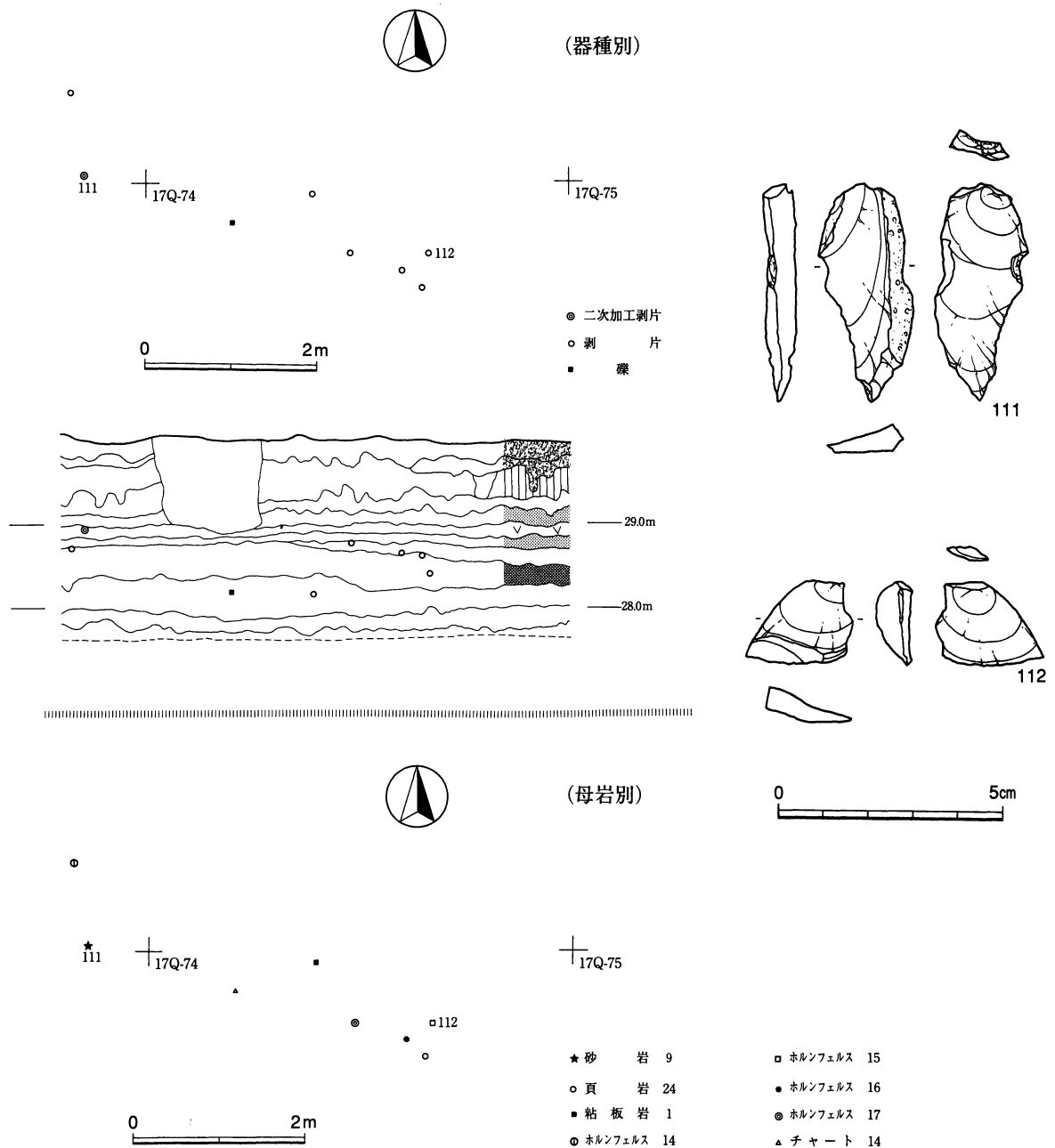


第57図 第5地点出土石器

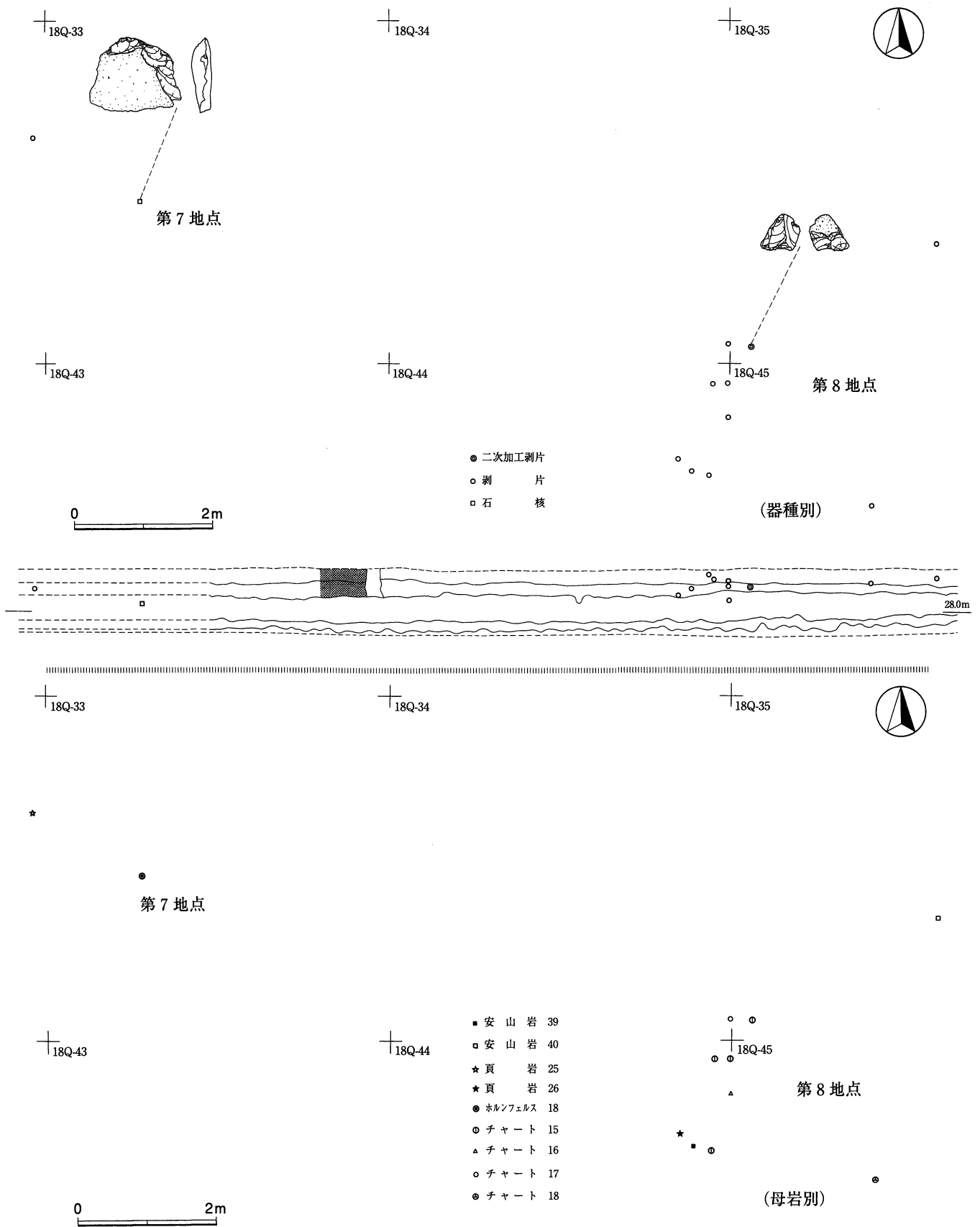
(6) 第6地点 (第58図)

**概要** 17Q-63・74Gで、計8点が検出された。規模としては大きくない。分布は17Q-74Gを中心に東西約5mにわたる。出土層位には高低差が著しく、明確な層位を捉えることは難しく暗色帯を含むその上下層となっている。ほとんどは剥片であるが、小礫が1点出土している。位置は示したが自然礫の可能性が高い。

**石材と石器群** 石材構成はホルンフェルス中心となり、他に頁岩・砂岩・粘板岩が各1点で構成される。成品は存在せず、剥片のみとなっている。図示した剥片は2点であり、111は成品として加工するには縦長の良好な石刃状剥片であり、表面右上端及び主剥離面では整形のためか若干の二次剥離を施している。



第58図 第6地点遺物分布図・出土石器



第59図 第7・8地点遺物分布図

112は碎片に近いものであり、比較的きれいに剥離されている。他の剥片も同様な大きさであったが、概して粗雑な剥離で剥離されていた。本地点でも成品の出土は認められず、石器製作という点からも積極的に肯定できるような内容ではなかった。

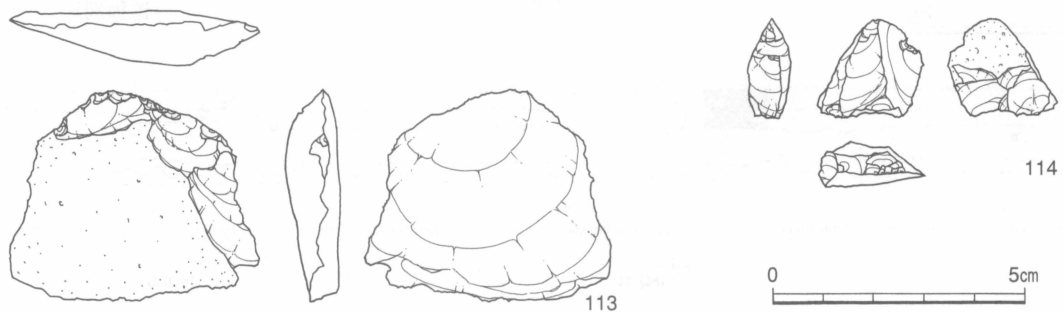
(7) 第7地点 (第59・60図)

**概要** 18Q-32・33Gから各1点が出土したに過ぎない。周辺を広く拡張したものの遺物の検出はできなかった。単独出土と捉えることもできるが、隣接して検出された第8地点と層序的には共通するものと考えられたため独立した一群として捉えることとした。

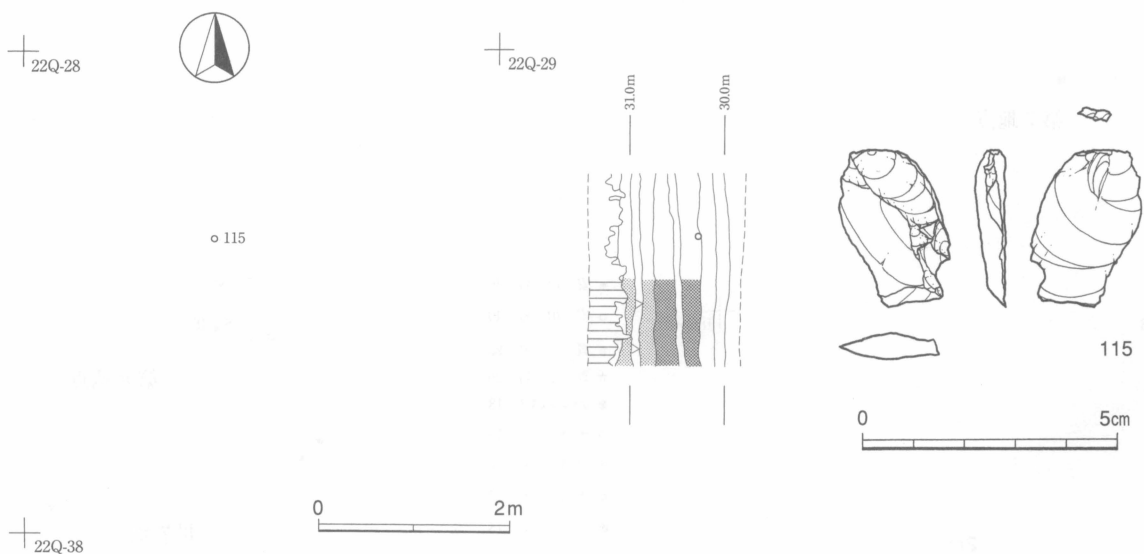
**石材と石器群** 1点のみ図示した。石核の一部と考えたが、微細な調整剥離も認められ搔器として用いられた可能性が強い。他の1点も石器の素材と成りうるような剥片であった。石材という点から考えると次の第8地点出土石器群とを結びつけるような資料は見いだせなかった。

(8) 第8地点 (第59・60図)

**概要** 18Q-44・45G周辺から合計10点の剥片類が検出された。確認調査時において18Q-44Gで剥片

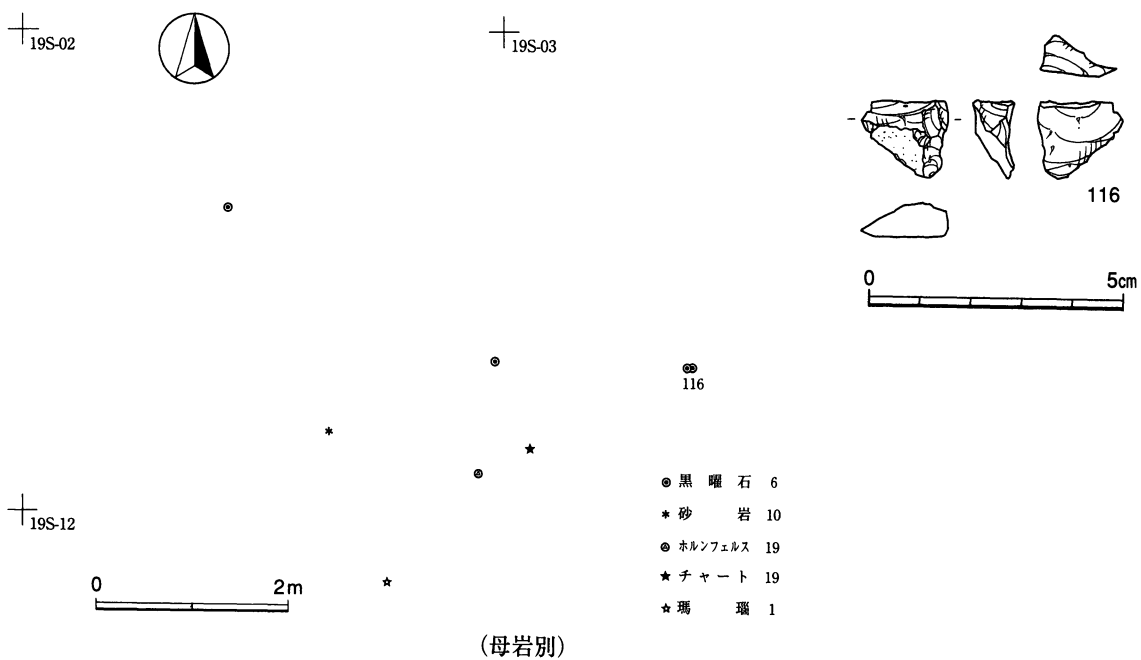
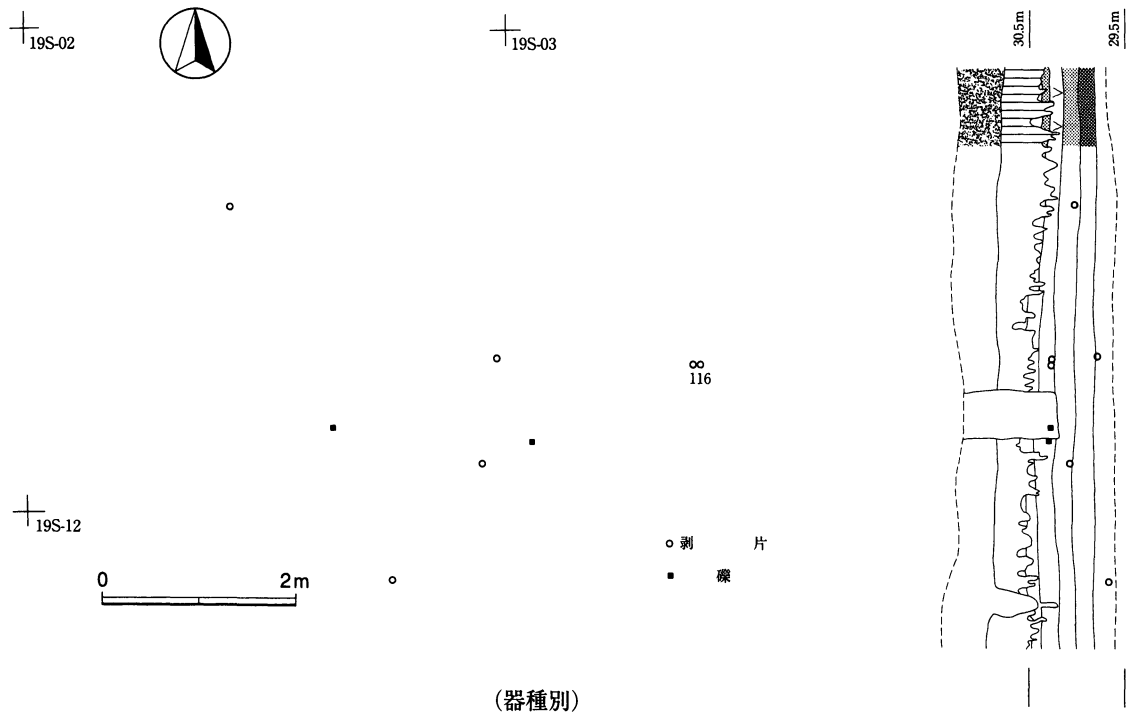


第60図 第7・8地点出土石器



第61図 第9地点遺物分布図・出土石器

が検出されたため周辺を拡張した結果、さらに数点の遺物を検出できた。その分布範囲は径3m~4mと狭く、散漫な分布状況を示していたにすぎない。出土層位は、おおよそ暗色帯中とすることができよう。  
**石材と石器群** 計10点の出土剥片は、チャート7点、安山岩2点、頁岩1点で構成されており、チャートが主体といってもよいであろう。このチャート7点のうち4点は明らかに同一母岩から剥離されたこと



第62図 第10地点遺物分布図・出土石器

が表面・剥離面の色調から認識できた。少ない数量ながらも剥片剥離作業を裏付ける資料となろう。その中で1点のみ刃部を抉るような形で剥離の施されているもの(114)が存在する。スクレイパー的な機能を有していたものと思われる。図示は略したが安山岩でも大きな縦長剥片が存在しており、石器製作の意図を窺わせるものと考えられた。

(9) 第9地点(第61図)

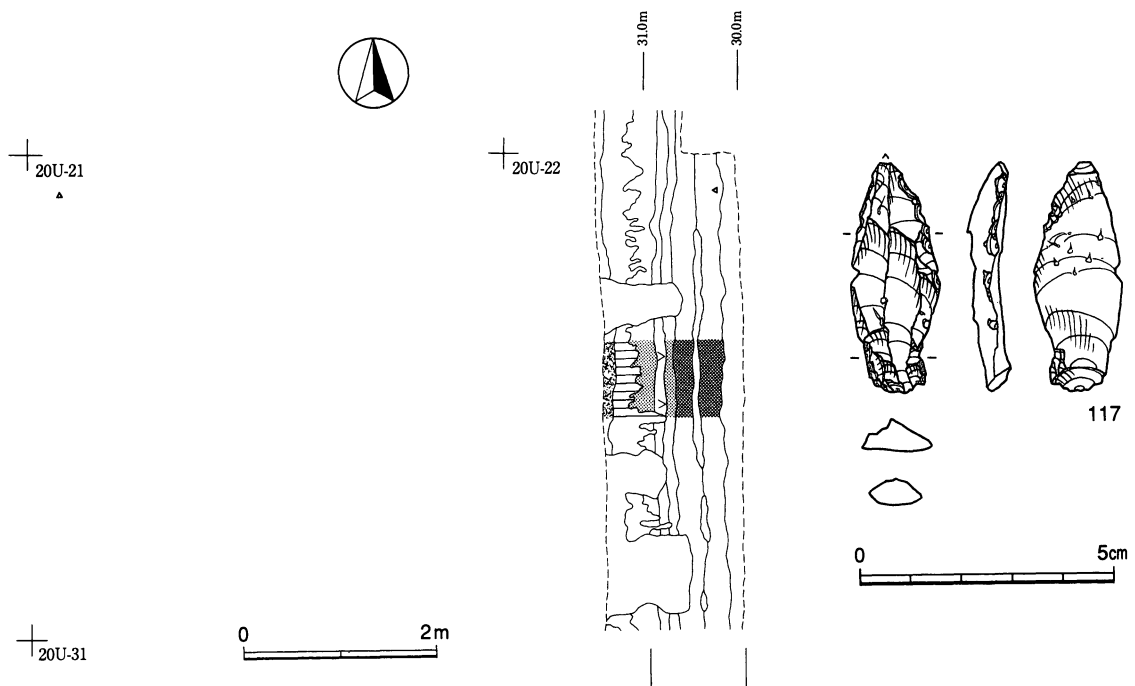
**概要** 22Q-28Gから確認調査時に出土したもので、その後周辺を若干拡張してみたが遺物の出土は認められず本地点の調査を終了した。いわゆる単独出土の剥片であり、暗色帯下部から検出されたもので、出土地点が明確であったためここに含めた。

**石材と石器群** 頁岩製の縦長剥片であり、石器の素材としてはやや小さい剥片となる。

(10) 第10地点(第62図)

**概要** 本地点の石器群も合計8点と少ない。19S-02・03・12Gの3か所にわたるが、疎らな分布であった。出土層位をみると高低差が大きく第VI層から第X層にまで及び、同一時期の所産とするには躊躇するところである。

**石材と石器群** 本地点での石材構成は、剥片では黒曜石・瑪瑙・ホルンフェルスとなり礫では砂岩・チャート各1点となる。黒曜石のみ4点の出土で、1点のみ図示した。116は碎片に近い剥片で左側縁には微細な調整痕が僅かに認められる。これら4点の剥片には不純物・気泡等が認められ、同一母岩から剥離された可能性が強い。この点、黒曜石の4点の出土層位をみると、明らかに高低差が認められ、使用石材の面からみるとこの高低差でも同一時期ということを否定するものではない。



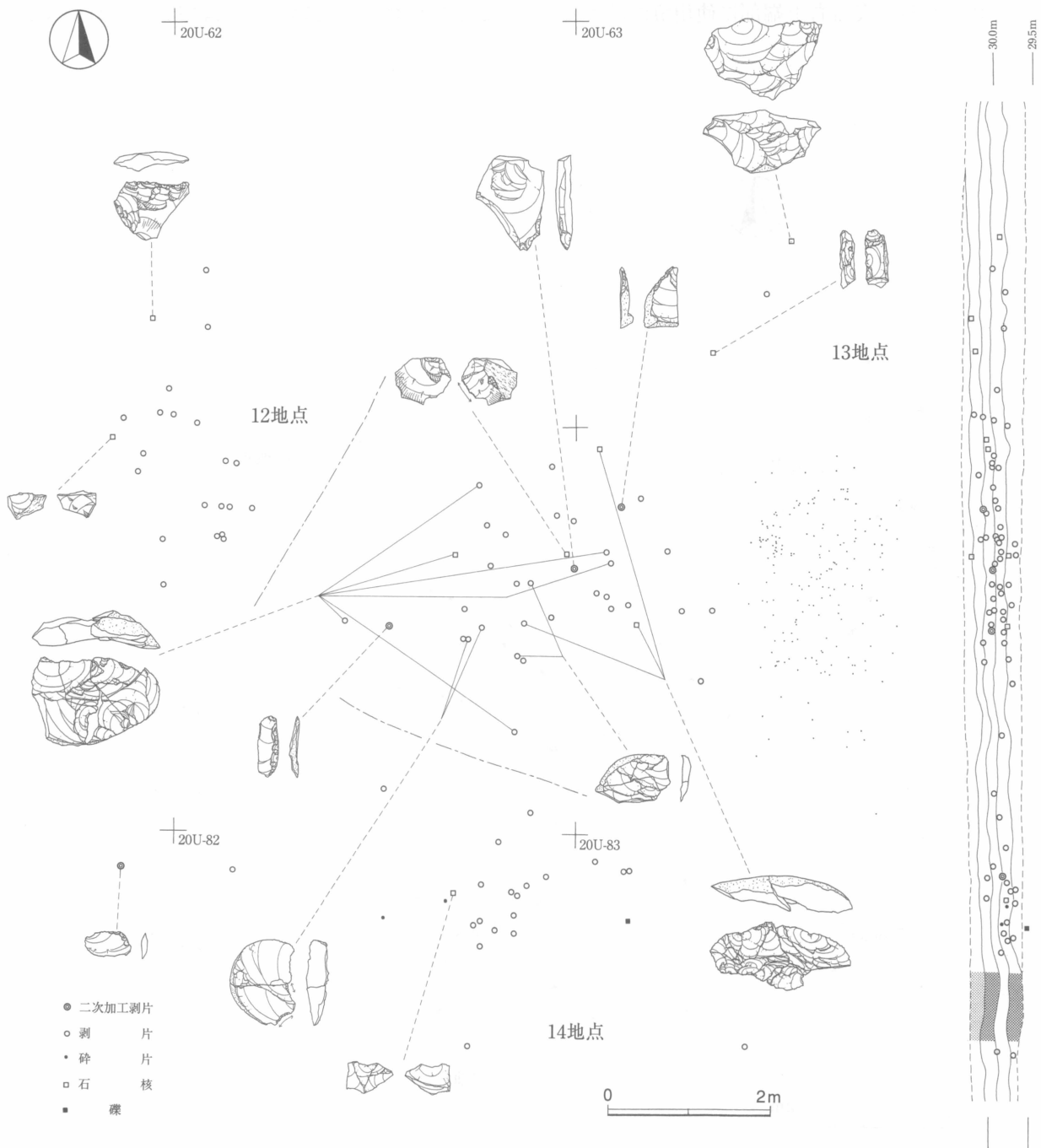
第63図 第11地点遺物分布図・出土石器



(11) 第11地点 (第63図)

**概要** ここでの出土はナイフ形石器が1点のみで、その上部では第Ⅲ文化層(第33地点)の石器群が検出されている。出土層位が暗色帯下部ということで第Ⅰ文化層に含めたが、成品でもあり明らかに単独出土の資料となろう。

**石材と石器群** 117は黒曜石製のナイフ形石器で、先端部は若干欠損している。加工は表面右側縁に沿って小さな調整を加えており、左側先端の一部にも及ぶ。基部調整も表面両側に若干施される程度で、十分な仕上げとは言い難い。石質としては良好であるが、不純物を含む。簡単で粗雑な仕上げは古さを示すものであろうか。

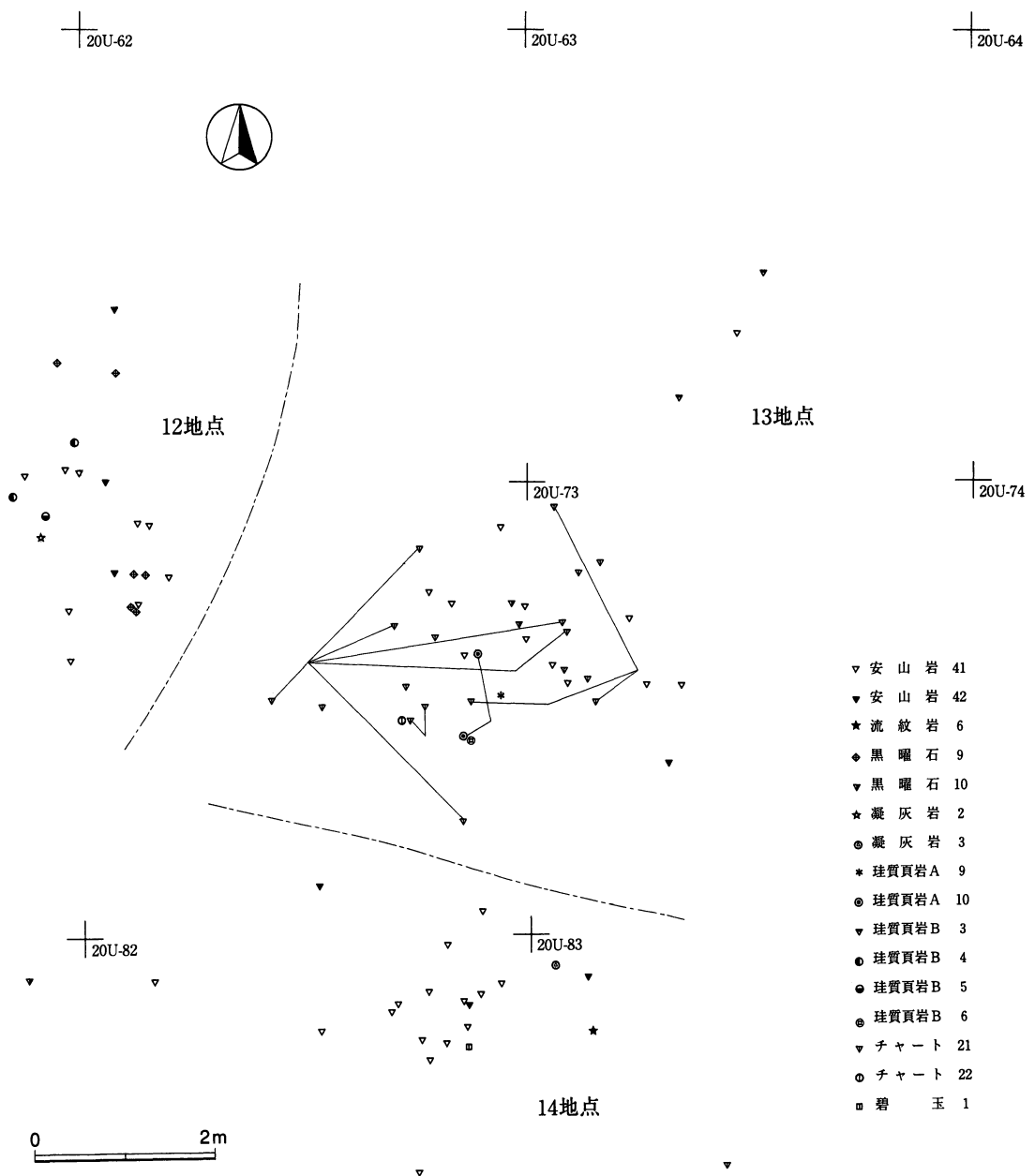


第64図 第12～14地点器種別分布図

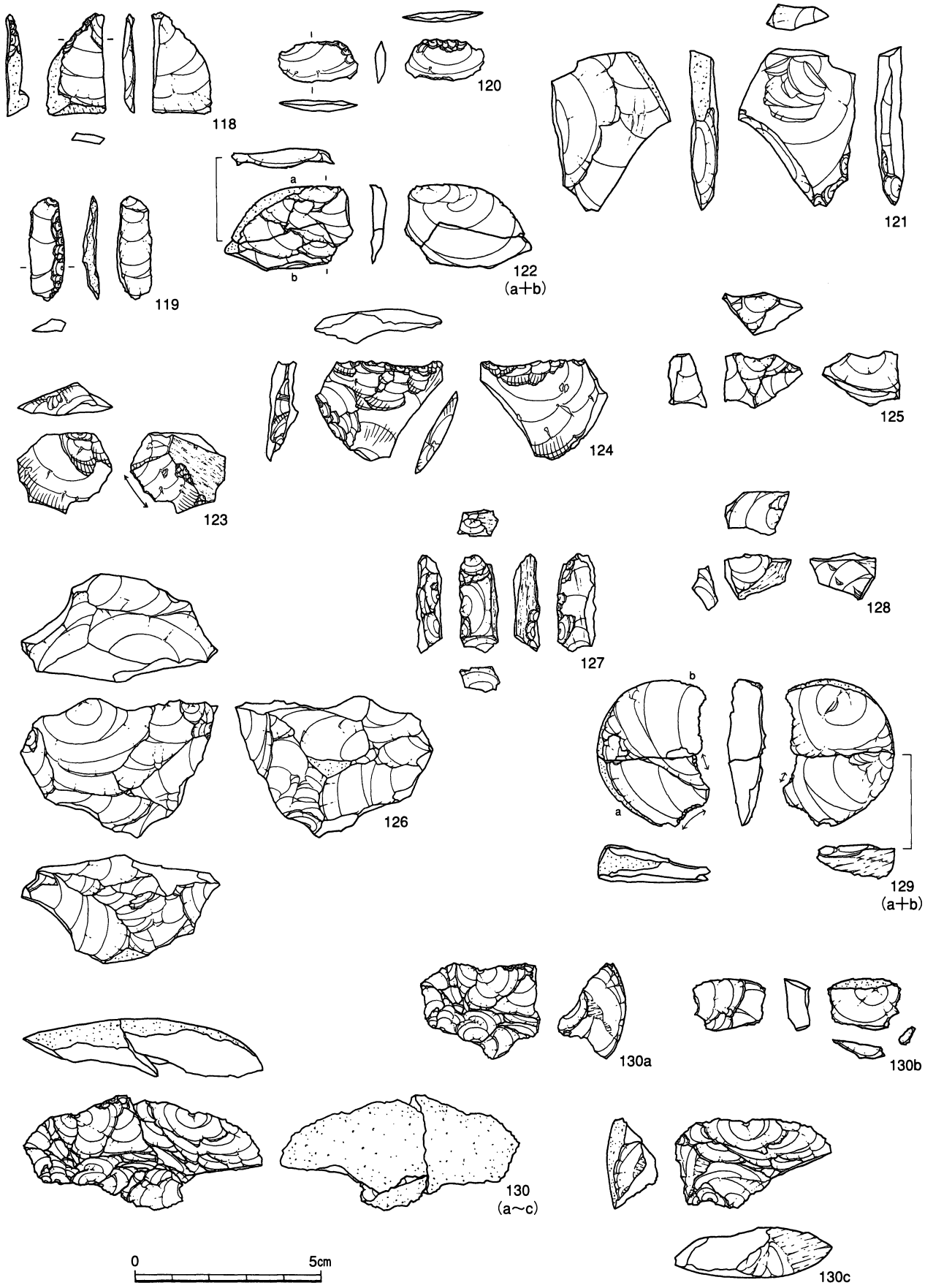
(12) 第12地点 (第64~67図)

**概要** 本地点は、以下に記載する第13地点・第14地点と接近して発見されたため図化等は同一の図面に掲載することとした。出土地点は20U-61・62・71・72Gに及ぶが、南北方向に4m、東西方向に2mと比較的集中した形で検出された。出土点数は24点となり、確認調査時の2点を除く22点を図化した。層序は第13地点とほぼ一致し、暗色帯中央部から下部にかけて検出されている。

**石材と石器群** 24点の内容は、安山岩12点、黒曜石6点、珪質頁岩3点の他、砂岩・チャート・凝灰岩となる。ここでも成品は存在せず、図示は2点のみとした。124は黒曜石の打面調整剥片で、表面には多数の剥離痕が残る。主剥離面では打点部に数回の整形剥離を加えており、削器のような機能を持たせたものと考えられる。表面右上端部に使用痕が認められ石器として使用されていたことは確実である。なかに



第65図 第12~14地点母岩別分布図



第66图 第12~14地点出土石器 (1)

は不純物を含む。3点の珪質頁岩は同一母岩の可能性が高い。128は石核の一部と考えて図示したが、小破片のため明確ではない。いずれにせよ本地点は安山岩と黒曜石の剥片剥離作業域の一部となろう。

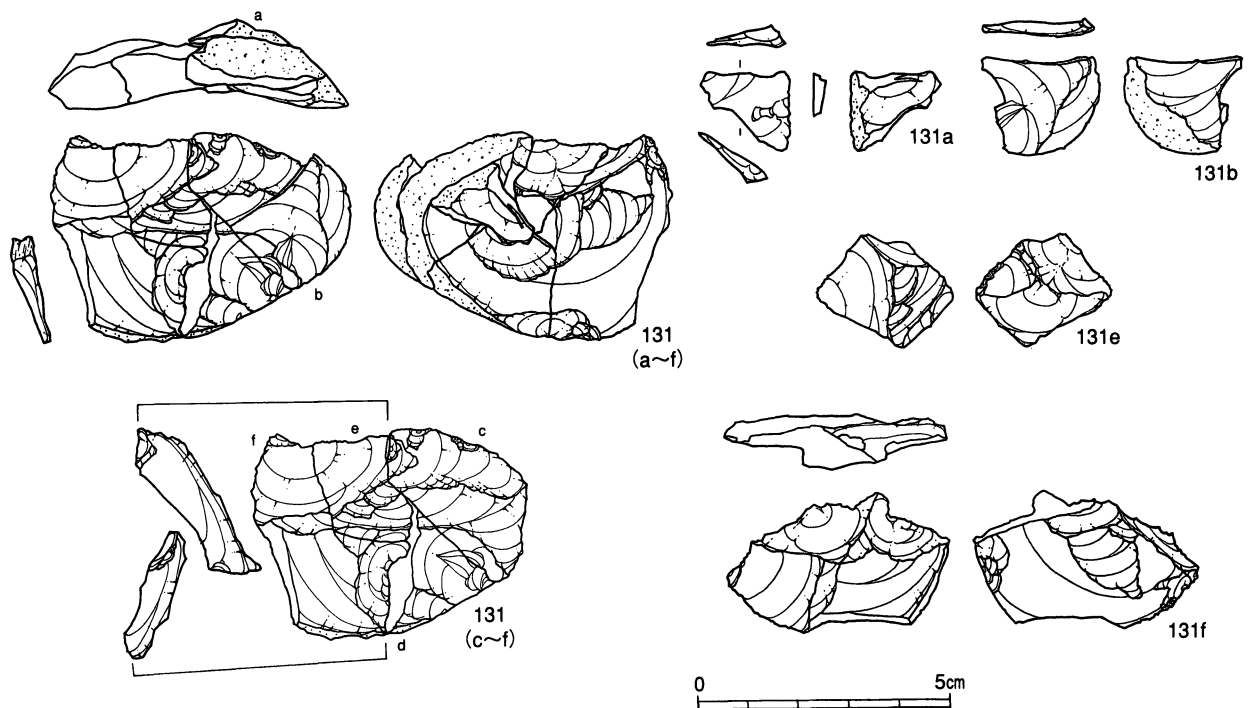
(13) 第13地点 (第64~67図)

**概要** 20U-72・73Gを中心として一部が20U-63Gに及ぶ。総出土点数は42点となり、明らかな集中域を示していた。その広がりには南北3m、東西に約4mを計測する。出土層位は、ほぼ暗色帯中央部から下部にある。

**炭化物集中地点** 本地点の東に隣接した20U-73Gから東西2m、南北4mの範囲で炭化物(第64図)が検出された。検出層位は図示しなかったが、石器包含層から下位にかけての層であった。濃密な分布ではなかったため一面だけの図化にとどめた。

**石材と石器群** 石材は、安山岩・チャート・珪質頁岩・黒曜石の4種で構成されており、前二者が主体を占める。ここでの安山岩は第12地点出土の剥片類と同一の母岩から剥離されているものと考えられたが地点間での接合は確認できなかった。一方、チャートは本地点のみで19点検出でき、その大半が同一母岩から剥離されたものであり、第65図に示したように数点が接合した。

石器についてみると、ここでも成品は検出されず、一部に調整痕が付されている石器が若干出土した程度となっている。118・119はチャート製で小さな二次剥離を観察することができる。129もチャートで、その形状から半折後に使用されていることが理解できる。上部破片での微調整は認められない。121は安山岩で下端に3回以上の剥離を加えている。錐のような使用も考えられる。123は黒曜石製で、上部に剥離痕が残されているため石核としたが、微調整痕も認められるため使用目的での整形剥離とも考えられる。他では周囲に打点を設定し、次つぎに剥片を剥離した珪質頁岩製の残核(126)が存在するが、剥片との接合は確認できなかった。また130や131のチャートでは接合が認められた。



第67図 第12~14地点出土石器(2)

(14) 第14地点 (第64～67図)

**概要** 本地点は、20U-82・83Gを中心に22点の剥片・碎片等で構成されていた。その主体は20U-82Gの北東隅にあり、大半の遺物がここで集中的に出土している。ここでも剥片が主となり、みるべき石器は存在しない。出土層位は暗色帯のほぼ中央部とすることができよう。

**石材と石器群** 出土した剥片類の大半は安山岩であり、僅少の黒曜石・チャート等で石材は構成されていた。第12・13地点を含め、最も安山岩の占める比率が高かった。石器についても前者同様、成品は存在せず120のような調整痕の施されたもの1点にとどまった。黒曜石製であり、打点部の膨らみを明らかに削除しており石器として利用していることには相違あるまい。また125の安山岩のように石核の一部を構成していたと思われるものもあるが、多量の安山岩が検出されているにも拘わらず成品の存在が確認できない。このことから第12～14地点ではほぼ同時期に剥片剥離作業が中心の場所であったと推測できる。

## 2 第I文化層の石材と石器群

次に、これまで記載してきた第IX層である暗色帯中から出土した石器群の内容について、使用されている石材と石器組成について簡単にまとめておきたい。

**石材** ここで第I文化層と認定した、いわゆる暗色帯から検出できた石器群に用いられている835点の石材について分類すると、安山岩(42.8%)、チャート(13.4%)、黒曜石(11.6%)、ホルンフェルス(9.6%)、頁岩(8.5%)、瑪瑙・石英(4.8%)、珪質頁岩(4.2%)、砂岩(2.7%)、その他(2.4%)という割合になる。この数値からみると、本文化層での主要石材は安山岩を中心としてチャート・黒曜石で構成されていたものと考えて間違いあるまい。

石材別にみると、最も多用されている安山岩は規模の大きな地点においては安定した出土割合を示し、特に環状石器群を構成していた第1-B・C・D地点では約60%と多い。また近接して検出された第12・13・14地点などの中規模程度の石器集中地点でもその割合は多くなっており、この3地点から出土した剥片を観察すると同一母岩から剥取しているようであった。これらの剥片の自然面や剥片の長さから推定すると、その原石はかなり大きいもので、子供の頭部程度の大きさを有していたものと思われた。さらに第1-B・C・D地点などでも同様で、色調その他から石質的にも近いようであった。

次にチャートについてみると、出土数は多いもののかなりの偏りが認められた。最多出土は第2地点であり、約95%を占める。その他では第6地点、第13地点の出土割合が注目できよう。一方、環状石器群での比率は僅少で2%にも満たない。

黒曜石は、それほど多くはないものの第1地点では安山岩に次いで多い出土量であった。他では第4・10・12の各地点でそれぞれある程度の出土はみるものの規模としては小さいため一桁台の数値となっている。ここで共通していえることは、いずれの黒曜石も不純物が少なからず含まれていることである。半透明の良質な黒曜石はA地点から出土したナイフ形石器(第30図-53)を除き検出できなかった。本遺跡では産地同定こそ実施していないものの、供給地は同一の可能性が高い。

ホルンフェルスについてみると、その90%以上が第1地点から出土しているものであり、成品としては本遺跡を代表する唯一の局部磨製石斧の石材である。他に第6地点では総数8点のうち4点を占めていた程度で顕著な出土状況を示すには至っていない。この種の石材は、質的にも比較的柔らかいこともあって製作時には器種を限定されていたものといえよう。

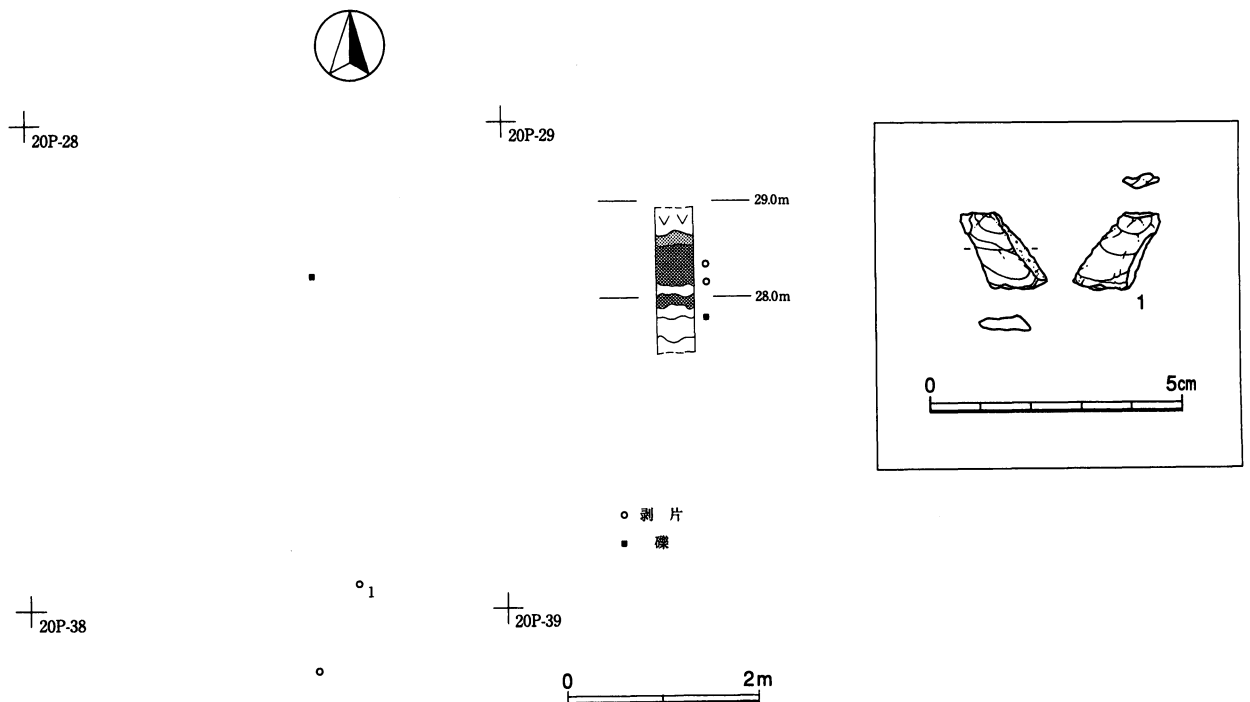
その他の石材についてみると、一般的に高比率を占める珪質頁岩（硬質頁岩）は以外と少なく、第1地点を除くと、第12・13地点において若干出土はしているが、大半は環状石器群を構成するH・I・J地点から集中的に出土している。また、石英・瑪瑙の類はF地点のみから集中して出土しており、表面の色調その他から同一母岩により剥離されたものと思われた。

**石器群** 本文化層から出土した石器群についてみると、環状石器群を構成していた第1地点以外では定形石器の出土は皆無であった。剥片の一部を加工し、石器として利用していた痕跡は認められるが成品の存在は確認できていない。この傾向は、環状石器群の中についてもいえることである。局部磨製石斧を出土しているにもかかわらず、他にはナイフ形石器1点、台形石器5点、削器1点、楔形石器1点、敲石3点、台石1点の構成で、調整剥離等が加えられている剥片は10点を超える。しかし総出土量からみると、器種はともかく明らかに成品の数が少ない。これは環状石器群を形作った当時の人びとにとって、石器製作に必要な剥片を剥離し、異なる場所において成品を製作していたものとも考えられる。製作過程においての破損品や未成品の検出例も少ない。

## 第2節 第II文化層

### 1 第II文化層の概要

本遺跡の調査で第II文化層として捉えた石器出土地点は、第15地点～第20地点の6地点となる。後述するように各地点はいずれも小規模なもので、本文化層を的確に表現できるような石器群は発見されなかった。5地点での出土総数も24点と少ない。石器の出土層位は、第I文化層より若干高くなり、第VII層から第IX層上部にかけて検出されている。



第68図 第15地点遺物分布図・出土石器

(1) 第15地点 (第68図)

**概要** 本地点は、20P-28・38Gにおいて3点のみ出土した小規模地点である。出土層位は図示したように第IX層中となる。第IX層上部にもおよんでいるため第II文化層としたが、層位的にみれば第I文化層としてもよい。

**石材と石器群** 3点の石材は、安山岩・チャート・砂岩の3種となっており、剥片2点と礫片1点という構成であった。剥片のうち1点は図示したが、碎片に近い。

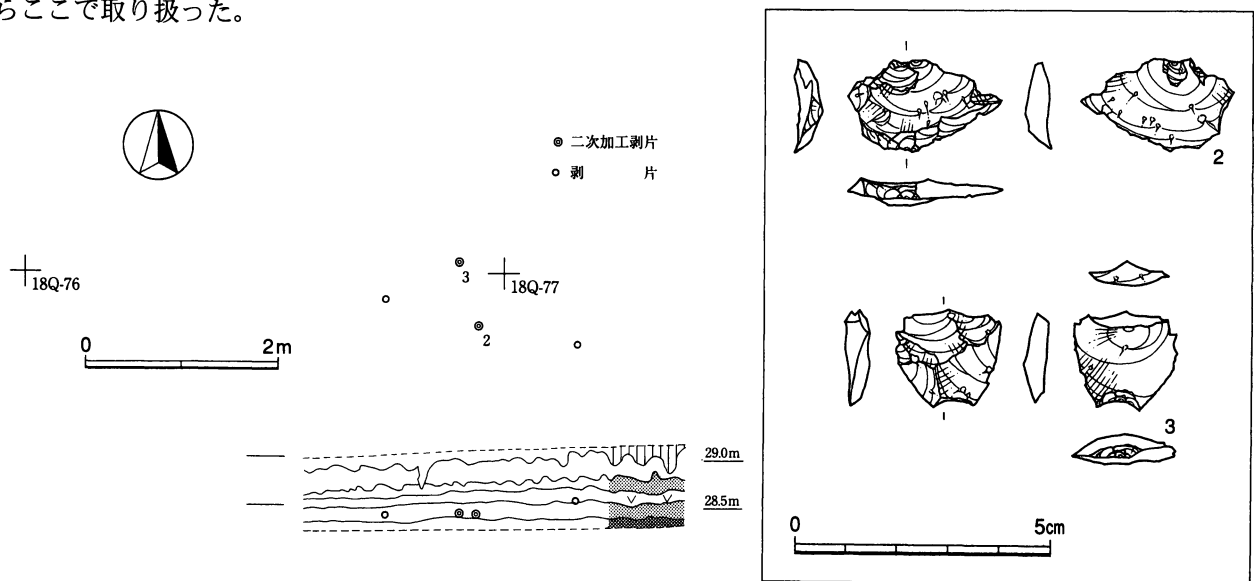
(2) 第16地点 (第69図)

**概要** 本地点の石器群もまた小規模で、計4点の剥片類が18Q-66・76・77Gで検出されたのみであった。図示したように比較的集中しており、出土層位は第VII層にあたる暗色帯への漸移層であった。

**石材と石器群** 4点の石材はすべて黒曜石であり、中には気泡状の不純物が含まれている。図示した2点には小さな二次剥離が認められる。2は横長の剥片を素材としたもので、表面左側縁に使用痕らしき刃こぼれ痕と下端部に2～3回の剥離を施している。3は主剥離面の下端部を抉るように剥離した後、表面に沿って微調整を加えている。丸みをもたせるための加工具として使用したものであろう。図示しなかった2点の剥片はやや大型となり、剥片の形状は横長となっている。うち1点には使用を思わせるような微細な刃こぼれ痕が存在する。これらの黒曜石は、その材質を環状石器群を構成していた黒曜石群と比較すると不純物を含む点では一致するが、やや透明度が増すように思われた。

(3) 第17地点 (第70・71図)

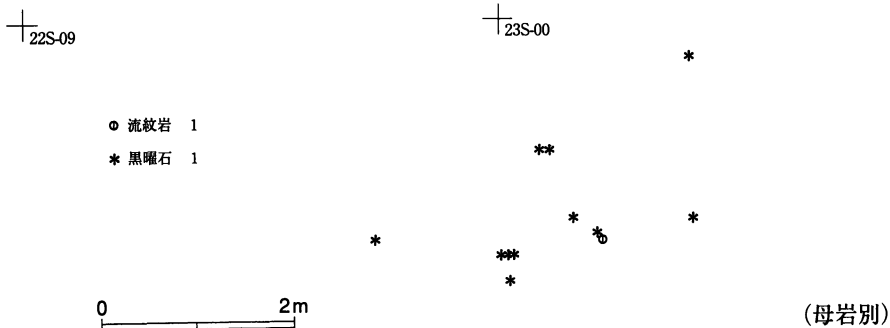
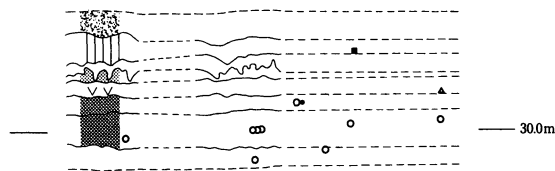
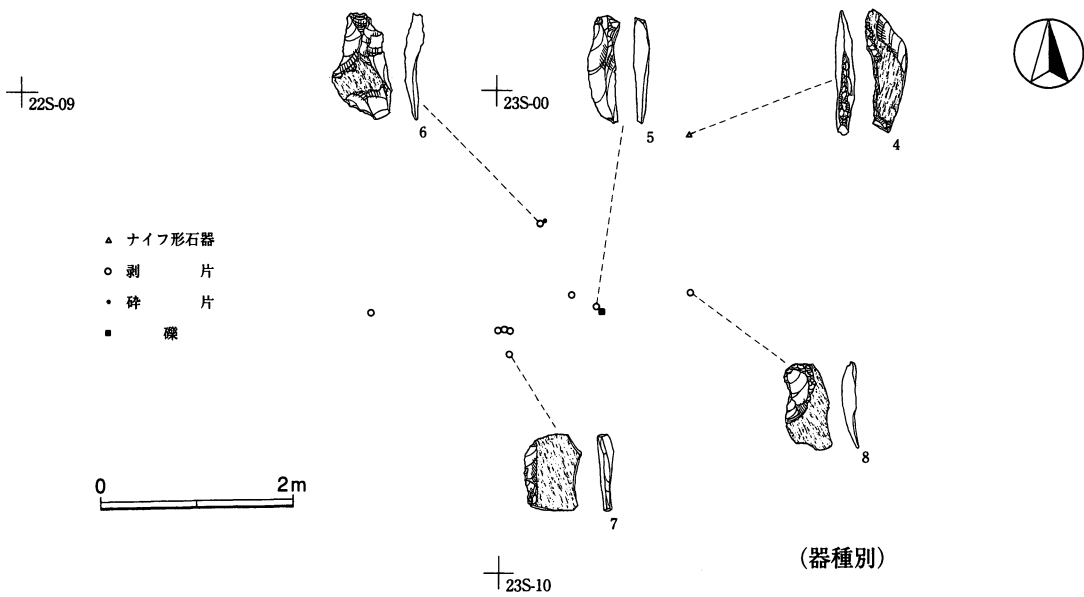
**概要** 本地点では成品を含め12点の石器が検出されている。23S-00Gが分布の中心となり、22S-09Gにも一部がおよぶ。その範囲は長径4m、短径1.5mほどを計測する。出土層位にはかなりの高低差が認められたため、すべてを同一時期と考えることには疑問も残る。12点のうち11点が黒曜石で石質という点でも強く共通性が感じられる一群であった。一方、1点のみ出土した礫片は明確に出土層位が上位で石材も異なるという点から考えると時期的な差があったものと思われた。ただ、同一地点出土ということからここで取り扱った。



第69図 第16地点遺物分布図・出土石器

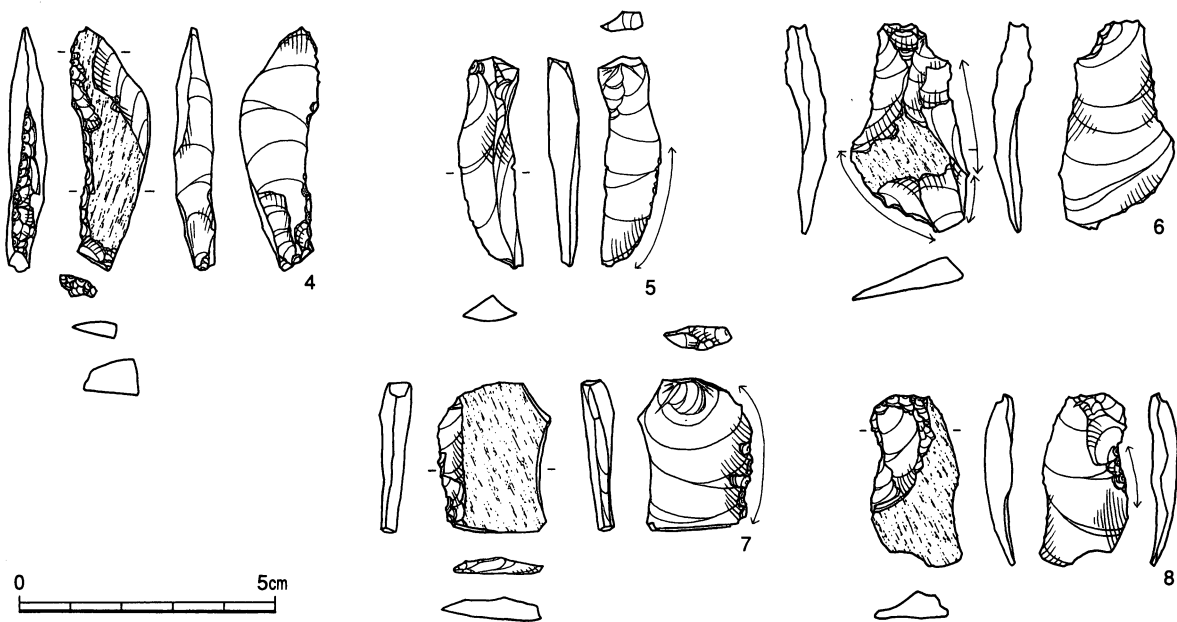
**石材と石器群** ここで特筆できることは黒曜石の石質となろう。出土した11点の黒曜石は、第I文化層や第16地点から出土している黒曜石と比較すると明らかに質的な相違を指摘できる。前述した黒曜石群には少なからず気泡状の不純物が含まれていたが、本地点出土品のすべてにはそれら不純物はまったく認められず色調は半透明を呈していた。いわゆる良質の黒曜石で、石器製作には最適な剥片を取得できるタイプのものであった。剥離された剥片も縦長で、石刃に近い剥片も存在する。

ナイフ形石器(4) ナイフ形石器と見做せるような縦長剥片が1点出土した。表面左側に背面加工を施している。丁寧な調整とはいえないが、先端部にまで及ぶ。主剥離面では1回の剥離と若干の調整が認められる。製作の面からは稚拙な部類に含まれよう。



第70図 第17地点遺物分布図





第71図 第17地点出土石器

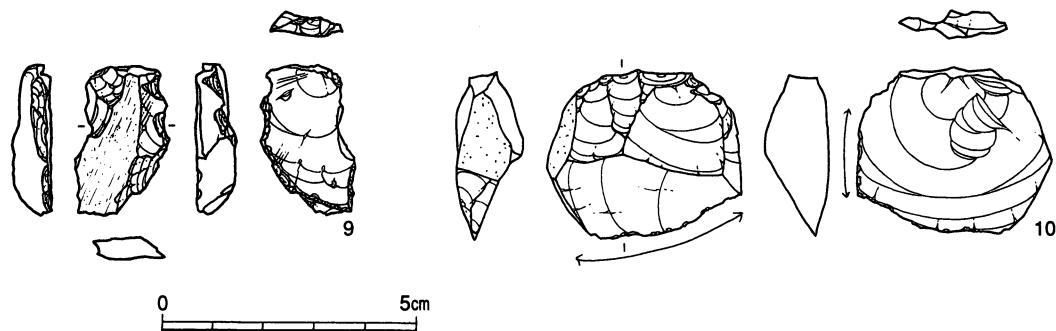
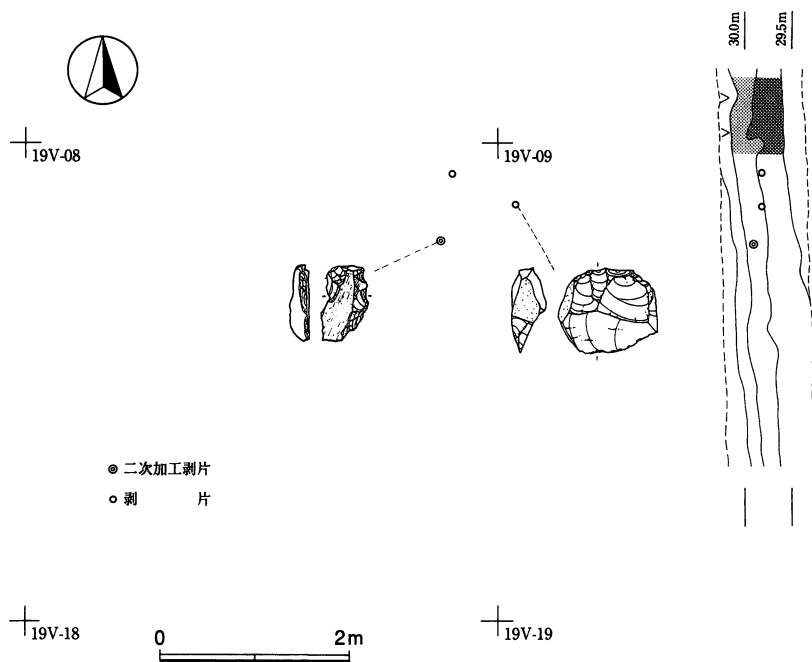
加工剥片（5～8）他の4点の剥片にはすべて調整痕か使用痕が認められる。5は断面が三角状の縦長剥片である。表面左側縁では表裏両面にわたり刃こぼれ状の使用痕が認められる。明らかに使用の痕跡を有する剥片とすることができる。6も同様に使用痕が顕著にあらわれている。特に下端部の刃こぼれは著しい。表面には自然面を残す。7は折断された剥片で、表面の左側縁では小さな剥離が表裏で観察できる。8も主剥離面の中央部に調整痕が認められる。最後の大きな剥離はむしろ整形のためとも思われる。7とともに本剥片も薄いためガラスに近い透明度を保つ。図示は省略したが、他に若干使用痕の認められる剥片が1点存在した。

このように本地点では、それほど多くはない出土量に対し石器として使用されたと考えられる成品・剥片が6点も存在していた。この事実から推測すると、これまで述べてきた石器集中地点とは異なり、当時の人びとの生活感を感じさせる地点といえることができる。

#### (4) 第18地点 (第72図)

**概要** 本地点は、確認調査時に19V-09Gから1点の石器（10）が確認されたため周辺を拡張し、調査を継続したところ隣接した19V-08Gでも2点の出土をみた。その後、石器は確認できず3点のみで終了となったため規模も小さい。出土層位は、第Ⅶ層の暗色帯漸移層から暗色帯の上部に位置する。

**石材と石器群** 3点の石材は、珪質頁岩2点と黒曜石1点で構成されていた。図示したように2点は石器として使用されていたものである。9は良質とはいえない不純物を含む黒曜石で、表皮の部分を剥離した剥片で右側縁に粗雑な剥離を施している。主剥離面にも微細な調整剥離が認められる。10は素材としての形状からみると良好な剥片といえよう。下端部には刃こぼれ痕が認められ、搔器様石器として使用されていたものと考えられた。また主剥離面の左側縁にも同様な痕跡を残す。他の1点は碎片に近いものであった。石器として使用されている剥片が主体となっているところは第17地点に類似する。



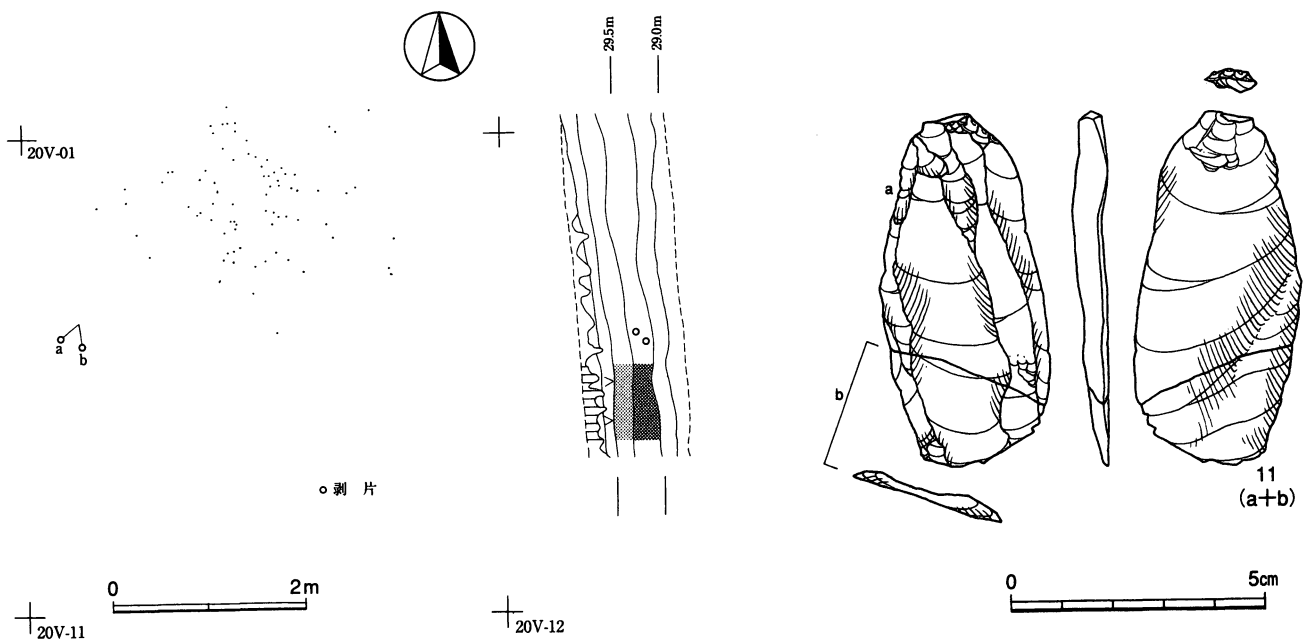
第72図 第18地点遺物分布図・出土石器

(5) 第19地点 (第73図)

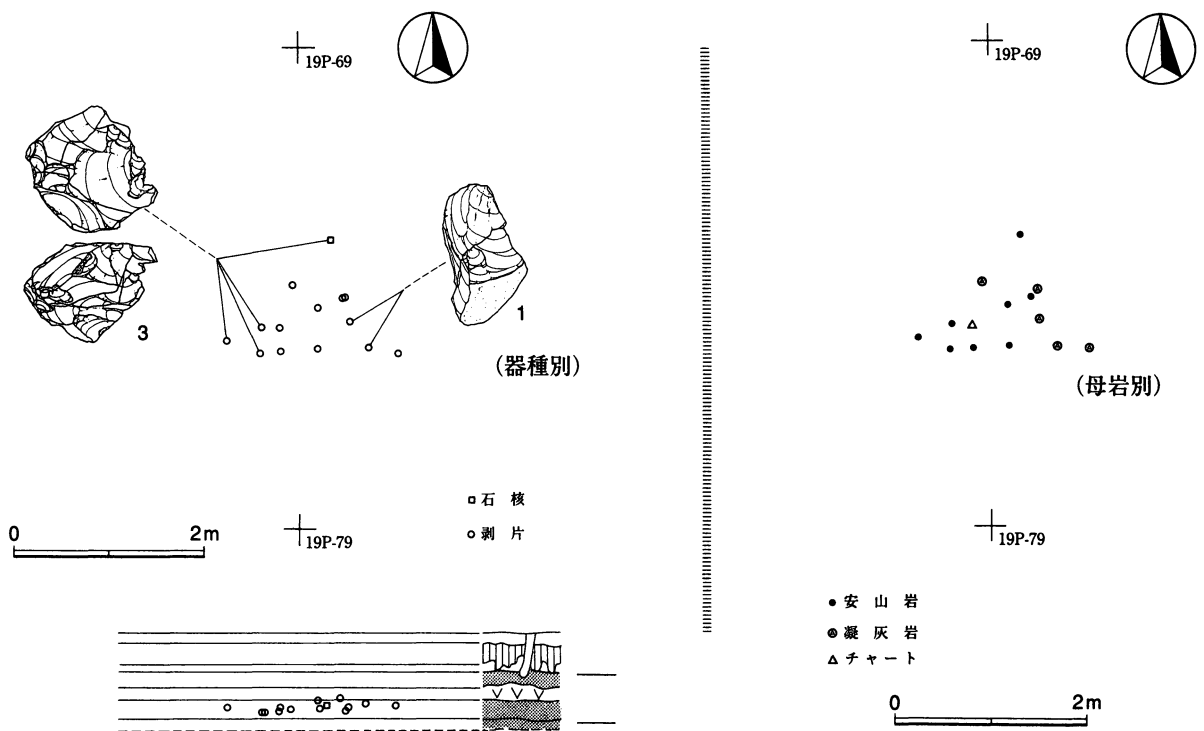
**概要** 確認調査時に20V-01Gから出土した2点の剥片が接合したものである。その後、周辺域を拡張して調査したが遺物は検出できなかった。このため単独出土に近いものといえよう。出土層位は暗色帯の上部となり、周辺では多量の炭化物が検出されている。

**炭化物集中地点** 本地点でも遺物出土地点に隣接し、炭化物が若干検出された。いわゆる暗色帯中での確認となったが東西に3m、南北に2mの範囲で散布していた。

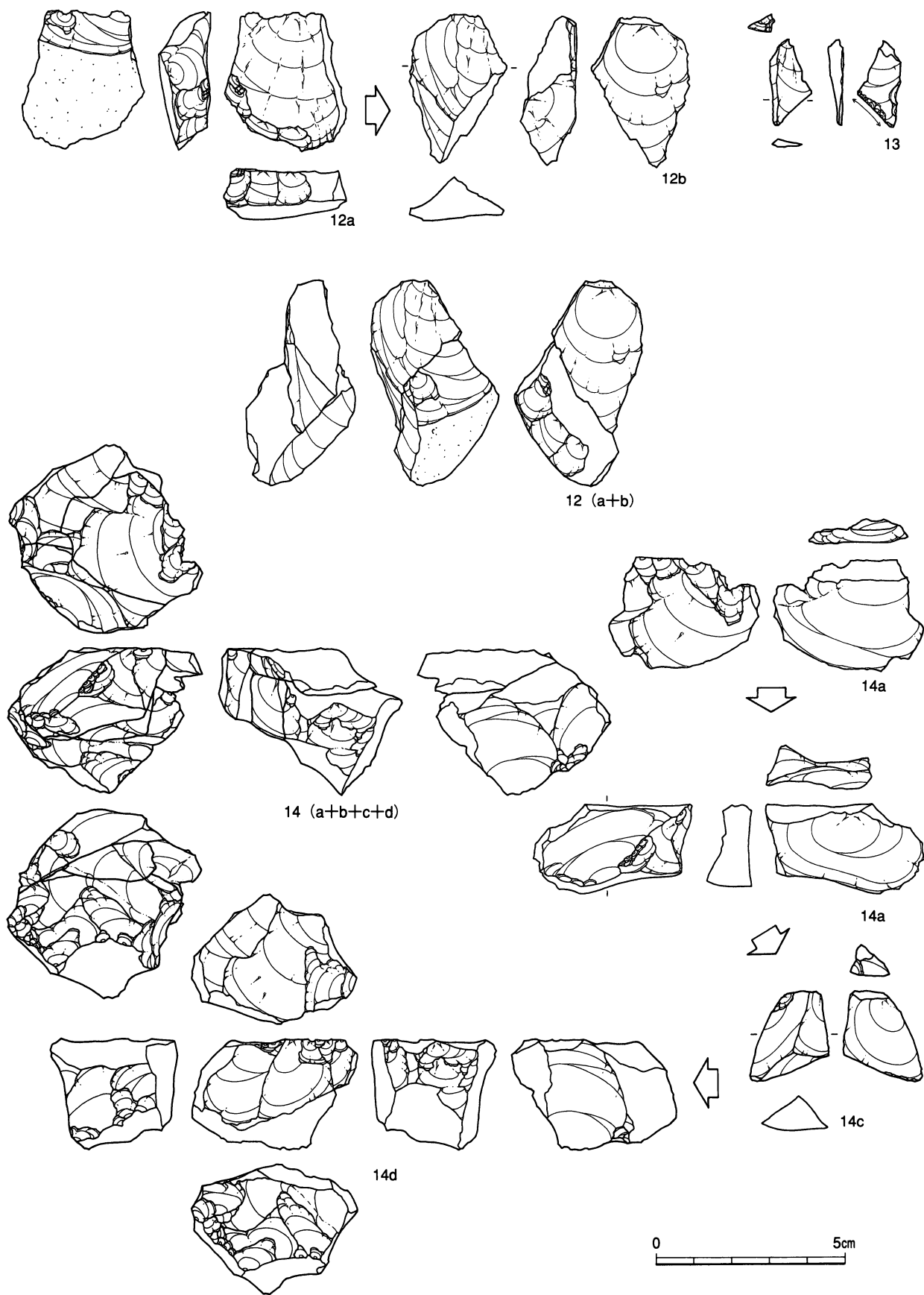
**石材と石器群** 図示した黒曜石の剥片は、内部に黒い縞状の帯が認められ、きれいな模様を形作る。石刃状を呈した縦長の剥片は石器の素材としては十分である。前出剥片同様、左右の側縁には刃こぼれ痕が認められる。



第73図 第19地点遺物分布図・出土石器



第74図 第20地点遺物分布図・出土石器



第75图 第20地点出土石器

## (6) 第20地点 (第74・75図)

**概要** 本地点は19P-69Gにおいて、確認調査時にその一部が検出されたため周辺域を拡張して調査を続行したが、19P-68・69Gで集中的に14点の剥片等が出土したのみであった。これらの出土層位は、暗色帯漸移層にあたる第七層となる。その後、これらの資料は整理途上において多くの剥片が接合することとなり、小規模ながらも石器製作がおこなわれていたことが窺えた。

**石材と石器群** ここでは成品が認められなかったので接合資料を主として図示した。12・13は凝灰岩で計5点が出土した。12は剥片が接合したもので、自然面を多く残す。接合の状態から残核とも考えられる。13は接合関係にはないが、明らかに同一母岩から剥離された剥片で下端部に微調整が施されている。14は緻密な結晶がみられる黒色を呈した安山岩で、石核部から剥離された剥片7点が確認できた。3点の接合をみたが、他は碎片に近いもので接合までには至らなかった。接合状態の観察から自然面は認められないため比較的大きな原石を選択していたようである。14a・14bとした剥片は石器素材として十分利用できる形状を有している。

## 2 第Ⅱ文化層の石材と石器群

これまで第Ⅱ文化層として述べてきた第15地点～第20地点までの石器群について簡単にまとめておきたい。これら6地点の石器群は総数でも38点と少なく、いずれの地点でも小規模な構成でしかなかった。しかも文化層として捉えた場合、器種構成や使用石材といった点ではその内容を把握できない点が多々存在する。このため、ここでは出土層位が一部重複する第Ⅰ文化層との比較を通して若干述べておくことにとどめたい。

**石材** 本文化層では合計38点と遺物数は少なく、用いられている石材では黒曜石(18点)が卓越し、他は安山岩(9点)・凝灰岩(5点)・珪質頁岩(2点)・チャート(2点)で構成されている。礫としては流紋岩(1点)・砂岩(1点)が観察された。このことから本文化層は、ほぼ黒曜石によって構成されていたと考えてよいであろう。その石質を観察すると、第16地点と第18地点において出土した黒曜石には気泡等の不純物が混入しており、この点からは第Ⅰ文化層のものと同質といえた。一方、第17地点と第18地点出土の黒曜石は半透明で良質のものとなり、剥片剥離には最適といえるような石質であった。この相違はむろん産出地が異なることに起因するものであろうが、その差は一目瞭然であった。一般的には気泡等が混入されている場合、箱根産で半透明な石質を有するものは信州産といわれており、古くは近くの産地から供給されていたとみることができよう。

**石器群** 石器群として捉えた場合、本文化層では取りたてて記述できるような内容を有しているものではない。強いていえば、38点と少ない中で何らかのかたちで石器として使用されていたものは13点にも及んでいた。さらに石器製作には必ず付随する剥片・碎片の少なさ、残核等の出土が皆無であり、ナイフ形石器や台形石器といった直接生産具の出土も僅少であった。これらを考慮すれば、本文化層を構成していた人びとは比較的短期間ではあるが、集落内での限定された労働に従事していたものと考えられる。

唯一出土したナイフ形石器は片側だけの加工で、基部での調整も粗雑なものとなっている。これを第Ⅰ文化層の第1地点・第11地点出土の黒曜石製ナイフ形石器と比較すると石質に相違はあるものの背面での粗雑な加工や基部調整の未熟さは、第Ⅱ文化層出土のナイフ形石器と共通するように思われる。いわばこの時期の成品は、それほど入念な仕上げには至っていないようなものが多いようである。

### 第3節 第Ⅲ文化層

#### 1 第Ⅲ文化層の概要

本報告で第Ⅲ文化層として捉えた地点は、第21地点～第34地点の合計14地点に及ぶ。これを総体的にみると、環状石器群が検出された第Ⅰ文化層を遺物出土量、器種等で凌いでおり、豊富な資料提供のあった文化層となる。各地点の内容については後述するが、とりわけ第21地点から第24地点とした石器集中地点は大グリッドでいうところの190区に近接して位置し、安山岩の原石や接合資料といった部分で多くの情報を提供してくれた。このため整理の過程において出土層位や接合関係等が認められたため、これら4地点の整理作業については同時に進行させていった。さらに17P区でも互いに接近した位置で、規模は小さくなるが5か所で集中地点が確認されており、ここでも石器群を大きな集中地点として捉えつつ整理作業をすすめた。このように接近した形で同一層から石器群が発見されることはしばしばみられることであり、明らかにある一定期間、小集団が居住していたことを示す証左となるものであろう。このような面からみても本文化層は興味のもたれる文化層といえる。

石器群の出土層位についてみると、概ね第Ⅲ層下部から第Ⅵ層上部に位置しており、いわゆるハードローム層中からの検出である。ある程度の時期的な差は存在するものと思われるが、この点については最後に触れてみたい。以下、各地点の概要とともに石材・石器群について記述する。

#### (1) 第21地点 (第76図, 第82・83図, 第84～111図)

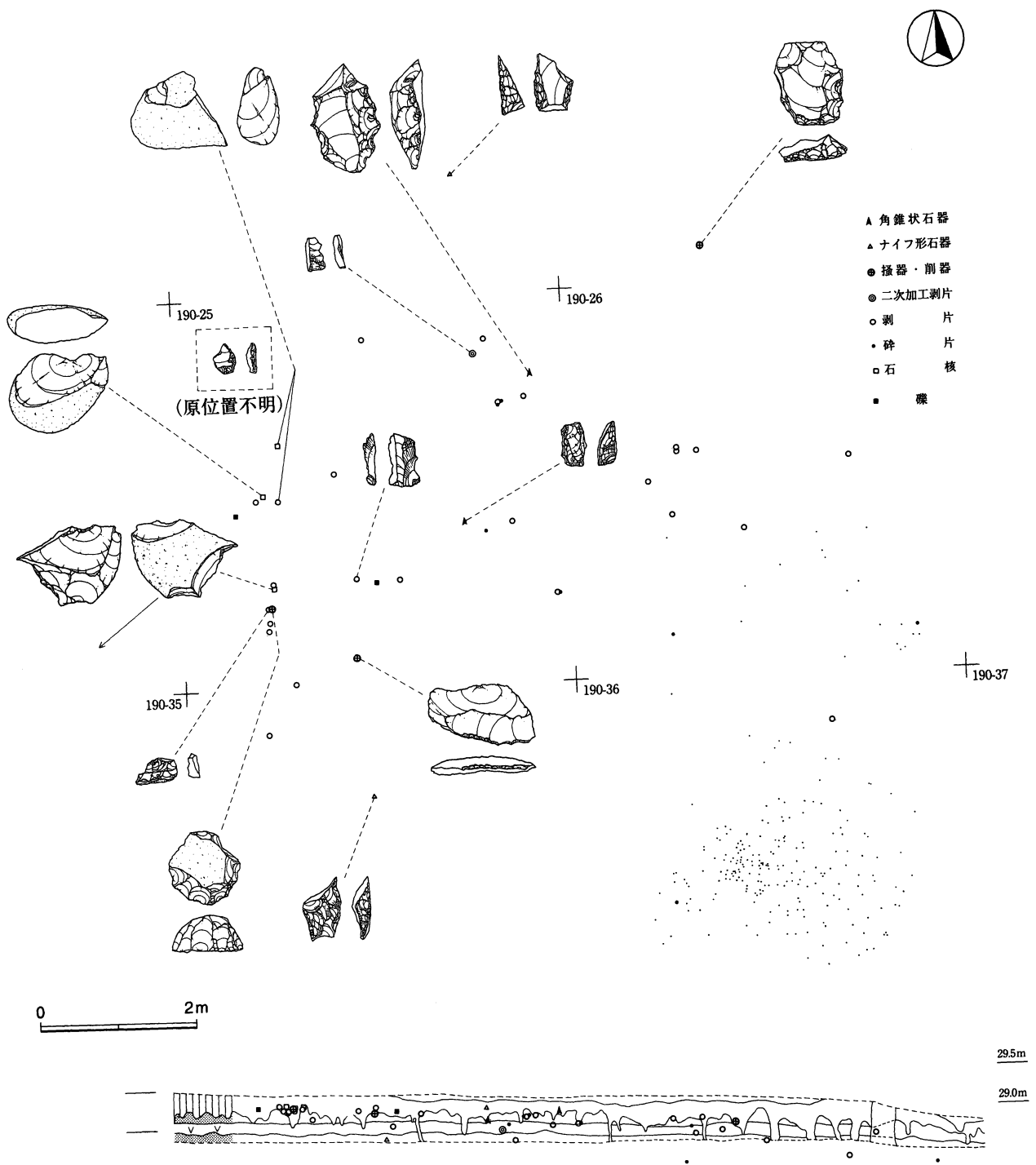
**概要** 本地点は190区の東に位置し、第74図でもみられるように東に向かって大きく傾斜している斜面部において検出された。集中地点としての規模は、他の3地点と比較すると出土遺物の量では劣る。だがその範囲は南北に8m、東西に8mとなり、190-15・16Gの一部にまで遺物が拡散していた。疎らな広がりではあったが広範に遺物が認められた。出土層位は、大半が第Ⅳ層から第Ⅵ層にあたり、いわゆるハードローム層中といえよう。さらにその一部は第Ⅶ層にも及ぶ。接合関係についてみると、安山岩の36b (第102図) が第23地点の剥片と接合している。

その他に遺物の分布が希薄となった190-36Gでは第Ⅵ層から第Ⅶ層にかけて炭化物が検出されている。石器群の集中地点とは若干の距離差はあるものの本地点に関連する遺物として捉えることができるように思われた。

**炭化物集中地点** その他に遺物の分布が希薄となった190-36Gでは、濃密な分布とはいえないが第Ⅵ層から第Ⅶ層にかけて炭化物が検出されている。その大きさは1mm～2mm程度の粒子状のものであった。石器群の集中する190-25Gとは若干の距離差はあるものの本地点との関連を示唆できる遺物として捉えることができよう。

**石材と石器群** 本地点での石材をみると、総数47点のうち黒曜石23点、次いで安山岩が18点 (うち礫3点) となり、碧玉・瑪瑙・玉髓・珪質頁岩・凝灰岩・チャートが各1点ずつ出土している。このため、本地点での主な石材構成は黒曜石と安山岩といってもよいであろう。出土した成品としてはナイフ形石器・角錐状石器・搔器・削器の他に加工剥片があり、器種も豊富といえる。

**ナイフ形石器** (61・87) 61は黒曜石の横長剥片を素材にしており、主剥離面では自然面を残す。刃部が欠損しており、全体の形状は把握できない。背面や基部の加工は比較的大きな剥離で整形し、仕上げに細かな調整を施すが、作りとして粗雑となる。石質は透明度があるものの若干気泡を含む。87は碧玉製で、



第76図 第21地点器種別分布図

基部を欠損する。背面及び側面の加工は先端部にまで入念に施されている。欠損面からみると基部は分厚く頑強さを感じさせる。

**角錐状石器** (14・66) 14は安山岩製で、分厚い打点部に大きな整形剥離を加え断面三角形を作出する。側縁部での剥離も大きく形状を整えるといった程度である。表面左上の1次剥離面を重視すればナイフ形石器としてもよいであろう。66は不純物を含む黒曜石を素材とし、先端部が欠損する。左右の側面には整形のための粗雑な剥離が施されている。小型ながら分厚い剥片を素材としておりここに含めた。

**搔器** (39・84) 39は安山岩の大きな剥片をほぼ円形に整形した搔器で自然面を多く残す。調整は刃部に若干加えるだけである。84は打面部をそのまま残し、下半部を整形後、刃部を小さな剥離で丁寧に調整している。石材には瑪瑙を使用している。

**削器** (46) 安山岩製で横長の剥片を利用している。刃部は小さな剥離で作出された簡単な作りである。

**加工剥片** (60・86) 60は右側縁の上部に微調整痕が認められる。素材は半透明の中に縞状の帯の認められる黒曜石である。86は玉髓製で、周縁部に小さな調整が施される。形状は切出しタイプの石器を連想させる。石器として使用されたことは確実である。

**接合資料** (36) 接合した安山岩で、36bから数枚の剥片が剥離されており残核ともいえよう。原石は拳大程度の大きさと思われた。さらに36bの下端部では、2回の整形剥離後に調整剥離を施しており、石器として使用していたことが理解できる。

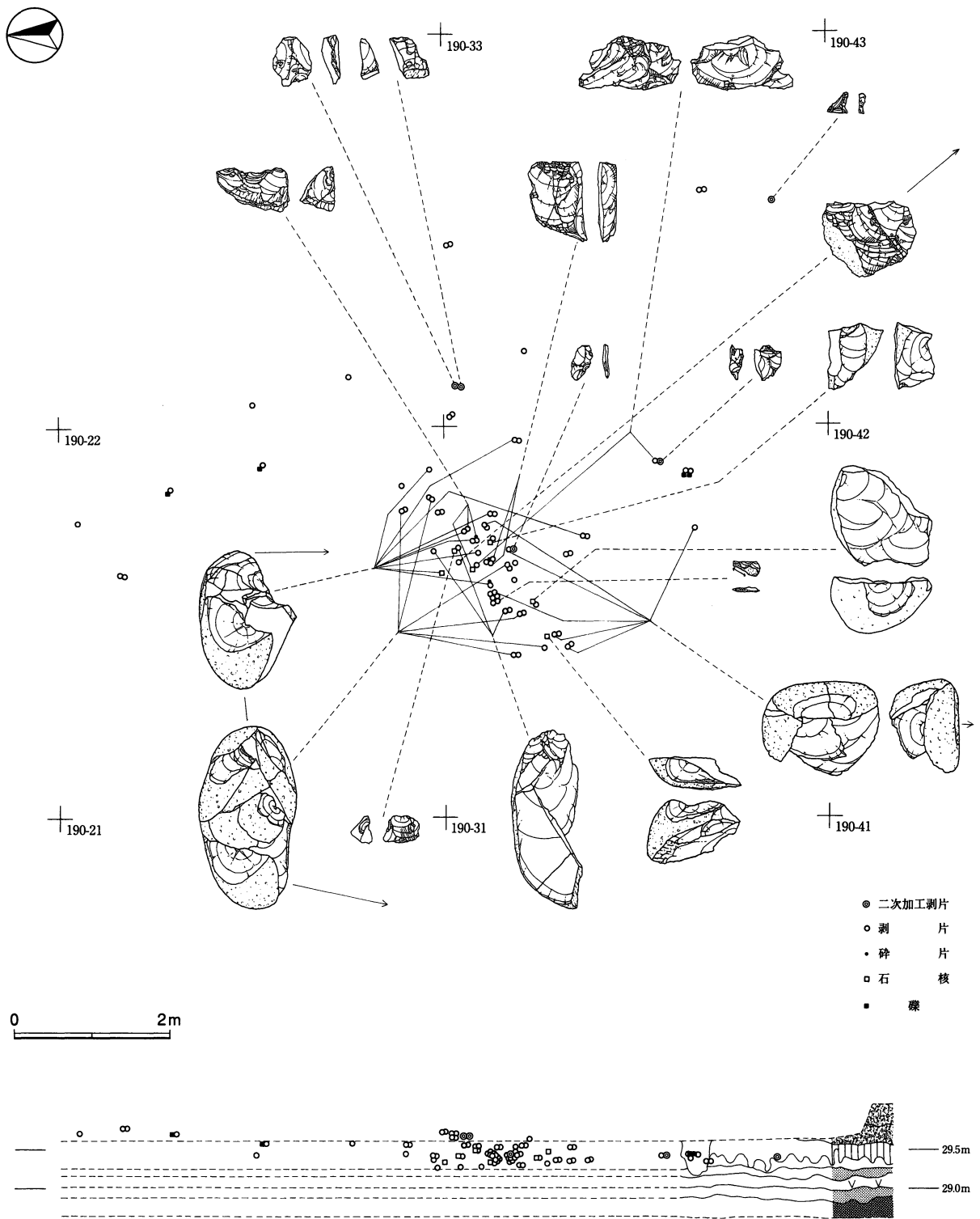
## (2) 第22地点 (第77図, 第82・83図, 第84～111図)

**概要** 本地点は190-31Gにおいて集中的に遺物が検出され、その分布は190-21G, 190-32Gへと広がりをみせた。分布域としては北西に向かって楕円状となり、長径10m, 短径6mを計測する。出土層位については集中分布地点での透視図は推定となったが、緩斜面にあたるため第IV層から第VI層上部のいわゆるハードローム層といえよう。また、ここでは地点間の接合関係も第21地点との間に2資料、第23地点との間に1資料が確認でき、相互間の密接な結びつきを証明するものと捉えることができた。これらの資料はいずれも安山岩であった。

**石材と石器群** 石材について観察すると、出土総数94点のうち安山岩32点、黒曜石32点、チャート25点が主となり、他に粘板岩2点、頁岩2点、石英斑岩1点という構成になった。主要石材は安山岩・黒曜石・チャートの3種といえよう。前者の第20地点と比較するとチャートの増加という点に相違がみいだせる。一方、出土石器を観察するとその多くは剥片で定形石器は皆無の状態である。使用の痕跡を示す剥片は数点出土しているが、成品の少なさが本地点の特徴ともいえた。ここでは加工剥片としてチャート製4点、黒曜石製1点を図示したが、いずれも小剥片で碎片に近い大きさでしかなかった。しかもチャートの場合、その表面を観察すると節理面がしばしばみられ、剥離された剥片ではほとんど成品を得ることはできないような原石を用いているようであった。

**加工剥片** (62・75・76・78・81) 62は黒曜石で形状としては碎片となろう。下部に微調整痕が認められる。75はほとんど碎片といえる。右側縁に小さな剥離が認められるが石器としての機能を有していたかどうか疑問も残る。76は主に主剥離面に整形のための剥離が認められる。鋭利な側縁を作出している。78は下端部に両面から小さく剥離している。楔のような使い方が想定できる。81の形状も碎片の類となろうが、表面右上部を抉るように微細な剥離を施す。総じてチャートの石質はよくない。





第77图 第22地点器種別分布图

接合資料（4・12）ここでは剥片剥離工程の全容が理解できる資料に恵まれたため、これらも含めて石核と剥片の関係についても触れておきたい。4は長さ9cm弱の安山岩で、剥離の順序は第83図に示したように剥片4aを剥取後、その面を打面として4b・4c+4dを剥ぎ取る。次に4c+4d面を打面として、4e～4iを剥離する。最後に4e～4i剥離によって形成された面を打面として第84図に示す剥片剥離をおこない全工程を終了している。12では、原石は長さ6cm弱と小さく12a+12bを剥離した後、順次剥離し、その形状から打面は1面のみとなる。本例のごとく、原石が小さい場合は打面調整という作業は省略し剥離された平坦面を打面として可能な限り剥片剥取をしている。このため2点とも、残核という最後の状態は存在しない。

### (3) 第23地点（第78図、第82・83図、第84～111図）

**概要** 本地点は190-41Gで多量に遺物の出土が認められ、隣接する190-40・421G、190-50・51Gへの広がりもあり、径6m前後の中での濃密な分布をみた。出土層位は第Ⅳ・Ⅴ層が中心となりつつも第Ⅲ層下部でも散見的に遺物は検出されている。接合関係では前述したように第21地点との関連が強い。

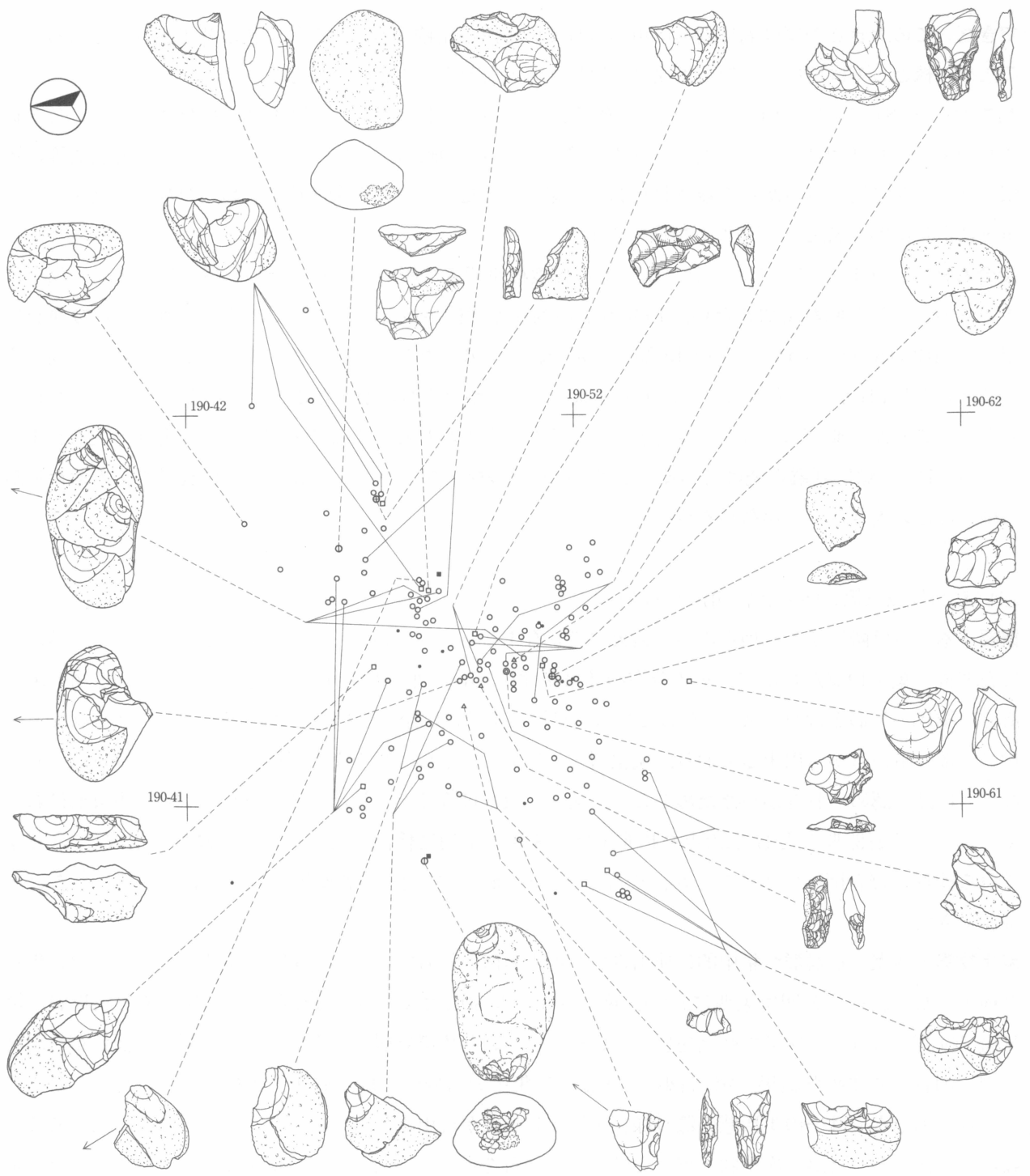
**石材と石器群** 狭い範囲ではあるが、多くの遺物が検出された本地点は、合計166点の成品・剥片等があり使用石材の内訳をみると、安山岩135点、黒曜石19点、チャート5点、粘板岩1点、碧玉1点、不明5点となる。本地点は明確に安山岩が主要石材となっている。ここで不明とした5点は同一の石材で暗褐色を呈しており、その重量の軽いものであった。おそらく珪化木的一种であろう。図示は略したが、これら珪化木と思われる遺物は合計10点出土しており、第23地点出土の剥片と接合している。いずれにしろ本地点での石材は、安山岩が卓越した出土量を保持していた。また成品ではナイフ形石器・台形石器・削器・敲石と内容的にも充実している。

**ナイフ形石器（17・56）** 17は基部に打点を有し、その周辺はきれいに仕上げられている。両側面については整形を兼ねた大きな剥離を施し、左側ではさらに形状を整えている。刃部は直刃に近い台形あるいは切出形ともいえよう。主剥離部分での加工は認められない。石材には安山岩を利用している。56は黒曜石製で、半透明の良質な石材を使用している。横長の剥片を利用しており、表裏面ともに大きな剥離により整形する。その後、左側面にのみさらに小さな剥離で整形しナイフ形石器とする。先端が僅かに欠損し、一部に自然面がみられる。作りとしては粗雑な部類に入る。

**台形石器（57）** 形状から台形石器としたが、加工部分では17のナイフ形石器と類似点をもつ。本資料では主剥離面のバルブ部分を大きな剥離で削除し、次いで小さな剥離で側縁をきれいに仕上げている。裏面での加工はほとんど皆無といえる。刃部では僅かな欠損が認められた。石材は黒曜石で、56と同様半透明の良質な石質である。

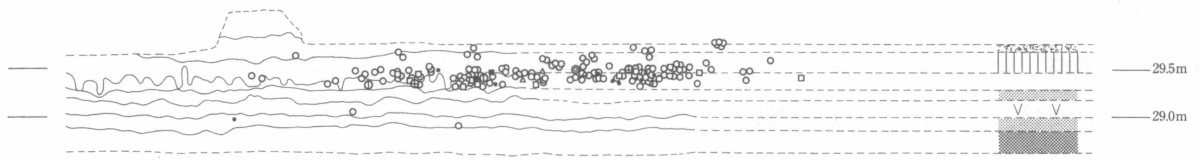
**削器（40・41）** 2点が出土している。ともに安山岩を使用し、40は下端の一部を加工しているだけであり尖った先端を形作る。この形状から石錐の可能性も強い。41は左側縁を大きな剥離で整形し刃部としている。作りは粗雑といえよう。欠損は折断によるものか使用に起因するものか明確ではない。2点とも表面に自然面を多く残すところから使用した礫は大きなものではないと思われた。

**敲石（1・2）** 搬入してきた礫を敲石として使用している例が2点に認められた。1は長さ約7.5cmの礫の両端に使用痕が残されており、下端部では著しい。また表面では節理面と考えられる窪んだ筋が幾筋か認められるため石核としては不向きだったようである。2は約6cmを計測し、両端には若干の使用痕が確認



0 2m

- |          |          |      |
|----------|----------|------|
| △ ナイフ形石器 | ○ 蔽石     | ● 碎片 |
| ⊕ 削器     | ⊙ 二次加工剥片 | □ 石核 |
| ▲ 台形様石器  | ○ 剥片     | ■ 礫  |



第78図 第23地点器種別分布図

できた。この大きさの礫は剥片剥離に用いられている礫と比較すると、その形状は若干小さめとなる。そのため石核としては用いず、他の用途に転用したものと考えることが妥当となろう。

**加工剥片 (88)** 石材は碧玉としたが、表面では光沢を帯びる。下部には粗雑な剥離が認められ、スクレイパーのような使用法が考えられる。また本資料は、第21地点出土のナイフ形石器 (87) と色調等の観察から明らかに同一母岩から剥離された剥片と認定できた。直接の接合関係は認められなかったが、この事実により第21地点との関連性も指摘できよう。

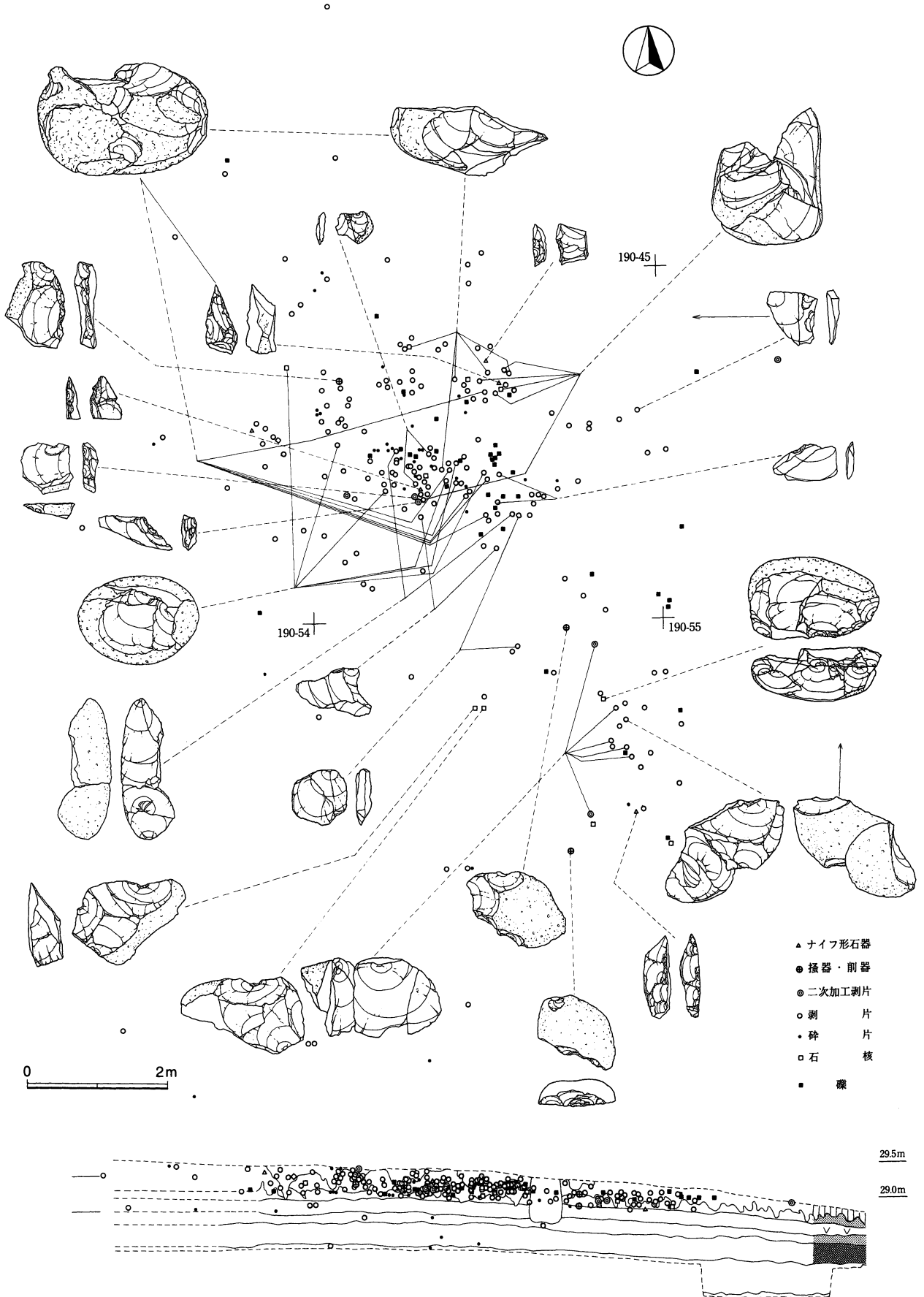
**接合資料 (11・15)** ここでも接合によりある程度復原できた礫が存在するため石核として扱い、簡単にその内容について触れておきたい。11は5点の剥片と残核が接合したものである。剥離は平坦な面を作出し、剥片11a→11 (b+c) →11dの順に剥離を続け、残った11eからも3～4点の小さな剥片を剥いている。しかし11eからの剥片は碎片に近い形状のものしか得られなかったことであろう。15は4点が接合した例であるが、原石の1/2程度の大きさになるものと思われる。ここでも平坦な面を作出した後、15a→15b→15cの順に剥離を続けている。15dはいわば残核となろう。この2点の接合資料もその遺存形から敲石ほどの大きさでしかなかろう。

#### (4) 第24地点 (第79～83図, 第84～111図)

**概要** 本地点は隣接する4地点の中で最大規模を有するもので、190-44Gを中心として190-54Gにまで石器群の集中地点がおよぶ。その分布範囲は南北に15m、東西に10mと広範囲であった。遺物の出土層位は第Ⅳ・Ⅴ層となり、AT含有層である第Ⅵ層にまでには至っていないようであった。ただ剥片・碎片の一部は暗色帯から出土しており、文化層として捉えるならば第Ⅰ文化層に含まれようが数量的にも少なく、成品も認められなかったためここで一括して取り扱うこととした。また190-44Gの中央部において、密集する石器群とともに20点を超す焼けた礫が集中的に検出され、いわゆる礫群を構成していた。これら礫群の接合関係は省略したが、少なくとも10cmを超す大きな礫が数個以上は存在していたことが推測できた。

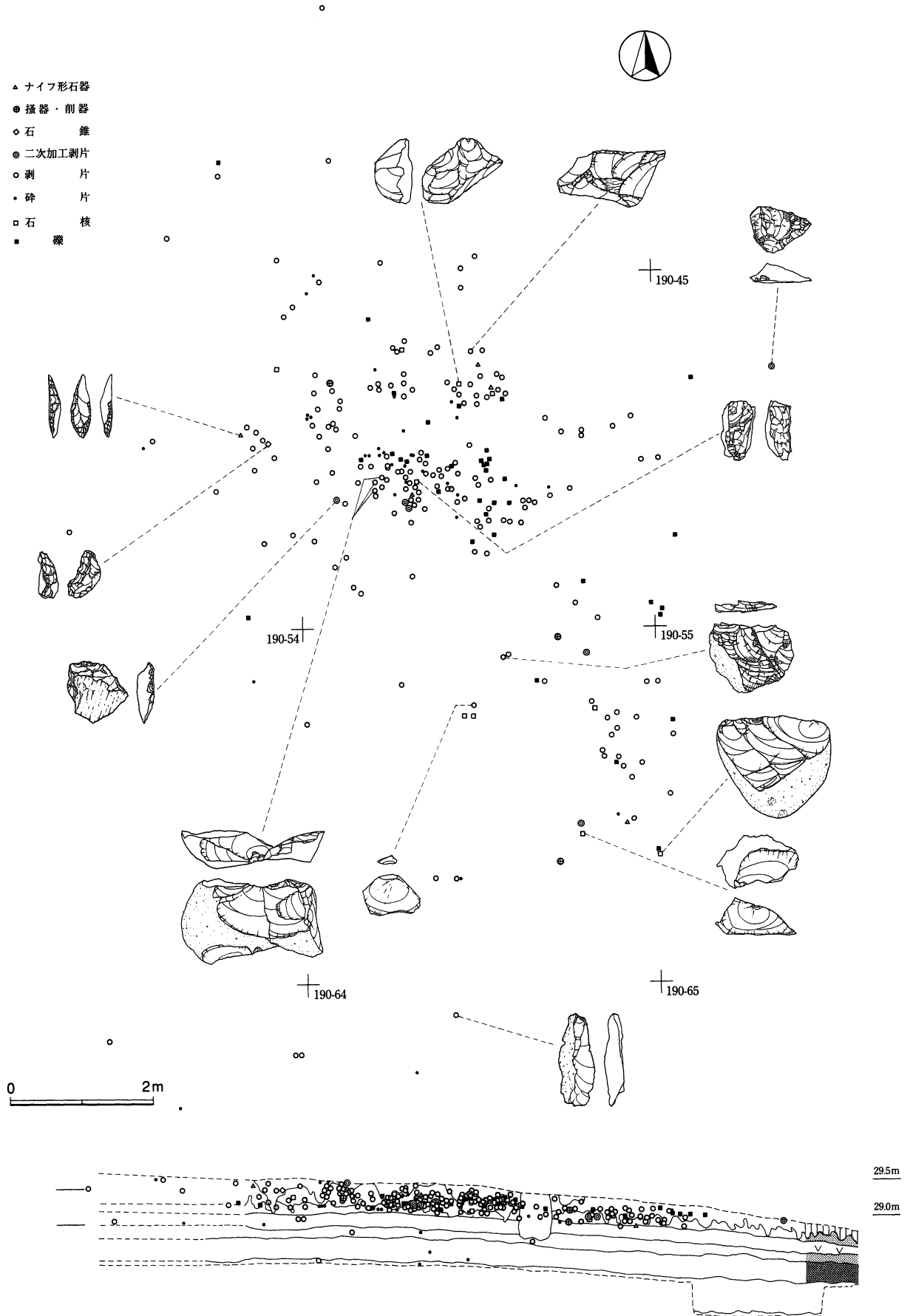
**炭化物集中地点** 石器群が集中的に検出された地点の南に位置する190-54Gを中心として多量の炭化物が検出された。その範囲は東西に10m、南北8mに及ぶ広大なものとなった。この炭化物は第Ⅳ層～第Ⅴ層で確認されはじめ次第に範囲を広げていった。そのため第Ⅵ層の調査から5cm間隔で平面分布を記録しつつ調査をすすめた結果、第77図に示すように集中分布域から焼土も検出されるに至った。このことにより、本地点では一層生活感の漂う様相を呈する状況が現出されることとなった。また石器集中域では礫群の存在もあったが、炭化物・焼土とは異なる分布を示していた。さらに焼土についてみると、その範囲は東西に1.5m、南北に0.9mを計測し、焼けてブロック状に固まったものも一部に認められた。この焼土の厚さは断片的ながらも暗色帯へと続いた。このような検出状況から炭化物集中地点を中心としたこの一帯は、長期間にわたり火気を使用した居住空間とすることができよう。ここでの調査は、石器群の出土が確認できなくなった層序をもって終了とした。

**石材と石器群** 大きな規模を有していた本地点では遺物の出土も多く、総数で270点もの出土が確認された。石材別では、安山岩152点、黒曜石41点、チャート41点、ホルンフェルス6点、砂岩5点、珪質頁岩4点、頁岩4点、碧玉4点、凝灰岩3点、瑪瑙3点、粘板岩1点、玉髓1点、不明5点の構成（この中には礫群の30点を含む）となる。ここでも安山岩が総数の56%と大きな比率を占め、黒曜石・チャート

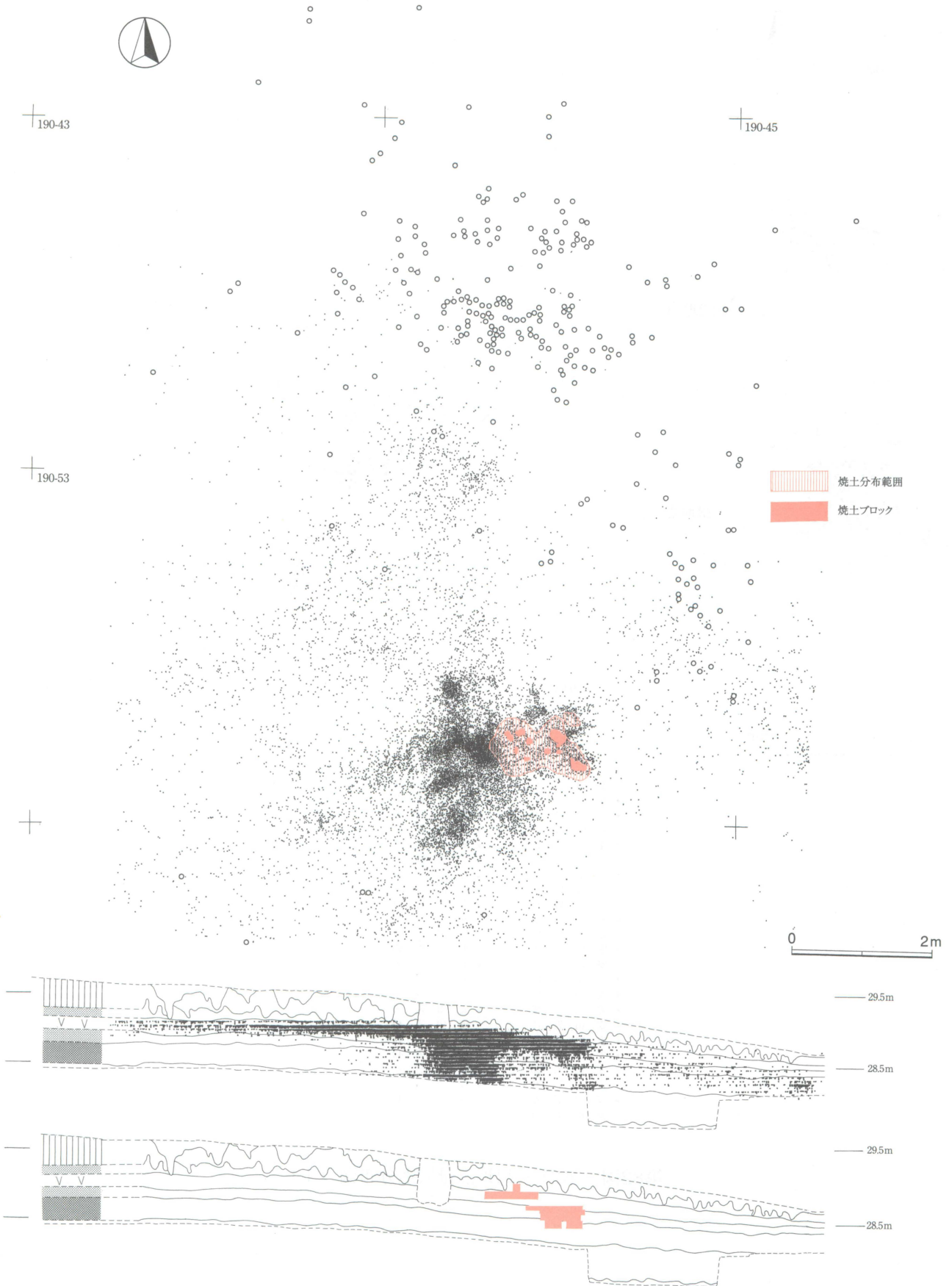


第79図 第24地点器種別分布図（1）

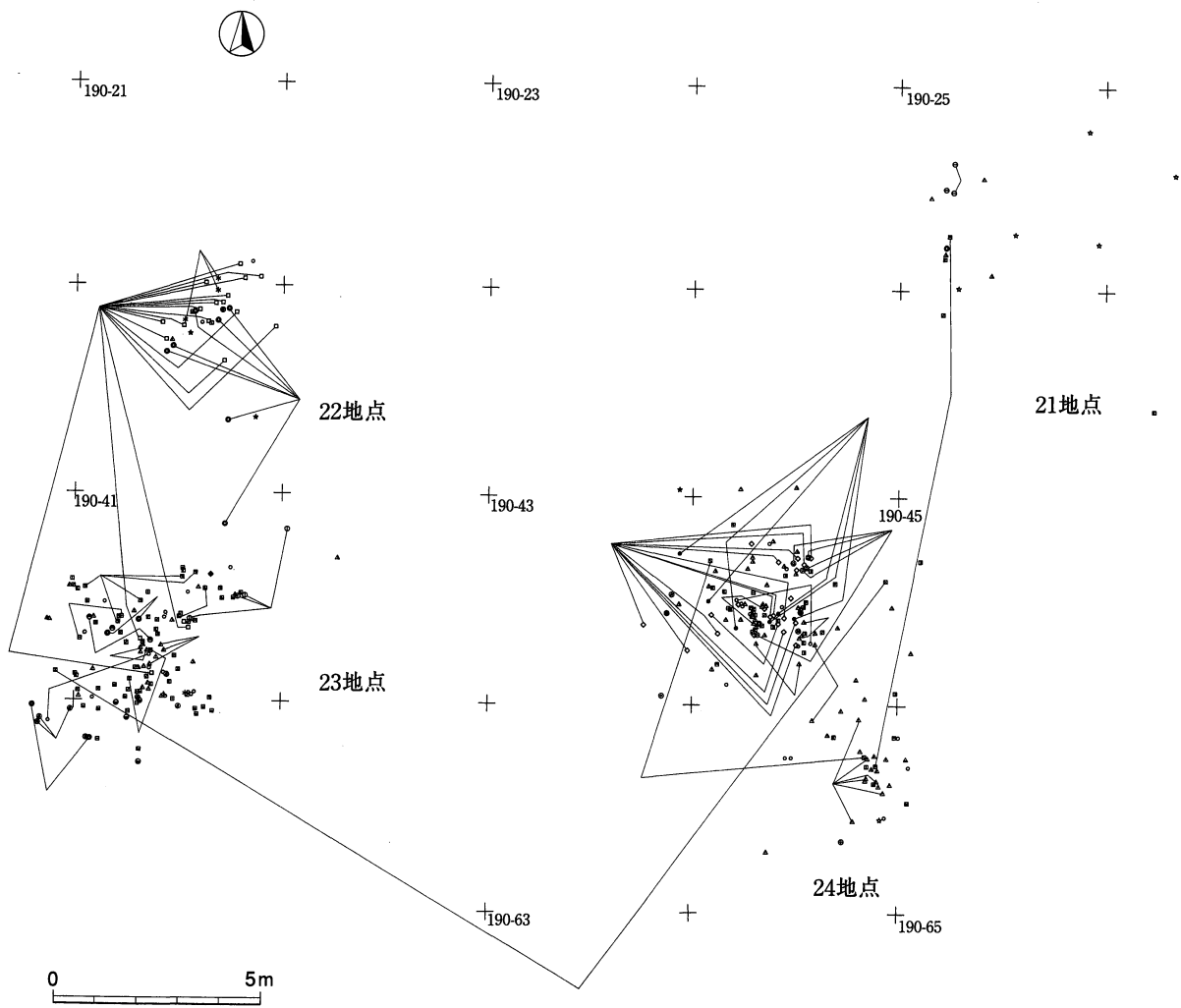
- ▲ ナイフ形石器
- 掻器・削器
- ◇ 石 錐
- ◎ 二次加工剥片
- 剥 片
- ・ 碎 片
- 石 核
- 礫



第80図 第24地点器種別分布図 (2)



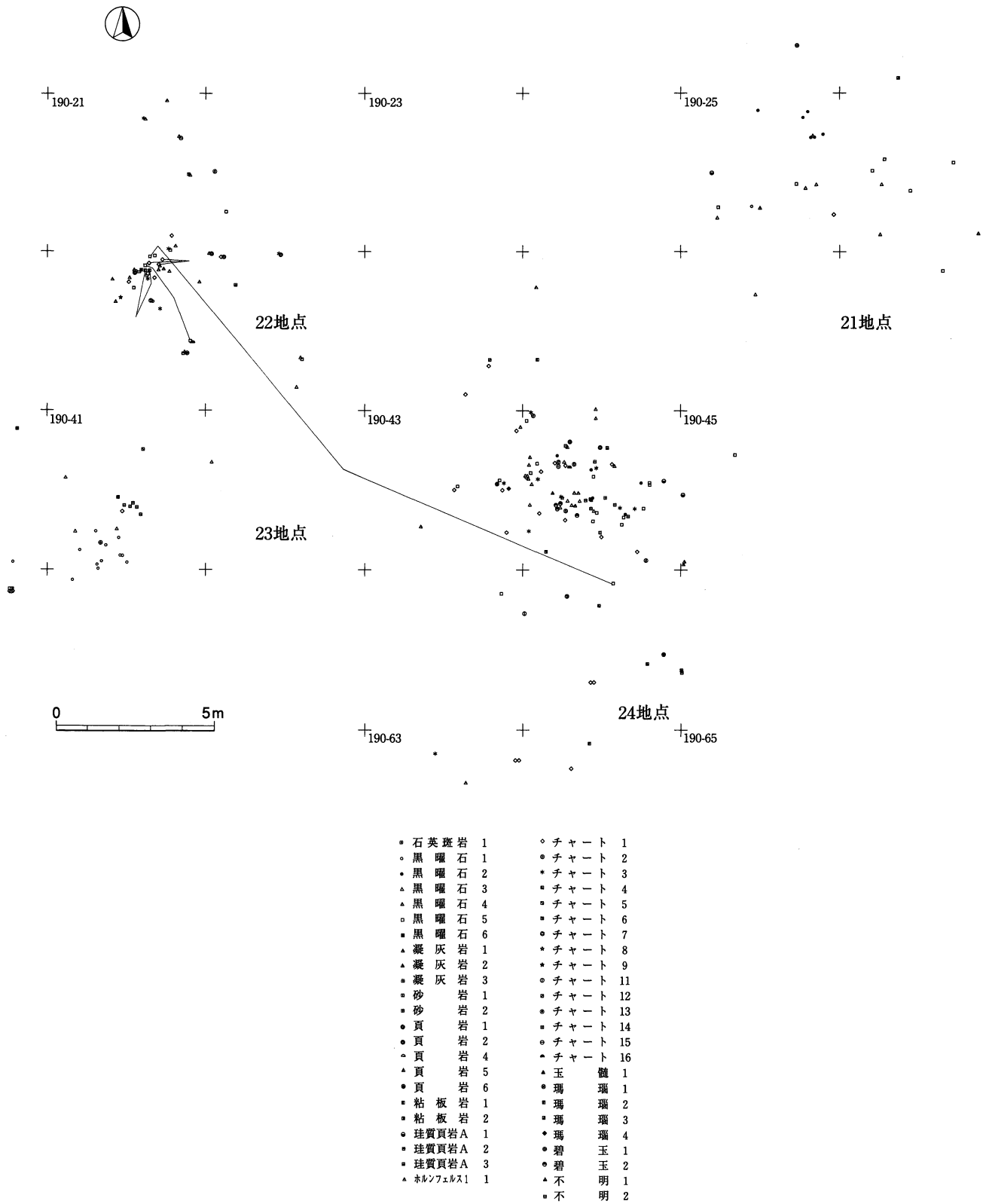
第81図 第24地点炭化物及び焼土分布図



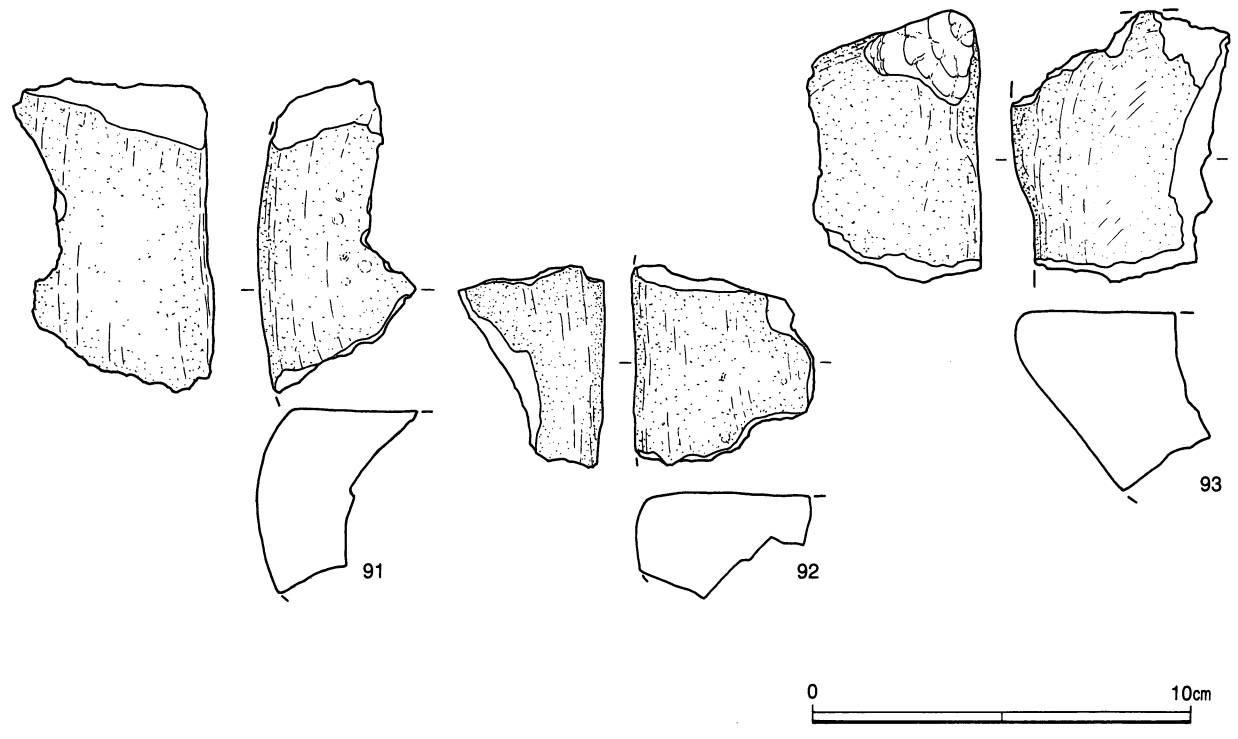
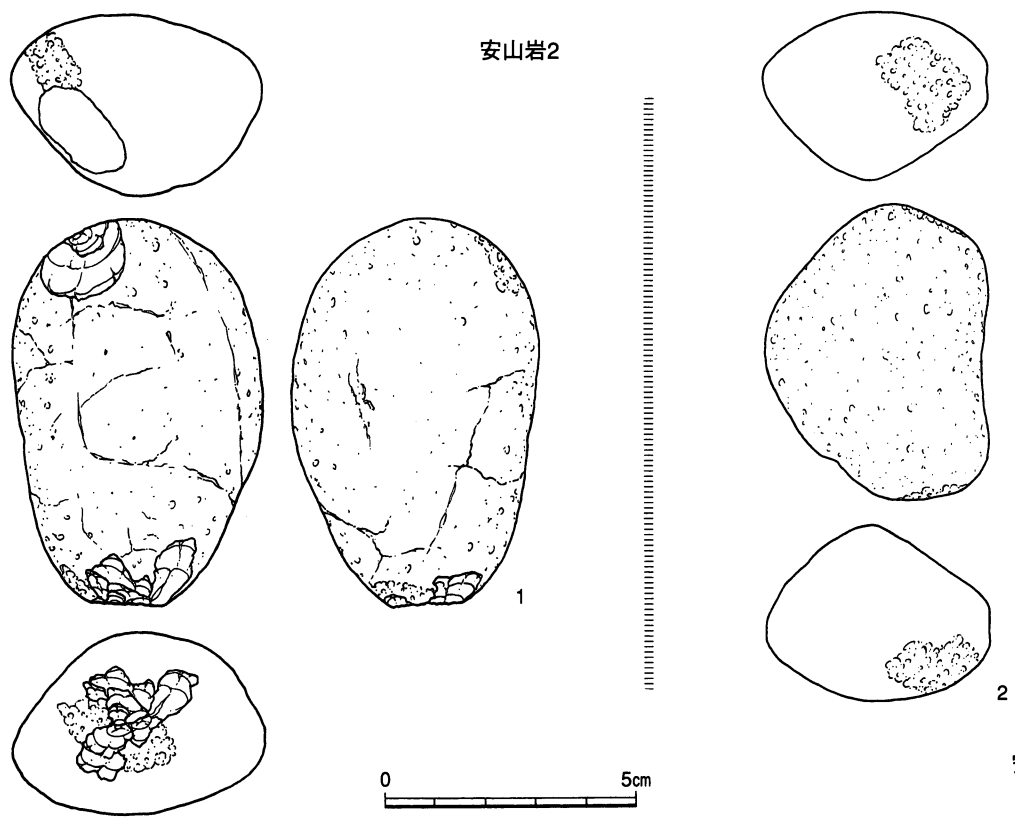
- |          |          |
|----------|----------|
| △ 安山岩 1  | ■ 安山岩 24 |
| ▲ 安山岩 2  | ■ 安山岩 25 |
| ● 安山岩 3  | ■ 安山岩 26 |
| ● 安山岩 4  | ● 安山岩 27 |
| ○ 安山岩 5  | ● 安山岩 28 |
| ○ 安山岩 6  | ● 安山岩 29 |
| ● 安山岩 7  | ▲ 安山岩 30 |
| ■ 安山岩 8  | ● 安山岩 31 |
| ■ 安山岩 9  | ▲ 安山岩 32 |
| ■ 安山岩 10 | ▲ 安山岩 33 |
| ● 安山岩 11 | ■ 安山岩 34 |
| ● 安山岩 12 | ■ 安山岩 35 |
| * 安山岩 13 | ■ 安山岩 36 |
| * 安山岩 14 | ■ 安山岩 37 |
| ○ 安山岩 15 | ● 安山岩 38 |
| ■ 安山岩 16 | ■ 安山岩 39 |
| ○ 安山岩 17 | ■ 安山岩 40 |
| ● 安山岩 18 | ■ 安山岩 41 |
| ■ 安山岩 19 | ■ 安山岩 42 |
| ○ 安山岩 20 | ▲ 安山岩 43 |
| ● 安山岩 21 | ▲ 安山岩 44 |
| ● 安山岩 22 | ▲ 安山岩 45 |
| ● 安山岩 23 | ● 安山岩 46 |

第82图 第21~24地点母岩别分布图(1)

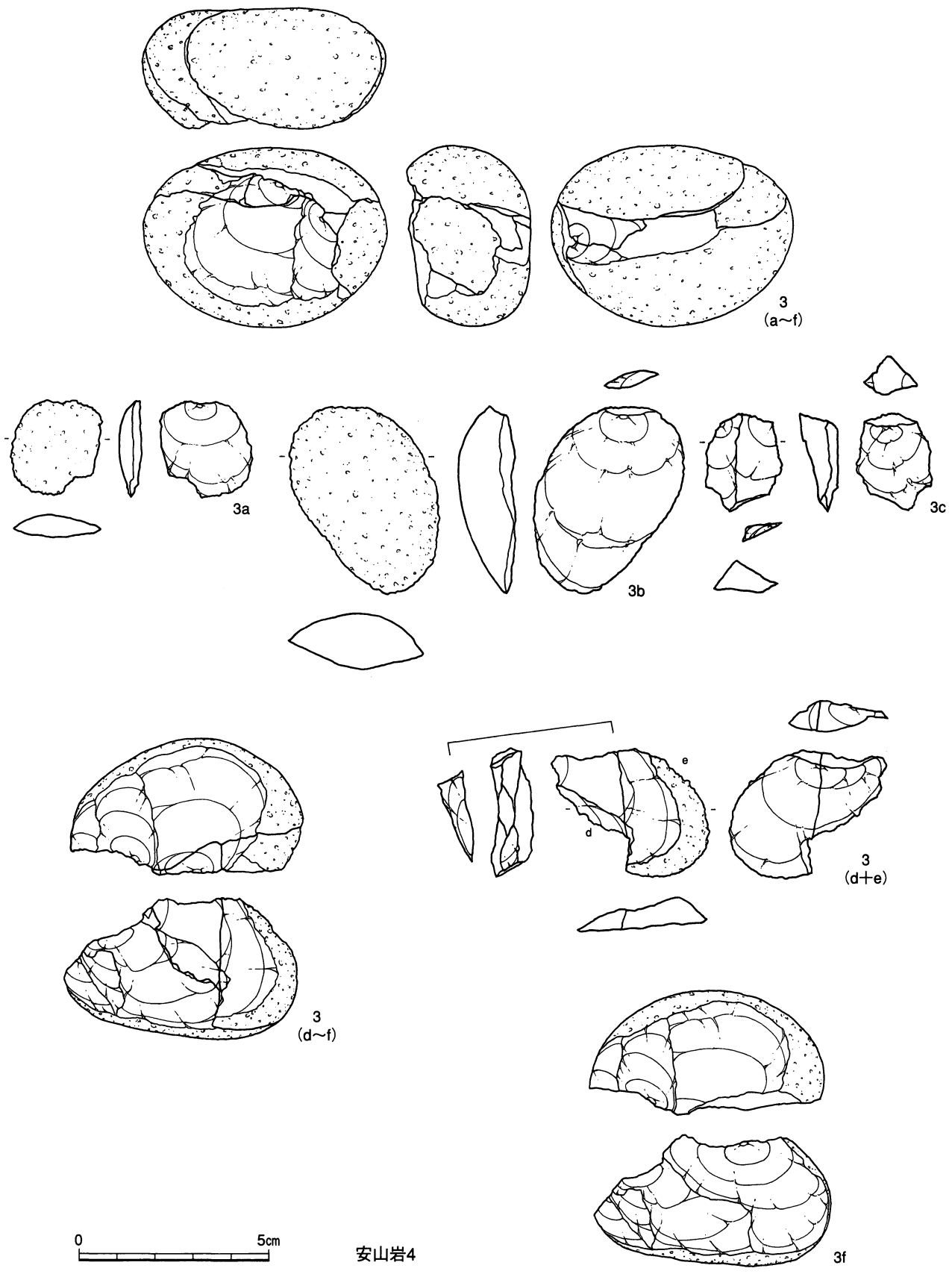




第83図 第21～24地点母岩別分布図（2）

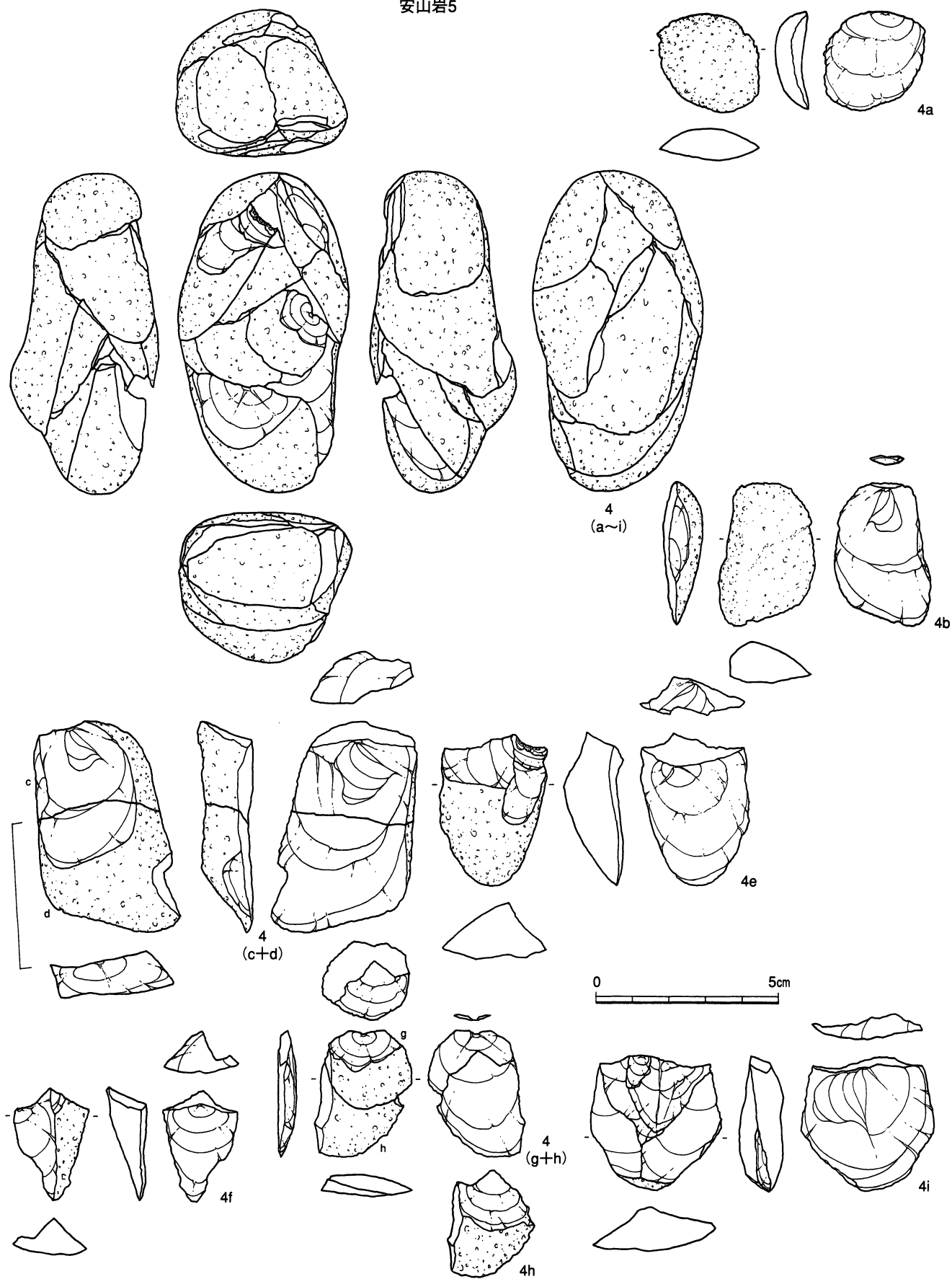


第84图 第21~24地点出土石器 (1)

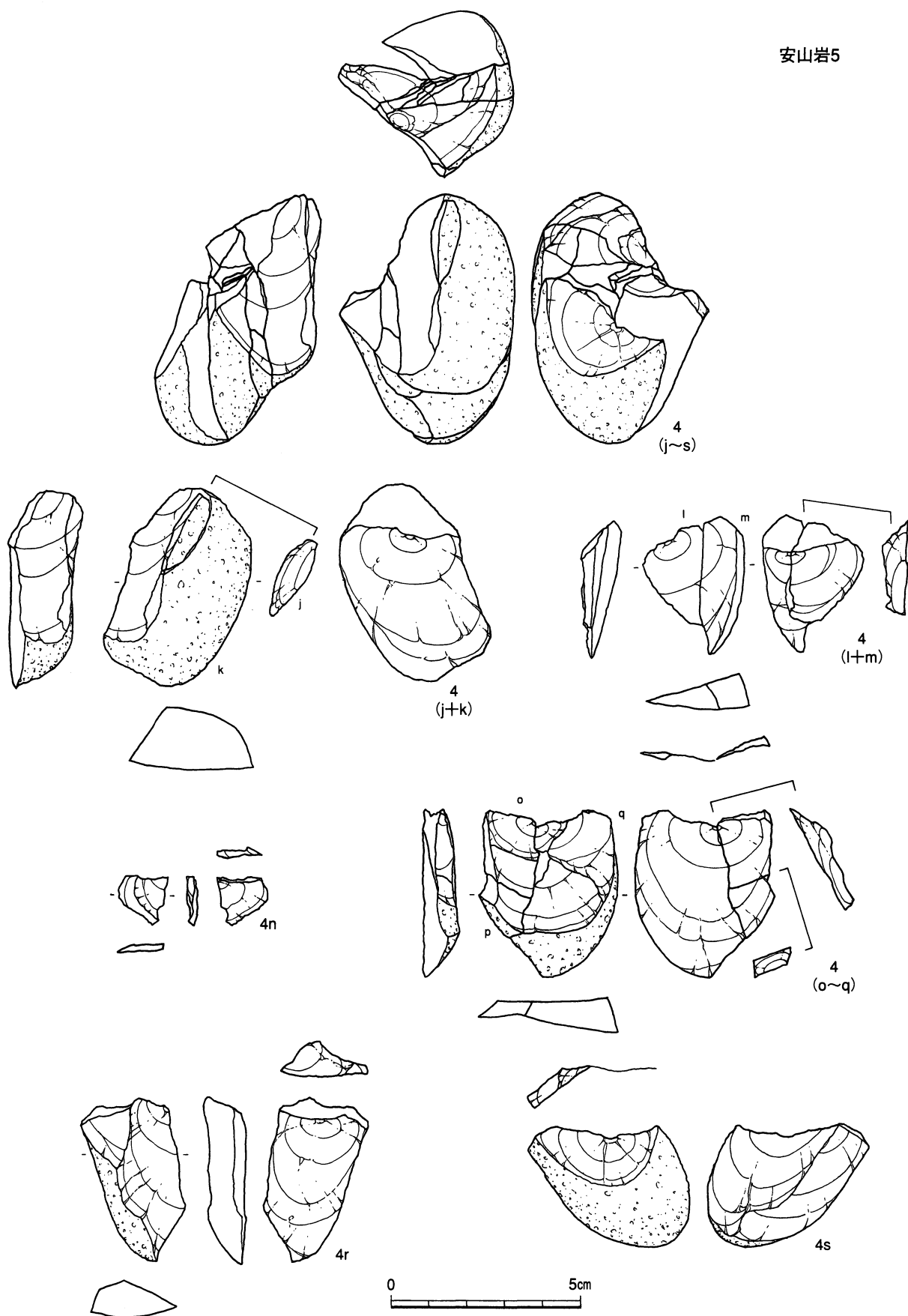


第85图 第21~24地点出土石器 (2)

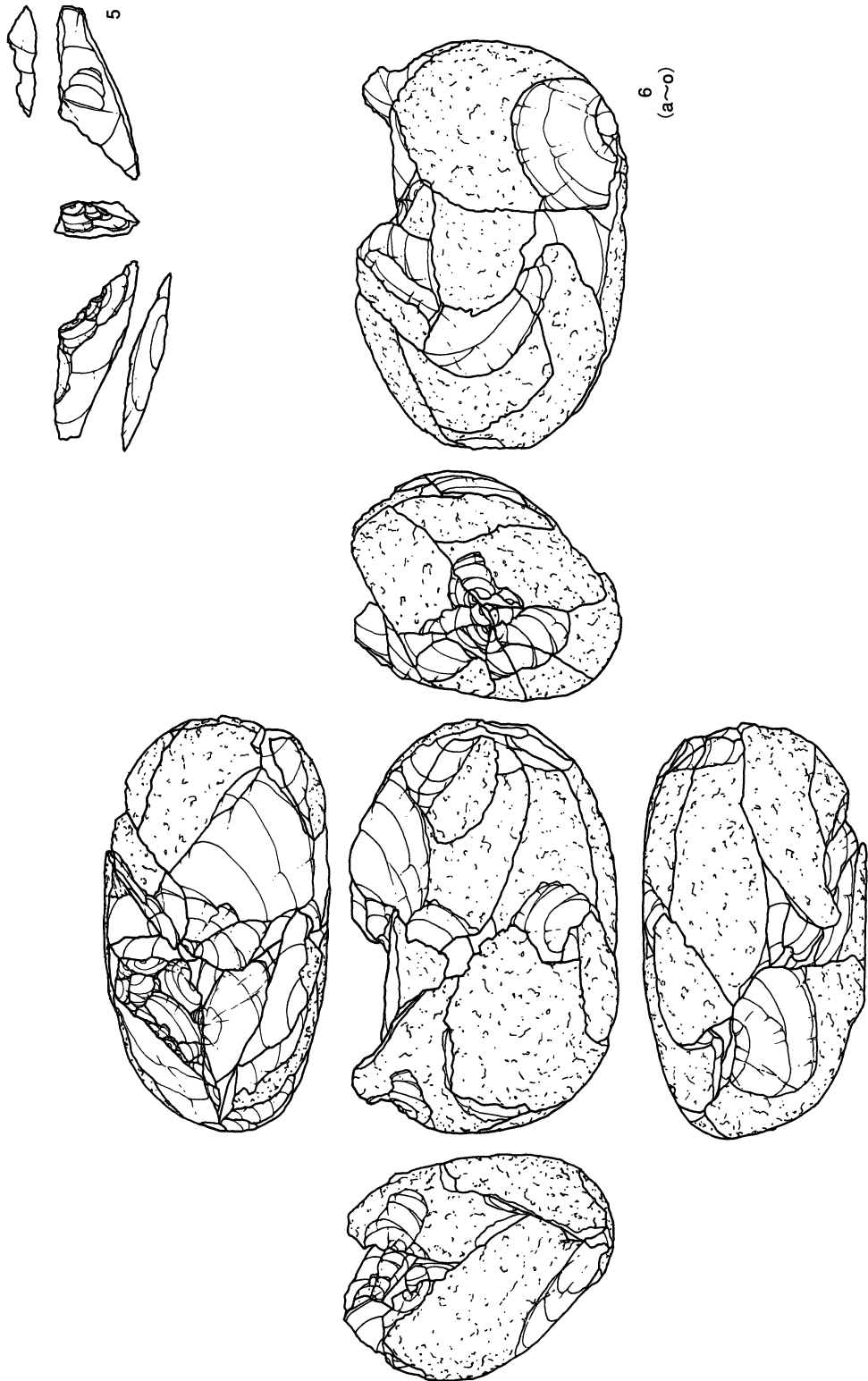
安山岩5



第86图 第21~24地点出土石器 (3)



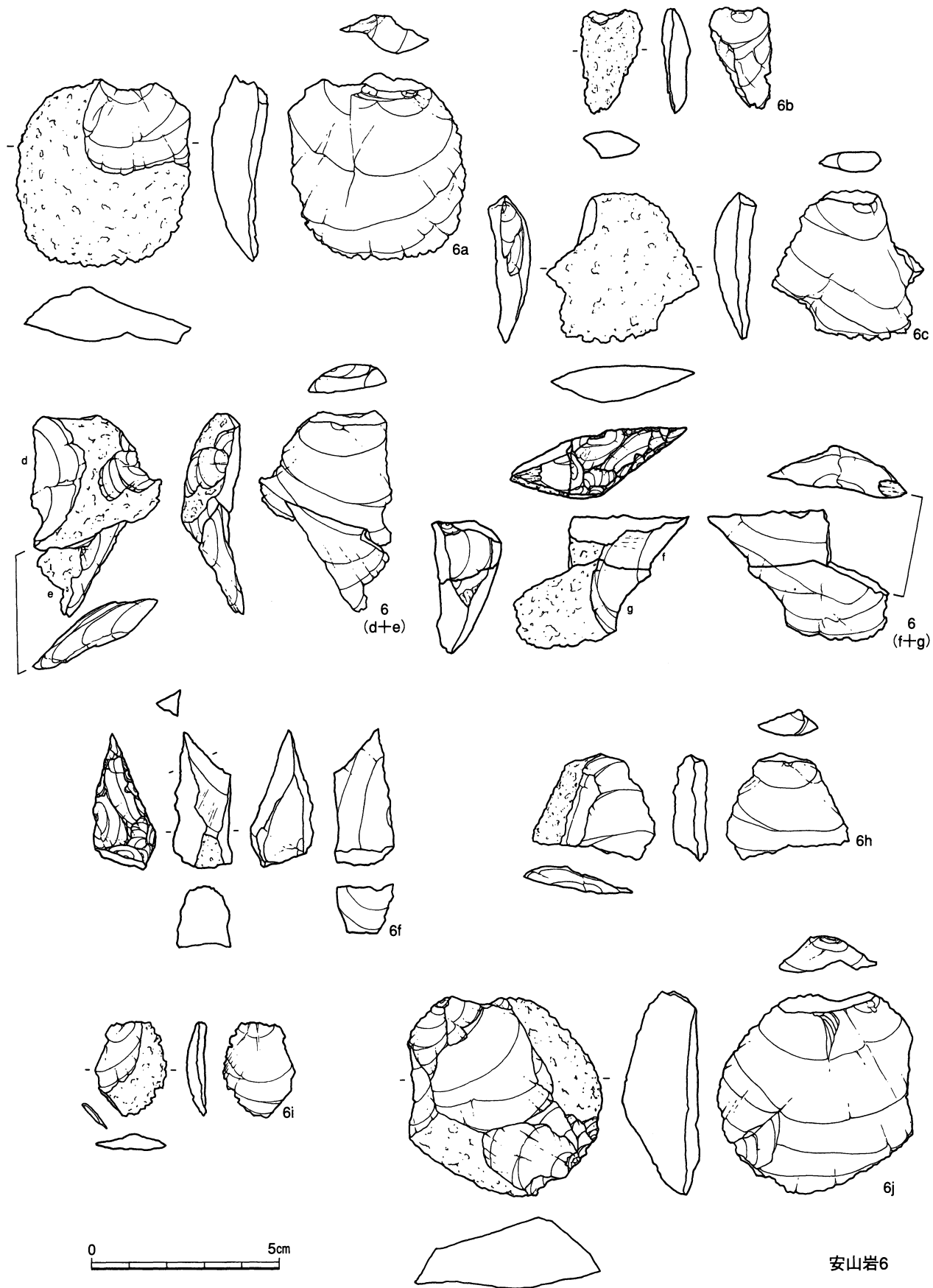
第87图 第21~24地点出土石器(4)



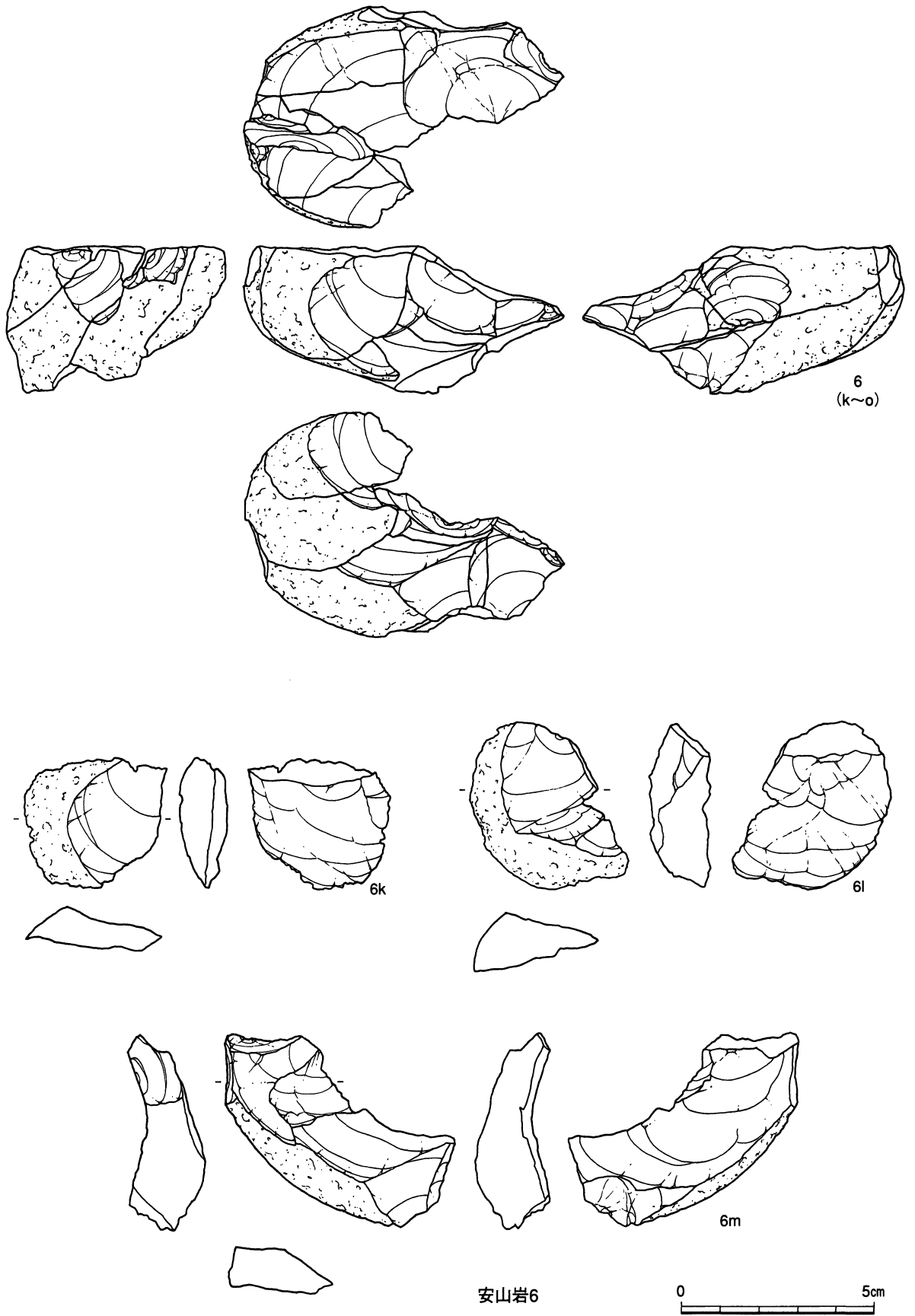
安山岩6



第88図 第21~24地点出土石器 (5)



第89图 第21~24地点出土石器(6)



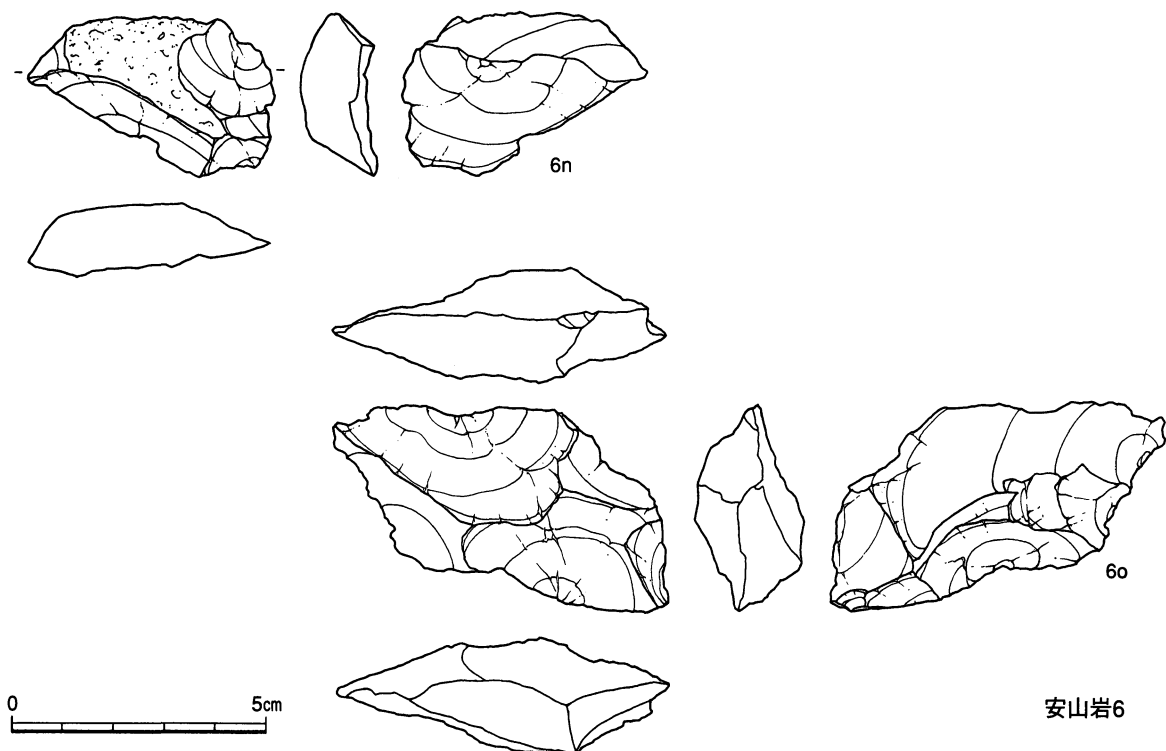
第90图 第21~24地点出土石器 (7)



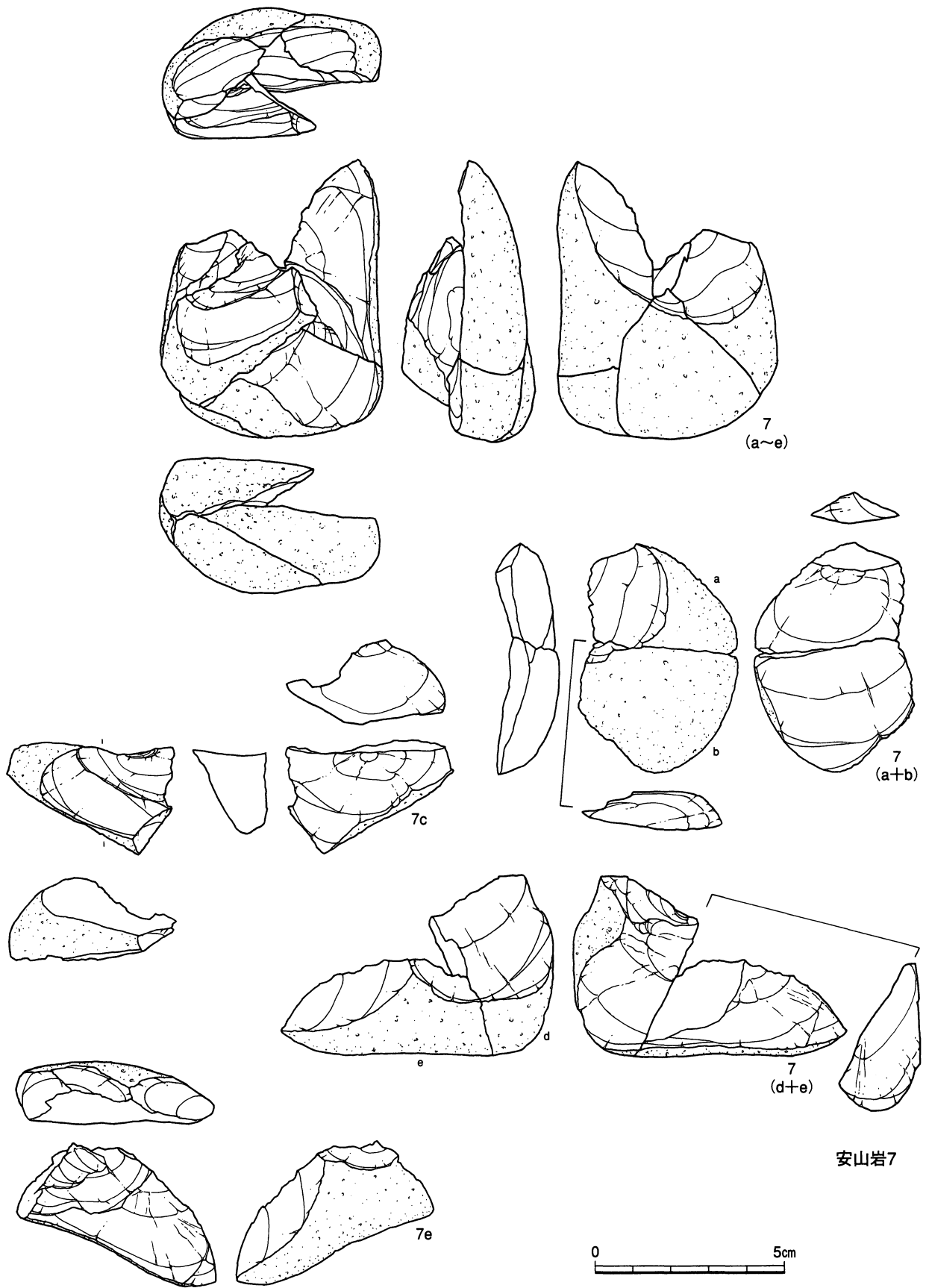
が各15%となり、これら3種の石材で86%を占めることになる。いわばこれら3種の石材が本地点での主要石材であったということができよう。とりわけ安山岩と黒曜石については隣接する第21地点～第23地点でも共通した主要石材の位置を確保している。また不明とした石材は前述したように珪化木の一種で10点のうち5点が出土した。成品についてみると、ナイフ形石器・削器・石錐の他に、加工剥片や礫群中から砥石あるいは台石と思われる礫石器の欠損品が3点出土している。

ナイフ形石器 (6f・13・45・50・82) 本文化層において、1地点から出土した数としては最多の5点を数える。また種々のタイプがあり注目できる資料となろう。6fは第88図で示したように接合した資料の一部を構成していた。表面両側縁に若干の整形剥離後、先端部に小さな剥離を施し成品としている。基部の断面は台形に近く、粗雑な仕上げである。13は横長の剥片を素材とし、打面部整形後、さらに微細な調整を加えている。背面にも若干の調整が認められるが、主剥離面には及ばない。45は両端が大きく欠損しており、ナイフ形石器とするには躊躇するが、背面加工という点でここに加えた。主剥離面での加工は認められない。50は先端部だけの遺存となる。表面の一部には自然面がそのまま残る。左側縁に刃潰し加工が施される。以上の4点は安山岩で製作されている。82は瑪瑙製のナイフ形石器で完形品である。安山岩製と比較すると、その精緻な製作がよく理解できる。主剥離面での加工はないものの刃部を除きくまなく加工を施し、側縁部の調整も小さく丁寧なものである。

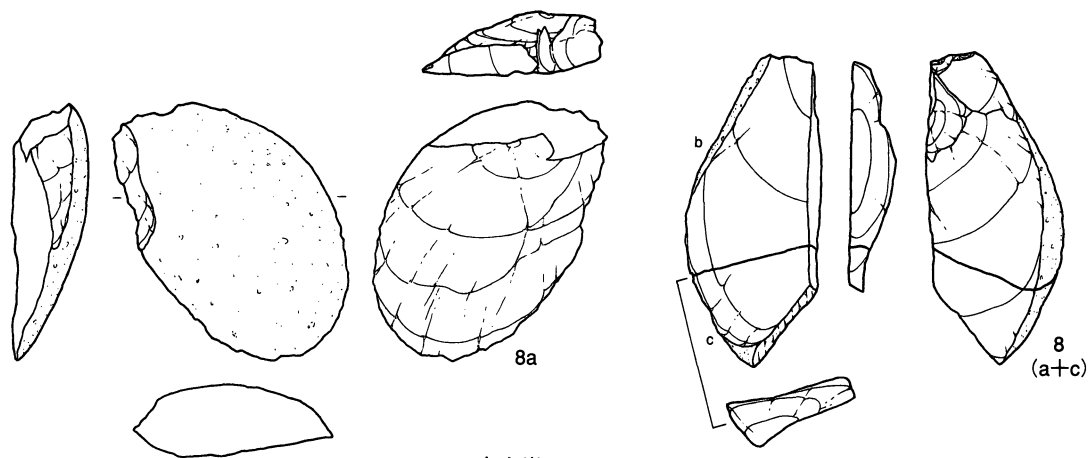
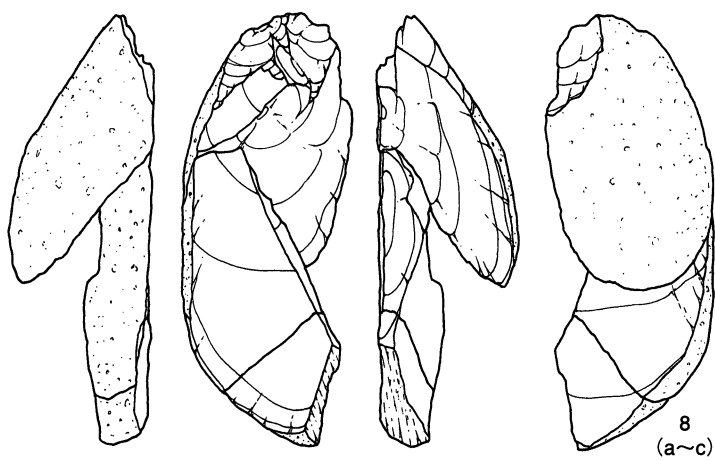
削器 (10a・33・51) 3点とも安山岩製である。10aは石核10bとの接合資料で、10aの剥片は打面再生を目的とした剥片で、剥離後に右側縁を簡単に加工し削器としている。10bの石核は、その後3点ほど剥片が剥離されているが、中央部に節理が入り、良好な剥片が得られないために放棄されたものであろう。



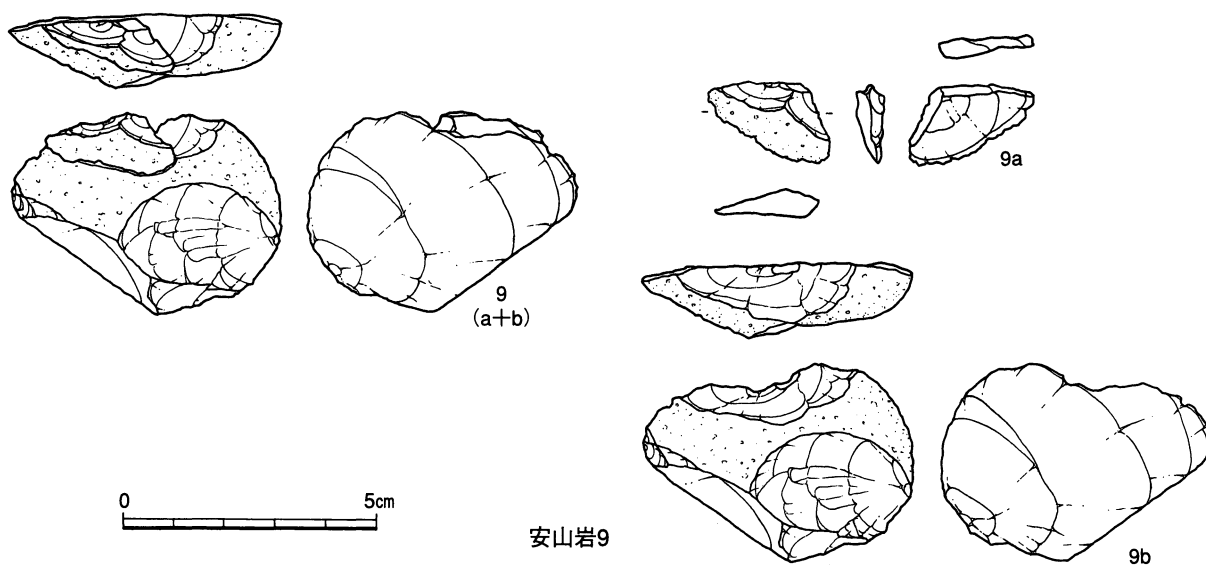
第91図 第21～24地点出土石器 (8)



第92图 第21~24地点出土石器 (9)



安山岩8



安山岩9

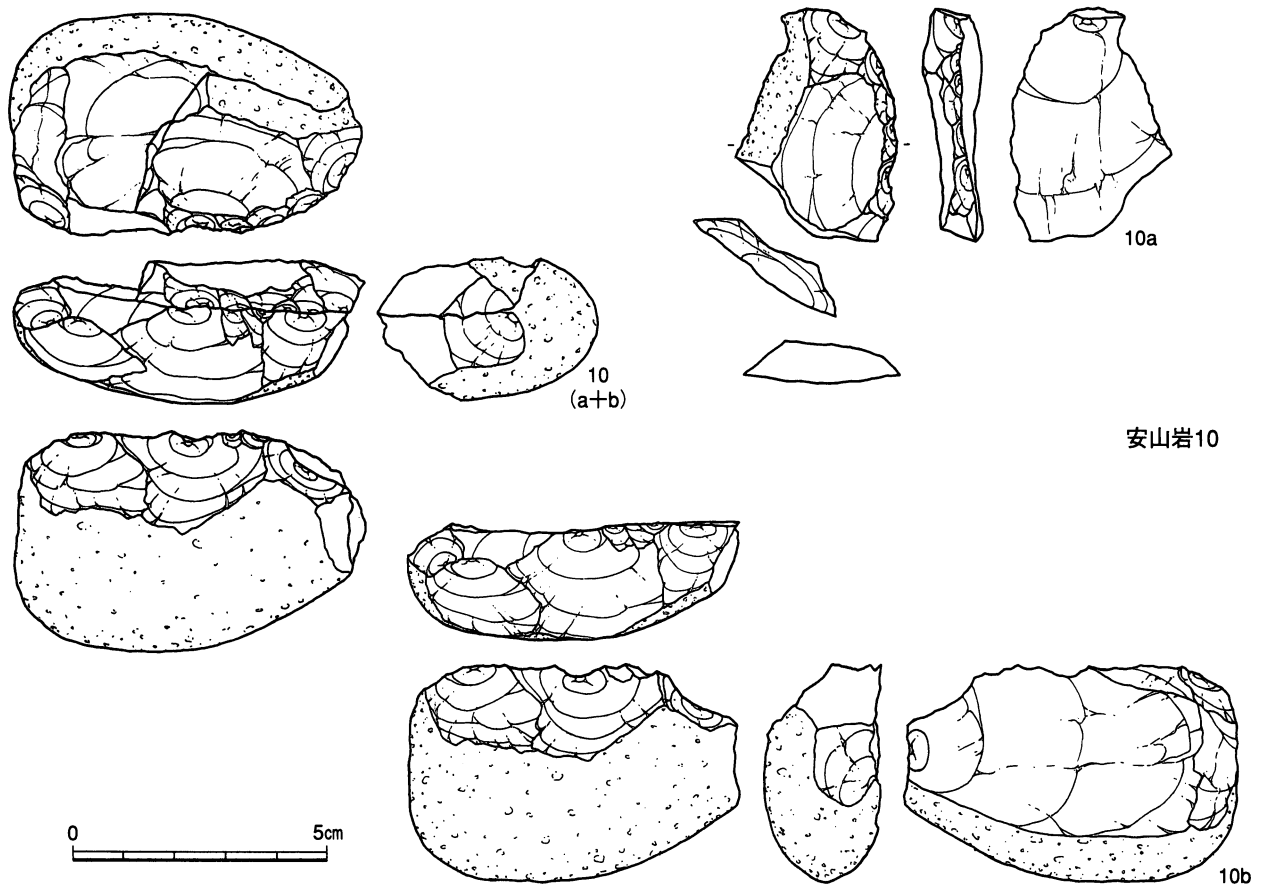
第93图 第21~24地点出土石器 (10)

33は表面のほとんどが自然面で、最初に剥離された剥片となろう。下部を抉るように大きく整形し成品としている。51も自然面を大きく残す。上部の大きな剥離は剥片剥取のための剥離であり、その下部に整形を兼ねた数回の剥離で刃部を作出している。抉りを重視すれば石錐とも考えられる。

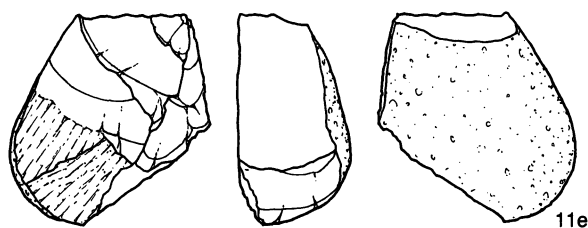
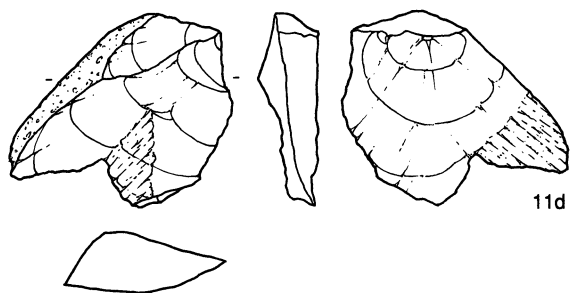
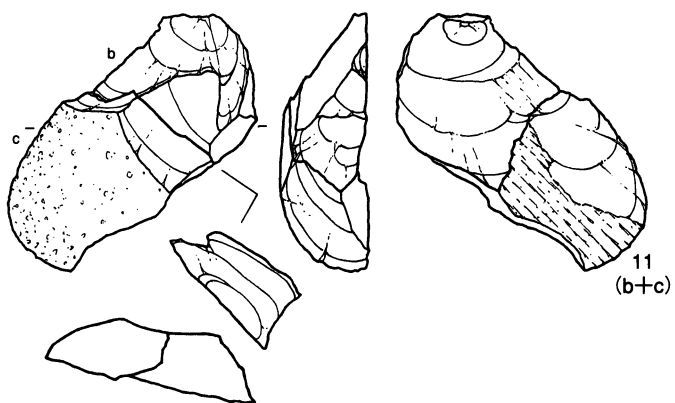
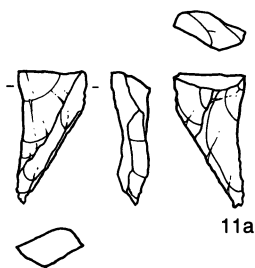
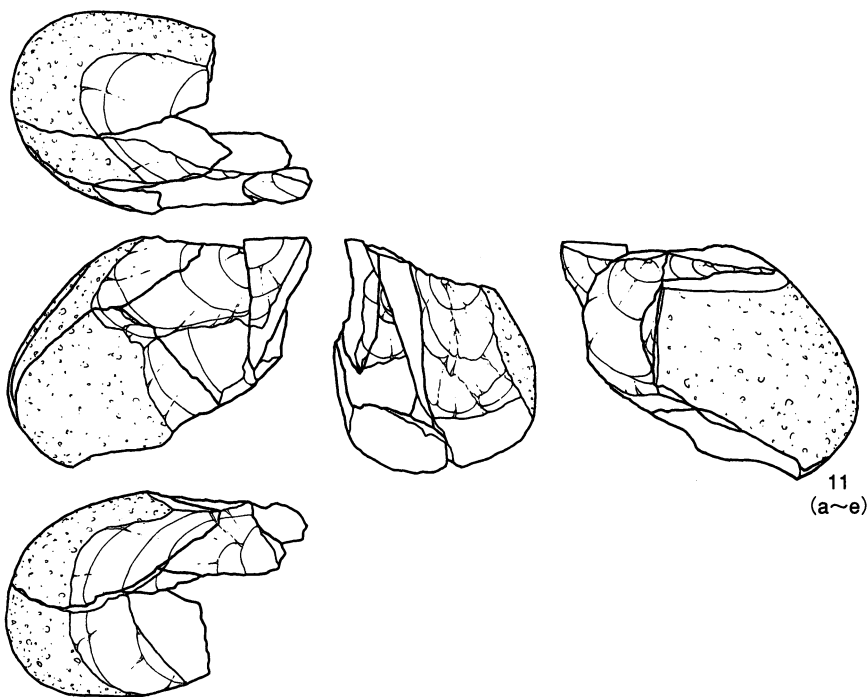
石錐（85）瑪瑙製で表面には不純物が多くみられる。左の側縁では深く抉るような剥離を施し先端を形作る。鋭利な先端とは言い難いが左右からの加工より石錐とした。色調は淡い褐色を呈す。

加工剥片（5・18・49a・67・74）5は右側縁に数回の剥離痕が認められるが、剥片剥離時のものか風化により明確ではない。18は下端に自然面が残る。剥離は整形を兼ねて主剥離面の左側面に施されている。削器のような使い方が想定できる。49aは6点が接合したうちの2点で、自然面の多さから最初の段階で剥離された剥片となろう。接合部右側縁に数回の剥離が認められる。この剥離は分割以前に施されたものであった。前者同様削器のような使用が考えられよう。以上の3点は安山岩製である。67は黒曜石製で不純物を含み、表面でも微細礫の含有が認められる。下端部の調整は、一部に調査時の擦痕も加わり明確ではないが、上部にも使用痕が認められたため図示した。74はチャート製で、節理面に沿って剥離された剥片である。右側縁に調整が施されており、石器として使用されたことは間違いあるまい。

礫群（第84図91～93）本地点における礫群の存在は前述したとおりであるが、30点余の礫群として取り上げられた遺物の中に石器として使用されていたものが3点確認された。いずれも欠損品であり91と92



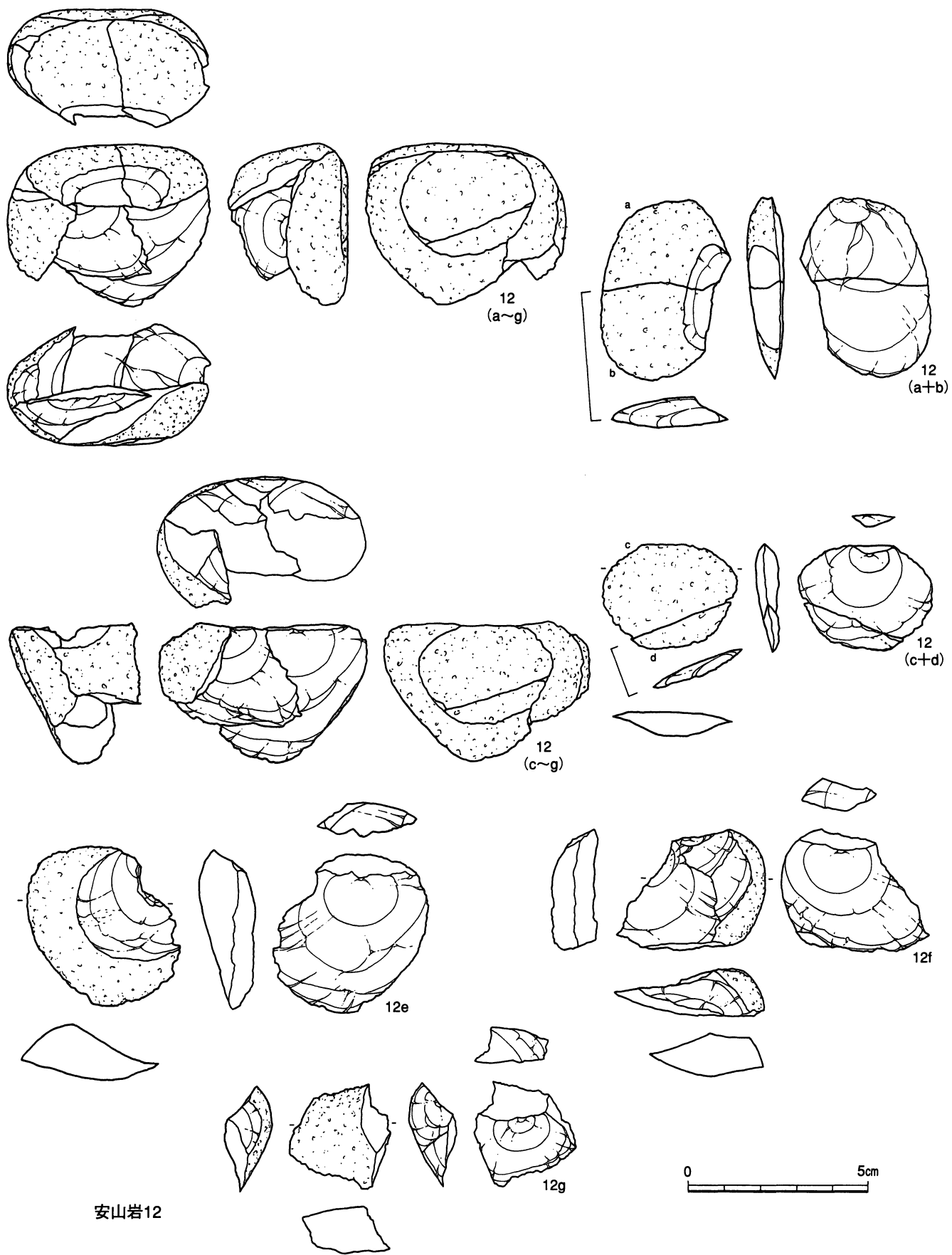
第94図 第21～24地点出土石器（11）



安山岩11

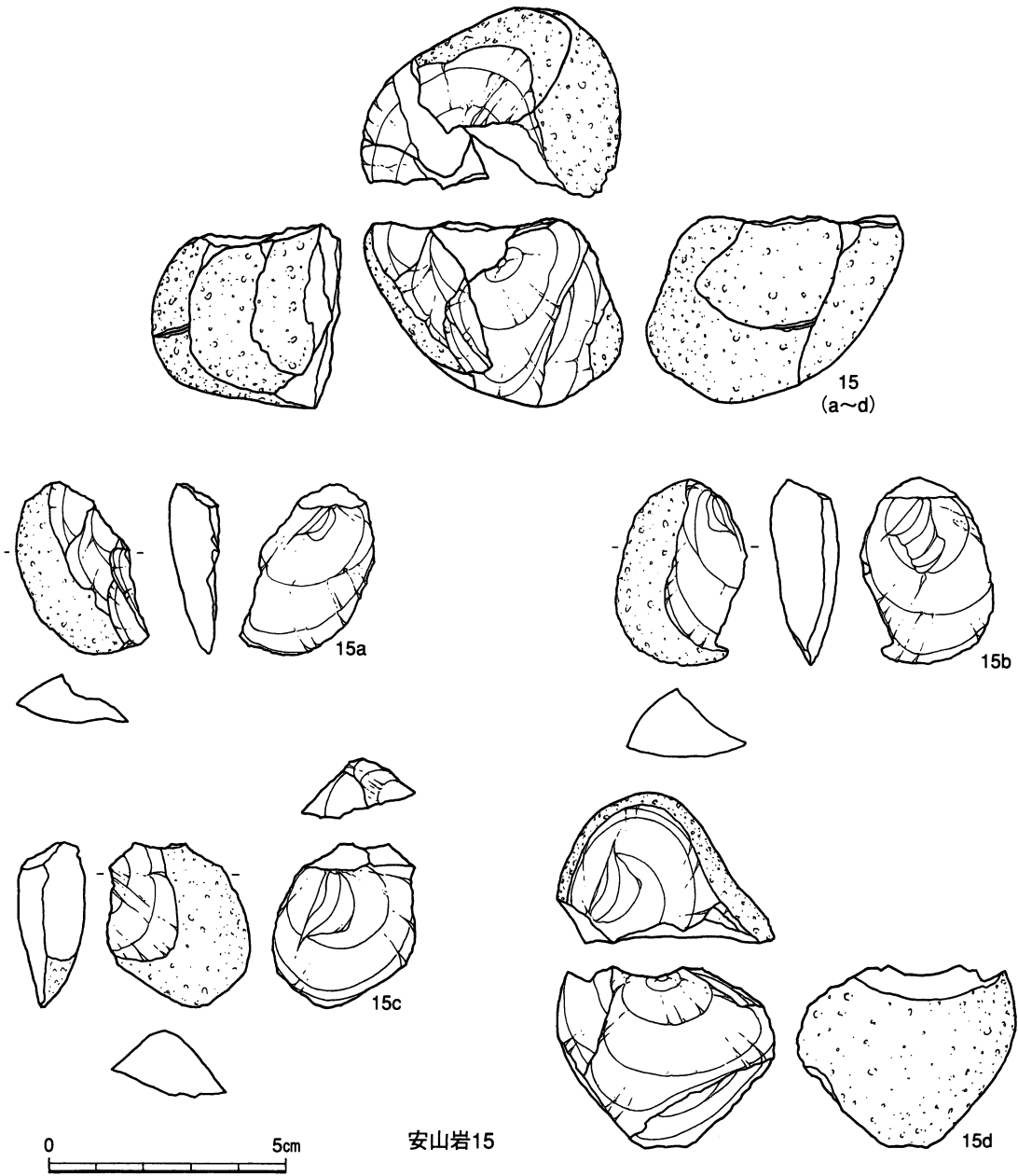
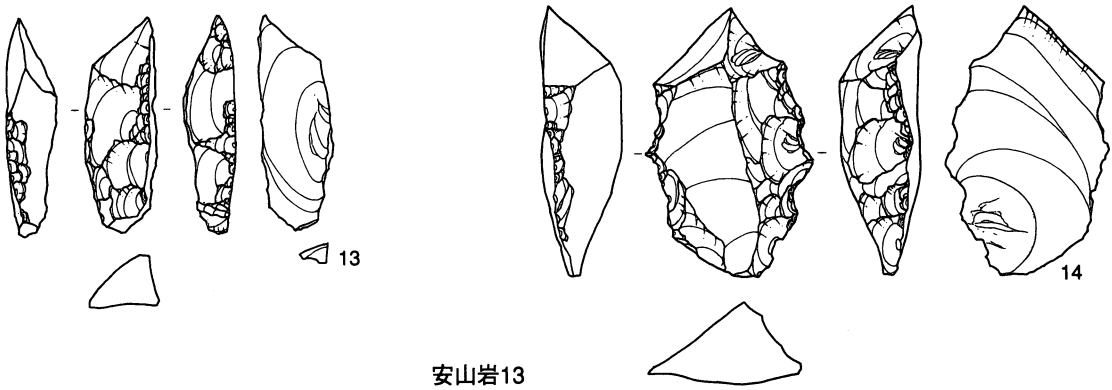


第95图 第21~24地点出土石器 (12)



安山岩12

第96图 第21~24地点出土石器 (13)

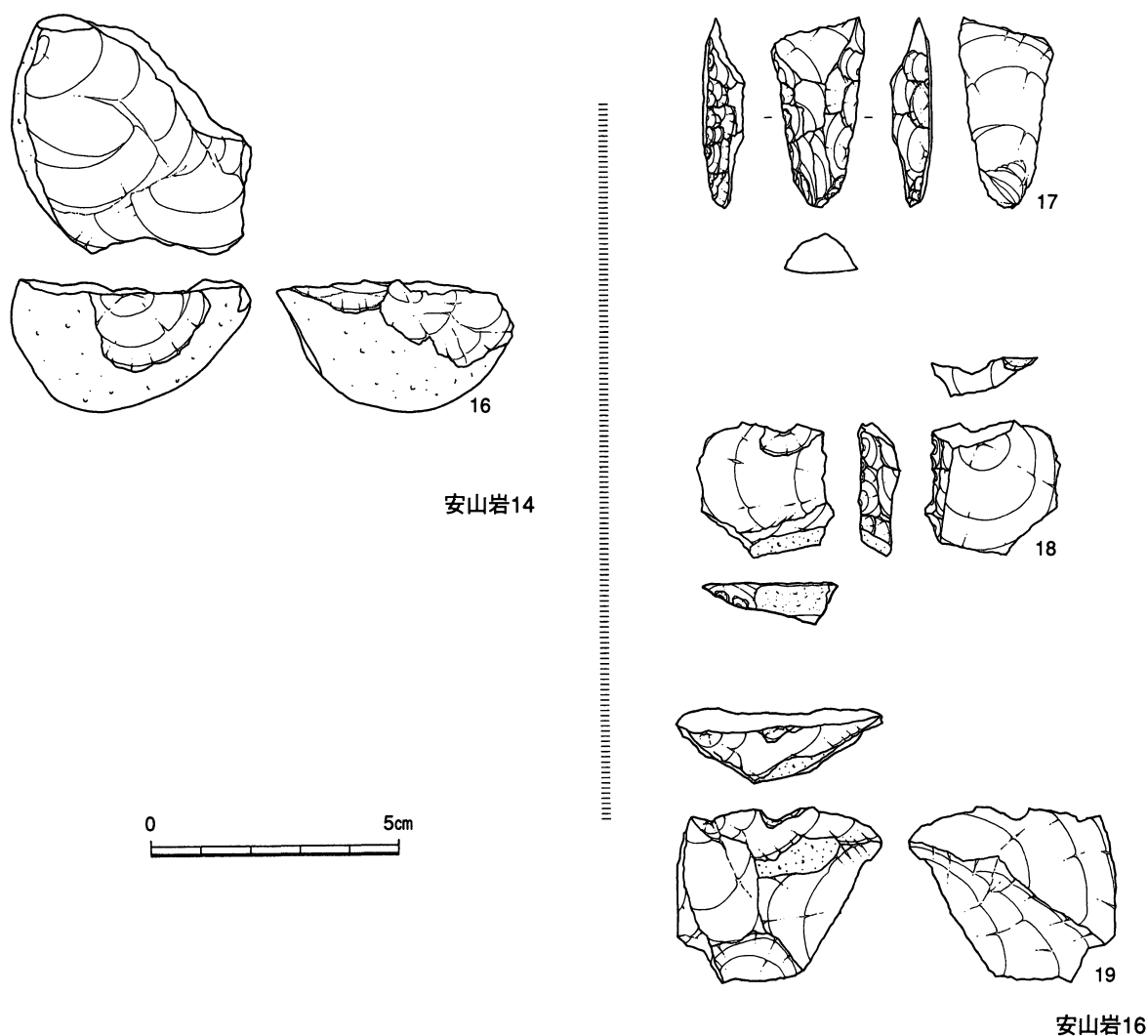


第97图 第21~24地点出土石器 (14)

は、接合はしないものの明確に同一の石器であった。平坦な表面は滑らかで砥石か台石として使用されていたものと考えられた。側面へと移行する部分でも稜を有し、自然に整った形とは考えにくい。さらに側面の曲線を描くような形状は人工的に作出されたものとみて間違いなからう。93も同様に平坦面を有している。表面では前者ほどの滑らかさは感じられない。遺存部分だけの判断では心許ないが、原形はかなりの大きさを有していたものと推測できる。これら3点はすべて安山岩製で石器製作に用いられている黒色系タイプとは異なる。

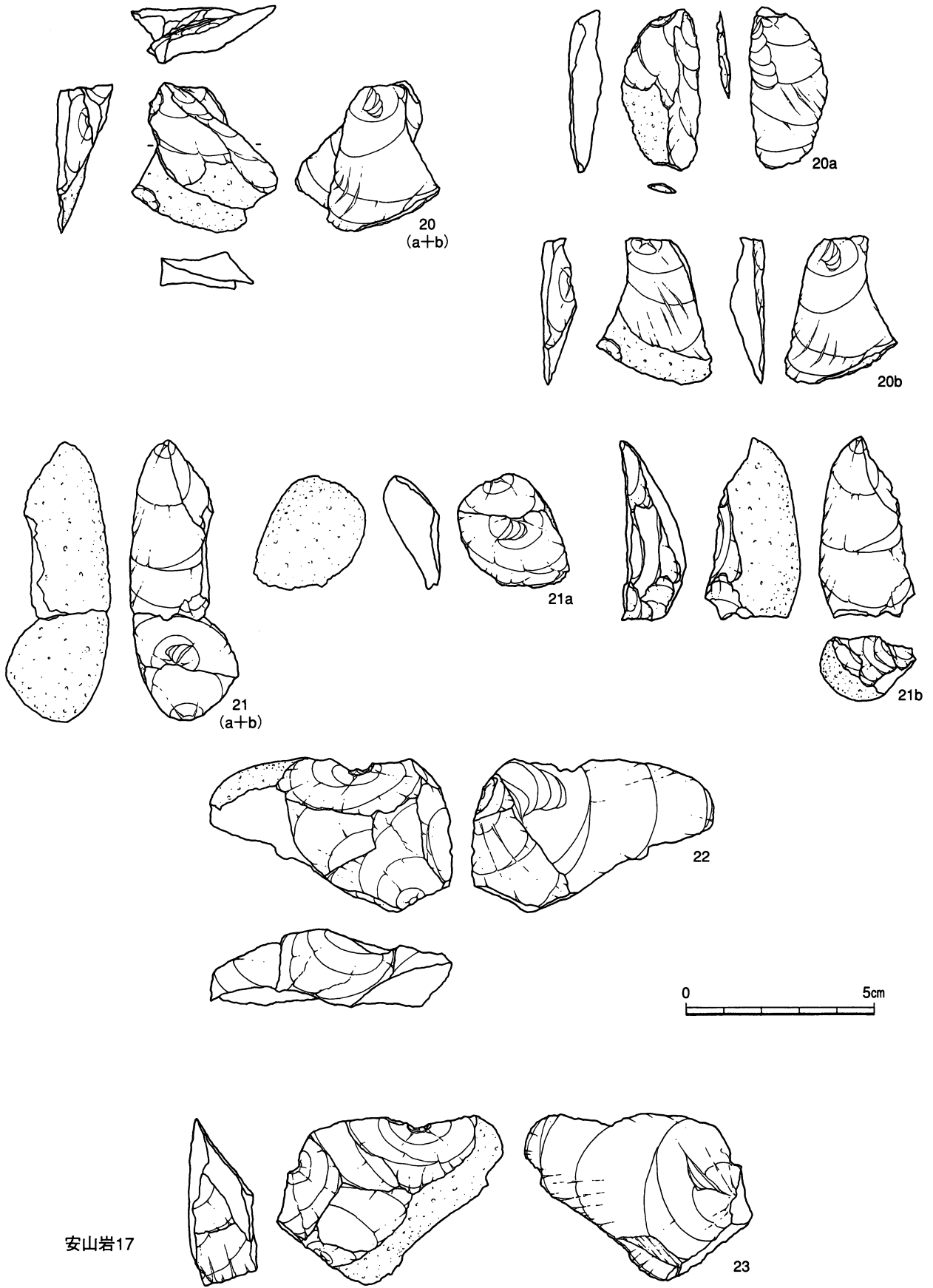
石核(73) 本資料は明らかに残核再利用の石器である。3回の大きな剥離痕がみられる。直線状の上縁部では微細な調整剥離を施しており、スクレイパーのような用途が考えられる。しかも下端では明確な打痕が認められるところから敲石としても使用されていたものである。石材は珪質頁岩である。

接合資料(3・6・7・10・49) 3は6点が接合し、原形は窺える。剥片剥離という点からみれば小礫となろう。剥離面から観察すると、本資料からは10点ほどの剥片が得られただけである。剥離の順序は、まず3aを剥離した後、そこを打面とし3b、3cを剥離、最後に3の表面に剥離痕として残る剥片を剥取し

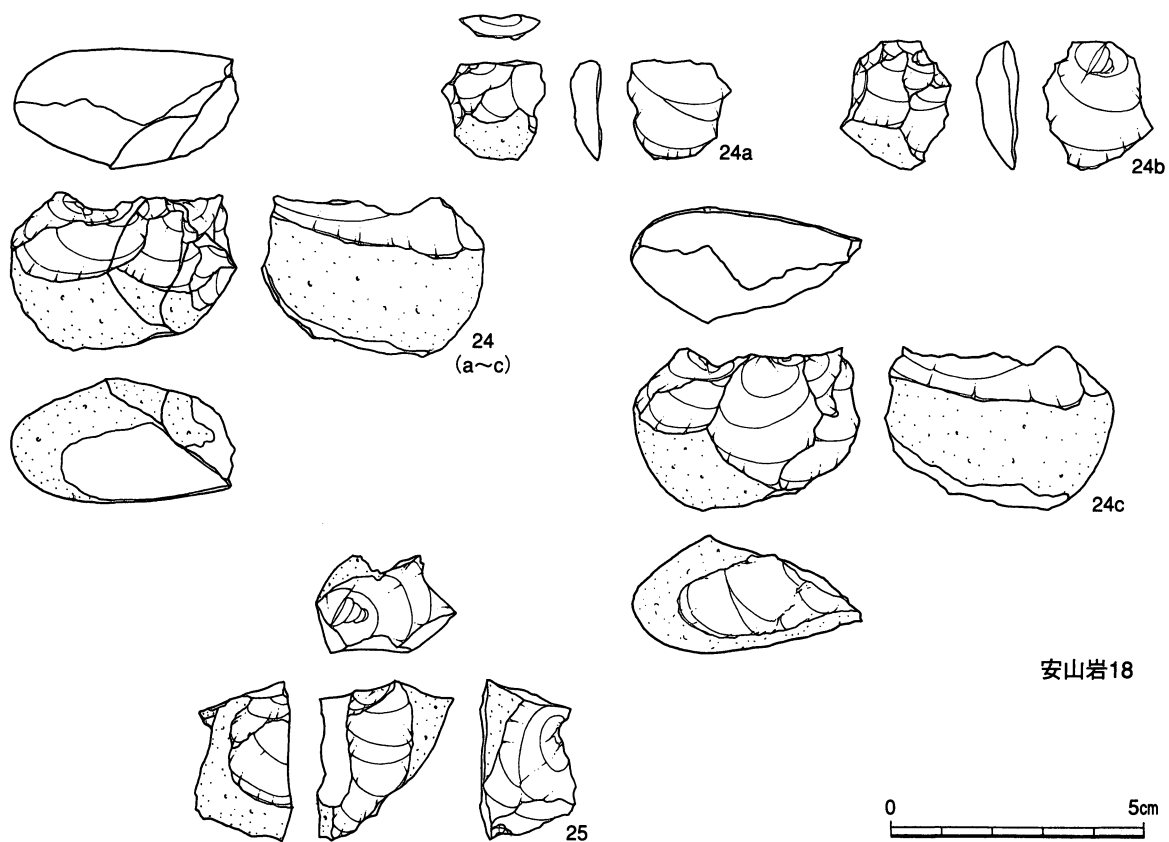


第98図 第21～24地点出土石器(15)

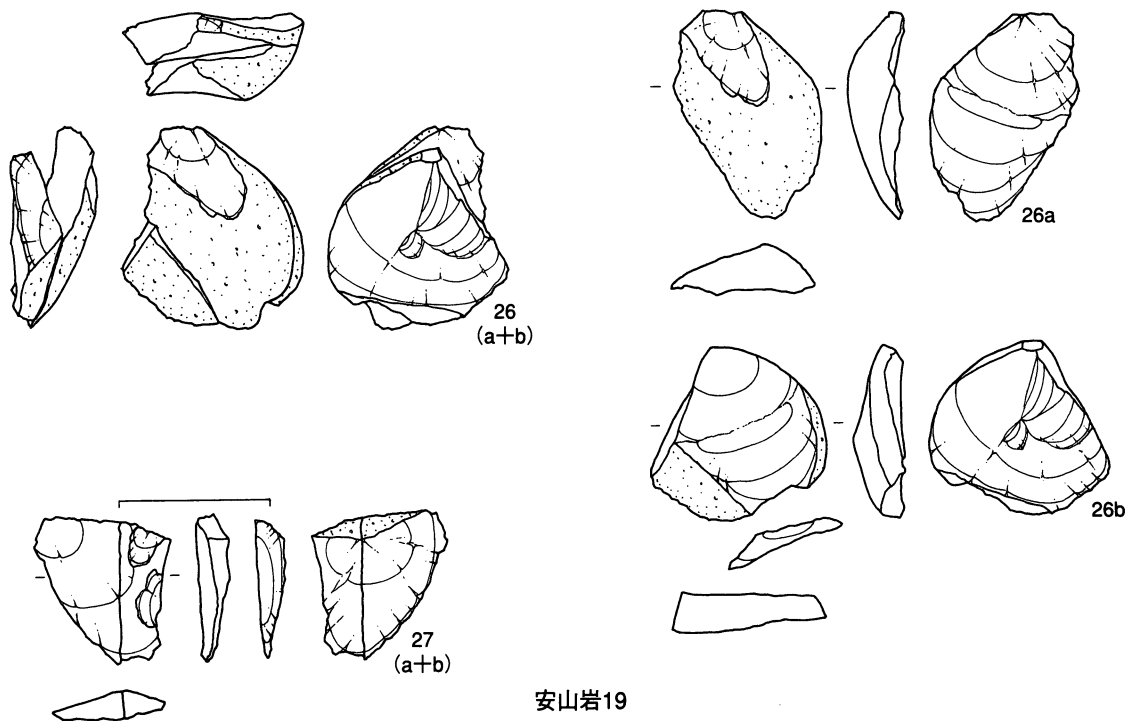




第99图 第21~24地点出土石器 (16)

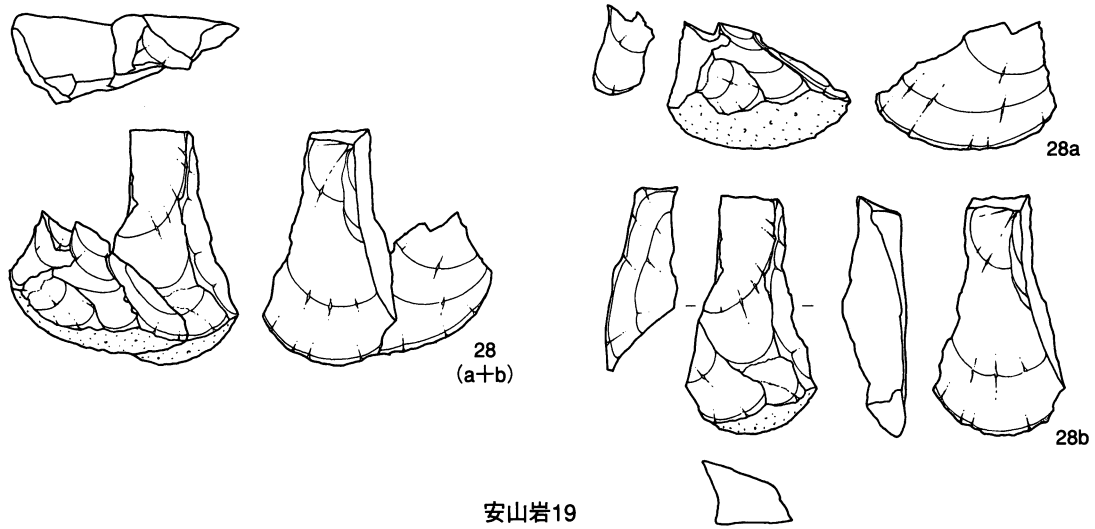


安山岩18

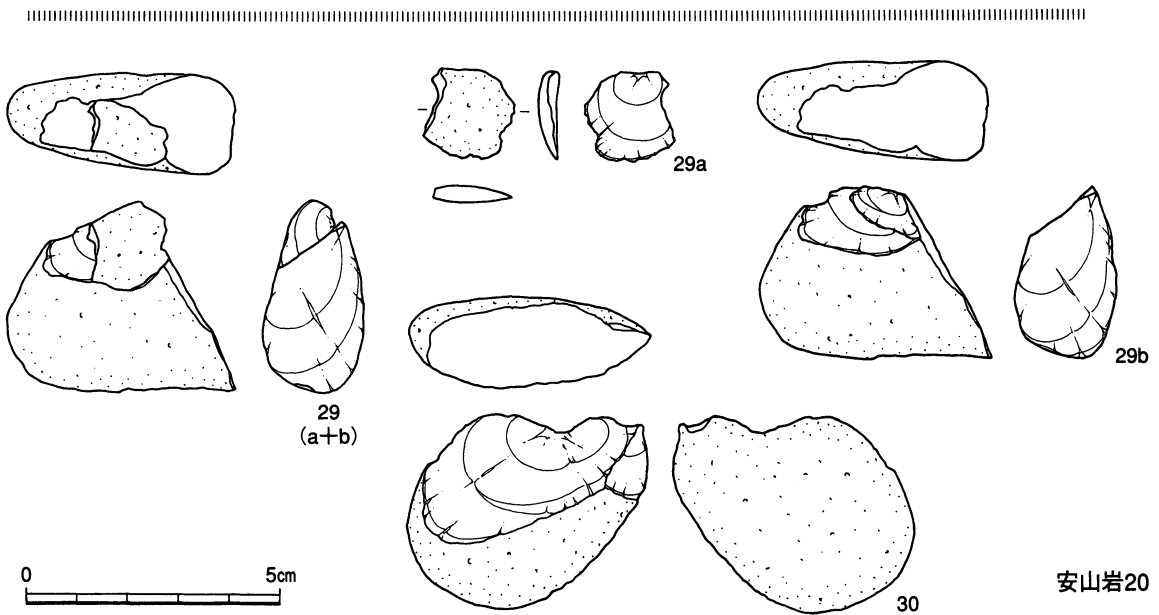


安山岩19

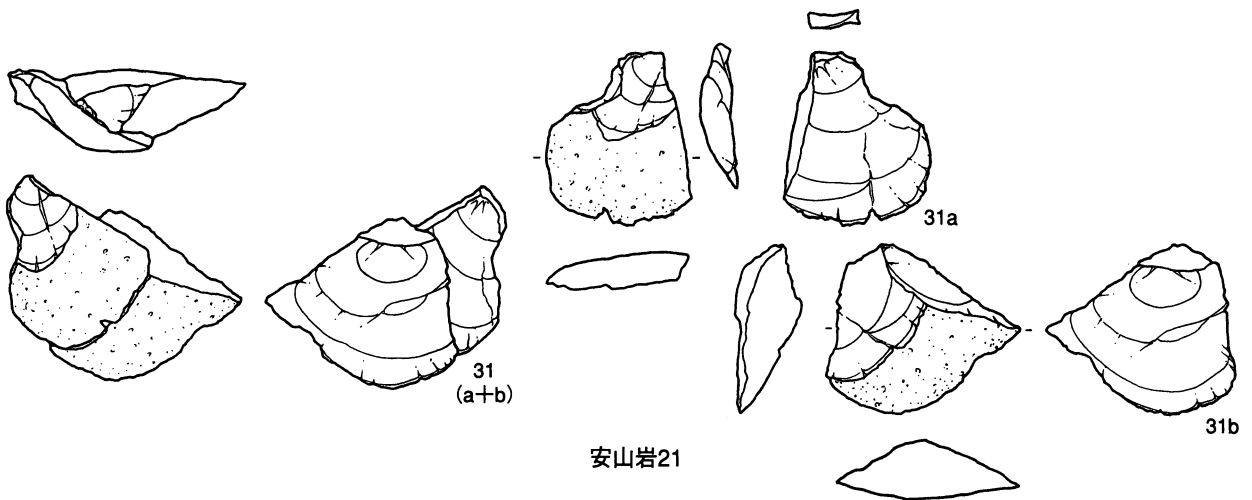
第100图 第21~24地 点出土石器 (17)



安山岩19

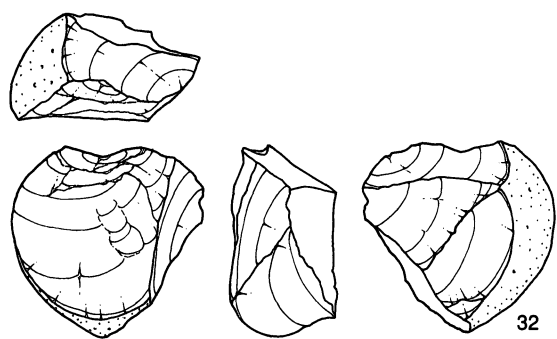


安山岩20



安山岩21

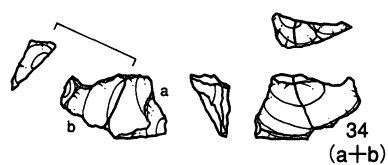
第101图 第21~24地点出土石器 (18)



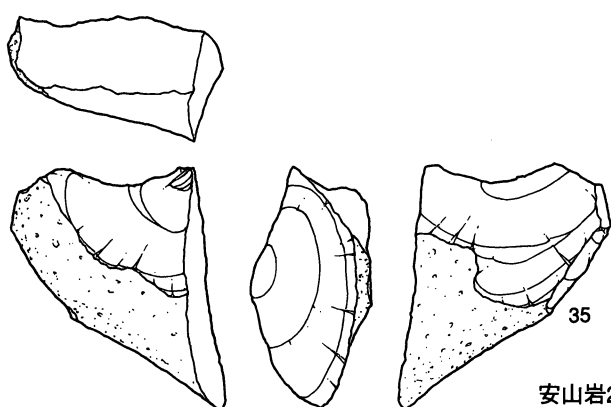
安山岩22



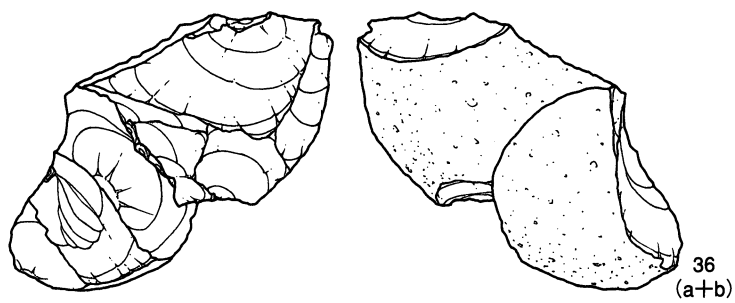
安山岩23



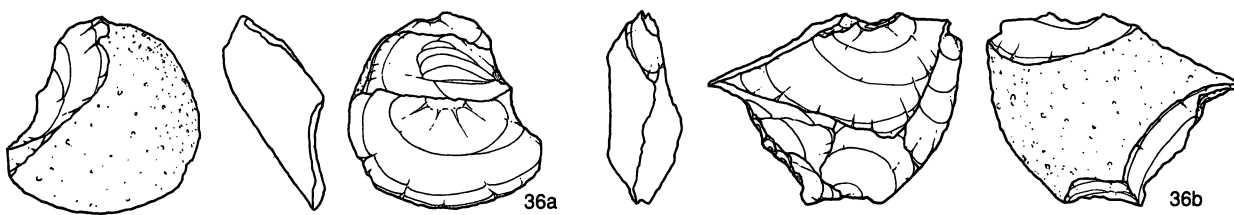
安山岩24



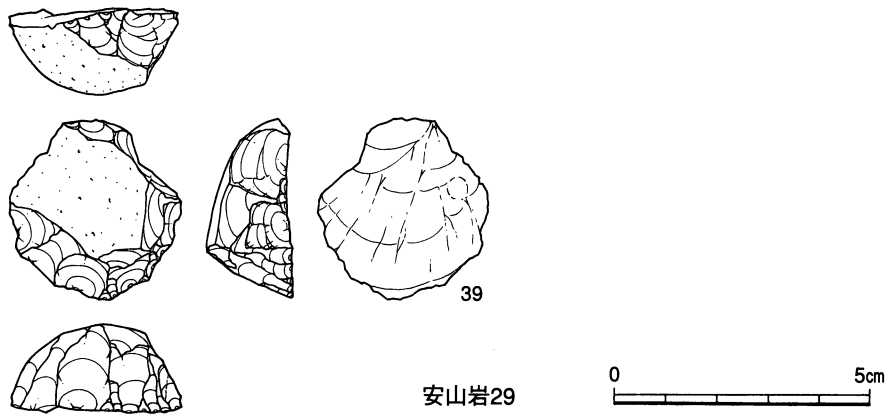
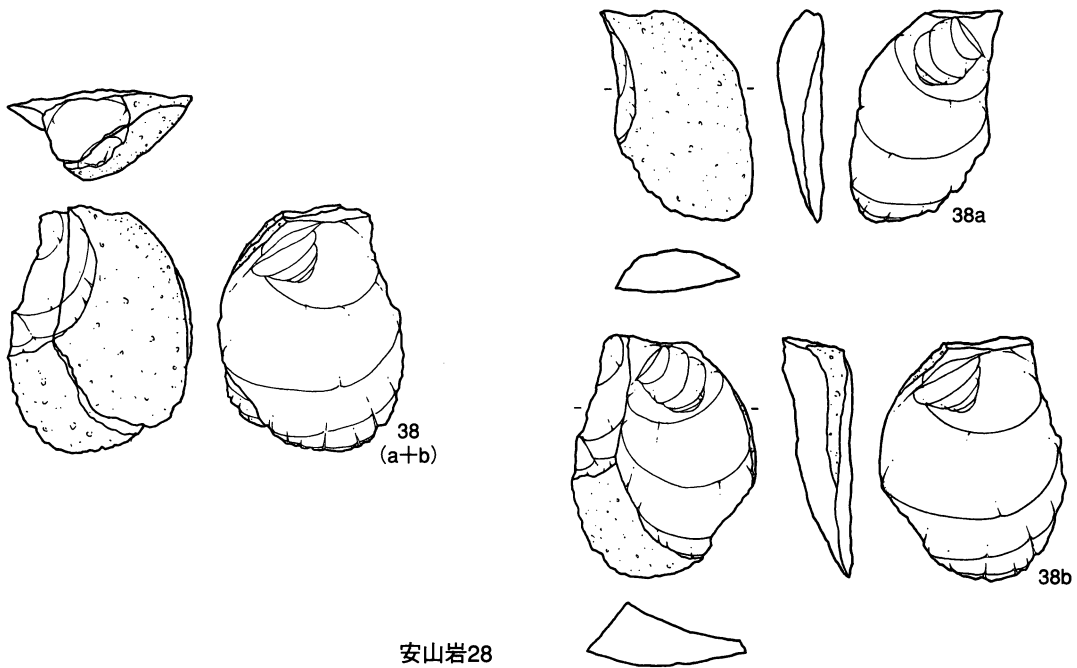
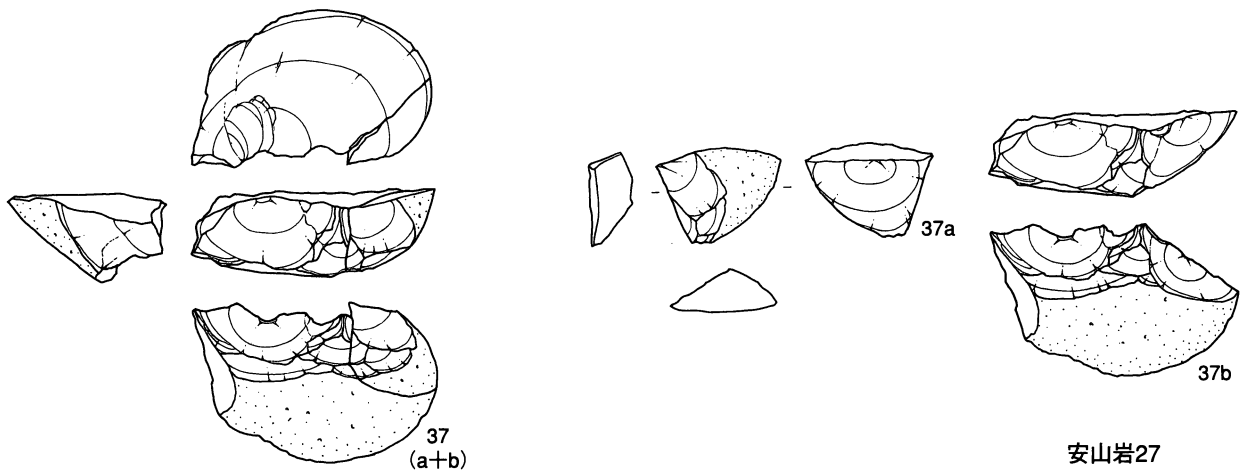
安山岩26



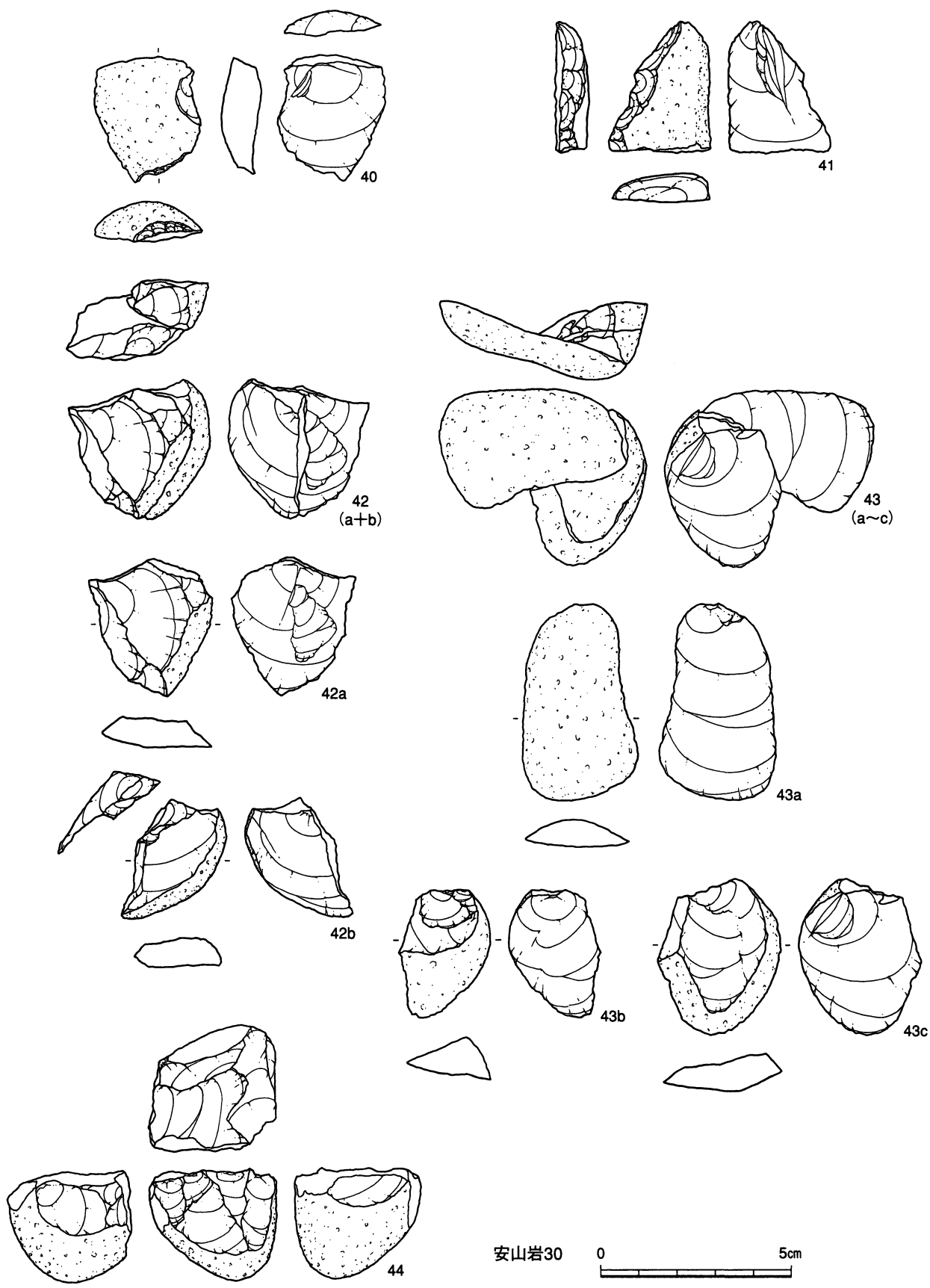
安山岩25



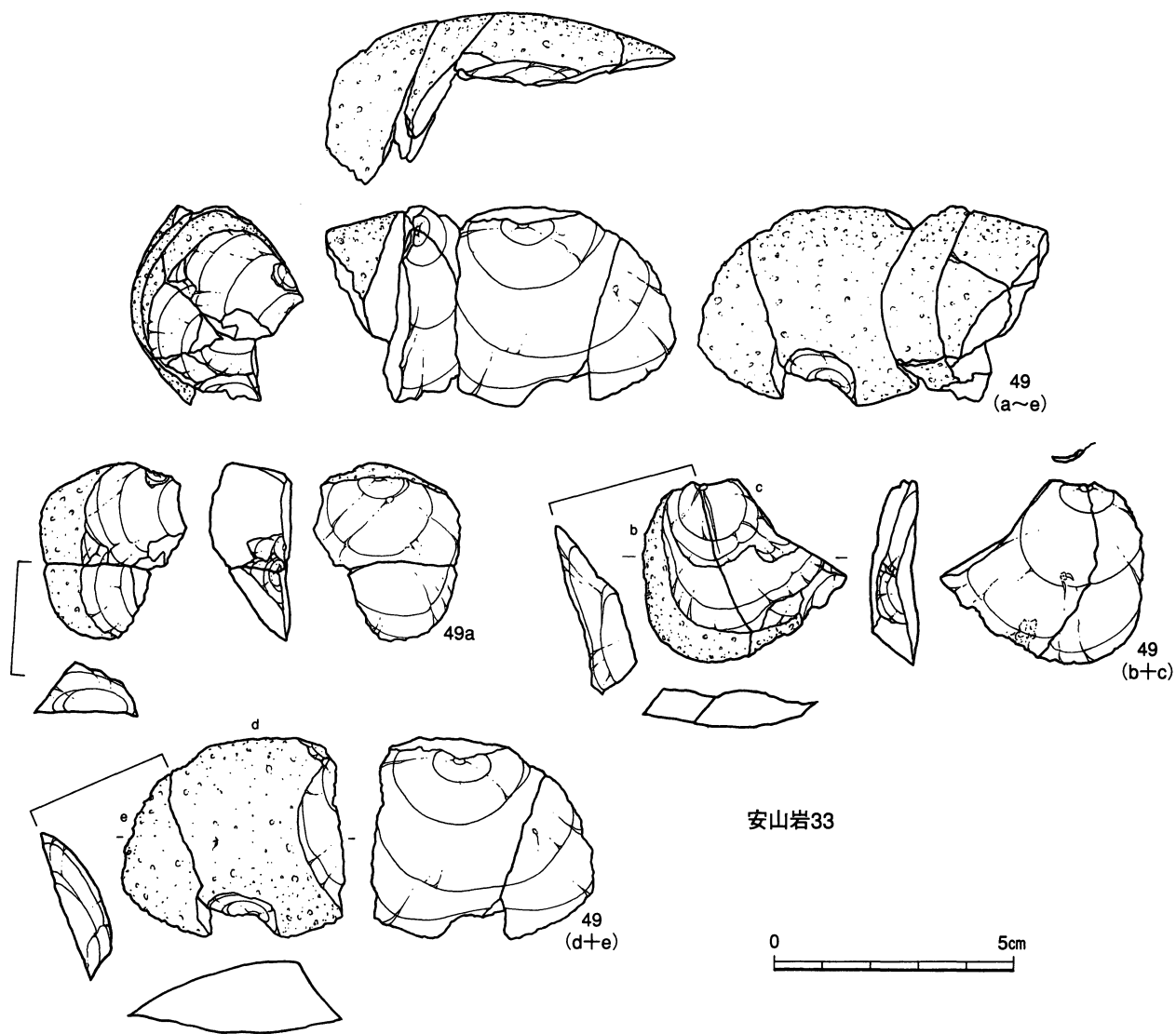
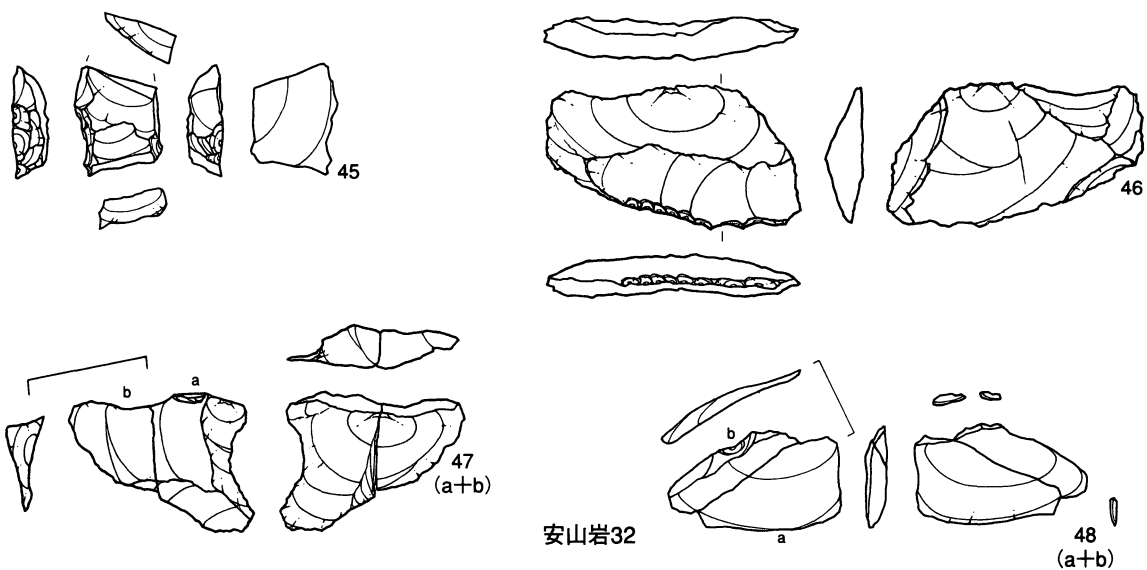
第102图 第21~24地点出土石器 (19)



第103图 第21~24地点出土石器 (20)

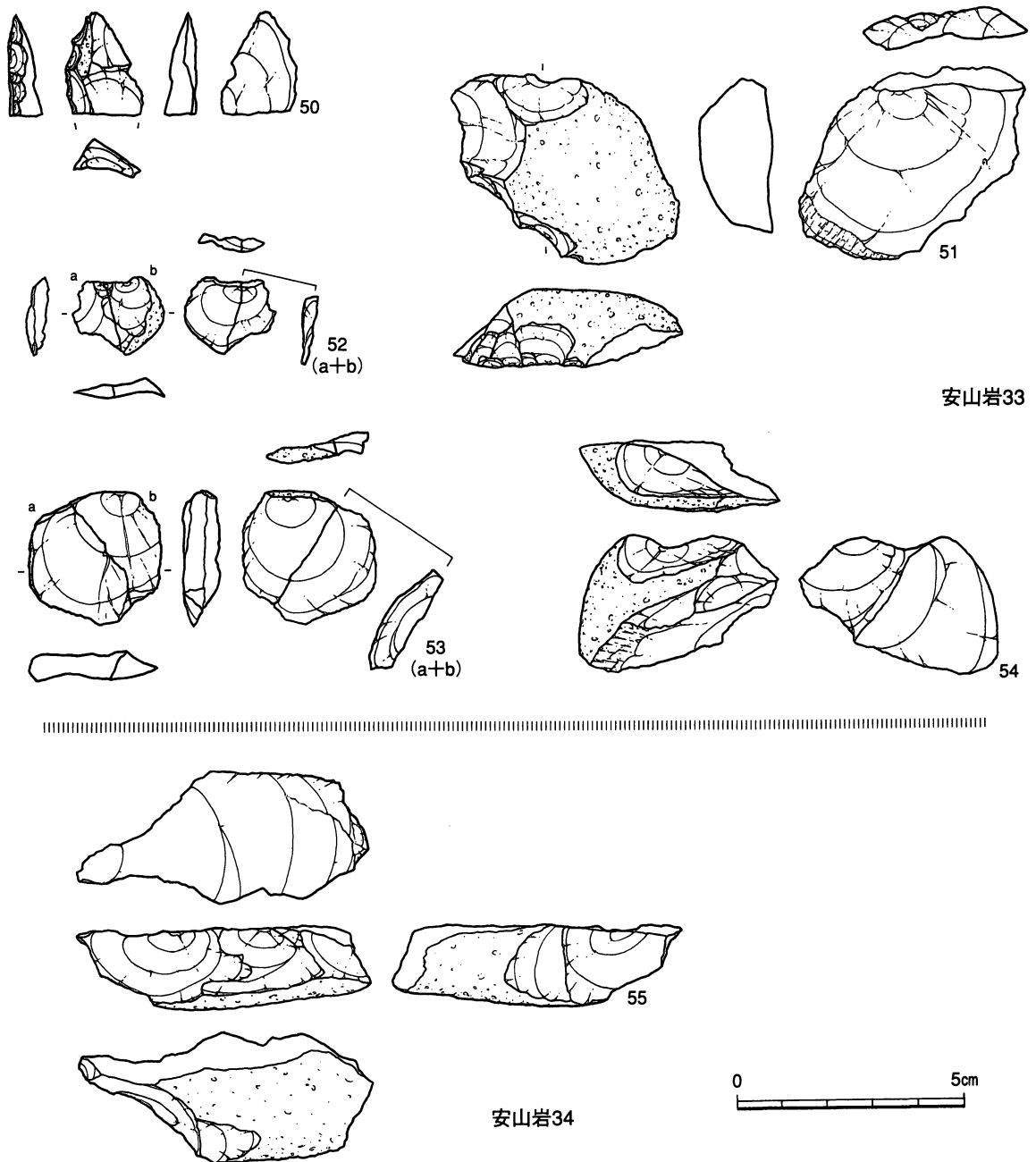


第104图 第21~24地点出土石器 (21)



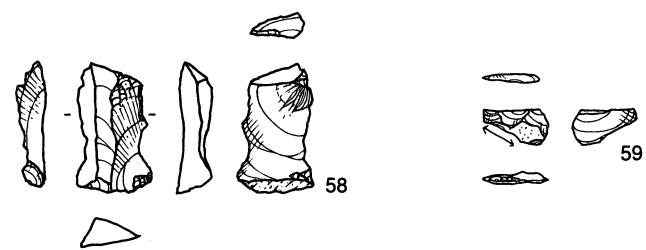
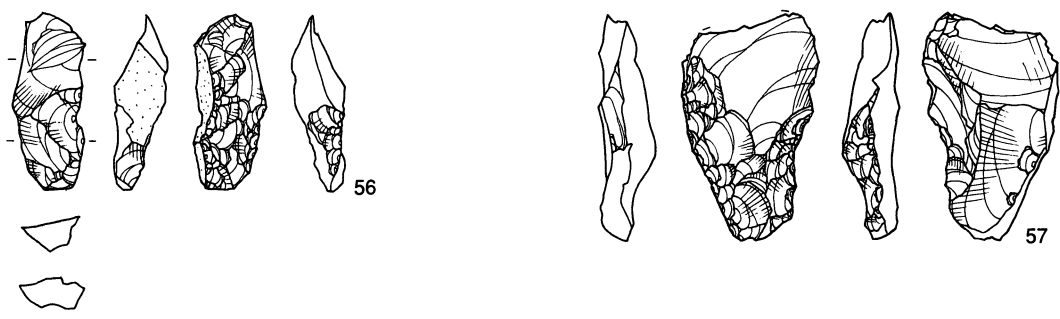
第105图 第21~24地点出土石器 (22)

ている。いずれにしろ原石が小さいため良好な剥片を取ることは難しいものと考えられた。6は15点の剥片等が接合したものであり、成品（6f・ナイフ形石器）の存在も確かめられた。本資料は第84図で示したようにほぼ原形まで復原できた数少ない資料といえる。これを欠損部の剥離面から推察すると本資料からは得られた剥片数は25枚前後と考えられた。そこから得られた成品は現存する1点の他にせいぜい1～2点となろう。本資料の大きさも拳大ほどであり、大きいものではない。7は5点の剥片が接合したもので残核といえるような部分は残されていない。平坦面を順次打面とし次つぎに剥離行為を続けたようである。10は2点のみの接合であり、うち1点は前述したような削器となる。この剥片を剥離後、平坦面に打面を移したものの良好な剥片を得ることはできなかつたため放棄されたものであろう。49は加工剥片

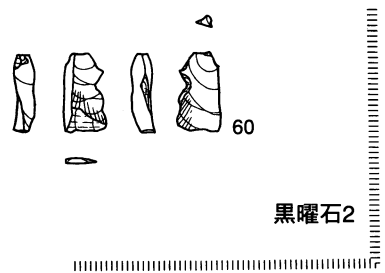


第106図 第21～24地点出土石器 (23)

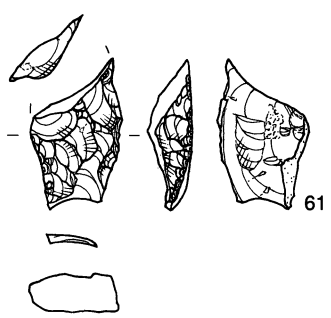




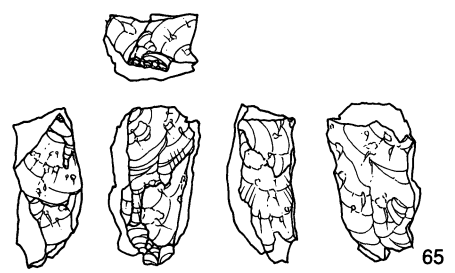
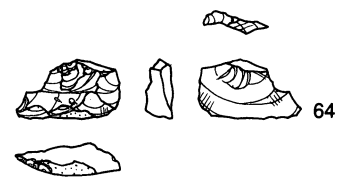
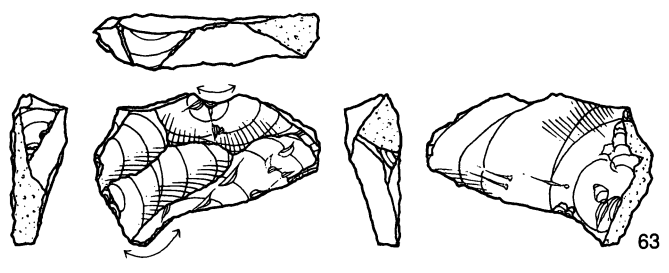
黑曜石1



黑曜石2



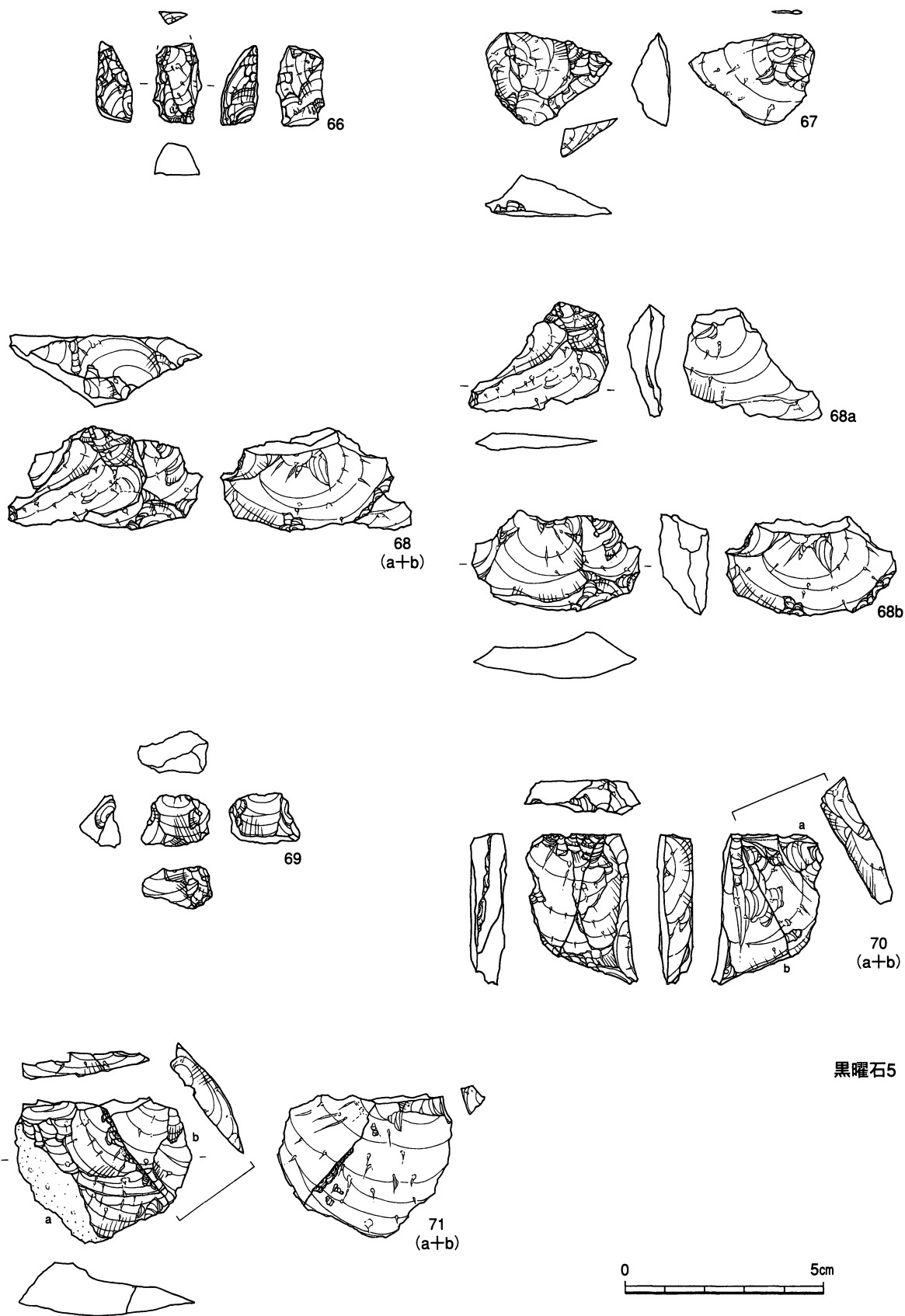
黑曜石3



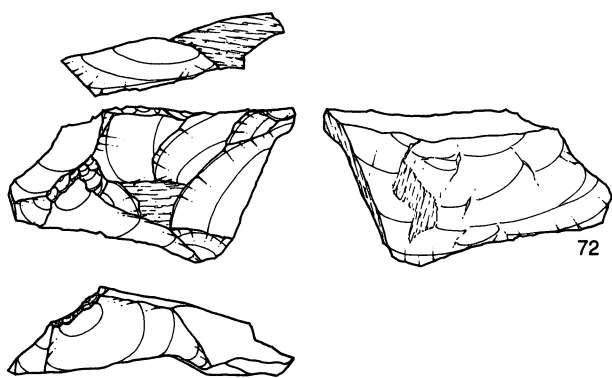
黑曜石4



第107图 第21~24地点出土石器 (24)

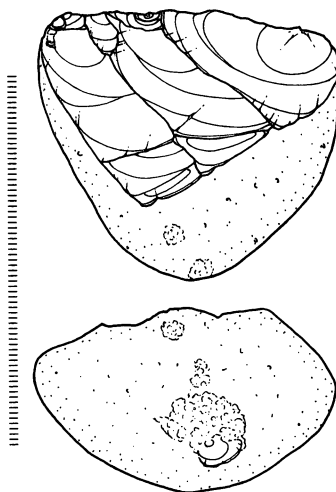


第108図 第21~24地点出土石器 (25)



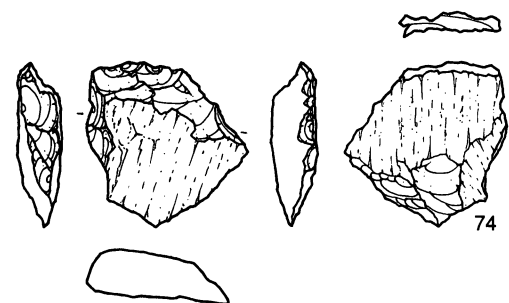
72

頁岩2



73

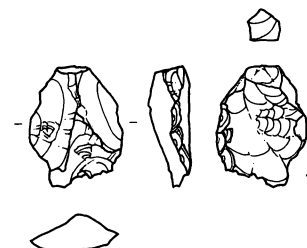
珪質頁岩A-2



74

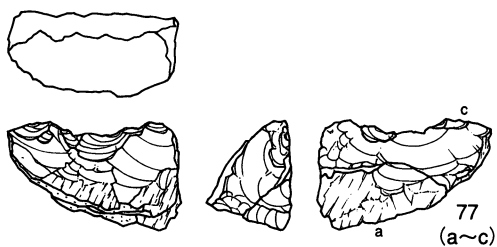


75

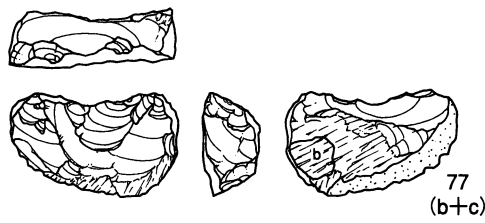


76

チャート1



77  
(a~c)



77  
(b+c)

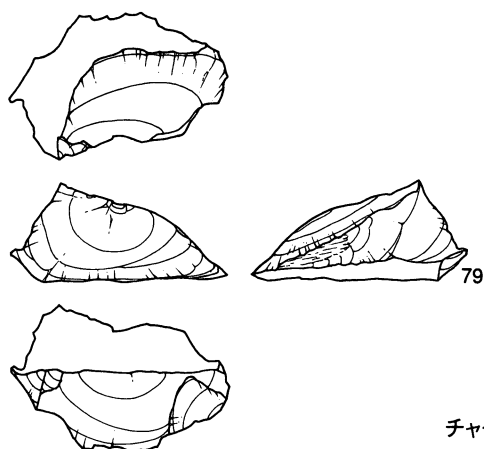
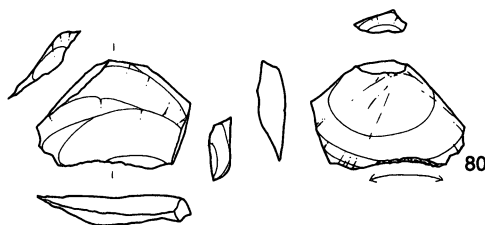


チャート4



80



第109図 第21~24地点出土石器 (26)

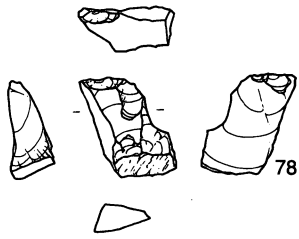


チャート2

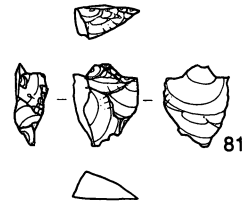
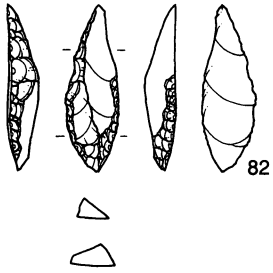
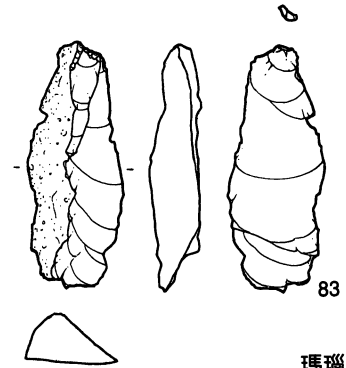


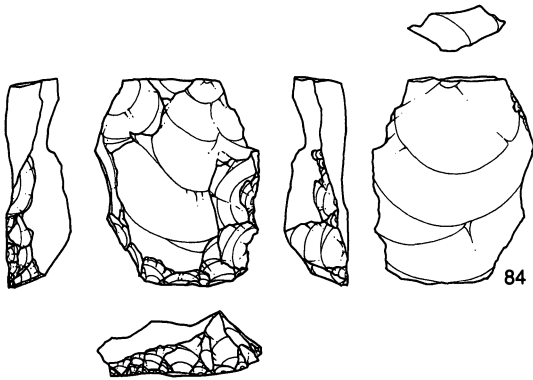
チャート16



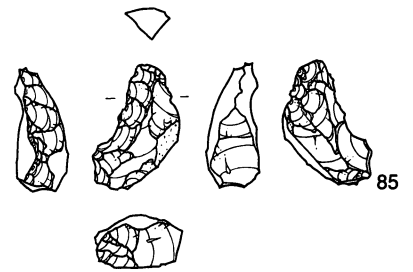
瑪瑙1



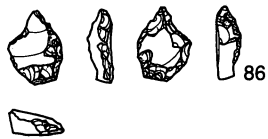
瑪瑙2



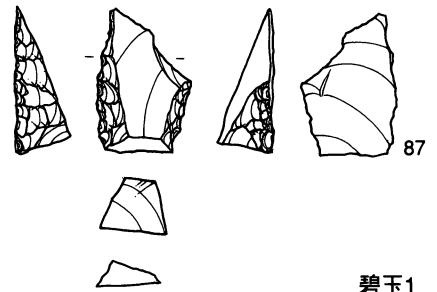
瑪瑙3



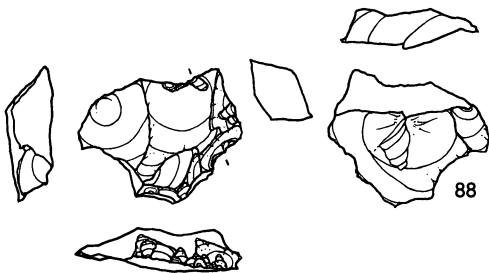
瑪瑙4



玉髓2



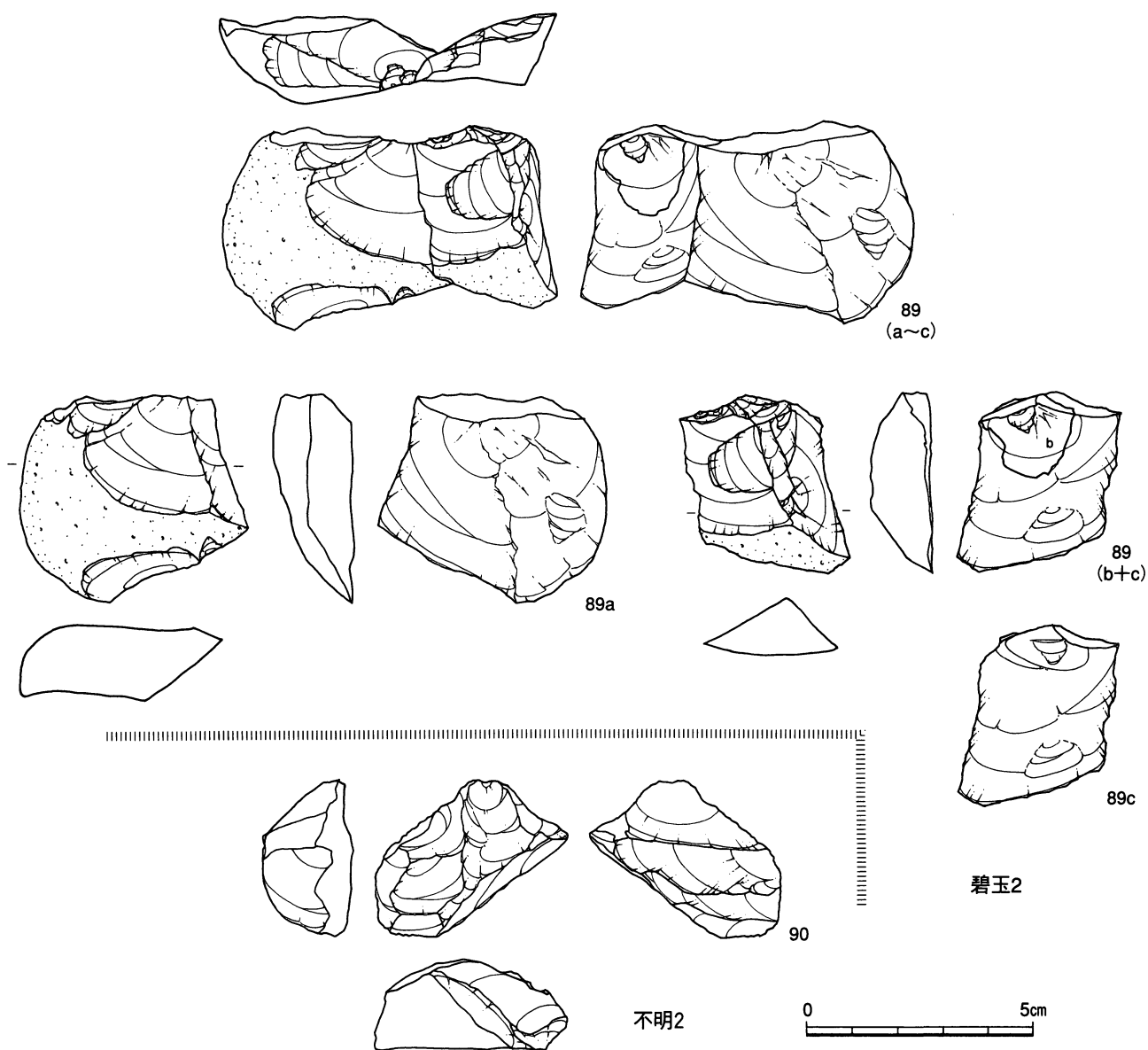
碧玉1



88



第110図 第21~24地点出土石器 (27)

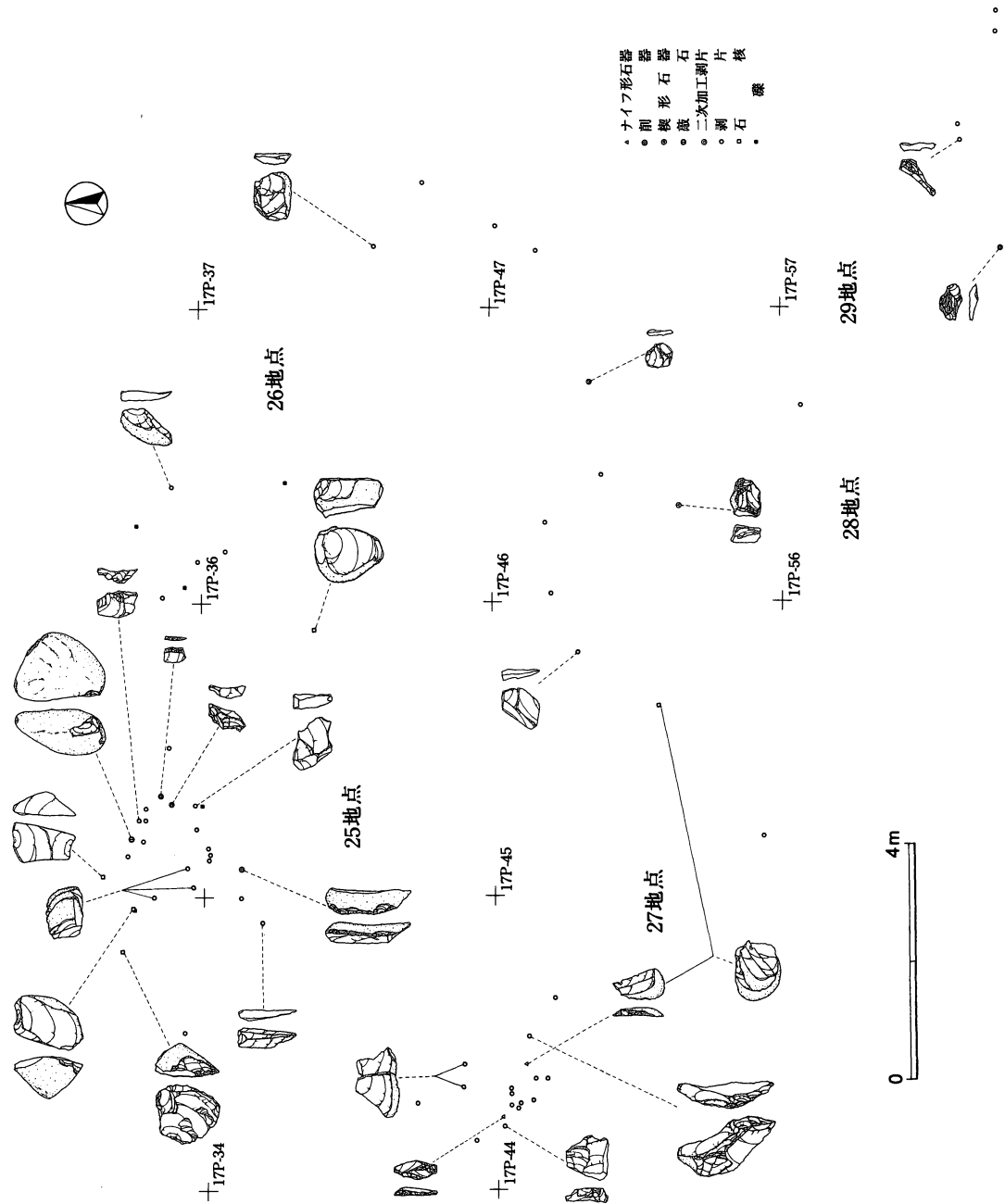
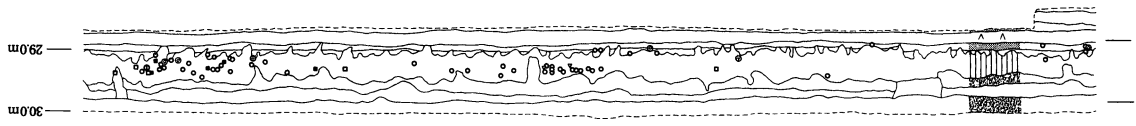


第111図 第21～24地点出土石器 (28)

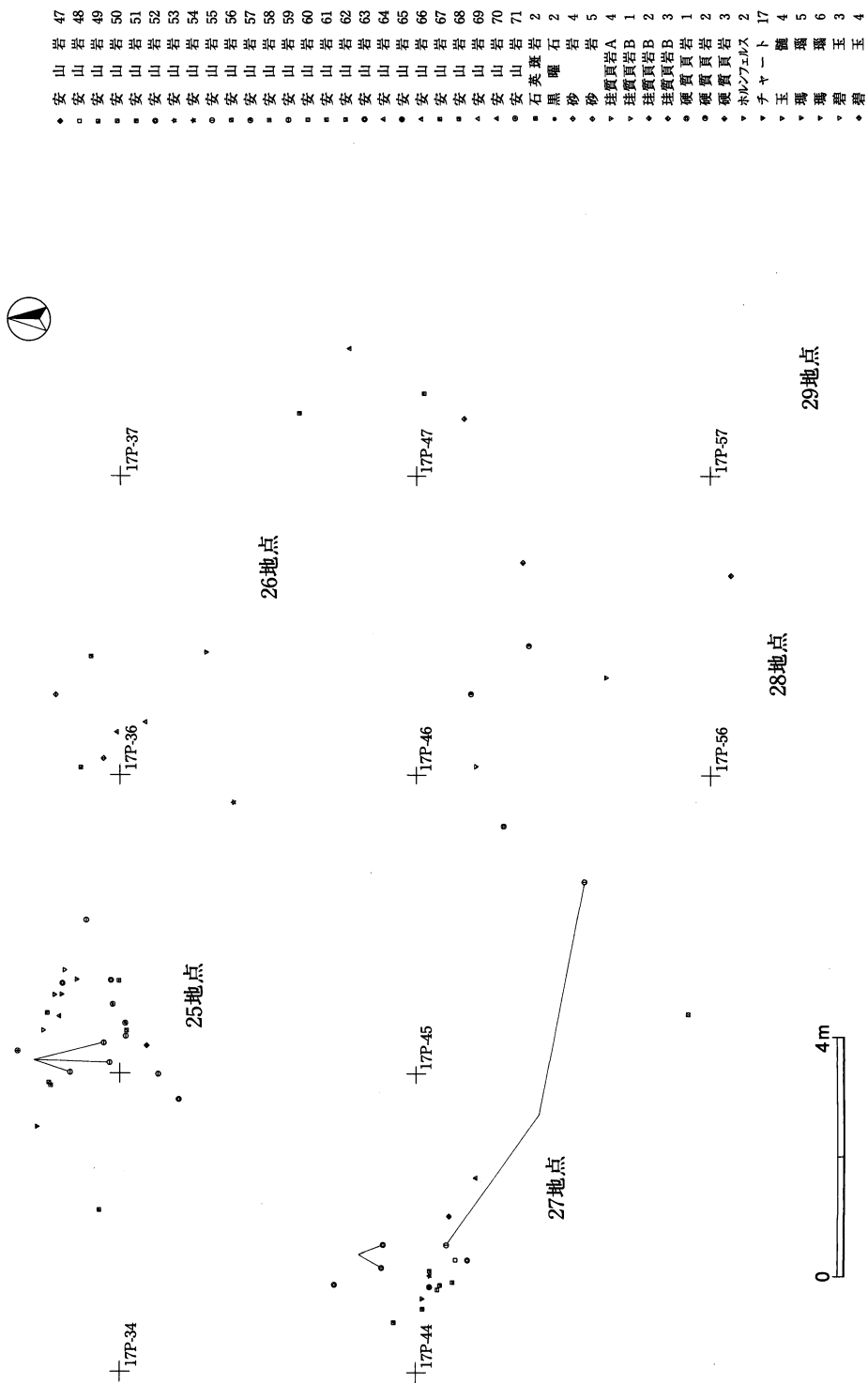
の項でも触れたが、6点が接合した例である。本資料からは、まず平坦な自然面を打面として数枚の剥片を剥離し、49b+49cを剥離後、49d+49e剥片の上部を剥離し、それによってできた平坦面に打面を設定して49d+49e剥片を剥ぎ取っている。現存する大きさから推定すると原石は拳大程度の大きさと考えられた。以上、5点の接合資料はすべて安山岩である。

(5) 第25地点 (第112図～第115図)

**概要** 第25地点～第29地点は調査区の北西部において近接した形で検出されたものである。大グリッドで示すところのP17区にあたり、周囲の地形をみると台地はほぼ平坦な面を形成していた。ここで出土した遺物は整理の過程で出土層位・石材・接合関係等により同時期に営まれていたものと判断し、それぞれ便宜的に集中域を5地点に分割して作業をすすめたため図化に際しては一括して掲載した。



第112図 第25～29地点器種別分布図



第113図 第25～29地点母岩別分布図

本地点は17P-25Gのコーナー付近で集中的に遺物が検出されており、出土層位は第Ⅲ層としたソフトローム層の中～下層となる。分布域は東西に5m、南北に3mとそれほど広くはない。石器群は総数26点が出土し、その大半は安山岩が占めていた。また安山岩は原石の状態で敲石としても使用されており、削器や加工剥片の出土から間接的な生産具主体の石器群構成といえよう。

**石材と石器群** 出土した石器群を石材別に見ると、安山岩18点、石英斑岩2点、碧玉2点、チャート1点、瑪瑙1点、玉髓1点、珪質頁岩1点という構成になり、安山岩以外の石材は数が少なく、種類が多い。構成主体はいうまでもなく安山岩であるが、剥片の観察から原石は、少なくとも拳大程度の大きさは有していたものと推定された。接合資料としては、安山岩の剥片3点が接合した1例(108)だけであるが、石核等の出土からも本地点での剥片剥離作業を裏付けるものとなろう。石器としては削器、加工剥片、敲石等が出土しているものの本地点を特徴づけるような出土量ではない。

削器(93) 表皮部分の大きな剥片を縦方向に分割し、自然面に小さな剥離を施し刃部を形成している。裏面での加工は認められない。安山岩製である。

加工剥片(94・96) 94は珪質頁岩製で、打点部にあたる表面左側上部を軽く剥離した後に微細な調整を施している。96は碧玉製で、小さな石刃状剥片の上下両端を折断しており、右側縁に細かな調整剥離を加えている。小剥片ながらも明らかに石器として用いられたものである。

敲石(114) ほぼ原石の形状を保っており、上下端部に僅かな打痕を認めることができる。縦方向の全長が6cm弱と小さな原石であり、剥片剥取を目的に搬入されたものの一部であろう。小さいため敲石として用いられたものと思われる。

石核(110・111・113) 残核と考えられるものが3点存在した。103はチャート製で分割によって得られた平坦面を打面として剥片を剥離している。打面調整のための剥離が数回認められる。表面には自然面を多く残し、左側縁には整形のための剥離が認められるところから搔器状の石器として用いたものとも考えられる。ただ、剥片剥離は本地点と離れた場所でおこなわれたらしく、ここではチャートの剥片は検出されていない。111は風化した安山岩で、剥片剥離痕が認められたためここに含めた。113も安山岩で残核となろう。平坦な自然面を打面として剥片を剥離している。打面調整はみられない。

接合資料(108) 安山岩製の小剥片3点が接合した。互いに近接して検出されており、剥片剥離がこの地点でおこなわれていたことの証左となろう。

その他、玉髓製の剥片(101)や安山岩製の打面調整剥片(106)が出土しており、この点からも本地点での石器製作が裏付けられよう。

#### (6) 第26地点(第112図～第115図)

**概要** 本地点は、第25地点の東に隣接して検出された石器群で17P-35・36Gを中心に一部は17P-26Gに及び、径3mの小さな分布域を形成するにすぎなかった。出土総数も8点と少なく、層序は前述した第24地点と重複する。このため接合関係は認められなかったが第24地点の一部とも考えられた。石材も安山岩が主体を占め、この点でも近似する。

**石材と石器群** 8点の石材の内訳は、安山岩5点、砂岩2点、ホルンフェルス1点となる。ここでも安山岩中心の石材構成を示す。成品の出土は認められず、石核1点、剥片5点と砂岩製の礫片2点であった。

石核(112) 大きさ4.5cm～5cmほどの安山岩の小礫を左右に大きく剥離しただけである。この大きさでは



石器素材としての良好な剥片を幾枚も剥離することは難しく、早々に放棄されたものであろう。

他に若干の剥片が出土しているが、小片が多い。素材としてあげれば107の剥片ぐらいである。

#### (7) 第27地点 (第112図～第115図)

**概要** 本地点は図示したように、中心的な存在といえる第24地点の南西約6mの地点で集中的に検出された。これは17P-34・44Gにあたり、長径3m、短径1.5mの範囲に楕円を描くように遺物の分布が認められた。出土層位は、前述した地点と同様で第Ⅲ層となる。さらに本地点では2点の成品が検出されており、小規模な地点ながらも時期的な特徴を示唆するものであった。

**石材と石器群** 石器群は合計で17点が出土し、石材も安山岩が16点、珪質頁岩が1点となり、ここでも安山岩が圧倒的であった。成品としてはナイフ形石器が2点出土している。接合した資料も2資料あり、ナイフ形石器との接合もみられた。

**ナイフ形石器 (91・92a)** 91は珪質頁岩製の小型のナイフ形石器で、先端部が僅かに欠損している。打点は先端部にあり、分厚い部分については背面加工により除去されている。基部の調整も入念で両側縁に認められる。剥離は主剥離面には及ばない。92aのナイフ形石器は、東に6.5m離れた17P-45Gから出土した石核と接合したものである。側縁加工により尖頭部を作出しているためナイフ形石器とした。基部では自然面を残したままで、加工の痕跡が認められないため製作途上の未成品とも考えられる。

**接合資料 (92・109)** ナイフ形石器の接合を含め、2資料の接合が認められた。92は接合の位置からナイフ形石器の尖頭部方向から加撃されて剥離した剥片であることが理解できる。その後、打面を再生し何枚かの剥片を剥離しているようである。打面調整のための小さな剥離も認められる。残核の形状をみると小さな原石に対し、丁寧な剥離で素材となし得るような剥片を剥取しているようである。109は隣同士の剥片が接合した例である。素材としてはやや小ぶりとなろう。

その他に数点の剥片が出土しており、99は右側面に4回以上の剥離痕が認められる。打面とした左にも調整剥離痕を残す。打面再生のために剥離されたことは明らかであるが、自然面は上部の一部にみられるだけであり、原石はかなり大きな礫となろう。100は左側面に整形のための剥離が認められるが、石器として使用したかどうかについては即断できない。

#### (8) 第28地点 (第112図～第115図)

**概要** 本地点は、17P-46Gを中心として17P-37・45・47・56Gと広範囲にわたる。遺物の分布では集中した場所はなく、合計で13点と少ない。出土層位もほぼ第Ⅲ層中となる。

**石材と石器群** 出土した石器群の石材は、安山岩5点、珪質・硬質頁岩7点、瑪瑙1点の構成となり、ここでは頁岩の類がやや多めの割合を示す。接合関係では前述したように石核とナイフ形石器において確認されたのみである。また成品については若干の出土はあったものの列挙できるほどではない。

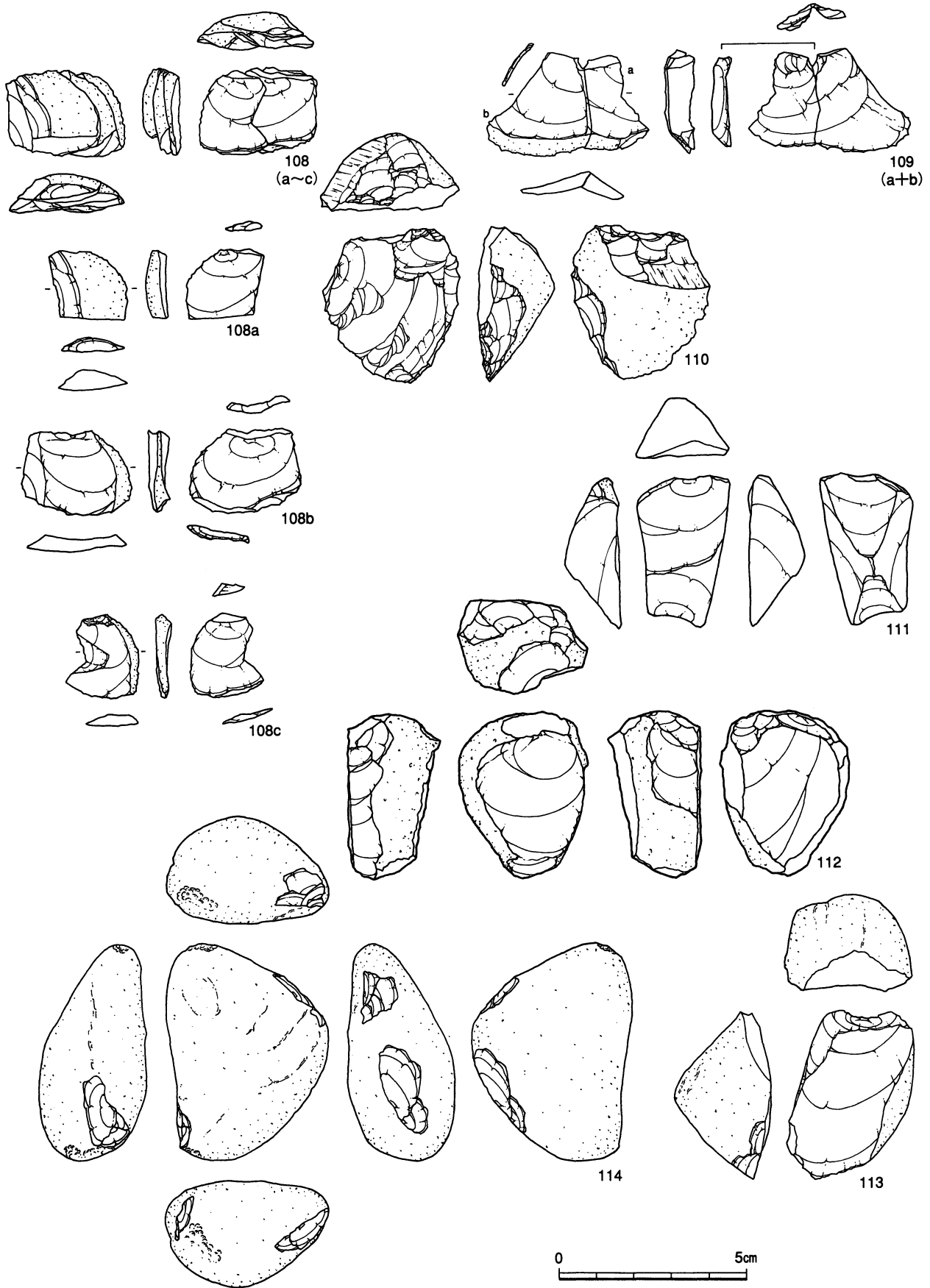
**楔形石器 (98)** 白色を呈した玉髓製で、側縁部での調整剥離と磨耗痕が著しく、石器として使用されているものと考えられたため楔とした。

**加工剥片 (95)** 硬質頁岩製の小剥片で左側縁に折断痕を認めることができる。右側縁と下端では微細な調整剥離が施されているため道具として使われていたことは間違いあるまい。

**石核 (92b)** 92の接合資料としてとして前述したためここでは省略する。



第114图 第25~29地点出土石器 (1)



第115图 第25~29地点出土石器 (2)

その他に、103とした硬質頁岩製の剥片では図示したように微細な刃こぼれ痕が認められる。剥離によってできた鋭い側縁を刃部として用いたものと思われる。105は安山岩で素材として十分な形状を示すが、二次的な剥離は認められない。

#### (9) 第29地点 (第112図～第115図)

**概要** 本地点は17P-57Gで5点の剥片等が出土したため第29地点として他と区別した。遺物の出土層位は第Ⅲ層下部から第Ⅳ・Ⅴ層であり、前記4地点と比較するとやや下層にあたる。さらに、石材についてみると5点の内訳は黒曜石4点、碧玉1点となり、ここでも大きく異なることとなる。この結果、本地点での石器群はこれまで述べてきた第Ⅲ文化層の石器群よりも一段階古く位置づけられるものとなろう。ただ本地点は小規模で、かつ成品等の出土も認められず、第25～28地点に隣接して検出されたため図面等は一括して掲載することとした。

**石材と石器群** 合計5点の石器は、東西方向に並ぶようにして検出された。すべて剥片で図示した2点以外は碎片に近い。

加工剥片(97) 97は下端の一部に調整剥離が施されている。石材は黒曜石で、透明な中に黒い縞状の筋が入り不純物は認められない。ガラス質の良質品といえよう。図化を省略した3点も同質であった。

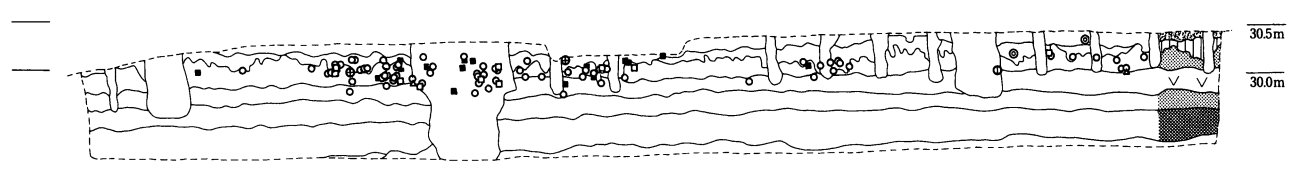
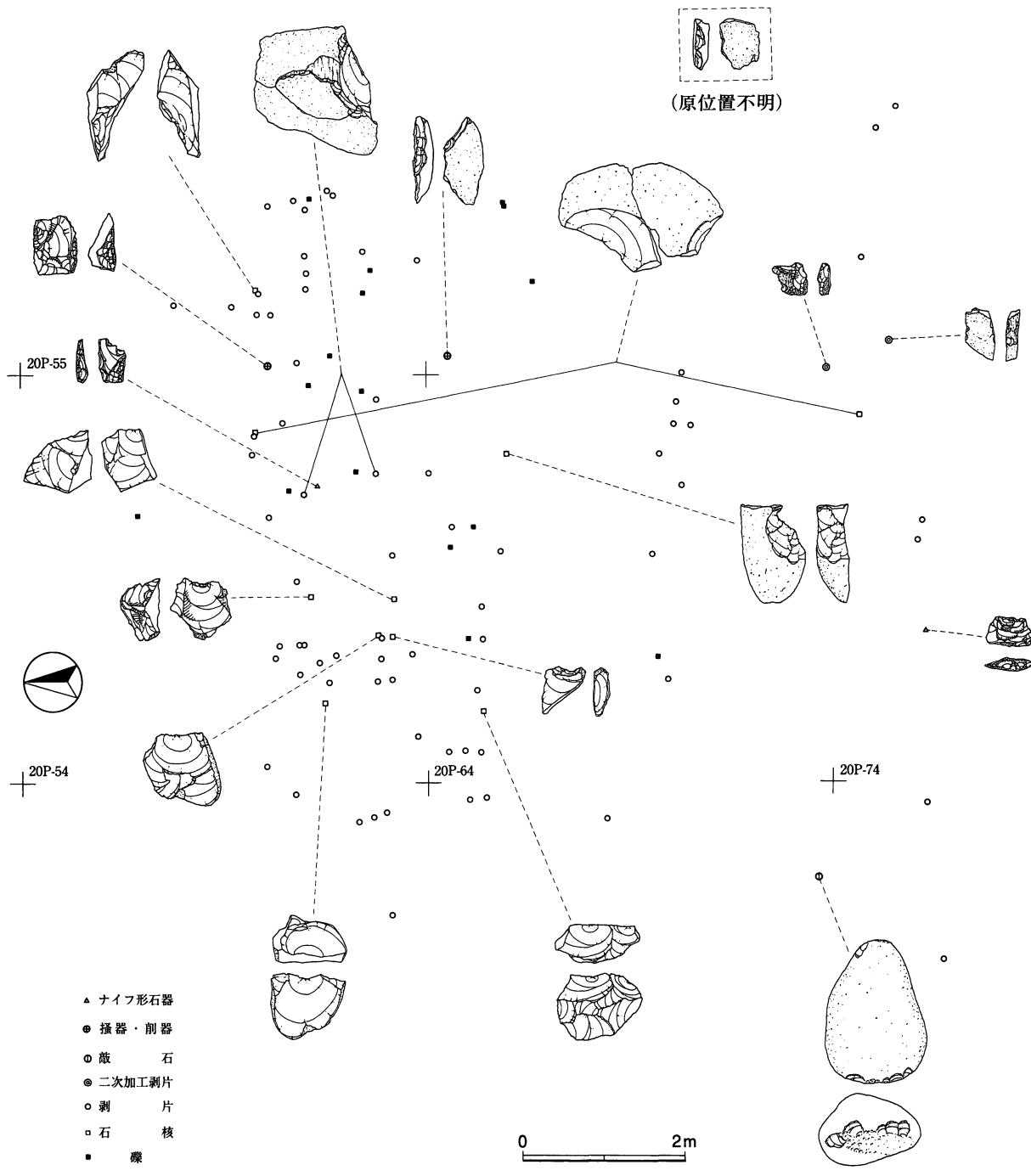
他に102は碧玉製の剥片で、表面に微細な剥離痕が認められる。石器製作の途上で剥離された剥片であろうか。

#### (10) 第30地点 (第116図～第119図)

**概要** 本地点は、遺跡の北側から入り込む谷頭の部分にあたり、北に向かってなだらかに傾斜する地形の中に存在した。大グリッドでいえば、P20区にあたる。遺物は20P-54・55Gで集中的に検出され、隣接する20P-64・65・74・75Gにまで及び、径約10mの広い範囲にわたってみられた。出土層位についてみると、本地点は傾斜部にあたるため、他地点と比較すると第Ⅲ層～第Ⅵ層間の堆積土は約30cmと薄くなる。このためであろうか、遺物は第Ⅲ層下部から第Ⅳ・Ⅴ層にかけて包含されていた。層序的には第Ⅵ層にも一部及ぶが、ほぼ第Ⅲ層下部を想定してよいものと考えられた。また遺物の出土量も多いところから器種も本遺跡としては豊富なものとなった。

**石材と石器群** 本地点は、ひとつの石器群集中域としては広範囲でしかも出土量が多く、また多種の石材を採用していた。遺物の出土総数は107点にもなっており、その内訳は安山岩76点、黒曜石11点、凝灰岩5点、頁岩4点、珪質頁岩4点、砂岩2点、石英斑岩2点、流紋岩1点、チャート1点、浮岩1点という構成である。ここでも安山岩が石材として主体を保持している。ただし76点のうち、剥片剥取用の黒色安山岩が69点を占める。また黒曜石は11点出土しており、縞状の帯や透明度の高いガラス状の黒曜石は6点、気泡や不純物を含有する光沢の少ないタイプが5点あり、明らかに産地の異なることが理解できる二者であった。一方、接合関係をみると図示したように安山岩と珪質頁岩で各1資料が確認されたが、出土数の割合からいえば少ないものといえよう。成品にはナイフ形石器、搔器、削器、加工剥片、敲石等があり、器種的には均衡のとれた組み合わせとなっている。

ナイフ形石器(115・116) 115は半透明でガラス質の黒曜石を素材にし、左側面に整形加工を施している。右側面は剥離した状態で加工は認められない。形状から台形石器とも呼称できよう。116も基本的に



第116図 第30地点器種別分布図

20P-56

20P-66

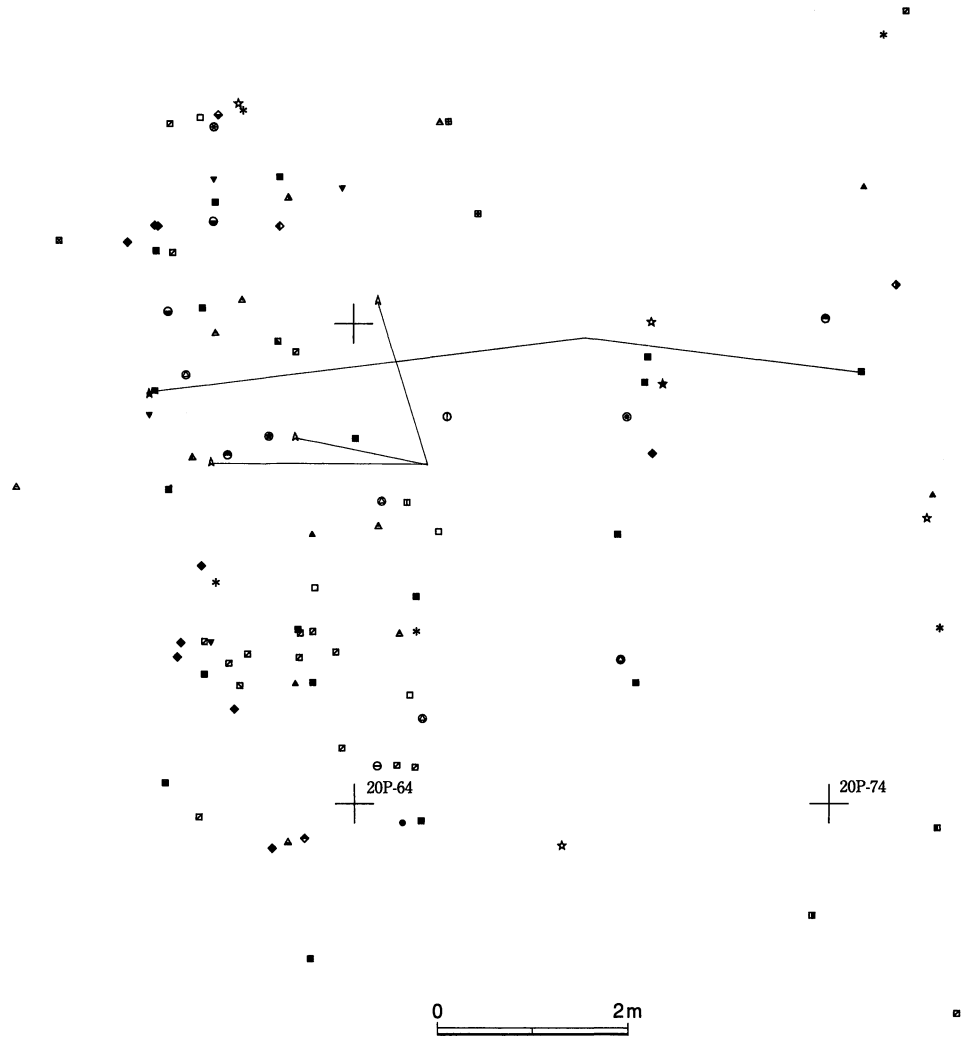
20P-76

20P-55

20P-54

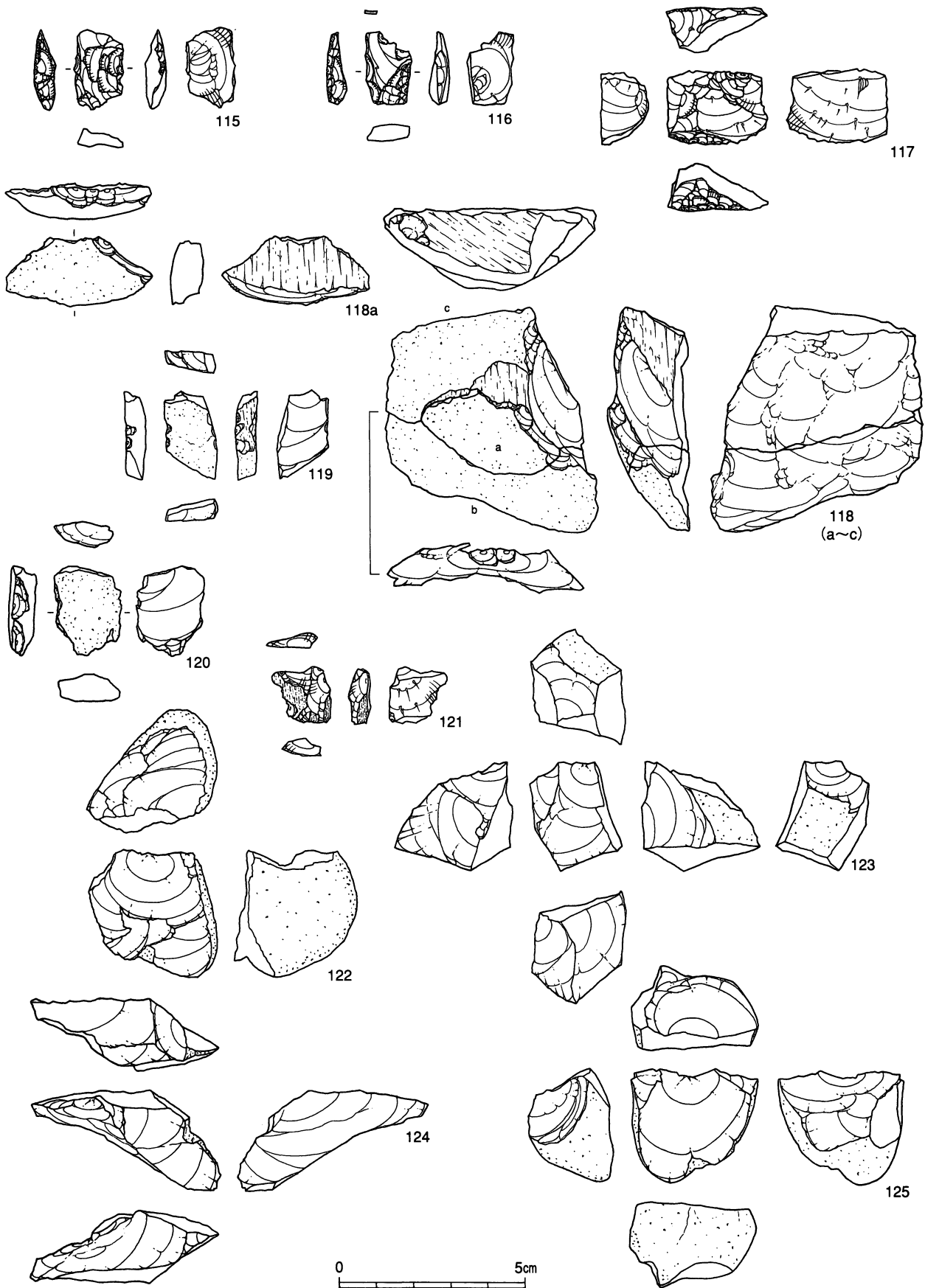
20P-64

20P-74

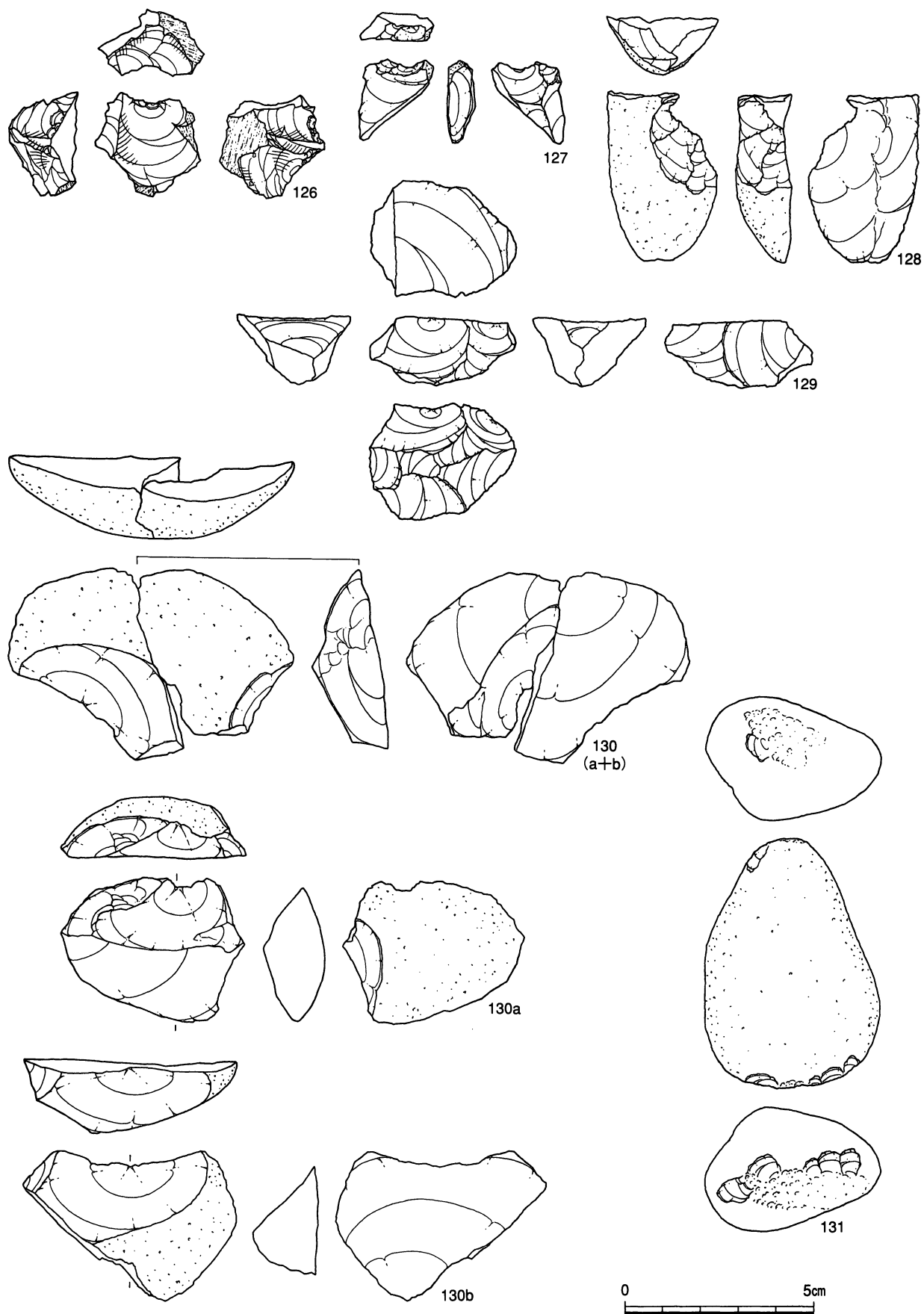


- |          |          |          |           |
|----------|----------|----------|-----------|
| □ 安山岩 72 | ● 安山岩 83 | ■ 流紋岩 1  | ◆ 砂岩 6    |
| ■ 安山岩 73 | ■ 安山岩 84 | ■ 石英斑岩 3 | ◆ 砂岩 7    |
| ▲ 安山岩 74 | ○ 安山岩 85 | ◆ 石英斑岩 4 | ▲ 頁岩 7    |
| ◆ 安山岩 75 | ■ 安山岩 86 | ● 黑曜石 2  | ▲ 頁岩 8    |
| ▼ 安山岩 76 | ■ 安山岩 87 | ● 黑曜石 8  | ■ 頁岩 9    |
| ■ 安山岩 77 | ● 安山岩 88 | * 黑曜石 9  | A 珪質頁岩A 5 |
| ● 安山岩 78 | ▲ 安山岩 89 | ● 黑曜石 10 | ▲ 珪質頁岩B 4 |
| ★ 安山岩 79 | ● 安山岩 90 | ● 黑曜石 11 | ◆ チャート 18 |
| ★ 安山岩 80 | ▲ 安山岩 91 | ▲ 凝灰岩 1  |           |
| ○ 安山岩 81 | ■ 安山岩 92 |          |           |
| ■ 安山岩 82 |          |          |           |

第117図 第30地点母岩別分布図



第118图 第30地点出土石器(1)



第119图 第30地点出土石器(2)



は同様な順序で製作されたものとなろう。主剥離面での加工は施されていない。表面の右側面が若干整形されている点と先端部の作出とが異なる。先端部は僅かに欠損し、表面は鈍い黒色で光沢は帯びていない。**搔器** (117) 本例はきれいに剥離されている部分をもって搔器の刃部としたが、前2例の形態から右側縁を刃部と想定することもできる。ただ主剥離面での打点部は整形により削除されており、素材となった剥片はだいぶ大きなものと思われた。石材は黒曜石で、若干不純物を含み光沢は帯びていない。

**削器** (118a) 118aは、3点が接合した珪質頁岩製大型剥片の1点を加工して仕上げたものである。接合の状態から見ると、剥離作業によって得た大きな剥片を節理面に沿ってさらに分割し、整形のための剥離を加えた後に折断して成品としている。いずれにせよ表皮部分を多く残した素材を用いており、粗雑な作りとなっている。

**加工剥片** (119～121) 119はチャート製で表皮部分が多くみられ、先端部は欠損している。両側面に若干の剥離痕が認められ、これを背面加工と考えればナイフ形石器とすることができる。120は頁岩製で材質も粗悪であり、石器としての使用を考えると疑問も残る。121は黒曜石製で、正面には自然面を残し、両端を欠損する。

**敲石** (131) 全長6.5cm程の小型の敲石であり、上下端部に顕著な使用痕を残す。とりわけ下端は激しく使用したものであろうか小さな剥離さえも認められる。石材は流紋岩である。

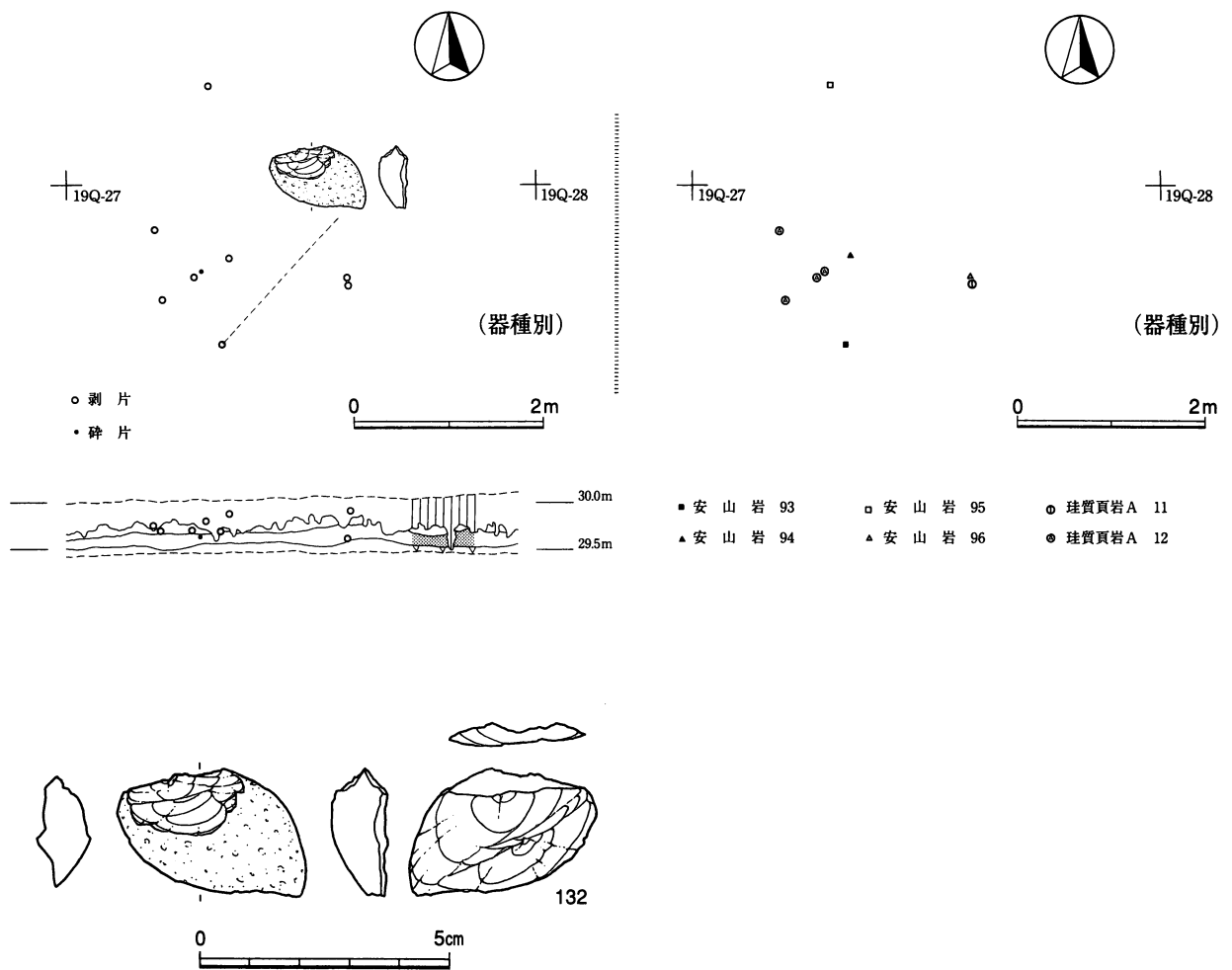
**石核** (122・125・126・129) 石核としての形状をとどめているものに限り取り上げた。122は分割してできた平坦面を打面としており、二方向からの剥離が認められる。125も同様な形で剥離している。残された自然面から推定すると、原石はそれほど大きな礫ではないようである。129は周囲からくまなく剥片剥離がなされたようで自然面はみられない。このため原石の想定はできないが、残核の特徴をよく示している。以上の3点は安山岩である。126は半透明な材質の黒曜石で自然面を残す。大きく剥離した面を最後の打面としており、2～3枚の剥片を剥離している。また右側縁を抉るように小さく剥離しており、その形状から石錐として使用された可能性がある。

この他に破碎礫(安山岩・凝灰岩)が集中地点において十数点検出されているが、特に表面の変色は認められないためいわゆる礫群としての性格は希薄のようであった。また20P-65Gにおいて浮石(軽石)が出土している。本地点では攪乱等も認められたため、縄文期の混入品の疑いも捨てきれない。

#### (11) 第31地点(第120図)

**概要** 本地点は遺跡のほぼ中央部にあたるが、前述した第30地点同様北から入り込む支谷によって若干傾斜する地形に営まれていた。遺物の分布範囲は狭く、19Q-27Gで集中的に検出され、隣接する19Q-17Gでも1点出土した。出土層位についてみると、本地点では傾斜部にあたるため第Ⅲ層のソフトローム層は比較的厚く、第Ⅳ～Ⅴ層は15cm～30cmと薄い。遺物の高低差は約30cmを測るが、図示したように第Ⅳ～Ⅴ層の上部から第Ⅲ層下部と捉えてよいものと思われた。ここでは遺物の少なさから短期的な居住であったものと考えられる。

**石材と石器群** 出土した合計9点の遺物は、珪質頁岩5点、安山岩4点で構成され、これらはすべて剥片・碎片の類で成品は認められなかった。図示した132は、9点出土したなかで最大の剥片であった。表面では自然面を多く残し、石器素材としては十分な形状を有するが加工などは認められない。



第120図 第31地点遺物分布図・出土石器

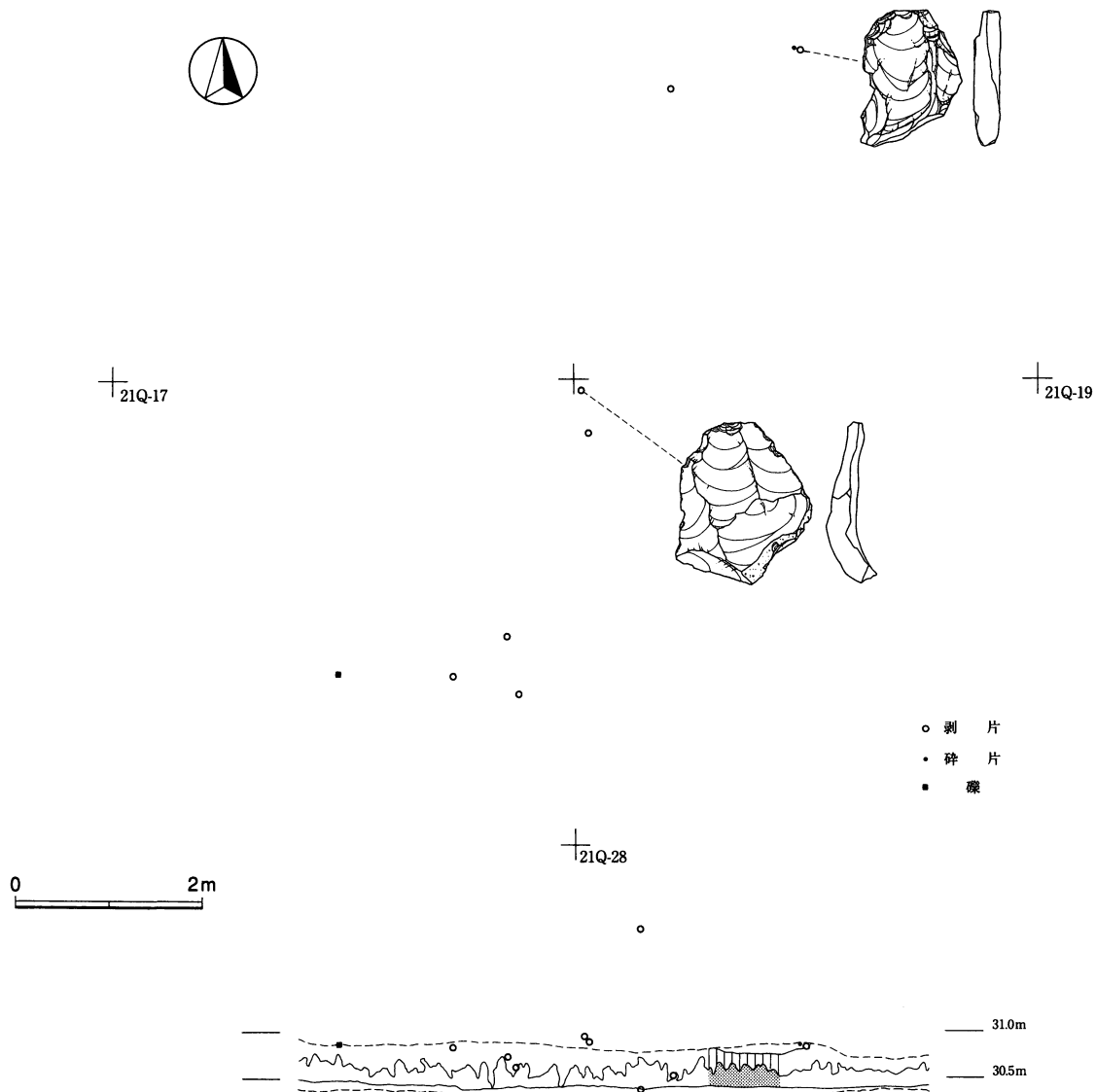
(12) 第32地点 (第121図・第122図)

**概要** 本地点は大グリッドの21Q区で検出され、21Q-17・26・27・28Gの4グリッドにわたって遺物が散っていた。出土範囲は広いものの数量は10点と少ない。出土層位は、概ね第Ⅲ層とすることができようが、その高低差は約50cmと大きく石材の多様さからも時期的に分離できる可能性が残る。

**石材と石器群** 出土した石器群10点の内訳は、剥片等が8点、礫2点となる。剥片等8点は、珪質頁岩4点、流紋岩3点、黒曜石1点となり、ここでは安山岩は検出されていない。図示した2点の剥片はともに珪質頁岩製で、石器の素材としても十分な形状を有する。133は表面の左上半側縁に微細な調整が加えられており使用の痕跡とすることができよう。134も両側面に微細な剥離痕が認められ、主剥離面にも及ぶ。いずれも道具として使用されたことは確実であろう。なお、ここでの黒曜石は若干不純物を含んでおり、小片で流紋岩同様碎片に近い。

(13) 第33地点 (第123図～第126図)

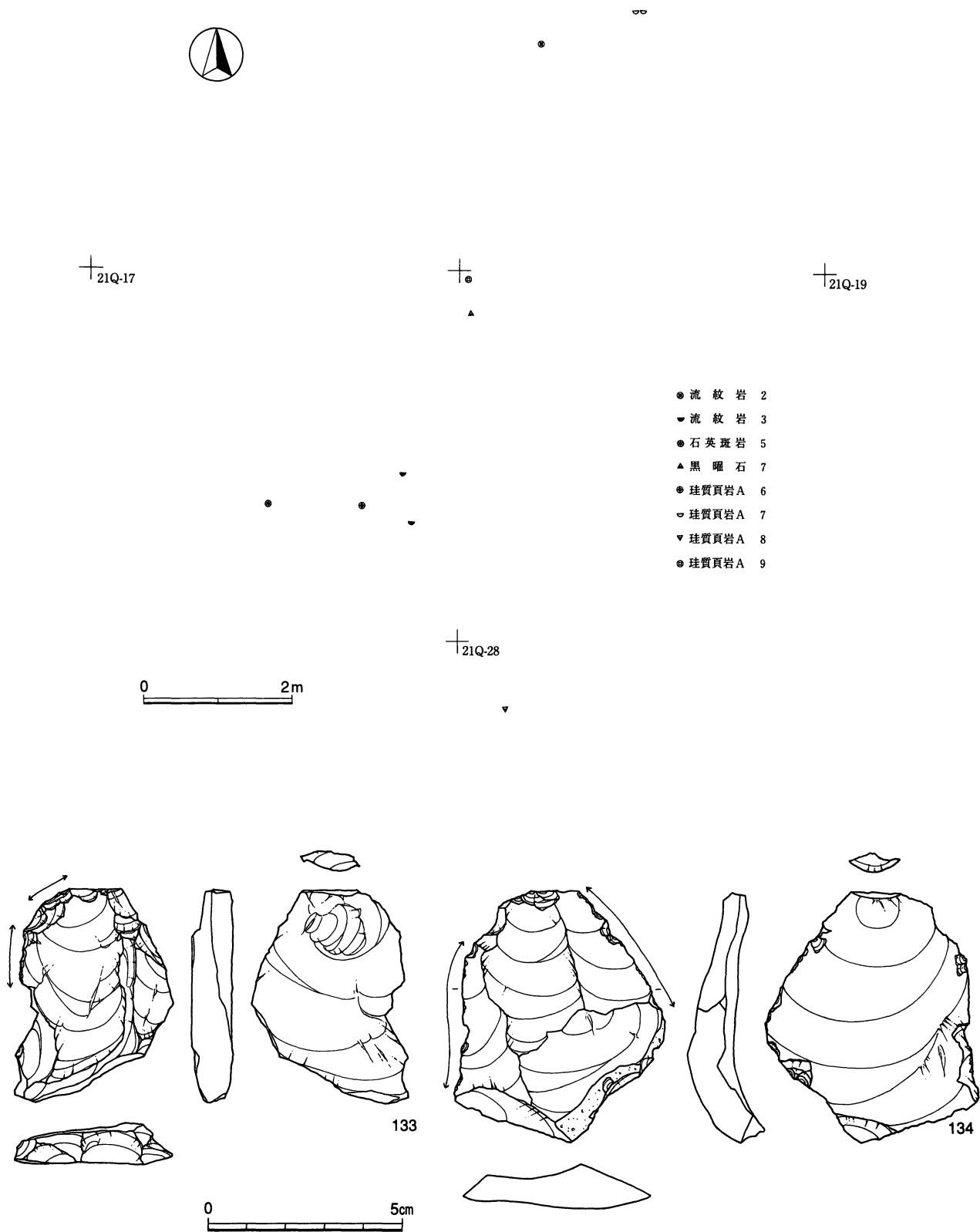
**概要** 本地点は、大グリッドでみると19R区から19S区にかけて遺物が集中的に検出されている。最も集中するグリッドは、19R-94Gで隣接する19R-84・95G、19S-04・05Gに及び、遺物の分布範囲は長径10m、短径4mと大きな規模を示す。これは第Ⅲ文化層のうちで最も充実した石器群の内容となり、



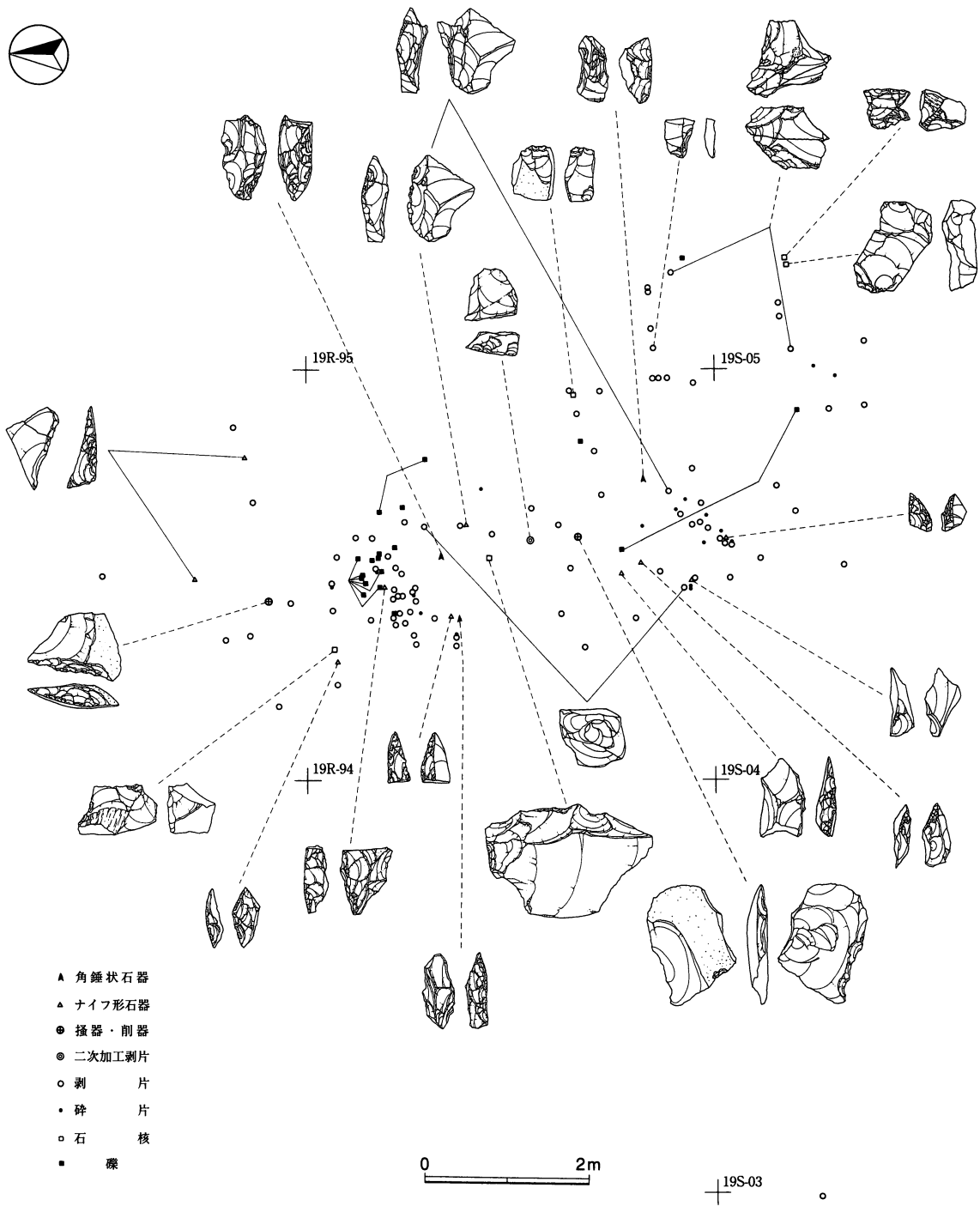
第121図 第32地点器種別分布図

本遺跡中でも有数の石器出土地点となった。石器群の出土層位は第IV～VI層が中心で、一部は第III層と第VII層に包含されていた。図示したように、ここでは各種の成品が出土している。特に頁岩は成品や石核、大小の剥片を合わせると97点を数え、ここでは頁岩を多用した石器製作跡といえる。

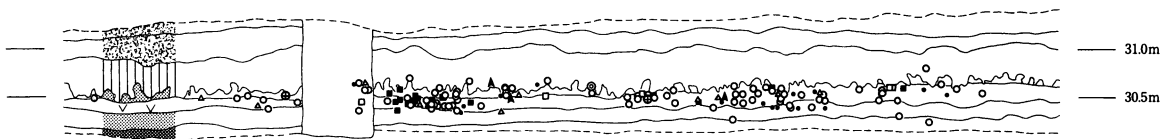
**石材と石器群** 出土した石器群の総数は142点と多く、狭い分布域に密集していた。しかも成品が豊富に検出されたことは特筆できよう。石器群を石材別にみると、最も多いものは頁岩で97点、次いで砂岩が16点とその差は大きい。他では安山岩7点、チャート7点、流紋岩5点、珪質頁岩3点、ホルンフェルス・瑪瑙・玉髓が各2点、粘板岩1点という構成となり、黒曜石は皆無であった。ここでは他地点と異なり頁岩が出土総数の68%と大きな比率を占める。また砂岩・流紋岩は礫群として石器群の密集地点において検出されたものであり、このことを考慮すれば本地点の石器群は頁岩で構成されていたものといっても過言ではなかろう。それを裏付けるかのように頁岩製の成品が多数検出されており、ナイフ形石器9点、



第122图 第32地点母岩别分布图·出土石器



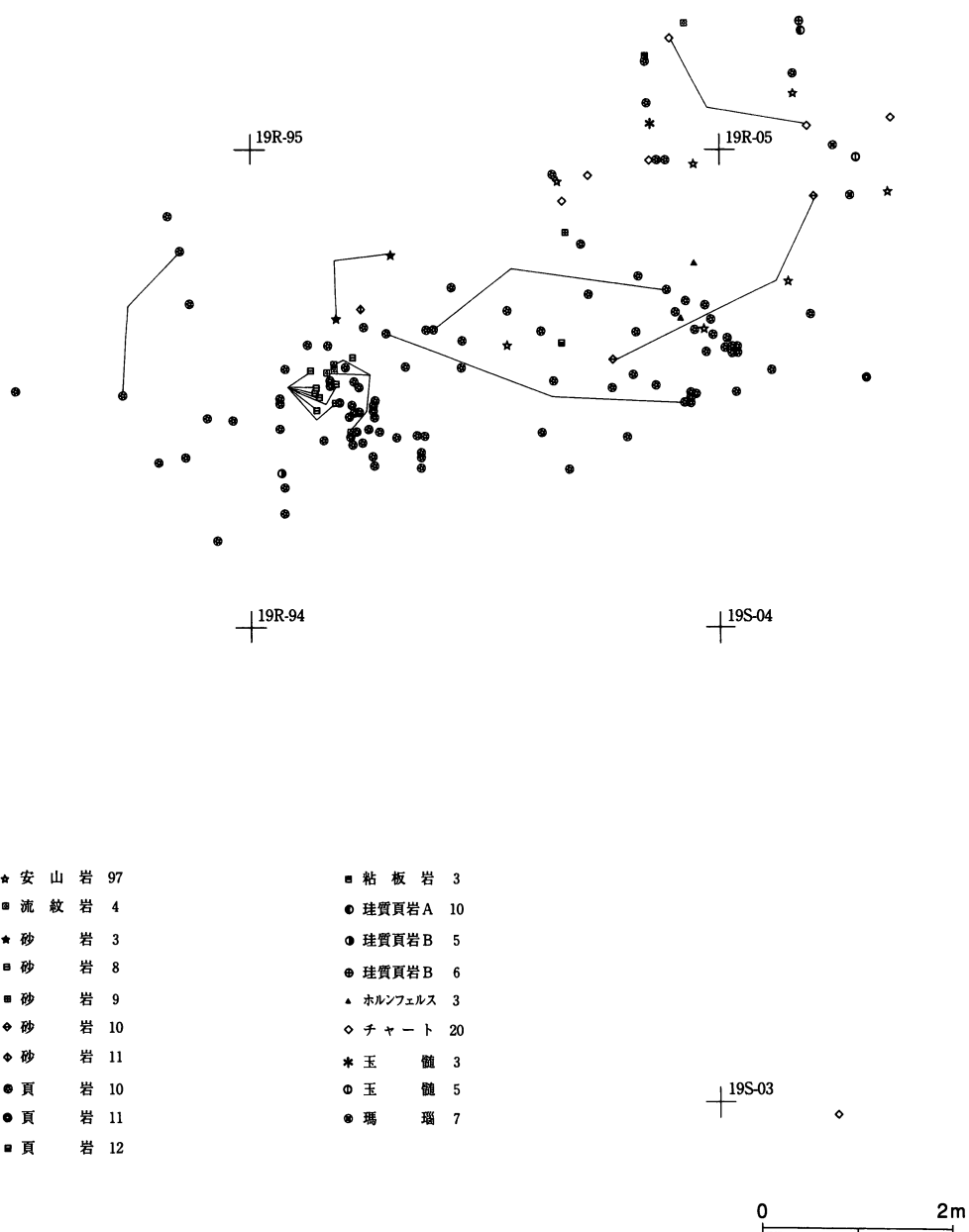
- ▲ 角錐状石器
- ▲ ナイフ形石器
- 掻器・削器
- ◎ 二次加工剥片
- 剥片
- ・ 碎片
- 石核
- 礫



第123図 第33地点器種別分布図

角錐状石器 3 点, 削器 2 点を数える。他の石材を使用した成品は皆無であった。ただ二次加工を施した剥片は安山岩に 1 点だけ認められた。

ナイフ形石器 (138~146b) ナイフ形石器かそれに近いタイプの成品を一括した。9 点と数量的には多いものの石刃状の剥片を加工したものは存在せず, それぞれ個性的な形状を呈している。138は完形品となろうが, 左上側縁のみに刃潰し加工を施し成品としている。基部での加工痕も認められない。139は, ほぼ1/2の遺存であり, 遺存部での背面加工はきれいに施されている。140は小型品で左側面の打面部を



第124図 第33地点母岩別分布図

整形し、成品に仕上げている。141は欠損品であるが、先端部は断面三角形で138のような形状を呈していたものと思われる。142は先端部が欠損し、基部での整形は施されていない。右側面のみ加工である。143は左側面に大きな剥離が2～3回認められ、その後、微細な調整痕が数回みられる。先端部は折断されたものと思われるが判然としない。ナイフ形石器としてはあまりに粗雑である。144は図示したように同一グリッドから出土した2点が接合したものである。右側面での加工だけであり、基部には施されていない。前述したナイフ形石器も形態を重要視したものとは思えないため、本資料もこの形状で完成品と考えてよいであろう。145は上半部が欠損し、左右の側面は粗い剥離で整形して石器としているようである。146bは左側面で整形のため剥離された剥片が接合した珍しい例である。その後も大きな剥離を1回施し、次いで小さな剥離で形状を整えている。基部を含めて主剥離面での加工はなされていない。以上、9点について簡単にそれらの内容について記してみたが、総体的に粗雑な製作で石刃状剥片から製作されるナイフ形石器とは比較しようもない。素材となる剥片も横長タイプのもが多く、しかも分厚く頑強に仕上げている。これらの石器群は、いずれも灰白色を呈した頁岩で、同一母岩から剥離された可能性が高い。

**角錐状石器** (135～137) 3点を角錐状石器としたが、未成品を連想させるような粗雑な仕上げである。135は比較的きれいに両側面を整形しているが、136は右側面に簡単な剥離を加えるだけで、左側縁は一次剥離の状態であり、加工は加えられていない。先端部は欠損しており、使用については疑問も残る。137も両側面を若干剥離しただけであり、残核のような形状を呈している。いずれも石材は頁岩で、色調は灰白色を呈している。

**削器** (147・148) 2点の出土をみた。147は黒色を呈した頁岩で、これまでみてきた石器群と色調で異なる。両側面を粗雑に整形し、舌状の削器に仕上げている。表面には自然面を多く残し、上部では彎曲に沿って使用痕が認められる。148も自然面を残す。打点部もそのまま放置され、主剥離面も含めて整形の痕跡は認められない。加工は横長剥片の下端を直線上に整形を兼ねて剥離し削器としている。石材は灰白色の頁岩製である。

**加工剥片** (149) 安山岩製で、下端部に3～4回の小さな剥離痕が認められる。搔器状の石器として使用されたものと思われた。

**石核** (153～157) ここでは5点を図示したが、残核らしく形状の整ったものは少ない。153は安山岩製で自然面を若干残し、縦長状の剥片を剥取した痕跡が認められる。154～156は珪質頁岩製で、平坦な面を見出ししては打面としており、残された形状も変化に富む。157は灰白色の頁岩で、下端に僅かに自然面を残す。分厚い板状の剥片からさらに素材となり得るような剥片を剥離したものと思われた。ただ剥離で生じた鋭いエッジに、さらに微細な剥離を施しており、削器のような石器として使用されていたものと考えられた。

この他に、150は玉髓製で微細な調整痕が認められる。151と152は接合資料で、いずれも近辺から出土している。石材は前者は頁岩、後者はチャートである。

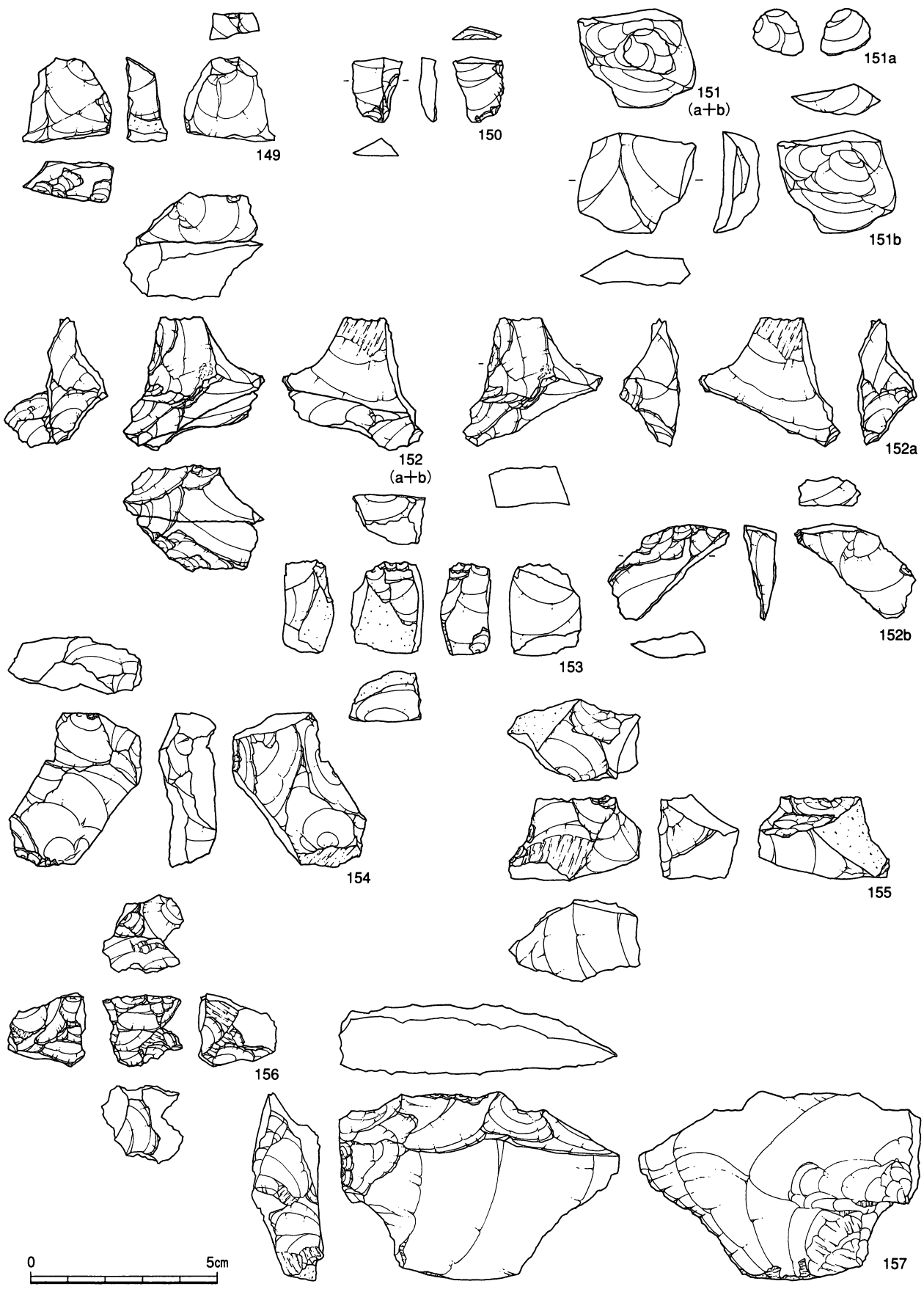
#### (14) 第34地点 (第125図)

**概要** 本地点は、下層の確認調査時に20U-21Gで石器と剥片が1点づつ検出されたため、周辺域を拡張し調査を継続した。その結果、同一グリッドからさらに2点の剥片が検出されたが、他のグリッドでの出土は確認できなかった。4点の出土層位は、図示したように第Ⅲ層から第Ⅳ・Ⅴ層にかけての層位であり、ローム層の風化ということを考慮すれば、いわゆるハードローム上部に包含されていたものと考えられる。

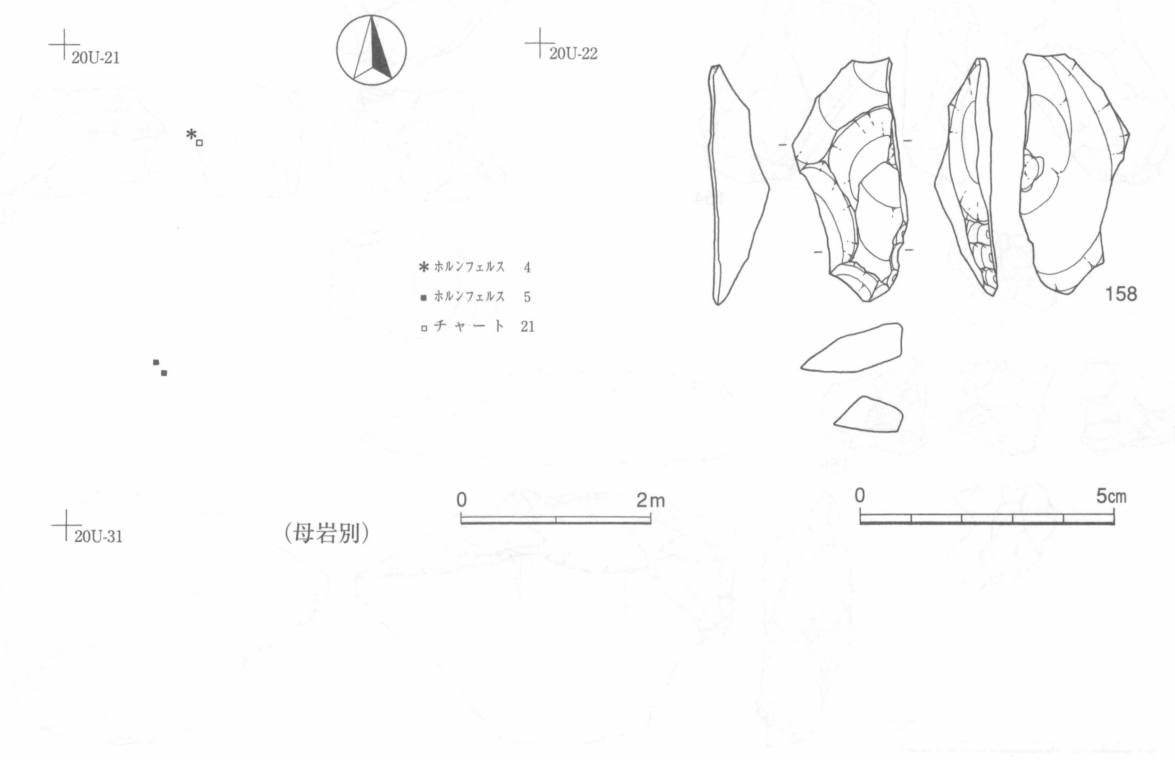
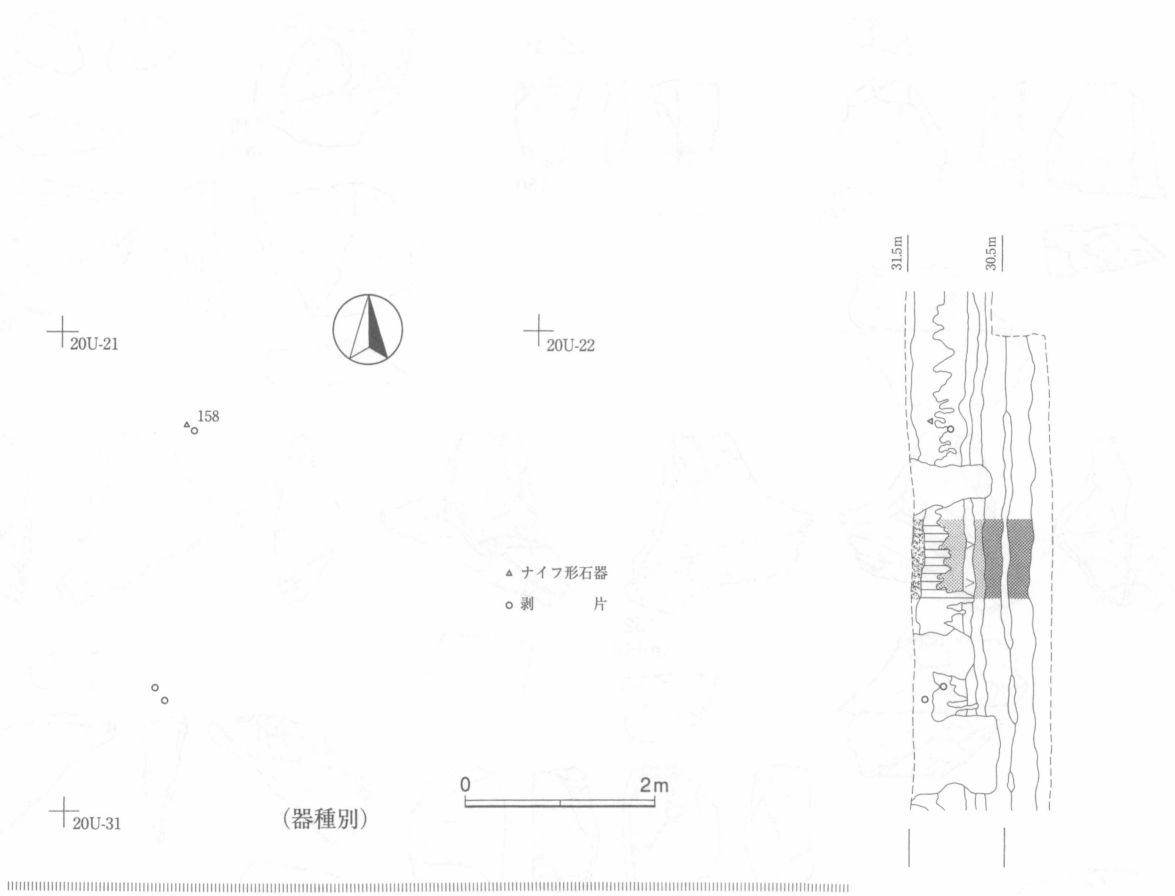


第125图 第33地点出土石器 (1)





第126图 第33地点出土石器 (2)



第127図 第34地点遺物分布図・出土石器

ここでの出土数は少ないものの成品が1点確認されている。

**石材と石器群** 出土した4点の石材は、ホルンフェルス3点とチャート1点で構成されていた。ここでは出土数が少ないこともあり使用石材について多くは語れない。また石材の相違や出土層位から推察すると、本地点の石器群は第Ⅲ文化層の中でもある程度の時期差が存在したものと考えられる。簡素化されたナイフ形石器もそのことを示しているようである。

**ナイフ形石器** (158) ホルンフェルス製のナイフ形石器が1点出土している。横長の剥片を素材として基部に若干の整形剥離を加えることによりナイフ形石器としている。主剥離面での加工は認められない。技術的な面からみると、概して粗雑な仕上げであり、前述した第32地点のナイフ形石器群との共通性が窺われる。

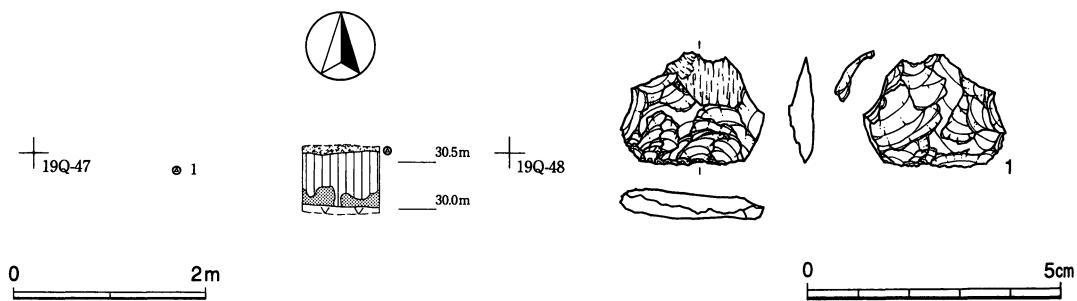
## 2 第Ⅲ文化層の石材と石器群

これまで第Ⅲ文化層として捉えた第21地点～第34地点までの内容をそれぞれ記載してきたが、これらの中には接合関係から相互に関連を有する地点（第21地点～第24地点、第25地点～第29地点）が隣接して位置することが確認できた。環状石器群として記述した第Ⅰ文化層での第1地点は、その典型ともいえるものと考えられる。本文化層でも、相互に関連性のある石器集中地点は、見方を変えれば小規模な環状石器群として捉えることもできるようである。これは集団の大きさとともに居住期間の長短により出現する可能性が高いように思われた。これらの事例を考慮しつつ、合計14地点に及ぶ石器集中地点から検出された石材と石器群について簡単にまとめておきたい。

**石材** 本文化層において使用されている石材は十数種を数えることができた。出土総数は915点にのぼり、中でも主要石材としては安山岩467点（51%）があり、黒曜石130点（14%）、頁岩107点（12%）、チャート84点（9%）なども比較的多い。その他は127点（14%）で珪質頁岩・ホルンフェルス・瑪瑙・碧玉等で構成され、いずれも10点前後の出土であった。一方、これを地点別にみると、安山岩は接合関係が認められた第20地点～第23地点や第24地点～第28地点、第29地点で多く、その他では少ない。特筆できる石材としては第32地点の頁岩をあげることができよう。ここでは剥片・碎片とともに成品も多数検出されており、頁岩を採用した石器製作跡であったことがよく理解できる地点といえる。このような主要石材の相違は、時間差として捉えられるかどうかについてはここでは判然としなかった。

**石器群** 本文化層は、成品という点だけから見ると第Ⅰ文化層を凌ぐ出土量となる。とりわけナイフ形石器は豊富で合計23点と多い。だが直接生産具としてみた場合、仕上げは概して粗雑となり比較的大きな剥離で整形し、基部も簡単に加工して成品としている。このような粗雑な製作は角錐状石器にも及ぶ。5点ほど出土しており、14だけが整った形状を保っている。使用石材も安山岩・頁岩といったようなやや軟質の石材で作られていることに本文化層の特徴を見い出せるようである。

一方、搔器・削器といったスクレイパー類も豊富に出土している。合計13点を数えるが、二次加工剥片として分類した中には、用途としてスクレイパーを想起させるものも少なくない。この二者の出土から石器群の構成としてはバランスのとれた組み合わせとなっている。さらに敲石の出土は、石器製作あるいは食糧生産等に関連する遺物として考えられるし、第24地点において礫群中から検出された砥石・台石と考えられる石器も複数存在しているところから一層生活感が醸し出される石器群の構成となる。



第128図 第35地点遺物分布図・出土石器

## 第4節 第IV文化層

### 第IV文化層の概要

本遺跡で第IV文化層としたものは、唯一第III層上面から出土した石器であり、捉え方としては単独出土とも考えられる。第III層は、いわゆるソフトローム層であり縄文期の石器も包含されているため、明確に旧石器時代の石器として位置づけられるかどうか疑問の残るところでもある。他にも次節で扱った中に、本文化層に含まれる石器群も見出すことができるため、縄文期あるいはその直前に位置づけられるものとなろう。

#### 第35地点（第128図）

**概要** 19Q-47Gで1点検出されたのみである。その後、若干周辺域を拡張してみたがいわゆるソフトローム層中からの新たな発見はなかった。出土層位も第III層上面であり、時期決定をしてもむずかしいところである。

唯一出土した石器はチャート製で、表面には赤褐色を呈した表皮部分がみられる。下部では調整剥離が施されており、楔形石器としてもよいであろうが、製作途上の石器とみることもできる。裏面も打点部での整形が著しく認められ、未成品としての可能性を残す。ただ両面での剥離は、明らかに石器製作を意図したものと考えられる。

## 第5節 その他の石器群

これまで35地点において出土した石器群についてその概要を記述してきたが、集中地点として捉えきれなかった石器等もあるため、ここでは単独出土の石器群と遺構内出土の石器群とに区別し、一部、縄文時代草創期に含まれる石器群についても、ここで一括して取り上げることとし、それぞれ個別に説明を加えておきたい。

### 1 単独出土の石器（第129図・第130図）

単独出土とした石器・剥片類は10地点、12点となり、これらは、その後、周辺域を拡張し調査したにも拘わらず追加の遺物を確認できなかった石器群を一括した。これは下層の確認調査に際し、重機を使用するため出土層位はおおまかに把握できても、その位置を正確に記録にとどめることができないため、結果として図化が不可能となったことによる。このため実測可能な石器・剥片類についてのみ掲載することとした。



第129图 单独出土石器分布图

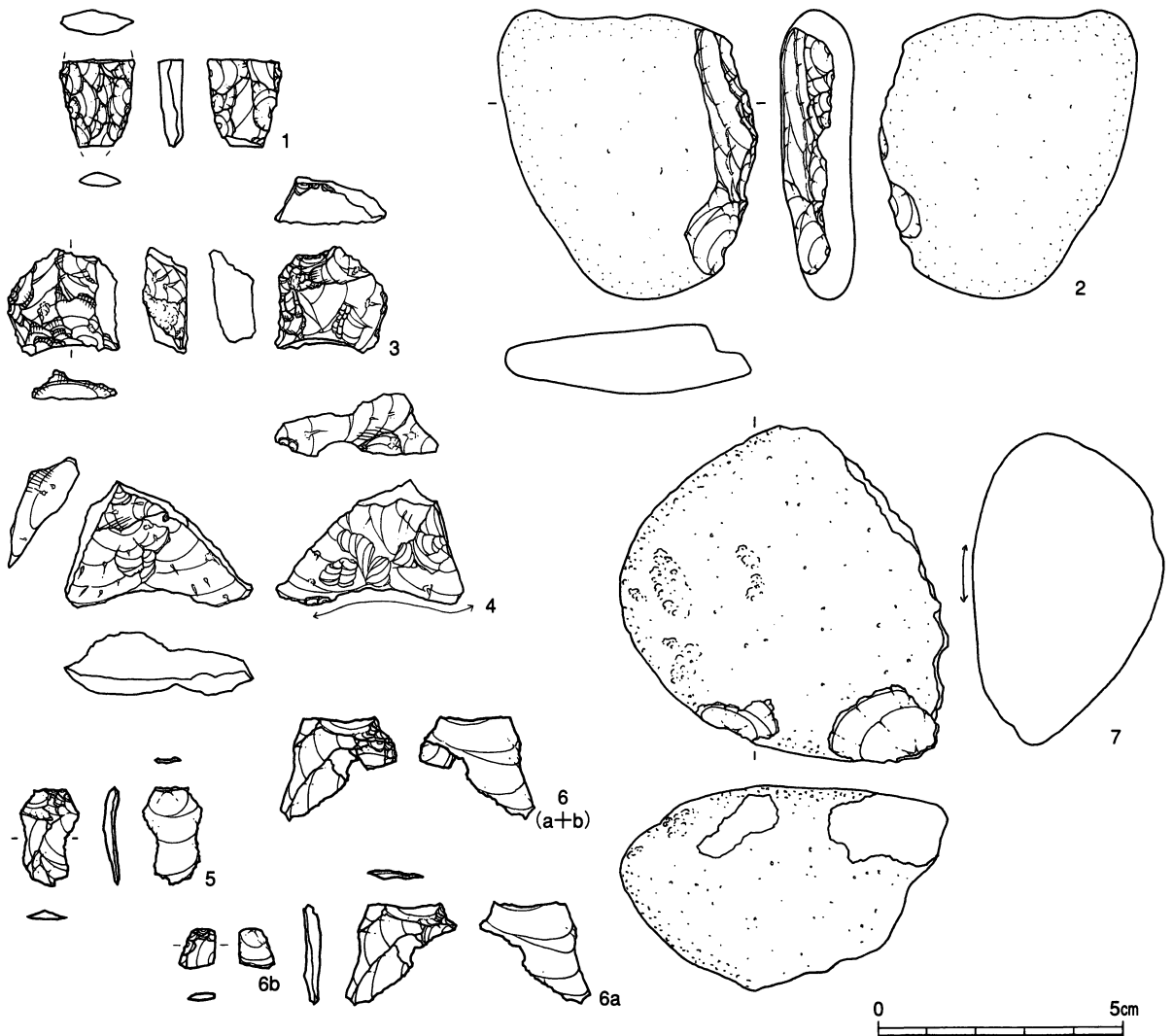
尖頭器（1）上下両端が欠損する尖頭器で、溝状遺構の精査時に出土した。安山岩製で両面加工品となる。欠損部が大きく、原形については明確でないが、柳葉形に近いものとなろう。

削器（2）第IV層～第V層から出土した。砂岩製で側面を粗い剥離により刃部を作出している。刃部の磨耗から敲石として使用された可能性もある。

楔形石器（3）第III層中から出土しており、気泡・不純物を含む黒曜石を素材としており左側縁に顕著な剥離痕が認められる。剥離は裏面におよぶことがないため見方を変えれば搔器と考えてもよいであろう。

敲石（7）第III層の上面から出土したもので1/2程度の遺存となる。破損した鋭角部分と側面に打痕を残す。また平坦な表面は滑らかであり、磨石としても使用されたものと思われた。縄文期の所産とも考えられた。石材は流紋岩である。

剥片（4～6）4は第IX層の暗色帯部分から出土したもので、3と同様な石質の黒曜石で良好品とはいえない。弯曲した下端では使用に伴う刃こぼれ痕が著しい。5・6は第VI～VII層にかけて出土したもので、石材は珪質頁岩製の薄い剥片である。



第130図 単独出土石器

## 2 グリッド遺構内出土の石器 (第131図・第132図)

ここでは縄文期の包含層である第Ⅱ層あるいは遺構内等で検出されている旧石器時代から縄文草創期に属する石器群を一括して掲載した。器種も豊富で既に述べてきた文化層に該当する石器も存在するが、ここでは特に触れないことにしたい。

ナイフ形石器 (1～3) 1は分厚いチャートの剥片を素材とし、側面を整形して成品としている。刃部は欠損するが遺存する形状から小型品となろう。2は横長の剥片を素材とし、打点部を整形後に加工し背面とする。刃部では自然面が残る、裏面に微調整が認められる。3も同様な仕上げで、調査時に刃部の一部が失われている。背面加工は打点部の整形を兼ねて丁寧に剥離されている。基部での加工は微調整を加えるだけで、作りとして簡単である。石材は2・3ともに黒曜石であり、不純物は含まない。特に3は半透明のガラス質である。これら3点はいずれも横長の剥片を素材としており、作りは概して精緻さを欠く。

角錐状石器 (4～6) 4は分厚い縦長の剥片を素材とし、周辺を整形後に微細な調整剥離を加えている。頑強な作りといえよう。石材には不純物は含まれず黒色の中にも濁りの入った黒曜石を用いている。5は断面三角形となり、残核を想起させるような大きな剥離が表面を覆う。その後側縁に僅かな調整痕が加えられる。石材は珪質頁岩である。6は気泡や不純物を含む黒曜石を素材にしており、側面と先端部に簡単な加工を加え成品としているが、粗雑さは否定できない。

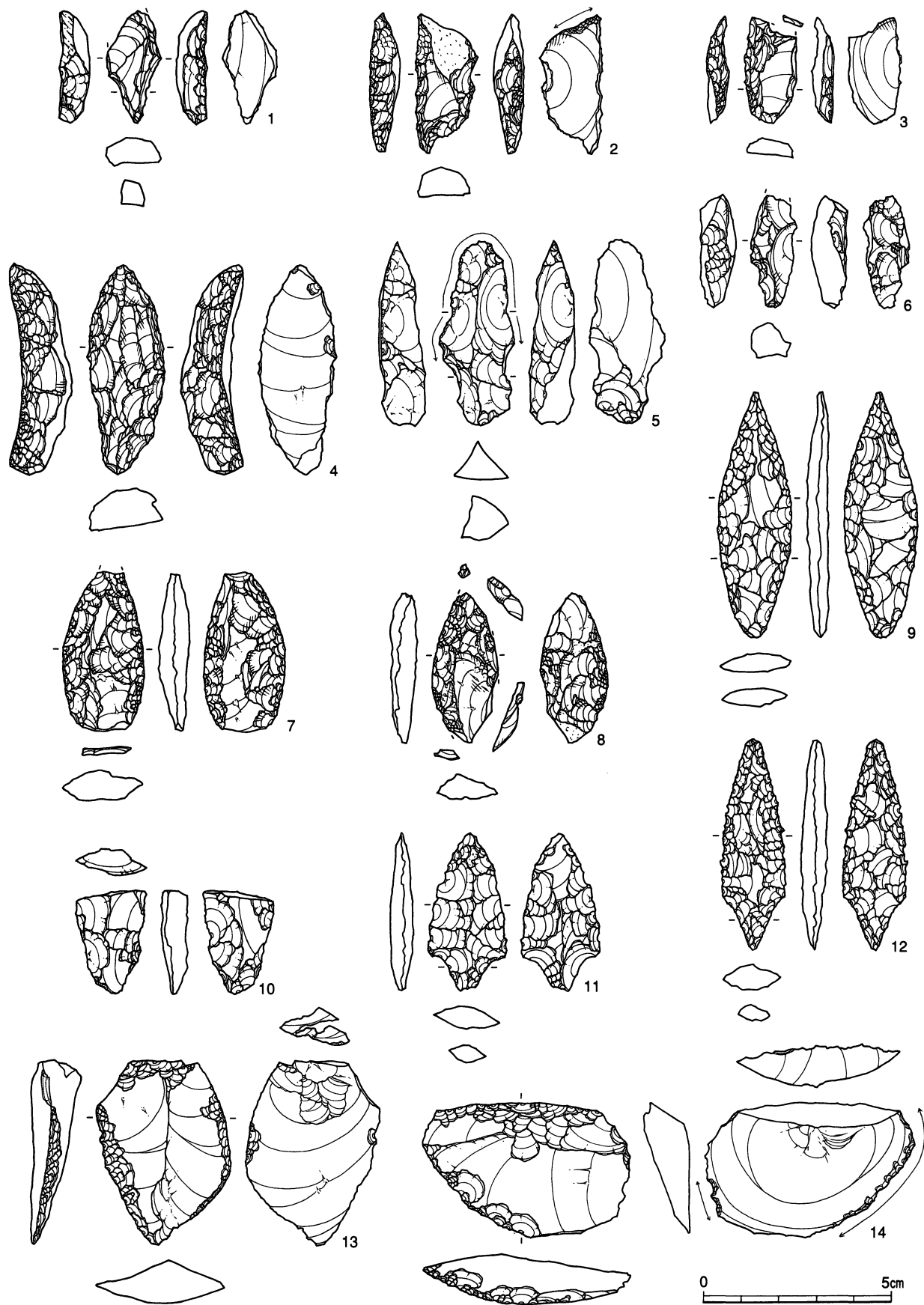
尖頭器 (7～10) 4点出土している。7は先端と基部の一部を欠損する。表裏とも一次剥離面の痕跡を若干残すが、きれいな剥離によって形状が整えられている。8は先端を僅かに欠損する。表面の加工は左側縁に集中し、裏面での剥離は整形が主となっている。石材は7・8とも黒曜石で不純物を含有する。9は槍先としての表現が相応しい尖頭器で、薄く柳葉形を呈した精緻な作りである。押圧剥離も中心部までよく行き届いている。一方、10は欠損が大きく整形のための剥離が主となり、簡単な仕上げといえよう。石材はいずれも安山岩となる。

有舌尖頭器 (11・12) 11は短身の有舌尖頭器で、基部が僅かに欠ける。表裏面の仕上げは丁寧におこなわれ、先端の一部に自然面が観察できる。石材は安山岩である。12はチャート製で先端の一部を欠損するが、全長5.5mmと長い。基部での抉りは、前者に比べて少ないが、表裏両面の加工には丁寧さが窺われる。

削器 (13～15) 13は瑪瑙製で幅広の剥片を素材とし、両側縁に小さな剥離を施し成品としている。整形は打面部までには至っていない。また下端部での表面は褐色を呈しているため表皮に近い部分にあたろう。14は珪質頁岩製で平坦な打面部を整形し、左側縁の鋭利な部分を調整し刃部としている。使用頻度が高かったものか裏面では刃こぼれ痕が認められる。15は黒曜石製で、上面の打点部をきれいに整形して刃部としている。側縁にも剥離痕が存在しているところから使用されていたものであろう。石質は良とはいえず、気泡・不純物が目立つ。

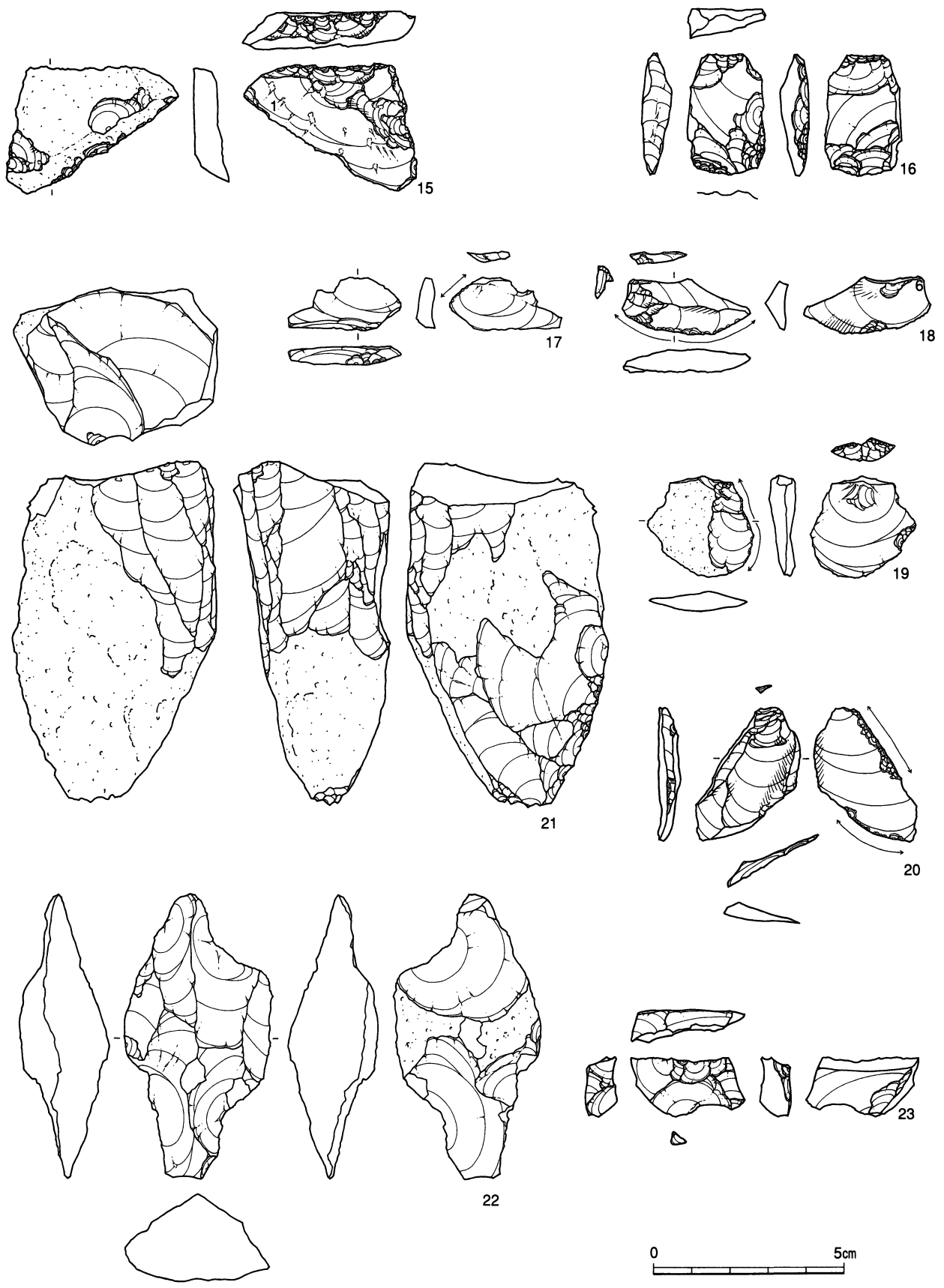
楔形石器 (16) 薄い瑪瑙片を素材とし、上下両端に剥離が認められる。右側縁下部には調整痕が施されており削器様の使用も考えられる。

剥片 (17～20) 剥片は使用したものと考えられる5点を図示した。17は下端に数回の小さな剥離が付されている。18は弯曲した下端部に連続的に調整が施されている。角度を変えるとナイフ形石器とも考えられる。19の表面には大きく自然面が残る、両側縁に微細な使用痕が認められる。20は縦長の薄い剥片で、主剥離面に微細な調整痕と使用痕がみられる。スクレイパーのような使用法が考えられる。石材は18・20が黒曜石である。石質は良好で半透明の中に黒い縞状の帯がみられる。他は頁岩の類である。



第131図 グリッド・遺構内出土石器（1）





第132図 グリッド・遺構内出土石器（2）

石核（21～23）21は瑪瑙製の石核で、形状からはまだ十分剥片剥離が可能な状態といえる。自然面の遺存状態から原石の大きさは、現状よりも少し大きい程度であったものと思われた。打面は大きな剥離によって作出され、打面調整は1回だけ認められる。剥片は二方向から剥離され、表面からの剥離では良好な縦長剥片が剥取されている。側面の剥離では幅広の剥片が得られたようであるが、その後の小さな剥離は整形を目的としたような剥離であり、石器として活用したものとも思われる。22は安山岩製で、大型剥片の平坦面に打面を設定し数枚の剥片を剥取している。表面では表皮部分は認められず、しかも多方向から剥離されている。このような状況から推測すると、剥離前の段階ではかなり大きな原石であったものと思われた。23は珪質頁岩製剥片の平坦面を利用して、二方向から小剥片を剥離している。小さな剥離は石器として使用するための整形とも考えられよう。

## 第6節 小屋ノ内遺跡とその周辺

### 1 小屋ノ内遺跡の石器群（第133図）

本遺跡周辺は、前章でも触れたとおり旧石器時代に属する大規模な石器群が各所に展開している。とりわけ本報告で扱った物井地区周辺では、既に御山遺跡（注1）、出口・鐘塚遺跡（注2）をはじめ池花南遺跡（注3）、和良比遺跡群（注4）といった著名な遺跡が報告されている。これら既報告分の遺跡を参考としつつ本遺跡出土の石器群について考えてみたい。

本遺跡では、その出土層位から大きく4期に分離できることとして記述をすすめてきたが、なかでも注目できる文化層は第I文化層として認識した暗色帯中から出土した石器群となろう。器種としては局部磨製石斧をはじめ台形石器、ナイフ形石器、搔・削器、敲石等が出土している。次いで第III文化層とした石器群がある。ここでの集中出土地点は合計14地点を数えるが、出土層位は第III層下部から第VI層にまで及ぶため時期的にはさらに細分される可能性が強い。このため内容の豊富な第I・III文化層出土の石器群を中心として簡単にまとめておきたい。

第I文化層 第I文化層の中心は、第1地点出土の石器群となることは既に述べたが、総数630点余の遺物に対し、成品は局部磨製石斧1点、台形石器5点、ナイフ形石器1点、削器1点といかにも少ない。むしろ成品は持ち出されていることは相違なからうが、総体的にみても僅少といえよう。とりわけ削・搔器は1点のみであるが、二次剥離・使用痕等の認められる剥片は削・搔器として使用されていたものと理解したい。また、環状に石器集中地点が分布している場合、しばしば局部磨製石斧の出土が認められている。周辺の3遺跡（注1～3）でも複数の局部磨製石斧が検出され、和良比遺跡群でも小規模な石器集中地点から見事に刃部が研磨されたホルンフェルス製の石斧が出土している。場所的には離れるが、最近報告された成田市宮原第1遺跡（注5）では1地点から20点もの石斧類が検出され、希有な存在となっている。しかも完形品が多数を占めるという。このように最近では第IX層の暗色帯から検出される石器群の構成をみると、局部磨製石斧の出土は一般化しており特異な存在とはいえない状況にある。反面それは当時の人びとにとって不可欠の道具となっていたものであろう。

一方、直接生産具としての台形石器・ナイフ形石器に目を向けると、台形石器の出土に目を奪われる。この種の石器は、周辺遺跡でもナイフ形石器の出土量を上まわり、この時期の狩猟具の主体を担っているようである。因みに、周辺遺跡の第IX層出土石器群の例をとると、御山遺跡（1）（台形石器21点、先端部加工の剥片尖頭器3点）、出口・鐘塚遺跡（台形石器16点、ナイフ形石器12点）、池花南遺跡（台形石

30.0m

29.0m

28.0m



第1地点出土石器群

第133図 小屋ノ内遺跡出土の石器群

器28点、ナイフ形石器5点)となり、いずれも台形石器が卓越した石器組成となっている。さらに石器の形状についてみると、本遺跡では形状の整った台形石器は1点のみで、他は概して粗雑な仕上げで成品としている。ナイフ形石器も同様で、第1地点出土品では簡単な背面加工で終了させ基部の加工等は認められない。第11地点のナイフ形石器は比較的整った形状を保ってはいるが、周囲を簡単に整形したものである。このように稚拙な製作は出現して間もない石器群の特徴であろうし、周辺遺跡との比較においてもその差異は認められない。器種についても、第IX層に包含されている時期の刺突具類では台形石器が主体を占めており、既報告分の内容を覆すような事実は認められていない。

次に、石材についても若干触れておきたい。第I文化層を代表する第1地点では、前述したように主体は安山岩となり、次いで黒曜石、ホルンフェルス、頁岩という構成となる。他の石材は、それを補完するようなものであったと考えられる。また第2・13地点ではチャートが中心となっているため、前記4種の石材と同等の位置を占めていたものと思われる。このような石材利用の傾向を周辺遺跡と比較すると、同様な構成を示す遺跡に、池花南遺跡(安山岩・珪質頁岩が主体)、出口・鐘塚遺跡(安山岩・頁岩が主体)をあげることができる。これとは別に、御山遺跡(1)の場合、その主体は珪質凝灰岩となり、次に安山岩となる。ただ御山遺跡(1)での石器出土層位は、第X層上部ということであり、時期的には少し古い時代のものと考えられる。第IX層での出土は少量で、ここでは安山岩・珪質頁岩を中心とした石材構成となっている。この傾向は周辺域に限らず、下総台地一帯にいえようであり、石材供給地として北関東、茨城方面との関係が考えられている(注6)。

第II文化層 本文化層では計6地点において石器の分布が認められたが、いずれも小規模で剥片等を含めても総計38点にすぎない。ただ石材についてみると、ここでは明らかに黒曜石が主体を担っており、前段階で旺盛を極めた安山岩、頁岩、チャート等は減少している。第20地点では安山岩と凝灰岩が主体となっているが、時期的には第I文化層に近いものとも考えられた。

第III文化層 本文化層は、図示したように石器群は豊富ながらも出土層位(第III層下部～第VI層)という点ではかなりの高低差をもつ。このため細分すれば2～3時期の文化層に分離できよう。ここでは一括して述べておきたい。

立川ローム層に包含される旧石器時代の石器群も第VI層に存在するAT層の堆積が終了した後は、多様な変化があらわれてくる。本遺跡におけるナイフ形石器がその好例といえよう。ナイフ形石器の代表例は縦長の石刃状剥片を素材として製作するいわゆる砂川タイプといえようが、本文化層では検出されていない。その後ナイフ形石器は小型化したり、台形石器に近いような形状を備えるタイプも出現し、バラエティーに富んだ形態を有するものとなる。本文化層のナイフ形石器は、まさにこの時期の所産といえよう。印旛沼周辺域でのVI期(注6)に該当する石器群に近いようである。他の器種をみても台形石器、削・搔器などが出土しているが、整然とした製作とはほど遠い。ここで注意したい石器として第20地点出土の砥石様石器が存在する。断面が平坦で道具として使用されていたことは疑い得ないが、その用途を考えると即断しかねる石器といえる。

次に石材についてみると、本文化層の使用石材では安山岩が卓越した状態で出土し、次いで黒曜石、さらに頁岩、チャートなどで構成される。ここでも主要石材の座は安山岩が占めており、安定した供給源が確保されていたと考えられる。このような石材構成は大割遺跡第4文化層(注3)出土石器群と共通点が認められ、石器組成という点でもその類似性が指摘できる。

## 2 環状石器群について

本遺跡で検出された第Ⅰ文化層の中には、既に触れているように大規模な石器集中地点の存在が認められた。このような石器群の分布は、大規模開発に伴って発見されることが多く1980年代からその報告は急増してきた。1993年の段階で全国的規模で集成（注7）されており、そこでは39遺跡で確認されている。このうち千葉県では11遺跡、群馬県でも11遺跡が確認されており、両県が抜きん出ている状況にある。その後、千葉県内では引き続き各地で調査が実施され、2000年時点では13遺跡で環状石器群あるいはそれに近い集中出土の石器群が確認されている（注8）。これらの遺跡での石器出土層序は、その半数が第Ⅱ層であり、この層序での出土傾向は県内にとどまらず全国的なものとなっている。この環状石器群についての評価は資料集（注7）に詳しいため、ここでは省略する。

次に各地で報告されている環状石器群と本遺跡第1地点の内容を比較してみたい。まず成品としての石器であるが、本遺跡第1地点の場合、局部磨製石斧・台形石器・ナイフ形石器・削器・楔形石器・敲石・台石と器種的には遜色のない程度の組成といえようが、その数量は僅少と言わざるを得ない。台形石器のみ5点で、他の器種は敲石を除き1点のみであった。むろん成品は持ち出されることが前提となろうが総数630余点の出土遺物から考えるといかにも少ない。

また母岩別接合関係（第18～20図）をみると、安山岩ではC・D、G・I、J・Kの各地点で接合関係が確認された。さらに頁岩ではB・C・D地点、ホルンフェルスではA・J、E・Jの各地点、黒曜石ではI・K地点、石英ではF・H地点、砂岩ではG・I地点というように各所で接合関係が認められた。このことは互いの地点で接触が持たれていたことを示すにとどまらず、各地点がほぼ同時期に成立していたことを物語ることになる。しかも接合関係は、隣接地点あるいはその隣りというように近接した形で位置する。しかしこのA～K地点は、整理作業のうえで便宜的に規定した地点であるため、これを削除して考えるとB・C・D地点で1グループ、その他で1グループという接合関係でのグループ化が成立する。これを石材という点からみると、前者のB・C・D地点グループでは頁岩の使用頻度が後者のグループに較べて明らかに高い（第19図）。このため2グループの間に若干の時間差、居住空間における別家族などの推測が可能となろう。

同時に、この環状石器群の中心部では炭化物・炭化粒の濃密な堆積が認められている。しかもその位置は各グループに向かい合うように2か所で検出されているところが示唆的である。極論すれば第1地点とした環状石器群は二家族あるいは二集団によって形成されたものとの推測が可能となろう。

### 参考文献

- 注1 渡辺修一ほか 1994『四街道市御山遺跡（1）』（財）千葉県文化財センター  
注2 岡田誠造 1999『四街道市出口・鐘塚遺跡』（財）千葉県文化財センター  
注3 渡辺修一 1994『四街道市内黒田遺跡群』（財）千葉県文化財センター  
注4 高谷英一ほか 1991『和良比遺跡群』（財）印旛郡市文化財センター  
注5 宇井義典ほか 2004『南三里塚宮原第1遺跡』（財）印旛郡市文化財センター  
注6 酒井弘志・宇井義典  
2004『印旛の原始・古代－旧石器時代編－』（財）印旛郡市文化財センター  
注7 橋本勝雄ほか 1993『環状ブロック群』資料集笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会  
注8 麻生 優ほか 2000『千葉県の歴史』資料編考古1千葉県

第2表 第1地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	18-S-96-3	剥片	安山岩	14	10.8	13.9	4.0	0.47	1	118°	I+III	S			
	-4	剥片	安山岩	5	22.4	14.9	4.9	1.01	1	94°	I+III	H			
	-5	剥片	頁岩	17	26.2	53.1	9.7	9.53	-		I+III	H			B
	-6	剥片	安山岩	1	22.3	21.1	5.0	1.25	1	112°	III+V	F			
	-8	剥片	安山岩	8	7.4	10.9	1.5	0.11	1	108°	I	S			
	-9	剥片	安山岩	26	12.6	17.5	3.3	0.80	L		I+III	H			
	-10	剥片	黒曜石	1	41.8	29.7	10.7	8.44	C	108°	I+II+III+V	H			
	-11	剥片	安山岩	11	27.4	16.4	6.9	2.69	L		I+II	S			
	-12	剥片	安山岩	6	10.1	15.6	3.0	0.51	-		III	H			B
	-13	剥片	安山岩	6	14.8	23.3	9.4	2.57	C	88°	I+III	S			
	-14	剥片	安山岩	16	31.2	18.5	9.0	4.15	C	92°	I+III	H			
	-15	剥片	安山岩	5	23.5	33.1	11.2	6.12	P		III	-			H
	-16	剥片	安山岩	10	13.3	17.5	3.8	0.75	1	98°	I+III	H			
94b	18-S-97-3	石核	ホルンフェルス	3	34.9	35.4	29.5	48.38		80~94°					
25	-4	剥片	安山岩	10	45.0	55.4	10.3	23.91	1	118°	I+II+III+V	F			
33	18-T-04-3	石核	安山岩	23	38.4	45.2	16.0	19.85		44~52°					
75	-5	石核	頁岩	14	43.5	63.2	42.1	137.69		52~86°					
	-6	剥片	安山岩	17	9.6	12.7	2.1	0.19	1	96°	I	H			
	-7	剥片	凝灰岩	1	27.4	21.9	8.1	3.77	C	114°	I+III+V	H			
	-8	剥片	凝灰岩	1	16.8	23.9	4.3	1.26	-		I+III	H			B
63a	-9	剥片	頁岩	1	22.2	20.0	7.1	2.19	-		I+II	S			B
32	-10	石核	安山岩	23	52.5	33.3	11.1	19.94		68~72°					
63c	-11	剥片	頁岩	1	16.3	32.9	11.0	5.50	-		I+III+IV	H			B
	18-T-05-3	剥片	安山岩	8	29.6	19.5	6.7	2.33	P		III	F			
	-4	剥片	安山岩	8	17.0	24.5	5.7	2.42	-		I	S			
	-5	剥片	チャート	2	32.6	40.7	10.9	13.00	C	98°	III+V	H			
	-6	剥片	チャート	2	41.2	37.2	11.6	19.72	C	108°	I+V	S			
	-7	剥片	ホルンフェルス	6	19.3	32.9	11.1	4.28	-		I+II+III	S			B
	-8	剥片	安山岩	5	22.0	17.6	5.6	2.04	1	136°	I+II+III	H			
	-9	剥片	安山岩	6	14.7	20.5	3.8	1.03	1	148°	I+III	S			
	-10	剥片	安山岩	29	57.1	39.4	17.0	39.09	4	140°	II+III	O			
	-11	剥片	安山岩	6	52.2	46.2	8.6	20.06	6(3)	122°	I+III+V	O			
	-13	剥片	安山岩	15	34.6	20.8	9.0	8.47	1	104°	I+III+V	S			
	18-T-06-3	剥片	ホルンフェルス	1	29.5	22.7	6.8	3.70	2	138°	I+III	H			
	-4	剥片	安山岩	13	32.9	48.8	10.3	13.27	3	110°	I+V	H			
84	-5	石核	珪質頁岩A	5	37.3	59.9	19.9	33.65		76~86°					
	-6	剥片	安山岩	9	22.9	43.1	17.6	12.00	4	124°	I+III	F			
	-7	剥片	安山岩	10	10.3	20.3	3.4	0.55	1	98°	III	F			
	-8	剥片	安山岩	4	60.7	46.5	23.1	47.23	2	130°	I+III+V	F			
	-9	剥片	安山岩	6	12.0	13.5	4.4	0.52	C	88°	I	F			R
	18-T-07-1	剥片	安山岩	1	22.8	16.4	5.3	1.42	C	76°	I	F			
103	-2	石核	チャート	7	30.3	25.5	51.4	41.32		92~98°					
	-3	剥片	安山岩	1	9.2	8.0	1.3	0.12	-		I	S			
	-4	剥片	安山岩	1	31.2	17.1	10.5	4.71	1	126°	I+III	H			
	-5	剥片	安山岩	9	34.5	47.9	9.8	12.74	2	118°	I+II+III	H			
40	-7	石核	流紋岩	1	40.6	43.9	23.6	34.18		76~84°					
	-8	剥片	黒曜石	1	8.9	9.0	2.3	0.20	-		I+III	-			M
	-10	剥片	安山岩	1	21.3	12.0	6.0	1.63	C	110°	I	S			R
	18-T-08-1	剥片	石英	1	18.7	7.9	5.0	0.59	1	92°	I+III	F			
	-2	剥片	安山岩	18	10.0	14.3	2.7	0.26	C	102°	I+III	H			
	-3	剥片	石英	1	18.2	13.3	5.8	0.85	1	104°	I+V	F			
	-4	剥片	安山岩	5	11.4	12.6	1.9	0.25	1	110°	I	H			
	-5	剥片	安山岩	1	4.3	7.8	1.4	0.04	C	-	III	S			
17	-6	石核	安山岩	5	29.4	21.1	19.8	9.99		70°					
	-7A	剥片	石英	2	27.8	16.3	8.7	3.75	1	108°	III+V	H			
	-7B	剥片	石英	2	7.5	9.8	6.9	0.44							
	-8	剥片	石英	1	13.0	17.1	8.9	1.93	3	126°	I+III	H			
	-9	剥片	石英	1	26.6	17.0	9.8	4.05	1	130°	I+V	S			
	-10	剥片	ホルンフェルス	1	11.8	15.4	3.8	0.50	1	118°	II+III	S			
	-11	剥片	石英	1	9.6	8.5	5.5	0.51							
	-12	剥片	石英	1	31.0	25.6	12.9	10.29	2	102°	III+V	F			
	-13A	剥片	安山岩	5	13.2	16.9	4.8	0.91	-		I+III	F			B
	-13B	礫	砂岩	8	11.4	8.6	6.0	0.47							
	-14	石核	石英	1	40.5	46.8	26.1	51.23		84~88°					
	-15	剥片	石英	1	18.4	11.7	4.2	0.83	1	92°	I+III	S			
73d	-16	剥片	頁岩	10	33.7	37.4	7.8	8.61	3(1)	106°	I+V	O			
	-17	剥片	ホルンフェルス	4	30.1	19.2	9.0	3.25	C	106°	I+III+IV	S			
	-18	剥片	石英	1	10.1	14.8	3.5	0.54	L		I+III	S			
	-19	剥片	石英	1	13.6	10.8	9.1	1.44	C	102°	I+III	F			
73c	-20	剥片	頁岩	10	41.0	38.9	16.9	22.69	3	136°	I+II+III	H			
	-21	剥片	石英	1	28.9	31.0	22.2	16.35	C	114°	V	S			
73a	-22	剥片	頁岩	10	39.6	34.8	10.5	16.49	1	112°	I+II+III	S			
	-23	剥片	安山岩	6	10.4	8.7	2.6	0.17	-		I+III	H			B
	-24	剥片	石英	2	16.1	25.1	8.5	2.10	1	92°	III	S			

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号		最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熟痕	折れ	欠損
					mm	mm	mm	g		剥離角						
	-25	剥片	石英	1	11.1	11.8	3.6	0.57	L		IV	S				
	18-T-08-26	剥片	珪質頁岩A	3	17.3	12.4	4.7	0.55	C	98°	III	S			R	
	-27	剥片	石英	1	9.7	9.9	3.1	0.25	L		I	S				
	-28	剥片	石英	1	20.6	15.1	7.5	2.21	C	68°	III	O			R	
	-29	剥片	石英	1	8.0	10.8	5.5	0.51	-		V	S			B	
	-30	剥片	安山岩	5	9.6	8.9	2.1	0.14	P		I+III	S				
	-31	剥片	石英	1	19.2	13.1	7.5	1.35	P		I+III	S				
	18-T-09-1	剥片	石英	1	20.5	14.6	10.1	3.15	C	92°	I+III	-			H	
	18-T-13-3	剥片	安山岩	12	14.2	32.4	6.4	3.28	2	126°	III	S				
	-4	剥片	安山岩	5	28.7	11.0	9.6	2.16	1	132°	I+III	F				
41 a	-5	剥片	流紋岩	2	28.2	18.2	9.2	2.31	L		III+V	H				
70 b	-6	剥片	頁岩	8	25.6	23.4	7.5	3.62	1	128°	I+V	H				
71 a	-7	剥片	頁岩	12	20.9	7.4	7.6	1.27	1	70°	II+III+V	S			L	
41 b	-8A	剥片	流紋岩	2	26.7	38.4	12.5	12.52	C	76°	III+V	H				
	-8B	剥片	安山岩	1	24.6	15.1	5.1	1.44	C	150°	I	H				
41 c	-9	石核	流紋岩	2	32.7	54.0	33.1	73.55		98~116°						
77 a	-10	石核	頁岩	21	32.0	47.9	12.2	18.91		82~86°						
	-11	剥片	安山岩	5	31.1	24.1	8.6	6.31	2(1)	132°	I+III+V	H				
	-12A	剥片	安山岩	6	22.0	18.4	5.2	2.09	2	114°	I+III	H				
	-12B	剥片	安山岩	8	17.3	7.9	2.6	0.33	-		I	H				
	-13	剥片	頁岩	2	10.6	14.7	4.8	0.59	C	110°	III	-			H	
	-15	剥片	頁岩	1	18.3	23.4	7.0	2.70	2	102°	I+III	H				
	-16	剥片	頁岩	19	11.1	15.5	3.9	0.54	L		I+III	H				
77 c	-17	石核	頁岩	21	35.0	53.8	28.1	42.57		76~144°						
77 b	-18	剥片	頁岩	21	21.9	22.8	9.3	3.51	1	106°	I+II+V	H			L	
71 b	-19	剥片	頁岩	12	20.3	15.9	5.5	1.65	1	124°	I+III	H			R	
	-20	剥片	安山岩	9	19.7	18.4	6.4	1.79	2	100°	III	F				
	-21	剥片	安山岩	5	11.2	9.2	3.0	0.27	-		I	S			B	
	-22	剥片	頁岩	3	46.4	23.1	10.4	8.27	2	98°	I+V	-				
	-24	剥片	安山岩	6	21.6	25.4	4.8	1.96	1	110°	I+III	H			L	
	-25	剥片	頁岩	13	18.5	16.3	4.4	0.83	1	126°	I+III	S				
67 a	-26	剥片	頁岩	5	9.2	28.5	4.3	0.87	-		III	S				
	-27	剥片	黒曜石	1	17.7	17.4	10.5	2.50	1	72°	II+III	O				
67 b	-28	剥片	頁岩	5	47.4	48.3	16.1	37.48	6(1)	106°	I+II+III+V	H				
76	-29	石核	頁岩	15	51.3	45.2	31.4	55.97		94~128°						
	-30	剥片	チャート	6	59.0	30.2	19.4	37.79	2	92°	III+V	H				
l	-31	石核	安山岩	1	45.8	38.2	16.9	21.94		74~92°						
70 a	-32	剥片	頁岩	8	9.3	12.9	3.7	0.48	-		V	H			B	
	18-T-14-3	剥片	安山岩	12	21.1	20.3	6.9	2.30	1	138°	I	H				
	-4	剥片	安山岩	1	38.1	36.9	14.0	13.18	-		III+V	H			B	
	-5	剥片	安山岩	37	14.3	8.7	6.1	0.87	L		I+II	-				
	-6	剥片	安山岩	1	11.0	14.2	3.1	0.46	C	112°	I+III	S				
	-7	剥片	安山岩	1	4.8	11.3	3.0	0.14	1	94°	III	S				
63 e	-8	石核	頁岩	1	29.5	36.6	25.9	20.09		56~78°						
	-9	剥片	安山岩	6	5.8	15.1	3.3	0.29	C	108°	III	-				
	-10	剥片	頁岩	1	14.3	24.0	4.5	1.96	-		V	-			M	
	-11	剥片	頁岩	1	18.1	14.8	4.3	1.02	1	122°	I+III+V	H				
	-12	剥片	頁岩	1	12.7	16.3	4.0	0.70	-		V	-			M	
63 b	-13	剥片	頁岩	1	47.5	33.6	10.5	9.39	1	124°	I+III+IV+V	S				
98	-14	石核	ホルンフェルス	8	50.9	92.3	54.9	335.00		92~152°						
63 d	-15	剥片	頁岩	1	18.9	20.1	9.7	3.27	C	102°	II+III	H				
	-16	剥片	安山岩	6	9.8	11.3	3.6	0.26	1	98°	III	H				
74 b	-17	剥片	頁岩	9	46.6	41.5	8.7	11.16	3(1)	124°	III+V	H				
68	-18	剥片	頁岩	6	25.6	37.3	14.9	12.69	C	82°	III	F			N	
74 a	-19A	剥片	頁岩	9	20.4	39.9	7.0	3.54	5(2)	106°	I+V	S				
	-19B	剥片	安山岩	1	6.9	9.5	8.6	0.49	1	74°	II+III	O				
	-21	剥片	安山岩	8	10.2	17.1	3.3	0.50	1	120°	I+III	S				
39 a	18-T-17-2	剥片	流紋岩	1	33.4	56.5	19.6	29.09	1	88°	IV+V	-			H	
39 b	-3	剥片	流紋岩	1	26.1	32.3	8.1	6.05	-		IV+V	S			B	
18 a	18-T-18-1	剥片	安山岩	5	27.4	22.9	15.4	8.30	-		II+III+V	F			B	
	-2	剥片	安山岩	3	16.7	25.0	4.9	2.69	-		I+II+III+V	H			B	
18 b	-3	剥片	安山岩	5	33.1	36.0	14.7	18.30	1	118°	I+III+V	F			H	
	-4	剥片	石英	1	20.7	34.6	6.3	3.27	L		I+III	F				
	-5	剥片	安山岩	5	12.0	15.0	5.4	0.77	C	128°	I+III	S				
	-6	剥片	安山岩	3	8.2	12.6	2.2	0.27	-		III	H			B	
	-7	剥片	安山岩	5	11.4	11.5	2.7	0.29	1	96°	III	S				
	-8	剥片	安山岩	1	16.0	13.3	5.6	1.22	C	88°	III	-			H	
	-9	剥片	安山岩	31	12.7	19.4	4.3	0.84	3	110°	I+III	S				
	-10	剥片	石英	1	27.6	19.6	14.3	7.42	C	80°	I+II+V	F				
	-11	剥片	石英	1	11.0	7.4	5.0	0.45			V					
	-12	剥片	石英	1	20.7	17.3	9.2	2.70	L		III+V	S				
	-13	剥片	石英	1	16.7	16.0	5.8	1.75	-		III	H			B	
	-14	剥片	石英	1	24.8	26.1	7.9	6.78	C	66°	III+V	S				
73 b	-15	剥片	頁岩	10	40.9	42.6	13.3	18.52	3(1)	128°	I+V	H				
	-16	剥片	ホルンフェルス	7	21.0	19.9	5.8	2.22	1	92°	I+III	S				
	-17	剥片	石英	1	33.4	12.4	12.4	4.84	1	94°	I+III	S				

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打面	打角 剥離角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損	
	-18	剥片	珪質頁岩A	7	21.4	16.3	8.3	1.95	-	I+V	S			B		
	-19	剥片	ホルンフェルス	7	21.3	22.8	7.0	3.41	-	I+III+V	S					
	-20	剥片	チャート	8	21.9	26.0	7.3	3.87	2(1)	I+V	H					
18-T-18-21A	剥片	石英	1	45.2	20.2	19.9	18.57	C	76°	I+III	S					
	-21B	剥片	石英	2	7.7	14.6	5.9	0.61	1	78°	V	H				
	-22	剥片	石英	1	22.8	14.2	6.8	2.16	-	I+III	F			B		
	-23	剥片	石英	1	22.1	14.2	6.8	1.89	1	76°	III	S				
	-24	石核	石英	1	45.3	45.9	20.5	36.80		74~88°						
	-25	剥片	安山岩	30	15.4	43.8	23.6	10.99	5(1)	88°	I+V	H				
	-26	剥片	石英	1	19.2	23.5	9.0	3.32	1	126°	III	S				
	-27	剥片	安山岩	25	15.9	19.3	9.7	2.20	1	92°	I+III	S			L	
	-28	剥片	石英	1	16.2	25.5	20.5	7.62	C	94°	III+V	O				
	-29	剥片	石英	1	14.5	17.6	9.7	1.69	1	112°	I	F				
	-30	剥片	珪質頁岩A	3	37.7	64.5	18.7	30.04	4(1)	138°	I+III	-			H	
	-31A	剥片	石英	1	14.5	12.5	7.1	1.08	1	108°	I+III	F				
	-31B	剥片	安山岩	24	7.5	13.3	3.2	0.25	1	94°	I	H				
	-32	剥片	珪質頁岩A	3	22.1	37.2	8.8	5.97	L		I+III	S				
	-33	剥片	頁岩	20	9.1	11.5	2.6	0.22	L		I+IV	F				
13b	-34	石核	安山岩	5	39.2	43.7	19.7	29.31		64~82°						
13a	-35	剥片	安山岩	5	15.4	30.3	8.0	3.06	3	114°	I+II	H				
	-36	剥片	チャート	5	13.6	30.1	7.7	3.69	-		III+IV+V	H				
	18-T-19-1	剥片	ホルンフェルス	4	24.7	20.2	3.9	1.55	-		I+III+V	H			B	
	-2	剥片	石英	1	16.5	12.9	4.7	0.83	1	114°	I+III	S				
3b	18-T-22-3	石核	安山岩	1	32.8	34.2	16.9	14.34		74°						
78c	-4	石核	頁岩	22	33.2	54.5	30.6	54.02		80~60°						
79a	-5	剥片	頁岩	22	29.1	34.6	13.5	12.59								
	-6	剥片	安山岩	1	18.0	22.3	6.1	2.02	1	110°	I+V	O				
82	-7	台形様石器	珪質頁岩A	2	25.9	23.0	7.3	3.25	-		III	-	68~104°			
	18-T-23-3	碎片	黒曜石	2	8.5	9.2	4.0	0.24	C	114°	III	-			H	
	-4	剥片	安山岩	1	28.6	32.4	13.9	10.39	2	122°	I+II+III	O				
	-5	剥片	黒曜石	1	11.3	13.2	1.6	0.19	-		III	H			B	
	-6	剥片	安山岩	33	51.5	40.7	11.5	26.72	3	86°	I+V	H				
4b	-7	剥片	安山岩	1	30.0	28.4	8.5	7.98	1	110°	II+III	H				
	-8	剥片	頁岩	13	13.0	13.6	7.2	0.78	1	88°	I+III	H				
	-9	剥片	頁岩	2	30.0	17.8	10.5	4.71	C	84°	I+III	-			H	
69b	-10	剥片	頁岩	7	25.4	26.5	5.3	2.57	C	78°	I	H				
	-11	碎片	黒曜石	1	8.6	9.5	1.8	0.09	-		I	H			B	
	-12	碎片	黒曜石	1	8.1	8.6	2.1	0.12	2	112°	III	H				
62	-13	石核	砂岩	5	41.0	50.0	20.7	27.06		70~76°						
	-15	剥片	頁岩	3	35.4	33.8	7.4	8.15	C	74°	III+V	H				
	-16	剥片	頁岩	3	36.2	28.6	15.1	16.42	C	108°	V	H				
	-17	剥片	砂岩	7	17.6	12.6	5.8	1.00	2	100°	III+V	S				
	-18	碎片	黒曜石	1	9.8	8.9	2.1	0.13	1	124°	II	H				
	-19A	剥片	安山岩	1	19.4	21.1	6.4	1.45	1	136°	III+V	H				
	-19B	剥片	ホルンフェルス	7	16.5	11.9	4.9	0.75	1	106°	I	O				
	-20	剥片	頁岩	3	17.3	20.3	7.4	1.02	2	96°	III+V	F				
	-21	剥片	安山岩	3	28.0	25.2	5.6	3.75	4	134°	I+III	H			L	
	-22A	剥片	頁岩	3	15.9	20.7	4.2	1.14	L		I+III	S				
	-22B	碎片	安山岩	1	7.5	7.9	1.4	0.06	-		II	S				
	-24	剥片	頁岩	3	35.4	41.0	14.9	16.07	C	84°	III+V	H				
20	-25	石核	安山岩	6	25.9	47.3	17.1	16.86		138°						
	-26	剥片	安山岩	1	38.7	29.3	6.6	7.60	L		I+II+III	F				
79c	-27	剥片	頁岩	22	14.0	32.2	6.2	2.58	1	118°	III	S				
	-28	剥片	安山岩	1	13.3	21.8	4.7	1.14	L		I+III	H				
	-29	剥片	頁岩	4	14.2	22.7	5.4	1.42	1	126°	III	H				
	-30	剥片	黒曜石	1	16.6	12.3	5.2	0.58	1	102°	I+III	S				
83b	-31	石核	珪質頁岩A	4	35.3	44.4	25.0	41.72		72~120°						
	-32	剥片	ホルンフェルス	4	50.9	54.1	13.5	23.11	-		III+V	S			B	
79e	-33	石核	頁岩	22	47.6	52.7	40.8	112.45		74~104°						
78b	-34	剥片	頁岩	22	23.4	21.5	6.2	2.26	1	114°	I+II+III	H				
79d	-35	剥片	頁岩	22	19.8	7.3	2.9	0.38	-		I	S				
95e	-36	剥片	ホルンフェルス	4	37.0	26.4	5.7	4.51	1	102°	I+V	F				
95d	-37	剥片	ホルンフェルス	4	44.0	32.4	8.3	11.24	1	114°	I+V	H				
95a	-38	剥片	ホルンフェルス	4	30.2	30.7	10.9	9.45	1	132°	V	-			LH	
27	-39	台形様石器	安山岩	18	31.4	21.6	7.9	4.87	-		III	-	62~82°		MorB	
83a	-40	剥片	珪質頁岩A	4	20.2	27.1	10.0	4.15	1	122°	I+III+V	H				
3a	-41	剥片	安山岩	1	28.4	42.4	20.4	11.33	C	100°	I+III	S				
	-42	剥片	安山岩	21	19.2	6.8	3.8	0.53	1	104°	III	F				
78a	-43	剥片	頁岩	22	16.9	15.1	7.0	1.11	2	102°	III	H				
95c	-44	剥片	ホルンフェルス	4	21.7	29.1	9.5	4.65	-		V	H			LB	
95b	-45A	剥片	ホルンフェルス	4	16.5	15.5	8.9	2.10	1	128°	I+V	-			RH	
	-45B	剥片	安山岩	21	14.3	12.3	3.1	0.36	1	94°	III	H				
	-46	剥片	安山岩	7	25.1	46.4	14.3	15.94	2	120°	I+II+III	S				
2	-47	石核	安山岩	1	32.3	33.9	15.7	12.21		66~76°						
	-48	剥片	黒曜石	1	17.7	19.2	3.3	0.83	-		I	H			B	
4a	-49	剥片	安山岩	1	15.2	20.0	4.5	0.65	L		III	H				



挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号		最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重 量 g	打面	打 角 剥離角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
	18-T-27-3	剥片	石英	1	21.6	14.3	11.0	3.06	C	92°	Ⅲ	S				L
	18-T-28-1	剥片	砂岩	1	33.9	24.0	15.4	9.73	3	114°	Ⅲ+Ⅴ	S				
57 a	- 2	剥片	砂岩	1	29.1	41.9	12.3	15.37	-		I+Ⅴ	F				B
34 b	- 3	石核	安山岩	25	30.6	44.3	26.3	42.22		88~98°						
55	- 4	剥片	砂岩	1	33.5	33.5	10.3	9.33	4(3)	110°	I+Ⅲ+Ⅴ	H				
	18-T-28-5	剥片	珪質頁岩B	1	34.5	23.1	15.4	6.60	10(7)	74°	I+Ⅲ+Ⅳ	H				
56 a	18-T-29-1	剥片	砂岩	1	19.1	28.8	8.0	3.39	2	120°	I+Ⅲ+Ⅴ	S				
57 b	- 2	剥片	砂岩	1	34.5	37.0	9.8	12.12	-		I+Ⅴ	S				
61	18-T-29-3 19-T-40-24	敲石	砂岩	4	14.7	43.1	29.8	17.94							S	
56 b	- 4	剥片	砂岩	1	31.1	37.1	7.6	8.87	-		Ⅲ+Ⅴ	S				B
	- 5	剥片	砂岩	1	22.3	18.7	6.6	2.36	2	110°	I+Ⅲ	H				
54 b	- 6	剥片	砂岩	1	46.5	51.9	11.8	26.49	3(1)	124°	I+Ⅴ	H				
	- 7	剥片	ホルンフェルス	9	32.1	45.5	5.5	6.71	1	122°	I+Ⅴ	S				
	- 8	剥片	安山岩	5	12.8	14.6	4.0	0.55	3(1)	120°	Ⅲ	S				
	- 9	剥片	安山岩	19	24.8	21.6	6.9	3.58	-		I+Ⅱ+Ⅴ	H				RB
	-10	剥片	石英	1	23.3	16.1	8.6	3.10	C	42°	Ⅲ+Ⅴ	S				
	18-T-32-3	剥片	安山岩	1	7.7	10.7	3.2	0.19	-		I+Ⅲ	H				B
	- 4	剥片	頁岩	11	17.2	14.0	3.4	0.45	L		Ⅲ+Ⅳ	-				
	18-T-33-3	剥片	安山岩	1	13.9	12.0	4.2	3.62	3	124°	I+Ⅴ	H				
	- 5	剥片	安山岩	1	27.5	37.9	12.0	12.51	C	126°	I+Ⅲ	S				
79 b	- 6	剥片	頁岩	22	24.6	26.4	7.5	3.51	L		I+Ⅱ+Ⅲ	H				
	- 7	剥片	安山岩	1	13.1	14.1	17.0	2.56	C	118°	I+Ⅲ	F				
	- 8	剥片	安山岩	1	13.6	13.2	4.4	0.68	1	84°	Ⅲ	-				
	- 9	剥片	安山岩	1	14.5	15.2	5.7	0.82	1	122°	Ⅲ	S				
60	-10, -23	敲石	砂岩	3	61.7	50.7	33.9	141.47							S	
	-11	碎片	安山岩	1	8.9	8.5	2.3	0.17	-		I	F				B
	-12	剥片	安山岩	1	10.6	15.8	4.5	0.59	-		Ⅲ+Ⅴ	H				B
	-13	剥片	安山岩	1	10.5	26.0	11.2	2.28	2	84°	Ⅲ+Ⅴ	H				
	-14	碎片	安山岩	1	7.5	9.5	3.3	0.15	L		Ⅲ	O				
	-15	剥片	安山岩	1	15.1	32.5	14.5	4.89	4(2)	104°	Ⅲ	H				
	-16	剥片	頁岩	11	22.2	21.8	7.5	3.09	C	74°	Ⅲ+Ⅴ	H				
	-17	剥片	安山岩	7	42.6	21.1	13.3	7.42	L		I+Ⅲ	S				
	-18	剥片	頁岩	6	44.6	49.2	16.9	37.01	C	86°	Ⅲ+Ⅴ	F				
	-19	剥片	頁岩	11	34.9	37.4	13.1	14.79	L		I+Ⅱ+Ⅲ	F				
	-20	剥片	安山岩	1	37.2	31.7	9.3	6.78	C	104°	I	S				
	-21	剥片	安山岩	1	6.8	22.0	4.0	0.49	-		Ⅲ	H				B
	-22	剥片	安山岩	21	18.7	16.5	7.3	2.39	L		I+Ⅲ	S				
	-24	剥片	安山岩	1	16.0	10.1	3.1	0.31	-		Ⅲ	H				B
	-25	剥片	安山岩	1	12.6	11.2	2.0	0.25	L		I+Ⅲ	F				
	-26	剥片	安山岩	1	14.4	17.2	2.1	0.55	1	92°	I	-				
	-27	剥片	安山岩	1	24.6	23.0	7.0	2.34	1	122°	I+Ⅲ	-				H
	-28	剥片	黒曜石	1	11.9	15.5	4.5	0.56	-		I+Ⅲ	-				M
	-29	剥片	黒曜石	1	10.5	13.1	3.1	0.30	P		I+Ⅴ	-				H
	-30	碎片	安山岩	1	6.4	8.6	2.5	0.10	C	82°	I	H				
	-31	碎片	安山岩	1	8.6	5.1	1.2	0.05	P		Ⅲ	F				
	-32	剥片	安山岩	1	11.9	7.4	3.3	0.25	1	104°	I	F				L
7 c	-33	石核	安山岩	2	35.1	36.5	15.2	16.22		62~72°						
	-34	剥片	安山岩	1	14.4	15.7	2.7	0.58	-		I+Ⅴ	H				B
	-35	剥片	安山岩	11	33.2	36.6	8.6	8.33	3(1)	116°	I+Ⅲ	S				
	-37	剥片	安山岩	1	9.1	11.4	5.0	0.41	C	94°	Ⅱ+Ⅴ	H				
	-38	剥片	安山岩	2	35.2	38.1	10.0	10.43	-		Ⅴ	S				LB
	-39	剥片	安山岩	1	9.3	12.0	1.4	0.15	1	118°	Ⅲ	S				
	-40	剥片	安山岩	1	9.7	16.2	2.8	0.45	2	112°	I+Ⅲ	F				
16	-41, -53	二次加工剥片	安山岩	5	46.7	47.6	8.7	15.61	2	92°	I+Ⅱ+Ⅲ+Ⅴ	S				
11 b	-42	剥片	安山岩	3	13.4	12.3	3.0	0.39	2	104°	Ⅲ	-				L
7 b	-43	二次加工剥片	安山岩	2	22.8	37.1	12.3	9.25	-		I+Ⅴ	F	56~70°			B
	-45	剥片	安山岩	1	29.6	16.4	7.0	3.35	-		I+Ⅲ	H				B
	-46	剥片	安山岩	1	13.7	14.0	2.1	0.30	1	82°	I	F				
	-47	碎片	安山岩	1	4.9	9.2	1.5	0.07	-		I	H				B
	-48	剥片	安山岩	1	14.0	10.0	2.1	0.21	1	86°	I	S				R
	-49	剥片	黒曜石	1	8.0	11.9	2.5	0.19	C	98°	I+Ⅱ	F				
	-50	剥片	頁岩	11	30.1	32.2	9.6	8.02	L		Ⅲ	S				
	-51	剥片	安山岩	1	14.1	10.4	7.0	0.75	C	114°	Ⅲ	H				
	-52	剥片	安山岩	1	12.2	16.9	5.8	0.81	1	102°	Ⅲ	H				
	-54	剥片	安山岩	1	13.7	13.4	2.0	0.39	1	98°	Ⅲ	S				
	-55	剥片	安山岩	1	13.5	9.7	5.2	0.43	L		I	F				
	-56	剥片	安山岩	1	4.8	10.0	1.6	0.08	L		I	-				
	-57	剥片	安山岩	1	7.0	10.1	2.8	0.14	1	92°	I	S				
	-58	剥片	安山岩	1	4.2	14.4	3.0	0.14	1	104°	I+Ⅲ	O				
	-59	剥片	安山岩	1	21.5	29.7	6.5	3.17	-		I	-				M
	-60	剥片	安山岩	1	12.7	21.5	5.9	0.74	1	94°	I+Ⅲ	F				
	-61	剥片	安山岩	1	16.8	15.0	8.1	1.98	1	102°	I+Ⅲ	S				
7 a	-62	二次加工剥片	安山岩	2	21.4	34.6	7.4	4.43	4	118°	I+Ⅲ	H	55~63°			
	-63	剥片	安山岩	1	9.8	15.1	2.7	0.36	2	106°	I+Ⅴ	H				
	-64	剥片	黒曜石	1	12.9	10.5	3.3	0.33	1	108°	I+Ⅱ+Ⅲ+Ⅴ	H				

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号		最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打面	打角 剝離角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熟痕	折れ	欠損
	-65	碎片	安山岩	1	7.4	7.0	1.4	0.09	-		Ⅲ	-				M
	-66	剥片	安山岩	1	11.3	10.8	1.7	0.19	L		Ⅲ	-				H
	-67	剥片	安山岩	1	13.9	25.8	4.5	1.47	-		Ⅲ	S				B
	-68	剥片	安山岩	1	12.6	17.5	6.9	1.44	4	68°	Ⅲ	F				L
	-69	剥片	安山岩	3	15.7	20.1	4.1	0.99	2	118°	I+Ⅲ	S				
	-70	剥片	安山岩	3	16.7	20.9	5.2	1.79	-		I+Ⅲ	S				
	-71	剥片	黒曜石	1	9.4	12.1	3.8	0.29	2	100°	I+Ⅱ+Ⅲ	H				
	18-T-33-72	剥片	安山岩	1	12.5	7.0	2.5	0.13	1	102°	I	S				R
	-73	剥片	安山岩	1	10.1	17.2	4.6	0.57	-		Ⅲ	S				B
65	-74	二次加工剥片	頁岩	3	17.4	20.0	7.5	2.67	C	68°	V	S	60~70°			
	-75	剥片	安山岩	1	14.4	17.5	3.0	0.71	1	96°	I	S				
	-76	剥片	安山岩	9	23.5	24.5	7.7	3.57	2	120°	I+Ⅲ	S				
	18-T-34-3A	剥片	流紋岩	4	13.4	11.9	8.3	1.26	L		I+V	S				
	-3B	剥片	安山岩	21	12.0	7.5	1.9	0.19	1	122°	I+Ⅲ	H				
	18-T-39-1	剥片	黒曜石	1	20.2	13.8	6.2	0.90	-		I+Ⅲ	S				B
5 a	-2	剥片	安山岩	1	19.7	23.3	7.2	2.37	-		Ⅱ+V	H				LB
	-3	剥片	安山岩	1	23.0	21.6	6.2	3.08	1	114°	I+Ⅲ	S				
	-4	剥片	安山岩	1	34.1	34.1	7.2	6.44	C	84°	Ⅲ	-				H
15	-5	石核	安山岩	5	37.1	38.7	14.8	19.28		74~92°						
5 b	-6	石核	安山岩	1	38.2	59.3	11.9	25.91		66~80°						
	-7	剥片	安山岩	25	16.6	19.6	13.2	2.44	C	92°	Ⅲ	H				
	-8	剥片	安山岩	3	42.3	31.8	8.6	9.93	-		I+Ⅱ+Ⅲ	S				
	-9	剥片	安山岩	5	25.2	33.7	11.9	5.79	-		I+V	-				M
	-10	剥片	安山岩	1	33.3	27.3	10.8	8.08	1	130°	I+Ⅲ	H				
92	-11	石核	ホルンフェルス	2	56.7	63.8	26.8	112.88		72~80°						
	18-T-43-3	剥片	安山岩	1	10.3	9.0	2.4	0.20	1	98°	Ⅲ	S				R
	-4	剥片	安山岩	3	20.0	32.0	4.5	3.10	3	94°	I+Ⅲ	S				
	-5	剥片	安山岩	3	12.0	22.1	4.0	0.71	-		Ⅲ	S				B
	-6	剥片	安山岩	1	18.2	30.6	12.7	5.39	-		I+Ⅲ	-				M
	-7A	剥片	安山岩	1	6.3	10.3	2.1	0.15	L		I+Ⅲ	S				
	-7B	剥片	安山岩	1	10.2	5.2	1.9	0.09	1	98°	Ⅲ	F				R
11 a	-8	剥片	安山岩	3	16.7	11.9	2.6	0.43	-		Ⅲ	F				B
	-9	剥片	安山岩	1	14.9	11.8	3.3	0.51	2	114°	I+Ⅲ	H				
	-10	剥片	安山岩	1	18.5	5.7	8.7	0.57	1	110°	I+Ⅲ	F				
	-11	剥片	安山岩	1	5.5	13.0	2.6	0.21	1	106°	I+Ⅲ	S				
	-12	碎片	黒曜石	1	6.9	7.4	2.7	0.11	-		Ⅲ	-				B
	-13	剥片	安山岩	1	13.5	20.3	6.1	1.41	1	114°	I+Ⅲ	F				
	-14	剥片	安山岩	21	6.1	12.9	1.8	0.18	-		I	-				M
	-15	剥片	ホルンフェルス	7	30.7	30.5	8.2	5.64	1	108°	I+Ⅱ+Ⅲ+V	-				H
72	-16	剥片	頁岩	18	26.5	30.8	8.6	5.15	2	108°	I+Ⅲ	H				
53	-17	ナイフ形石器	黒曜石	4	56.8	20.4	12.2	10.47	L		I	-	62~132°			
37	-20	石核	安山岩	33	40.8	42.3	21.6	36.39		76~84°						
	-21	剥片	ホルンフェルス	12	18.3	11.1	3.2	0.64	-		V	H				B
	-22	剥片	安山岩	1	9.8	12.4	3.0	0.30	1	124°	I+Ⅲ	S				
	-23	剥片	安山岩	3	31.4	15.5	10.1	4.13	1	144°	I+Ⅲ	-				
	18-T-44-3	剥片	安山岩	1	12.0	11.7	3.6	0.40	-		Ⅳ	O				B
	-4	剥片	安山岩	1	31.1	16.2	6.5	2.61	2	100°	I+Ⅱ+Ⅲ	S				
	-5	剥片	安山岩	1	14.2	14.5	5.0	0.73	1	128°	Ⅱ+Ⅲ+Ⅳ	F				
69 a	-6	剥片	頁岩	7	22.9	19.4	6.7	1.95	C	86°	I+Ⅲ	F				R
	18-T-45-3	剥片	安山岩	5	15.6	18.9	5.0	1.34	L		I+Ⅳ	H				
	18-T-49-3	剥片	黒曜石	1	16.1	10.7	3.9	0.64	1	134°	I+Ⅲ	O				
	-4	剥片	安山岩	19	15.6	11.8	3.9	0.69	P		I+Ⅲ	S				
	-5	剥片	安山岩	5	14.3	38.6	13.7	8.43	-		I+Ⅲ	-				M
	-6	剥片	安山岩	32	7.7	14.2	5.8	0.61	1	82°	I+Ⅲ	H				
	-7	剥片	安山岩	32	17.2	23.3	10.3	2.60	1	102°	I+Ⅲ	S				
	-8	剥片	安山岩	19	15.8	7.5	3.8	0.41	-		I+Ⅲ	F				
	-9	剥片	安山岩	4	35.6	49.2	10.0	12.03	1	102°	I+Ⅱ+Ⅲ	S				
	-10	剥片	安山岩	5	18.6	9.0	9.0	1.27	1	78°	Ⅱ+Ⅲ	H				
	-11A	剥片	安山岩	32	21.4	9.1	4.3	0.67	1	88°	I+Ⅲ	F				
	-11B	剥片	安山岩	32	12.5	7.4	2.3	0.14	-		I+Ⅲ	S				
	-12	剥片	安山岩	19	15.3	13.1	5.6	0.56	-		I	H				B
12 a	-13	剥片	安山岩	4	42.4	18.8	12.3	7.78	1	110°	I+Ⅲ	S				
	-14	剥片	安山岩	4	13.3	23.8	12.5	2.84	2	74°	I+Ⅲ	S				
	-15	剥片	安山岩	1	19.5	20.1	6.3	2.05	1	108°	I+Ⅱ	S				
43 b	18-T-53-3	二次加工剥片	黒曜石	1	34.3	28.9	11.5	9.80	1	114°	I+Ⅱ+Ⅲ	H	58~70°			
91 c	-4	剥片	ホルンフェルス	1	37.7	19.2	12.0	9.03	C	80°	I+V	S				
	-5	剥片	珪質頁岩A	6	30.5	31.8	12.9	9.27	-		Ⅲ+V	S				B
	-6	剥片	ホルンフェルス	1	35.8	41.9	5.7	7.42	2	104°	I+Ⅲ	H				
	18-T-54-3	剥片	ホルンフェルス	1	44.6	43.6	11.2	16.27	1	108°	I+Ⅲ+V	H				
87	18-T-55-4	剥片	珪質頁岩B	2	54.7	20.7	12.0	7.34	1	78°	I+Ⅱ	H				N
	18-T-57-3	剥片	ホルンフェルス	4	16.0	10.8	6.1	0.51	2	104°	Ⅲ	F				
	-4	剥片	安山岩	7	27.2	40.1	8.2	5.87	1	116°	I+Ⅲ	H				
	-5	剥片	安山岩	12	52.3	50.5	10.7	21.76	C	92°	I+Ⅲ	H				
	-6	剥片	安山岩	1	22.4	16.9	5.0	1.48	L		Ⅲ	S				
10	-7	石核	安山岩	2	49.1	47.7	12.9	26.11		78°						
36 a	-8	剥片	安山岩	31	53.7	56.3	18.1	36.68	L		I+Ⅲ	F				

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号		最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
					mm	mm	mm	g		剥離角						
	- 9	剥片	黒曜石	1	10.9	13.6	4.9	0.51	L		I + II	S				
	18-T-58-1A	剥片	安山岩	24	26.9	18.3	6.1	2.14	1	120°	I + III	H				
	-1B	剥片	ホルンフェルス	2	15.1	16.7	5.8	1.30	1	100°	I + III	S				
	- 3	剥片	安山岩	1	17.3	30.2	5.9	2.48	1	114°	I + III	S				
29	18-T-59-3	石核	安山岩	19	25.1	54.1	45.0	52.28		76°						
	18-T-63-3	剥片	ホルンフェルス	1	34.5	17.8	5.3	2.13	1	92°	I + V	S				
66	- 4	石核	頁岩	4	21.2	46.4	38.7	34.55		94°						
	- 5	剥片	ホルンフェルス	1	18.1	11.9	6.6	1.24	1	118°	III	S				
99	- 6	楔形石器	ホルンフェルス	13	23.8	29.0	9.2	4.78								
30b	18-T-63-7	剥片	安山岩	20	19.8	16.4	8.8	2.69	1	92°	I + III	H				R
30a	- 8	剥片	安山岩	20	24.8	18.9	8.4	2.54	1	92°	I + III	H				L
96	-10	石核	ホルンフェルス	5	41.5	42.9	15.6	22.38		56~66°						
	-11	剥片	ホルンフェルス	5	13.9	24.2	4.6	1.32	C	116°	III	H				
	-13	剥片	ホルンフェルス	5	13.3	20.6	4.7	1.20	-		II + III + V	H				B
	-14	剥片	ホルンフェルス	5	10.1	6.5	5.0	0.36	C	132°	I + III	S				
	-15	剥片	ホルンフェルス	1	43.7	53.0	18.7	22.50	1	122°	I + III + V	H				
	-16	剥片	ホルンフェルス	5	7.7	14.5	3.0	0.21	2	100°	III	H				
	18-T-64-3	剥片	ホルンフェルス	10	37.6	36.8	8.6	10.17	1	114°	I + V	H				
	- 5	剥片	ホルンフェルス	1	21.6	19.2	8.6	2.68	2 (1)	104°	V	F				
	- 6	剥片	頁岩	4	10.5	12.1	3.6	0.45	2	102°	I + III	S				
	- 7	剥片	頁岩	4	18.7	15.8	4.6	1.13	1	108°	I + III	H				
	- 8	碎片	頁岩	4	6.8	7.3	2.3	0.12	1	146°	I + II + III	H				
	- 9	剥片	ホルンフェルス	1	28.5	33.2	12.7	9.30	-		I + II + V	H				
43a	-10	剥片	黒曜石	1	20.4	24.1	6.7	2.36	4 (1)	108°	III	H				N
	18-T-66-3	剥片	安山岩	2	28.7	33.6	8.6	5.59	1	132°	I + III + V	H				
	- 4	剥片	頁岩	16	30.7	47.6	11.8	15.61	C	110°	I + IV + V	H				
	- 5	剥片	安山岩	5	36.4	23.4	11.8	7.73	2	92°	I + II + III + V	H				
	- 6	剥片	安山岩	2	51.9	25.4	16.7	18.11	2	76°	I + III	H				L
	- 7	剥片	黒曜石	1	17.8	15.5	4.2	0.96	2	84°	I + III	H				
	- 8	剥片	安山岩	6	29.8	50.1	8.4	9.95	2	98°	I + III	H				
	- 9	剥片	ホルンフェルス	1	23.9	13.7	6.2	1.75	L		I + III	H				
	18-T-67-3	剥片	安山岩	1	15.4	18.5	5.3	1.33	L		I	S				
	- 4	剥片	安山岩	7	18.3	29.6	14.3	4.56	2	92°	I + III	H				
52	- 5	台形様石器	黒曜石	3	30.4	17.9	8.7	3.52					78~114°			
	- 6	剥片	頁岩	5	36.0	36.6	10.0	11.74	1	124°	I + III	H				
38a	- 7	剥片	安山岩	34	43.5	71.6	13.9	38.44	-		III + V	O				B
	- 8	剥片	安山岩	1	15.0	18.7	4.8	1.15	1	104°	III	S				
	18-T-74-1	剥片	安山岩	6	38.2	25.5	10.3	7.78	C	100°	III	S				R
22	- 2	石核	安山岩	6	29.8	37.8	14.5	17.57		74~102°						
21	- 3	石核	安山岩	6	33.0	46.4	19.9	28.97		72~82°						
42	- 4	敲石	流紋岩	3	56.4	63.3	25.6	113.53								
	- 5	剥片	安山岩	6	61.5	45.2	12.0	35.67	-		I + II + III	O				B
	18-T-76-3	剥片	ホルンフェルス	1	24.7	15.8	11.8	4.30	1	128°	I + III	-				H
	18-T-78-3	剥片	黒曜石	1	15.4	9.4	6.3	0.54	L		I + V	F				
	- 4	剥片	黒曜石	2	21.9	36.0	12.5	6.53	1	92°	II + III + V	S				
	18-T-79-3	剥片	黒曜石	1	8.9	16.5	3.5	0.31	L		I + III	H				
	- 4	剥片	黒曜石	2	18.0	28.2	13.6	5.19	-		II + III + V	O				B
	- 5	剥片	黒曜石	2	14.5	7.5	5.8	0.67	2	76°	I + II + III	S				
	- 6	剥片	黒曜石	1	5.4	10.4	4.4	0.18	-		II + III	O				B
	18-T-88-1	剥片	安山岩	5	14.6	25.1	5.3	1.81	1	128°	I + III	H				
	- 2	剥片	ホルンフェルス	1	13.4	13.6	2.6	0.32	L		I + III	S				
	- 3	剥片	チャート	4	18.4	39.3	8.2	3.46	1	104°	I + II + III	H				
	- 4	剥片	安山岩	23	20.2	16.0	4.9	1.60	2	108°	I	S				
	- 5	剥片	安山岩	27	41.6	40.4	17.4	24.01	1	112°	III	H				
	- 6	剥片	安山岩	23	25.0	35.8	11.0	6.76	L		I + III	S				
	18-T-89-1	碎片	安山岩	8	9.9	9.3	4.0	0.38	1	66°	III	F				
	- 2	剥片	ホルンフェルス	1	13.1	31.1	5.3	1.92	-		III	H				B
	- 3	剥片	ホルンフェルス	1	21.0	20.8	2.8	0.99	C	68°	I + V	S				
102b	- 4	石核	チャート	3	39.8	50.1	20.7	39.74		58~66°						
	- 5	剥片	ホルンフェルス	1	41.9	23.1	7.2	5.95	1	128°	I + III	F				
91b	- 6	剥片	ホルンフェルス	1	30.5	29.0	4.8	2.79	L		I + V	F				
97	- 7	石核	ホルンフェルス	7	50.1	40.3	26.8	47.61		70~82°						
	- 8	剥片	安山岩	7	15.5	19.4	3.6	1.05	C	130°	I + III	S				
91d	- 9	剥片	ホルンフェルス	1	41.4	11.4	13.1	3.22	1	116°	III + V	H				
	-10	剥片	安山岩	8	26.5	27.0	7.6	3.75	C	118°	III	S				
90a	-11	剥片	ホルンフェルス	1	24.0	18.5	6.1	2.05	1	120°	I + III	H				L
	-12	剥片	ホルンフェルス	1	29.8	27.7	5.5	3.87	C	108°	I + III	S				
	-13	剥片	安山岩	1	20.1	25.0	5.2	1.87	1	128°	I + III + V	H				
	-14	剥片	安山岩	5	19.9	11.9	7.6	1.53	2	86°	I + III + V	F				
	-15	剥片	ホルンフェルス	1	19.0	21.1	4.3	1.32	-		I + III	S				B
	-16	剥片	安山岩	26	9.6	19.1	3.3	0.48	L		I	F				
14a	-17	剥片	安山岩	5	9.7	19.8	7.2	0.90	1	102°	I + III	O				
14b	-18	石核	安山岩	5	10.9	28.1	31.1	8.42	-	78°						
	-19	碎片	安山岩	5	8.6	7.0	2.6	0.16	-		I + III	-				M
	-20	剥片	ホルンフェルス	2	8.8	11.5	5.3	0.31	1	104°	I + III	S				
	-21	剥片	ホルンフェルス	2	17.5	31.0	9.8	5.12	-		III + V	-				M

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	-22	剥片	安山岩	5	22.4	26.0	7.6	3.18	-		Ⅲ	S			B
	-23	剥片	ホルンフェルス	2	28.9	11.8	7.4	2.30	1	94°	I + Ⅲ	S			
	-24	剥片	頁岩	1	17.3	20.6	5.1	1.70	1	126°	V	H			L
	-25	剥片	砂岩	6	10.5	12.4	7.2	0.70	-		I + Ⅲ	S			B
	-26	剥片	ホルンフェルス	7	24.9	19.1	5.6	3.01	1	118°	I	H			
	-27	剥片	安山岩	1	17.9	10.9	2.3	0.53	-		I + Ⅱ	F			LB
	-28	剥片	安山岩	17	18.9	20.2	7.2	2.00	-		I + Ⅲ	S			B
	-29	剥片	安山岩	5	18.5	11.7	4.8	0.78	-		Ⅲ	H			B
	-30	剥片	黒曜石	1	10.5	11.3	3.6	0.31			I + Ⅲ	S			
	-31	剥片	黒曜石	1	10.2	16.8	4.6	0.61	3	72°	Ⅱ + Ⅲ	O			
	-32	剥片	黒曜石	1	10.2	11.5	3.2	0.31	-		I + Ⅱ + Ⅲ	H			B
	18-T-89-33A	剥片	黒曜石	1	12.2	12.0	5.4	0.51	1	132°	I + Ⅲ	S			
	-33B	剥片	黒曜石	2	11.7	13.6	7.7	1.08	3	124°	I + Ⅱ + Ⅲ	H			
46	-34	二次加工剥片	黒曜石	1	12.4	19.2	7.4	1.05	-		I	O	70~80°		
	-35	剥片	黒曜石	2	12.3	6.2	6.6	0.37	1	94°	Ⅲ + V	S			
	-36	剥片	安山岩	36	9.2	11.4	3.0	0.22	L		I + Ⅲ	S			
	-37	剥片	黒曜石	1	31.0	21.3	9.6	2.99	1	74°	I + Ⅲ	H			
	-38	剥片	ホルンフェルス	2	10.6	8.5	2.7	0.18	-		Ⅲ	S			
90b	-39	剥片	ホルンフェルス	1	33.6	16.4	5.9	2.97	P		I + Ⅲ + V	H			
88	-40	局部磨製石斧	ホルンフェルス	1	79.0	48.2	22.4	74.24							
26	-41	台形様石器	安山岩	14	40.5	18.2	7.0	4.84	-		I + V	-	48~64°		B
89	-42	二次加工剥片	ホルンフェルス	1	73.9	27.4	12.6	22.76	1	126°	I + Ⅱ + V		56~64°		
	-44	剥片	ホルンフェルス	1	18.5	21.4	6.5	2.26	C	96°	I + Ⅲ	S			
102a	18-T-99-1	剥片	チャート	3	23.0	26.3	18.6	11.59	1	96°	I + Ⅲ + V	H			
48	- 3	石核	黒曜石	1	13.6	20.9	13.1	3.05		68~110°					
	- 4	剥片	安山岩	24	33.0	27.3	10.8	6.26	2	54°	I + Ⅲ	S			R
59	- 5	石核	砂岩	2	60.7	72.9	38.7	158.41		44°					
	19-T-30-1	剥片	ホルンフェルス	6	19.9	12.8	8.6	1.87	C	82°	Ⅲ + V	F			
	- 2	剥片	安山岩	35	46.3	24.8	12.9	9.35	-		Ⅱ + Ⅲ	H			B
	- 3	剥片	安山岩	19	17.0	20.2	6.2	1.91	1	118°	I + Ⅲ	S			
	19-T-40-3	剥片	安山岩	5	28.1	15.0	9.5	3.50	1	130°	Ⅲ + V	S			
	- 4	剥片	安山岩	4	35.0	48.6	10.4	14.68	1	116°	I + Ⅲ	H			
	- 5	剥片	安山岩	4	17.5	28.4	10.9	5.94	-		I + Ⅲ	-			M
12b	- 6	剥片	安山岩	4	43.1	29.8	13.1	11.40	1	126°	I + Ⅲ	S			
	- 7	剥片	安山岩	5	15.5	9.1	4.2	0.63	1	92°	I + Ⅲ	S			
	- 8	剥片	安山岩	5	13.9	21.3	6.4	1.06	1	102°	I + Ⅲ	S			
	- 9	剥片	安山岩	3	14.3	9.5	2.9	0.29	-		Ⅲ	H			LB
	-10	剥片	安山岩	2	21.3	22.7	7.5	2.34	1	126°	I + Ⅲ + V	S			
	-13	剥片	安山岩	3	19.8	16.9	4.6	1.19	1	114°	Ⅲ	S			
12c	-14	剥片	安山岩	4	36.4	28.7	10.8	12.81	1	118°	I + Ⅲ	S			
	-15	剥片	安山岩	3	6.3	14.9	5.4	0.42							
	-16	碎片	砂岩	1	9.9	9.1	4.5	0.33	1	120°	Ⅲ	H			
	-17	剥片	安山岩	5	6.3	12.8	5.6	0.48	1	98°	Ⅲ + V	S			
	-19	剥片	安山岩	19	18.9	13.8	7.6	1.97	C	126°	I + Ⅱ	F			
	-20	剥片	安山岩	3	9.1	13.6	2.0	0.18	L		I + Ⅲ	H			
28b	-21	剥片	安山岩	19	31.1	19.2	8.8	2.88	2	86°	I + Ⅲ	F			L
	-22	剥片	安山岩	1	17.7	23.0	3.9	1.01	-		Ⅱ + Ⅲ	F			B
	-25	剥片	安山岩	26	12.3	15.5	6.1	0.94	-		Ⅲ	H			B
	-27	剥片	安山岩	1	23.9	25.0	4.3	1.76	1	112°	I + Ⅲ	F			
	-28	剥片	安山岩	3	11.2	8.9	2.7	0.18	L		Ⅲ	F			
	-29	剥片	安山岩	6	11.2	21.8	3.3	0.73	-		Ⅲ	S			B
9	-30	石核	安山岩	2	43.7	45.3	21.4	47.05		60~80°					
	-31	剥片	安山岩	28	11.9	27.3	7.1	2.15	3	82°	I + Ⅲ	O			
54a	-32	剥片	砂岩	1	32.5	24.8	7.7	4.78	C	130°	I + Ⅲ + V	H			
34a	-33	剥片	安山岩	25	29.9	32.3	10.6	8.90	1	114°	I + V	H			
28a	-34	剥片	安山岩	19	20.3	21.8	8.0	3.00	2	108°	I + Ⅲ	S			
	-35	剥片	安山岩	1	13.6	15.9	2.2	0.35	-		Ⅲ	H			B
	-36	剥片	安山岩	3	19.6	11.3	5.2	1.12	1	130°	I + Ⅲ	S			L
58b	-37	剥片	砂岩	1	22.2	22.3	5.8	2.61	1	94°	I + V	S			
	-38	剥片	安山岩	25	13.3	16.2	4.5	0.99	1	94°	Ⅲ + Ⅳ	S			
	-39	剥片	安山岩	3	17.1	17.5	3.4	0.52	P		I + Ⅲ	S			
	-40	剥片	安山岩	2	16.8	34.9	6.5	2.99	3	148°	Ⅲ + V	H			
	-41	碎片	安山岩	26	9.4	7.8	2.7	0.12	-		I + Ⅲ	F			
	-42	剥片	安山岩	1	18.7	5.9	4.0	0.30	L		I + Ⅲ	F			
	19-T-50-3	剥片	ホルンフェルス	1	24.0	15.1	7.0	2.12	1	104°	I + Ⅲ	-			H
	- 4	剥片	安山岩	5	13.0	4.9	2.4	0.14	-		I	H			
100f	- 5	石核	ホルンフェルス	13	27.2	47.4	36.4	49.55		78~88°					
100b	- 6	剥片	ホルンフェルス	13	17.3	23.5	7.4	2.48	1	114°	I + Ⅱ + Ⅲ	F			
	- 7	碎片	安山岩	3	4.1	7.6	1.3	0.03	1	-	I + Ⅲ	H			
58a	- 8	剥片	砂岩	1	25.5	16.4	6.1	2.26	1	112°	Ⅲ + V	H			
100e	- 9	剥片	ホルンフェルス	13	13.2	15.8	9.0	1.75	1	122°	I + Ⅲ	-			H
	-10	剥片	安山岩	1	14.3	20.5	4.0	1.05	-		I + Ⅲ	S			B
	-11	剥片	安山岩	1	11.7	23.1	3.6	0.97	1	116°	I + Ⅲ	S			
	-13	剥片	安山岩	2	15.2	32.1	19.3	6.86	1	92°	V	H			
100a	-14	剥片	ホルンフェルス	13	19.7	38.8	15.6	9.79	2	94°	I + Ⅲ + V	H			
101	-15	台石	チャート	1	60.1	96.0	72.8	535.00							S

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打面	打角 剥離角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
100 d	-16	碎片	安山岩	5	3.7	7.8	3.4	0.14	-	I + V	-				
	-19	剥片	ホルンフェルス	13	9.0	14.6	2.7	0.12	3	102°	IV	H			
	-20	剥片	安山岩	5	15.1	18.0	6.6	1.13	3	114°	III	F			
6 b	-21	台形様石器	安山岩	1	30.4	30.8	9.0	7.75	2	112°		H	66~74°		
	-22	剥片	安山岩	5	30.6	29.9	15.8	13.57	C	98°	I + III + V	S			
	-24	剥片	安山岩	5	12.4	18.2	6.5	0.91	3	92°	I + III	S			
	-25	剥片	安山岩	5	34.1	29.3	13.4	11.48	1	64°	I + III + V	S			
	-26	剥片	安山岩	5	13.5	19.2	7.6	1.74	-		I + III	S			B
	-27	剥片	安山岩	5	19.5	12.2	4.1	1.02	1	134°	I + II	-			H
6 a	-28	剥片	安山岩	1	22.8	15.5	3.3	1.06	1	98°	II + III + V	H			
	-29	碎片	安山岩	5	7.1	7.2	2.0	0.12	-		I + III	F			B
100 c	-31	剥片	ホルンフェルス	13	21.6	20.6	7.3	2.42	L		I + III	H			
	-34	剥片	安山岩	1	16.7	20.5	4.5	1.30	3	108°	III	H			
	19-T-50-35	剥片	安山岩	1	13.1	21.9	3.7	1.03	C	98°	I + III	H			
	19-T-51-3	剥片	安山岩	1	15.4	34.7	4.6	1.69	1	104°	I + III	H			
	-4	剥片	安山岩	5	31.3	28.4	15.0	16.83	C	82°	III + V	S			
	-5	剥片	ホルンフェルス	6	20.3	15.8	3.7	0.92	L		I + II + III	H			
85	19-T-60-3	二次加工剥片	珪質頁岩B	1	22.1	18.2	5.0	1.72	1	116°	I + II + III + IV	H	58~70°		
	-4	剥片	安山岩	5	8.6	12.8	2.9	0.25	-		III	S			B
	-5	碎片	安山岩	32	6.9	6.7	2.4	0.15	1	102°	III	S			
	-6	剥片	チャート	2	12.3	10.0	3.9	0.28	2	120°	I + III	H			
	-7	剥片	チャート	3	12.6	20.1	3.3	0.51	3	118°	III	H			
	-8	剥片	安山岩	8	17.4	18.8	6.3	1.69	3(2)	124°	I + III	H			
19 c	-9	石核	安山岩	5	32.2	29.0	12.3	9.97		66~70°					
	-10	剥片	安山岩	8	17.6	23.6	5.8	1.75	1	146°	III + V	H			
	-11	剥片	安山岩	8	13.8	15.8	2.7	0.55	-		I + V	S			B
	-12	碎片	安山岩	5	5.1	7.4	1.6	0.04	1	142°	I + III	F			
	19-T-61-3	剥片	安山岩	8	13.7	14.9	6.8	1.00	4	122°	III	S			
8	-4	削器	安山岩	2	64.9	35.9	13.0	28.21					54~72°		
	-5	石核	安山岩	5	17.5	12.8	9.6	2.03		58°					
	-6	剥片	安山岩	8	13.2	12.7	5.1	0.93	1	108°	I + III	H			
	19-T-70-3	剥片	黒曜石	2	13.9	23.4	5.7	1.70	1	92°	II + III + V	S			
	-4	碎片	黒曜石	2	8.1	7.9	3.8	0.23	-		I + III	S			B
	-5	石核	黒曜石	1	9.9	8.3	7.5	0.64		104°					
	-6	剥片	黒曜石	1	8.7	12.6	1.7	0.13	L		I + II + III	H			
45	-7	二次加工剥片	黒曜石	1	11.4	10.7	6.4	0.72	-		II + III + V	O	74~86°		
	-8	剥片	黒曜石	1	9.4	11.1	3.2	0.19	-		I + III	H			B
	-9	剥片	黒曜石	1	10.5	20.1	5.8	0.68	5(2)	80°	I + III	H			
	-10	碎片	黒曜石	1	7.0	5.8	2.4	0.09	-		III	S			B
49	-11	石核	黒曜石	2	18.1	14.9	9.8	1.88		74°					
	-12	剥片	黒曜石	1	9.1	11.3	2.6	0.19	1	126°	II + III	H			
	-13A	剥片	黒曜石	1	10.8	6.2	5.4	0.29	-		III	F			B
	-13B	碎片	黒曜石	1	5.2	9.0	2.4	0.08	-		I + III	O			B
	-13C	碎片	黒曜石	1	6.5	5.6	1.6	0.04	1	110°	III	F			B
	-14	剥片	黒曜石	2	11.6	7.8	4.0	0.28	-		III	S			B
	-15	碎片	黒曜石	1	5.4	8.4	3.5	0.13	-		I + III + V	O			B
80	-16	剥片	珪質頁岩A	1	32.2	31.7	17.0	13.65	2	136°	I + III	H			
47	-17A	二次加工剥片	黒曜石	1	6.6	13.7	5.2	0.41					84~108°		
	-17B	碎片	黒曜石	1	6.2	7.1	3.2	0.08	L		I + III	F			
81	-18	石核	珪質頁岩A	1	40.7	27.5	14.6	12.66		56°					
91 a	-19	剥片	ホルンフェルス	1	23.0	28.3	4.3	2.37	-		I + III	-			M
	-20	剥片	黒曜石	2	27.3	20.5	11.7	5.20	L		I + III + V	S			
	-21	剥片	黒曜石	1	13.3	17.5	4.4	0.44	1	114°	I + III	S			
51	-22	二次加工剥片	黒曜石	2	14.3	24.2	7.0	1.64	L		III + V	S	56~64°		
	-24A	剥片	黒曜石	1	11.8	10.1	5.4	0.60	1	74°	I + III	O			
	-24B	碎片	黒曜石	1	4.0	7.2	2.5	0.06	L		I + III	S			
93	-25	剥片	ホルンフェルス	3	53.2	26.7	14.6	16.24	1	106°	I + II + III	F			
	-26	剥片	珪質頁岩A	1	17.9	12.2	2.1	0.36	1	74°	II + III	H			
	-27	剥片	黒曜石	1	11.9	17.4	7.2	0.92	L		I + III + V	S			
19 a	-28	剥片	安山岩	5	25.5	23.6	10.9	5.24	1	132°	I + III	S			
	-29	剥片	珪質頁岩A	2	21.1	20.5	8.3	1.98	L		I + III	H			
	-30	剥片	珪質頁岩A	2	10.3	16.3	1.8	0.29	-		II + III + IV	H			B
86 a	-31	剥片	珪質頁岩B	1	27.5	26.5	7.5	3.68	-		III + IV	S			B
	-32	剥片	黒曜石	2	14.8	21.5	7.2	1.71	-		I + III	S			B
86 b	-33	剥片	珪質頁岩B	1	33.2	21.3	9.8	4.38	L		III	S			
	-34	剥片	黒曜石	2	6.3	14.7	4.5	0.34	-		I	S			B
	-35	剥片	安山岩	5	49.0	25.2	12.0	11.09	1	136°	I + II + III	H			
	-36	剥片	珪質頁岩A	2	24.5	39.3	13.9	9.88	5	122°	I + II + III + IV	O			
	-37	剥片	珪質頁岩B	1	30.4	21.9	14.3	5.32	C	124°	III	S			
	-38	剥片	珪質頁岩B	1	15.3	15.8	3.4	0.75	C	102°	I + II	H			
	-39	剥片	珪質頁岩A	2	20.2	24.0	4.9	1.65	2	114°	I + III	H			
	-40	剥片	珪質頁岩A	2	16.6	13.3	3.2	0.52	2	98°	I + III	H			
	-41	剥片	黒曜石	1	13.5	15.3	4.5	0.66	2	100°	I	S			
	-42	碎片	黒曜石	1	6.4	6.5	2.5	0.07	2	104°	I + III	F			
44	-43	二次加工剥片	黒曜石	1	16.9	38.1	7.3	4.11	3(1)	130°	III + V	S	56~70°		
50	-44	石核	黒曜石	2	21.4	16.2	11.2	2.31		98°					

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熟痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm			g						
23	19-T-71-3	石核	安山岩	7	22.1	28.2	12.5	7.87		78~86°					
24	- 4	石核	安山岩	8	18.4	14.1	7.5	2.31		82°					
19b	- 5	剥片	安山岩	5	32.6	34.1	12.0	12.03	1	86°	I+III	S			
	- 6	剥片	安山岩	23	24.1	23.4	3.7	1.37	1	82°	III	H			L
35	- 7, - 8, - 9	剥片	安山岩	28	51.5	47.0	12.3	20.15	1	128°	I+III+V	H	64~78°		
38b	-10	二次加工剥片	安山岩	34	44.5	37.3	10.9	24.61	1	110°	I+III+V	-	40~68°		H
31	19-T-80-1	石核	安山岩	22	44.9	46.2	15.4	34.16		62~88°					
64	- 2	剥片	頁岩	2	54.4	24.2	15.3	15.45	C	130°	I+III+V	H			
36b	- 3	剥片	安山岩	31	46.4	47.2	15.8	23.94	1	130°	I+III	H			
	- 4	剥片	安山岩	31	48.9	47.3	16.2	35.46	1	126°	I+III	S			
	- 5	剥片	ホルンフェルス	11	28.6	20.3	7.5	4.34	3	98°	I+III+V	H			
	-6A	碎片	安山岩	6	9.6	7.1	2.8	0.19	1	82°	I+III	S			
	-6B	碎片	不明	1	3.7	4.4	0.8	0.02							
	- 7	剥片	ホルンフェルス	7	20.9	7.3	6.1	0.88	P		III+IV	S			
	- 8	剥片	ホルンフェルス	1	13.5	18.8	5.4	1.06	-		III+IV	F			
	19-T-80-10	剥片	黒曜石	1	11.6	11.2	4.8	0.33	P		II+III	O			
	-11	剥片	黒曜石	2	5.9	13.4	3.1	0.15	2	122°	II	H			
	-12	剥片	黒曜石	1	18.6	19.2	5.7	0.90	-		I+III+V	-			M
	-13	剥片	黒曜石	1	7.4	11.4	2.8	0.22	-		I	S			B
	-14	剥片	黒曜石	2	15.6	11.1	7.0	0.92	1	64°	I+III+V	S			
	-15	剥片	黒曜石	1	16.0	17.5	5.8	1.02	-		III	S			
	-16A	碎片	黒曜石	1	9.0	9.5	3.8	0.26	1	110°	I+III	O			
	-16B	碎片	黒曜石	1	7.0	5.5	3.3	0.12	L		I+III	S			
	-17	剥片	安山岩	18	17.6	17.0	5.0	1.40	1	112°	I+III	H			
94 a	-18	剥片	ホルンフェルス	3	22.2	20.6	5.7	2.32	1	108°	I+III	H			
	-19	剥片	砂岩	6	15.4	17.2	6.3	1.03	2	78°	I+III	H			
	-20	剥片	黒曜石	1	11.9	9.4	2.1	0.15	-		I+III	H			

第3表 第2地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熟痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm			g						
	22-N-92-1	剥片	黒曜石	5	10.5	15.2	6.0	0.97	2	130°	I+III	O			
	- 2	剥片	チャート	9	12.0	22.3	5.1	1.24	-		I+III	H			B
	22-N-93-1	剥片	チャート	9	13.0	13.8	3.2	0.37	-		I	-			M
	- 2	剥片	チャート	9	23.6	23.7	8.7	3.17	L		I+III+V	H			
	- 3	剥片	チャート	10	10.8	17.3	6.3	0.84	1	100°	I+V	H			
	- 4	剥片	チャート	9	10.6	6.8	1.7	0.10	P		II+III	H			L
	- 5	剥片	チャート	9	14.9	26.0	6.6	2.24	-		I+III	H			B
	- 6	剥片	チャート	9	20.0	15.6	8.0	1.45	1	94°	I+III	S			
	- 7	剥片	チャート	10	8.9	7.8	3.1	0.15	L		I+IV	H			
	- 8	剥片	チャート	9	12.9	7.5	2.6	0.16	L		I+III	S			
	- 9	剥片	チャート	9	15.1	18.4	2.6	0.66	1	102°	III	S			
	-10	剥片	チャート	9	11.4	13.9	2.1	0.21	L		I+III	H			
	-11	剥片	チャート	9	8.6	5.8	1.7	0.07	1	102°	III	S			
	-12	剥片	チャート	9	27.4	11.6	5.0	0.67	L		I	-			H
	-13	剥片	チャート	9	12.4	8.2	2.2	0.22	1	98°	I+III	S			
	-14	剥片	チャート	9	10.3	9.1	1.2	0.07	L		III	H			
	-15	剥片	チャート	9	14.1	14.0	3.9	0.54	1	108°	I+III	S			
	-16	剥片	チャート	9	15.4	11.0	4.1	0.45	-		I+III+V	S			B
	-17	剥片	チャート	9	5.9	7.5	1.2	0.05	-		III	F			B
	-18	剥片	チャート	9	13.9	14.2	4.7	0.70	1	110°	I+III	H			
	-19	剥片	チャート	9	20.6	15.7	5.5	1.60	1	114°	I+III	S			
	-20	剥片	チャート	9	9.9	13.4	2.1	0.24	-		I	H			B
	-21	剥片	チャート	9	12.0	12.0	3.2	0.39	3	88°	III	H			
	-22	剥片	チャート	9	18.6	15.3	9.9	1.48	1	88°	I	S			L
	-23	剥片	チャート	9	12.4	12.6	2.7	0.29	1	102°	I+III	S			
	-24	剥片	チャート	9	17.4	7.7	3.1	0.34	1	116°	III	F			L
	-25	剥片	チャート	9	16.0	12.0	4.2	0.54	1	114°	I+III	H			
	-26	剥片	チャート	9	18.7	13.4	2.5	0.49	1	120°	I+III	H			
	-27	剥片	チャート	9	9.1	9.2	1.9	0.10	L		I	F			
	-28	剥片	チャート	9	35.2	23.3	8.3	5.07	1	76°	I+II+III+IV	H			R
	-29	剥片	チャート	9	10.4	12.5	3.9	0.39	2	66°	I+III+V	S			
	-30	剥片	チャート	10	13.3	13.9	5.3	0.62	C	80°	III	S			
	-31	剥片	チャート	9	13.9	7.1	4.6	0.34	1	82°	III	F			
	-32	剥片	チャート	10	8.7	16.3	6.5	0.73	L		III+IV	O			
	-33	剥片	チャート	9	8.2	5.9	1.1	0.04	1	104°	I+III	F			
	-34	剥片	チャート	9	9.4	13.4	2.1	0.25	-		III	S			B
	-35	剥片	チャート	9	9.9	5.2	2.6	0.10	-		III	S			B
	-36	剥片	チャート	9	31.1	16.1	14.0	4.22	-		I+III	H			B
	-37	剥片	チャート	9	5.0	8.9	2.1	0.08	1	104°	I+III	S			
	-38	剥片	チャート	9	7.3	11.6	2.1	0.12	-		I+III	S			B
	-39	剥片	チャート	9	13.7	22.0	3.8	0.80	1	114°	I	S			
	22-O-02-1	剥片	チャート	9	14.1	10.4	2.5	0.30	1	98°	III	S			
	- 2	剥片	チャート	9	23.1	13.3	6.5	0.80	1	84°	I+III	H			

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	- 3	剥片	チャート	9	21.7	24.4	7.4	2.67	1	118°	I+III	H			L
104	- 4	剥片	流紋岩	5	39.7	26.4	7.3	5.12	1	114°	I+II	H			
106	- 5	石核	チャート	9	40.6	45.2	18.9	34.85		74~126°					
	22-O-03-1	剥片	チャート	10	10.1	13.9	3.6	0.35	L		I+III	S			
	- 2	剥片	チャート	10	25.9	19.7	8.3	3.39	1	116°	III	S			
	- 3	剥片	チャート	9	18.8	17.7	3.5	0.87	1	102°	I+III	S			
	- 4	剥片	チャート	9	18.2	30.5	6.5	3.11	-		I+III	H			B
	- 5	剥片	チャート	9	7.1	13.1	3.8	0.13	-		II+III	S			B
105 b	- 6	剥片	チャート	9	11.3	9.5	2.5	0.19	-		III	F			B
	- 7	剥片	チャート	9	7.4	10.7	3.1	0.15	2	122°	I	H			
	- 8	剥片	チャート	9	7.4	9.8	3.4	0.23	-		I	H			B
	- 9	剥片	珪質頁岩A	8	18.1	20.0	8.9	1.97	1	130°	I+II+III	S			
	-10	剥片	チャート	9	3.5	9.7	1.7	0.05	L		III	-			H
	-11	剥片	チャート	9	14.2	8.7	3.6	0.25	-		III	-			M
	-12	剥片	チャート	9	9.1	11.0	7.1	0.66	1	88°	I+III	F			
	-13	剥片	チャート	9	10.9	8.5	2.7	0.18	1	118°	I+III	H			
	-14	剥片	凝灰岩	4	10.3	9.6	2.4	0.21	3	104°	I+III	S			
	-15	剥片	チャート	9	22.2	21.6	6.5	1.99	1	106°	III	H			
	-16	剥片	チャート	9	9.8	8.9	2.6	0.11	1	108°	I+III	H			
	-17	剥片	チャート	10	13.3	10.0	6.0	0.48	-		III+IV	S			B
	-18	剥片	チャート	9	8.7	16.1	1.6	0.21	1	144°	I	S			
	-19	剥片	チャート	9	11.0	10.6	2.9	0.32	L		I+III	H			
	-20	剥片	チャート	9	12.7	14.0	4.7	0.79	2	116°	I+III	S			
	-21	剥片	チャート	9	7.6	7.8	1.9	0.07	L		I+III	F			
	-22	剥片	チャート	9	18.7	27.5	5.5	2.55	-		III	F			B
	-23	剥片	チャート	10	11.9	7.7	4.1	0.33	-		IV	F			B
	-24	剥片	チャート	9	9.9	9.0	3.3	0.18	L		I+II	S			
	-25	剥片	チャート	10	7.0	6.2	1.9	0.05	P		I	F			
105 a	-26	剥片	チャート	9	10.2	11.0	3.6	0.29	1	110°	I+III	-			H

第4表 第3地点出土遺物属性表

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
107	16P-03-1	二次加工剥片	チャート	11	48.3	24.0	11.4	9.76	-	I+IV+V	H	-	N?	B	-
	16P-03-2	剥片	珪質頁岩B	7	15.0	21.3	8.3	3.03	C	126°	I+III	-	-	H	-

第5表 第4地点出土遺物属性表

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
108	17-P-53-1001	二次加工剥片	黒曜石	8	15.2	19.5	4.5	0.83	-	I+III	-	64°		B	
	17-P-63-1001	剥片	黒曜石	7	26.0	25.8	4.8	2.26	2	120°	I+III	H			
	-1002	剥片	黒曜石	7	18.0	12.1	3.0	0.51	-	III	-			M	
	-1003	剥片	黒曜石	7	12.4	7.9	2.4	0.17	-	I+III	H			B	
	-1004	剥片	黒曜石	7	9.0	10.8	3.4	0.18	1	148°	I+III	H			

第6表 第5地点出土遺物属性表

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	17-Q-34-1001	剥片	頁岩	23	13.7	19.7	3.7	1.04	-	I	H			B	
110	-1008	剥片	チャート	12	62.1	41.6	11.5	22.04	1	122°	I+III	O			
109	-1009	剥片	安山岩	38	68.6	19.5	10.6	13.52	-	I+II+III	-			M	
	-1010	剥片	チャート	13	34.6	16.2	8.8	2.63	1	104°	I+II+III	H			
	17-Q-35-1001	剥片	凝灰岩	5	23.6	19.1	5.5	1.93	1	120°	I+III	H			

第7表 第6地点出土遺物属性表

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	17-Q-63-1001	剥片	ホルンフェルス	14	30.8	22.2	7.8	5.67	L	I+III	H				
111	-1002	二次加工剥片	砂岩	9	43.1	26.9	7.0	5.61	3(2)	106°	I+II+V	H			
112	17-Q-74-1001	剥片	ホルンフェルス	15	17.9	23.9	8.1	2.17	1	122°	I+II+III+V	S			
	-1002	剥片	頁岩	24	25.0	22.5	10.7	3.76	3	70°	I+III	H			
	-1003	剥片	ホルンフェルス	16	31.2	14.4	7.0	2.75	-	I+II+III	S			B	
	-1004	剥片	ホルンフェルス	17	27.1	36.1	5.5	4.55	-	I+III	S			B	
	-1005	剥片	粘板岩	1	24.9	23.5	6.3	4.31							
	-1006	礫	チャート	14	30.6	9.0	10.2	3.57							

第8表 第7地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	18-Q-32-1001	剥片	頁岩	25	34.1	31.7	7.2	8.48	2	120°	I+II	H			
113	18-Q-33-1001	石核	ホルンフェルス	18	42.1	48.7	10.7	20.54		62~72°					

第9表 第8地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	18-Q-34-1001	剥片	チャート	17	21.6	17.0	5.7	1.59	1	106°	I+III	H			
	18-Q-35-1001	剥片	安山岩	40	32.3	25.3	7.1	3.52	-		I	H			B
114	-1002	二次加工剥片	チャート	15	19.9	21.0	8.6	2.90			I+II+V				
	18-Q-44-1001	剥片	頁岩	26	25.0	34.9	8.2	7.72	C	104°	V	H			
	-1002	剥片	安山岩	39	63.8	35.5	12.5	19.96	1	104°	I+III	H			
	-1003	剥片	チャート	15	21.6	17.9	6.5	1.71	P		I+V	H			
	-1004	剥片	チャート	16	25.0	30.7	15.0	5.96	-		I+III+IV	S			B
	-1005	剥片	チャート	15	33.1	31.8	11.2	8.18	6	102°	I+III+V	S			
	-1006	剥片	チャート	15	16.4	16.8	7.8	1.72	1	98°	I+III+V	S			
	18-Q-45-1001	剥片	チャート	18	31.8	26.6	12.7	6.78	1	118°	I+III+IV	F			

第10表 第9地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
115	22-Q-28-10	剥片	頁岩	27	31.0	21.3	5.6	3.67	2	116°	I+II+III	F			

第11表 第10地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	19-S-02-2	剥片	黒曜石	6	11.0	15.7	4.8	0.55	-		III	O			B
	-3	礫	砂岩	10	63.0	50.5	37.9	136.24					H		
	-4	剥片	ホルンフェルス	19	18.6	18.3	6.9	2.07	3	104°	III	S			
	-5	剥片	黒曜石	6	12.1	17.4	3.2	0.54	1	120°	I+III	H			
	19-S-03-2	礫	チャート	19	65.7	45.8	24.2	69.49					H		
116	-3A	剥片	黒曜石	6	15.0	16.8	7.3	1.32	-		III+V	S		N	B
	-3B	剥片	黒曜石	6	11.1	14.1	8.8	0.68	1	126°	I+III	O			
	19-S-12-1	剥片	瑪瑙	1	22.5	34.4	8.5	5.33	L		III	S			

第12表 第11地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
117	20-U-21-74	ナイフ形石器	黒曜石	11	44.7	17.6	7.4	3.96	L		I	-	44~58°		+

第13表 第12地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	20-U-61-0A	剥片	砂岩	11	41.0	36.3	12.9	20.39	2	110°	I+V	O			
	-0B	剥片	チャート	20	18.7	23.4	4.6	1.75	3	108°	I+III+IV	F			
124	-1	石核	黒曜石	9	26.5	34.4	8.2	4.96		74~88°					
	-2	剥片	珪質頁岩B	6	31.6	25.1	14.1	8.35	2	120°	III	S			
	-3	剥片	安山岩	41	19.6	30.9	7.2	3.25	-		I+III+V	F			B
	-4	剥片	安山岩	41	12.1	26.3	6.2	1.61	3	80°	V	H			
	-5	剥片	安山岩	41	36.6	40.5	9.4	10.48	1	108°	I+V	H			
	20-U-62-1	剥片	安山岩	42	9.5	23.8	3.1	0.76	-		I+II+III+V	F			B
	-2	剥片	黒曜石	9	16.2	29.0	5.1	1.48	4(2)	116°	I+III	S			R
	-3	剥片	安山岩	42	43.8	20.4	6.8	5.45	-		III+V	H			B
	20-U-71-1	剥片	安山岩	41	33.1	24.0	14.3	6.81	2	102°	I+V	H			
	-2	剥片	安山岩	41	15.5	21.5	7.1	1.57	2	102°	I+II+III	S			
	-3	剥片	凝灰岩	2	18.1	12.9	4.2	1.03	C	52°	V	H			
	-4	剥片	珪質頁岩B	3	18.7	24.0	11.5	3.34	2	98°	I+III	F			
	-5	石核	珪質頁岩B	6	12.1	18.2	11.1	1.90		62°					
128	20-U-72-21	剥片	安山岩	41	25.9	43.4	7.8	7.03	6	110°	I+II+III	H			
	-22	剥片	安山岩	41	31.8	24.5	7.7	4.14	L		I+V	H			
	-23	剥片	安山岩	41	10.6	14.0	2.3	0.23	1	106°	I+III	F			R
	-24	砕片	黒曜石	9	8.3	6.9	2.5	0.11	1	104°	I	H			
	-25	剥片	黒曜石	9	14.0	12.8	3.1	0.47	-		III	H			B
	-26	剥片	黒曜石	9	8.8	11.7	2.1	0.14	2	100°	I+III	H			
	-27	剥片	安山岩	42	17.6	13.8	4.9	1.00	2	102°	V	H			L
	-33	剥片	安山岩	41	19.3	12.2	2.9	0.68	L		I+III	S			
	-35	剥片	黒曜石	9	9.3	12.3	5.5	0.49	-		III	O			B



第14表 第13地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
126	20-U-63-2	石核	珪質頁岩B	5	37.7	53.1	28.8	45.08	-	74~82°					
	- 3	剥片	安山岩	41	33.6	47.6	8.0	10.38	4	112°	I+III	H			
127	- 4	石核	珪質頁岩B	5	26.0	10.2	6.9	2.65	-	62~70°					
	20-U-72-1	剥片	安山岩	41	45.3	46.0	12.3	22.52	1	108°	I+V	S			
	- 2	剥片	安山岩	41	31.7	37.4	8.0	9.80	L		I+III+V	H			
123	- 3	石核	黒曜石	10	21.2	25.6	8.8	3.41	-	92°			N		
121	- 4	二次加工剥片	安山岩	41	42.7	32.1	7.5	10.89	1	114°	I+V	-	66~84°		H
131 e	- 5	剥片	チャート	21	21.3	26.4	8.1	2.58	7(5)	124°	I+III	H			
	- 6	剥片	安山岩	41	22.2	16.9	6.1	2.49	1	120°	I+III+V	S			
	- 7	剥片	安山岩	41	27.1	29.6	10.8	5.42	L		I+V	S			
	- 8	剥片	チャート	21	11.5	14.9	3.6	0.47	C	96°	I+III	H			
131 c	- 9	石核	チャート	21	31.0	27.2	9.2	6.99	-						
	-11	剥片	安山岩	41	10.4	9.6	2.8	0.29	1	92°	I	-			
122 b	-12	剥片	珪質頁岩A	10	12.2	29.2	4.9	2.00	-		I+III	S			B
	-13	剥片	珪質頁岩A	9	16.3	19.4	3.6	1.01	2	116°	III	H			
130 b	-14	剥片	チャート	21	13.9	19.1	6.1	1.85	C	104°	I+III	S			
	-15	剥片	珪質頁岩B	4	18.0	27.4	5.7	2.48	2	122°	I+III+V	S			
	-16	剥片	チャート	21	18.1	27.1	5.4	2.48	-		III	H			B
129 a	-17	剥片	チャート	21	19.0	29.9	7.9	3.54	-		II	H	N		B
	-18	剥片	チャート	22	43.3	20.4	7.1	4.73	L		I+III+V	H			
119	-19	二次加工剥片	チャート	21	27.6	9.7	4.1	0.86	L		I+V	H	74~102°		
131 b	-20	剥片	チャート	21	18.7	23.4	7.5	2.51	-		III+V	H			B
131 f	-28	石核	チャート	21	27.2	43.4	10.7	9.48	-	56~72°					
	-29	剥片	安山岩	42	7.6	12.6	3.8	0.38	1	102°	I+III	H			
	-30	剥片	安山岩	41	18.6	19.9	6.7	1.44	L		I+III+V	H			
	-31	剥片	黒曜石	10	15.7	10.3	3.7	0.63	1	102°	III	H			
122 a	-32	剥片	珪質頁岩A	10	16.1	32.5	6.4	2.69	C	100°	I+III	-			H
129 b	-34	剥片	チャート	21	21.7	32.0	10.7	6.31	C	112°	III	-			H
	20-U-73-1	剥片	安山岩	41	17.9	17.6	4.6	1.13	L		I+III	S			
	- 2	剥片	安山岩	41	27.1	39.1	5.8	6.01	1	104°	I	H			
	- 3	剥片	安山岩	42	9.5	15.7	3.2	0.33	2	104°	I+III	H			
130 c	- 4	石核	チャート	21	23.5	41.6	15.7	10.44	-	56~64°					
	- 5	剥片	チャート	21	16.2	12.3	4.5	0.37	C	78°	III	S			
	- 6	剥片	安山岩	41	20.4	14.4	4.9	1.06	1	96°	I+III	F			
	- 7	剥片	安山岩	41	17.2	17.4	4.9	1.19	C	92°	III	S			R
131 d	- 8	石核	チャート	21	24.6	24.5	8.8	5.12	-	74~96°					
	- 9	剥片	安山岩	41	18.5	12.8	2.4	0.52	L		I+V	F			
	-10	剥片	チャート	21	22.5	18.6	5.3	1.42	C	92°	III	S			
118	-11	二次加工剥片	チャート	21	27.8	15.4	6.8	2.19	C	150°	I+IV+V	H	72~80°		L
130 a	-12	石核	チャート	21	26.5	37.6	17.6	8.53	-	56~68°					
	-13	剥片	チャート	21	17.2	17.1	5.7	1.06	-		III	H			B
131 a	-14	剥片	チャート	21	14.9	17.4	4.2	0.68	-		I+V	-			M

第15表 第14地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
120	20-U-81-1	二次加工剥片	黒曜石	10	11.1	21.2	2.5	0.59	-		I	H	42~54°	N	
	20-U-82-1	剥片	安山岩	41	5.4	28.3	12.7	1.83	1	124°	V	H			
	-2	剥片	安山岩	41	23.4	28.3	5.8	2.86	1	114°	I+III	H			
	-3	剥片	安山岩	41	16.0	16.6	4.1	0.87	-		III	H			B
	20-U-82-4	剥片	安山岩	41	15.9	23.6	4.5	1.31	L		I+V	F			
	-5	剥片	安山岩	41	28.4	23.0	6.7	4.47	4	126°	I+III+V	H			
	-6	剥片	碧玉	1	30.7	24.2	13.6	9.06	C	80°	I+II+III	F			
	-7	剥片	安山岩	41	8.2	18.1	3.4	0.52	-		III+V	H			B
	-8	剥片	安山岩	41	16.1	9.5	6.2	0.73	-		I+III	O			B
	-9	剥片	安山岩	41	22.9	19.3	4.6	0.98	P		III	H			R
125	-11	石核	安山岩	41	14.2	21.1	10.2	2.46	-	76°					
	-12	碎片	安山岩	41	9.4	8.8	1.8	0.10	1	108°	III	H			
	-13	剥片	安山岩	41	11.8	36.7	7.6	2.95	-		V	S			B
	-15	碎片	安山岩	41	4.0	9.5	1.7	0.08	-		III	H			B
	-16	剥片	安山岩	41	30.0	34.2	12.5	11.19	4	134°	I+V	H			R
	-17	剥片	安山岩	41	24.9	13.0	7.3	2.27	1	100°	III+V	O			R
	-18	剥片	安山岩	42	16.7	12.2	3.4	0.56	1	130°	I+III	F			L
	20-U-83-1A	剥片	安山岩	41	11.3	9.2	2.3	0.21	1	88°	III	H			
	-1B	剥片	安山岩	42	11.3	3.8	3.2	0.11	P		I+III	F			
	-2	剥片	凝灰岩	3	22.8	19.7	4.5	1.73	2	114°	I+III+V	H			
	-3	礫	流紋岩	6	49.3	26.7	9.0	14.40	-						
	-4	剥片	チャート	21	26.0	31.6	8.6	3.31	-		I+III	O			B

第16表 第15地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	20-P-28-1001	剥片	チャート	1	7.0	10.3	4.5	0.24	1	88°	I+II+III	S			
	-1002	礫	砂岩	1	28.3	28.0	20.6	10.36							
1	20-P-38-1001	剥片	安山岩	1	14.6	16.8	4.0	0.84	1	108°	I+III	S			

第17表 第16地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
2	18-Q-66-1001	二次加工剥片	黒曜石	1	17.7	29.9	4.4	1.69	L		I+III	H	40~58°		
3	18-Q-76-1001	二次加工剥片	黒曜石	1	18.6	20.2	5.1	1.68	1	122°	I+III	H	66~76°		
	-1002	剥片	黒曜石	1	20.5	29.2	6.4	2.15	2	104°	I+III	H			
	18-Q-77-1001	剥片	黒曜石	1	23.6	38.7	7.8	3.54	1	122°	I+II+III	H			

第18表 第17地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	22-S-09-10	剥片	黒曜石	2	19.9	2.5	4.6	0.23	P		I+II	F			
8	23-S-00-10	剥片	黒曜石	2	33.6	17.4	5.9	2.26	L		I+III+V	F		N	
	-11	礫	流紋岩	1	42.9	21.6	18.5	21.63						H	
6	-12A	剥片	黒曜石	2	40.4	22.7	8.1	3.62	-		I+II+III+V	H		N	
	-12B	碎片	黒曜石	2	9.5	7.4	1.7	0.07	L		I	H			
	-13	剥片	黒曜石	2	17.9	22.8	3.1	1.28	-		V	H		B	
	-14A	剥片	黒曜石	2	25.9	15.0	4.4	1.11	L		I+III	-		H	
	-14B	剥片	黒曜石	2	6.8	18.2	3.3	0.43	-		III+V	-		M	
	-14C	剥片	黒曜石	2	6.0	12.3	3.3	0.23	C	76°	III+V	O			
4	-15	ナイフ形石器	黒曜石	2	48.2	15.2	8.0	4.59	7(3)	94°	I+V	-	42~132°		
7	-16	剥片	黒曜石	2	29.6	22.7	6.5	3.83	3(1)	120°	I+V	-		N	H
5	-17	剥片	黒曜石	2	41.7	12.0	6.1	2.20	1	116°	I+II+III	H		N	

第19表 第18地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
9	19-V-08-1	二次加工剥片	黒曜石	4	29.0	21.6	6.5	3.44	5(3)	106°	I+III+V	O	58~70°		
	-2	剥片	硬質頁岩	1	13.8	11.1	8.2	0.81	-		I+III	S			B
10	19-V-09-1	剥片	珪質頁岩A	1	33.1	38.5	13.6	16.19	2	138°	I+III+V	H		N	

第20表 第19地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
11 a	20-V-01-1	剥片	黒曜石	3	58.9	32.5	6.1	8.39	8(5)	108°	I	-			H
11 b	-2	剥片	黒曜石	3	24.3	27.9	3.4	1.47	-		I	H			B

第21表 第20地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
14 b	19P-68-2	剥片	安山岩		26.7	40.6	14.6	13.41	2	132°	I+II+III	O			
14 a	19P-68-3	剥片	安山岩		29.1	39.3	8.9	10.16	-		I+III	H			
14 c	19P-68-4	剥片	安山岩		23.4	21.5	9.4	3.94	2	134°	I+III	F			
	19P-68-5	剥片	珪質頁岩B		62.0	43.1	20.2	26.99	1	134°	I+IV+V	S			
	19P-68-6	剥片	安山岩		10.9	16.1	4.5	0.68	1	122°	I+III	-			H
13	19P-68-7	剥片	粘板岩		23.0	10.8	4.0	0.50	-		II+III	-		N	
	19P-69-2	剥片	安山岩		13.0	10.9	2.8	0.38	2	114°	I	H			
	19P-69-3	剥片	安山岩		11.6	21.8	3.4	0.76	-		III	S			B
12 a	19P-69-4	二次加工剥片	粘板岩		37.7	31.5	13.7	20.06	-		III+IV+V	H	106~112°		B
	19P-69-5	剥片	安山岩		12.3	10.5	2.6	0.22	1	128°	I+III	F			
14 d	19P-69-6	石核	安山岩		29.1	44.6	33.7	45.93	-	48~80°	-	-			
12 b	19P-69-7	剥片	粘板岩		39.8	25.9	14.0	9.89	1	136°	I+III	S			
	19P-69-8	剥片	粘板岩		12.2	19.8	2.6	0.46	L		III+V	S			
	19P-69-9	剥片	粘板岩		18.0	18.2	10.0	2.36	1	106°	I+III	S			

第22表 第21~24地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
87	19-O-15-1001	ナイフ形石器	碧玉	1	28.1	19.3	10.6	4.52	-		I+III	H	74~88°		B
84	19-O-16-1001	搔器	瑪瑙	3	42.2	32.5	12.6	16.23	1	112°	I+III	-	54~76°		
4s	19-O-21-1001	石核	安山岩	5	31.3	43.3	23.0	24.06		64°					
8b	-1002	剥片	安山岩	8	42.8	22.8	11.2	19.14	-		III+V	-			H
4f	-1003A	剥片	安山岩	5	31.0	20.6	11.2	3.46	-		III+V	H			B
	-1003B	剥片	黒曜石	4	12.9	9.6	3.6	0.26	P		III	H			
	-1004A	剥片	黒曜石	5	14.7	16.1	5.2	0.99	-		I+II+III	-			M
	-1004B	剥片	チャート	3	12.3	12.8	2.6	0.33	1	86°	I+III	H			
4o	-1005	剥片	安山岩	5	23.5	14.6	6.0	2.30	1	78°	I	-			LH
	-1006A	剥片	安山岩	17	19.0	39.1	9.4	6.09	-		III+V	H			B
4h	-1007A	剥片	安山岩	5	28.8	23.8	4.9	2.74	-		I+III+V	F			B
	-1007B	剥片	チャート	1	8.3	11.7	2.9	0.22	3	114°	I	H			
	-1008A	礫	チャート	14	30.6	20.4	16.8	12.91						H	
	-1008B	剥片	黒曜石	4	8.1	14.5	3.1	0.23	3(2)	126°	I	F			
	-1009A	礫	チャート	15	35.5	23.1	20.0	22.82							
	-1009B	剥片	黒曜石	4	11.6	8.6	4.7	0.31	-		I+III	H			B
	-1010A	剥片	黒曜石	4	16.7	18.5	4.3	0.86	3	82°	I+III	H			
	-1010B	剥片	チャート	3	12.3	14.5	4.3	0.59	2(1)	100°	I+IV	F			
	-1011	剥片	黒曜石	4	14.9	20.8	6.1	1.31	-		III	S			
	-1012	剥片	黒曜石	1	15.2	10.7	3.3	0.43	1	118°	I+II+III	S			
	-1013	礫	チャート	10	14.5	10.1	8.8	0.61						H	
	-1014	剥片	チャート	2	7.7	10.1	3.5	0.15	1	104°	I+III+IV	H			
	-1015	礫	頁岩	3	13.2	9.5	3.9	0.55							
	19-O-22-1001	剥片	チャート	2	13.1	14.0	3.0	0.42	1	94°	I	H			
	-1002	剥片	黒曜石	5	15.3	21.7	7.9	1.86	-		I+III	O			B
	19-O-25-1001A	剥片	安山岩	13	20.3	26.0	6.6	1.74	-		III	H			B
	-1001B	砕片	チャート	1	6.0	7.2	1.7	0.06	L		I	S			
	-1002	剥片	黒曜石	3	16.1	17.6	8.8	1.43	1	130°	III	O			L
	-1003	砕片	黒曜石	3	4.0	7.7	1.6	0.03	1	164°	I+III	H			
66	-1004	角錐状石器	黒曜石	5	20.5	12.0	10.1	2.49	-		I	-	82~86°		+
	-1005	剥片	安山岩	13	13.1	14.1	3.6	0.63	1	114°	I+III	H			
	-1006	礫	凝灰岩	1	51.3	49.9	30.6	76.44						H	
58	-1007	剥片	黒曜石	1	25.4	15.2	7.4	1.76	2	136°	II	O			R
46	-1008	削器	安山岩	32	28.2	50.6	7.4	11.23	-			-	68~88°		
	-1009	剥片	安山岩	13	11.8	24.1	4.3	0.83	1	98°	I+III	F			
	-1010	剥片	安山岩	32	21.3	41.4	11.9	9.92	1	124°	I+II+III	S			
39	-1011A	搔器	安山岩	29	32.2	32.0	17.0	19.93	C	52°	V	-	54~78°		
64	-1011B	剥片	黒曜石	3	11.6	20.7	5.8	1.00	2	126°	I	H			
36b	-1012	石核	安山岩	25	37.1	49.3	15.6	25.22		60~72°					
	-1013	礫	安山岩	44	64.1	42.0	40.4	79.03						H	
	-1014	剥片	珪質頁岩A	1	13.4	21.5	5.5	1.17	1	118°	I+III+V	H			
30	-1015	石核	安山岩	20	37.7	47.2	19.1	33.01		70°					
29a	-1016	剥片	安山岩	20	17.9	18.0	4.2	1.27	C	86°	V	F			
	-1017	剥片	安山岩	33	22.5	46.7	8.7	9.32	-		V	-			M
29b	-1018	石核	安山岩	20	33.4	45.8	20.0	33.28		78°					
	-1019	剥片	黒曜石	2	7.8	15.7	3.9	0.27	-		I	-			M
60	-1020	二次加工剥片	黒曜石	2	15.7	8.4	4.1	0.45	1	104°	I+III	S	54~70°		R
	-1021A	砕片	黒曜石	4	7.2	8.0	2.6	0.13	-		I	H			B
	-1021B	砕片	黒曜石	2	6.3	9.8	2.3	0.08	1	92°	I	H			R
	-1021C	剥片	黒曜石	2	5.3	11.8	1.8	0.05	1	118°	I	H			
	-1022	剥片	黒曜石	2	9.2	12.0	1.7	0.09	1	112°	III	H			
	-1023	剥片	黒曜石	2	10.0	11.8	2.5	0.23	1	102°	I	H			
14	-1024	角錐状石器	安山岩	13	53.3	32.8	15.8	20.81	-		III	H	70~92°		
86	-1025A	二次加工剥片	玉髓	2	14.2	10.7	4.2	0.66	-		I	-	72~88°		
	-1025B	礫	安山岩	44	33.4	32.4	18.7	13.46						H	
	-1026	剥片	安山岩	36	15.4	8.1	5.5	0.43	1	104°	I+III	F			
	-1027	剥片	黒曜石	5	10.8	24.3	4.8	0.91	L		I+III	H			
	19-O-26-1001	砕片	黒曜石	3	9.5	7.8	2.7	0.12	1	72°	II+III	F			
	-1002	剥片	黒曜石	3	13.5	16.4	7.5	1.32	L		I+III+V	O			
	-1003	剥片	黒曜石	5	11.0	15.5	11.9	1.02	1	106°	I+III	H			
	-1004	剥片	黒曜石	5	12.7	13.5	2.9	0.35	1	104°	I+III	H			
	-1005A	剥片	黒曜石	5	13.3	9.4	5.1	0.41	1	88°	I+III	O			
	-1005B	剥片	黒曜石	5	13.4	6.9	2.6	0.17	1	112°	I	H			
	-1006	剥片	安山岩	13	15.9	19.5	6.5	1.48	1	114°	I+III	F			
	-1007	剥片	黒曜石	5	12.7	10.0	2.4	0.22	3	98°	I+III	H			
	-1008	砕片	黒曜石	4	6.5	9.9	1.2	0.05	L		I+III	H			
	19-O-31-1001A	剥片	安山岩	14	51.8	32.5	15.7	23.87	L		I+V	F			
	-1001B	剥片	黒曜石	5	15.2	23.6	5.2	1.59	5(2)	96°	I+III+V	S			
	-1001C	礫	チャート	13	22.5	18.3	11.9	5.79							
	-1001D	礫	不明	1	23.3	21.1	13.3	7.27							
68a	-1002A	剥片	黒曜石	5	32.3	33.2	10.1	4.85	2	130°	I+III	H			
81	-1002B	二次加工剥片	チャート	16	16.7	13.1	6.5	1.05	-		III	S	74°		
12e	-1003	剥片	安山岩	12	43.9	41.4	14.9	24.99	1	146°	I+V	H			
4k	-1004A	剥片	安山岩	5	52.1	43.1	19.4	36.46	5(2)	132°	I+III+V	H			

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号		最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角 剥離角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
					mm	mm	mm									
	-1004B	剥片	チャート	3	12.5	16.4	2.7	0.46	1	90°	I+III	H				
	19-O-31-1005A	剥片	チャート	2	22.6	17.2	5.2	2.00	2	100°	I+III	H				
	-1005B	剥片	黒曜石	1	10.4	13.9	3.1	0.28	2	136°	I+III+V	H				
12g	-1006A	剥片	安山岩	12	28.8	26.7	14.5	8.99	1	132°	I+III+V	H				
	-1006B	剥片	黒曜石	4	12.2	7.1	3.2	0.26	1	72°	I+II	H				
4b	-1007A	剥片	安山岩	5	38.7	27.1	11.0	11.26	1	120°	V	H				
	-1007B	剥片	黒曜石	4	11.0	8.7	3.5	0.18	3	68°	I	S				
4a	-1008A	剥片	安山岩	5	27.4	27.1	9.0	6.89	C	84°	V	F				
	-1008B	剥片	チャート	1	9.4	12.7	5.6	0.61	3(2)	110°	I+III+IV	O				
	-1009	剥片	安山岩	17	44.1	34.7	19.8	18.19	4(2)	80°	I+V	H				
12f	-1010A	剥片	安山岩	12	33.1	42.8	14.8	17.73	1	150°	III+V	S				
	-1010B	剥片	頁岩	4	5.2	12.7	3.4	0.18	-	-	III+IV	-				M
	-1011	剥片	安山岩	35	30.7	20.5	6.9	2.52	1	92°	I+V	S				
12a	-1012A	剥片	安山岩	12	25.1	36.6	9.8	10.90	C	88°	III+V	-				H
75	-1012B	二次加工剥片	チャート	1	15.9	11.0	2.8	0.36	2	98°	II+III	F	64°			
70a	-1013A	剥片	黒曜石	5	33.4	19.0	9.3	3.91	2	96°	I	S				L
70b	-1013B	剥片	黒曜石	5	34.1	20.9	9.4	6.32	1	96°	I+III	S				R
	-1013C	剥片	粘板岩	1	9.6	14.1	3.5	0.29	-	-	IV	S				B
	-1013D	剥片	粘板岩	1	8.3	8.9	1.6	0.08	-	-	IV	S				B
68b	-1014A	剥片	黒曜石	5	25.6	43.2	12.5	10.60	5(1)	100°	I+II+III	H				
77c	-1014B	石核	チャート	1	20.2	33.7	11.3	8.98	-	82~90°						
4j	-1015A	剥片	安山岩	5	7.1	22.4	3.6	0.46	1	90°	III+V	H				
	-1015B	剥片	黒曜石	4	10.4	10.5	2.6	0.17	P	-	I+III	H				
77b	-1015C	剥片	チャート	1	8.5	8.6	2.1	0.12	1	72°	III	H				
4p	-1016A	剥片	安山岩	5	17.3	14.1	5.4	1.03	-	-	I+V	F				LB
77a	-1016B	剥片	チャート	1	24.7	11.9	7.5	2.31	3(1)	86°	I+III+IV+V	S				
4l	-1017A	剥片	安山岩	5	26.3	18.5	7.8	2.63	1	114°	I	H				L
	-1017B	剥片	黒曜石	4	13.3	12.7	3.9	0.44	3	104°	I+III	F				
4m	-1018A	剥片	安山岩	5	35.1	11.2	11.8	3.87	2	114°	I+V	H				R
	-1018B	剥片	黒曜石	4	7.0	10.3	2.1	0.15	-	-	I	-				M
12d	-1019A	剥片	安山岩	12	11.4	28.3	3.3	0.82	-	-	V	H				B
	-1019B	剥片	チャート	9	8.6	14.3	1.8	0.25	-	-	IV	H				B
54	-1020	石核	安山岩	33	30.1	44.2	15.6	18.67	-	112°						
4i	-1021	剥片	安山岩	5	36.6	35.5	12.3	15.28	1	126°	I+III+V	S				
16	-1022A	石核	安山岩	14	26.5	49.2	46.8	66.59	-	76°						
	-1022B	剥片	黒曜石	5	9.5	15.3	6.0	0.67	L	-	I+III	O				
8c	-1023A	剥片	安山岩	8	22.0	24.6	10.2	4.70	-	-	III+IV+V	O				B
	-1023B	剥片	黒曜石	4	10.7	9.2	4.4	0.28	2	116°	I+III	H				
	-1024A	剥片	チャート	2	18.8	15.7	5.7	1.21	2	120°	III+V	S				
59	-1024B	剥片	黒曜石	1	6.8	12.5	2.4	0.16	-	-	I+III+V	H		N?		B
4r	-1025A	剥片	安山岩	5	42.7	23.5	10.7	11.98	2	136°	I+III+V	F				
	-1025B	剥片	黒曜石	6	4.1	5.7	0.5	0.01	L	-	V	F				
4d	-1026A	剥片	安山岩	5	36.5	39.3	12.6	21.60	-	-	I+III+V	H				B
	-1026B	剥片	チャート	3	10.0	9.6	1.9	0.15	2	94°	III	H				
25	-1027A	石核	安山岩	18	29.9	27.6	22.5	13.57	-	74°						
	-1027B	剥片	黒曜石	4	17.6	11.1	3.2	0.47	3	94°	I+III	H				
12b	-1028A	剥片	安山岩	12	28.1	32.1	9.5	8.75	-	-	III+V	F				B
	-1028B	剥片	黒曜石	4	10.1	15.2	2.9	0.38	L	-	I+III	H				
4n	-1029	剥片	安山岩	5	12.5	13.1	7.9	0.34	1	92°	I+III	F				
71b	-1030	剥片	黒曜石	5	31.6	18.2	6.8	2.89	-	-	I+III	H				B
8a	-1031A	剥片	安山岩	8	51.2	46.5	15.2	35.49	3(1)	148°	I+V	H				
69	-1031B	石核	黒曜石	5	11.6	18.1	10.1	1.78	-	104°						
	-1032A	剥片	黒曜石	4	14.8	10.9	5.2	0.59	P	-	I+III	F				
	-1032B	剥片	安山岩	26	14.5	13.0	3.4	0.38	1	100°	I+III	F				L
62	19-O-32-1001	二次加工剥片	黒曜石	3	9.9	9.8	3.3	0.16	-	-	I+II+III	-	88~90°			B
	-1002A	剥片	黒曜石	4	21.0	13.9	9.7	1.86	1	90°	I+II+III	F				
	-1002B	剥片	黒曜石	5	15.3	12.0	4.4	0.44	-	-	I+II+III	H				B
	-1003	剥片	石英斑岩	1	25.8	20.6	8.1	4.17	1	100°	I+III	S				L
	-1004A	剥片	黒曜石	4	18.5	16.0	6.3	1.77	-	-	III+V	H				B
	-1004B	剥片	チャート	2	12.1	14.7	4.4	0.75	-	-	I+III+IV	S				B
76	-1005A	二次加工剥片	チャート	1	23.7	18.2	8.2	2.99	1	102°	I+II+III	H	40~44°			
78	-1005B	二次加工剥片	チャート	2	19.7	18.7	9.4	2.22	1	98°	II+III+IV	-	58~64°			
	-1006A	剥片	チャート	3	16.9	12.6	4.4	0.76	1	106°	I+III+V	H				
	-1006B	剥片	チャート	7	6.9	12.0	2.2	0.16	1	102°	I	S				
	19-O-33-1001	剥片	安山岩	14	32.5	16.4	11.9	4.22	1	96°	I+III+V	H				
	-1002	剥片	チャート	1	16.6	18.2	8.7	2.14	C	90°	III+IV	F				
	-1003	礫	チャート	12	25.6	21.1	15.9	7.84	-	-						
	-1004	剥片	チャート	1	14.1	12.0	5.0	0.65	1	102°	I+III+V	S				
	19-O-34-1001	剥片	安山岩	32	19.0	11.6	4.8	0.88	1	120°	I	S				
	-1002	剥片	ホルンフェルス	1	26.0	31.3	10.3	5.55	C	140°	III	H				
	-1003	剥片	安山岩	33	40.2	42.6	10.4	14.38	1	120°	I+II+V	F				
	-1004	剥片	粘板岩	1	13.8	11.2	3.3	0.36	L	-	I	S				
	-1005	剥片	頁岩	5	10.3	12.1	4.0	0.35	1	96°	III	S				
	19-O-35-1001	剥片	安山岩	16	27.0	37.2	9.9	8.99	1(1)	130°	I+III	S				
61	-1002	ナイフ形石器	黒曜石	3	27.6	18.6	8.3	3.36	C	116°	I	-	66~102°			+
	19-O-36-1001	剥片	黒曜石	5	15.3	24.5	5.9	1.71	1	102°	I+III	F				

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号		最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端	調整角	使用痕 被熟痕	折れ	欠損
					mm	mm	mm	g		剥離角		形状				
26 a	-1003	碎片	安山岩	36	6.8	6.9	1.9	0.07	-		II	S			B	
	19-O-40-10017	剥片	安山岩	19	39.0	29.6	10.9	9.61	C	104°	I+V	H				
27 b	-1001	碎片	黒曜石	1	4.5	10.6	4.2	0.12	-		I+III	S			B	
	19-O-40-1002	剥片	安山岩	19	28.4	17.5	6.6	2.11	C	114°	I	H			L	
1	-1003	敲石	安山岩	2	75.1	48.0	36.6	183.30					S			
	-1004	礫	安山岩	1	71.9	59.8	44.0	241.62								
	-1005	剥片	安山岩	30	24.2	25.5	7.6	4.56	1	90°	I+II	F			L	
	-1006	碎片	黒曜石	6	3.1	4.7	0.9	0.01	-		III	F				
	-1007	剥片	安山岩	35	23.0	20.2	4.5	1.85	-		III+V	F			B	
	-1008	剥片	安山岩	16	24.6	23.0	7.4	2.59	1	106°	I+III	F			R	
	19-O-41-1001	剥片	安山岩	19	23.1	23.5	4.4	1.60	-		I+V	F			B	
	-1002	碎片	安山岩	36	9.4	8.2	2.0	0.09	1	96°	III	S				
	-1003	剥片	安山岩	33	7.7	21.4	4.0	0.64	-		III+V	H			B	
	-1004	剥片	安山岩	19	19.5	20.2	3.8	1.37	C	80°	I	S				
	-1005	剥片	安山岩	26	8.9	12.5	2.1	0.16	L		I+V	H				
	-1006	剥片	黒曜石	1	12.5	5.5	3.3	0.18	-		III	H			B	
28 a	-1007	剥片	安山岩	26	16.7	11.9	6.0	1.18	1	128°	I+III+V	S				
	-1008	剥片	安山岩	19	25.5	35.9	11.6	9.94	-		I+III+V	H			RB	
40	-1009	剥片	安山岩	24	13.7	18.9	5.6	1.41	1	92°	I+III	O				
	-1010	削器	安山岩	30	34.3	28.1	10.4	10.49	1	126°	III+V	-	70~74°			
	-1011	剥片	安山岩	16	26.7	36.1	12.0	7.77	1	112°	III+V	H				
	-1012	剥片	安山岩	33	24.5	17.4	4.5	1.32	L		I+III	H				
	-1013	剥片	安山岩	17	23.7	23.4	8.0	5.02	1	130°	I+III	S				
	-1014	剥片	安山岩	17	33.0	33.2	10.0	10.21	1	98°	I+III+V	H				
	-1015	剥片	安山岩	33	33.7	17.1	8.1	3.94	2(1)	98°	I+V	F				
	-1016	剥片	黒曜石	1	7.7	13.6	2.1	0.14	1	-	I	H				
	-1017A	剥片	黒曜石	1	8.1	15.4	3.4	0.30	2	112°	I	H				
	-1017B	剥片	黒曜石	1	3.8	2.3	2.4	0.04	1	-	I+III	S				
	-1017C	剥片	安山岩	36	3.5	2.5	1.2	0.02	-		III	F				
	-1018	剥片	安山岩	19	36.1	34.3	9.8	10.15	1	130°	I+V	H				
	-1019	剥片	黒曜石	1	11.1	27.7	4.2	0.65	1	122°	I+III	H				
	-1020	剥片	安山岩	32	20.4	17.9	7.8	2.27	1	78°	I+V	F				
	-1021	剥片	安山岩	17	37.4	17.9	10.8	7.27	1	126°	I+III	H				
	-1022	剥片	安山岩	11	11.6	14.4	4.1	0.54	-		I+V	H			B	
43 c	-1023	剥片	安山岩	19	35.2	26.8	15.0	9.94	2(1)	94°	I	F				
	-1024	剥片	安山岩	30	41.7	32.1	9.5	12.78	1	114°	I+V	H				
20 b	-1025	剥片	安山岩	17	38.2	29.3	8.2	6.03	1	102°	I+III+V	S				
56	-1026	ナイフ形石器	黒曜石	1	35.3	14.0	9.8	3.57	2	-	I+II	H	62~78°			
	-1027	剥片	安山岩	19	37.7	28.7	13.6	15.63	1	126°	I+III+V	O				
4 q	-1028	剥片	安山岩	5	43.5	28.4	10.1	10.94	L		I+V	F			R	
17	-1029	ナイフ形石器	安山岩	16	37.1	18.8	8.7	5.08	-		I	-	62~72°			
	-1030	剥片	黒曜石	3	16.0	26.7	14.6	4.93	-		I+III+V	S			B	
38 b	-1031	剥片	安山岩	17	24.7	20.8	4.4	1.70	C	110°	I+III	H				
	-1032	剥片	安山岩	28	47.6	36.3	13.1	18.13	1	128°	I+V	F				
11 a	-1033	剥片	安山岩	11	26.4	13.5	7.2	1.72	1	102°	I+III	F				
	-1034	剥片	安山岩	19	29.5	27.6	9.6	6.84	L		I+III+V	H				
	-1035	剥片	安山岩	17	20.6	18.5	2.8	0.74	L		III+V	S				
	-1036	石核	安山岩	11	41.1	42.0	24.4	42.15	1	66°	V	S				
55	-1037	石核	安山岩	34	17.6	65.2	27.6	34.77		72~78°						
	-1038	剥片	黒曜石	3	18.4	15.6	9.8	2.64	7(5)	114°	I+III	O				
38 a	-1039	剥片	安山岩	28	44.4	26.5	9.0	9.92	1	108°	I+V	F				
11 b	-1040	剥片	安山岩	11	35.1	33.1	13.3	11.14	1	126°	I+III	-	60~72°		H	
	-1041	剥片	安山岩	16	24.3	25.4	11.2	4.58	1	70°	I+V	H				
	-1042	剥片	安山岩	32	24.0	22.5	8.4	3.78	1	126°	I+V	F				
	-1043	剥片	安山岩	5	29.2	34.4	14.8	14.67	1	104°	I+V	-			H	
26 b	-1044	礫	不明	2	18.0	8.1	6.7	0.47								
	-1045	剥片	安山岩	19	34.3	34.5	10.1	11.43	1	122°	I+V	S				
	-1046	碎片	黒曜石	6	4.8	6.9	1.4	0.04	-		I	H			B	
	-1048	剥片	安山岩	17	24.9	23.0	4.9	2.49	1	106°	I+V	S				
11 c	-1049	剥片	安山岩	11	35.1	39.6	15.6	21.05	-	-	I+III+V	F			B	
	-1050	剥片	安山岩	34	33.7	37.9	7.6	8.52	1	114°	I+V	-			H	
11 d	-1051	剥片	安山岩	11	38.1	44.8	12.6	14.40	1	128°	III+V	H	56~70°			
	-1052	剥片	安山岩	33	17.6	16.4	4.7	0.92	L		I+V III	H				
9 a	-1053	剥片	安山岩	9	15.8	24.8	5.4	1.50	1	100°	I+V	H				
	-1054	剥片	安山岩	9	17.1	30.4	4.0	1.27	1	102°	I+III+V	H				
2	-1055	剥片	安山岩	11	22.9	11.0	7.0	1.41	C	64°	I+III+V	F			S	
	-1056	敲石	安山岩	3	59.3	45.1	33.0	98.10								
41	-1057	削器	安山岩	30	35.1	25.7	9.3	10.16	C	78°	III+V	-	54~64°		H	
15 a	-1058	剥片	安山岩	15	35.9	27.7	9.7	7.96	1	120°	III+V	H				
	-1059	剥片	チャート	5	10.2	6.9	2.5	0.16	1	112°	I+III	F				
12 c	-1060	剥片	安山岩	12	26.1	38.2	6.4	6.15	1	130°	V	-			H	
	-1061	剥片	安山岩	19	20.8	34.7	11.3	6.84	C	130°	I+III	S				
35	-1062	石核	安山岩	26	47.6	43.3	21.1	37.91		50°						
	-1063	剥片	安山岩	36	8.8	12.7	2.3	0.15	-		I	S			B	
15 d	-1064	石核	安山岩	15	38.0	47.2	32.7	57.61		62~80°						
	4 e	-1065	剥片	安山岩	5	41.1	29.6	16.4	16.43	2	106°	I+III+V	H			

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角		形状				
	-1066	剥片	不明	2	36.5	27.7	12.1	5.95	1	114°	I+III	F			
	-1067	剥片	安山岩	24	39.7	30.4	18.9	11.45	2	132°	I+III+V	S			
	-1068	剥片	不明	2	40.0	43.0	13.7	7.71	1	96°	I+III	H			
	-1069	剥片	安山岩	17	36.5	24.0	7.6	2.42	1	66°	I+III+V	H			
	-1070	碎片	安山岩	36	6.9	8.7	1.7	0.06	-		I	F			
	19-O-41-1071	剥片	安山岩	33	28.2	11.3	8.0	1.60	C	-	I+V	H			
34 a	-1072	剥片	安山岩	24	12.8	12.0	6.6	0.65	2	102°	III	S			R
	-1073	剥片	安山岩	21	34.7	33.7	9.7	8.27	1	104°	I+V	H			
	-1074	剥片	安山岩	19	24.3	37.5	9.2	4.43	1	70°	I+III	H			
	-1075	剥片	安山岩	33	13.0	9.1	2.8	0.26	1	100°	I+III	S			
31 b	-1076	剥片	安山岩	21	33.8	37.4	12.8	11.04	2(1)	144°	I+V	H			
34 b	-1077	剥片	安山岩	24	12.2	11.2	4.8	0.42	1	92°	I+III	F			L
	-1078	剥片	安山岩	36	8.3	10.2	2.5	0.16	L		I	F			
	-1079	剥片	安山岩	33	15.9	20.6	7.2	2.31	2	124°	III+V	-			H
	-1080	剥片	安山岩	17	27.8	30.8	10.9	10.00	1	122°	I+V	F			
	-1081	剥片	安山岩	16	22.6	7.3	4.4	0.50	1	80°	III+V	F			
	-1082	碎片	黒曜石	1	4.0	8.1	2.4	0.06	-		I+V	S			B
	-1083	剥片	安山岩	33	26.0	30.5	13.8	7.06	1	130°	I+III	S			
44	-1084	石核	安山岩	30	29.3	33.8	32.6	46.25		72~110°					
	-1085	剥片	安山岩	36	11.4	7.2	4.9	0.20	1	92°	I+III	F			L
	-1086	剥片	安山岩	32	21.0	28.0	4.8	2.06	1	100°	I+III	F			
88	-1087	二次加工剥片	碧玉	1	26.5	32.0	9.8	5.80	3	130°	I+II+III	H	62~78°		
	-1088	剥片	安山岩	16	28.3	24.4	11.0	5.39	4	96°	I+III	H			
4 g	-1089	剥片	安山岩	5	21.0	23.8	4.3	2.22	1	100°	I+V	-			H
	-1090	剥片	安山岩	18	18.6	14.6	4.7	1.19	1	106°	I+V	S			
	-1091	剥片	安山岩	33	17.0	14.2	4.2	0.81	L		III+V	F			
63	-1092	石核	黒曜石	3	28.3	49.1	11.0	10.20		61°					
43 b	-1093	剥片	安山岩	30	33.1	25.3	12.3	7.29	1	108°	I+III+V	H			
31 a	-1094	剥片	安山岩	21	33.3	29.4	8.1	7.00	1	92°	I+V	H			L
	-1095	剥片	安山岩	11	14.3	16.8	6.3	1.61	1	106°	I+III	-			H
42 a	-1096	剥片	安山岩	30	35.9	33.0	10.2	11.25	2	124°	I+III+V	H			L
	-1097	剥片	安山岩	17	25.0	17.9	9.2	3.53	-		III+V	S			
	-1098	剥片	安山岩	17	27.8	25.6	9.3	5.56	1	68°	I+III+V	H			
	-1099	剥片	安山岩	17	21.4	12.4	7.2	1.02	1	116°	III+V	S			
	-1100	剥片	安山岩	34	16.8	15.9	5.5	1.17	1	92°	I	S			R
	-1101	剥片	安山岩	9	18.9	32.7	6.1	2.52	L		I+III+V	S			
	-1102	碎片	黒曜石	1	8.4	9.2	1.4	0.07	1	110°	I	H			
	-1103	剥片	安山岩	36	13.9	4.3	3.4	0.18	L		I+V	F			
	-1104	剥片	不明	2	25.8	26.1	6.7	1.45	1	-	III	H			
	-1105	剥片	不明	2	19.1	13.9	7.0	0.60	-		I+III	H			B
	-1106	剥片	安山岩	11	17.7	13.2	3.4	0.65	1	100°	I+V	F			
	-1107	剥片	安山岩	32	23.2	20.4	7.0	2.57	L		I+V	H			
28 b	-1108	剥片	安山岩	19	47.5	25.5	12.9	12.15	1	116°	I+V	F			
43 a	-1109	剥片	安山岩	30	51.6	31.6	8.5	15.19	C	58°	V	F			
57	-1110	台形様石器	黒曜石	1	44.9	27.8	11.0	9.30	-		II+III+V	-	56~68°		+
	-1111	剥片	黒曜石	1	14.6	27.0	10.0	1.53	1	100°	I+III	H			
	-1112	剥片	安山岩	18	16.7	11.8	3.6	0.71	L		I+III+V	S			
	-1113	剥片	安山岩	8	19.9	13.7	7.9	2.33	1	128°	III+V	S			
	-1114	剥片	安山岩	33	16.0	13.8	4.5	0.77	1	116°	III	S			
	-1115	剥片	安山岩	33	16.9	23.6	4.8	1.72	-		I+III	H			B
	-1116	剥片	安山岩	26	9.5	12.1	4.5	0.36	1	112°	I+III	S			
19	-1117	石核	安山岩	16	34.3	41.9	15.5	17.66		74°					
9 b	-1118	石核	安山岩	9	37.1	52.8	13.2	26.66		56°					
	-1119	剥片	チャート	1	15.4	7.5	3.9	0.40	P		I+III+IV	H			
42 b	-1120	剥片	安山岩	30	33.3	27.4	11.9	9.29	2	132°	I+V	F			R
	-1121	剥片	安山岩	16	32.6	14.3	6.8	2.73	1	110°	I+V	H			R
	-1122	碎片	安山岩	36	3.0	7.7	2.8	0.05	-		III	S			B
15 b	-1123	剥片	安山岩	15	39.2	28.0	14.0	13.32	1	136°	I+V	H			
	-1124	剥片	安山岩	17	32.7	6.6	8.3	1.92	C	74°	III+V	S			
	-1125	剥片	安山岩	17	21.3	26.5	5.5	1.77	C	120°	I	H			
15 c	19-O-42-1001	剥片	安山岩	15	34.2	30.4	14.8	14.84	2	124°	I+V	F			
	-1002	剥片	黒曜石	3	15.0	17.1	6.2	1.52	-		III	O			B
	-1003	剥片	安山岩	32	17.2	23.3	5.9	1.55	1	140°	I+III	F			L
	19-O-43-1001	剥片	チャート	1	19.4	18.5	10.4	3.64	-		III+IV	F			B
3 f	-1002	石核	安山岩	4	33.4	61.3	32.5	80.96		82~90°					
	-1003	剥片	チャート	3	12.7	16.8	6.8	1.31	2	110°	I+III+IV	S			
85	-1004	石錐	瑪瑙	4	24.4	17.6	11.0	3.27							
	-1005	剥片	安山岩	32	28.1	22.7	5.8	2.68	-		I+III	F			B
	-1006	剥片	チャート	1	15.5	26.0	4.7	1.23	L		I+III	H			
82	-1007	ナイフ形石器	瑪瑙	1	32.6	10.9	6.3	1.57	-		I+III	-	72~76°		
	-1008	剥片	安山岩	31	31.9	41.3	11.0	13.02	C	146°	V	H			
6 b	-1009	剥片	安山岩	6	27.5	22.6	8.7	3.03	1	128°	III+V	H			
	-1010	剥片	チャート	1	21.3	26.2	10.9	5.81	1	88°	III+IV	S			
6 c	-1011	剥片	安山岩	6	40.4	41.6	10.9	14.01	1	124°	III+V	H			
	-1012	剥片	黒曜石	5	7.4	19.0	3.3	0.56	-		I+III	-			M
	-1013	碎片	チャート	1	8.1	4.2	2.5	0.08	1	102°	I+III	F			

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	46	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
					mm	mm	mm	g		剥離角						
	-1015	礫	安山岩	46	105.7	87.5	62.6	445.00						H		
	-1016	剥片	ホルンフェルス	1	23.4	26.2	7.2	4.14	1	120°	I+III	H				
	-1017	剥片	黒曜石	5	15.1	12.4	2.3	0.36	L		I+III	S				
	-1018	剥片	黒曜石	4	9.9	9.0	2.5	0.17	-		I	S			B	
	-1019	剥片	安山岩	18	14.7	11.4	4.4	0.69	1	116°	I+III	S				
7c	19-O-44-1001	剥片	安山岩	7	32.1	45.1	22.0	21.96	1	94°	I+III+V	H				
	-1002	碎片	チャート	3	8.9	8.4	1.9	0.10	L		I	H				
	19-O-44-1003	剥片	チャート	2	10.9	9.9	3.1	0.19	L		I+III	F				
	-1004	礫	安山岩	41	33.5	27.1	19.5	23.20								
	-1005	剥片	頁岩	1	69.8	56.6	19.3	65.18	2	138°	III+V	S				
	-1006	剥片	ホルンフェルス	1	14.2	10.4	4.3	0.44	1	104°	III	F				
	-1007	剥片	安山岩	33	15.1	25.3	6.3	2.11	-		I	H			B	
	-1008	剥片	安山岩	32	17.0	30.7	7.7	3.23	1	124°	III	S				
	-1009	剥片	ホルンフェルス	1	13.6	21.8	3.9	1.19	1	116°	I+III	F				
	-1010	剥片	珪質頁岩A	3	28.1	33.0	15.2	12.68	1	130°	I+III+IV	-			H	
6k	-1011	剥片	安山岩	6	34.5	37.6	11.9	12.63	1	130°	III+V	S				
	-1012	剥片	チャート	1	7.6	18.9	5.2	0.53	-		I	S				
90	-1013	石核	不明	2	34.0	43.3	20.0	8.98		70°						
7b	-1014	剥片	安山岩	7	36.0	42.2	13.9	24.23	-		III+V	F			B	
6h	-1015	剥片	安山岩	6	28.7	33.5	7.9	6.96	1	106°	I+V	S				
7d	-1016	剥片	安山岩	7	29.6	44.1	17.7	27.36	-		III+V	O			B	
	-1017	剥片	チャート	3	14.0	13.3	4.3	0.64	1	94°	I+IV	H				
6n	-1018	剥片	安山岩	6	33.1	48.7	13.8	17.89	1	114°	I+III+V	H				
	-1019	碎片	黒曜石	5	5.0	5.1	1.6	0.03	L		I+III	H				
	-1020	礫	安山岩	44	39.0	28.6	22.2	19.62						H		
	-1021	剥片	チャート	16	11.9	10.6	2.5	0.25	1	84°	I+III	S			L	
	-1022	剥片	チャート	1	20.2	21.1	9.2	2.24	2	96°	I+III	S				
	-1023	剥片	ホルンフェルス	1	11.4	28.5	5.7	1.95	-		I+II	H			B	
	-1024	剥片	黒曜石	5	8.8	10.1	2.5	0.13	-		I+II	S				
	-1025	剥片	黒曜石	3	23.3	18.9	5.2	0.95	1	88°	I+III+V	H			L	
	-1026	剥片	チャート	1	9.4	11.4	4.8	0.37	-		III+IV	F			B	
	-1027	剥片	黒曜石	5	7.3	11.8	2.9	0.16	1	124°	I	S				
	-1028	剥片	チャート	3	8.8	15.6	5.4	0.57	-		I	H			B	
	-1029	剥片	安山岩	33	8.8	16.0	3.7	0.43	-		I	F			B	
	-1030	剥片	黒曜石	3	16.6	13.3	4.3	0.62	1	94°	I+III+V	H				
3a	-1031	剥片	安山岩	4	25.4	25.9	6.0	3.79	C	132°	III+V	H				
	-1032	剥片	安山岩	6	19.5	19.3	4.4	1.35	1	118°	I+III+V	F				
	-1033	剥片	黒曜石	3	17.2	22.8	5.0	1.38	2	116°	I+V	H				
	-1034	剥片	チャート	3	13.3	20.7	3.9	0.59	1	122°	I+IV	O				
74	-1035	二次加工剥片	チャート	1	32.4	31.6	8.8	8.80	1	130°	I+III+IV	S	92~102°			
	-1036	剥片	安山岩	33	21.0	28.0	3.2	1.78	1	72°	I+III	S				
	-1037	剥片	安山岩	17	10.9	14.6	2.5	0.32	1	126°	I+III+V	H				
	-1038	剥片	安山岩	32	9.4	21.8	27.8	2.61	2	120°	III+V	H				
	-1039	剥片	チャート	1	14.2	23.9	4.1	1.60	-		I	S			B	
47a	-1040	剥片	安山岩	32	28.8	18.9	7.5	2.56	2	104°	I+III	F				
7a	-1041	剥片	安山岩	7	28.4	40.3	12.1	13.77	1	126°	III+V	S			H	
	-1042	剥片	碧玉	2	63.1	51.4	13.5	45.29	2	134°	I+V	H				
	-1043	碎片	チャート	2	8.3	9.3	2.7	0.21	3	100°	II+III	-			H	
	-1044	剥片	安山岩	33	18.9	23.2	6.0	1.84	1	102°	I+III	F				
	-1045	剥片	安山岩	32	18.9	10.3	7.4	1.24	1	116°	I+III	H				
	-1046A	剥片	チャート	3	8.2	11.2	2.7	0.17	C	98°	I+III	S				
	-1046B	碎片	チャート	8	6.8	7.0	1.6	0.07	1	102°	I+III	H				
21b	-1047	剥片	安山岩	17	48.3	25.2	16.0	20.77	C	120°	III+V	O			R	
	-1048	礫	安山岩	39	24.6	19.2	15.1	6.32						H		
	-1049	礫	安山岩	39	51.9	38.8	34.4	76.92						H		
	-1050	礫	安山岩	43	43.5	25.9	20.2	14.90						H		
	-1051	剥片	安山岩	33	29.7	25.6	11.0	7.52	3	106°	I+III+V	F				
50	-1052	ナイフ形石器	安山岩	33	22.7	16.8	5.8	1.96	L		III+V	-	76~92°			+
	-1053	剥片	安山岩	16	36.9	33.8	11.0	9.05	C	130°	I+III+V	H				
	-1054	剥片	安山岩	16	10.4	19.6	4.1	0.54	2	92°	I	F				
6i	-1055	剥片	安山岩	6	25.7	19.5	4.4	1.70	L		III+V	H				
	-1056	礫	安山岩	37	18.2	17.8	10.5	2.48						H		
	-1057	剥片	不明	2	8.4	10.4	4.0	0.13	1	104°	I+III	H				
	-1058	剥片	安山岩	6	23.6	14.2	3.4	0.68	L		V	F				
	-1059	剥片	安山岩	17	14.4	24.4	12.0	2.55	2	106°	I+III	H				
	-1060	剥片	安山岩	6	25.4	28.0	6.2	3.98	-		V	F				
	-1061	礫	安山岩	39	48.1	43.1	32.4	53.70						H		
	-1062	礫	砂岩	2	44.2	31.7	20.4	22.78						H		
	-1063	礫	砂岩	2	39.3	32.5	30.1	24.05						H		
48a	-1064	剥片	安山岩	32	15.5	30.1	4.0	1.47	-		III	H			B	
	-1065	礫	安山岩	37	36.5	35.4	30.4	34.04						H		
47b	-1066	剥片	安山岩	32	18.0	16.9	7.5	1.31	1	82°	III	F			L	
	-1067	礫	安山岩	37	50.3	37.9	33.4	43.94						H		
53b	-1068	剥片	安山岩	33	24.6	19.7	7.6	3.09	C	122°	I	H			R	
6e	-1069A	剥片	安山岩	6	21.3	33.4	8.4	2.75	L		III+V	O				
	-1069B	剥片	安山岩	17	23.3	19.2	6.3	3.57	C	102°	I+V	H				

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号		最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
					mm	mm	mm	g		剥離角						
	-1070	礫	安山岩	43	44.0	32.2	31.5	34.05						H		
21 a	-1071	剥片	安山岩	17	31.7	29.8	15.1	11.09	1(1)	130°	V	S				
	-1072	礫	安山岩	43	15.3	9.0	6.9	0.90						H		
	-1073	剥片	安山岩	16	22.0	20.2	7.1	2.33	1	122°	I+V	H				
	-1074	剥片	黒曜石	5	14.4	13.4	6.7	0.70	-		I+III	S			B	
	-1075	剥片	不明	2	17.7	11.4	4.1	0.32	-		I+III	H			B	
	-1076	剥片	安山岩	32	13.2	20.0	5.4	1.12	-		III	H			B	
	-1077	剥片	黒曜石	5	10.4	9.4	2.0	0.13	2	104°	I	S				
	-1078	剥片	安山岩	19	33.4	34.9	11.7	8.83	C	92°	I+III+V	H				
19-O-44-1079	-1079	剥片	黒曜石	2	14.4	11.2	2.2	0.21	1	56°	I+III	H				
	-1080	剥片	黒曜石	5	11.6	4.4	3.0	0.10	L		I+II	S				
27 a	-1081	剥片	珪質頁岩A	1	23.4	32.7	7.4	4.02	7(3)	126°	I+III+V	S				
	-1082	剥片	安山岩	19	27.6	10.7	6.2	1.41	C	130°	I+III	H				
	-1083	礫	安山岩	45	28.7	25.1	12.5	7.49						H		
	-1084	剥片	チャート	1	13.5	5.7	6.4	0.39	P		II+III	O				
	-1085	剥片	チャート	2	16.3	6.2	10.4	1.01	1	78°	I+III	F				
	-1086	剥片	安山岩	33	10.5	12.2	2.9	0.38	L		I+V	F				
	-1087	剥片	安山岩	33	19.4	24.0	8.5	3.26	1	92°	III	S				
	-1088	礫	安山岩	37	74.5	48.6	36.6	105.94						H		
72	-1089	剥片	頁岩	2	32.0	57.6	16.9	20.57	-		I+III+IV	H			B	
6 d	-1090	剥片	安山岩	6	35.9	37.7	12.9	15.55	2	134°	I+V	S				
	-1091	剥片	チャート	6	17.8	7.3	3.0	0.37	L		I+III	H				
	-1092	剥片	安山岩	25	14.7	27.4	3.0	0.66	1	120°	I+III+V	F				
89 b	-1093	剥片	碧玉	2	19.1	21.7	4.8	1.31	2	118°	I	H				
89 a	-1094	剥片	碧玉	2	46.8	51.5	19.9	39.90	4(2)	112°	I+II+V	F				
89 c	-1095	剥片	碧玉	2	43.9	33.0	12.7	14.34	1	122°	I+III+V	H				
18	-1096	二次加工剥片	安山岩	16	28.3	28.3	8.5	6.11	2	124°	III+V	H	92~100°			
5	-1097	二次加工剥片	安山岩	6	17.0	40.0	7.8	4.19	1	104°	I+III	-	50~70°		H	
52 b	-1098	剥片	安山岩	33	16.3	11.5	4.2	0.79	1	132°	I+V	H			R	
	-1099	剥片	黒曜石	3	5.6	12.0	5.5	0.24	3(1)	92°	I+III+V	H				
	-1100	碎片	安山岩	36	9.4	6.9	1.9	0.10	1	88°	I+III+V	F				
	-1101	礫	安山岩	43	11.2	8.6	7.8	0.49						H		
	-1102	碎片	安山岩	6	9.9	9.6	2.9	0.23	C	100°	V	S				
	-1103	碎片	安山岩	17	5.4	7.7	2.1	0.09	1	96°	III	-			H	
	-1104A	碎片	黒曜石	4	8.0	9.9	1.7	0.09	-		I+III	H			B	
	-1104B	碎片	黒曜石	4	5.2	7.9	1.4	0.02	L		III	O				
	-1105	剥片	安山岩	33	19.7	20.6	4.2	1.68	1	106°	I+III+V	H			L	
65	-1106	石核	黒曜石	4	30.9	17.5	14.5	7.88		90°						
	-1107	碎片	黒曜石	3	10.0	8.0	4.1	0.20	C	122°	I+III	S				
6 m	-1108	剥片	安山岩	6	47.7	60.1	19.8	37.05	1	132°	I+III+V	O				
3 e	-1109	剥片	安山岩	4	34.7	23.8	11.0	8.28	1	106°	I+III+V	F			R	
	-1110	碎片	黒曜石	2	8.4	5.4	2.1	0.06	L		I	H				
3 b	-1111	剥片	安山岩	4	49.8	40.3	14.7	28.26	1	126°	V	H				
6 j	-1112	剥片	安山岩	6	53.1	54.0	18.4	54.46	1	122°	I+III+V	F				
6 a	-1113	剥片	安山岩	6	50.7	47.7	14.5	32.64	1	116°	I+V	H				
	-1114	剥片	黒曜石	5	8.2	17.8	5.3	0.48	1	122°	I+III	H				
	-1115	剥片	安山岩	32	31.6	30.1	10.5	4.56	1	92°	I+III	H				
	-1116	剥片	チャート	1	17.3	23.6	10.5	3.65	2	106°	I+III+IV	H				
	-1117	礫	砂岩	1	13.2	9.7	5.1	0.64						H		
	-1118	剥片	安山岩	36	8.1	13.6	3.3	0.25	1	118°	III	H				
48 b	-1119	剥片	安山岩	32	16.5	25.9	4.0	0.95	1	118°	I+III	S				
91	-1120	砥石(台石)	安山岩	38	84.0	51.8	36.1	165.62						H		
6 g	-1121	剥片	安山岩	6	27.1	39.7	12.8	8.07	1	118°	III+V	S				
92	-1122	砥石(台石)	安山岩	38	51.9	48.5	39.7	99.35						H		
	-1123	礫	安山岩	44	41.8	27.2	23.1	21.38						H		
93	-1124	砥石(台石)	安山岩	40	68.3	56.8	47.3	222.53						H		
	-1125	碎片	チャート	3	9.7	8.2	2.1	0.11	P		I+III	H				
	-1126	剥片	黒曜石	2	10.0	11.6	1.5	0.10	L		I	H				
	-1127	碎片	チャート	3	6.9	9.0	2.2	0.13	3	92°	I+III	F				
	-1128	礫	安山岩	37	40.4	28.2	27.4	29.30						H		
6 l	-1129	剥片	安山岩	6	44.3	42.2	17.1	21.89	1	98°	I+V	H				
7 e	-1130	石核	安山岩	7	37.8	52.0	15.5	26.58		70°						
6 f	-1131	ナイフ形石器	安山岩	6	36.3	16.0	16.7	8.70	-		III+V	-	72~80°			
	-1132	剥片	安山岩	32	26.3	23.9	5.1	1.87	1	110°	III	H				
	-1133	礫	安山岩	37	15.4	12.3	8.7	1.45						H		
	-1134	剥片	安山岩	17	16.9	14.6	4.0	0.58	C	106°	III	F				
45	-1136	ナイフ形石器	安山岩	32	22.2	16.8	7.1	3.08	-		I	-	88~90°			+
	-1137	剥片	安山岩	17	11.5	18.2	3.4	0.53	1	118°	I+III	H				
	-1138	剥片	不明	2	46.5	39.5	23.3	19.02	1	130°	I+III+V	O				
	-1139	剥片	チャート	2	17.6	24.0	5.5	1.57	1	118°	I	H				
	-1140	剥片	安山岩	32	24.4	19.8	6.8	2.84	1	122°	I+III	S				
	-1141	剥片	黒曜石	5	12.6	8.8	3.4	0.26	1	100°	I+III	H				
	-1142	剥片	黒曜石	3	14.7	16.3	5.6	0.92	8(4)	100°	I+III	H				
	-1143A	剥片	チャート	2	8.2	10.9	2.8	0.25	3	96°	I+III	H				
	-1143B	剥片	チャート	2	10.6	5.0	2.6	0.06	-		III	H				
	-1144	剥片	安山岩	32	9.3	20.1	3.8	0.87	-		I+III	-				M



挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打面	打角 剥離角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
10 a	-1145	削器	安山岩	10	46.1	31.8	11.5	15.29	1	110°	I+III+V	-	62~80°		H
	-1146	剥片	黒曜石	3	14.7	20.9	3.2	0.71	-		I+V	S			B
	-1148	碎片	黒曜石	5	7.6	3.5	2.4	0.04	-		I+III	H			B
	-1149	剥片	黒曜石	3	13.3	8.0	2.8	0.16	L		I	S			L
	-1150	碎片	黒曜石	3	8.6	7.5	2.1	0.09	-		III+V	H			B
	-1151	剥片	安山岩	36	11.5	7.9	3.6	0.19	1	102°	I+V	F			L
	-1152	剥片	安山岩	6	15.4	13.7	2.7	0.34	1	104°	III	O			
	-1153	碎片	安山岩	36	7.3	7.8	1.5	0.07	L		I+III	S			
	-1154	礫	砂岩	1	51.9	26.9	15.3	25.27						H	
3 c	-1155	礫	安山岩	4	25.9	20.3	10.2	3.44	1	112°	I+III	S			
	-1156	剥片	安山岩	36	10.1	8.4	2.3	0.15	1	116°	I+III	F			
	19-O-44-1157	剥片	安山岩	36	11.1	9.6	2.8	0.23	1	126°	I+III	H			
	-1158	剥片	安山岩	27	7.4	13.7	6.0	0.40	1	106°	I+III	S			
	-1159	剥片	不明	2	9.7	13.9	3.6	0.26	1	96°	I	S			
	-1160	礫	砂岩	1	49.3	32.5	24.0	30.66						H	
	-1161	礫	安山岩	43	19.4	9.4	6.8	1.25							
	-1162	剥片	安山岩	32	17.7	14.3	6.3	1.58	C	118°	I+III	S			
	-1163	碎片	黒曜石	2	7.1	6.8	1.2	0.04	L		III	F			
	-1164A	礫	安山岩	43	6.3	6.2	4.8	0.14							
	-1164B	碎片	チャート	1	4.6	3.1	2.2	0.04							
	-1165	剥片	黒曜石	3	3.1	7.4	2.0	0.03	2	84°	I+III	F			
	-1166	剥片	ホルンフェルス	1	11.1	12.6	1.8	0.23	L		I	S			
6 o	-1167	石核	安山岩	6	40.3	76.3	21.7	39.82		66~82°					
	-1168	碎片	黒曜石	2	3.8	6.7	1.3	0.01	1	-	I	H			
3 d	-1169	剥片	安山岩	4	23.5	17.9	8.4	2.07	1	106°	II+III	F			L
52 a	-1170	剥片	安山岩	33	16.0	9.2	3.7	0.36	1	132°	I	H			L
	-1171	剥片	安山岩	17	11.9	16.6	4.1	0.62	1	116°	I+III	H			
	-1172	剥片	安山岩	17	6.9	6.0	1.8	0.07	-		I	F			B
	-1173A	碎片	黒曜石	1	6.0	8.2	1.5	0.06	L		I	H			
	-1173B	碎片	黒曜石	3	6.3	6.9	1.2	0.05	L		III	H			
	-1173C	碎片	黒曜石	3	2.9	7.6	2.9	0.04	-		I+III	F			
	-1174	剥片	安山岩	36	8.2	14.3	1.7	0.16	1	120°	V	F			
	-1175A	碎片	黒曜石	3	6.6	6.8	1.4	0.04	P		I+III	H			
	-1175B	碎片	玉髄	1	3.7	3.0	2.7	0.02							
	-1176A	礫	安山岩	37	40.1	26.8	20.1	19.88						H	
	-1176B	剥片	安山岩	24	7.2	11.4	1.8	0.14	L		I+III	H			
	-1178	剥片	安山岩	36	14.2	16.5	3.9	0.60	-		I	F			B
	-1179	剥片	安山岩	24	8.2	9.3	2.0	0.13	L		I+III	H			
	-1180	剥片	黒曜石	5	7.7	8.0	5.0	0.17	L		I	S			
	-1181	剥片	黒曜石	5	10.4	17.2	6.2	0.81	1	118°	I+III	O			L
	19-O-45-1001	礫	凝灰岩	2	47.4	44.8	31.2	59.20							
	-1002	礫	凝灰岩	2	46.7	39.3	25.2	56.70							
	-1003	礫	安山岩	44	42.6	30.1	23.5	23.18						H	
	-1004	剥片	珪質頁岩A	1	33.6	33.5	11.1	8.00	C	126°	I+V	H			
	-1005	礫	安山岩	37	23.8	21.0	16.2	8.37						H	
67	-1006	二次加工剥片	黒曜石	5	23.9	32.1	9.9	4.74	1	134°	II+III	-	70~74°		
24 b	19-O-50-1001	剥片	安山岩	18	25.6	23.1	8.2	4.00	2	74°	I+II+III+V	H			
20 a	-1002	剥片	安山岩	17	43.5	21.1	8.9	6.84	1	126°	I+V	H			
37 b	-1003	石核	安山岩	27	17.2	50.6	29.0	20.84		64~82°					
	-1005A	剥片	黒曜石	5	19.8	22.7	5.4	1.57	L		I+V	S			
	-1005B	剥片	チャート	1	19.0	18.9	6.2	1.96	3	118°	III	H			
	-1005C	剥片	チャート	1	16.4	15.0	6.4	1.35	2	104°	III+IV	O			
	-1005D	剥片	粘板岩	2	10.4	13.8	2.0	0.44	-		I	S			B
	-1005E	剥片	チャート	1	12.5	10.2	3.5	0.31	-		I+III	S			B
24 a	-1006	剥片	安山岩	18	19.3	20.5	6.4	2.62	-		I+III+V	H			B
24 c	-1007	石核	安山岩	18	32.1	44.8	23.4	36.06		74~110°					
	19-O-51-1001	剥片	安山岩	26	20.4	16.0	7.4	2.14	L		I+V	F			R
	-1002	剥片	安山岩	26	32.2	34.8	11.1	9.47	-		I+V	S			B
	-1003	剥片	安山岩	18	21.5	11.3	3.3	0.56	1	108°	III	S			R
	-1004	剥片	安山岩	24	30.3	27.3	10.4	7.33	1	124°	I+III+V	H			
	-1005	剥片	黒曜石	1	18.4	21.7	6.1	1.38	-		I+III	-			M
	-1006	剥片	安山岩	22	31.4	23.0	8.1	3.70	1	106°	I+III+V	F			
	-1007	剥片	安山岩	22	27.6	28.8	8.3	4.36	1	122°	I+III+V	F			
	-1008	剥片	安山岩	24	41.3	30.1	10.6	6.87	1	98°	I+III+V	H			
	-1009	剥片	安山岩	24	23.0	19.0	7.3	3.21	1	126°	I+III	S			
	-1010	剥片	安山岩	26	38.0	25.2	10.2	7.00	1	110°	V	F			
32	-1011	石核	安山岩	22	37.4	37.4	24.2	34.12		94°					
	-1012	剥片	安山岩	18	21.9	16.5	7.3	2.52	2	122°	I+III	S			
	-1013	剥片	安山岩	26	25.9	18.8	3.9	1.43	1	120°	I+III+V	F			
	-1014	剥片	安山岩	26	19.0	22.3	7.3	2.17	1	98°	I+III+V	O			
	-1015	剥片	安山岩	26	22.3	44.1	9.1	5.55	1	110°	I+V	F			
	-1016	剥片	安山岩	26	14.8	20.9	3.1	0.89	L		I+V	H			
	-1017	剥片	安山岩	22	9.8	17.5	4.5	0.61	-		I+III+V	S			B
37 a	-1018	剥片	安山岩	27	19.3	24.5	8.7	3.54	1	120°	I+V	F			
	19-O-53-1001	碎片	黒曜石	5	7.3	6.2	2.8	0.11	-		II+III	H			B
	19-O-54-1001	剥片	チャート	2	11.3	7.8	3.2	0.13	L		III+IV	F			

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剝離角						
22	-1002	石核	安山岩	17	42.4	66.5	19.7	44.25	62°						
80	-1003	剥片	チャート	4	21.4	30.2	5.6	2.98	102°	II+III	H		N		
71 a	-1004	剥片	黒曜石	5	35.4	40.8	13.6	14.22	-	I+II+III	H			B	
51	-1005	削器	安山岩	33	42.1	51.5	17.8	35.83	1	124°	I+III+V	S	72~78°		
49 a	-1006 -1018	二次加工剥片	安山岩	33	36.7	30.2	16.9	15.28	C	120°	III+V	F	66~78°	S	+
	-1007	剥片	安山岩	25	24.1	25.7	5.8	3.50	1	116°	I+V	-			H
36 a	-1008	剥片	安山岩	25	41.1	38.1	16.2	21.67	2(1)	92°	III+V	H			
49 d	-1009	剥片	安山岩	33	42.2	35.8	15.0	27.04	1	128°	II+III+V	F			R
	-1010	剥片	安山岩	33	24.9	15.1	10.5	4.28	C	104°	I+III+V	H			R
	-1011	剥片	安山岩	35	47.5	33.9	6.1	8.99	C	72°	V	H			
	-1012	剥片	安山岩	33	31.0	30.6	7.8	5.81	C	98°	I+III	H			
49 e	-1013	剥片	安山岩	33	18.3	34.6	8.7	4.08	-	V	F				L
	19-O-54-1014	剥片	安山岩	33	38.9	26.0	8.7	6.36	2	100°	I+II+III+V	F			
	-1015	剥片	安山岩	33	33.6	31.0	11.5	7.63	C	92°	I+III+V	H			
	-1016	碎片	頁岩	6	5.8	7.0	0.9	0.03	-	I	H				
	-1017	剥片	安山岩	17	15.8	14.2	1.8	0.33	L		I	F			
79	-1019	石核	チャート	4	19.2	42.5	28.3	12.42		64°					
33	-1020	削器	安山岩	23	34.0	43.1	14.7	27.12	1(1)	112°	V	-	72~88°		
	-1025 A	剥片	チャート	1	11.5	6.6	5.1	0.24	P		I+IV	O			
	-1025 B	剥片	チャート	1	9.4	5.2	2.2	0.06	1	94°	III	F			
	-1026	剥片	安山岩	33	19.3	21.1	8.0	2.87	-		I+III+V	H			B
23	-1027	石核	安山岩	17	43.9	60.4	18.4	41.45		60~70°					
53 a	-1028	剥片	安山岩	33	26.4	21.2	8.1	4.65	-		I+III+V	H			L
	-1029	礫	安山岩	44	32.8	31.0	22.2	22.19						H	
	-1030	剥片	安山岩	36	8.5	12.4	2.3	0.25	1	88°	III	F			
10 b	-1031	石核	安山岩	10	22.8	66.3	41.7	87.64		64~78°					
	-1032	剥片	安山岩	33	16.3	11.8	5.7	1.19	2	98°	I+II+III	H			R
	-1033	剥片	安山岩	33	19.7	18.4	12.6	3.47	C	78°	I+III	F			R
	-1034	剥片	安山岩	30	23.9	32.3	4.3	3.40	-		I+V	F			B
49 b	-1035	剥片	安山岩	33	37.9	22.9	9.7	7.43	L		I+V	H			L
	-1036	礫	安山岩	42	36.9	31.8	25.9	42.00						H	
49 c	-1037	剥片	安山岩	33	37.5	31.4	9.8	9.07	1	102°	I+III+V	H			R
13	-1038	ナイフ形石器	安山岩	13	43.0	13.7	10.1	5.76	-		II+III	-	68~80°		
	-1039	剥片	安山岩	32	17.4	8.9	7.8	1.06	C	108°	III	S			L
	-1049	剥片	チャート	11	22.0	7.4	2.5	0.30	L		I+III	S			
	19-O-55-1001	剥片	安山岩	17	8.4	16.9	4.9	0.48	-		I+III	H			B
	-1002	礫	安山岩	45	35.4	29.2	19.9	14.18						H	
	-1003	剥片	安山岩	17	48.6	16.0	7.7	5.92	1	104°	I+V	F			
	-1004	剥片	安山岩	26	20.0	13.9	4.6	0.84	C	88°	III	F			L
	-1005	礫	凝灰岩	3	66.1	40.7	24.8	99.74							
73	-1006	石核	珪質頁岩A	2	52.9	60.2	37.3	120.40		46~72°				S	
	19-O-63-1001A	剥片	チャート	1	15.0	12.4	4.3	0.50	-		I+III	S			B
	-1001 B	剥片	チャート	1	11.6	10.2	6.5	0.62	-		III	S			B
	-1003	剥片	チャート	3	16.6	7.6	5.0	0.45	3	116°	I+III	F			
	-1004	碎片	黒曜石	4	8.1	7.9	2.0	0.14	1	108°	I	H			
83	19-O-64-1001	剥片	瑪瑙	2	48.1	19.2	9.3	7.12	1	112°	I+V	S			
	-1005	碎片	チャート	1	6.0	9.9	2.7	0.17	1	94°	I+III	S			

第23表 第25~29地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剝離角						
113	17-P-24-1002A	石核	安山岩	50	45.2	33.5	26.2	43.52	102°						
	-1002B	礫	石英斑岩	2	37.5	33.5	19.1	21.51						H	
110	-1003	石核	チャート	17	40.1	37.2	21.1	29.76		88°					
	-1004	剥片	安山岩	67	30.5	22.8	4.5	1.66	C	98°	I+III	H			
108 c	17-P-25-1001	剥片	安山岩	59	22.7	19.9	4.9	1.84	1	114°	I+V	H			
108 a	-1002	剥片	安山岩	59	18.4	22.1	6.3	2.85	2	104°	III+V	-			H
111	-1003	石核	安山岩	71	40.2	24.6	17.2	11.91		66°					
	-1004	剥片	碧玉	3	40.1	39.5	8.0	7.08	3	70°	I+II+III	H			
114	-1005	敲石	安山岩	51	58.5	43.3	28.8	86.21						S	
	-1006	剥片	安山岩	70	21.4	35.4	6.7	3.97	-		III+V	S			B
108 b	-1007	剥片	安山岩	59	22.5	29.6	5.5	3.67	1	112°	I+V	O			
	-1008	剥片	安山岩	57	37.9	35.9	7.0	8.94	C	78°	V	H			
	-1009	礫	石英斑岩	2	35.9	22.3	10.6	8.90						H	
	-1010	剥片	瑪瑙	5	18.2	21.6	4.9	1.10	5(2)	100°	I+III	H			
	-1011	剥片	安山岩	63	47.9	23.3	6.2	4.62	2	90°	I+V	F			
96	-1012	二次加工剥片	碧玉	3	14.0	10.0	2.5	0.35	-		I	-	46~78°		M
94	-1013	二次加工剥片	珪質頁岩A	4	23.7	17.9	8.3	1.75	-		I+III	O	64~94°		B
	-1014	剥片	安山岩	59	20.0	17.3	4.2	1.51	1	94°	I+III+V	-			H
101	-1015	剥片	玉髓	4	26.2	16.8	9.3	2.80	2	100°	I+III	H			
106	-1016	剥片	安山岩	52	25.1	33.2	9.9	5.96	10(6)	98°	I+III	-			
	17-P-26-1001	剥片	安山岩	49	47.5	31.1	12.9	22.51	C	80°	III+V	H			
	-1002	礫	砂岩	4	40.6	35.9	26.5	37.88							
	-1003	剥片	安山岩	64	28.5	19.7	3.6	1.96	-		I+III	-			M

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剝離角						
107	-1004	剥片	安山岩	68	35.7	23.4	6.1	3.23	3	76°	Ⅲ+Ⅴ	H			
	-1005	礫	砂岩	5	29.1	27.0	19.3	10.97							
	17-P-34-1001	剥片	安山岩	59	22.9	19.0	8.3	2.20	2	100°	I+Ⅲ	H			
104	-1002	剥片	安山岩	63	37.2	12.2	7.0	2.87	-		I+Ⅲ	F			B
	-1003	剥片	安山岩	52	54.8	49.0	14.8	39.27	1	112°	I+Ⅴ	H			
109 a	-1004	剥片	安山岩	52	25.4	18.3	6.2	2.36	2	114°	Ⅲ+Ⅴ	H			R
109 b	-1005	剥片	安山岩	52	29.6	29.3	5.3	3.63	1	106°	I+Ⅲ+Ⅴ	H			L
	-1006	剥片	安山岩	68	27.9	13.9	5.8	1.64	4(2)	90°	I+Ⅴ	F			
93	17-P-35-1001	削器	安山岩	47	54.9	14.2	16.6	12.23	2	118°	Ⅱ+Ⅲ+Ⅴ	H	54~72°		
	-1002	剥片	安山岩	59	22.4	17.1	5.8	1.60	-		I+Ⅴ	-			M
	-1003	剥片	安山岩	56	46.6	26.0	7.1	8.51	C	-	Ⅴ	H			
	-1004	剥片	安山岩	57	56.9	36.8	11.3	18.76	2(1)	104°	I+Ⅲ+Ⅴ	F			
112	-1005	石核	安山岩	53	43.9	34.9	25.2	50.32		120°					
	17-P-36-1001	剥片	安山岩	69	19.2	25.2	7.7	3.36	2	110°	I+Ⅲ+Ⅴ	H			
	-1002	礫	ホルンフェルス	2	30.7	17.8	16.3	9.18							
105	17-P-37-1001	剥片	安山岩	68	24.2	30.5	7.5	5.79	1	112°	I+Ⅲ+Ⅴ	H			
	-1002	剥片	安山岩	66	29.9	24.7	17.3	10.94	1	-	I+Ⅲ+Ⅴ	H			R
100	17-P-44-1002	剥片	安山岩	68	28.6	28.5	9.4	6.61	1	90°	I+Ⅲ	H			
91	-1003	ナイフ形石器	珪質頁岩A	4	27.2	11.6	4.9	1.39	-		I+Ⅱ+Ⅲ		72~94°	N	+
	-1004	剥片	安山岩	65	39.4	29.1	5.6	6.83	C	-	Ⅴ	H			
	-1005	剥片	安山岩	68	10.7	16.1	2.9	0.35	1	98°	Ⅲ	S			
	-1006	剥片	安山岩	54	37.2	29.2	8.5	5.93	2	114°	I+Ⅴ	H			
	-1007	剥片	安山岩	60	40.4	32.8	11.9	13.36	1	102°	I+Ⅴ	H			
	-1008	剥片	安山岩	68	28.6	15.1	9.7	2.57	P		I+Ⅱ+Ⅲ	H			
	-1009	剥片	安山岩	62	19.6	24.6	4.8	2.10	1	74°	Ⅴ	H			
	-1010	剥片	安山岩	48	37.0	22.2	9.2	8.73	C	-	Ⅲ+Ⅴ	H			
	-1011	剥片	安山岩	52	11.9	19.2	5.3	0.96	-		Ⅲ+Ⅴ	-			M
	-1012	剥片	安山岩	64	20.0	23.7	6.5	2.75	2	100°	I+Ⅲ+Ⅴ	H			
99	-1013	剥片	安山岩	47	62.3	36.9	17.5	21.04	1	108°	Ⅱ+Ⅲ+Ⅴ	H			
92 a	-1014	ナイフ形石器	安山岩	55	32.7	19.9	5.9	3.55	-		I+Ⅴ	F	94~104°		
103	17-P-45-1001	剥片	硬質頁岩	1	24.0	25.7	7.4	3.00	1	92°	I+Ⅲ	H		N	
92 b	-1002	石核	安山岩	55	29.9	27.4	35.9	43.41		82~114°					
	-1003	剥片	安山岩	58	40.0	42.0	19.6	24.08	1	114°	I+Ⅴ	H			
	17-P-46-1002	剥片	硬質頁岩	2	11.6	21.3	5.0	0.57	P		Ⅱ+Ⅲ	S			
	-1003	剥片	珪質頁岩B	1	16.1	29.0	7.5	2.71	3	114°	I+Ⅲ	H			
	-1004	剥片	硬質頁岩	2	11.4	14.4	3.7	0.29	3	126°	I+Ⅲ	H			
95	-1005	二次加工剥片	硬質頁岩	3	17.2	15.3	4.0	0.91	2	114°	I+Ⅱ+Ⅲ	H	58~76°		
98	-1006	楔形石器	瑪瑙	6	20.0	25.9	11.5	6.23							
	17-P-47-1001	剥片	珪質頁岩B	2	20.7	13.9	7.5	1.93	1	124°	Ⅱ+Ⅲ+Ⅴ	H			R
	-1002	剥片	安山岩	61	35.4	33.3	9.3	12.10	C	-	Ⅲ+Ⅴ	S			
	17-P-56-1001	剥片	珪質頁岩B	3	20.3	17.8	6.9	2.42	-		Ⅲ	F			B
97	17-P-57-1001	二次加工剥片	黒曜石	2	14.1	23.0	5.4	1.11	1	102°	I+Ⅲ	H	72°		
102	-1002	剥片	碧玉	4	23.3	23.5	6.3	0.90	-		Ⅱ+Ⅲ	H			B
	-1003	剥片	黒曜石	2	10.6	16.1	3.2	0.24	L		I+Ⅲ	H			
	-1004	剥片	黒曜石	2	6.0	12.6	1.8	0.08	1	104°	I+Ⅲ	H			
	-1005	剥片	黒曜石	2	10.9	12.2	1.9	0.17	1	120°	I+Ⅲ	H			

第24表 第30地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剝離角						
	20P-53-2	剥片	安山岩	73	23.9	29.5	9.5	5.52	3	130°	I+Ⅱ+Ⅲ	H			
	- 3	剥片	砂岩	6	57.7	62.4	13.6	38.03	C	122°	I+Ⅴ	H			
	- 4	剥片	頁岩	7	33.6	18.7	8.4	5.09	P		I+Ⅱ+Ⅲ	S			
	- 5	剥片	安山岩	75	35.1	36.8	13.1	15.79	5	132°	Ⅲ+Ⅴ	H			
	- 6	剥片	安山岩	77	11.1	20.3	5.3	1.06	1	74°	I+Ⅲ+Ⅴ	S			
	20P-54-2	剥片	安山岩	77	21.5	13.4	3.5	0.97	1	92°	I+Ⅴ	H			
	- 3	剥片	安山岩	73	33.1	46.3	19.1	32.48	C	78°	Ⅲ+Ⅴ	O			
	- 4	剥片	安山岩	74	32.2	25.7	14.2	9.89	4	134°	I+Ⅴ	F			
	- 5	剥片	安山岩	77	15.5	16.3	4.3	0.68	1	88°	Ⅲ	H			
	- 6	剥片	安山岩	77	25.2	18.9	8.3	2.95	1	122°	Ⅲ+Ⅴ	H			R
127	- 7	石核	安山岩	77	22.0	19.9	7.7	2.88		72°					
	- 8	剥片	安山岩	77	29.3	14.9	8.0	2.48	1	102°	I+Ⅲ	H			
	- 9	剥片	安山岩	82	24.2	21.4	6.7	2.99	1	92°	I+Ⅴ	S			
125	-10	石核	安山岩	75	29.9	33.9	22.8	24.66		74°					
	-11	剥片	安山岩	73	16.2	31.9	7.5	2.33	C	116°	I+Ⅲ	F			
	-12	剥片	安山岩	73	18.8	16.6	6.4	1.19	-		I+Ⅴ	H			B
	-13	剥片	安山岩	75	21.6	15.8	6.5	2.24	-		Ⅲ+Ⅴ	H			B
	-14	剥片	安山岩	75	14.1	18.8	5.0	1.22	-		I+Ⅲ+Ⅴ	H			B
	-15	剥片	安山岩	77	16.5	11.0	5.8	1.48	-		I+Ⅲ	S			
126	-16	石核	黒曜石	9	25.9	27.8	18.1	9.58		58~72°					
	-17	剥片	安山岩	75	19.9	12.1	5.7	1.50	L		I+Ⅲ+Ⅴ	H			
123	-18	石核	安山岩	72	28.5	25.0	31.0	17.25		74°					
	-19	剥片	安山岩	74	21.7	23.3	7.3	2.68	1	116°	Ⅲ	H			
118 b	-20	剥片	珪質頁岩A	5	61.7	23.8	17.4	21.85	1	124°	Ⅲ+Ⅳ+Ⅴ	S			L
	-21	礫	安山岩	90	60.5	40.4	18.5	36.27						H	

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損	
				mm	mm	mm			g		剥離角					形状
116	-22	ナイフ形石器	黒曜石	11	19.9	12.4	5.4	1.24	1	112°	I+III	-	74~88°			+
118c	-23	剥片	珪質頁岩A	5	54.8	38.0	19.6	38.79	1	86°	III+IV+V	S				
	-24	礫	安山岩	89	33.2	24.5	22.7	14.00						H		
	-25	剥片	安山岩	73	19.4	17.0	6.0	1.30	1	100°	I+V	F				
	-26	礫	頁岩	8	34.8	31.7	19.2	14.36						H		
	-27	剥片	安山岩	76	26.0	45.7	10.7	12.81	1	124°	I+III+V	S				
130b	-28A	石核	安山岩	73	38.9	56.3	23.0	31.21		50°						
	-28B	剥片	珪質頁岩B	4	14.1	19.6	3.6	0.66	-		I+III	O		B		
	-29	剥片	安山岩	78	33.6	37.6	12.1	14.72	1	118°	I+V	S				
	-30	礫	凝灰岩	1	47.7	41.8	36.9	49.69						H		
	-31	礫	安山岩	92	61.0	39.8	28.0	104.52						H		
	-32	剥片	安山岩	77	30.9	20.0	5.8	3.31	1	122°	I+III+V	F				
	-33	剥片	安山岩	77	12.3	14.0	6.8	0.83	-		I+III+V	H				
	-34	剥片	安山岩	76	16.1	21.4	4.9	2.02	1	102°	I	S			R	
	-35	剥片	安山岩	77	14.9	20.4	4.9	1.04	1	84°	III+V	F				
122	-36	石核	安山岩	73	33.5	34.3	34.3	41.72		72°						
	20P-55-2	礫	凝灰岩	2	67.9	67.3	28.4	139.16								
	-3	剥片	安山岩	73	17.6	30.7	4.8	1.72	2	86°	III	H				
117	-4	搔器	黒曜石	10	19.7	26.7	12.4	6.14	-		I+III	-	34~82°			
	-5	剥片	安山岩	77	37.8	30.0	17.9	21.35	-		I+III+V	F			B	
	-6	剥片	安山岩	73	37.6	60.4	15.7	31.31	1	138°	I+III+V	S				
	-7	剥片	安山岩	75	26.1	49.4	8.7	9.55	1	130°	III	S				
	-8	剥片	安山岩	75	23.4	30.5	8.9	7.78	-		II+III	H			B	
	-9	剥片	安山岩	84	30.2	40.9	21.5	19.64	2	80°	I+III+V	S				
	-10	剥片	安山岩	77	16.6	20.2	3.9	1.04	1	98°	III	F				
	-11	剥片	安山岩	72	25.5	15.6	10.5	2.75	1	126°	I+III	H				
	-12	礫	石英斑岩	4	57.8	34.2	25.6	40.71						H		
	-13	剥片	安山岩	79	38.8	27.8	13.2	10.91	1	134°	I+III+V	H				
	-14	剥片	黒曜石	8	21.9	20.3	8.1	2.70	2	118°	I+III	S				
	-15	剥片	安山岩	76	26.8	35.3	9.9	5.90	3	86°	III+V	S				
	-16	剥片	安山岩	73	23.9	31.1	14.3	8.11	1	88°	I+III+V	O			L	
	-17	剥片	黒曜石	10	29.2	41.4	7.5	7.74	1	92°	III	F				
	-18	礫	砂岩	7	39.4	31.7	23.4	35.45						H		
	-19	礫	安山岩	91	60.7	42.6	27.5	75.13								
	-20	剥片	安山岩	73	54.9	20.8	18.2	16.22	-		III+V	H			B	
	-21	剥片	安山岩	76	33.6	19.9	9.8	5.72	1	140°	I+III+V	H			R	
124	-22	石核	安山岩	75	26.7	50.7	19.1	13.56		124°						
	-23	剥片	黒曜石	9	25.3	22.5	10.3	5.35	C	130°	III+V	S				
	20P-63-2	剥片	黒曜石	2	10.0	27.1	5.5	0.70	1	104°	I+II+III	O				
	-3	剥片	安山岩	73	26.2	29.0	8.3	5.90	1	132°	I+V	S				
	-4	剥片	安山岩	79	21.1	17.1	4.5	1.96	-		III+V	F			B	
131	-5	敲石	流紋岩	1	65.2	46.5	33.2	119.73						S,H		
	20P-64-2	剥片	安山岩	81	25.5	23.7	8.7	3.10	1	144°	III+V	H			R	
	-3	剥片	安山岩	77	18.7	19.2	8.6	2.69	2	118°	I+III	F				
	-4	剥片	安山岩	77	8.2	15.8	4.2	0.34	L		III+V	F				
129	-5	石核	安山岩	78	18.0	39.2	30.0	19.02		48~50°						
	-6	剥片	安山岩	72	33.8	47.2	12.2	19.20	C	104°	V	S				
	-7	礫	凝灰岩	1	44.2	42.2	30.7	59.50						H		
	-8	剥片	黒曜石	9	9.3	17.0	4.4	0.48	1	118°	I+II+III	H				
	-9	剥片	安山岩	73	23.5	32.4	10.6	5.58	1	112°	III	F				
	20P-64-10	礫	凝灰岩	1	23.1	16.5	14.2	7.19						H		
	-11	剥片	安山岩	72	34.5	24.6	9.4	9.38	1	98°	I+V	H				
	-12	礫	安山岩	86	37.6	29.6	15.4	18.71						H		
	-13	剥片	安山岩	78	19.4	23.7	7.6	3.14	C	118°	I+II+III	S				
	-14	剥片	安山岩	73	31.4	26.3	6.9	4.14	1	98°	III	H				
128	-15	石核	安山岩	85	45.2	30.3	14.6	18.00		40~54°						
	-16	剥片	安山岩	73	25.2	51.1	7.5	8.41	C	76°	V	F				
	-17	礫	安山岩	88	54.2	46.9	35.4	89.67						H		
	-18	剥片	安山岩	73	26.4	22.1	7.3	4.16	1	116°	III+V	F			R	
	-19	剥片	安山岩	75	13.4	8.8	4.2	0.42	L		I+III	S				
	-20	剥片	安山岩	83	30.8	18.3	10.6	4.05	3	118°	I+III+V	H				
	-21	剥片	安山岩	80	15.7	28.5	6.3	1.74	L		I+III+V	F				
	-22	剥片	安山岩	73	34.3	44.8	12.7	12.94	2	118°	I+II+III+V	O				
	-23	剥片	安山岩	73	15.4	9.6	4.0	0.41	-		III+V	H			B	
120	20P-65-1A	二次加工剥片	頁岩	7	23.3	18.6	7.4	3.71	-		V	S	96~100°		B	
	-1B	礫	浮岩	1	18.1	15.7	13.3	0.56								
118a	-2	削器	珪質頁岩A	5	19.3	38.9	8.9	6.64	-		V	S	62~86°			
	-3	礫	石英斑岩	3	65.0	62.1	30.9	150.81						H		
	-4A	礫	凝灰岩	1	67.8	60.6	38.0	144.13						H		
	-4B	礫	頁岩	9	18.4	16.8	10.5	3.16						H		
121	-6	二次加工剥片	黒曜石	11	15.1	15.9	6.1	1.18	-		I+V	-	62~74°		M	
	-8	剥片	安山岩	79	31.7	35.4	18.4	20.76	2	136°	I+III+V	O				
	20P-73-2	剥片	安山岩	77	34.1	29.4	8.7	4.11	P		I+III	H				
	-3	剥片	安山岩	87	21.9	35.1	6.2	4.59	L		I+V	H		H		
115	20P-74-2	ナイフ形石器	黒曜石	9	21.6	12.7	5.9	1.38	5	94°	I+III	-	74~104°			
	-3	剥片	安山岩	79	30.9	25.5	11.3	6.63	1	120°	I+III	O				

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角		形状				
	- 4	剥片	安山岩	74	36.6	35.0	7.9	8.26	1	118°	I+V	F			
130 a	- 5	石核	安山岩	73	37.5	48.8	16.5	30.94		66°					
119	20P-75-2	二次加工剥片	チャート	18	23.2	14.0	5.8	2.21	-		V	-	62~88°	M	
	- 3	剥片	安山岩	74	17.6	21.9	6.2	2.37	1	112°	I+III	O			
	- 4	剥片	黒曜石	9	14.2	16.2	7.1	1.23	5(2)	126°	V	H			
	- 5	剥片	安山岩	77	18.7	12.2	8.1	1.28	1	132°	I+III	H			L

第25表 第31地点出土遺物属性表

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角		形状				
	19-Q-17-1	剥片	安山岩	95	26.9	24.6	9.6	5.66	-	I+V	S			B	
	19-Q-27-1	剥片	珪質頁岩A	12	22.1	23.2	5.9	2.52	L	I+III	S				
	- 2	剥片	珪質頁岩A	12	12.7	10.7	4.1	0.48	1	72°	I+III	H			
	- 3	剥片	珪質頁岩A	12	6.2	11.6	1.5	0.08	L	I+III	H				
132	- 4	剥片	安山岩	93	24.4	40.2	10.8	9.44	1	138°	I+V	S			
	- 5	剥片	安山岩	94	16.7	15.5	9.0	2.39	-		III+V	F			B
	- 6	剥片	珪質頁岩A	11	21.6	26.0	7.8	4.14	6(2)	114°	II+III	S			
	- 7	碎片	珪質頁岩A	12	7.4	6.0	2.3	0.10	1	106°	I+III	H			
	- 8	剥片	安山岩	96	9.3	17.2	5.0	0.79	1	84°	III+V	H			

第26表 第32地点出土遺物属性表

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角		形状				
133	21-Q-08-25A	剥片	珪質頁岩A	7	54.8	41.4	10.1	19.36	1	112°	I+III				
	-25B	碎片	珪質頁岩A	7	5.6	5.7	1.1	0.02	1	108°	III	H			
	-27	剥片	流紋岩	2	19.9	21.4	7.4	1.98	3	116°	I+III	S			
	-29	礫	チャート	19	46.8	16.1	17.0	16.67					H		
	21-Q-17-15	剥片	流紋岩	3	20.1	29.7	5.7	2.57	4	112°	I	H			
	-16	剥片	珪質頁岩A	6	10.2	17.0	3.6	0.53	3	120°	I+III	H			
	-17	礫	石英斑岩	5	55.8	50.5	29.9	74.48					H		
	-18	剥片	流紋岩	3	21.7	17.9	4.5	1.17	3	126°	I+III	S			
134	21-Q-18-39	剥片	珪質頁岩A	9	64.1	55.3	18.6	38.09	1	112°	I+II+III	O		N	
	-40	剥片	黒曜石	7	7.8	16.5	9.1	0.73	-		III	O			B
	21-Q-28-10	剥片	珪質頁岩A	8	28.0	28.6	6.3	4.14	1	100°	I+III	H			

第27表 第33地点出土遺物属性表

挿入 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重 量	打面	打 角	背面構成	末端	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角		形状				
148	19-R-84-1	削器	頁岩	10	31.0	42.3	10.6	11.59	1	114°	III+V	H	66~78°		
	- 2	剥片	頁岩	10	5.8	13.5	3.0	0.24	-		I	H			B
	- 3	剥片	頁岩	10	15.7	25.0	6.8	1.89	1	110°	I+III+V	H			
144	- 5, -10	ナイフ形石器	頁岩	10	38.3	23.0	10.4	3.93	-		I	F	60~108°		+
	- 6	剥片	頁岩	10	7.4	15.8	6.8	0.47	1	106°	I+III	H			
	- 7	剥片	頁岩	10	20.0	23.6	8.3	1.93	1	106°	I	H			
	- 8	剥片	頁岩	10	12.2	10.8	3.2	0.29	1	88°	I+III	H			
	- 9	剥片	頁岩	10	14.2	25.5	9.4	3.19	-		I+III+V	H			B
	-11	剥片	頁岩	10	37.2	24.5	11.7	7.39	-		I+III+V	S			
	19-R-94-1	剥片	頁岩	10	19.6	38.0	11.5	5.40	1	102°	I+III+V	O			
	-2A	剥片	頁岩	10	10.2	13.0	2.7	0.31	1	82°	I+III	H			
	-2B	碎片	頁岩	10	4.8	3.7	0.4	0.01							
140	- 3	ナイフ形石器	頁岩	10	27.2	12.2	8.1	2.06	2	114°	I+III	F	72~102°		
	- 4	剥片	頁岩	10	15.8	16.2	6.5	0.89	1	54°	III	S			
	- 5	礫	砂岩	11	42.1	31.1	25.0	34.79					H		
	- 6	剥片	頁岩	10	26.4	26.7	6.1	3.26	1	100°	I+II+III	H			
	- 7	礫	砂岩	11	43.7	34.2	20.2	28.27					H		
	- 8	剥片	頁岩	10	10.9	12.3	2.9	0.24	1	98°	I+III	S			
155	- 9	石核	珪質頁岩B	5	21.5	36.8	24.9	13.69		72~92°					
	-10	剥片	頁岩	10	8.7	11.0	2.3	0.22	-		I+III	H			B
136	-11	角錐状石器	頁岩	10	36.1	21.4	15.6	11.11					82~102°		+
	-12	剥片	頁岩	10	13.7	20.1	5.0	0.83	P		I+III	F			
	-13	剥片	頁岩	10	23.5	10.8	3.8	0.64	-		I	H			
	-14	剥片	頁岩	10	9.7	12.7	2.9	0.17	1	114°	I+III	S			
	-15	剥片	頁岩	10	18.6	22.8	5.3	1.74	2	114°	I+III	F			
	-16A	剥片	頁岩	10	6.7	16.1	4.1	0.42	1	76°	I	F			
	-16B	碎片	頁岩	10	8.8	8.4	4.2	0.16	L		III	S			
135	-17	角錐状石器	頁岩	10	34.3	13.8	10.0	5.39	-		I	-	72~104°		+
151 b	-18	剥片	頁岩	10	26.3	30.7	11.6	7.60	1	130°	I+III	S			
	-19	剥片	頁岩	10	11.6	18.9	3.1	0.50	-		I	H			B
	-20	礫	砂岩	10	48.5	34.5	19.3	32.18					H		
	-21	礫	砂岩	3	15.3	13.5	4.7	1.01					H		
	-22	剥片	頁岩	10	15.6	14.3	3.7	0.60	1	122°	I+III	F			

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	打面	打角 剥離角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
149	-23	二次加工剥片	安山岩	97	24.5	24.6	10.8	6.94	2	130°	I+III+V	O	98~102°		
	-24	剥片	頁岩	10	6.7	8.5	1.7	0.07	P		III	H			
	-25	剥片	頁岩	10	17.1	15.0	9.9	2.12	2	90°	I+III+IV	O			
153	-26	石核	安山岩	97	24.5	18.7	13.0	7.93		80~86°					
	-27	剥片	チャート	20	8.9	14.5	4.1	0.46	-		III	-			M
	-28	礫	砂岩	8	74.0	61.9	29.9	120.43						H	
	-29	剥片	チャート	20	29.5	21.1	10.8	4.40	3	120°	III	H			
	-30	剥片	頁岩	10	31.8	27.7	10.2	8.00	-		I+III	O			
147	-31	削器	頁岩	12	54.5	39.5	9.2	16.43	C	-	III+V	H	48~56°		
	-33	剥片	頁岩	10	28.2	18.5	4.0	1.89	-		I+III	H			
142	-34	ナイフ形石器	頁岩	10	34.5	20.2	8.6	4.87	-		I	-	82~98°		+
	-35	礫	砂岩	9	49.6	25.3	15.4	19.99						H	
	-36	剥片	頁岩	10	13.3	14.7	4.5	0.70	1	118°	I+III	H			
	-37	剥片	頁岩	10	10.4	9.3	2.4	0.24	1	126°	I	S			
	-38	剥片	頁岩	10	10.2	13.1	3.0	0.35	1	86°	I+III	H			
151 a	-39	剥片	頁岩	10	11.1	14.1	2.2	0.32	L		III	H			
	-40	剥片	頁岩	10	11.2	15.0	7.3	0.74	2	88°	I+III	F			
	-41	剥片	頁岩	10	6.0	8.4	1.7	0.07	1	48°	I+III	S			
138	-42	ナイフ形石器	頁岩	10	28.6	12.5	8.1	2.00	1	98°	I+III	O	86~98°		
	-43	剥片	頁岩	10	12.7	13.7	4.8	0.69	2	118°	I	S			R
	-44	剥片	ホルンフェルス	3	14.7	22.8	3.8	1.07	C	90°	III	H			
	-45	剥片	ホルンフェルス	3	9.8	14.6	2.5	0.26	C	98°	III	S			
137	-46	角錐状石器	頁岩	10	30.6	12.6	15.3	6.02					92~104°		+
	-47	剥片	頁岩	10	9.9	8.5	1.7	0.12	1	110°	I+III	H			
	-48	剥片	安山岩	97	7.4	20.6	4.3	0.49	4	116°	I	S			
	-49	剥片	チャート	20	19.1	19.3	7.3	2.39	-		I+V	H			B
	-50	礫	砂岩	3	74.9	44.5	43.1	152.08						H	
	-52	礫	流紋岩	4	61.4	54.4	31.9	78.41						H	
	-53A	礫	砂岩	11	56.6	48.6	31.5	68.74							
	-53B	礫	砂岩	11	41.8	32.3	21.0	30.02							
	-53C	礫	砂岩	11	16.4	12.3	11.0	2.02							
	-54	礫	砂岩	11	61.2	26.6	17.9	29.54							
	-55	礫	砂岩	11	34.7	23.4	13.0	9.35							
	-56	剥片	頁岩	10	20.1	29.4	5.3	1.71	1	118°	I+III	H			
	-57A	礫	流紋岩	4	37.4	25.8	18.7	18.36						H	
	-57B	剥片	頁岩	10	11.1	11.5	5.1	0.54	2	114°	I+III	H			
	-58	剥片	頁岩	10	5.4	15.8	2.9	0.18	1	110°	I+III	F			
	-59	剥片	頁岩	10	8.0	11.7	3.8	0.19	1	112°	I+III	H			
	-60	剥片	頁岩	10	15.5	15.9	3.8	0.83	2	106°	I+III	H			
	-61	剥片	頁岩	10	19.5	17.6	8.8	2.21	3	102°	I+III+V	H			
	-62	剥片	頁岩	10	12.7	23.2	7.5	1.80	1	114°	I+III	H			
139	-63	ナイフ形石器	頁岩	10	22.6	12.9	10.4	2.07	-		I		82~88°		+
146 b	-64	ナイフ形石器	頁岩	10	37.3	28.6	11.0	9.52	-		I+II+III	H	52~72°		
157	19-R-94-65	石核	頁岩	10	51.4	76.5	19.6	72.06	3	72~78°				N	
	-66	剥片	頁岩	10	7.7	17.0	3.5	0.32	1	116°	I+III	H			
	-67	剥片	頁岩	10	12.8	16.3	7.3	0.85	2	84°	I+III	H			
	-68	剥片	頁岩	10	13.0	18.9	4.1	0.57	L		I+III	H			
	-69	剥片	頁岩	10	18.5	13.3	6.3	1.26	1	116°	I+II+III	H			
146 a	-70	剥片	頁岩	10	14.6	29.9	5.9	1.54	2	122°	I+III	H			
	-71	剥片	頁岩	10	9.3	11.7	2.5	0.22	1	108°	I	H			
	-72	剥片	頁岩	10	16.6	14.0	3.7	0.68	2	112°	I+III	H			
	-73	剥片	頁岩	10	10.3	12.3	3.5	0.31	2	92°	I+III	H			
143	-74	ナイフ形石器	頁岩	10	30.4	15.3	11.1	2.71					78~86°		+
	-75	剥片	頁岩	10	11.6	12.9	3.9	0.44	1	116°	I+III	F			
	-76	礫	流紋岩	4	72.4	42.8	25.8	74.07						H	
	-77	礫	砂岩	11	11.6	9.4	9.0	0.98						H	
	-78	剥片	頁岩	10	5.6	14.8	2.3	0.17	-		III	-			M
	-79	礫	砂岩	11	33.4	32.5	16.8	23.35						H	
	-80	剥片	頁岩	10	7.5	13.4	2.1	0.18	-		III	-			M
	-81	剥片	頁岩	10	10.0	16.2	3.1	0.41	1	104°	I+III	S			
145	-82	ナイフ形石器	頁岩	10	29.4	23.9	11.1	7.43			I		58~98°		+
	-83	剥片	頁岩	10	8.3	10.0	3.5	0.24	-		I	F			
	-84	剥片	頁岩	10	15.6	16.9	3.6	0.78	1	118°	I+III	F			
	-85	剥片	頁岩	10	1.7	4.3	0.6	0.01	-		I	-			M
	-86	剥片	頁岩	10	7.2	7.7	1.2	0.08	1	98°	I+III	-			
	-87	剥片	頁岩	10	7.0	5.0	1.8	0.08	1	100°	III	H			L
	-88	剥片	頁岩	10	7.8	5.8	3.4	0.15	P		III+V	-			H
	-89A	剥片	頁岩	10	4.0	7.0	1.6	0.04	1	94°	I	H			
	-89B	剥片	頁岩	10	4.5	4.0	0.9	0.02	-		III	-			
	-91	剥片	安山岩	97	7.4	11.7	2.3	0.15	1	118°	I+V	H			
	-92A	剥片	頁岩	10	5.6	12.6	2.4	0.14	1	106°	I+III	S			
	-92B	剥片	頁岩	10	7.0	5.9	1.3	0.05	-		I	H			B
	-93	剥片	頁岩	10	8.5	18.1	5.1	0.63	1	108°	I+III	O			
	-94	剥片	頁岩	10	14.7	30.6	9.2	2.78	-		II+III	O			B
	-95	礫	砂岩	3	37.5	25.2	10.9	10.65						H	
	-96	剥片	頁岩	10	19.9	8.1	7.6	0.96	5	108°	II+III	S			

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	-97	礫	流紋岩	4	47.1	35.7	23.7	33.51					H		
	-98A	剥片	頁岩	10	8.5	14.1	5.0	0.42	1	92°	I+III	O			
	-98B	剥片	頁岩	10	8.5	6.9	2.6	0.13	-		III	S			
	-99	剥片	頁岩	10	12.6	23.7	7.2	2.16	1	116°	I+III	O			
150	19-R-95-1	剥片	玉髓	3	17.4	13.0	4.6	0.84	-		I+II	S		N	B
	-2	礫	流紋岩	4	48.3	36.4	18.7	33.11					H		
	-3	剥片	頁岩	10	18.3	18.1	3.4	0.89	1	108°	I+III	H			
152b	-4	剥片	チャート	20	26.3	32.9	8.9	4.25	1	132°	I+III	H			
	-5A	剥片	粘板岩	3	18.3	31.7	10.0	5.83	2	100°	III+IV	H			
	-5B	剥片	頁岩	10	10.5	14.4	2.9	0.41	1	110°	I+II+III	S			
	19-S-02-1	剥片	チャート	20	48.6	31.5	19.3	23.05	C	94°	I+III	H			
	19-S-04-1	剥片	瑪瑙	7	9.2	13.2	2.6	0.24	1	130°	I	S			
	-2	礫	砂岩	9	42.9	24.5	20.1	21.58					H		
	-3	剥片	頁岩	10	6.7	7.0	1.4	0.05	1	90°	III	F			
	-4	剥片	安山岩	97	7.3	13.5	3.5	0.36	1	116°	I+III	F			
	-5	剥片	頁岩	10	9.8	12.1	3.2	0.24	1	120°	I	S			
141	-6	ナイフ形石器	頁岩	10	17.7	11.1	10.4	1.32					96~102°		+
	-7	剥片	頁岩	10	13.8	17.2	3.6	0.52	1	98°	I+III	S			
	-8	剥片	頁岩	11	8.1	14.3	3.0	0.31	L		I	O			
	-9	剥片	安山岩	97	14.8	14.6	5.7	1.25	-		V	H			B
	-10	剥片	頁岩	10	4.9	18.7	4.9	0.39	-		III	H			B
	-11	剥片	頁岩	10	16.3	28.1	5.1	1.79	1	120°	I+III	S			
	-12	剥片	玉髓	5	6.6	7.5	1.4	0.07	1	92°	I	H			
	-13	剥片	頁岩	10	4.1	6.8	1.1	0.01	1	84°	III	S			
	-14	剥片	頁岩	10	14.7	20.5	5.8	1.39	1	110°	I+III	H			
	-15	剥片	頁岩	10	11.8	20.0	4.4	0.92	1	122°	I+III	S			
156	19-S-05-1	石核	珪質頁岩B	6	19.0	22.3	23.2	7.83		50~88°					
154	-2	石核	珪質頁岩A	10	41.6	35.1	14.7	15.29		68~74°					
	-3	剥片	頁岩	10	34.0	17.0	15.6	7.18	-		IV+V	O			B
	-4	剥片	安山岩	97	9.7	25.3	4.0	0.75	L		I+V	F			
152a	-5	剥片	チャート	20	34.9	38.1	15.8	12.74	L		III	O			
	-6	剥片	チャート	20	7.7	14.9	4.3	0.27	2	86°	I+III	H			
	-7	剥片	瑪瑙	7	8.4	8.7	1.7	0.11	L		I+III	F			

第28表 第34地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
158	20-U-21-71	ナイフ形石器	ホルンフェルス	4	47.1	22.4	11.3	9.83	-		I+III	H	74~86°		
	-72	剥片	ホルンフェルス	5	12.5	13.0	1.7	0.30	-		I	F			B
	-73	剥片	ホルンフェルス	5	9.9	15.2	2.7	0.39	L		I+III	H			
	-75	剥片	チャート	21	22.1	17.4	6.9	2.03	L		I+III	H			

第29表 第35地点出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	母岩番号	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
1	19-Q-47-1	楔形石器	チャート	1	22.4	27.9	5.5	3.59							

第30表 単独出土遺物属性表

挿図 番号	遺物番号	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	打面	打角	背面構成	末端 形状	調整角	使用痕 被熱痕	折れ	欠損
				mm	mm	mm	g		剥離角						
	19-P-12-1001A	剥片	チャート	1	17.8	19.4	11.0	3.06	-		I+III	F			
	-1001B	剥片	凝灰岩	1	19.3	22.7	8.6	2.03	1	92°	III+V	S			
	19-P-20-1001	剥片	玉髓	3	7.7	11.8	3.2	0.26	-		I+III	F			B
4	19-P-24-1001	剥片	黒曜石	2	25.9	37.7	12.5	6.27	3	114°	I+II+III	H		N	R
2	19-P-40-1001	削器	砂岩	3	57.8	54.2	15.1	62.68					84~94°		
6a	17-Q-43-1001A	剥片	珪質頁岩A1	1	20.2	21.8	3.0	0.79	-		I+III	H			B
6b	-1001B	剥片	珪質頁岩A1	1	7.6	7.0	1.4	0.08	L		I+III	S			
1	19-Q-22-1	尖頭器	安山岩	5	17.3	15.0	4.7	1.57							+
5	19-Q-69-1	剥片	珪質頁岩A2	2	19.5	11.8	2.8	0.40	1	122°	I+III	H		N	
3	19-R-67-2	楔形石器	黒曜石	1	22.1	22.1	9.8	4.11							+
	23-S-60-2	礫	石英斑岩	1	66.7	51.6	39.2	112.33							
7	23-S-61-6	敲石	流紋岩	2	73.1	56.7	45.9	184.96						S.H	

## 第4章 結 語

これまで平成元年度から12年度に及ぶ小屋ノ内遺跡の調査で出土した旧石器時代関係の石器群についてまとめてきたが、既に述べてきたように本遺跡では少なくとも計4時期の文化層が確認できた。とりわけ第I文化層とした第IX層・暗色帯から出土した第1地点の石器群は、東西に38m、南北に40mを越える大規模な範囲で検出された。その石器群の分布形状はほぼ円形となり、いわゆる環状に分布した石器群となった。そこで本報告では、これを環状石器群と呼称し、個別の集中地点ごとに記述してきたわけであるが、これら石器群は周縁部に濃密で、中央部分での分布は希薄である。さらに中央部の一角において炭化物の集中地点が検出されており、火気の使用が想定できた。これらの分布状況を図化してみると、あたかも当時の小集落を再現させるかのような感さえ受ける。このような大規模遺跡は、近年の調査で各地に存在することが判明しつつあり、県下でも次第にその発見例が増加し著名な遺跡の報告もある。また、第III文化層とした時期ではナイフ形石器を主体とした器種構成になっており、そのナイフ形石器は変化に富んだ形状を有していた。成品としての石器の出土量にもみるべきものがあった。そうした中で第21地点～第24地点と第25地点～第29地点では、ほぼ同時期の所産と考えられる石器集中地点の4か所～5か所が互いに近接した状態で発見された。こうした事例も内容的には小規模の環状石器群として捉えることも可能で、とりわけ第21地点では炭化物が検出され、第24地点では炭化物に加え焼土さえも若干認められている。

前章でも触れたように本遺跡の所在する物井地区では、既報告分の御山遺跡(1)、出口・鐘塚遺跡をはじめ、今後報告を予定している御山遺跡(2)、清水遺跡、棒山・呼戸遺跡では10か所～20か所以上の石器集中地点が検出されている。さらに稲荷塚遺跡や新久遺跡でも数地点で石器群の分布が認められている。この中には本遺跡の第I文化層や第III文化層とした時期の石器群が少なからず存在しており、いわば遺跡群を構成している。これらは今後の比較検討材料として大いに期待できるところである。このような遺跡の密集地域は県内でも幾つか認められており、広い範囲で総合的に検討していく中で当時の人びとの行動や文化内容が一層鮮明な形であらわれてくるものと考えられる。

以上のように、現状では本地区一帯では小集団といえども集落が展開されていたことは確実なものと考えられるが、この地域的な遺跡群の存在が何に起因するかは即断できないまでも、本地域では明らかに濃密に遺跡が分布することだけは確かな事実である。いわば本遺跡を含めて物井地区周辺は、旧石器時代遺跡の宝庫といっても過言ではあるまい。

一方、本報告では詳細に触れることはしなかったが、石材の入手経路解明も旧石器時代の文化を理解するうえで重要な位置を占めるものと思われる。本遺跡では、第I文化層が安山岩を主体とした石材構成となっていた。この石材構成は、この時代の周辺遺跡での使用石材ともよく一致し、その供給源は茨城・栃木県といわれ、それほど遠くない関東圏内であることは既によく知られているところである。だが時代も降下すると、各地で産出する黒曜石や東北地方から搬入する硬質頁岩が主役を担うようになってくる。いわば交易圏の拡大と言うことになる。このように、時代の変遷とともに変化する石材の供給地を把握するためには産地の同定が必要となろうが、ここではそれが十分果たせなかった。このことは今後の課題として考えておきたい。



# 写真図版



第1地点全景



第1地点近景



第1地点内炭化物集中



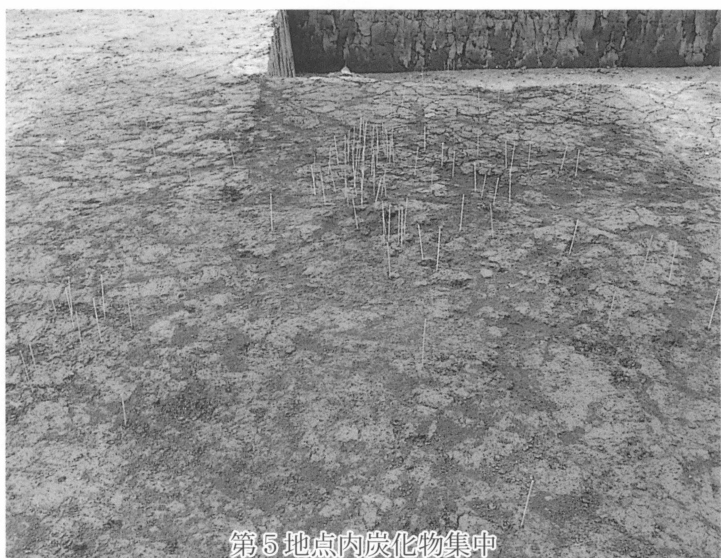
第2地点



第4地点



第5地点



第5地点内炭化物集中



第6地点



第8地点



第12~14地点



第16地点



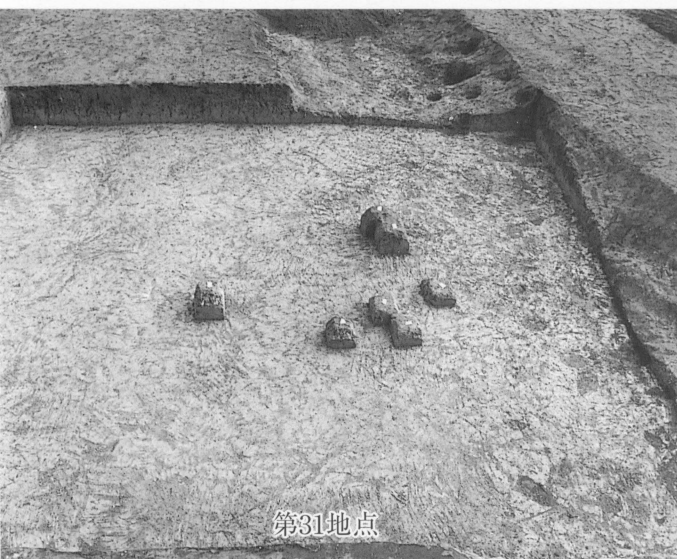
第21地点全景

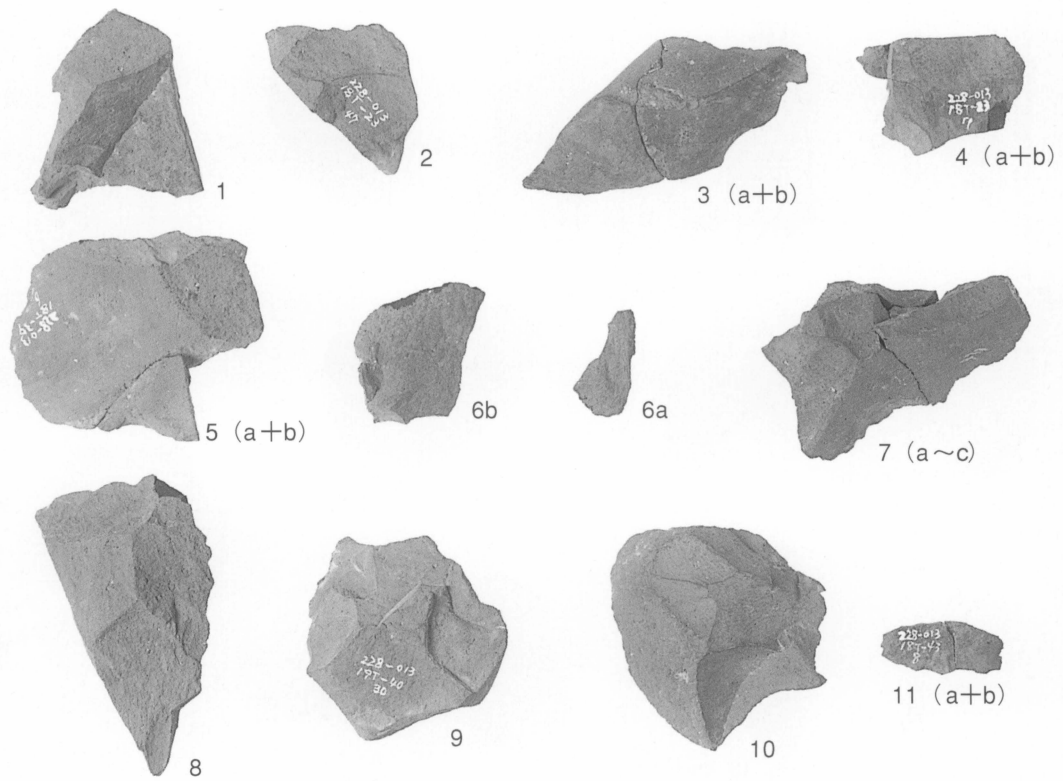
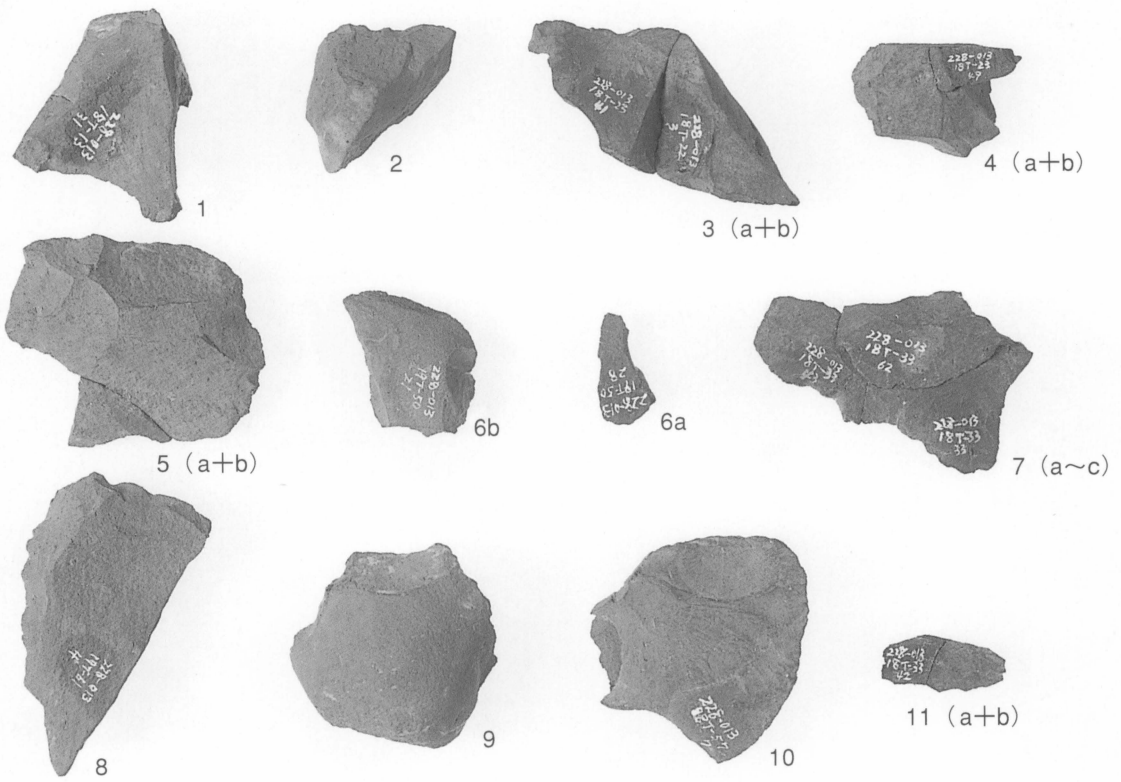


第22~24地点全景



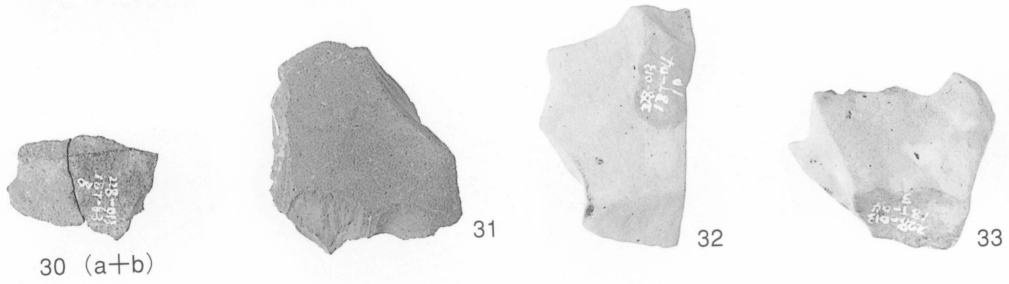
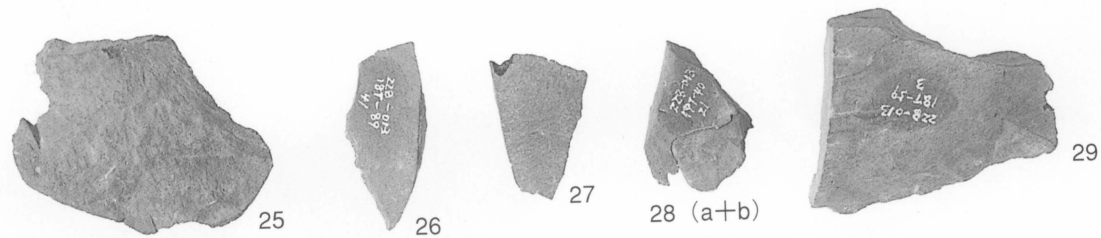
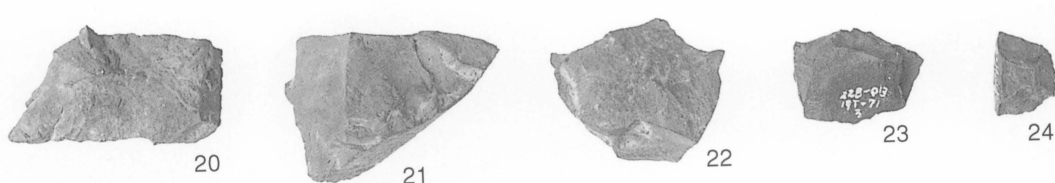
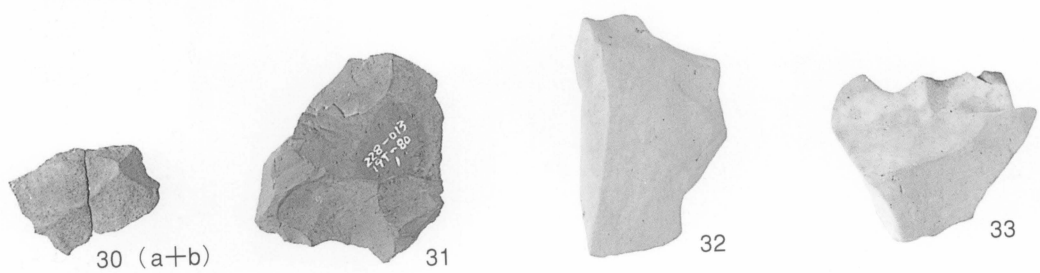
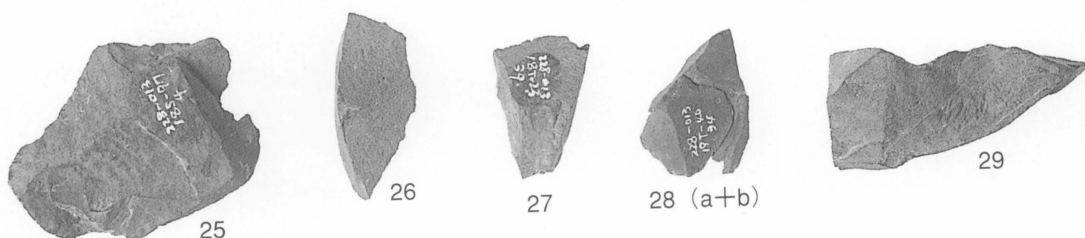
第25~29地点全景





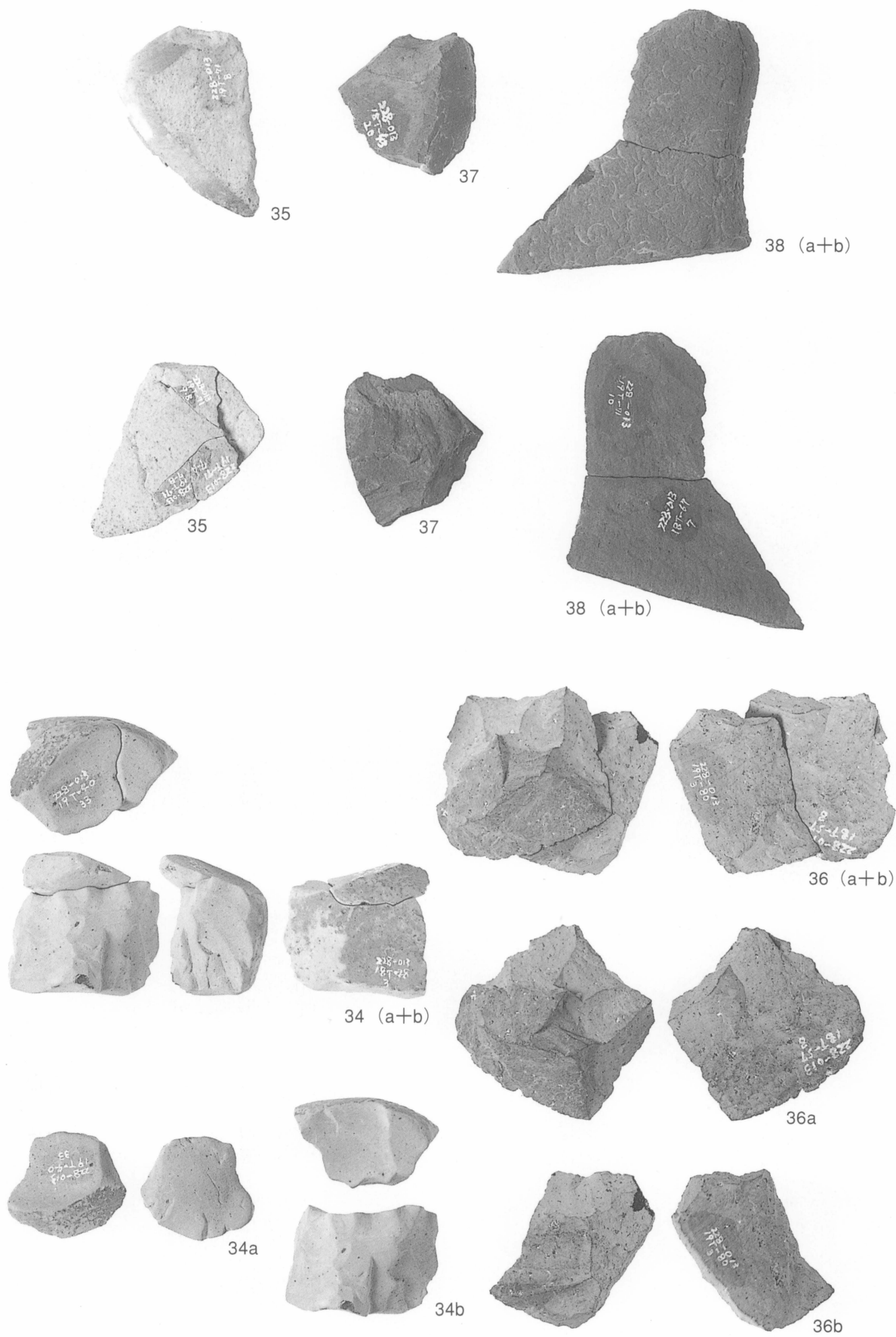
第 I 文化層第 1 地点出土石器 (1)





第 I 文化層第 1 地点出土石器 (3)

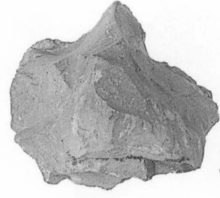




第 I 文化層第 1 地点出土石器 (4)



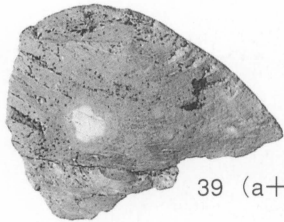
39 (a+b)



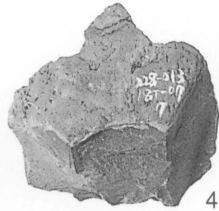
40



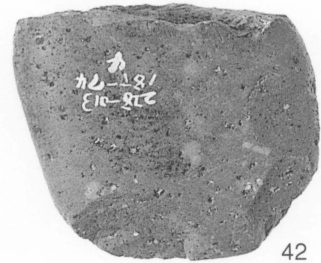
42



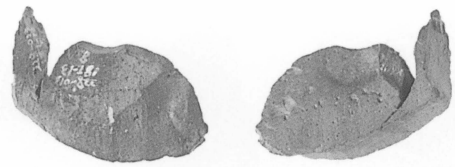
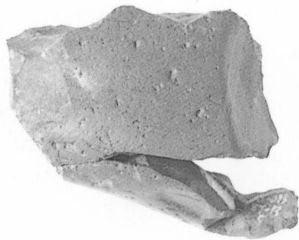
39 (a+b)



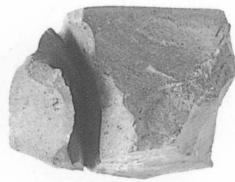
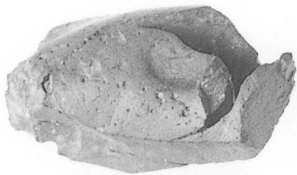
40



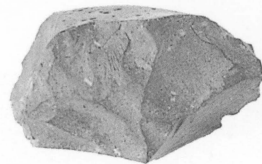
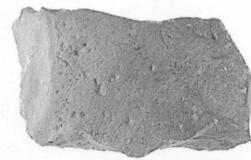
42



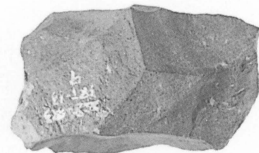
41 (a+b)



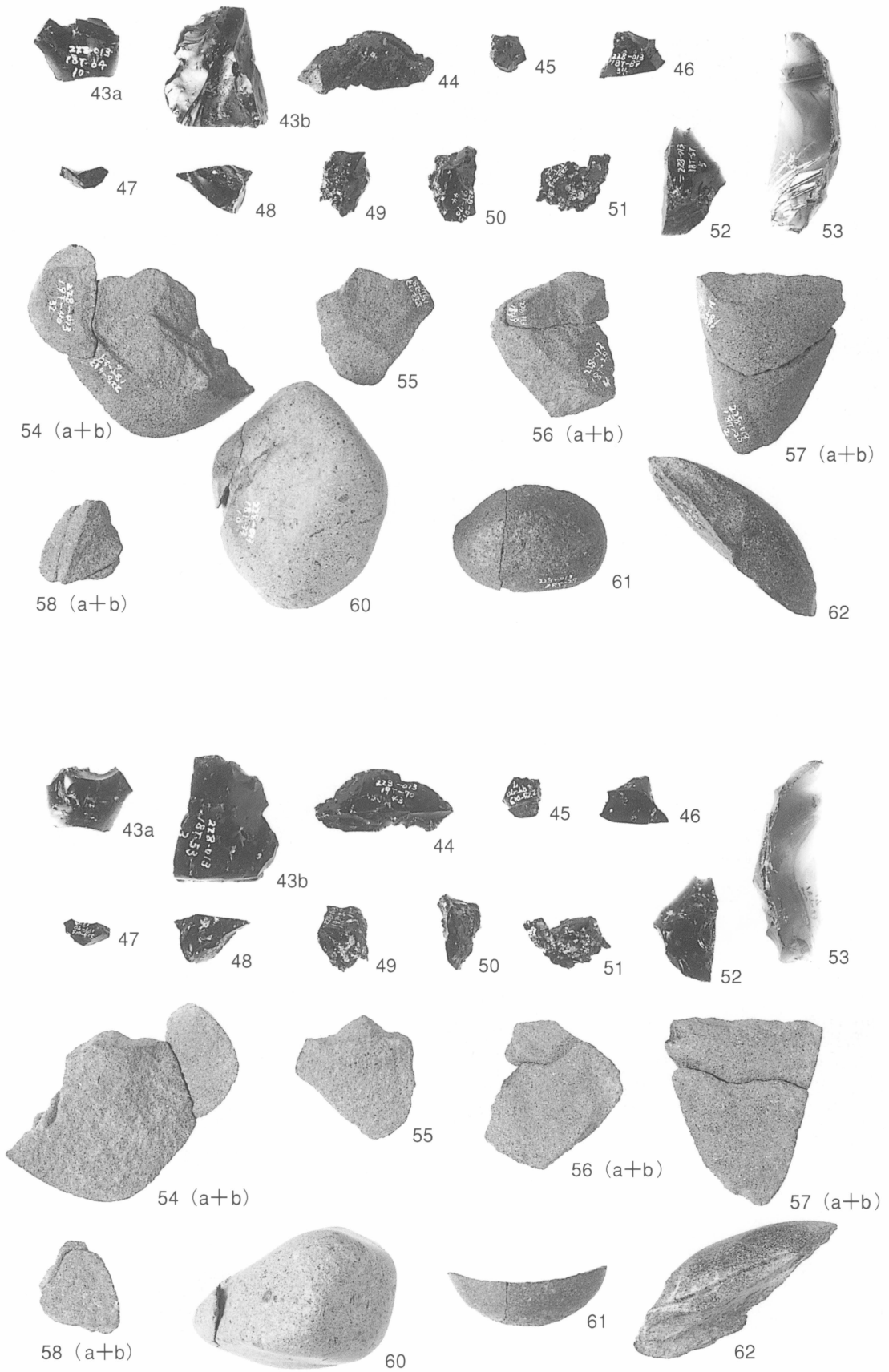
41 (a~c)



41c



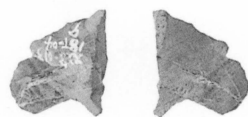
第 I 文化層第 1 地点出土石器 (5)



第 I 文化層第 1 地点出土石器 (6)



59



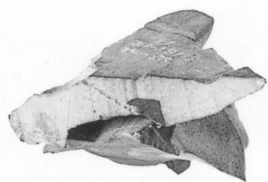
63a



63b



63c



63 (a~e)

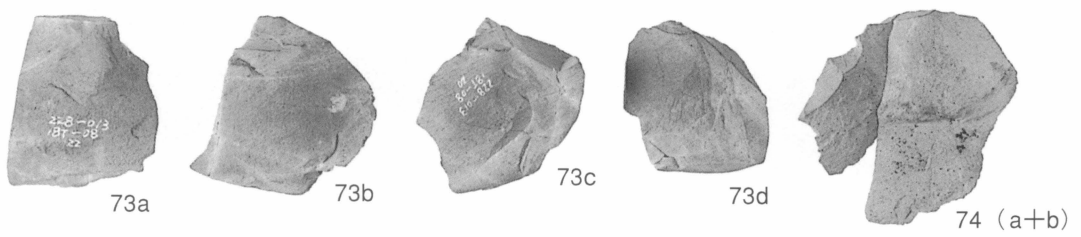
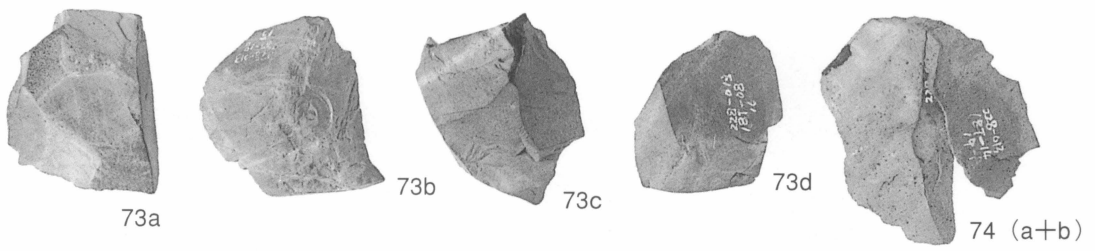
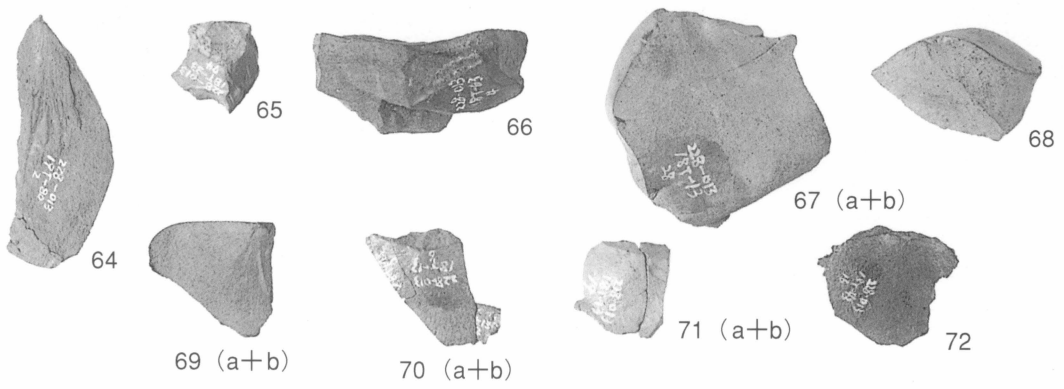
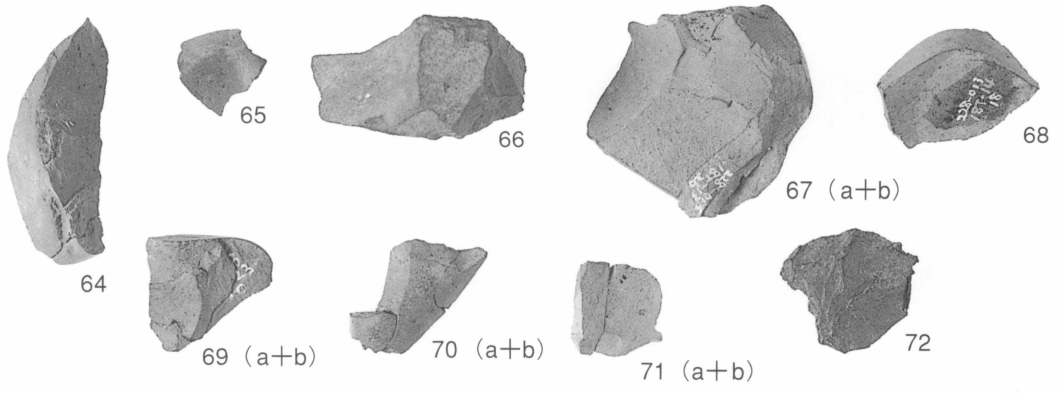


63d

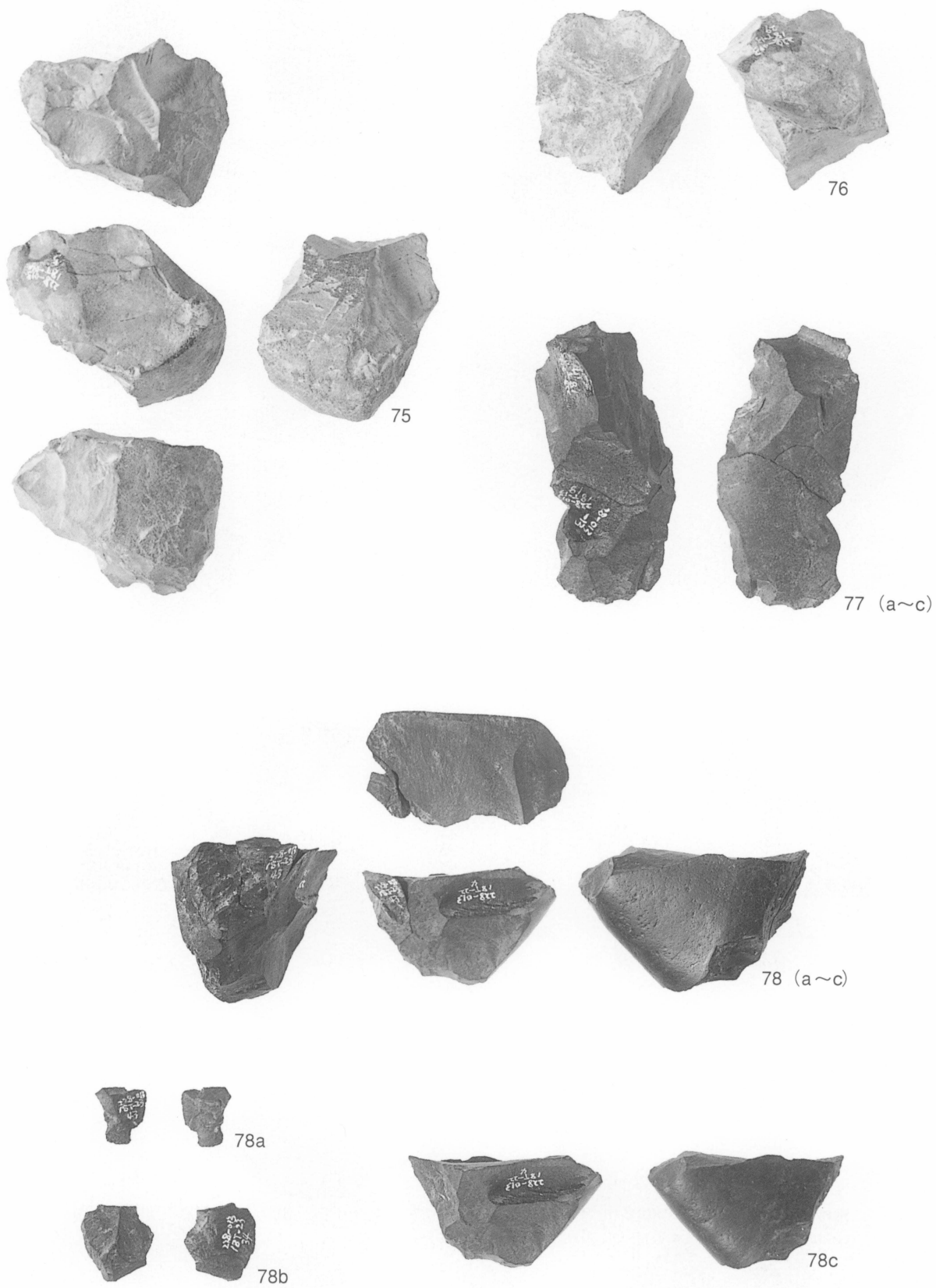


63e

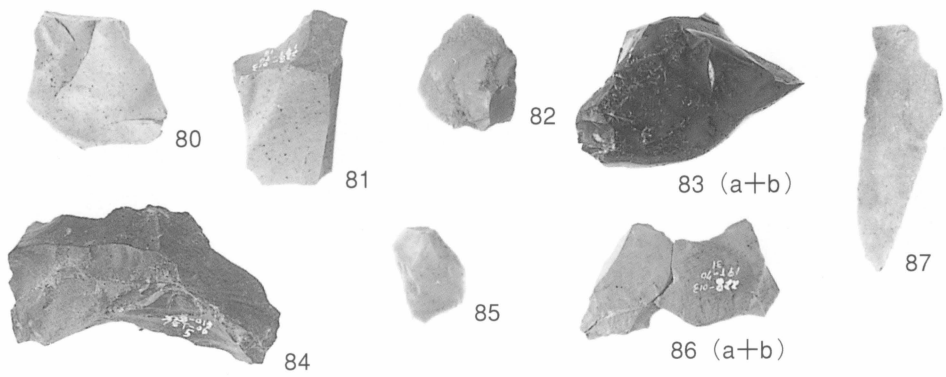
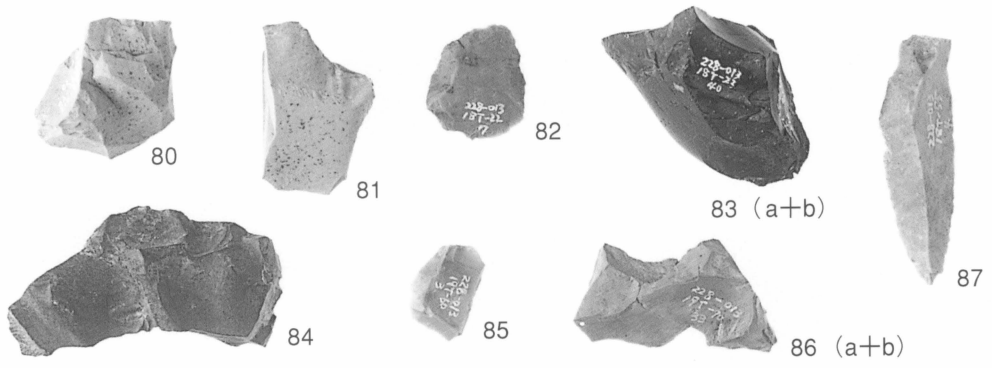
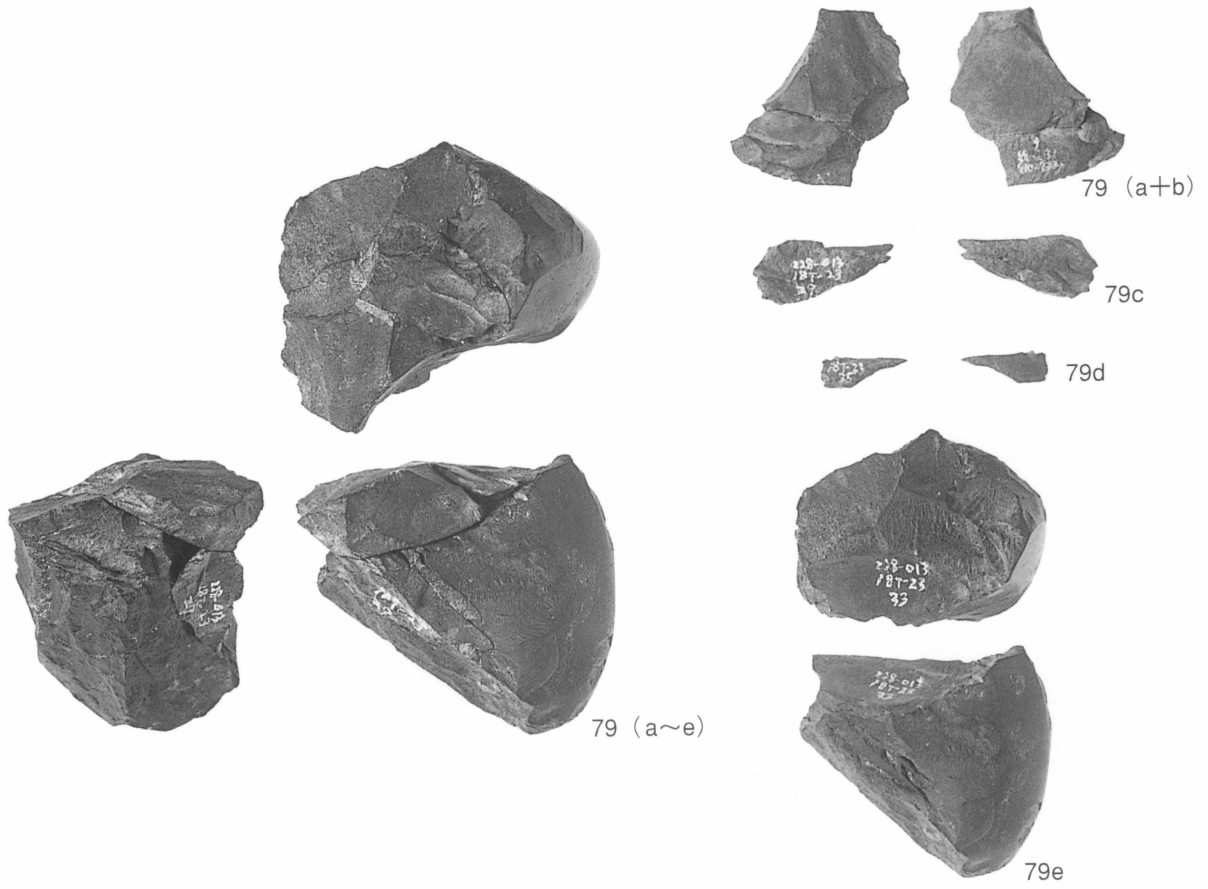
第 I 文化層第 1 地点出土石器 (7)



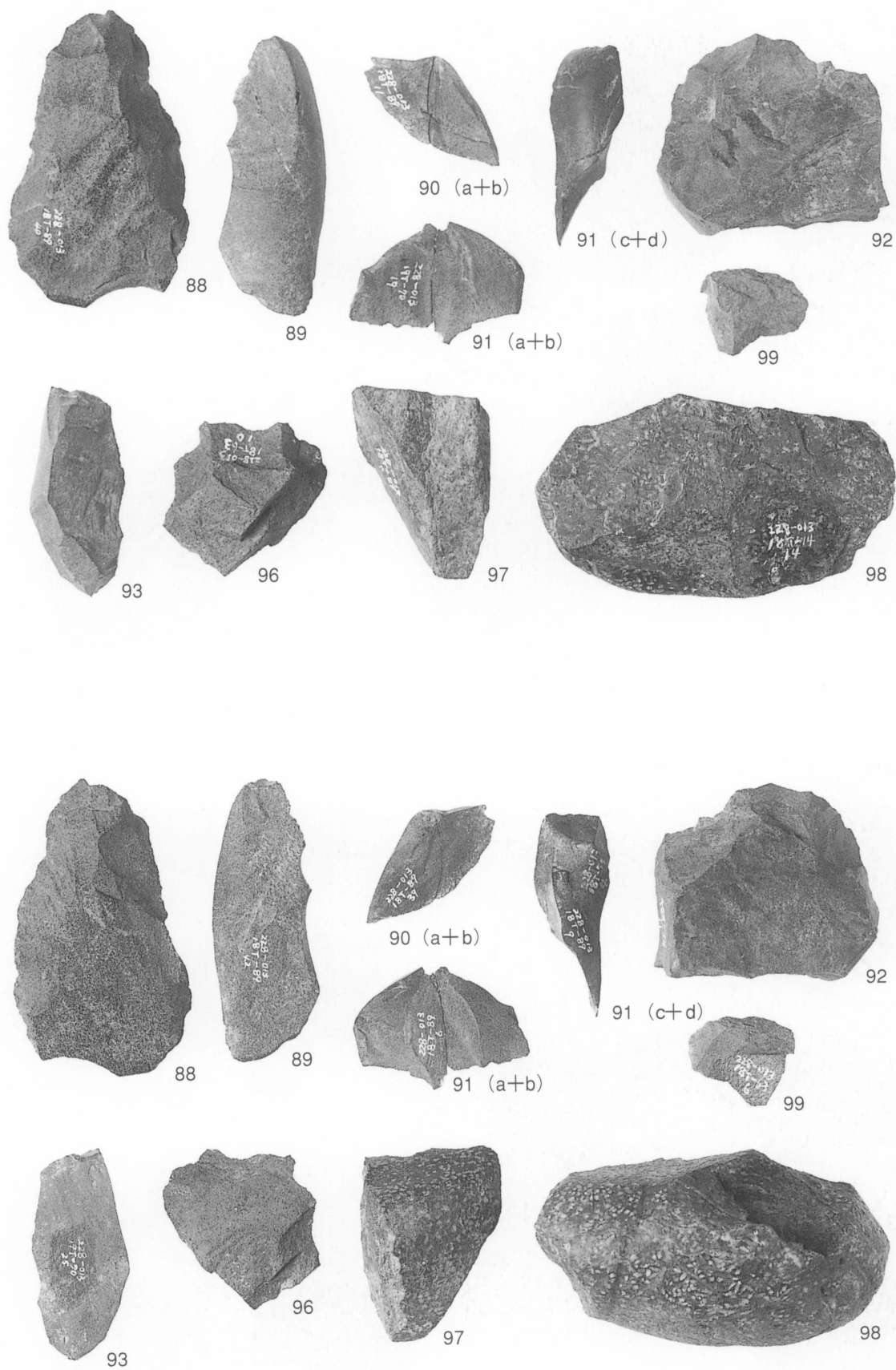
第 I 文化層第 1 地点出土石器 (8)



第I文化層第1地点出土石器(9)

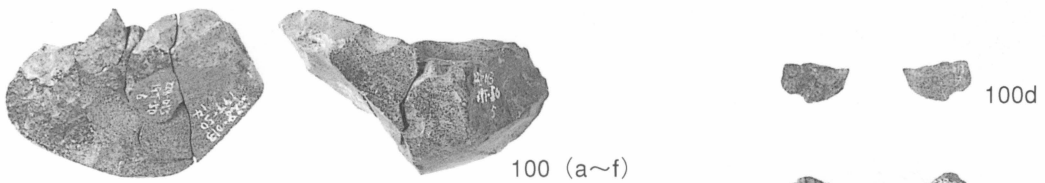
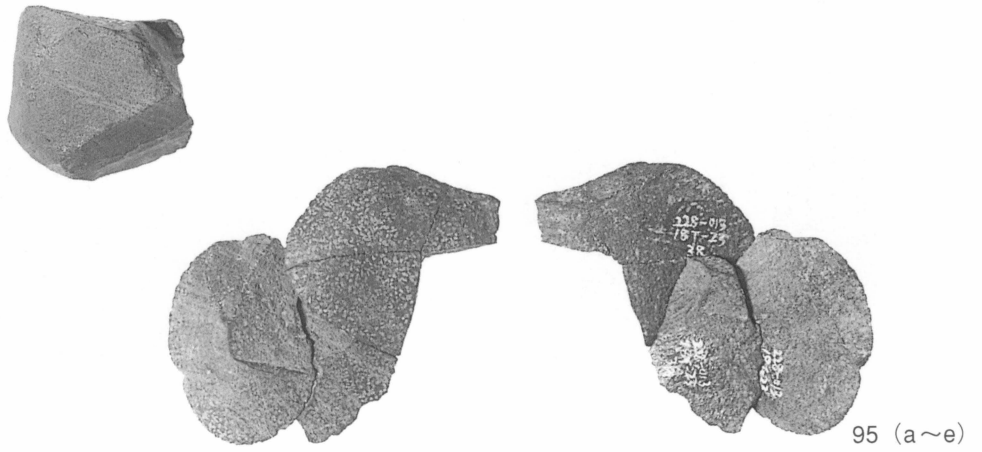
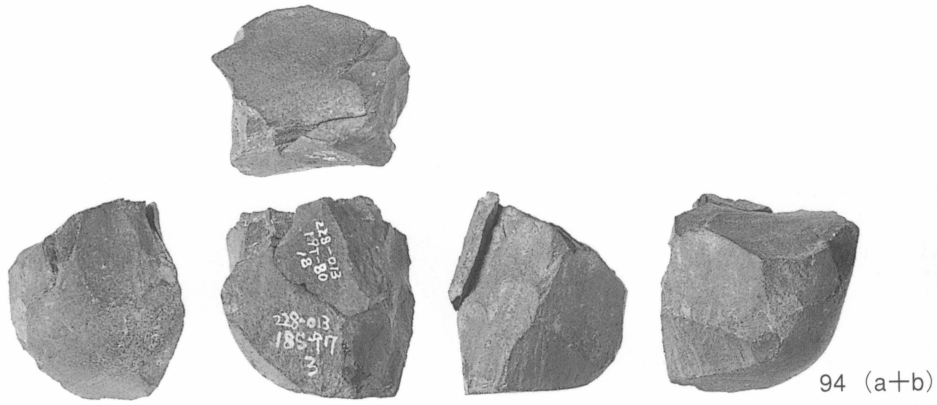


第 I 文化層第 1 地点出土石器 (10)

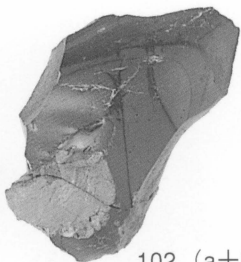
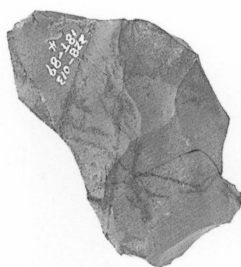
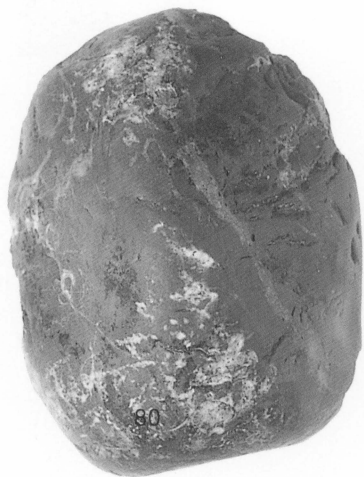


第 I 文化層第 1 地点出土石器 (11)

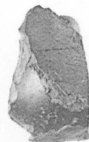




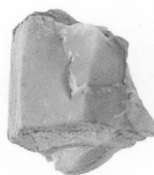
第 I 文化層第 1 地点出土石器 (12)



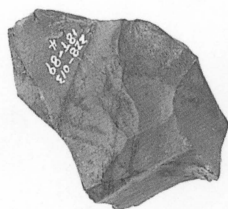
102 (a+b)



102a



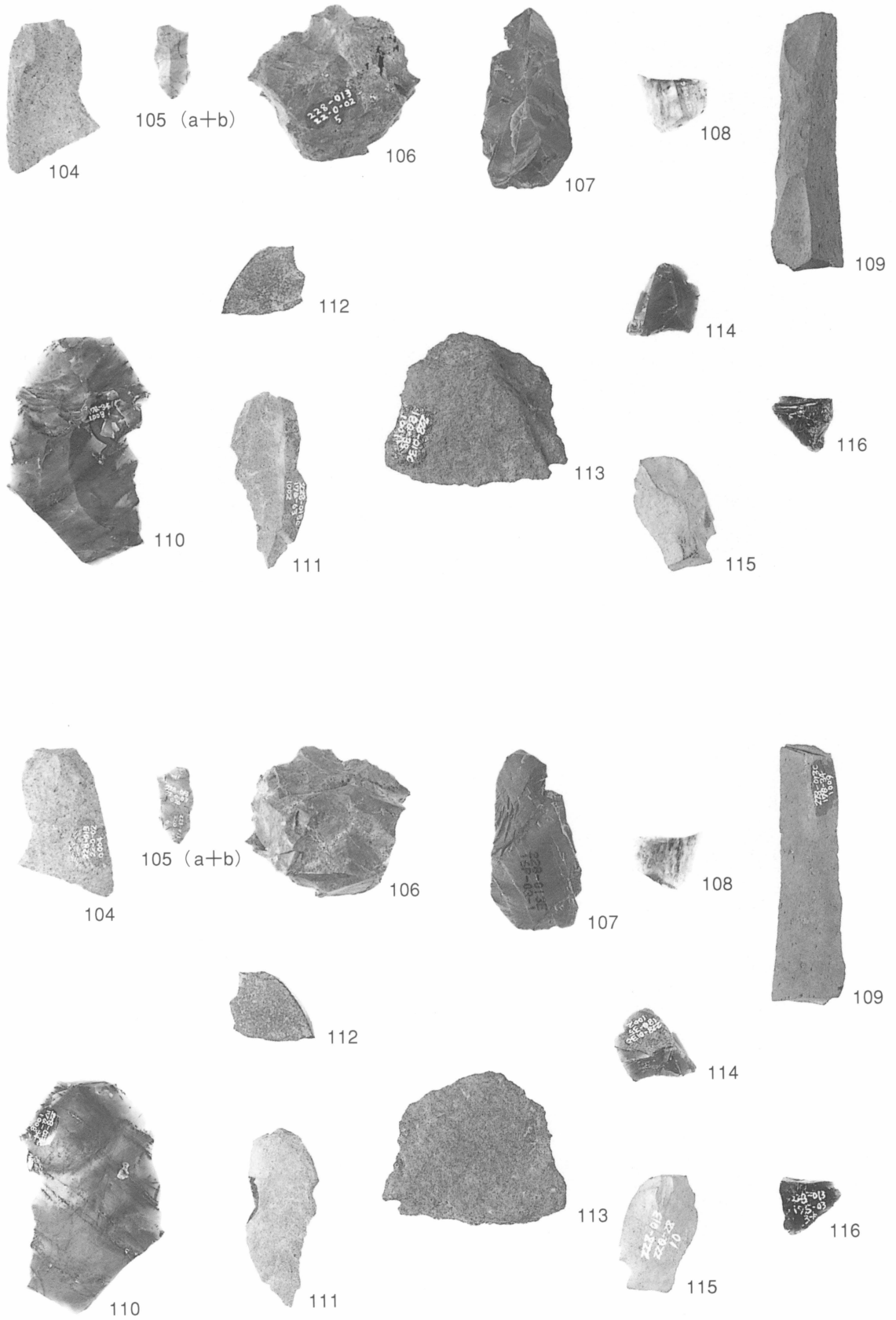
103



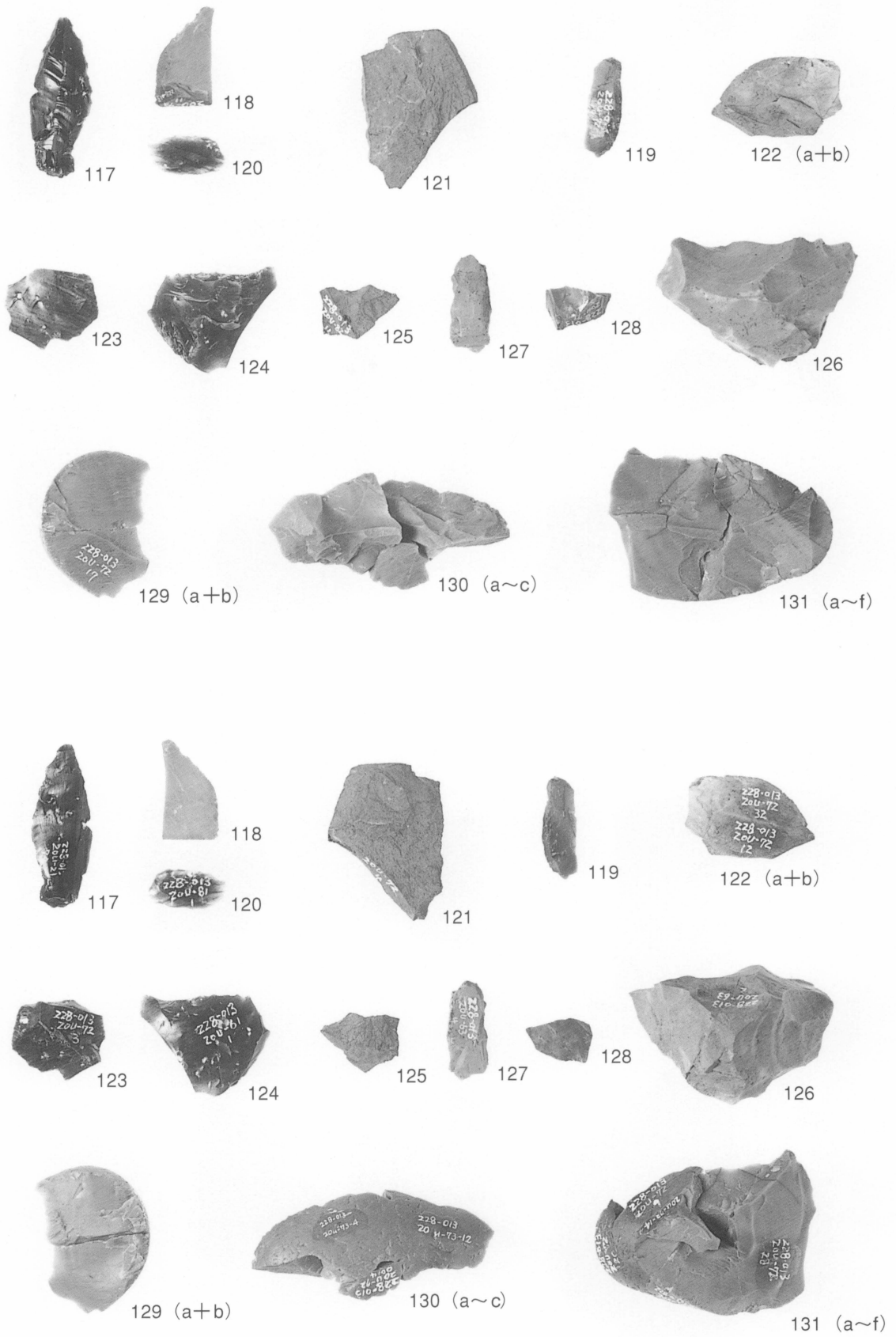
102b



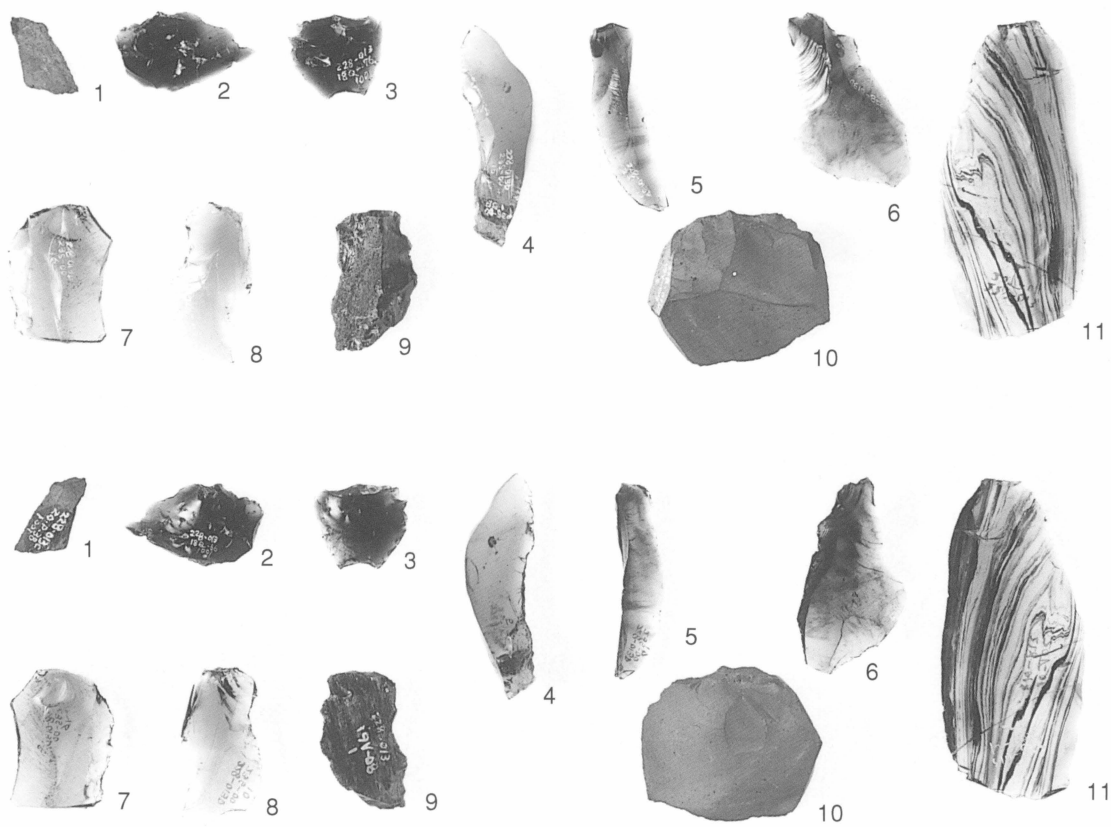
第 I 文化層第 1 地点出土石器 (13)



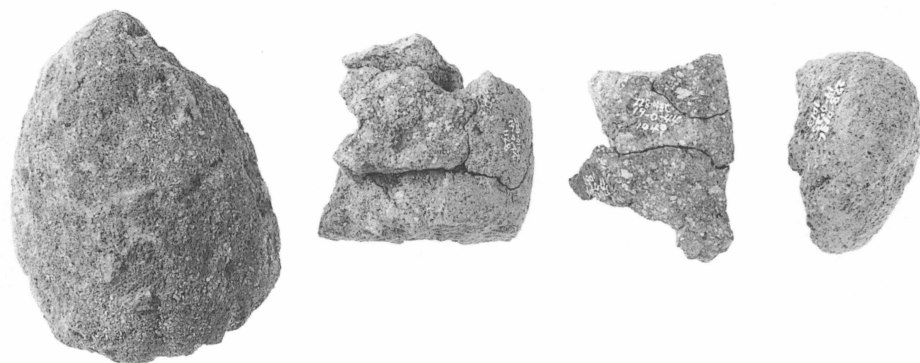
第 I 文化層第 2 ~ 10 地点出土石器



第 I 文化層第11~14地点出土石器

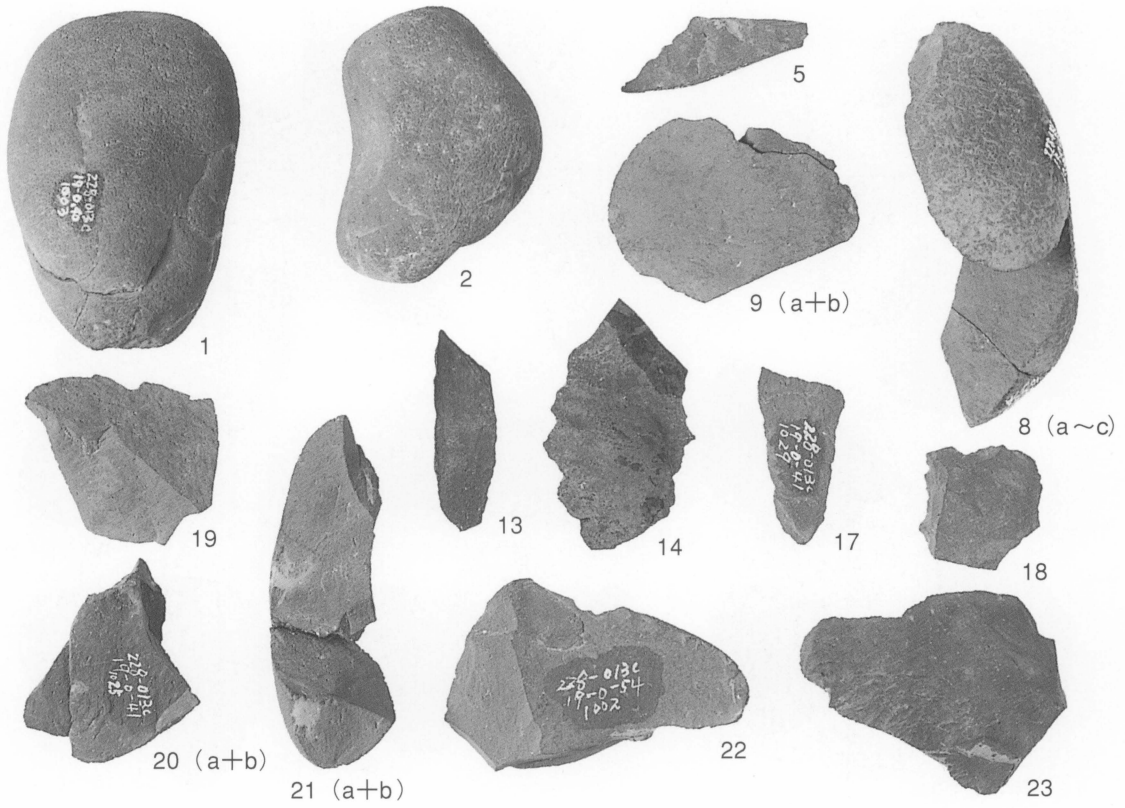
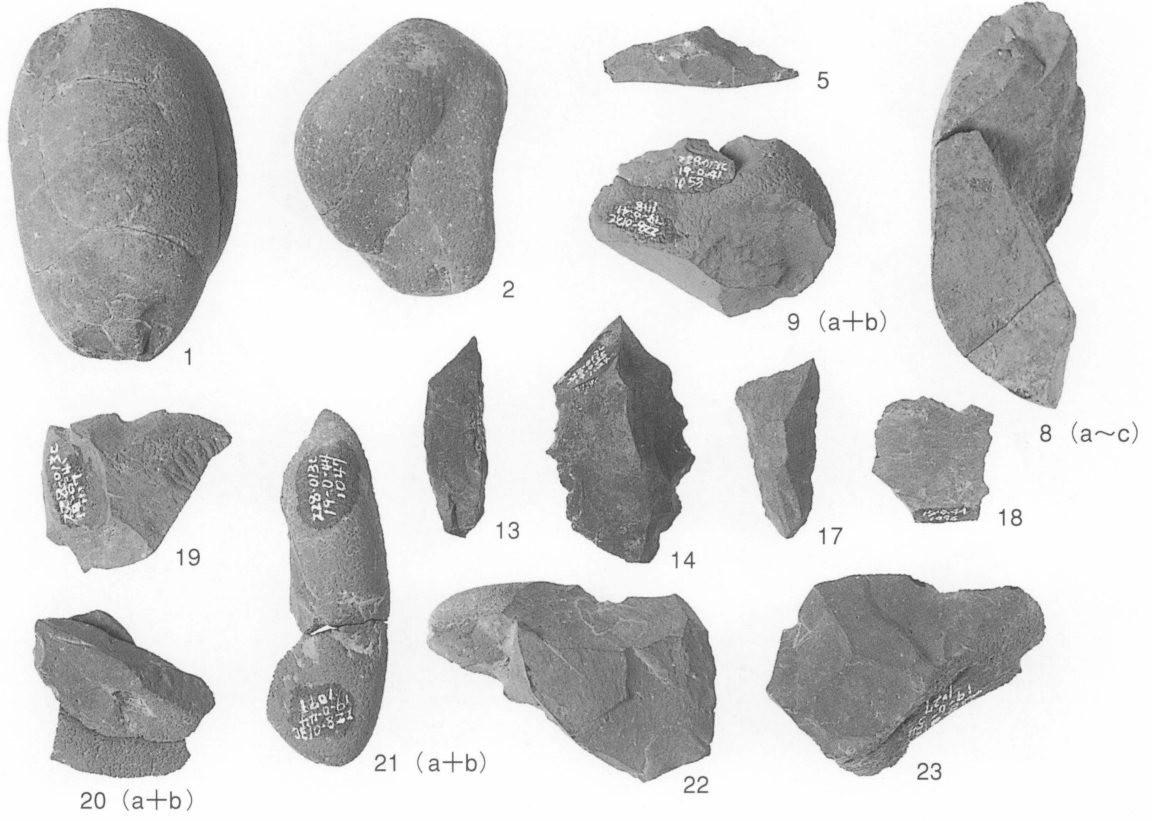


第Ⅱ文化層出土石器

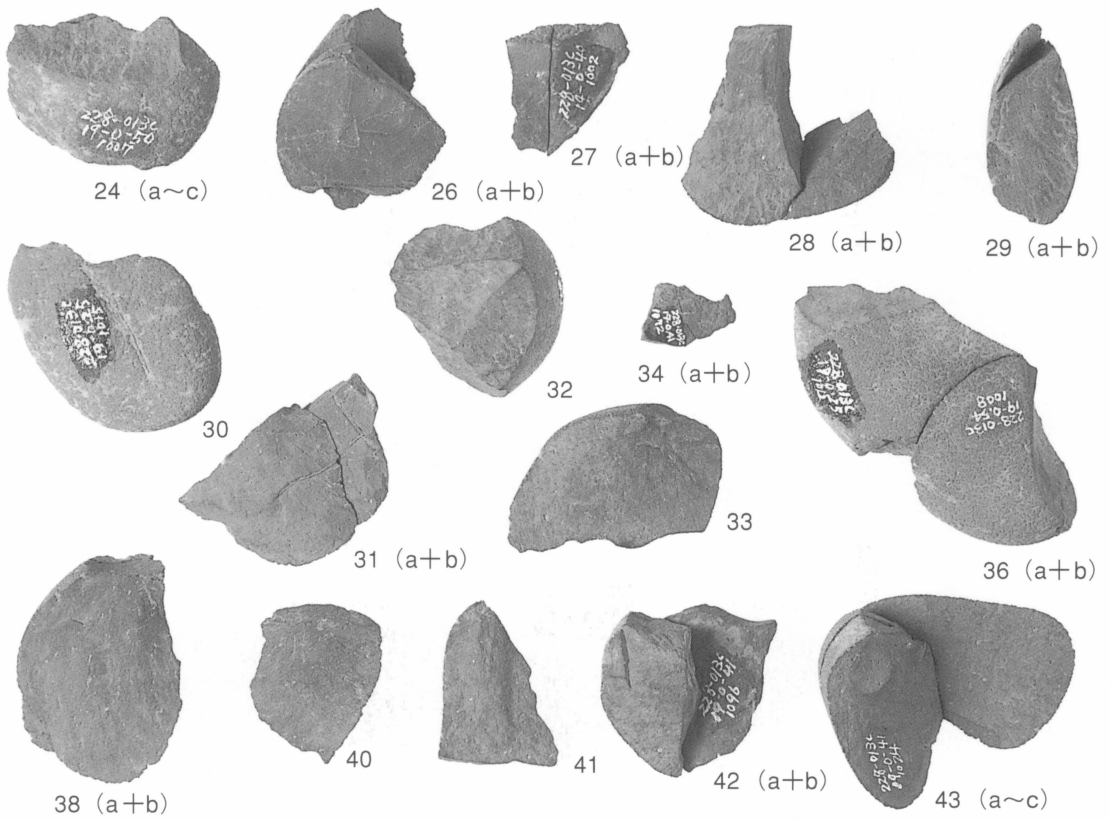
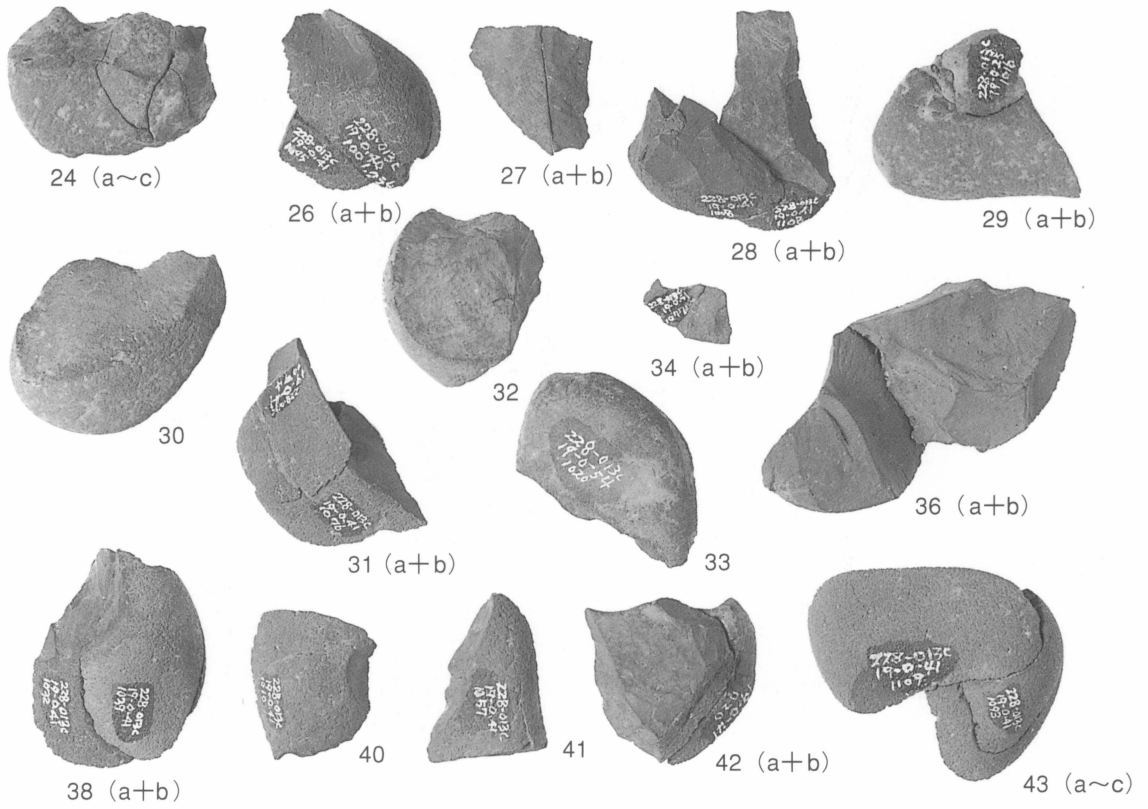


第Ⅲ文化層第21~24地点出土石器 (1)

礫群



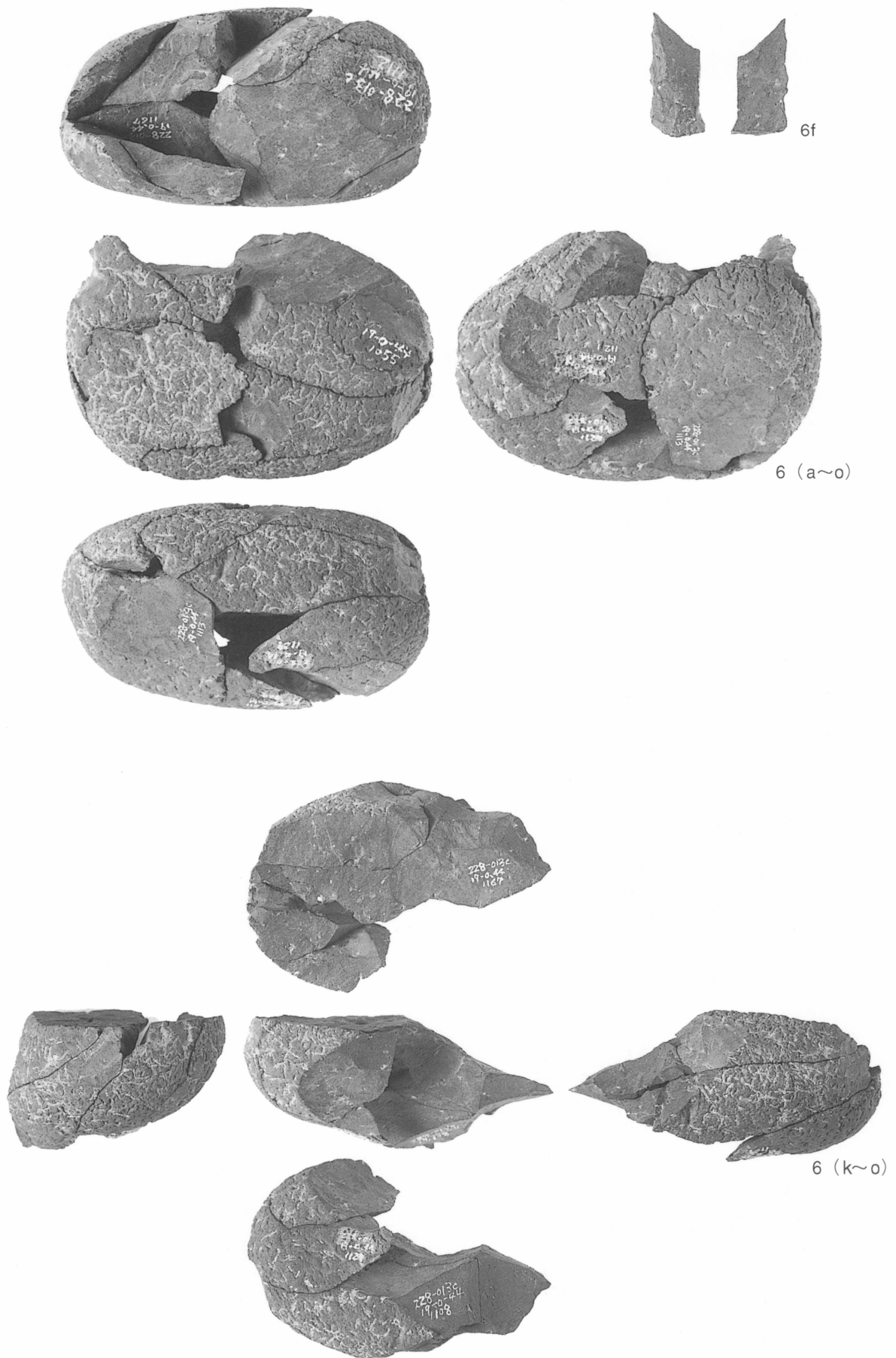
第三文化層第21~24地点出土石器 (2)



第Ⅲ文化層第21~24地点出土石器 (3)







第三文化層第21~24地点出土石器 (5)

報告書抄録

ふりがな	よつかいどうしこやのうちいせき							
書名	四街道市小屋ノ内遺跡(1) 旧石器時代編							
副書名	物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第499集							
編著者名	古内 茂・田中 裕							
編集機関	財団法人千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2			TEL 043-422-8811				
発行年月日	西暦 2005年 3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こやのう ち 小屋ノ内 いせき 遺跡	よつかいどうしものい 四街道市物井 あざこやのう ち 字小屋ノ内・ あざいなりづか 字稲荷塚	12228	013	35度 41分 13秒	140度 11分 36秒	19890401～	15,550	独立行政法人 都市再生機構 物井地区土地 区画整理事業 に伴う埋蔵文 化財調査
						19910327		
						19910402～		
						19930327		
						19930401～		
						19930831		
						19930401～		
						19930831		
						19930901～		
						19941130		
						19941201～		
						19950531		
						19950601～		
						19951130		
						19961101～		
19970328								
19980701～								
19990117								
20000405～								
20000630								
計	74,090							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
こやのう ち 小屋ノ内 いせき 遺跡		旧石器時代	石器集中地点 35か所(うち、環状 石器群1か所、土坑 2基、焼土ブロック 2か所)	旧石器時代石器(局部磨 製石斧、台形石器、ナイ フ形石器、削器、掃器、 楔形石器、敲石、台石、 磨石、砥石)	大規模な環状石器群 が存在した。			

千葉県文化財センター調査報告第499集

四街道市小屋ノ内遺跡(1)  
旧石器時代編

—物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—

---

平成17年3月25日発行

編	集	財団法人 千葉県文化財センター
発	行	独立行政法人 都市再生機構 千葉県地域支社 千葉県千葉市美浜区中瀬1-3
		財団法人 千葉県文化財センター 千葉県四街道市鹿渡809-2
印	刷	株式会社 富士印刷 千葉県稲毛区轟町3-6-18

---